

上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 24

—更埴市内その3—

こうしょくじょうり やしろ
更埴条里遺跡・屋代遺跡群

おおごかい くぼがわら
(含む大境遺跡・窪河原遺跡)

—縄文時代編—

本 文

2000.3

日 本 道 路 公 団
長 野 県 教 育 委 員 会
長 野 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 24

—更埴市内その3—

こうしょくじょうり やしろ
更埴条里遺跡・屋代遺跡群

おおぎかい くぼがわら
(含む大境遺跡・窪河原遺跡)

—縄文時代編—

本 文

2000.3

日 本 道 路 公 団
長 野 県 教 育 委 員 会
長 野 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

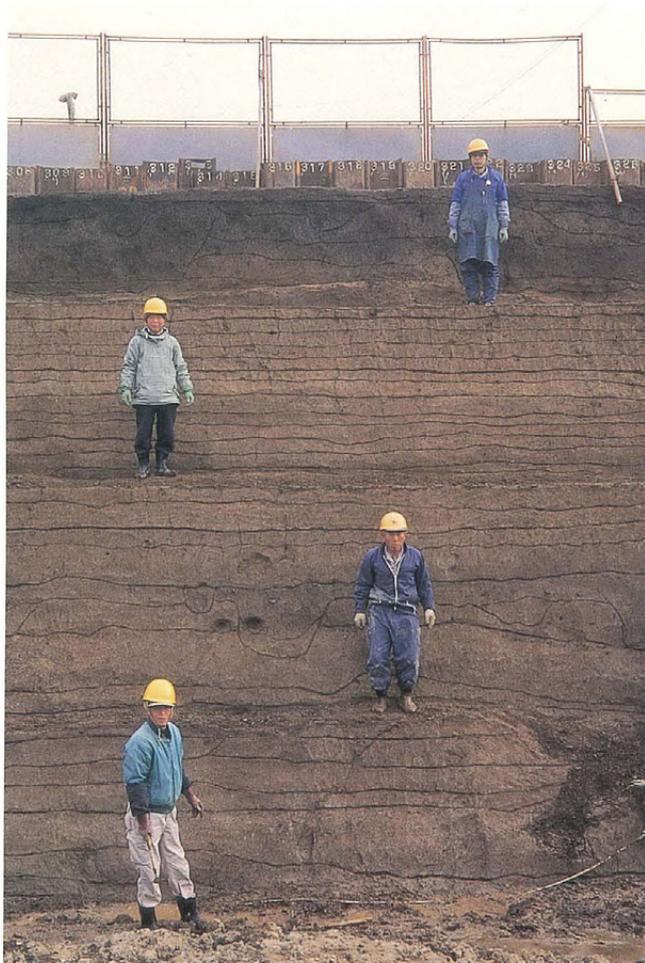


④区

⑤区

⑥区

屋代遺跡群 縄文時代中期後葉XII-2層検出遺構



VIII 縄文晩期前半

X 縄文後期前葉

XII-1a 縄文後期前葉

XII-2 縄文中期後葉

XIII-2 縄文中期中葉

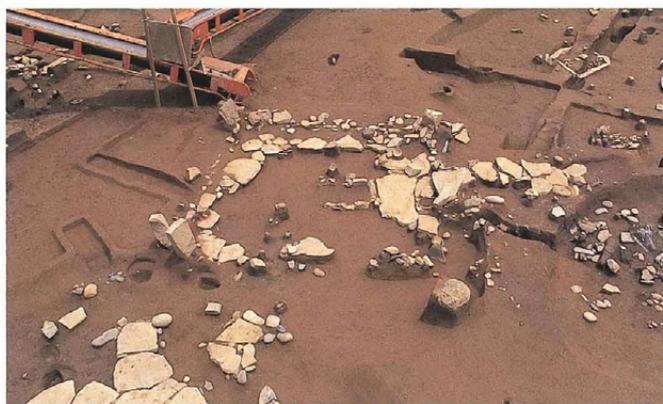
XIV-1~3 縄文中期前葉

XV 縄文中期前葉

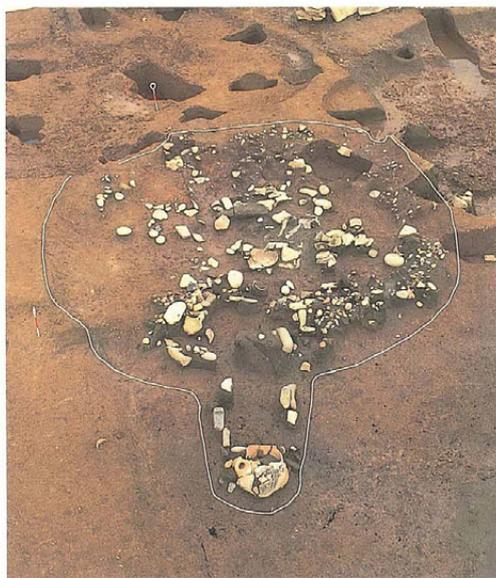
屋代遺跡群⑤b区 東壁セクション



屋代遺跡群 SB5325



屋代遺跡群 SB5337



屋代遺跡群 SB5338



SB5337 土坑炉



屋代遺跡群 中期前葉土器



屋代遺跡群 中期後葉土器



SB5401-1



SB5412a-1



SQ7003-341



SQ7003-258





SK9071-1



SB5351-2

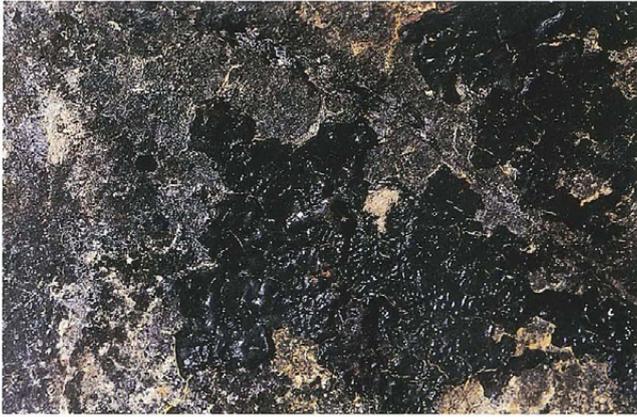


SK9071-7



SB5345-1





1 No. 7 内面 漆 2.6×



2 No. 7 外面 漆汚れ 2.6×



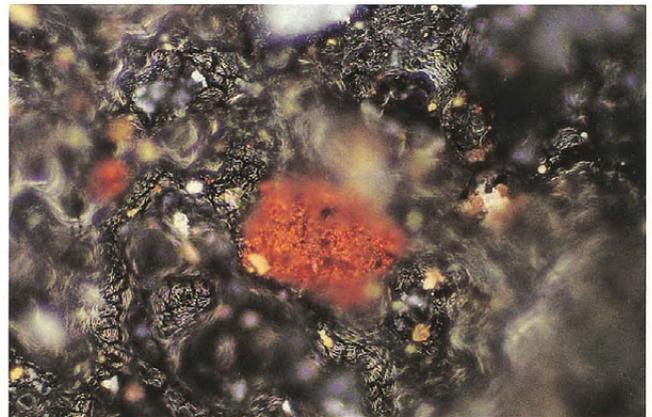
3 No. 4 内底部 漆か 1.4×



4 No. 4 外面 漆汚れか 2.6×



5 No. 6 内面 漆 2.6×



6 No. 6 内面 漆とベンガラ 130×



7 No. 9 内面 漆 2.6×



8 No.10 内面 漆 2.6×



1 No.13 内面 漆 2.6×



2 同左 33×



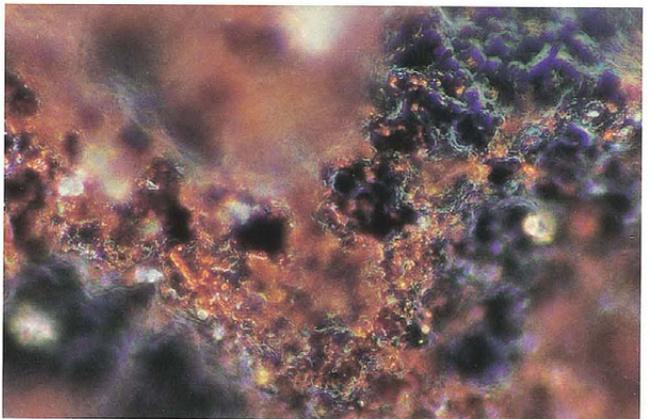
3 No. 1 内面 漆とベンガラ漆 2.6×



4 No. 1 内面 漆 33×



5 No. 1 内面 ベンガラ漆 33×



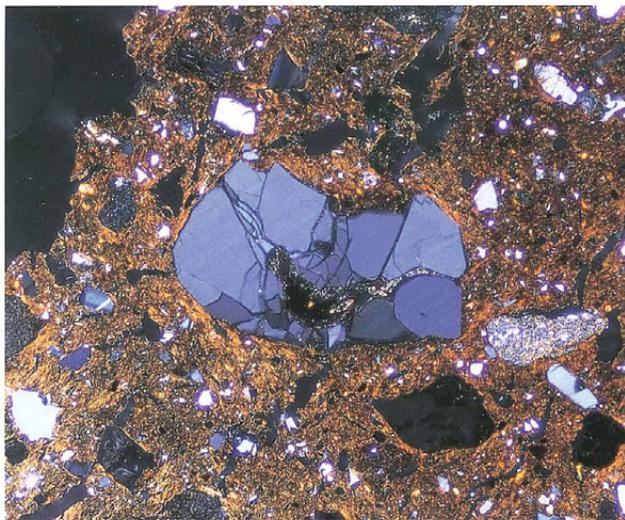
6 No. 1 内面 パイプ状ベンガラ 650×



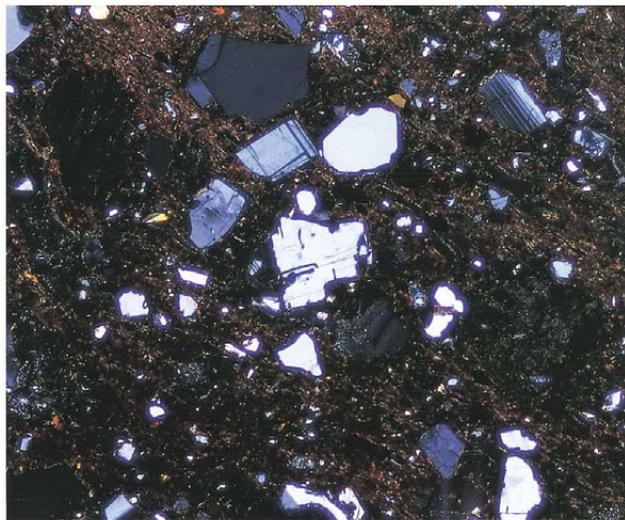
7 No. 9 内面 漆 2.6×



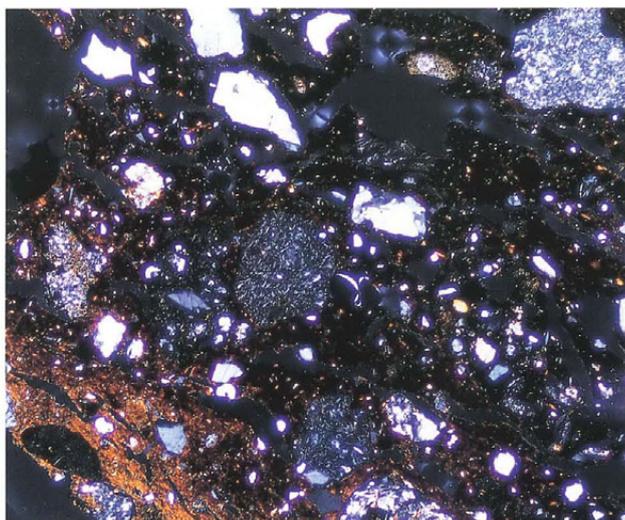
8 同左 33×



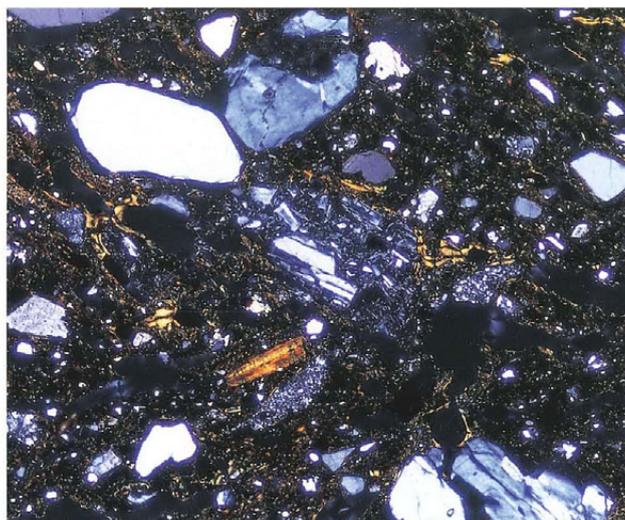
胎土分析259 (SB5350-22)
水冷破碎された石英



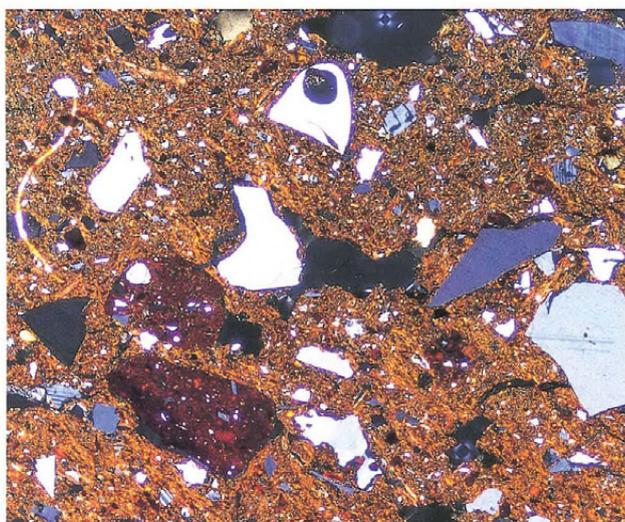
胎土分析259 (SB5350-22)
破片状の石英を含む圧痕隆帯文土器の胎土



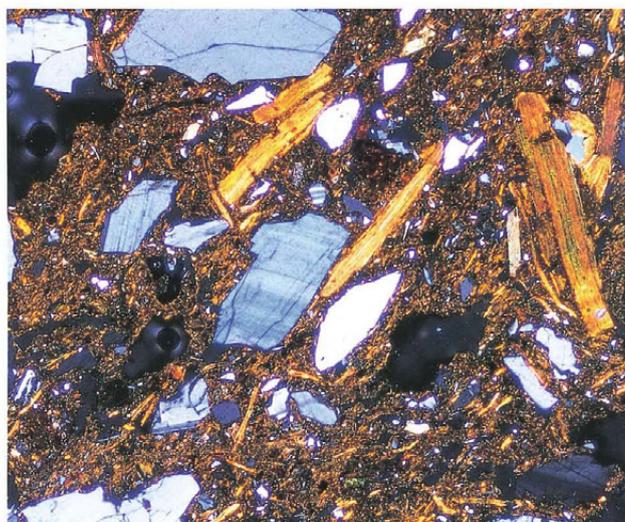
胎土分析260 (SB5350-9)
安山岩と破片状石英を含む大木系土器の胎土



胎土分析251 (SB5350-1)
安山岩・石英・斜長石を含む加曾利E系土器の胎土



胎土分析343 (SQ7003-235)
破片状の石英を含む深沢式土器の胎土



胎土分析344 (SQ7003-347)
大形の黒雲母を多数含む五領ヶ台式土器の胎土

序

長野冬季オリンピックにむけて開通した上信越自動車道は、関東圏と長野を結ぶ交通の大動脈として県民の生活の向上に大きな役割を果たしてきました。さらに昨年の10月末には上越ジャンクションまでの区間が全通し、長野県がついに日本海側と結ばれました。長野盆地の南端、この上信越自動車道が長野自動車道と合流する一帯が更埴条里遺跡・屋代遺跡群に当たります。長野県埋蔵文化財センターでは平成3年度から4年間の調査成果のうち、埴科郡家や初期国府の可能性を浮上させた「屋代木簡」とその前後の時代の報告を優先させ、3冊の報告書を刊行して参りましたが、整理作業の最終年度にあたる本年度、ここに縄文時代に関する報告書を刊行する運びとなりました。

平成4年の12月3日、中世の溝の調査中に偶然にも摩耗のない縄文中期の土器群が出土し、翌年の調査の発端となりました。縄文王国とさえ言われた信州でも、縄文中期の人々の居住の場は山麓の台地と考えられる傾向が強い中、それを覆す劇的発見でした。屋代遺跡群の調査の結果、地表下1メートルから8メートルにわたる堆積層から、縄文晩期から前期にかけて11以上の生活面が確認され、3000箱を越える遺物が出土しました。特に中期前葉面では全国的にも非常に珍しい五領ヶ台II式単純期の集落が検出され話題を呼びました。さらに中期後葉面ではその姿の一部を現した大環状集落から、全国的にもっとも古い柄鏡形（敷石）住居跡や、中央に炉をもつ平地式住居跡が多数検出され、当時の人々のすまいの移り変わりを考える上で大変貴重な資料となりました。また、多量に出土した東北系土器や、北陸系土器、遠隔地で産出する石材で作られた石器などからは、人々の地域間交流の諸相を垣間見ることができました。

通常考えられるよりはるかに迅速な調査によって得られた遺物は膨大で、短期間の整理作業によって実際に検討できたもの、ましてやここに掲載できたものは資料の極一部にすぎません。今後多くの方がこの本を手引きとして遠い祖先からの文化遺産を実際に活用し、その中からさらに新たな発見をしていただくことを切に望むものであります。そしていつの日にか高速道路の周辺奥深く眠る縄文の遺跡たちが再び蘇るとき、新たな視点で読み直していただければ幸いに思います。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、深い御理解と御協力をいただいた日本道路公団、同上田工事事務所、長野県土木部高速道路局、更埴市、同教育委員会、ちくま農業協同組合、地区対策委員会、地権者会等の関係機関、また、地元協力者の方々、発掘・整理作業に従事された多くの方々、直接御指導・御助言をいただいた長野県教育委員会に対し、心から敬意と感謝を表す次第であります。

平成12年3月31日

(財)長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

所長 佐久間鉄四郎

例 言

1. 本書は、上信越自動車道建設工事にかかわる更埴条里遺跡、屋代遺跡群、および屋代遺跡群に属する大境遺跡、窪河原遺跡の発掘調査報告書の第2分冊（更埴市内その3）である。

1. 本書は、上記の遺跡における縄文時代の遺構・遺物を収録している。

1. 各遺跡の概要については、当センター発行の『長野県埋蔵文化財センター年報』8・9・10・11・12・13・14、平成7年度長野県考古学会遺跡発表会、平成8年度軽井沢町歴史民俗資料館教養講座、平成9年度八十二文化財団教養講座などで紹介しているが本報告を優先させ最終報告とする。

1. 本報告書をまとめるあたり次の方々から玉稿を賜った。記して謝意を表す。

第1章第3節4(2)、第9章第2節2・第4節、第10章第3節2

(株)パリオ・サーヴェイ 高橋 敦・田中義文・辻本崇夫

第5章第3節4、第9章第5節・第6節2

千歳サケのふるさと館 高橋 理

第9章第2節 (株)古環境研究所 松田隆二

第9章第3節、第10章第3節1 国立歴史民俗博物館 辻 誠一郎

第9章第3節 国立歴史民俗博物館 住田雅和・辻 圭子

第9章第6節1 獨協医科大学 櫻井秀雄・芹澤雅夫

第9章第6節1・第7節 京都大学霊長類研究所 茂原信生

第9章第8節 国立歴史民俗博物館 永嶋正春

第10章第1節3(3) 東京芸術大学 建石 徹

1. 本書の執筆分担は以下の通りであり、各項目に付属する図版もそれぞれの責任で編集している。

第1章第1節1・第3節3・4(1)、第2章、第3章、第4章(第3・4章は石器以外)、第10章第1節1・第2節1・2 寺内隆夫

第1章第2節 鳥羽英継

第1章第3節1・2 市川桂子

第6章第2節2(1)・第4節2(1)、第7章第3節1、第8章第2節2(1)、第3節2(1)・第4節2(1)

百瀬長秀

以下の章・節・項の剥片石器部分(第3章第2節2(2)・第4節2(3)、第4章第3節2(3)、第5章第3節3(1)・(2)A・(4)、第6章第2節2(2)・第3節2(1)・第4節2(2)、第8章第3節2(2)) 門脇秀典

第1章第1節2・第4節、第3・4章の礫石器・石製装身具部分、第5章(第3節3(1)・(2)A・(4)・4以外)、第6章第1節・第2節1・2(2)(剥片石器以外)・第3節1・第4節1、第7章第1節・第2節、第8章第1節・第2節1・第3節1・2(2)(剥片石器以外)・第4節1、第9章第1節、第10章第1節2・3(1)・(2)・第2節3、第11章、上記以外 水沢教子

*第5章第2節1の動物骨に関する現場所見は、国立歴史民俗博物館西本豊弘氏の指導内容をまとめた。

*第5章第3節1の土器付着物の観察の一部は北陸学院短期大学小林正史氏の観察を転記した。

1. 本書で使用した地図は、日本道路公団作成の上信越道倉科・雨宮地区平面図および更埴JCT～長野地区平面図(1:1000)をもとに作成したほか、建設省国土地理院発行の地形図(1:50000)、更埴市発行の地形図(1:10000)を使用した。

1. 航空写真は、更埴地区の全景写真については長野県立歴史館から提供をうけたものと、国土地理院に

著作権のある昭和23年米軍撮影の写真を使用した。また、各調査区の写真は(株)新日本航業、(株)共同測量社に撮影を依頼したものである。航空写真のモザイク作成は(株)新日本航業に依頼した。

1. 土器の展開写真は小川忠博氏に撮影を依頼した。

1. 土器の実測図は、一部(株)シン技術コンサルに実測を委託し、その他は同社の立面写真を用いて長野県埋蔵文化財センターで作成した。

1. 石器の実測図は、剥片石器に関しては(株)シン技術コンサルに委託し、礫石器は同社の俯瞰写真を用いて長野県埋蔵文化財センターで作成した。

1. 一部の石器の材質鑑定を糸魚川市立フォッサマグナ・ミュージアム 宮島 宏氏に依頼している。

1. 土器の胎土分析用のプレパラートは、すべて岩本鉱産物商會に作成を委託し、信州大学教育学部 河内晋平氏の指導の下に水沢が検鏡を行った。未掲載部分は今後『紀要』に追加報告する。

1. 遺物写真の撮影・焼き付けは田村 彬と西嶋 力が、主に中期前葉土器の復元は徳永哲秀が、脆弱遺物の保存処理は相沢秀樹と宮島義和が担当した。

1. 遺構記号・遺構番号は、将来的な混乱を避けるために基本的には発掘現場のものを変更しないことにした。

1. 註・参考文献は各章あるいは節・項の末尾にまとめた。

1. 発掘調査・報告書作成にあたり下記の諸氏・諸機関に御指導・御助言・御援助をいただいた。記して謝意を表する次第である。(敬称略・五十音順)

会田容弘、石井 寛、石原正敏、岡村道雄、神村 透、河内晋平、小林謙一、小林正史、更埴市教育委員会、櫻井秀雄、笹沢 浩、佐藤信之、佐藤雅一、沢田 敦、茂原信生、白沢勝彦、須田良平、須藤隆、住田雅和、高橋 敦、高橋 理、高橋 学、建石 徹、田中耕作、田中義文、辻 圭子、辻誠一郎、辻本崇夫、塚本師也、都築恵美子、堤 隆、寺崎裕助、戸沢充則、中島庄一、永嶋正春、長島雄一、長野県立歴史館、西本豊弘、丹羽 茂、林 謙作、原 明芳、樋口昇一、藤巻正信、松井 章、松田隆二、松本 茂、翠川泰弘、南木睦彦、宮下健司、宮島 宏、矢島宏雄、山口 明、山口逸弘、山田しょう、山本正敏、森嶋 稔、綿田弘実

1. 校閲・執筆以外では下記の諸氏が縄文時代の調査・整理に関わっている。

相沢秀樹、青木一男、井口慶久、市川隆之、出河裕典、伊藤克己、伊藤友久、稲場 隆、上田典男、上田 真、白居直之、白田武正、大久保邦彦、岡沢康夫、奥原 聡、大和龍一、河西克造、川崎 保、小林清人、桜井秀雄、澤谷昌英、島田正夫、清水 弘、下島浩伸、下平博行、武居公明、谷 和隆、月原隆爾、常永虎徹、寺内貴美子、徳永哲秀、中沢道彦、中村 寛、贄田 明、西 香子、西嶋 力、西山克己、野村一寿、伴 信夫、平出潤一郎、広瀬昭弘、廣田和穂、深沢重夫、福嶋正樹、藤沢袈裟一、藤原直人、淵井英知、本田 真、町田勝則、松岡昭彦、松岡忠一郎、宮下祐治、宮島義和、宮脇正実、柳沢 亮、山極 充、山中 健、吉江英夫、吉沢信幸、依田 茂、若林 卓(以上(財)長野県埋蔵文化財センター)、市村勝巳、岡村秀雄、小平和夫、百瀬新治(以上文化財保護課)、三上徹也(長野県立歴史館)

1. 本書の編集・校正は水沢が行い、小林秀夫・土屋 積がこれを校閲した。

1. 本書で報告した記録および出土遺物は長野県立歴史館が保管している。

本文目次

巻頭図版

序

例言

目次

第1章 遺跡の概観と調査の概要

第1節 本編の範囲	1
1 報告書作成の方針	1
2 本編の範囲	2
第2節 歴史的環境と周辺遺跡	3
1 遺跡の位置	3
2 地域区分と調査方法	3
3 旧石器時代・縄文時代の周辺遺跡	4
第3節 地形・地質環境と基本層序	9
1 善光寺平南部の地形・地質環境	9
(1) 長野盆地南部の地形 (2) 遺跡周辺の地形	
2 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の層序	11
(1) 七ツ石層 (2) 反町層 (3) 屋代層	
3 調査対象となった層序	14
(1) 層名 (2) VII～XIX層の特徴 (3) 地表面の安定期と不安定期	
4 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の環境変遷	16
(1) 検討会の設置 (2) 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の環境変遷	
第4節 調査・整理の経過	19
1 調査の経緯	19
2 調査の経過と目的	20
(1) 調査の手順 (2) 調査の経過 (3) 屋代遺跡群調査上の取捨選択	
3 整理の概要	21
(1) 整理の経過 (2) 報告の方針	

第2章 縄文時代前期（XVIII・XVI層検出）の遺構と遺物

第1節 概観	23
第2節 遺構（XVI-2層上面検出）	23
1 概要	23
2 焼土跡（SF）	24
3 その他（ピット）	24
第3節 遺物	24
1 土器	24
(1) 前期前半の土器 (2) 前期後半の土器	
2 石器	24

第3章 縄文時代中期前葉（XV・XIV層検出）の遺構と遺物	
第1節 概観	25
第2節 XV層検出遺構と遺物	26
1 XV層検出遺構と遺物出土状況	26
(1) 概観 (2)土坑 (SK) (3)焼土跡 (SF) (4)遺物分布状況	
2 XV層出土遺物	28
(1) 土器 (2) 石器	
第3節 XIV-3層検出遺構と遺物	29
1 XIV-3層検出遺構	29
(1) 土坑 (SK) (2) 焼土跡 (SF)	
2 XIV-3層出土遺物	30
(1) 土器	
第4節 XIV-1・2層検出遺構と遺物	30
1 XIV-1・2層検出遺構と遺物出土状況	30
(1) 概要 (2) 竪穴住居跡 (SB) (3) 土坑 (SK) (4) 焼土跡 (SF) (5) 遺物集中 (SQ)	
2 XIV-1・2層出土遺物	37
(1) 土器 (2) 土製品 (3)石器・石製品	
第4章 縄文時代中期中葉（XIII層検出）の遺構と遺物	
第1節 概観	62
第2節 XIII-3層検出遺構と遺物	62
1 XIII-3層検出遺構と遺物出土状況	62
2 XIII-3層出土遺物	62
(1) 土器	
第3節 XIII-2層検出遺構と遺物	64
1 XIII-2層検出遺構と遺物出土状況	64
(1) 竪穴住居跡 (SB) (2) 土坑 (SK) (3) 焼土跡 (SF)	
2 XIII-2層出土遺物	64
(1) 土器 (2) 土製品 (3)石器	
第4節 XIII-1層検出遺構と遺物	66
1 XIII-1層検出遺構と遺物出土状況	66
2 XIII-1層出土遺物	66
第5章 縄文中期後葉（XII-2層検出）の遺構と遺物	
第1節 概観	67
1 層位区分	67
2 遺構の分布	68
第2節 XII-2層検出遺構と遺物の出土状況	68
1 竪穴建物跡 (SB)	68
(1) 竪穴建物跡の諸構造 (2) 遺構各説	
2 掘立柱建物跡 (ST)	89
(1) 全体概要と属性 (2) 遺構各説	

3	土坑 (SK)	90
	(1) 全体概要と属性	
4	溝跡 (SD)	92
	(1) 全体概要と属性	
5	焼土跡 (SF)	92
	(1) 全体概要と属性 (2) 遺構各説	
6	遺物集中 (屋外埋甕・一括土器) (SQ)	94
	(1) 全体概要と属性 (2) 遺構各説	
7	石集中 (SH)	96
	(1) 全体概要と遺構各説	
8	杭列 (SA)	96
	(1) 全体概要と属性	
9	不明遺構 (SX)	97
	(1) 全体概要	
第3節	XII-2層出土遺物	122
1	土器	122
	(1) 器種・器形と文様帯 (2) 土器の諸属性 (3) 系統と群・類	
	(4) 中期後葉土器群の出土状況 (5) XII-2層検出の後期の土器とその出土状況	
2	土製品	167
	(1) 土偶 (2) 土製品	
3	石器・石製品	169
	(1) 整理の方法 (2) 分類の方法と類型 (3) 磨製石斧・石製品のX線マイクロアナライザー分析	
	(4) 石製遺物の遺構からの出土状況	
4	骨角器	207
第6章	縄文後期前半 (XII-1・XI・X層検出) の遺構と遺物	
第1節	概観	208
第2節	XII-1層検出遺構と遺物	208
1	XII-1層検出遺構と遺物出土状況	208
	(1) 土坑 (SK) (2) 焼土跡 (SF) (3) 杭列 (SA)	
2	XII-1層出土遺物	209
	(1) 土器 (2) 石器	
第3節	XI層検出遺構と遺物	211
1	XI層検出遺構と遺物出土状況	211
2	XI層出土遺物	212
	(1) 石器	
第4節	X層検出遺構と遺物	212
1	X層検出遺構と遺物出土状況	212
	(1) 土坑 (SK) (2) 焼土跡 (SF) (3) 遺物集中 (SQ)	
2	X層出土遺物	213
	(1) 土器 (2) 石器	

第7章 縄文後期後半（IX層検出）の遺構と遺物	
第1節 概観	215
第2節 IX層検出遺構と遺物出土状況	215
1 土坑（SK）	215
2 焼土跡（SF）	216
3 不明遺構（SX）	216
第3節 IX層出土遺物	216
1 土器	216
第8章 縄文晩期（IX層上面・VIII層・VII層検出）の遺構と遺物	
第1節 概観	218
第2節 IX層上面検出遺構と遺物	219
1 IX層上面検出遺構と遺物の出土状況	219
(1) 掘立柱建物跡（ST） (2) 土坑（SK） (3) 溝跡（SD） (4) 焼土跡（SF）	
(5) 遺物集中（SQ） (6) 不明遺構（SX）	
2 IX層上面出土遺物	228
(1) 土器	
第3節 VIII層検出遺構と遺物	228
1 VIII層検出遺構と遺物の出土状況	228
(1) 竪穴状遺構（SB） (2) 土坑（SK） (3) 溝跡（SD） (4) 焼土跡（SF）	
(5) 遺物集中（SQ） (6) 不明遺構（SX）	
2 VIII層出土遺物	229
(1) 土器 (2) 石器	
第4節 VII層検出遺構と遺物	233
1 VII層検出遺構と遺物の出土状況	233
2 VII層出土遺物	233
(1) 土器	
第9章 微化石と動・植物遺体の分析	
第1節 縄文時代の動・植物相の復原	235
第2節 植物珪酸体（プラント・オパール）・珪藻・花粉分析	236
1 更埴条里遺跡の縄文時代における微化石分析	236
(1) 目的 (2) 試料 (3) 方法 (4) 分析結果 (5) 縄文時代の農耕と環境	
2 縄文時代の古環境	239
第3節 屋代遺跡群の縄文時代の大型植物遺体群	243
1 植物遺体群の産出状況	243
2 注目すべき植物群	247
第4節 炭化材の樹種	249
第5節 屋代遺跡群出土の魚類遺存体	254
第6節 動物遺存体	257
1 上信越自動車道屋代遺跡群出土の脊椎動物遺存体	257
(1) はじめに (2) 出土動物骨のリスト (3) 動物遺存体の出土状況	

(4) 出土動物骨の種別の状況 (5) 出土動物と遺跡の特徴	
2 水洗選別によって確認された動物遺存体	277
(1) 出土動物遺存体リスト (2) 所見	
第7節 高速道屋代遺跡群出土の縄文時代人骨	278
1 はじめに	278
2 人骨の特徴	278
(1) 縄文時代中期前葉人骨	
(2) 縄文時代中期後葉人骨	
3 屋代遺跡群出土の縄文時代人骨の特徴	283
第8節 屋代遺跡群出土の縄文時代漆関係資料について	285
1 はじめに	285
2 調査結果	286
3 おわりに	288
第10章 成果と課題	
第1節 縄文中期の土器	289
1 中期前葉の土器	289
(1) 屋代遺跡群出土の中期前葉土器の段階区分 (2) 系統分類	
(3) I群a, b類土器(在地土器A)について	
(4) 在地土器B=東信系土器(II群b類の一部)について (5) 広義の五領ヶ台式系統の土器	
(6) その他の土器 (7) 小結	
2 中期後葉の土器	298
(1) 縄文中期後葉における時間軸の設定 (2) 中期後葉土器群の時間的な変遷	
(3) 系統別出現比率とその課題 (4) 土器に残った痕跡—土器の使用と廃棄方法— (5) おわりに	
3 縄文中期土器の胎土	317
(1) はじめに (2) 混和材の観察による在地胎土	
(3) 粘土の蛍光X線分析による在地胎土と異質胎土	
第2節 縄文中期集落の構造	326
1 中期前葉の集落	326
(1) 集落形成に至るまでの地形環境の変化 (2) 集落を構成する施設 (3) 集落の変遷 (4) 小結	
2 中期中葉の集落	334
3 中期後葉の集落	335
(1) はじめに (2) 居住空間—竪穴住居と柄鏡形(敷石)住居、掘立柱建物の機能差を中心に—	
(3) 居住外空間 (4) 居住空間と居住外空間の境界	
(5) 縄文中期後葉における集落景観の変遷	
第3節 縄文時代の環境と開発	349
1 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の環境史(4)	349
2 縄文時代の環境と開発	351
第11章 結語	352
報告書抄録	
奥付	

挿 図 目 次

<p>図1 周辺遺跡……………6</p> <p>図2 旧石器時代・縄文時代の地域区分……………7</p> <p>図3 長野盆地の地形……………9</p> <p>図4 地形分類図……………10</p> <p>図5 遺跡周辺の地質……………10</p> <p>図6 総合柱状図……………13</p> <p>図7 総合柱状図に基づく更埴条里遺跡・屋代遺跡群・ 窪河原遺跡の古環境変遷……………18</p> <p>図8 仮地区名と分割調査……………19</p> <p>図9 縄文中期前葉土器観察表(表14)の分類記号……………38</p> <p>図10 XIV-1・2層出土の石鍬長幅相関散布図……………54</p> <p>図11 XIV-1・2層出土の打製石斧相関散布図……………56</p> <p>図12 竪穴住居跡の形態……………69</p> <p>図13 柱穴配置……………70</p> <p>図14 住居跡の主軸方向……………71</p> <p>図15 住居跡の床面標高……………72</p> <p>図16 炉の類型……………73</p> <p>図17 土器敷炉……………73</p> <p>図18 「燃焼部調節炉」と「土坑炉」……………74</p> <p>図19 埋甕の分類……………76</p> <p>図20 埋甕時期別埋設状況……………76</p> <p>図21 柄鏡形住居跡の埋甕埋設角度……………77</p> <p>図22 敷石部位名称……………78</p> <p>図23 SB5345の構造材と壁板材……………82</p> <p>図24 SB5316の2段階変遷……………83</p> <p>図25 SB5324の2段階変遷……………87</p> <p>図26 掘立柱建物跡の分類……………89</p> <p>図27 墓塚と出土人骨……………91</p> <p>図28 焼土跡(SF)と遺物集中(SQ)の分布図……………93</p> <p>図29 中期後葉土器の器種・器形分類……………123</p> <p>図30 後葉土器の文様帯分類……………124</p> <p>図31 壺の分類……………126</p> <p>図32 中期後葉土器の文様単位……………129</p> <p>図33 大木系土器(α)の分類……………131</p> <p>図34 圧痕隆帯文土器(γ)の分類……………135</p> <p>図35 XII-2層出土の剥片石器別の利用石材比……………169</p> <p>図36 剥片石器欠損分類概念図……………170</p> <p>図37 石鍬分類概念図と計測箇所……………172</p> <p>図38 XII-2層出土の石鍬長幅相関散布図……………172</p> <p>図39 小形両面調整石器分類概念図……………173</p> <p>図40 XII-2層出土の小形両面調整石器長幅相関散布 図……………173</p> <p>図41 石錐分類概念図……………173</p> <p>図42 削器類分類概念図と計測箇所……………175</p> <p>図43 XII-2層出土の小形削器類相関散布図……………176</p> <p>図44 XII-2層出土の大形削器類相関散布図……………176</p>	<p>図45 打製石斧分類概念図と計測箇所……………178</p> <p>図46 XII-2層出土の打製石斧相関散布図……………178</p> <p>図47 磨製石斧分類概念図と計測箇所……………180</p> <p>図48 EPMA分析チャート……………203~205</p> <p>図49 XII-2層時期別利用石材重量比率(粘板岩以外) ……………206</p> <p>図50 XII-2層時期別利用石材重量比率(全石材) ……………206</p> <p>図51 更埴条里遺跡VIII~XII層におけるプラント・オ パール分析結果(1)……………238</p> <p>図52 更埴条里遺跡VIII~XII層におけるプラント・オ パール分析結果(2)……………238</p> <p>図53 更埴条里遺跡J区の主要珪藻化石群集の層位分 布……………240</p> <p>図54 屋代遺跡群の縄文時代の大型植物遺体……………244</p> <p>図55 埋甕内植物繊維状遺体……………245</p> <p>図56 屋代遺跡群出土魚骨……………256</p> <p>図57 屋代遺跡群出土のニホンジカ1……………261</p> <p>図58 屋代遺跡群出土のニホンジカ2……………262</p> <p>図59 屋代遺跡群出土のニホンジカ3……………263</p> <p>図60 屋代遺跡群出土のイノシシ1……………264</p> <p>図61 屋代遺跡群出土のイノシシ2……………265</p> <p>図62 屋代遺跡群出土のイノシシ3……………266</p> <p>図63 屋代遺跡群出土のイノシシ・ニホンザル・ツキ ノワグマ・ホンドテン……………267</p> <p>図64 屋代遺跡群出土の縄文時代人骨……………284</p> <p>図65 XIV-1層(遺構、埋土を除く)土器破片数……………290</p> <p>図66 中期前葉2期竪穴住居の新旧関係と主な出土土 器……………291</p> <p>図67 深沢系土器の変遷……………292</p> <p>図68 深沢系土器変遷模式図……………293</p> <p>図69 深沢系土器に関連する土器群……………294</p> <p>図70 東信系の深鉢形土器と沈線装飾を主体とする筒 形土器……………295</p> <p>図71 五領ヶ台系土器群の一部……………296</p> <p>図72 屋代遺跡群出土土器の遺構間接合状況……………299</p> <p>図73 接合関係と切り合い関係による時間セル……………300~304</p> <p>図74 時間セルと補足セル……………305</p> <p>図75 補足セル……………307</p> <p>図76 中期後葉の土器編年図……………312~314</p> <p>図77 中期後葉土器の系統別比率……………315</p> <p>図78 中期前葉胎土分析試料……………320・321</p> <p>図79 中期後葉胎土分析試料……………321</p> <p>図80 竪穴住居跡間土器接合関係図および新旧想定図 ……………328</p> <p>図81 中期前葉集落竪穴住居新旧関係想定図……………329</p>
---	---

図82	中期前葉集落変遷想定図	331
図83	XIII-2層検出遺構と遺物分布	334
図84	発汗浴小屋の分布	337
図85	インガリック族の発汗浴小屋	338

図86	屋代遺跡群中期後葉の墓・屋外埋甕と祭祀遺物の分布	339
図87	屋代遺跡群④～⑥区集落変遷図	342・343
図88	3c・4期の集落構造	346

挿 表 目 次

表1	更埴条里遺跡・屋代遺跡群の層位と時期区分	2
表2	周辺遺跡1	7
表3	周辺遺跡2	8
表4	更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡の土地利用変遷と古環境	18
表5	整理経過と更埴条里遺跡・屋代遺跡群遺物量一覧表	22
表6	屋代遺跡群XV層検出土坑(SK)一覧	27
表7	屋代遺跡群XV層検出焼土跡(SF)一覧	27
表8	屋代遺跡群XV層出土石製遺物観察表	28
表9	屋代遺跡群XIV-3層検出土坑(SK)一覧	29
表10	屋代遺跡群XIV-3層検出焼土跡(SF)一覧	29
表11	屋代遺跡群XIV-1・2層検出竪穴建物・住居(SB)一覧	32・33
表12	屋代遺跡群XIV-1・2層検出土坑(SK)一覧	35
表13	屋代遺跡群XIV-1・2層検出焼土跡(SF)一覧	36
表14	屋代遺跡群XV・XIV・XIII層出土土器観察表	42～49
表15	屋代遺跡群XV・XIV層出土図版掲載土器一覧	50・51
表16	屋代遺跡群XIV層出土土偶観察表	52
表17	XIV-1・2層遺構内出土の剥片石器器種別利用石材	53
表18	XIV-1・2層検出竪穴建物跡及びSQ7003出土の剥片石器器種別欠損状況	53
表19	XIV-1・2層検出全竪穴建物跡出土の石鏃の法量・属性	54
表20	XIV-1・2層検出全竪穴建物跡及びSQ7003出土の削器類分類別点数内訳	55
表21	XIV-1・2層検出全竪穴建物跡及びSQ7003出土の打製石斧の法量・属性	55
表22	XIV-1・2層出土の石製遺物組成表・剥片石器類利用石材組成表	57
表23	屋代遺跡群XIV-1・2層出土石製遺物観察表	59～61
表24	縄文中期中葉(XIII-2層検出)竪穴住居跡(SB)一覧	63
表25	屋代遺跡群XIII層検出土坑(SK)一覧	63
表26	屋代遺跡群XIII層検出焼土跡(SF)一覧	63
表27	屋代遺跡群XIII層出土石製遺物観察表	65
表28	XII-2層検出遺構時期別出現数	68

表29	敷石の部位	78
表30	屋代遺跡群XII-2層検出竪穴建物跡(SB)一覧	98～107
表31	屋代遺跡群XII-2層検出掘立柱建物跡(ST)一覧	108
表32	屋代遺跡群XII-2層検出土坑(SK)一覧	109～116
表33	屋代遺跡群XII-2層検出溝跡(SD)一覧	117
表34	屋代遺跡群XII-2層検出焼土跡(SF)一覧	117・118
表35	屋代遺跡群XII-2層検出遺物集中(屋外埋甕・一括土器)(SQ)一覧	119・120
表36	屋代遺跡群XII-2層検出石集中(SH)一覧	120
表37	屋代遺跡群XII-2層検出柵・杭列・材木列など(SA)一覧	120・121
表38	屋代遺跡群XII-2層検出不明遺構(SX)一覧	121
表39	屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表	140～167
表40	屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土偶・土製品観察表	168
表41	XII-2層遺構内出土の剥片石器器種別利用石材	169
表42	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の剥片石器器種別欠損状況	170
表43	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の石鏃分類別点数内訳	171
表44	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の石鏃の法量・属性	171
表45	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の小形両調整石器分類別点数内訳	173
表46	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の小形両調整石器の法量・属性	173
表47	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の石錐分類別点数内訳	173
表48	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の石錐の法量・属性	173
表49	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の小形削器類の分類別点数内訳	175
表50	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の大形削器類分類別点数内訳	175
表51	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の小形削器類の法量・属性	175
表52	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の大形削器類	

	の法量・属性	176	表84	VIII層検出土坑 (SK) 一覧	225
表53	XII-2層検出全竪穴建物跡出土の打製石斧の 法量・属性	177	表85	VIII層検出溝跡 (SD) 一覧	226
表54	XII-2層検出層位別の磨製石斧利用石材	179	表86	VIII層検出焼土跡 (SF) 一覧	226
表55	XII-2層出土磨製石斧分類別点数内訳と磨製 石斧の法量・属性	180	表87	VIII層検出遺物集中 (SQ) 一覧	226・227
表56	XII-2層出土石製遺物遺構別組成表	185~187	表88	VIII層検出不明遺構 (SX) 一覧	227
表57	XII-2層出土剥片石器類利用石材組成表	188・189	表89	VII層検出土坑 (SK) 一覧	227
表58	屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物観察表	190~201	表90	IX層上面・VIII層出土土器観察表	230
表59	X線マイクロアナライザーによる石材分析	202	表91	VIII層出土石製遺物観察表	232
表60	XII-2層検出遺構内出土の剥片石器類時期別 利用石材	206	表92	更埴条里遺跡VIII~XII層におけるプラント・オ パール分析結果 (A地点~H地点)	237
表61	骨角器観察表	207	表93	更埴条里遺跡VIII~XII層におけるプラント・オ パール分析結果 (H東地点~K地点)	237
表62	XII-1層~VIII層包含層出土土器量	208	表94	更埴条里遺跡VIII~XII層におけるプラント・オ パール分析結果 (I西地点)	237
表63	XII-1層検出土坑 (SK) 一覧	210	表95	屋代遺跡群⑤a区の植物珪酸体結果	241
表64	XII-1層検出焼土跡 (SF) 一覧	210	表96	屋代遺跡群の水洗選別およびフローテーション で得られた大型植物遺体産出表	246
表65	XII-1層検出柵・杭列・材木列など (SA) 一覧	210	表97	炭化材の樹種同定結果	250・251
表66	XI層検出土坑 (SK) 一覧	210	表98	屋代遺跡群出土魚類遺存体観察表	255
表67	XI層検出焼土跡 (SF) 一覧	210	表99	屋代遺跡群から出土した縄文時代の獣骨点数の 時代推移	258
表68	X層検出土坑 (SK) 一覧	211	表100	屋代遺跡群出土脊椎動物骨一覧	268~276
表69	X層検出焼土跡 (SF) 一覧	211	表101	屋代遺跡群の水洗選別によって確認された動 物遺存体 (哺乳類) 観察表	277
表70	X層検出遺物集中 (SQ) 一覧	211	表102	高速道屋代遺跡群 (屋代遺跡、窪河原遺跡、 更埴条里遺跡) から出土した縄文時代人骨の 概要	278
表71	XII-1~X層出土土器観察表	212	表103	高速道屋代遺跡群発掘の縄文時代人骨の上顎 歯の計測値と比較資料	282
表72	XII-1~X層出土石製遺物観察表	214	表104	高速道屋代遺跡群発掘の縄文時代人骨の下顎 歯の計測値と比較資料	282
表73	IX層検出土坑 (SK) 一覧	215	表105	中期後葉主要5類型の時期別出現状況	306
表74	IX層検出焼土跡 (SF) 一覧	215	表106	蛍光X線分析結果	322~325
表75	IX層検出不明遺構 (SX) 一覧	216	表107	住居跡の系譜	335
表76	IX層出土土器観察表	217	表108	発汗浴小屋の諸類型	337
表77	IX層上面検出掘立柱建物 (ST) 一覧	221			
表78	IX層上面検出土坑 (SK) 一覧	221・222			
表79	IX層上面検出溝跡 (SD) 一覧	222			
表80	IX層上面検出焼土跡 (SF) 一覧	223			
表81	IX層上面検出遺物集中 (SQ) 一覧	223			
表82	IX層上面検出不明遺構 (SX) 一覧	223・224			
表83	VIII層検出竪穴状遺構 (SB) 一覧	224			

写真図版

巻頭図版 1	上 屋代遺跡群縄文時代中期後葉XII-2層 検出遺構	巻頭図版 4	屋代遺跡群XIV-1層 (縄文中期前葉) 出土 土器展開写真
	下 屋代遺跡群⑤b区東壁セクション	巻頭図版 5	屋代遺跡群XII-2層 (縄文中期後葉) 出土 土器展開写真
巻頭図版 2	上 屋代遺跡群 SB5325	巻頭図版 6	屋代遺跡群出土漆液容器 1
	下 屋代遺跡群 SB5337・5337土坑炉・5338	巻頭図版 7	屋代遺跡群出土漆液容器 2
巻頭図版 3	上 屋代遺跡群中期前葉土器	巻頭図版 8	屋代遺跡群出土土器の胎土
	下 屋代遺跡群中期後葉土器		

第1章 遺跡の概観と調査の概要

第1節 本編の範囲

1 報告書作成の方針

地域一括・時代別報告 平成7年度、上信越自動車道関係の整理がはじまるにあたり、更埴条里遺跡と屋代遺跡群（含む大境遺跡、窪河原遺跡）については、遺跡別とはせず一括して報告する方針を立てた。

間断ない遺跡 その主な理由は、更埴条里遺跡A地区から屋代遺跡群の窪河原遺跡までの全長2.3kmをほぼ全面発掘し、その間、遺跡が途切れなかったことによる。従来の遺跡別（地区別）報告では、同一時期の水田面や水路をみすみす分断してしまい、同時期の集落と水田との位置関係などといった、調査対象地域全体の様相の把握が困難になっただろう。

景観復元 さらに、例えばIII-2層とした洪水砂は、更埴条里遺跡A地区から屋代遺跡群⑥区の約2kmにわたって、9世紀末の水田や住居をバックしていた。この洪水砂を剥ぐことによって遺物・遺構の有無とは関係なく、一時期の「地表」を検出することが可能となった。これにより人間活動の痕跡を点（一定の範囲）でおさえる狭義の「遺跡」や、その集合・ネットワークとしての「遺跡群」をとらえる作業だけでなく、一時期の「景観」を復元しうる可能性が強まった。「景観」復元を目指すという課題を掲げるためにも、全地域を統合した報告書作成を選択した。

キー層による時代別分冊 時代別分冊方式をとった理由は、現地表面直下から地表下8mにわたって、江戸時代から縄文時代に至る遺構・遺物が層位別に検出できたことにある。膨大な資料をまとめるにあたり、大きな環境の変化をもたらしたと思われる層を「キー層」として、時代別の分冊方式を採用した。

自然環境分析 各時代別分冊では、「景観」を復元するにあたって狭義の考古資料以外の微化石や動・植物遺体の分析を重視し、多くの研究者に参加を願った。総論編では、それらを元に自然環境と人間の営みの相関関係とその変遷を主眼として、まとめてゆく方針を立てた。

長野自動車道関連 また、窪河原遺跡については、上記の方針から、平成2年度に調査を実施した長野自動車道分についても含めた。ただし、本編に該当する資料は上信越自動車道関連のみである。

分冊の区分 各分冊の表題と刊行予定年度は以下のとおりである。

第1分冊 『長野県屋代遺跡群出土木簡』平成7年度刊行

第2分冊 『更埴条里遺跡・屋代遺跡群—含む大境遺跡— 縄文時代（VII層～XIX層）編』（本文編、遺構図版編、遺物・写真図版編）本編

第3分冊 『更埴条里遺跡・屋代遺跡群—含む大境遺跡・窪河原遺跡— 弥生・古墳時代（VI層）編』平成9年度刊行

第4分冊 『更埴条里遺跡・屋代遺跡群—含む大境遺跡・窪河原遺跡— 古代1（IV・V層）編』（本文編、図版編）平成10年度刊行

第5分冊 『更埴条里遺跡・屋代遺跡群—含む大境遺跡・窪河原遺跡— 古代2・中世・近世（II・III層）編』（本文編、図版編）平成11年度刊行予定

第6分冊 『更埴条里遺跡・屋代遺跡群—含む大境遺跡・窪河原遺跡— 総論編』平成11年度刊行予定

2 本編の範囲

第2分冊では、XIX層からVII層面で検出された遺構・遺物を対象とする。時期的には縄文時代前期後半から晩期後葉（氷式土器出現以前）にあたる（表1）。

前期前半から 屋代遺跡群・更埴条里遺跡の発掘調査で出土した時期の解る最古の遺物は、古代の溝から出土した前期前半土器（神ノ木式）である。また、基本土層にともなう遺物としてはXVI層出土の前期後半の土器（下島式）1片が最古であり、更に下のXVII層～XIX層はそれ以前の時期に相当すると考えられる。特にXVIII層では台石が1点出土しており、形態から前期前半に遡る可能性もある。遺物包含層は更に下へ続くが、発掘調査はXIX層をもって終了しているため、この時期が報告最古時期となる。

氷式土器出現以前まで 縄文時代晩期と弥生時代の境界は、西日本の弥生時代前期に並行する氷式土器の段階からを弥生時代に含めた。これは、遺物包含層がシルト質のVI層であり、砂層を主体とした縄文晩期後葉のVII層と層相が大きく異なっていることを基準とした。

時期区分 おもに検出面と出土土器の時期から縄文晩期後葉から前期後葉までを11期に大区分し、それぞれの遺構のあり方の変化と土器の様相から前期を1期、中期前葉を2期、中期前葉～中葉を1期、中期中葉を4期、中期後葉を4期、後期初頭～前葉を3期、後期中葉を1期、晩期を2期に区分した。

表1 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の層位と時期区分（網かけ部分は本編）

層位	歴代(6)区・窪河原H6区層位	時代区分	中時期区分	小時期区分	縄文編年	遺構	備考
I	I	近・現代				水路、畠ほか	
II	II-1～5	近世～近代				水田・畠	
III-1	III-1.1～III-1.10	古代後半～中世	中世前半・後半と古代9～15期			集落・水田・畠	
III-2	III-2	古代	古代8期	前半・後半			全域を覆う洪水砂
IV・V	第1～第五水田対応層		古代0～8期	前半・後半		集落・祭祀施設・水田・畠	紀年銘木簡多数
VI	VI	古墳	古墳1～8期	新相・古相		集落・祭祀施設・水田？	歴代①区で洪水砂
	IV層下部	弥生	弥生1～5期	新相・古相		遺物集中・水路など	
VII	VII	縄文晩期後半			浮線紋期	焼土跡など	全域で砂堆積
VIII	VIII	縄文晩期前半			佐野式	掘立柱建物、焼土跡など	地表面安定
IX	IX-1	縄文後期中葉			加曾利B式		自然堤防側に砂層多数
	IX-2～5				-		
X	X				堀之内II式		
XI	XI	縄文後期前葉				焼土跡など	砂層
XII-1	XII-1				堀之内I式		
XII-2	XII-2	縄文後期初頭			称名寺式	集落	地表面安定
	(XII-3) (XIII-1)	縄文中期後葉	後葉4 後葉3 後葉2 後葉1	a・b・c a・b	加曾利EIV式併行 加曾利EIII式併行 加曾利EII式併行		
XIII	XIII-2	縄文中期中葉	中葉4期		梨久保B段階 勝坂IV式併行	焼土跡 焼土跡 遺物分布	シルト堆積続く
			中葉3期		勝坂III式併行	集落	
			中葉2期 中葉1期		勝坂II式併行 阿玉台I併行	焼土跡？	
	XIII-3	中葉～前葉	中葉～前葉		～五領ヶ台式直後型式	焼土跡	XIV-1a層 砂層
XIV	XIV-1					集落	地表面安定
	XIV-2 XIV-3	縄文中期前葉	前葉2期		五領ヶ台II式併行		XIV-1c層 砂層
						焼土跡	自然堤防側に砂層多数
					焼土跡		
XV	XV	縄文中期前葉	前葉1期		五領ヶ台I式併行	焼土跡・墓坑ほか	集落縁辺部か？
XVI	XVI	縄文前期後半	下島式期		諸磯c式併行	焼土跡など	
XVII～XIX	XVII～XIX	不明					大形礫出土
不明	不明	縄文前期前半	神ノ木ほか				河道への遺物混入

第2節 歴史的環境と周辺遺跡

1 遺跡の位置 (図版1)

更埴市・千曲川右岸 更埴市屋代から雨宮地籍、千曲川右岸の自然堤防上には多くの遺跡が立地している。これらの遺跡を総称した名称が屋代遺跡群（・雨宮遺跡群）である。その中で、古代以降に形成された比較的新しい自然堤防II群に立地するのが窪河原遺跡である。屋代遺跡群の中心部は自然堤防I群上に位置しており、調査対象範囲の一部は大境遺跡（屋代遺跡群④区の一部）と命名されている。更埴条里遺跡との境は便宜的に五十里川とした。更埴条里遺跡は自然堤防の南側に広がる後背湿地I群を中心としている。

調査対象地区の位置 上信越自動車道はこの地域を南北に縦断する形で計画され、発掘対象地区は更埴条里遺跡A地区（更埴市屋代字七ツ石）から窪河原遺跡（更埴市雨宮字窪河原）の全長約2.3kmにわたる。各調査地区の地籍名は、図版1に示したとおりである。国土座標では、更埴条里遺跡A地区南端が、第VII系X=58.8km、北端の窪河原遺跡がX=62.0km。東西は窪河原遺跡で広くY=-31.9kmから-32.10kmである。北緯36°31'50"~36°33'、東経138°8'付近にあたる。

2 地域区分と調査方法

屋代遺跡群をとりまく千曲川右岸・左岸地域に分布する旧石器時代から縄文時代の遺跡を抽出し、表2・3と図1にその内容をまとめた。抽出にあたっての留意点は、以下に示した通りである。

- ① 遺跡のまとまりをつかむため、地域をいくつかに分けて抽出を行った。地域区分の方法は、千曲川と山並によってとりかこまれた小地域^(註)とそれに接する山麓・高地面を1つの単位として把握した。基本的な小地域の区分は、『更級埴科地方誌』に森嶋 稔氏の提示した区分（森嶋1978）に概ね従っている（図2）。
- ② 調査にあたっては、『鳥林遺跡他』における「歴史的環境と周辺の遺跡」（綿田1994）と『石川条里遺跡』における「歴史的環境と周辺の遺跡」（臼居1997）に示された記入例を参考にして、可能な限りそれらに掲載された文献を調査した。また、『更級埴科地方誌』、『更埴市史』、『戸倉町誌』で不足部分を補った。
- ③ 上記の文献で調査して、記載内容が合わないものもあったが、綿田1994と臼居1997に提示されてある文献及び『長野県史考古資料編全一卷（一）遺跡地名表』で再調査の上訂正した。
- ④ 遺跡名が違うものも地図を確認の上、明らかに同一と思われるものは、同一のものとして扱い、遺跡名は『更級埴科地方誌』又は『更埴市史』にそろえた。
- ⑤ 綿田1994、臼居1997で参考文献が明記されておらず、遺跡の存続欄に◎や○があるもので該当する文献をみつけることができなかったものについては、少数ではあったがやむをえず除外した。
- ⑥ 表記のしかたは、住居出土の場合は●、遺構が出土している場合は◎、遺物のみ出土の場合は○にした。線上に○印があるものは、両時期にまたがる遺物が出土していることを示す。
- ⑦ ページ数の関係で参考文献を十分に提示できなかった。表中に文献・遺跡番号（綿田）と示したものは、綿田1994での遺跡番号を示しており、同書のその番号を調べれば、その遺跡に関わる文献を知ることができる。文献・遺跡番号（臼居）も同様である。両氏の調査で文献名が空欄の場合は多くが『更級埴科地方誌』に記載例がある。それら以外の文献のみ文末に参考文献として載せた。

3 旧石器時代・縄文時代の周辺遺跡

周辺遺跡の記述にあたっては、屋代遺跡群の属する「I 屋代沖積面とそれをとりまく山麓部・高地面」の動向を中心に述べる。千曲川左岸地域も含めての全体的な歴史的環境については『総論編』で述べることとする。

旧石器時代 高地面と山麓部に1ヶ所ずつ遺跡が確認される。鏡台山の南西斜面に存在する沢山A遺跡(8-3)では、黒曜石製のナイフ形石器と先刃搔器の出土が知られる。中部・関東地方に分布する茂呂系文化の所産とされる。森地区の山麓部にあたる県山遺跡(6-1)では頁岩製の石刃が2点出土している。いずれも遺構に伴ったものではない。

草創期 当該地域では概期の遺跡は発見されていない。周辺地域のあり方をみてもこの時期の遺跡は少ない。

早期 遺構を伴ったの出土例はないが、高地面で3遺跡、山麓部で2遺跡に遺物が確認されている。高地面では森將軍塚古墳盛土(8-5)から押型文土器が71点出土しており、細久保段階の編年的位置付けが与えられている。沢山B遺跡(8-4)では、早期末葉に位置付く茅山式土器が数点出土している。百瀬遺跡(8-1)からは押型文土器と強い伴出関係にあるといわれる特殊磨石が出土している。山麓部では、大穴遺跡(5-2)から他時代の遺構への混入として押型文土器が5点、条痕文系土器が1点出土し、清水製鉄遺跡(5-3)からは楕円押型文土器が1点遺構外から出土している。

前期 5遺跡で遺物が確認できる。屋代遺跡群⑤区(1-1)以外は前時期と同様の遺跡での出土である。大穴遺跡(5-2)では前期前半と後葉(諸磯C式)、末葉の小片が各1片ずつ古墳への混入として出土している。百瀬遺跡(8-1)では諸磯C式や前期最終末期の十三菩提式のほか、関西系の前期後半に位置付く北白川下層式土器等も出土している。清水製鉄遺跡(5-3)では、土器の出土はないが黒曜石製の石鏃が2点、遺構外から平安時代の遺物とともに出土しており、早期末から前期初頭に位置付けられている。森將軍塚古墳盛土(8-5)からは、諸磯式の小片が出土している。これらの遺跡はこれまでと同様、高地面・山麓部に位置する遺跡であるが、屋代遺跡群⑤区(1-1)は千曲川の沖積地の自然堤防上に立地しており、明らかに立地が異なる。住居の出土はないものの諸磯C式土器と焼土跡が検出されている。更にこの下層の層位からは時期・用途不明ではあるが大形の礫が1点検出されている。この時点で検出面は地表下7mにも達しており、安全確保の上から、それより下部の調査は断念された。しかし、地表下約12mまで存在する礫層の間には更に多くの遺構・遺物が埋まっている可能性が残された。ちなみに、この遺跡から東に6km程離れた松原遺跡は同じ立地条件の遺跡だが、古代の井戸跡の断ち割の際に縄文時代の包含層が発見され、前期中葉の有尾式土器が土坑や焼土跡と共に多量に出土し、更には、早期末葉に位置付けられる土器まで発見されている。

中期 6遺跡8地点で遺物が確認できる。高地面・山麓部にも引き続き遺跡は存在するものの、千曲川の自然堤防上や後背湿地内の微高地上にも遺跡が広く展開し始めるなど立地面で大きな変化がみられる。遺物のみの出土がみられる遺跡は、大穴(5-2)、清水製鉄(5-3)、倉科山ノ神(7-1)、芦ノ平(8-2)の4遺跡で、屋代遺跡群④区(1-2)、②区(1-4)、更埴条里遺跡I・J地区(4-2)からは、焼土跡や杭列等の遺構も出土している。この時期最も注目されるのは、千曲川自然堤防上に立地する屋代遺跡群⑤区(1-1)である。ここでは、この時期の大集落が営まれる。⑤区において、中期前葉の五領ヶ台II式併行期に22軒の竪穴住居が発見された。中期前葉の集落としては最大級とされる。また、竪穴住居の周堤の一部や屈葬人骨等も検出された。中期中葉(勝坂期)では、集落の規模は小さくなるが焼土跡と共に竪穴住居が1軒発見された。続く中期後葉(加曾利EII~IV式併行)には再び大規模に集落が展開する。建物は竪穴式住居と掘

立柱建物が存在し、柄鏡形敷石住居が加曾利EⅢ式併行期から構築され始めている。屈葬人骨を埋めた墓坑も検出されている。住居跡の総数は72棟であり、中央に広場をもって環状に展開すると推測されている。このような沖積地において縄文集落が長期間大々的に存続し、更に層位的に調査できた例は皆無に等しく、また地表下4 m以下から発見された例ということで、今後の縄文集落の分布や立地のあり方を検討する上でも貴重な遺跡となった。

後期 上信越自動車道関連の遺跡の発掘調査が行われる以前は、遺物のみが検出される例が多く遺構を伴った遺跡は確認できなかったが、今回の調査により遺構を伴った出土例が増大した。遺跡数は8遺跡 13地点にのぼる。屋代遺跡群では④区(1-2)と⑤区(1-1)で、堀之内式から加曾利B式期の焼土跡が検出された。更埴条里遺跡では、遺構自体は少ないがA地区(4-5)からは少数ながら後期の精製土器が出土し、内部に礫をもつ土坑数基が検出され、J地区(4-2)からは堀之内式期の焼土跡が確認された。

晩期 高地面の遺跡が減少し、山麓部や千曲川へと続く平坦部(自然堤防上や後背湿地内の微高地)に立地の主体は変化する。遺跡数は8遺跡、12地点である。屋代遺跡群⑤区(1-1)では、この時期の竪穴状遺構が検出され、更に更埴条里遺跡ではE地区(4-4)、H地区(4-3)、J地区(4-2)から掘立柱建物跡が検出されている。更埴条里遺跡ではこの時期の遺構が多く、複数の地区から土器集中や焼土跡が発見され、J地区(4-2)では佐野式の段階に属する台付きの浅鉢や周囲に打製石斧や凹石が散在する箇所も確認されている。

註

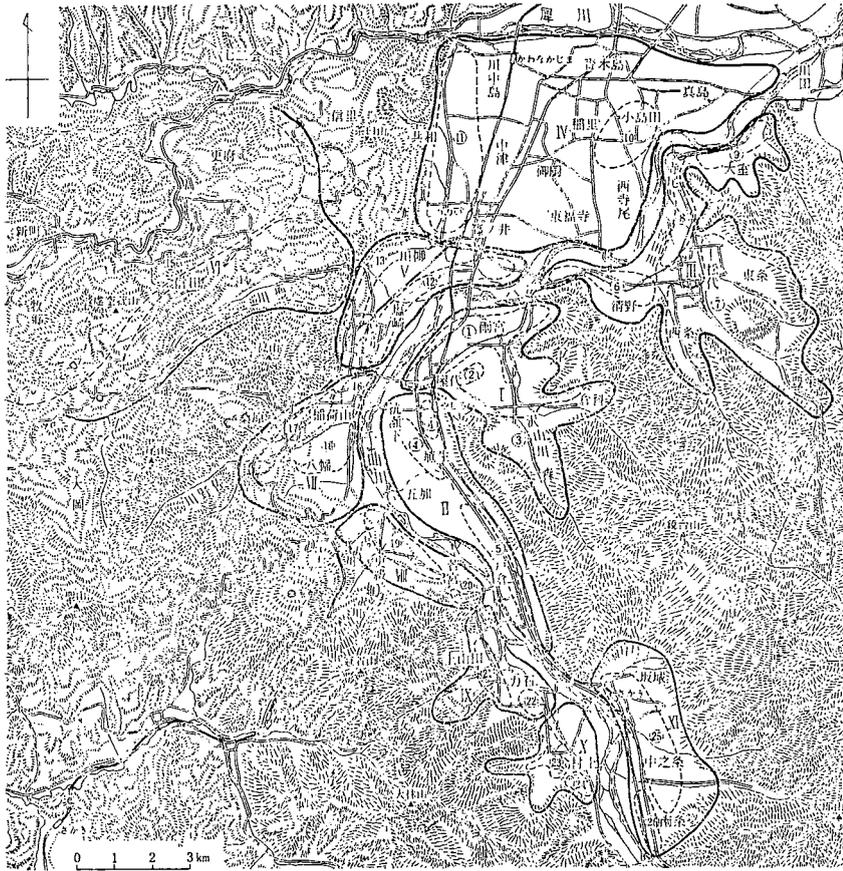
- 1 これは『古代1編』『古代2、中・近世編』で述べた古代の小地域と同じ地域区分である。古代・中世の遺跡と関連をもって考えられるようにしたためこのようにした。『総論編』でも同じ地域区分で考察している。

引用・参考文献

- 綿田1994、白居1997で記載されたものについては割愛する。なお、『総論編』では、これら以後のものも含めて文献を提示した。
- 森嶋 稔 1978 「第二節 更埴地方古代の歴史地理的把握」『更級埴科地方誌』第二巻
- 綿田弘実 1994 「第二節 歴史的環境と周辺の遺跡」『中央自動車道長野線 埋蔵文化財発掘調査報告書13鳥林遺跡他』
- 白居直之 1997 「第二節 歴史的環境と周辺遺跡」『中央自動車道長野線 埋蔵文化財発掘調査報告書15 石川条里遺跡第1分冊』
- 戸倉町誌編纂委員会 1999 『戸倉町誌』第二巻 歴史編上
- 勸長野県埋蔵文化財センター 1998 『上信越自動車道 埋蔵文化財発掘調査報告書4 松原遺跡 縄文時代』
- 長野県史刊行会 1981 『長野県史 考古資料編 全一卷(一) 遺跡・地名表』
- 更埴市教育委員会 1995 『坪山遺跡・判官塚古墳』



図1 周辺遺跡



地形面	地域面
I 屋代沖積面	① 雨宮・屋代自然堤防面
	② 屋代微高地面
	③ 浜山扇状地面
II 殖生・戸倉沖積面	④ 殖生微高地面
	⑤ 戸倉微高地面
III 松代沖積面	⑥ 清野自然堤防面
	⑦ 松代複合扇状地面
	⑧ 寺尾自然堤防面
IV 川中島扇状地面	⑨ 大室自然堤防面
	⑩ 小島山微高地面
V 坂崎沖積面	⑪ 共和山麓台地面
	⑫ 松筒・糠田自然堤防面
	⑬ 坂崎山麓台地面

地形面	地域面
VI 宿田丘陵面	⑭ 聖川水系面
	⑮ 原川水系面
VII 佐野川扇状地面	⑯ 稲荷山自然堤防面
	⑰ 桑原山麓台地面
VIII 更級洪積台地面	⑱ 佐野川微高地面
	⑲ 更級洪積台地面
IX 上山田洪積台地面	⑳ 若宮山麓台地面
	㉑ 上山田洪積台地面
X 村上洪積台地面	㉒ 石巻微高地面
	㉓ 上平山麓台地面
XI 坂城洪積台地面	㉔ 網掛洪積台地面
	㉕ 坂城洪積台地面
	㉖ 南条自然堤防面

更殖地方歴史地理的環境図

更殖殖科地方誌 第二巻
P 450より抜粋

図2 旧石器時代・縄文時代の地域区分

表2 周辺遺跡1

I 屋代沖積面 とそれをとりまく 山麓部・高地面	番号	遺跡名	旧石器	縄文						文献		
				草創期	早期	中期	後期	晩期	不明	遺跡番号(白居)	遺跡番号(編田)	
①屋代・雨宮自然堤防面	屋代遺跡群	1-1	◎	●	◎	◎					92	
		1-2	◎	◎								
		1-3						○				
		1-4	◎	◎								
		1-5					○					92-2
	1-6							○				92-5
雨宮遺跡群	2-1							○				
	2-2							○				91-2
土口遺跡群	3-1							○				90-1
	3-2							○				90-2
②千曲川後背湿地内微高地面	更殖条里遺跡	4-1						◎	◎			
		4-2						◎	◎	●		
		4-3								●		101
		4-4							◎	●		
		4-5							◎			
③有明山山麓、倉科・森扇状地面	有明山	5-1						○	◎		228	97
		5-2						○	○	○		99
		5-3						○	○	○		100
	森倉科	6-1	○									88
		7-1						○				
④高地面		8-1						○	○			87
		8-2							○			
		8-3	○									
		8-4						○				
		8-5						○	○		○	

II 殖生・戸倉沖積面 とそれをとりまく 山麓部・高地面	番号	遺跡名	旧石器	縄文						文献				
				草創期	早期	中期	後期	晩期	不明	遺跡番号(白居)	遺跡番号(編田)			
①殖生微高地面	粟佐遺跡群	10-1									○		219	93-2
		11-1											○	
		11-2												○
②五里ヶ峯山麓部		12-1											○	
		12-1	○											
③高地面		12-1												○
		12-1	○											

IV 川中島扇状地面 とそれに接する 山麓部・高地面	番号	遺跡名	旧石器	縄文						文献				
				草創期	早期	中期	後期	晩期	不明	遺跡番号(白居)	遺跡番号(編田)			
①共和山麓台地面		20-1											○	9
		20-2												○
②高地面		21-1											○	20
		21-2												○

●……住居出土
◎……遺構出土
○……遺物出土

表3 周辺遺跡2

V 塩崎沖積面 とそれに接する 山麓部・高地面	番号	遺跡名	旧石器	縄文						文献			
				草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	遺跡番号(編目)	遺跡番号(白居)	
													早
①松節自然堤防面													
篠ノ井遺跡群	30-1	市道山崎遺跡				○						2-4	
	30-2	篠ノ井								◎		8	2
	30-3	聖川堤防								◎		2-2	
	30-4	市営体育館								◎		2-6	
塩崎遺跡群	31-1	市道角間線									○	3-1	
	31-2	塩崎小学校				○						3-2	
	31-3	一本木									○		
	31-4	伊勢宮									○	3-5	
②塩崎山麓台地面													
上石川遺跡群	32-1	大田和				○							
	32-2	宮下				○						317	
	32-3	山田									○		
長谷鶴前遺跡群	33-1	上見林									○	263	25
	33-2	鶴前	○	○	○	●	◎	○	●			5	5-1
	33-3	鶴茨七尋岩蔭				○	○					4	6
	33-4	鶴萩									○		
	33-5	戸部ノ間									○	244	
	33-6	長谷観音下									○	245	
	33-7	越									○		
③千曲川後背湿地内微高地面													
34-1	石川条里				●	○		○				7	1
④高地面													
35-1	猪平	○	○	◎	○	○	○					238	46
35-2	下辺	○										250	
35-3	塩崎城見山砦	○			◎							6	

VII 佐野川扇状地面 とそれをとりまく 山麓部・高地面	番号	遺跡名	旧石器	縄文						文献			
				草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	遺跡番号(編目)	遺跡番号(白居)	
													早
①桑原山麓台地面													
桑原遺跡群	50-1	小坂東								○			165
	50-2	小坂西			●	●				◎		2	52
	50-3	小坂西沖			○					○	○		53
	50-4	小坂									○		
	50-5	治田地A			○	○							
	50-6	治田地下					○					164	59
	51-1	桑原返町									○	149	56-1
	52-1	鳥林			●	○	○	○	○			1	54
	52-2	雁塚									○	137	55
	②佐野川微高地面												
53-1	真光寺						○					123	62
③八幡山麓部													
八幡山麓部	54-1	石原A								○			125
	54-2	坪山								○			
④高地面													
高地面	55-1	大久保								○			158
	55-2	篠山				○	○					157	47
	55-3	いちご平								○			159
	55-4	桑原大門									○		156
	55-5	峠A・B				○						152	51
	55-6	峠C				○						152	51
	55-7	池尻			○	◎	○	◎	○	○		153	48
	55-8	佐野山A	○	○								154	49
	55-9	佐野山B			○	○						154	50
56-1	横手開拓地			○								131	
56-2	上平沢							○				127	
56-3	八幡山ノ神								○			70	

VI 信田丘陵面	番号	遺跡名	旧石器	縄文						文献			
				草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	遺跡番号(編目)	遺跡番号(白居)	
													早
①聖川水系面													
聖川水系面	40-1	小山田池			○	○							26
	40-2	卒塔原									○	307	28
	40-3	宮ノ下				○	○	○				319	41
	40-4	山田屋敷									○	304	
	40-5	家の入									○	270	36
	40-6	大清水							○	○		271	38
	40-7	釜土									○	281	37
	40-8	寺平									○	272	35
	40-9	大上A									○	278	
	40-10	瀬原	○									280	33
	40-11	カシカ沢									○	285	32
	40-12	峯田									○		
	40-13	大峯					○					283	39
	40-14	桜田									○	287	
	40-15	原ノ東									○		
	40-16	上和沢	○									236	
②犀川水系面													
犀川水系面	41-1	鍋割									○		
	41-2	氷ノ田									○		
	41-3	塩山									○	300	
	41-4	梨ノ木									○	301	
	41-5	牧内						○					
	41-6	信里大久保						○					
	41-7	強清水									○		
③その他													
その他	42-1	有旅中山									○		
	42-2	上手沖									○		

VIII 更級洪積台地面 とそれに接する 山麓部・高地面	番号	遺跡名	旧石器	縄文						文献			
				草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	遺跡番号(編目)	遺跡番号(白居)	
													早
①更級洪積台地面													
更級洪積台地面	60-1	西久保								○			80
	60-2	三島B							○	○			43
	60-3	三島A	○										43
	60-4	輻田							●	●	○	○	42
	60-5	円光房							●	●	●	●	
	60-6	仙石								○			38
	60-7	歩行山									○		40
	61-1	中村	○										23
②若宮山麓台地面													
若宮山麓台地面	62-1	弁天								○			
	62-2	古屋敷				○	○					55	66
	62-3	八幡林				○							67
	62-4	芝平				○	○			○			32
	62-5	聖湖				○							14
	62-6	大池南尾根				○							
	62-7	大池南				○	○			○			61
	62-8	標葉								◎			31
③高地面													

●……住居出土
◎……遺構出土
○……遺物出土

第3節 地形・地質環境と基本層序

1 善光寺平南部の地形・地質環境

(1) 長野盆地南部の地形 (図3)

長野盆地は南北長さ40km、東西幅8～10km、標高330～400mの紡錘形をした盆地である。西側は西部山地、東側は河東山地に明瞭に区分される。盆地の周辺は流入する中小河川の扇状地で埋められる。長野市街地の中心部は裾花川扇状地上に発達し、盆地南部は犀川扇状地からなる。盆地の中央部を南北に流れる千曲川は、それらの扇状地の発達に影響され自由蛇行している。

千曲川氾濫原上には、自然堤防や旧河道の砂堆・中州などの微高地と旧河道・後背湿地などの微低地があり、微地形を形成している。千曲川は更埴市稻荷山・八幡付近で河床勾配を1/1000mと緩め、北西から北東方向へ流れの向きを変え、蛇行を始める。千曲川の左岸側には八幡、稻荷山、塩崎、平久保、旧篠ノ井(東篠ノ井、横田)、東福寺にかけて大規模な自然堤防が発達し、その西側には後背湿地が発達する。右岸側も雨宮・清野・松代・牧島の自然堤防とその東側には後背湿地となる湾入低地が形成されている。

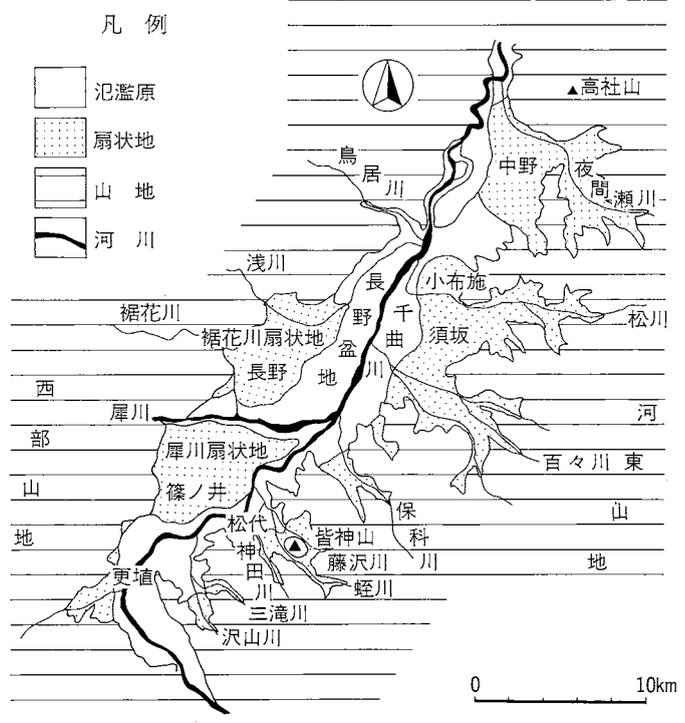


図3 長野盆地の地形 (『中部地方Ⅰ』赤羽・花園1988に加筆)

(2) 遺跡周辺の地形 (図4)

長野盆地東側の河東山地は壮年期の侵食地形を示す。河東山地から延びる主な尾根は北西—南東方向に延び、さらに枝状に小さな尾根が広がる。山麓線は入り組んでおり、千曲川氾濫原と山地との境界線はリアス式海岸線のようなものである。更埴条里遺跡はその枝状に広がる一重山と唐崎山の尾根に囲まれた大規模な後背湿地に位置し、屋代遺跡群は更埴条里遺跡の北側に形成されている雨宮の自然堤防上に位置する。

地形区分 自然堤防の頂部は北西—南東方向に傾斜が見られ、雨宮集落では長野電鉄河東線雨宮駅の南部にある雨宮坐日吉神社の辺りで標高355.9m、屋代工業団地周辺では長野電子工業辺りで標高356.7m、屋代高校北部で357.5mである。雨宮の自然堤防の北・西側には比高差約1～1.5mの明瞭な小崖が発達し、崖に沿って幅約50m～180m、長さ約5kmにわたって数本の明瞭な旧河道が確認できる。この小崖をもって氾濫原をI群・II群に区分した。I群は細粒の堆積物を主とし、II群はそれより粗粒の堆積物からなる。更埴条里遺跡は後背湿地I群に、屋代遺跡群は自然堤防I群に、窪河原遺跡は旧河道に囲まれた自然堤防II群に位置する。自然堤防I群と後背湿地I群との境界は不明瞭である。発掘で得られた所見では後背湿地I群と区分されている中にも古代の集落域が存在する。堆積物は連続しており岩相の変化に乏しいため、地形分類図では更埴条里遺跡K地区を境界とした。自然堤防上にも細流などの働きによってできた浅い帯状の凹地が見られる。後背湿地は全体的に北西部から南東部へ傾斜しており、標高は最も高いと

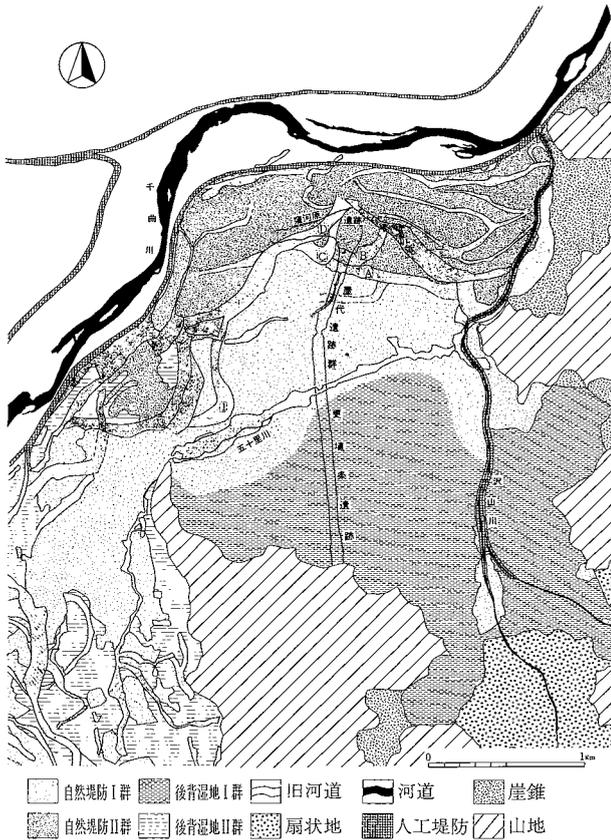


図4 地形分類図 (遺跡周辺)

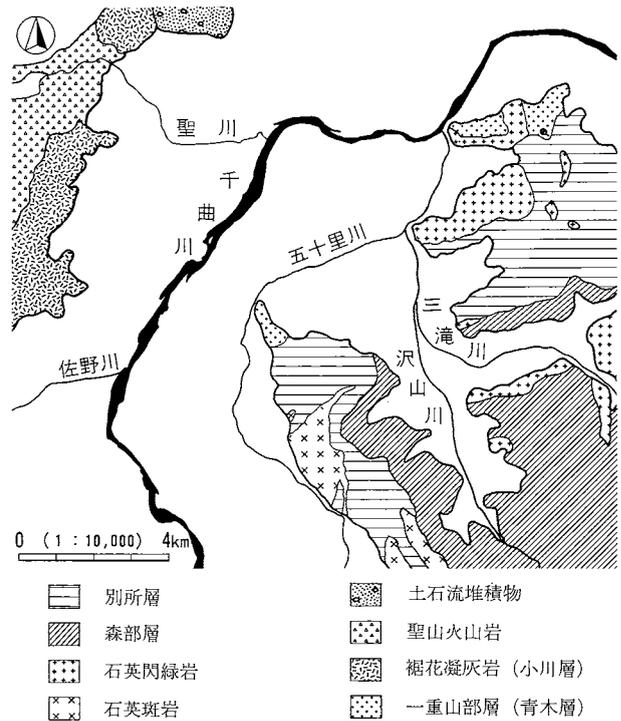


図5 遺跡周辺の地質 (加藤・赤羽1986に加筆)

ここでも一重山の東側の358m、最も低いところで森、中河原の西側で356.6mである。後背湿地の中にも微高地や帯状の凹地が認められる部分もある。更埴条里遺跡新幹線地点の調査では凹地部分での旧河道は検出されていない。埋没微高地の検討は今後の課題である。

五十里川は戸倉町徳間地籍で屋代堰として千曲川から取水され、戸倉町内川の東方で戸倉用水と合わせて五十里川となる。中州状の微高地の間をぬように旧河道の微低地の中を流れ、屋代の市街地を通り一重山で東西方向に流れを変えて雨宮の自然堤防と後背湿地とのほぼ境を流れる。唐崎山西方で沢山川と合流する。現在は河川改修が進み直線的であるが、かつては自然の姿で流れ小さな解析谷を形成していた。

森・倉科にはそれぞれ鏡台山・三滝山から流れ出る沢山川・三滝川による表面勾配36/1000の急傾斜の崖錐扇状地が形成されており、集落はその斜面上に立地する。生萱・土口は崖錐性の堆積物が押し出し地形を作る。沢山川は三滝川を途中更埴東小学校あたり(かつては少し下流の生仁)で合わせ、笹崎(薬師山の先)で千曲川と合流する。沢山川は天井川となり、周囲に微高地を形成している部分もある。

新第三系の地質 河東山地には中新世の堆積岩と中新世貫入岩類が分布し石材として利用されている。中新世前期～中期の内村層上部に相当する横尾部層、森・豊栄部層は、緑色凝灰岩・凝灰角礫岩と黒色頁岩・砂岩からなる。森部層の模式地は更埴市森の沢山川上流である。倉科周辺一大峰山周辺一沢山川周辺に分布する。黒色頁岩層を主とし新鮮な部分はかなり硬質である。中新世中期の別所層は更埴市森將軍塚古墳付近採石場を模式地とし、主に河東山地から長野盆地へ鋸歯状に突出した尾根に分布する。黒色頁岩を主体とするが、最下部・中・上部は緑色凝灰岩が主である。森部層の黒色頁岩と肉眼では区別がつかないが、森部層の方が硬質であると感じられる。遺跡で出土する石器の石材は森部層または別所層の黒色頁岩を使用していると思われる。

中新世の貫入岩類は長野盆地底には分布しない。中～後期中新世に何回かにわけて貫入した石英閃緑岩は更埴条里遺跡・屋代遺跡群の東方約2～3kmの更埴市生萱、土口、倉科に分布する。生萱には大正時代に設置された採石場があり、石英閃緑岩は生萱石と呼ばれ主に間知石や割栗石として利用されていた。堅

穴住居のカマド石、礎石建物の礎石などはこの石英閃緑岩を使用している。調査地南方の有明山南東方には石英斑岩が分布し、白色一灰白色で少量の大型石英の斑晶がみられる。

千曲川を挟んで対岸の西部山地に分布する中新世後期の小川層に相当する裾花凝灰岩部層も、カマド石の一部としてまれに使用されている。炭化物の付着や赤褐色の変色がみられ風化が著しいが、黒雲母・石英の斑晶が目立つ粗粒のこの凝灰岩は岩相からみて下部層にあたり、長野市四野宮、長谷付近に分布するものと考えられる。

2 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の層序

更埴条里遺跡・屋代遺跡群に分布する堆積層を発掘調査・道路公団ボーリングの資料を基に七ツ石層、反町層、屋代層の3つに大区分し、さらに屋代層を細分した(図版2・3)。屋代層は地層命名規約(日本地質学会 1952 地質雑誌58巻P112-113)に基づいているが、七ツ石層・反町層はボーリング調査位置の小字名であるため今後変更の必要があるかもしれない。ボーリング資料は既にサンプリングから時間が経過しており、保存状態も悪く肉眼観察に耐えられないため、全て道路公団のボーリング調査報告書の結果を使用している。下位より順に説明する。

(1) 七ツ石層

模式地 更埴条里遺跡A・B地区 ボーリング資料

分布 更埴条里遺跡A・B・C・D・E地区

有機質の粘性土を主体とし砂質土、砂礫土との互層である。地表面下22.2~25.2m以深から50.5m(標高332~304m付近)までは確認されている。層厚約27mである。下限は不明である。上位の反町層との間には不整合があると考えられる。

粘性土はDc 1、Dc 2、Dc 3、Dc 4に区分されている。Dc 1は茶褐色の有機質粘土~腐植土で若干炭化した木片が点在する。Dc 2は帯黒褐色~茶褐色の有機質粘土~シルトである。Dc 3は茶褐色~灰色の有機質粘土~粘土である。Dc 4は帯緑灰色の径1~2cmの角礫を混入する粘土である。Dc 1~Dc 3は腐植物を多量に混入する。粘土は部分的に含水大でやわらかい層準もあるが、全体的に含水少なく硬い。

砂質土は青灰色~黒灰色の中~粗粒砂、礫混じり中~粗粒砂である。礫は径5mm~2cm大の軽石を主とする。スコリアを多量に含み、まれに凝灰岩礫も含む。上位の反町層と比較すると相対的に高いN値が測定された。

砂礫土は帯灰青色の径5~10mmの亜円~円礫を主とし、マトリックスは粘土である。含水は少ない。

ボーリング調査結果に地質時代は更新世、地層区分は古期氾濫原堆積層と記載があることから、七ツ石層の堆積時期は20000年以前と推定した。年代測定を行っていないので詳しいデータはない。

(2) 反町層

模式地 更埴条里遺跡F・G地区 ボーリング資料

分布 更埴条里遺跡・屋代遺跡群全体に確認される。

層相は変化し更埴条里遺跡A・B地区は砂を主体とし砂礫層を挟み、他の地区は礫を主体とする砂礫層である。地表面下5.8m~11mから22m(標高348~332m付近)に分布し、層厚約9~16m程度である。下位の七ツ石層を不整合で覆い、上位の屋代層に不整合で覆われると考えられる。

公団資料では更埴条里遺跡F~G地区付近を主な分布としており、記載は以下の通りである。帯緑灰色、帯黒灰色、茶褐色の礫径2~5cmの亜円~円礫を主とした砂礫層である。径7~10cmの礫を点在し、

砂をブロック状・縞状に取り込むこともある。マトリックスは中～粗粒砂で粘土分も多く認められる。更埴条里遺跡A・B地区～E地区にかけては層相変化し砂質土に漸移していると考えられる。

屋代遺跡群③、④区となると、帯青黒灰色、帯緑黒灰色、帯茶褐色の径2～5cmの亜角～円礫を主体とする。径6～10cmの礫を点在する。マトリックスはシルト～粗粒砂である。

年代測定は行われていないが、約10,000年前から20,000年前までと推定される。その理由として上位の屋代層下部層の層準であるXVI層が縄文時代前期後葉の諸磯式土器を包含するため約5,000年前の年代が与えられること、ボーリング資料と調査での所見を合わせると反町層の最上部と屋代層下部層のXVI層とのレベル差が2m程度であることから、堆積物の砂礫からシルトへの急激な変化を不整合面としてとらえるなら更新世～完新世の境?とするのが適当と思われる。

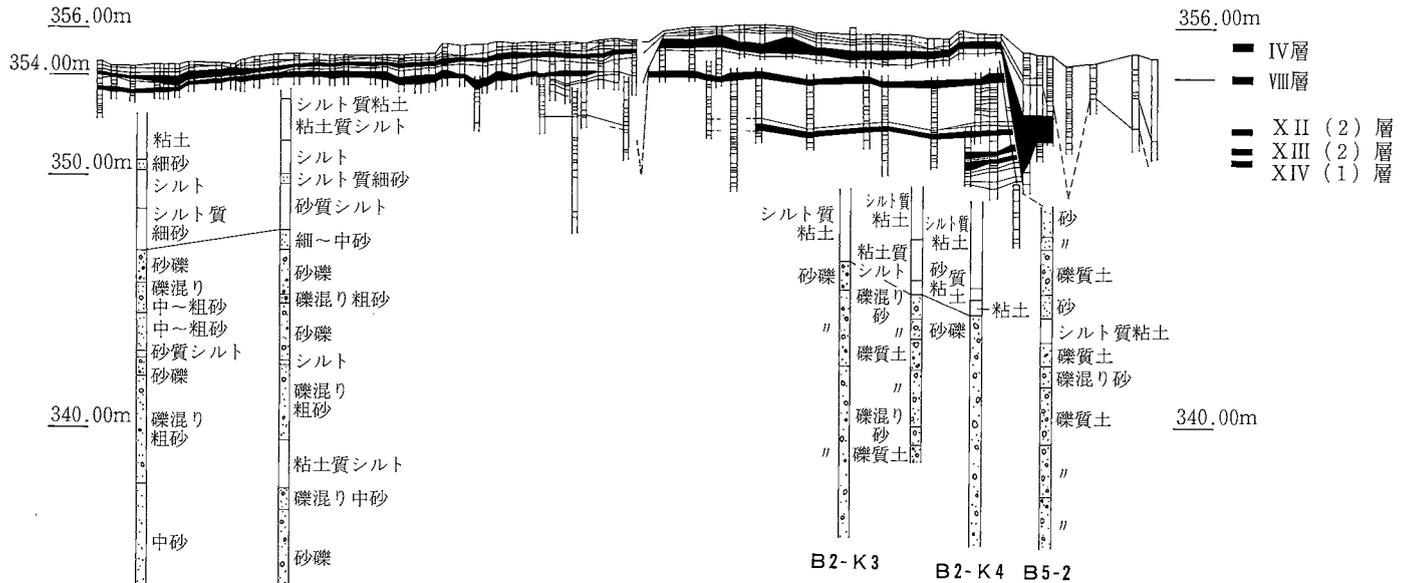
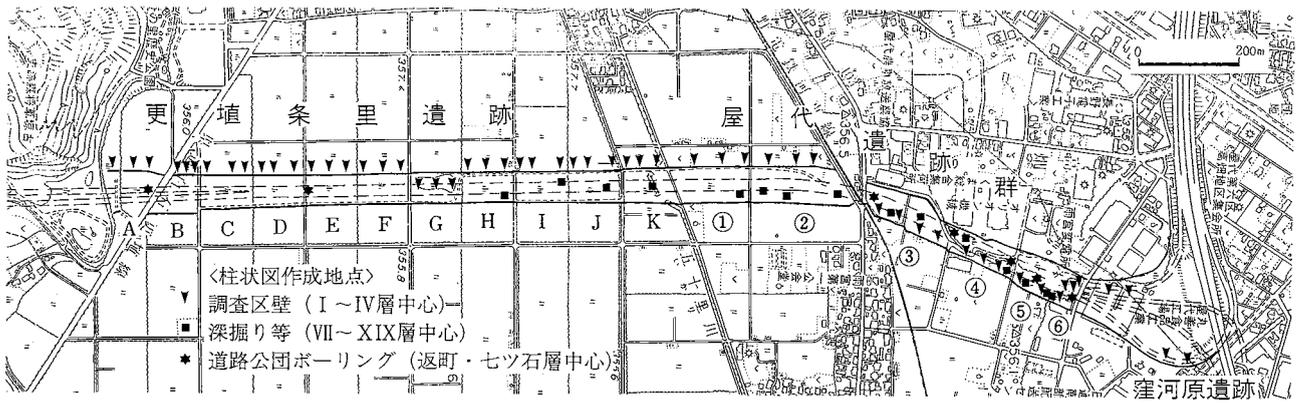
(3) 屋代層

模式地・分布 更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡全域

調査地全域に分布する完新世の堆積物である。発掘調査により上部・中部・下部の3つに分け、さらに色調・粒度、遺物の包含の有無などによってI層からXIX層に細分した。屋代層上部層はI層からIII層、屋代層中部層はIV層からVI層、屋代層下部層はVII層からXIX層である。窪河原遺跡での屋代層中部層が砂礫層であることを除けば屋代層はほとんどシルト～粘土質で、細粒の堆積物から構成されていることが大きな特徴である。更埴条里遺跡A地区と屋代遺跡群⑥区とでは同一の層準でも層相の変化はあるが、自然堤防の堆積物・後背湿地の堆積物といった明確な区分はできない。(更埴条里遺跡A・B地区に分布するV層のみIV層と同時異相の関係にある。)一般的に自然堤防と背後の後背湿地との境は不明瞭なことが多いが、本遺跡では堆積物からの区分もできないのでより不明瞭になっている。

引用・参考文献

- 更級・埴科地方誌刊行会 1986 『更級・埴科地方誌 自然編』
設省北陸地方建設局千曲川工事事務所 1993 『信濃の巨流 千曲川』
加藤 一・赤羽貞幸 1986 『長野地域の地質』地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 地質調査所
大矢雅彦編 1983 『地形分類の手法と展開』古今書院
赤羽貞幸 1995 「最終氷期以降における長野盆地の古環境」『第四紀研究』27, P.37-44
井関弘太郎 1983 『沖積平野』東京大学出版会
日本道路公団関東第二建設局上田工事事務所 1989 『上信越自動車道 更埴地区第二次土質調査報告書』日本物理探査株式会社
日本の地質『中部地方I』編集委員会 1988 『中部地方I』共立出版
更埴市史編纂委員会 1994 『更埴市史 第1巻 古代・中世編』
④長野県埋蔵文化財センター 1992 『長野県埋蔵文化財センター 年報』8
④長野県埋蔵文化財センター 1993 『長野県埋蔵文化財センター 年報』9
④長野県埋蔵文化財センター 1994 『長野県埋蔵文化財センター 年報』10
④長野県埋蔵文化財センター 1996 『長野県屋代遺跡群出土木簡』
④長野県埋蔵文化財センター 1998 『更埴条里遺跡・屋代遺跡群一弥生・古墳編一』
④長野県埋蔵文化財センター 1998 『新幹線 更埴条里遺跡・屋代遺跡群』
長野県教育委員会 1968 『地下に発見された更埴条里遺構の研究』



地質時代	層序	模式柱状図	層厚 (m)	岩相	考古時代	遺構・遺物	
第 四 紀	上 部 層	I	0.1~0.4 0~0.3 (~3.1)	灰褐色、砂質シルト層	現代		
	II			灰褐色、粘土質シルト層	中・近世	水田・畠・集落	
	III	2	0.1~0.5 (~1.6)	1は黒褐色、2はぶい黄褐色~灰黄褐色~灰褐色、細粒砂層	平安~中世	水田・畠・集落	
	中 部 層	IV	0.05~0.6 (~2.7)	IVは黒褐色~暗褐色~褐色、粘土質シルト Vは灰黄褐色~オリブ黒色、シルト混じり粘土層	飛鳥~平安	水田・畠・集落	
	VI		0.04~0.3	黒褐色、粘土質シルト層	弥生~古墳	水田・集落	
	VII		0.1~1.2	ぶい黄褐色~褐色、砂質シルト層	縄文晩期後葉	集落	
	VIII		0.1~0.3	黒褐色~暗褐色シルト層	縄文晩期中葉	集落	
	下 部 層	IX		ぶい黄褐色~黄褐色、シルト層、砂層を挟む	縄文後期後半	焼土跡・土器・石器	
	X		0.2~0.5	ぶい黄褐色~暗褐色、シルト層	縄文後期前半	焼土跡・土器・石器	
	XI		0.2~0.5	ぶい黄褐色~暗褐色、シルト~細粒砂層		焼土跡・土器・石器	
	部 層	XII	1 2 3	0.3~0.6	ぶい黄褐色、シルト層 黒褐色、シルト層 ぶい黄褐色、シルト層	縄文後期前半 縄文中期後葉	焼土跡・土器・石器 集落
	XIII	1 2 3	0.5~0.8	暗褐色、シルト層 灰褐色~ぶい黄褐色、シルト層 灰黄褐色~暗オリブ褐色、シルト層	縄文中期中葉	焼土跡・土器・石器 集落	
	XIV	1 2 3	0.7~0.9	暗灰黄褐色、シルト層 オリブ黒色、シルト層、砂層を挟む ぶい黄褐色~暗灰黄褐色、シルト層	縄文中期前葉	集落 焼土跡・土器・石器	
	XV		0.2~0.5	暗オリブ褐色~灰色、シルト層		焼土跡・土器・石器	
	XVI		0.6	黒~灰色、シルト層	縄文前期後葉	焼土跡・土器・石器	
	XVII		0.6	黒~灰色、シルト層、しまりよい			
	XVIII		0.9	オリブ黒~灰色シルト層、しまりよい			
	XIX		0.4以上	オリブ黒色、シルト層、しまりよい			
	更 新 世	返町層		14.7 ~ 17.6	砂礫層 砂主体 (BKS) 礫主体 (BYS)		
七ツ石層			28.3以上	有機質粘土層			

図6 総合柱状図 (『古代1編』を改訂)

3 調査対象となった層序

(1) 層名

屋代層（I～XIX層） 屋代層のうち、発掘調査の手が届いた層までをI～XIX層に区分した。XVII・XIX層を除く各層からは、遺物や遺構が確認されており、人々の営みの痕跡が刻まれている。

層名の統一 更埴条里遺跡から屋代遺跡群・窪河原遺跡を同一テーブル上で論じるため、層名の統一を行った。全遺跡を通じて統一名称としたのは、ローマ数字で表示したI～XIXである。主に砂層などの層理面を基準とした。また、明確に黒色化した層とその下部の黄褐色層をセットとして捉え、分層を行った。

報告書刊行にあたって検討し直したVII層以下の層名は、遺構・遺物が各層位から検出された屋代遺跡群⑤・⑥区を基準とした。そのため、更埴条里遺跡側のXII層以下で対応関係が不明な地点がある。また、VIII層については、更埴条里遺跡を基準とし、屋代遺跡群の層名（旧IX-1層）を変更した。

窪河原遺跡については、縄文時代以降の河川によって包含層が削平されており、本編では報告の対象外となる。

調査区が広範囲におよんだため、堆積状況は地点毎に異なる場合が認められた。そのため、層の細分は各地点毎に行い、それぞれの地区名と層番号を統一層名の後に記した。例えば、IX層のうち、屋代遺跡群⑤区（Y5）で認められた5枚目の層はIX-Y5-5層とした。この細別番号は、あくまで該当地区内での分層名であって、他地区のIX-5層とは一致するとは限らない。また、ローマ字表記の層についても対応関係が不明確な地点については、トレンチ毎に上位から算用数字のみで表記した（図版2 深掘りトレンチなど）。

(2) VII～XIX層の特徴

ここでは、各層の特徴や起伏の状況、遺構・遺物との関係などについて、下層から順に概要を記す。各層の詳細な記載は図版2・3を参照いただきたい。

XVII～XIX層 XVII層以下まで到達したのは、屋代遺跡群⑤b・⑥b区のトレンチのみである。屋代遺跡群②b区以南の深掘りトレンチでは、深度は達しているが前者の層との対応関係をつかむことができなかった。

これらの層位は、地下水の影響を受け色調が安定していない。また、上層の加重によってしまりがつよく、XIX層に至っては重機の歯が立たないほど硬化していた。砂～シルト質で、黒色化した層と灰褐色層が互層となる。XVIII-1層から石器が1点出土した。

XVI層 屋代遺跡群⑤～⑥区で確認し、遺物が出土した⑥b区で平面調査を行った。

シルトに細砂が混じる。下層に比べしまりは弱くなってきている。屋代遺跡群⑤区よりも⑥区がやや高まっており、その地点で前期後半の遺物が認められた。

XV層 屋代遺跡群④区～⑥区で平面検出を行った。シルトが主体となる。屋代遺跡群⑥区が微高地化しており、ここを中心に中期前葉1期の遺構が集中する。

XIV層 屋代遺跡群④～⑥区で本格的な調査を実施した。屋代遺跡群③区以南のトレンチでは、対応する層を特定できなかった。北寄りの⑤・⑥区では頻繁に砂の堆積が見られる。1a層、1c層、2b層、3a～e層は砂層で、これにより⑥区の微高地が周囲との比高差を増してゆく。砂の堆積が落ち着く1b層形成期には、この微高地上に中期前葉2期の集落が営まれる。また、各砂層上面には焼土跡などが存在している。

XIII層 屋代遺跡群④～⑥区。③区以南は対応関係が不明確である。層理面に薄い砂層が見られる場合があるが、一般的にはシルト～粘土が主体となり、XIV層とは堆積環境が変化したと考えられる。XIV層で形成された起伏は解消する方向で堆積が進む。屋代遺跡群⑥区を中心とした微高地上に中期中葉II期から

中期後葉Ⅰ期の集落や遺構が展開する。XIII-1層上面とXIII-2層上面の最低2回は、地表化したと考えられるが、時期差は明確ではない。

XII-2・3層 屋代遺跡群⑥区から更埴条里遺跡Ⅰ地区まで認められる。シルト～粘土質の層である。XII-2層は、遺物の出土した地点で明確に黒色化（土壌化）している。他の黒色化した層に比べ炭化物粒子を多く混入する傾向が認められる。この炭化物粒子の混入を層の対比に利用した。屋代遺跡群⑤・⑥区に中期後葉2～4期の集落が立地する。遺構埋土にはXII-2層が認められるが、古手の遺構では黒色化が進んでいない堆積土が認められた。前時期に比べ起伏が緩やかになったためか、若干南側へ集落が移る。また、屋代遺跡群③、④、更埴条里遺跡Ⅰ地区でも同一時期の土器片が出土した。

XII-1層 屋代遺跡群⑥区から更埴条里遺跡Ⅰ地区で確認されたシルトから粘土質の層である。XII-2層との境界が不明瞭な地点がある。屋代遺跡群④～⑥区で焼土跡が点在する。

X・XI層 XI層は屋代遺跡群⑥区から更埴条里遺跡Ⅰ地区の深掘りトレンチ内で確認された。X層については確定の難しい地点があるものの、ほぼ全地区に存在する。屋代遺跡群側ではXI層は砂層である。X層は、屋代遺跡群⑤～⑥区ではシルト質で、薄い砂層が数枚挟まる。また、⑤区南部から南へ行くに従って全体に砂質化する地点がある。更埴条里遺跡Ⅰ地区から南へ向かって傾斜が強まり、堆積状況がⅠ地区以北とは異なるようである。また、XI～IX層にかけては局地的な砂層が見られ、対応関係が明確ではない。更埴条里遺跡Ⅰ地区の山際では流路跡（図版2 12層以下）が確認された。X層で後期前半の堀之内Ⅱ式土器と焼土跡などが見つかっている。

IX層 屋代遺跡群⑥区から更埴条里遺跡Ⅰ地区のほぼ全域で確認された。X層に比べ全般に砂質になる。特に北へ行くに連れてその傾向が強くなり、屋代遺跡群⑤区以北では、薄い砂層が何枚も認められるようになる。砂層の間には地表となったと思われる黒色化層が存在するが、不明瞭である。更埴条里遺跡Ⅰ地区の流路は埋没し、同地点のIX層上部では後期中葉の加曾利Ⅱ式土器と焼土跡が見つかっている。

VIII層 屋代遺跡群⑥区から更埴条里遺跡Ⅰ地区の全域で確認できる。前後の層が褐色・砂質であるのに対し、全地点でシルト～粘土質となり、明瞭に黒色化する。極端な起伏は認められないが、微高地状となる更埴条里遺跡Ⅰ地区、Ⅰ～Ⅳ地区、屋代遺跡群⑤区などに、晩期前半の焼土跡や遺物集中地点などが点在する。

VII層 屋代遺跡群⑥区から更埴条里遺跡Ⅰ地区に見られる。再び砂の堆積が活発化し、IX層に比べてもさらに粗粒である。北へ行くにつれてその傾向が強くなる点はIX層に類似する。堆積量も北ほど多く、自然堤防Ⅰ群を形づくっている。遺構・遺物はほとんど見られない。シルト質へ変化するVI層との境に弥生時代前期並行期・氷Ⅰ式土器の遺物集中や遺構が見られる。

(3) 地表面の安定期と不安定期

縄文時代に対応する層では、粗粒な砂が多く供給されて堆積が活発になり、微高地などの地形を形成する時期（地表面の不安定期）と、シルトや粘土が主体となり黒色化（土壌化）が進む時期（地表面の安定期）が認められる。XV層以下は明確ではないが、XIV層以降を見てゆくと、以下ようになる。

- ① 中期前葉・不安定期（XⅣ層） 屋代遺跡群⑤・⑥区微高地で比高差拡大する。堆積が一段落する中期中葉2期には微高地上に集落が立地する。
- ② 中期中葉～後期前葉Ⅰ・安定期（XIII～XII） 前時期に形成された起伏が、なだらかになってゆく傾向が認められる。集落が継続する。
- ③ 後期前葉・不安定期（XI層） 全域に砂が堆積する。
- ④ 後期前葉2・安定期（X層） 薄い砂層が自然堤防側で認められるが、比較的安定しており、広範

囲に焼土跡などが点在する。

- ⑤ 後期中葉～後葉・不安定期 (IX層) 全域にシルト～砂が堆積する。島状の微高地が形成される。
- ⑥ 晩期前半・安定期 (VIII層) 前時期に形成された微高地上に、焼土跡や建物跡が立地する。
- ⑦ 晩期後半・不安定期 (VII層) IX層よりも粗い砂が堆積する。北で厚く、南に行くにしたがって堆積量が減少し、自然堤防I群と後背湿地I群がより明瞭となる。

このように、堆積速度が遅くなり、土壌化が進行する時期には集落や一時的な滞在・逗留地が多く見られる。また、屋代遺跡群⑤～⑥区の自然堤防は、XVI層(前期後半)段階には微高地化していた可能性がある。その後、多少の起伏の変化はあるものの微高地として継続しており、集落などに利用されていた。そして、現在見られるような自然堤防I群と後背湿地I群の関係を決定づけたのはVII層の堆積によるところが大きいと見られる。

4 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の環境変遷

(1) 検討会の設置

本報告書では、自然環境を含めた景観の復元を重視することとした。ただし、発掘調査時点では各地区の担当者の視点によって分析項目が設定され、委託先も複数に分散していた。今回、長大な調査地区を一冊にまとめるに編集方針を受け、改めて、全域を通した課題の設定と各種分析内容の総合化が必要となった。そのため、環境復元に関する指導をいただいていた辻誠一郎先生、各々の分析を担当していただいた方々、それに発掘調査担当者を加え「環境復元のための検討会」を設置した。

『縄文編』については、平成11年5月に編集・執筆に先だって検討会を行った。その後の調整等は編集担当者が行った(第9章)。また、弥生時代以降を含めた環境復元についての詳細は、『総論編』に記した。ここでは、更埴条里遺跡・屋代遺跡群の縄文時代を見るにあたり、概要を記すこととする。

(2) 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の環境変遷

パリノ・サーヴェイ株式会社

田中義文・辻本崇夫

更埴条里遺跡・屋代遺跡群の古環境変遷に関しては、環境復元検討会を中心に協議を重ねてきた。縄文時代の古環境については10章に詳述するが、ここでは全体を通した概略を述べる。

縄文時代の古環境 縄文時代は河川作用の影響が活発で、自然堤防I群が徐々に形成された時代である。自然堤防構成層は、後代になって好气的環境にさらされたため、花粉化石を中心に化石の保存状態が悪い。したがって、縄文時代の古植生に関する情報は、後背湿地にあたる更埴条里遺跡B地区の情報が中心となる。縄文時代の古植生は、クルミ属、ニレーケヤキ属、シテ類、ナラ類等の河畔林やヨシ属などの水生植物からなる湿地が発達していたと考えられる。また、自然堤防上ではタケ類やウシクサ属などからなる草地や河畔林が、低地ではヨシ属など水生植物主体の草地(湿地)が成立していたと考えられる。さらに、花粉化石群集では、モミ属・ツガ属など温帯針葉樹の増加傾向が見られた。これは、後背山地に温帯針葉樹林が増加したためとみられ、縄文時代の終末以降増加し、古代には特に顕著であり、全国的にも認められている。そのうち関東平野では、スギ、モミ属、ツガ属、アカガシ亜属の増加がみられることが多く、大阪平野ではモミ属、ツガ属の増加がみられることが多い。これは、「弥生の小海退」と呼ばれる環境変化で、海水準の低下や冷涼・多雨化などの気候変化が想定されている。また、北信地方ではこのような気候変化が、Fagus-Cryptomeia亜帯として、野尻湖底で認められている(那須, 野尻湖花粉グループ

1992)。なお、このような気候は自然堤防Ⅱ群の形成まで続いたと考えられる。

弥生時代～古墳時代の古環境 弥生時代～古墳時代は、自然堤防Ⅰ群の形成がほぼ終了して安定化し、主に後背湿地を中心に水田が営まれていた時期である。屋代遺跡群では、自然堤防Ⅰ群上に生育していた立木（カツラ、ケヤキ）を伐採して水田開発が行われたとみられる。このほか、木本花粉では、クルミ属、ニレーケヤキ属、シデ類、ナラ類等が検出されており、これらが、自然堤防上などに河畔林を形成していたと考えられる。また、イネ科を中心に草本花粉の割合が急増することから、草地の拡大が示唆される。これは、低地上の河畔林や林縁部の森林が、水田開発の為に縮小したことに起因すると考えられる。

古代の古環境 この時期には、水田開発が自然堤防Ⅰ群上にまで及び、更埴条里遺跡Ⅱ地区など高い場所に集落が作られるようになる。この時期の古植生は、弥生時代から引き続いて大きな変化はなく、遺跡周辺は開発の影響を受け、草本主体の植生であったと思われる。花粉分析や植物珪酸体分析の結果から、自然堤防Ⅰ群上ではタケ類やウシクサ属などからなる草地やクルミ、ナラ類などの河畔林が成立していたと考えられる。また、水田域ではヨシ属などの水生植物が、いわゆる「水田雑草」として生育していたと考えられる。一方、縄文時代終末から始まった冷涼・多雨な気候は古代まで続いており、モミ属・ツガ属などの温帯針葉樹が引き続き増加している。このような変化は自然堤防Ⅱ群の形成と連動しており、屋代遺跡群で千曲川の旧流路が確認されている。また、イネ、ソバ、オオムギ、マメ類などの栽培植物も検出されており、これらの栽培が示唆される。

中・近世の古環境 平安時代末には、遺跡全体を覆うような大洪水にみまわれたが、中世になると、自然堤防Ⅰ群の外側に作られた自然堤防Ⅱ群（窪河原遺跡）が安定化する。植生では、ワタ、ゴマなどの栽培植物の出現や、マツの二次林・植林の分布拡大などが顕著である。一方、水域環境の富栄養化が指摘されており、農耕技術の変化（施肥など）が示唆される。

引用文献

- 那須孝悌・野尻湖花粉グループ 1992 「野尻湖周辺における最終氷期の古植生の古気候変遷」『月刊地球 野尻湖周辺の自然史—最終氷期以降の古環境—』p.50-55, 海洋出版株式会社。



篠ノ井橋付近から見た千曲川

表4 更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡の土地利用変遷と古環境

層位	時代性	土地利用状況			地形・土地利用変遷の総括	古植生	
		後背湿地(更埴条里遺跡)	自然堤防Ⅰ群(屋代遺跡群)	自然堤防Ⅱ群(窪河原遺跡)		渡来種の出現時期	周辺植生
I	現代	水田、富栄養化	水田、畠、集落	畠		ワタ ゴマ	人間の植生干渉によるマツの増加
II	中世後半～近世	水田?、富栄養化	畑、高い場所に集落	畠(高まり)、水田(旧河道)	自然堤防上では集落域、後背湿地は水田域として利用される。窪河原遺跡がのる自然堤防Ⅱ群が安定化する。水田域での富栄養化		
III-1	平安後期～中世	水田?、富栄養化、K・J地区集落	畠、集落	畠(高まり)、水田(旧河道)			
III-2	平安(9世紀末)	洪水層	洪水層	洪水	洪水(888年)により、遺跡全体が砂に覆われる。		イネ科を中心とした草地の拡大
IV・V	飛鳥～平安時代	水田(A・B地区は泥炭地)、K地区集落	水田、集落	旧河道	自然堤防上まで条里水田が広がる。自然堤防のなかでも高い部分に集落が存在。窪河原遺跡は河川の影響を強く受ける。やや大規模な洪水が起きた形跡もあるが、耕作等の影響で堆積層では不明瞭。	マメ類 オオムギ ソバ	渡来種の出現 モミ属・ツガ属などの分布拡大
VI	古墳～弥生時代	水田、K地区集落?	水田、高い場所に集落	不明	自然堤防上の森林を伐採した痕跡が認められ、水田の拡大が示唆される。弥生時代中期以降、自然堤防上などで新たな水路がつけられる。自然堤防上は集落、後背湿地は水田として利用され、現在みられる自然堤防Ⅰ群と後背湿地が安定化する。	モモ イネ	
VII	縄文時代晩期	生活痕跡あり	生活痕跡あり		前半にやや安定するが、後半は河川作用が活発になり、大規模な洪水がたびたび起こる。洪水の合間に生活の痕跡が認められる。		クルミ属、ニレ属-ケヤキ属、シダ類、ナラ類など河畔林の発達
VIII	縄文時代晩期前半	集落?、焼土跡、建物	生活痕跡あり				ヨシ属を中心とする、草本類主体の温帯植生の発達
IX	縄文時代後期中葉以降	生活痕跡あり	生活痕跡あり				
X	縄文時代後期前葉	生活痕跡あり	生活痕跡あり		河川の作用が活発になり、微高地上の集落は不安定。大規模な洪水もたびたび起こる。		
XI	縄文時代後期前葉	生活痕跡あり	生活痕跡あり				
XII-1	縄文時代後期前葉	生活痕跡あり	生活痕跡あり				
XII-2	縄文時代中期後葉	生活痕跡あり	高い地点に集落、他地点にも遺物		流路が安定し、自然堤防が固定化される。自然堤防上に集落が営まれる。		
XIII	縄文時代中期中葉	—	高い地点に集落				
XIV	縄文時代中期前葉	—	高い地点に集落				
XV	縄文時代中期前葉	—	生活痕跡あり				
XVI	縄文時代前期後葉	不明	生活痕跡あり		氾濫源上の微高地として徐々に安定化して行く。		
XVII	縄文時代前期						
XVIII	不明						
XIX	不明						

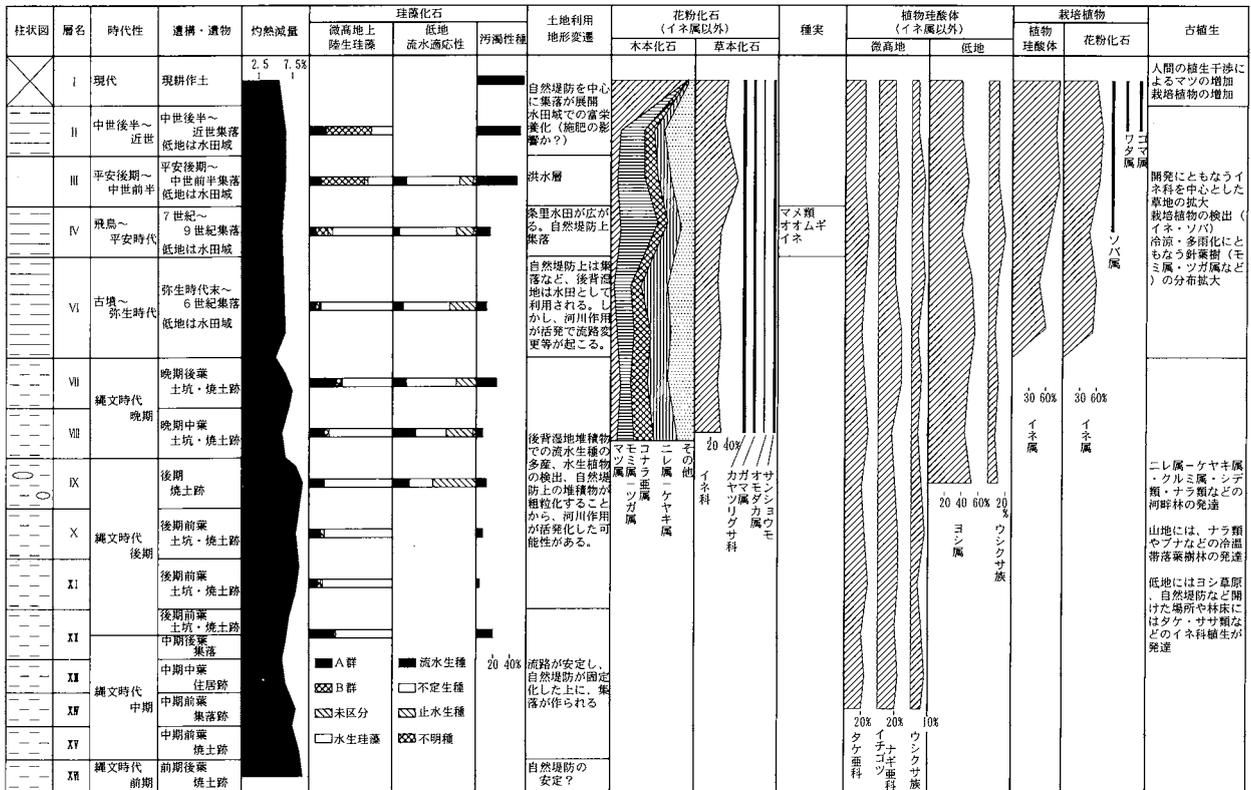


図7 総合柱状図に基づく更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡の古環境変遷

第4節 調査・整理の経過

1 調査の経緯

調査期間と調査体制 屋代遺跡群および更埴条里遺跡は、上信越自動車道の供用開始期間と工事期間との兼ね合いから、発掘調査期間が平成3年度から平成6年度の4年間に限定されていた。ところが上信越自動車道用地の2.3kmの区間はほぼ全域が調査対象となっている上、沖積地であるため、遺構が地下深く重層的に存在することが予想できた。そこで遺構の内容に見合った調査の遂行、すなわち全面を同一の高精度で調査することを断念し、調査班を複数作り、大量の調査研究員・作業員を同時に導入することでこの難局を乗り切るようになった。調査が進む中で、縄文時代の面が続々と発見されることになり、さらに様々な取捨選択を行いながら調査を進めた。

更埴条里遺跡の縄文後期面発見 更埴条里遺跡では初年度の調査でIX層上面よりやや下から加曽利B式土器が、VIII層から晩期の土器・石器が検出されたため、これらの面を広く精査して調査を終了した。ところが調査2年目の平成4年度に、J地区の外周トレンチの西壁でIX層上面よりも下の層から土坑状の落ち込みが検出された。そこで地表下4～8m付近までトレンチを入れたところX層・XI層・XII層が確認できたため、遺構が見つかった部分を拡大しながら精査するという方法に転換した。次年度はこれらの成果を受けて調査を進め、後期に遡る焼土跡・土坑を多数検出した。さらに高橋学氏に土層断面の科学的な解析を依頼したところ、IX層以下にいくつかの地表面が認定され、これらの成果が裏付けられた。

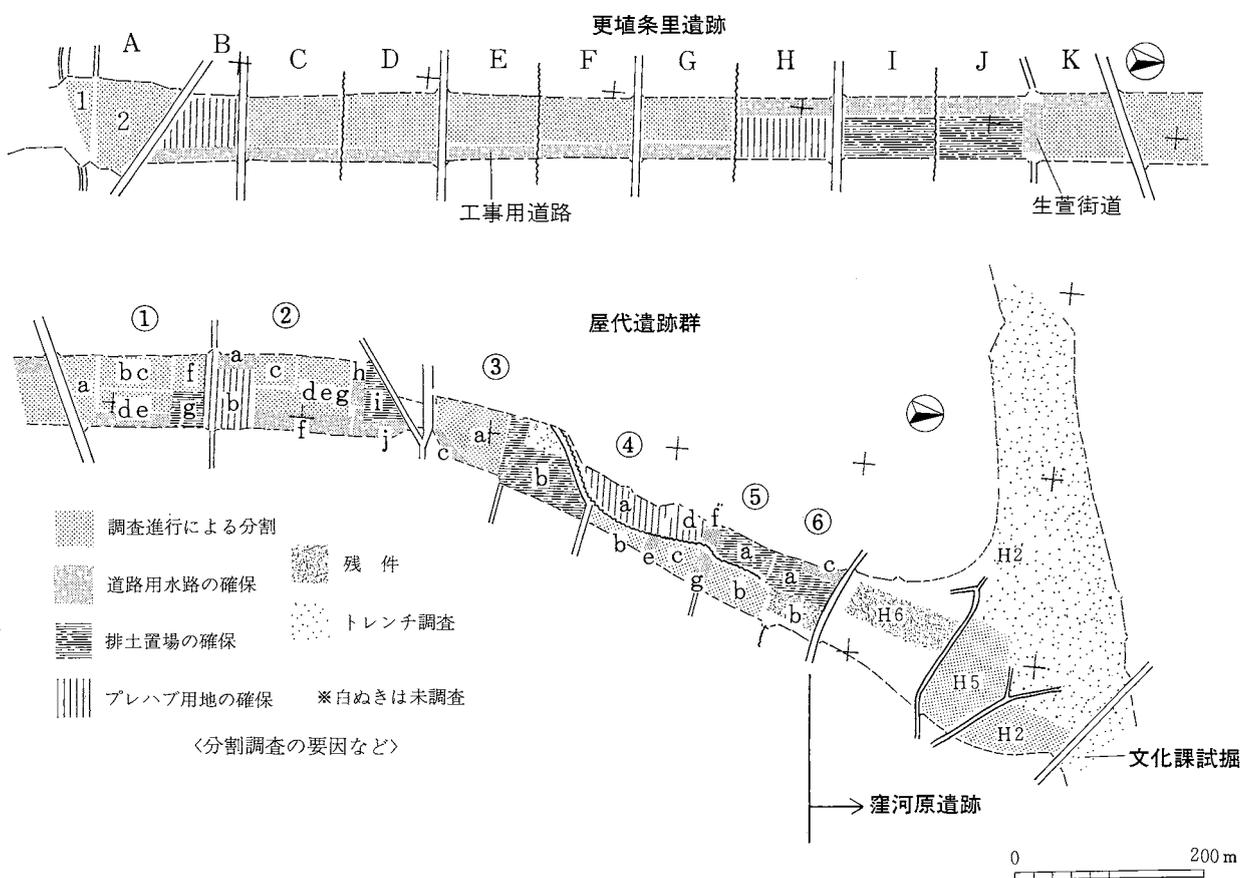


図8 仮地区名と分割調査

屋代遺跡群の縄文中期後葉面発見 平成4年度、屋代遺跡群⑤b区では古代～弥生面の迅速な調査遂行のため、10月になって調査研究員・作業員の大量動員が行われ、狭い調査区に過剰の調査人口を抱える状況になった。特に12月に入って霜や雪によってさらに難しくなった遺構検出に調査研究員が専従している間、調査区最西部の深さ2.5mを越える中世の溝の底部に作業員が集中した。そのような中で、12月3日の午後、この溝の底部付近を精査していた作業員が多数の摩耗のない縄文土器を発見した。そこで調査区南側に幅2mのトレンチを設定し、地表下3.5mまでを重機で掘削したところ、唐草文系土器や圧痕隆帯土器が面的に多量に出土し、縄文中期後葉の包含層がかなりの広がりをもって存在することが明らかになった。このような経緯から、平成5年度には調査チームを組み直して縄文面の調査を本格的に行うことになったのである。

2 調査の経過と目的

(1) 調査の手順

調査の手引き 調査の手順、地区設定、遺跡・遺構記号などは、長野県埋蔵文化財センター『発掘調査の手引き』に則って進めた。ただし、既存の2mグリッドの下に特別に1mグリッドを設定し(図版1-c)、更に細かな遺物の取り上げを心がけた。

基本的な調査進行 基本的な調査の進め方は次の通りである。

止水用矢板の設置 → 排水溝を兼ねた調査区外周トレンチの掘削 → トレンチ断面での遺構検出面・遺物包含層の確認 → 重機による調査面までの剥ぎ → 測量基準点の設定・遺構検出作業 → 遺構掘り下げ → 遺構の図化・写真 → 航空写真・測量 → 次の調査面まで重機による剥ぎ

更に、時間短縮のため、重機等の機械力や航空測量・航空撮影、8mmビデオカメラを多用した。

(2) 調査の経過

ここでは概略を記し、詳細については『総論編』を参照していただきたい。

平成3年度の調査 更埴条里遺跡でIX層上面までの縄文晩期面の調査。

平成4年度の調査 更埴条里遺跡でIX層以下の縄文後期面の発見とトレンチ調査ほか。

平成5年度の調査 更埴条里遺跡IX層～XII層の部分調査と屋代遺跡群縄文面主要部分の調査。特に地表下4mに集落主体部を抱える屋代遺跡群⑤b区では、外周トレンチと排水ポンプを用いて排水に努めた。それでも廃土道の確保のため外周トレンチが設定できなかった調査区北側では常に水の沸きに悩まされ、さらに地表下6mの縄文中期前葉面に至っては住居の床が常に水で覆われ、手探りで柱穴を探すような場面も見られた。

平成6年度の調査 屋代遺跡群では当初最北部縄文面残件の調査を予定していたが、「屋代木簡」を含む大量の木製品が出土し始め、精緻な調査に主要調査研究員が専従せざるを得なくなった。しかしながら冬季オリンピックに向けた高速道の工期の延長は不可能であったため、整理課調査研究員2名、さらに文化課専門主事4名、県立歴史館からも1名の応援を受け、12月下旬にすべての調査を終了させた。

(3) 屋代遺跡群調査上の取捨選択

本来地表下4m以下に温存された遺構検出面から期待された成果には多大なものがあったが、前述した工期の都合上、以下のように情報の取捨選択を行った。

調査・記録を優先した事項 a 住居跡内出土遺物の原位置の記録^(註1) (H5年度)、b 動植物遺体の検出を目的とした遺構内外での土壌サンプリング (H5年度)、c 集落以外のVII～XIX層間の地表面の確認と遺

構・遺物の検出（H6年度）

調査・記録を断念した事項 a 集落以外のVII～XIX層間の地表面や遺構・遺物の確認（H5年度）、b 当時の地表面より上方向に突出した盛土などの遺構の確認と精査（H5・6年度）、c 遺構の厳密な分層調査（H5年度のみ部分的に行う）、d 遺構間の調査・記録精度の統一（H5・6年度）

3 整理の概要（表5）

(1) 整理の経過

屋代木簡の優先 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の整理作業は、平成7年度から上田調査事務所で実施された。しかしながら平成9年度までは、『屋代木簡』の整理・報告とその前後の時期の報告書作成に担当調査研究員や作業員が優先的に従事したため、縄文編のための本格的な整理作業体制が組まれたのは平成10年度からの2年間である。遺物の洗浄・注記は他時期の遺物とともに、これに先立って行われたため、現場で仮につけられた名称や担当者間の名称不統一がそのまま注記に反映された。また、獣骨・人骨の保存処理と整理は平成6～8年度間に先行して行われた。

平成10年度の整理 本遺跡における縄文時代の出土遺物はコンテナにして3006箱、土嚢袋300個である。平成10年度は、中期中葉以前の土器（約300箱）の接合・集計作業が調査研究員1名と作業員^(注2)5名、それ以外の全遺物（約2700箱）の本格的な整理が調査研究員1名と作業員17名で開始された。後者は、具体的には、a 縄文中期後葉から縄文晩期までの全遺物の接合・掲載土器の抽出・集計・復元・実測・図版用写真撮影、b 全遺構の下図作成、遺構属性表作成、全体図作成、c 礫石器の仮分類と剥片石器の抽出・実測委託である。土壌洗浄と種実・魚骨、その他の分類と拾い出しは、他時期の遺物とともに調査研究員1名と作業員4名で、剥片石器の分類は川崎調査研究員の協力を得て約2ヶ月間実施された。

上田整理棟の閉鎖 平成10年度2月末からは上田整理棟閉鎖に伴う引っ越しが始まり、ようやくまとまり始めた遺物・記録類が散逸した。特にこれと前後して引っ越し先の篠ノ井整理棟では更埴条里遺跡・屋代遺跡群の縄文時代の全遺物の収納は困難であることが判明した。この時点で、石器（約1200箱）のうち、遺物包含層の石器（全体の約4割）を報告書に掲載しないこととし、洗浄・注記と個体数の計上以外は未検討の状態歴史館に収納することにした。今後これらの基礎整理が必要となろう。

平成11年度の整理 調査研究員2名と、全交替した作業員14名で行われたが、引っ越しで散逸した記録類を収集・再配置などをするだけで5月を迎えた。縄文中期中葉以前に関しては、本格的な整理作業を開始し、土器は接合の続きと、復元、実測、トレース、写真撮影、遺構の図化とトレース、版組作業を行った。縄文中期後葉以降分は、土器の実測原図の修正とトレース委託、偏光顕微鏡を用いての胎土分析などと、遺構図のトレースと版組、それらに関する原稿の執筆作業を行った。石器は前年写実測したものの修正と追加分の実測、手元に残った遺構出土分に限って集計作業および統計処理を行った。

(2) 報告の方針

平成10年度は、1年というごく限られた時間内で迅速に土器の接合から図化を行うため、「接合のランク分け」と「写実測」を採用した。また、平成11年度は「分層・点取り調査の成果の図化」と「遺物の観察記録」を中心に据えて報告書の編集を行うこととした。

接合のランク分け 遺物の接合は、遺物の形態を正しく掴む目的の他に、その遺物の廃棄された遺構間の時期関係を捉えられるという利点がある。そこで主体を占める中期後葉の土器は、住居跡内出土分に限って、同時に遺物を開くことのできた隣接する遺構での遺構間接合を半日程度試みたが、住居跡以外の遺構は遺構内接合に止めた。また遺物包含層出土土器は接合自体を断念し、全体の破片数の集計と概要の把

握、掲載遺物の抽出に止めることで約500箱の整理期間を1ヶ月半に短縮した。今回、成果が上がったのは終盤の短期にとどまったが、今後かなりの数の遺構間接合が期待される。

写真を用いての実測 縄文土器実測が未経験の作業員が短期間にできる限り多くの実測点数を確保するために迅速にして簡便な方法が期待された。そのためシン技術コンサルに土器の立面写真を依頼し、納品された等倍の写真を整理事業員が鉛筆トレースする方法を採用した。整理期間終盤には縄を書き込む時間の短縮のため、縄部分を拓本に代えた。これによって8ヶ月で約600点の下図を完成した。礫石器も同様にして実測図を作成し、平成11年度に補足修正した。

分層・点取り調査の成果の図化 現場での現位置の記録を報告書に反映するために、可能な限り多くの遺物の原位置表示を行った。特に廃棄の同時性を反映する一括資料を提示するために層毎の出土状況の図化に努めた。また、鑑定を依頼した骨・炭化材は、遺構図内に原位置を記載した。

遺物の観察記録 全遺構と掲載遺物全点の属性表を作成し、図のみでは表現しきれない諸属性が明確化されるよう努めた。また、遺物量が膨大であるのに対し、掲載遺物が極めて限定されるため、掲載から漏れたものも含めた全遺物の全体量（重量もしくは点数）を遺構、包含層グリッド単位で完全表示した。

註

- 1 時間的な制約から、遺物を層とは無関係に取り上げてしまい後から中央ベルトで分層を行うような、遺憾なケースも生じてしまった。
- 2 調査・整理に携わった作業員名は、全て『更埴条里遺跡・屋代遺跡群—総論編一』に掲載した。

表5 整理経過と更埴条里遺跡・屋代遺跡群遺物量一覧表

整理経過

年 度	H 7・8	H 9 5・6月のみ	H 10	H 11
担当調査研究員	(骨関係保存処理) 相沢 (遺物洗浄・注記) 鳥羽・平出	水沢	(中葉以前)寺内(後葉以降)水沢 (土壌洗浄と分類) 平出	(中葉以前)寺内(後葉以降)水沢
整理事業員	15	13	26	4 10
作業内容	獣・人骨保存処理と台帳 遺物洗浄・注記	土器接合準備	土器接合・復元・実測・拓本・ 石器実測委託・遺構図修正	遺物実測・トレース 遺構図版作成・トレース 写真撮影・集計・執筆など

更埴条里遺跡・屋代遺跡群遺物量と掲載数

検出層	掲載数	テンバコ数		土器重量(g)		石器・石数(個)		土器掲載数(点)		石器掲載数(点)	
		土器・土製品	石・石器・土	遺構	包含層	遺構	包含層	遺構	包含層	遺構	包含層
XⅧ・XⅥ層	2	1	1	0	960	0	2	0	10	0	1
XⅤ・XⅣ層	3	279	130	105847	687679	1068	3095	522	559	75	7
XⅢ層	4	6	16	3750	3267	35	289	3	25	8	0
XⅡ-2層	5	1389	1097	3232195	2717434	19594	10401	1683	59	447	6
XⅡ-1・XⅠ・X層	6	61	1	46374	43914	4	0	20	35	8	2
Ⅸ層	7	3	1	1049	1082	25	4	2	5	0	0
Ⅸ層上・Ⅷ層	8	12	9	36729	30569	143	303	38	65	1	18
合計		1751	1255	3425944	3484905	20869	14094	2268	748	539	34

第2章 縄文時代前期 (XVIII・XVI層検出) の遺構と遺物

第1節 概観

本章では、XVI層以下の層位で検出された遺構・遺物、および他層位(古代)に混入していた縄文時代前期の遺物を掲載する。

XVI層以下については、地表からの深度が6 m以上に達する。そのため、安全確保が難しい点や、ボックス工事部分以外では遺構面が今後カクランされないと判断し、原則的には包含層確認のためのトレンチ調査とした。トレンチを設定した場所は、微高地上にあたる屋代遺跡群⑤、⑥区である(図版4)。

⑥区については、SB9009直下のXVI層でまとまった量の土器片が出土したことを受けて、⑥b区の一部で平面精査、および検出遺構の調査を行った。また、⑥a区については、調査研究員1名と重機だけによる平面検出を行った。後者については遺構・遺物ともに確認されなかった。

包含層より出土した遺物は以下の通りである。

XVIII-1層 台石1点(時期不明)

XVI-1～2層 焼土跡、前期後半(下島式土器)ほか

また、上記の包含層を切り込んだ古代の東西流路中より、前期前半に属する土器が数点出土している。

第2節 遺構 (XVI-2層上面検出)

1 概要

屋代遺跡群⑥区はこの時期すでに微高地化しており、遺構・遺物が出土している。調査区内では焼土跡1基が確認され、土器片が数点出土するにとどまった。遺構・遺物は⑥b区東寄りに偏っており、調査区外に集落が存在していた可能性も充分考えられる。

また、④a区西側(大境遺跡)では、止水用矢板の打設時に、数mの範囲において地表下7～8 mで礫にあたる地点が存在した。④a区東側では存在しておらず、また、オペレーターからは砂礫層ではないとの証言も得ている。シルト層中の数m間のみ大型の礫が点在していたとすると、何らかの遺構が存在した可能性も否定できない。深さはほぼ縄文時代前期に相当する。善光寺平では近年、沖積地の深部で縄文時代前期の集落や包含層があいついで発見されており、屋代遺跡群においても縄文時代前期の集落が存在していた可能性がある。今後の調査に期待したい。

検出遺構、遺物がわずかであったことから、遺構図はXVIII層～XVI層の調査区設定図と検出遺構分布図のみを図版4に掲載した。

2 焼土跡（SF）（図版4）

I I25区で1基（SF9143）確認された。規模は1.7×0.62m、深さ0.15mを測る。焼土・炭化物粒の集中が見られるが、明確な火床はない。西側2.5mほど離れて獣骨片が1点検出された（鑑定不可）。

3 その他（ピット）（図版4）

ピットが20基検出されたが、2基から出土した土器は中期前葉に属し、他の2基では、XIV層検出住居床下に特有の集礫土坑と同様の特徴を示した。このことから、ピットのほとんどは上層遺構に伴うものと考えられる。

第3節 遺物

1 土器

(1) 前期前半の土器（図版184）

いずれも、屋代遺跡群⑥区の古代の流路中に混入していた資料である。付加縄文が施されており、胎土中に繊維は含んでいない（B. 1～3）。残念ながら、縄文時代の包含層中からの出土はなかった。しかし、XVII層以下にも黒色化した層が存在している。特に、XVIII層からは台石が1点出土しており、縄文時代前期前半の包含層に当たる可能性がある。

(2) 前期後半の土器（図版184）

C. 1～6はXVI層中より出土した。SB9009直下から出土した1～3は同一個体と考えられる。7は古代の流路（SD7045）より出土した。装飾は、浅く雑な施文によるもの（1～3、5）と、深い半截竹管によるもの（4、6、7）とがある。いずれも前期後半、諸磯c式土器並行期の土器（下鳥式土器）と見られ、1～3、5、6よりも4・7が新しい段階と考えられる。

2 石器（図版184）

XVIII層 XVIII-1層中より台石1点が出土した。表裏面とも部分的に明瞭な磨痕が見られ、中央に敲きによる凹みがある。伴出土器は存在しないが、形態的に前期に属する資料と考えられる。

XVI層以下 黒曜石の剥片2点が出土したが、細別層位ははっきりとしない。

第3章 縄文時代中期前葉(XV・XIV層検出)の遺構と遺物

第1節 概観

本章では、XV・XIV層で検出された縄文時代中期前葉の遺構と遺物を掲載する。

調査経過と範囲 平成5(1993)年度調査中、排水と土層確認を兼用して設定した屋代遺跡群⑤b区外周トレンチにおいて、縄文中期後葉面(XIII-2層)下約1mの地点で土器が出土した。そのため、遺物の広がりや遺構の有無を確認するため、⑤b区北部でXIV層上面の遺構確認調査を行った。複数の落ち込み(竪穴住居跡)が認められた時点で、本調査の実施を決め、屋代遺跡群④c~⑥区についてはXV層までの全面調査を実施した。④c区では遺物量が激減したため、それ以南の地区については、トレンチによって遺物・遺構の有無と対応層の確認のみを行った。

周堤の残存した竪穴住居の調査方法 XIV層以下の調査については、毎年調査の最終段階に行われたため時間的な制約を直接受けることとなった。特に、平成6(1994)年度調査においては木簡や多量の木製品の取り上げに時間を割いたため、全体計画に遅れが生じた。そのためXIV層以下については調査方法を厳選せざるを得なかった(『総論編』)。ここでは重要資料として注目される竪穴住居周堤に代表させて、簡略化した調査方法を述べておく。

竪穴住居周堤については、平成5(1993)年度調査段階では、水処理が充分でないなどの悪条件があり不明確であった。平成6(1994)年度調査では、XIV-1層上面までの重機による掘削時にドーナツ状の高まりが確認された。しかし、調査期限が迫る中、先行トレンチによって確認された床面までの土量(SB9009)が多いこと、あるいは増具体制の中、XIV層特有の土質判別に慣れるまでに時間を要すること、などを考慮し、断面観察のみの調査にすることを即断した。そして、再度、周堤を取り崩し重機による平面的な土剥ぎを行った。SB7502に関しては、南半分の掘削後、⑥区古代溝内の調査との関係で、調査員1名に半日弱の猶予が生まれたため、急遽北半分だけの周堤検出を実施し、さらに周堤を精査・掘り下げを行いピットの検出に努めた。そのため、周堤の平面形の図化はSB7502北半部のみである。また、断面図については、調査区壁面にかかったSB7501、SB9009ほかで図化した。

細別層位と遺構検出面 XV層は上下2層に細分され、主にXV-1層上面から下面にかけて遺構が検出された。中期前葉1期(五領ヶ台I式並行期)の土器が出土した上面検出遺構と、下面検出遺構との時期差は不明である。XIV層では、XIV-3層上面(砂層上)、XIV-2層上面(シルト上)、XIV-1c層上面(砂層上)、XIV-1b層上面(シルト上)、XIV-1a層上面(砂層上)の各層理面で遺構が確認された。特に、XIV-1c~XIV-2層上面にかけては竪穴住居跡などの多数の遺構が検出された。XIV-1a層上面で検出した旧SB7500(SQ7003の一部)など、XIII層の遺構として調査した例があるが、遺物出土状況の検討などからXIV層の遺構・遺物として報告した。XIV層から出土した土器は、五領ヶ台II式から直後型式に並行する土器群であり、中期前葉2期として報告を行う。

また、層位の詳細については第1章第3節(図版2.3)を参考にしていきたい。

検出遺構数および遺物出土状況 検出された遺構と遺物は以下の通りである。

XV-1層…土坑12基（うち人骨を伴う墓坑1基）、焼土跡23ヶ所。遺構伴出遺物は少なく、⑤・⑥区西側を中心に土器・赤色顔料の付着した石皿などが散在していた。

XIV-3層上面…土坑11基、焼土跡21ヶ所。少量の遺物が出土した。

XIV-2層上面…土坑14基、焼土跡34ヶ所。少量の遺物が出土した。ただし、調査の進行上、XIV-1層で検出すべき遺構（主に土坑）を、この面で検出した例が含まれている。

XIV-1層…竪穴住居跡22軒、土坑40基、廃屋利用の墓6ヶ所（9体以上）、焼土跡25ヶ所、遺物集中箇所2ヶ所。遺物は竪穴住居跡凹地や遺物集中地点に集中して出土した。

遺物 XIV-1b層を中心に出土した。XV～XIV層で42,143点、土器793,526g、土器片製円盤117点、土偶29点（接合後26点）、石器7,913点、獣骨などが出土した。

遺構・遺物掲載方法 遺構については、竪穴住居跡は原則として1/60個別図・遺物分布図を作成し、炉については1/30図を付した。土坑・焼土跡などは各層位毎に代表的な例のみ個別図（1/40～1/60）を作成し、その他については遺構分布図（1/500）、あるいはXIV-1・2層遺構割付図（1/120）に掲載した。

遺物図は、土器については各遺構やグリッドの全点に目を通した後、復元可能な資料を優先し、また系統毎の量比を勘案して代表的な例を掲載した。石器は各器種の代表例のみを掲載した。出土点数などは表に掲載した。

第2節 XV層検出遺構と遺物

1 XV層検出遺構と遺物出土状況

(1) 概観

屋代遺跡群④a区北部深堀り調査区以北で平面精査を行った（図版4-4）。遺物が出土したのは⑤区中央部より北であり、焼土跡などの遺構もこの地区に集中する。土坑11基、焼土跡21基が検出されており、土坑のうちSK6916からは埋葬人骨が見つまっている。墓坑が認められる点は、調査区外に建物を伴う集落の中心部分が存在していた可能性を示唆している。遺構の分布状況から見ると調査区西側が有力である。

遺構は代表的な例についてのみ個別図を掲載し、その他は1/500図遺構分布図のみである。記載も主要な例のみとし、その他は表に示した（表6.7）。

(2) 土坑（SK）（図版7、表6）

11例検出したが、明確な形状と掘り込みを持つ例はほとんどなく、性格も不明なものが多い。個々の属性は表6に記し、個別図は代表的な例について図版7に掲載した。

集礫土坑 XV層上面で検出した土坑のうち集礫土坑とした例は、すべて竪穴住居の直下に位置しており、竪穴住居の床下施設として検出した例も存在する。類例がなく断定はできないが、一応床下施設としてとらえXIV層竪穴住居跡の項で説明を加える。

焼土・炭化物混入土坑 SK9124埋土中には炭化物や焼土粒が比較的多く混入していた。SF9137に近接しているが、関連性は不明である。

墓坑 SK6916から埋葬人骨1体が検出された。保存状態が悪く取り上げ後風化し、形質人類学的な調

査はできなかった。取り上げ時の平面図で見ると、東に頭部を置いていたと推定され、右上腕と尺骨・桡骨、左大腿骨らしき残片が見られる。いずれも鑑定を受けていないため確定はできていない。

(3) 焼土跡 (SF) (図版7、表7)

21例検出した。径20～30cmほどの火床面を有し、炭化物や灰が火床上部や周囲に広がる例を基本とする。個々の属性は表7に記し、代表的な例について個別図を図版7に掲載した。伴出遺物は皆無に等しく、SF5200からわずかに数片の焼骨が見つまっている。

SF5205には隣接して炭化物が多量に出土し、ピットが3基集中して見つまっている。関連性については不明である。

表6 屋代遺跡群XV層検出土坑(SK)一覧

遺構名	旧遺構名	検出層位・面	仮地区	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	堆積状況	遺物	遺物図	備考
SK6902		XV	5a	I	R4	-	楕円形	-	0.52	0.44	0.16	-	-	-			
SK6907		XV1 上面	5a	I	M15	-	(円形)	C	-	0.72	(0.22)	灰	5Y4/1	炭化物粒混入			
SK6908		XV1 上面	5a	I	M10	-	不整楕円形	C	0.82	-	0.46	灰	5Y4/1	炭化物粒混入			
SK6909		XV1 中	5a	I	N6	-	隅円方形	G	0.72	0.64	0.24	黄灰	2.5Y4/1	XV層より粘性有			
SK6910		XV1 中	5a	I	N6	-	(不整形)	-	-	(1.08)	(0.44)	黄灰	2.5Y4/1	XV層より粘性有			
SK6911		XV1 ~2上	5a	I	N6	-	(隅円方形)	A	-	(0.84)	(0.20)	にふい黄褐	10YR4/3	炭化物粒微混入			
SK6912		XV2 a上面	5a	I	M15, N11	-	(長楕円形)	A	3.12	-	0.24	にふい黄褐	10YR4/3	XIV-3層とXV層土が4:1程度に混入			
SK6914		XV2 a上面	5a	I	M10	-	楕円形	C	0.82	0.54	0.24	灰黄褐	10YR4/2	炭化物粒微混入			
SK6915		XV2 b上面	5a	I	M10	-		A	-	(0.48)	-	灰	5Y4/1	上層に炭化物粒微混入			
SK6916		XV2 b上面	5a	I	M9, 14	7	楕円形	-	-	(2.38)	-	-	-	-	石器A2点		
SK7673		XV2 上面	6a	I	N6	-	(円形)	-	0.32	-	-	黄灰	2.5Y4/1	焼土、炭化物粒混入			
SK9124		XV	6b	I	I19	-	不整楕円形	C	1.82	1.16	0.36	灰	5Y4/1	5分層、2層に炭化物粒3層に焼土・炭粒混入	石器A6点 礫1点	184	

表7 屋代遺跡群XV層検出焼土跡(SF)一覧

遺構名	旧遺構名	仮地区	大地区	中地区	検出面	遺構図	平面形	類別	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積状況	遺物	遺物図	備考
SF5200		5b	I	N25	XV 上	?	不整形	平面火床	0.56	0.44	0.06	火床上に灰、焼骨	骨484057	-	火床下にピット
SF5204		5b	I	011	XV1 上	?	不整長楕円状に灰など	平面火床	0.9	0.53	0.1	火床脇に焼土、炭化物、灰を含む凹み	-	-	火床周囲に小ピット
SF5205		5b	I	N10, 06	XV2 中	-	不整形	平面火床	()	()	()	炭化物粒点在	-	-	1.5mほど離れて炭化物集中
SF5209		5b	I	N14	XV1 上	-	不整形	平面火床	0.54	0.38	0.09	火床上に炭化物粒	-	-	
SF5210		5b	I	N18	XV1 上	-	不整形	平面火床	0.54	0.48	0.1	火床上に灰	-	-	
SF5211		5b	I	N13, 18	XV1 上	?	不整形	平面火床	0.86	0.64	0.06	火床のみ	-	-	
SF6903		5a	I	R13	XV 上	-	楕円形	平面火床	0.96	0.76	0.04	-	-	-	
SF6904		5a	I	R9	XV 上	-	円形	平面火床?	0.28	0.26	0.03	焼土のみ	-	-	
SF6905		5a	I	M19	XV 上	-	楕円形	平面火床?	0.62	0.38	-	焼土のみ	-	-	
SF6906		5a	I	M20	XV 上	-	楕円形	平面火床?	0.46	0.32	-	焼土のみ	-	-	
SF6907		5a	I	M15	XV 上	-	(不整円形)	平面火床?	0.46	0.36	0.01	焼土のみ	-	-	
SF6908		5a	I	M15	XV 上	-	(楕円形)	平面火床?	0.52	0.36	0.02	焼土のみ	-	-	
SF6909		5a	I	M14	XV 上	-	(不整円形)	平面火床?	0.88	0.76	-	焼土のみ	-	-	周辺に円礫点在
SF6910	SK6913	5a	I	M10	XV 上	-	不整形	平面火床?	1.25	1.22	0.05	焼土のみ	-	-	
SF6913		5a	I	M24	XV1 上面	-	楕円形	平面火床?	-	0.56	(0.08)	焼土	-	-	
SF6914		5a	I	M24	XV1 上面	-	楕円形	平面火床?	0.68	0.48	0.08	焼土	-	-	
SF7028		6a	I	M5	XV1 上	-	不整瓢箪形	平面火床?	0.63	0.46	-	火床のみ	-	-	
SF7029		6a	I	H25	XV2 下層	-	不整瓢箪形	平面火床?	0.2	0.13	-	火床のみ	-	-	
SF7030		6a	I	I21	XV1 上	-	不整形	平面火床?	1.56	()	0.05	焼土ブロックのみ	礫B類1点	-	焼土塊広がるクイフ
SF7049		6a	I	I21	XV 上	-	不整楕円形	平面火床?	0.56	0.44	0.01	焼土のみ	-	-	
SF7050		6a	I	I21	XV 上	-	不整形	平面火床	0.36	0.24	0.01	火床のみ	-	-	
SF7068		6a	I	N4	XV1 上	-	不整形	平面火床?	0.96	0.9	0.12	焼土のみ	-	-	
SF9137	127	6b	I	I19	XV 上	-	不整形	平面火床	0.48	0.24	0.04	焼土集中	-	-	

(4) 遺物分布状況

土器の総量は57点、712g点と少なく、その多くが⑤a区北部側から出土した。この地区では上層遺構のカクランが少なく、遺物採取に時間が確保できたこともあるが、そうした要因を除いても調査区西側に遺物が多い傾向が認められる。XV層の遺構分布が西へ寄ることとも合致している。

遺物分布状況図作成の時間を確保できた⑤a区北部のうち、同一個体土器の広がり把握できる例として、図版184-3、5について図を掲載した（図版7）。両個体ともSF6909の南東側を中心に破片がまとまって出土した。この周辺からは、赤色顔料が付着した扁平礫が2点出土していた。

2 XV層出土遺物

XV層から出土した遺物は、土器57点、石器32点である。

(1) 土器（図版184、表14、15）

半截竹管で施文した平行沈線によって、文様帯の分帯や格子目文・矢羽状装飾を行う例が多い。3については表14に属性を掲載した。5の口唇部には撚糸の側面圧痕を連続的に施文しており、日本海側の影響が見受けられる。これらは、五領ヶ台I式並行期に比定される土器群であり、XIV層に比べ古い様相をしていることから、屋代編年では縄文中期前葉1期とした。

(2) 石器（図版184、表8）

整理の方法 XV層から出土した石製遺物の総点数は、遺構内出土（10点・31%）に遺構外および包含層出土（22点・69%）を加えた計32点である。このうち剥片石器・剥片類・石核は24点、礫石器2点、搬入礫6点を数える。そのなかから代表的なもの7点を図化した。

概要 XV層から出土した剥片石器は、黒曜石製の石鏃（3点）と蛇紋岩製の磨製石斧（1点）がある。さらに黒曜石製の剥片（16点）・粘板岩製の剥片（1点）・石核（3点）を組成する（分類については第5章第3節2に準拠する）。また礫石器では、磨石類（2点）がある。

図化資料の特徴 1～3は黒曜石製の凹基式鏃。3は外湾する側縁をもつ石鏃で、先端を鋭く突出させる。4は黒曜石製の小形の石核。剥片の腹面側を作業面とし、剥片剥離を行う。5は深緑色を呈する蛇紋岩製の磨製石斧。基部と刃部の破片が接合。刃部は著しく摩耗し、偏刃を呈する。6・7は磨石類。6は磨りのみで被熱しており、7には下部先端に敲き認められる。

表8 屋代遺跡群XV層出土石製遺物観察表

石鏃・磨製石斧・石核

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	袈/茎長	先端角	重量	備考			
184	27	1	SK 6916	No2	AH	D2	ob	A	略完形	(24.1)	(18.1)	4.2	3.8	45	1.3				
184	27	2	SK 6916	No1	AH	D2	ob	B	一部欠a	(17.3)	17.0	4.0	3.5	45	0.9				
184	27	3	-	N-6 No1	AH	D2	ob	B	略完形	21.9	(17.8)	2.9	4.6	65	0.8				
図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	欠損	長さ	幅	厚さ	刃部形態	刃部角	基部形態	横断面形	重量	微細	摩耗	備考
184	27	5	-	M-20sNo2	磨斧	B1	蛇紋	完形	84.4	42.8	18.3	偏刃	48	b	b	112.0	×	○	分11 接合資料
図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	石材	石質	長さ	幅	厚さ	重量	備考							
184	-	4	-	N-24sNo7	Co	ob	A	30.7	25.5	9.8	4.4	剥片素材石核、打面転移2							

磨石類

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	使用痕			備考
										表面	側面	裏面	
184		6	XV層上面IM19	SNo6	磨石類	116	102	84	1340	磨	敲	磨	安山岩
184		7	SF7030	SNo1	磨石類	119	68	61	710	磨	敲	敲	安山岩

第3節 XIV-3層検出遺構と遺物

1 XIV-3層検出遺構 (図版7、表9.10)

XIV-3層は粗い洪水性の砂層が互層となっており、その砂層と砂層の層理面に焼土跡が21基点在する。土坑は11基検出した。また、遺物はXV層の遺物を巻き上げた可能性を持つ例(最下砂層中)、あるいは上層からの落ち込みを掘り残してしまっていた部分に含まれていたと見られる土器が混在しており、良好な層位資料とはなっていない。最下砂層中出土土器を除いて、中期前葉2期に属する。

表9 屋代遺跡群XIV-3層検出土坑(SK)一覧

遺構名	旧遺構名	検出層位・面	仮地区	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳号	堆積状況	遺物	遺物図	備考
SK5904		XIV3	5b	I	N24	-	不整形円形	G	0.98	(0.96)	0.56	にぶい黄褐	10YR4/3	上部に炭化物やや多く混入			
SK5907		XIV3	5b	I	N24	-	不整形円形	-	0.56	0.44	0.17	にぶい黄褐	10YR4/3	しまり有、粘性弱	石器B1点		
SK5908		XIV3	5b	I	N24	-	不整形円形	-	0.42	0.36	0.06	にぶい黄褐	10YR4/3	炭化物粒多混入	骨		
SK5909		XIV3	5b	I	N24	-	(不整形円形)	C	(0.84)	-	(0.48)	暗灰黄	2.5Y4/2	炭化物粒混入	石器B2点、礫1点		
SK5914		XIV3 上面	5b	I	N20	-	楕円形	A	1.04	0.8	0.12	暗褐	10YR3/4	炭化物ブロック混入			
SK5924		XIV3 上面	5b	I	N15	-	(不整形円形)	A	-	1.8	(0.28)	-	-	XIV-2層砂が落ち込む			
SK5930		XIV3 上面	5b	I	N25	-	不整形楕円形	A	0.94	0.52	0.28	暗褐	10YR3/3	炭化物粒微混入			
SK5935		XIV3	5b	I	N18	7	(円形)	A	-	(1.16)	(0.26)	暗褐	10YR3/3	砂質、炭・焼土粒微混入	炭化材		
SK5938	SB5409	XIV3	5b	I	N20	7	不整形	D	(5.0)	3.83	0.4	暗褐	10YR3/3	焼土、炭化物多混入 1・2層間に炭化材多、火床有	炭化材		
SK6906		XIV3 上面	5a	I	M15	-	-	-	0.6	0.42	0.05	-	-	XIV-3層に炭化物粒混入			
SK7672		XIV3	6a	I	N1	-	円形	B	0.49	0.45	0.08	灰	5Y4/1	炭化物粒微混入			SF7025と関連か?

表10 屋代遺跡群XIV-3層検出焼土跡(SF)一覧

遺構名	旧遺構名	仮地区	大地区	中地区	検出面	遺構図	平面形	類別	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積状況	遺物	遺物図	備考
SF5203		5b	I	06	XIV3 上	-	帯状	?	3.64	0.42	0.2	火床周囲に帯状に焼土広がる	-	-	
SF5208		5b	I	N14	XIV3 中	-	不整形	平面火床	(0.50)	0.28	0.04	火床のみ	-	-	
SF5213	SB5409-SK2	5b	I	N20	XIV3	-	不整形	掘り込み火床	0.78	0.68	0.12	火床脇に多量の炭化材、火床下に焼土・炭化物・焼骨片混入層	-	-	SK5938内
SF5214	SB5409-SF4	5b	I	N20	XIV3	7	不整形	掘り込み火床	(0.9)	(0.8)	0.14	"	-	-	SK5938内
SF6912	SK6905	5a	I	M23	XIV3	-	不整形	平面火床	1.5	1.24	0.1	火床周囲に炭化物分布	-	-	
SF7025		6a	I	N1	XIV3 3枚目上面	-	不整形	平面火床?	1.46	0.98	-	焼土のみ	-	-	
SF7026		6a	I	N6	XIV3 "	-	不整形	"	()	0.44	-	"	-	-	
SF7027		6a	I	M5	XIV3 "	-	不整形楕円形	"	0.46	0.26	-	"	-	-	
SF7039		6a	I	I11	XIV3	-	不整形	"	0.38	0.24	0.06	-	-	-	
SF7040		6a	I	I11	XIV3	-	不整形楕円形	"	2.08	0.92	0.13	-	-	-	
SF7047		6a	I	I11, 16	XIV3	-	不整形	"	0.8	0.6	-	焼土のみ	-	-	
SF7055		6a	I	I17	XIV3	-	円形	"	0.2	0.2	0.01	"	-	-	SF7052 K 一部か?
SF7056		6a	I	N2	XIV3	-	不整形	"	0.24	0.22	0.01	"	-	-	
SF7058		6a	I	I23	XIV3	-	不整形	"	0.8	0.48	0.04	焼土ブロック状	-	-	
SF7060		6a	I	I22	XIV3 上	-	不整形	"	1.48	1.1	0.02	焼土のみ	-	-	
SF7063		6a	I	I23	XIV3	-	不整形円形	"	0.6	0.48	0.04	焼土ブロック状	-	-	
SF7064		6a	I	N2	XIV3	-	不整形楕円形	"	0.96	()	0.1	焼土のみ	-	-	
SF9034		6b	I	I18, 19	XIV3	-	U字状	掘り込みなし焼土捨て場	1.76	1	0.17	焼土粒分布	-	-	
SF9134	SK9123→変更	6b	I	I11	XIV3	-	不整形	平面火床?	0.2	0.1	-	焼土ブロックのみ	-	-	
SF9135	SK9122→変更	6b	I	I11	XIV3	-	不整形	"	0.22	0.18	0.03	"	-	-	
SF9136	SK9118→変更	6b	I	I24	XIV3	-	不整形円形	"	0.57	0.42	0.03	"	-	-	

(1) 土坑 (SK) (図版7、表9)

11基存在するが、人為的か否かを含め明確な例は皆無である。炭化材が比較的まとまって出土した例にSK5935があり、樹種はヤマグワとクリであった。また、SK5938についてはSFの項で取り上げる。

(2) 焼土跡 (SF) (図版7、表10)

洪水の治まった期間、短期的に逗留地として利用したと思われ、火を焚いた跡は存在するが、多くの遺物を残すには至っていない。焼土跡とした例は21基にのぼる。SF5213・5214、SK5938は、2ヶ所以上の焼土跡と多量の炭化材が複合した遺構群である。焼土跡からは、獣と考えられる焼骨片が多く見られる。また、炭化材の樹種はコナラ節である。

2 XIV-3層出土遺物

(1) 土器 (図版185)

わずかな量が採取されたにとどまる。1はXV層出土土器と同一個体と見られ、3.4も中期前葉1期の土器と考えられる。一方、それ以外の土器は、XIV-1層出土資料と時期的な差はほとんどない中期前葉2期の土器と見られる。

第4節 XIV-1・2層検出遺構と遺物

1 XIV-1・2層検出遺構と遺物出土状況

(1) 概要

XIV-1層は、XIV-1c層と遺構埋土の識別が難しく、本来XIV-1層中で検出すべきところをXIV-2層上面以下で検出した例が認められる。そのため、ここではXIV-1.2層を一括して報告する。ただし、竪穴住居の全てはXIV-1c層上面を切り込んでおり、集落の成立はXIV-1層段階と考えられる。よって、XIV-2層段階は、XIV-3層に引き続き焼土跡と遺物が点在する逗留地的な場所であったと考えられる。

XIV-1c層の砂層堆積終了後、XIV層中では地表面が最も安定した時期がおとずれ集落が形成される。建物の中心は竪穴住居で22軒（可能性のある例を含めると28軒）が認められた。このほか、土坑54基、焼土跡59基、遺物集中地点2ヶ所、などである。掘立柱建物は検出されていない。

遺物は主に遺物集中地点としたSQ7003とSQ9004、およびその周辺が最も多く、竪穴住居跡の埋土上部凹地がそれに続く。竪穴住居床面からの出土は極わずかであった。

(2) 竪穴住居跡 (SB) (図版15~27、表11)

概要 SBと命名した例は22軒である。全てに炉が伴っており居住施設（竪穴住居）として使用されたと見られ、それ以外の竪穴建物は存在していない。この他、全貌が不明であるため別記号（SKほか）で掲載したものの中で、SK5939、SQ9004北部落ち込み、SK9127などは竪穴住居の一部であった可能性がある。また、SB7501の北側の⑥b区西壁に落ち込みが確認されている。これは、SQ7003のような不定形な遺構

の可能性と竪穴住居の一部であった可能性を持つ。各竪穴住居の属性は表11に記し、個別図を図版15～27に掲載した。ここでは、基本的な属性以外で特徴的な状況が見られる例について詳述する。また、主な遺物の遺構間接合例については第10章第2節に掲載した。

SB5401 (図版15、186) 床面が段状になる竪穴住居である。

2年度に調査があたり、その都度排水用トレンチを掘削しなければならなかったため西側の段は不明である。床面は絶えず湧水が浸みだした状態であったため、柱穴は見つけ切れていない。北側には緩やかな周堤が認められる(16層上)。一方、南側では古い竪穴住居SB5402跡の上に周堤を構築しておらず、なだらかな立ち上がりを示している。

SB5412 (図版18・19、188) 旧住居の凹地を活用して新住居が建てられた例である。

地床炉を持つSB5412bがある程度埋没した段階で、その凹地を利用してSB5412aが構築されている。新住居では埋甕炉が設置されている。後者では、壁際を廻るように柱穴が検出されている。また、床面で見つけた構築材の一部と見られる炭化材は全てヤマグワであり、クリが主体となる中期後葉とは傾向を異にしている。

SB7502 (図版21・22、188・189) 周堤の一部を平面検出し、また、床下に集礫土坑を持つ。

周堤：周堤頂部は床面から70～100cmほどである。北半部では周堤を精査しながら掘り下げたが、垂木尻のピットなどは認められなかった。断面図に示したように、周堤頂部と竪穴の垂直壁との間になだらかな傾斜部分が認められた。本来、ここにあった垂木尻が竪穴住居の廃絶に伴って崩された可能性がある。

床下集礫土坑：今回の調査では、4軒の竪穴住居の床面下部から集礫土坑、あるいは掘り込みが明確でない集礫が見つかった。SB7502はピット状の掘り込みを有する例である。礫は径1cm～7cmで、玉砂利ほどの小礫が最も多い。密集に近い状態でピット内に充填されており、焼成は受けていない。竪穴住居の建築儀礼に関する施設の可能性がある。細別段階に各1軒づつ?にしか認められないため、特定の居住者のみが主体的に関与していたと見られる。

SB9009 (図版23、190) 最も良好な周堤が認められ、建物廃絶後には埋葬施設として利用されている。

周堤：床面から周堤頂部まで約170cmを測る。北側に比べ南側は不明確となる。

埋葬：建物が廃絶され、ある程度埋没した段階からは埋葬施設として利用されている。各細別層位から3体分確認されたが、いずれも掘り込みは検出されなかった。また、埋葬後の被覆土についても不明である。1号人骨(台帳6bJ10191)は住居廃絶直後であり、下層に位置していたため埋葬姿勢もはっきりと確認できる状態で残存していた。続いて住居中央付近に埋葬が行われ(台帳6bJ10189)、住居の埋没がかなり進んだ段階で2号人骨(台帳6bJ17331～17340)が埋葬されている。

SB9011 (図版24、193～195) 建物廃絶後に埋葬施設として利用されている。また、床下から集礫土坑と掘り込みの明確でない集礫が、合計5ヶ所見つかった。

埋葬：2体以上が埋葬されたと見られる。いずれも墓坑の掘り込みは検出されず、被覆土も不明である。床面で検出された1号人骨(台帳6bJ18346～19367)と2号人骨(台帳6bJ12224～12226)は埋葬姿勢の推定が可能である。また、埋土上層で見つかった人骨(台帳6bJ6102)は下顎骨のみである。この層位では、土器などの廃棄場としての利用がはじまっており、いったん埋葬された人骨がこの場でカクランを受けたか、あるいは、他から投棄された可能性がある。同一層中に散乱する骨に同一人物の骨が含まれていた可能性があるが、接合などはできなかった。

床下集礫土坑：床面中央で検出された3例については、貼床直下にあり掘り込みが明確ではない。壁際で検出された2基はピット状の掘り込みに充填されたものである。後者は、住居中央付近を通例とした他住居例から見て特異な位置にある。SB9011南側のみに堅固な貼り床が認められたこと、南側の立ち上がり

表11 屋代遺跡群XIV-1・2層検出竪穴建物・住居(SB)一覧

遺構番号	旧遺構名	位置				竪穴プラン			規模			柱穴数	炉				付属施設
		仮地区	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面形	長軸方位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		形態/数	位置	特徴	埋土	
SB5401		5b	I	N10.15	15	隅円長方形	周堤、有段、南側は緩やか	N52°W	7.08	5.92	1.08	7	埋甕/1	中央やや北西	頸部～体部下半	埋め戻して深さ10cmほどの所に火床設置	-
SB5402		5b	I	N9.10.14.15	15	隅円長方形	周堤不明、緩やか	(N95°W)	()	5.24	0.77	-	?	-	-	-	-
SB5404		5b	I	O6.11	16	隅円方形	周堤不明、肩部緩やか	N66°W	5.04	(5.00)	1.10	6	埋甕/1	ほぼ中央	頸部～体部下半	埋め戻して深さ約10cmの所に火床、土器外縁床面にも火床	床下礫集中/1
SB5407		5b	I	O6	17	-	-	-	-	-	0.91	-	-	-	-	-	-
SB5408		5b	I	N10.06	17	-	比較的直に近い、西側、肩部など緩やか	-	-	-	0.86	5	-	-	-	-	-
SB5410		5b	I	O6	17	-	緩やか	-	-	-	1.50	-	-	-	-	-	-
SB5411		5b	I	N5.01	17	-	垂直	-	-	-	0.66	-	-	-	-	-	-
SB5412a	1床	5b	I	N8.9.13.14	18.19	(楕円)	垂直	N4°W	(6.5)	-	0.63	10	埋甕/1	中央?	口縁部～体部下半	埋め戻して深さ約10cmの所に火床、土器外縁床面にも火床	-
SB5412b	2床	5b	I	N8.9.13.14	18.19	(楕円)	垂直	N4°W	-	-	0.70	12	地床/1	中央?	浅く長い火床	火床上に炭化物層	-
SB7501		6a	I	M4	20	-	周堤、垂直	-	-	-	0.68	4	地床/1	中央?	浅い炉	-	-
SB7502		6a	I	I21.22	21	不整隅円方形	周堤、肩部緩やか	N29°E	5.84	5.40	0.92	11(?)	埋甕/1	中央やや南	口縁部～体部下半	埋め戻して深さ約10cmの所に火床	床下集礫ビット/2
SB7503		6a	I	M4	20	-	垂直	-	-	-	0.44	-	-	-	-	-	-
SB9008		6b	I	N3.4.8.9	22	不整楕円	緩やか	N45°E	6.00	4.80	0.51	2?	埋甕/1	中央やや南西	口縁部～底部付近	-	-
SB9009			I	I25. J21. N5.01	23	-	周堤、肩部緩やか	(N85°E)	-	(7.28)	0.65	2?	埋甕/1	-	口縁部～底部付近	焼土粒下層に充填	-
SB9010		6b	I	I24.25. N4.5	24	短楕円	肩部緩やかな部分有	N78°E	7.52	6.80	0.72	6(4)	埋甕/1	中央やや東	頸部～体部下半	埋め戻して深さ約10cmの所に火床、土器外縁床面にも火床	床下集礫ビット/2
SB9011		6b	I	N2.3.7.8	25	円形	緩やか	N46°W	9.44	8.92	0.75	?	地床/1	中央	浅い	-	床下集礫/3 集礫ビット/2
SB9012		6b	I	I23.24. N3.4	26	隅円方形	緩やか	N30°W	6.48	5.68	0.47	?	埋甕/1	中央	頸部～体部下半	埋め戻して深さ約10cmの所に火床	-
SB9013		6b	I	I24. N4	26	短楕円	垂直	N103°E	4.00	3.56	0.40	なし	地床/1	中央やや東	浅い	-	-
SB9014		6b	I	N4.5	26	楕円	垂直	(N40°E)	5.68	()	0.74	2	埋甕/1	中央やや北東	-	-	-
SB9015	SQ9001	6b	I	I20. J16	27	-	垂直	(N60°E)	-	-	0.49	1?	埋甕/1	中央?	口縁部～体部	埋め戻して深さ約20cmの所に焼土、土器外縁床面に火床	-
SB9016a	SQ9002	6b	I	I19.20	27	(楕円)	垂直	N14°W	()	4.66	0.41	2?	埋甕/1	ほぼ中央	体部～底部	埋め戻して深さ約10cmの所に火床	-
SB9016b	SQ9002	6b	I	I19.20	27	(楕円)	-	N14°W	-	-	0.48	-	地床/1	中央やや北	浅い	火床上に灰	-

竪穴建物の可能性がある遺構

SK5939	SB5405	5b	I	O11													
旧SB7500	欠番	6a		H25. M4.5	30	SQ7003へ吸収							地床/1?	中央?			
SK9116	SK表参照	6b															
SK9117	SK表参照	6b											地床/1?				
SK9127		6b	I	I19		-	-	-	-	0.19	-	-	-	-	-	-	-
SQ9004 北部落ち込み		6b	I	I18.19		-	-	-	-	0.12	-	-	-	-	-	-	-

その他の特徴	埋 土			遺 物			埋 葬	切合関係		備 考	
	色調	土色帳記号	埋土の特徴	遺物出土状況	特記遺物	遺物図		(古)	(新)		
二段掘り込み床面、周境内側にも段差有、床面堅固	灰黄褐～黒褐	10YR4/2～2.5Y3/2	砂質シルトで一次埋没後、XIV-1b層～XIII層が凹地に順次堆積。炉最上部に堅固な土(平石とともに炉の封鎖か)	埋 甕上に平石、土器は最下層に微量	漆付土器	186	中央、4層 下面に人骨片	SB5402	SF9029	湧水で柱穴不明瞭	
床面堅固	にふい黄褐～灰黄褐	10YR4/3～4/2	最下層にブロック土(埋め戻しか)	最下層に微量	漆付土器	187	—	—	SB5401	湧水で柱穴見つけきれず。排水溝掘削時に炉破壊?	
床面堅固、床上に焼土と炭化物集中有	にふい黄褐～暗褐	10YR4/3～3/3	シルト質の一次埋没後、炭化物粒の混入する層、その後XIV-1b層～XIII層が凹地に堆積	凹地となった後に小破片が散在	漆付土器	187	—	—	SK5931	湧水で柱穴見つけきれず	
炉などは調査区外かSB5408に切られ不明、床面堅固	にふい黄褐～褐	10YR5/3～4/4	下層に砂堆積後、炭化物粒混入層、自然堆積層へ移行	微量	—	187	—	SB5410	SB5408 SK5915 .5927 .5928	湧水で柱穴見つけきれず	
床面堅固、壁際に柱穴	灰黄褐～黒褐	10YR4/2～2.5Y3/1	床直壁際に粘質土、その後自然堆積	微量、壁際粘質土上に石棒	石棒、漆付土器、土偶3	187、188	—	SB5407 SB5411 SF5201	—	湧水で柱穴見つけきれず	
立ち上がり直。明瞭、堅固な貼床	褐～暗褐	10YR4/4～3/3	下層ほど砂質	微量	—	188	—	—	SB5407	—	
床面堅固	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	砂層堆積後、上層に粘土ブロックを含む層有	微量	—	188	—	—	SB5408	—	
床面に炭化材(建築部材の一部か?)残存、床面堅固	暗オリーブ褐～褐	2.5Y3/3～10YR4/4	一次埋土の後遺物を混入する層有	少量	—	188	—	—	SB5412b	—	
床面堅固	にふい黄褐	10YR4/3	—	床面に微量	—	188	—	—	SB5412a	—	
床3面有、各々が床であったか住居廃絶後の層かは不明	オリーブ褐	2.5Y4/1～4/3	最下層にしまり強の砂質層、埋没後にSQ7004	微量	—	188	—	—	SB7503	SQ7004	
段状の立ち上がり、床面堅固	灰～灰オリーブ	7.5Y4/1～5Y5/2	薄い堆積後凹地がSQ7003となる	微量、上部SQ7003に多量	—	188、189	—	—	—	SQ7003	南側周境重機により削平
床上に炭化物と骨(埋葬施設か?)	オリーブ褐	2.5Y4/6	間層にしまり強の砂質土	微量	—	189	床面炭化物上に人骨	—	—	SB7501	床面近くに埋葬?
—	—	—	下層は地山に類似、凹地にXIV-1b層堆積	微量	—	189	埋土上層に骨集中有、人骨かは不明	—	—	—	立ち上がり不明瞭だった
—	黄灰～黒褐	2.5Y5/1～3/1	一次埋没後炭化物を多量に含む層が堆積、その後自然堆積	床面少量	—	190	埋土下層～中層にかけ、埋葬人骨3体	SK9114 SF9125	SF9025	—	湧水で柱穴不明
SB9014上に堅固な貼床	暗灰黄～黒褐	2.5Y4/2～3/1	砂質土堆積後炭化物混入層堆積、その後自然堆積	炭化物混入層に多量	漆付土器、東海系	191～193	炭化物混入層に人骨片	SB9014 SK9115	—	—	—
南側に堅固な床面、南壁寄りの集礫ピット2基は検出できなかつた別竪穴に付属か	—	—	最下層にシルト層、さらにしまり強の砂層、炭化物混入層へと移行する	床面に微量、炭化物混入層に多量	—	193～195	床面に埋葬2体、埋土上層にも頭骨1	—	SF9032	—	立ち上がり不明瞭だった
南側床面堅固	—	—	一次埋没土上層に炭化物混入層有、その後自然堆積	炭化物混入層に多量	土偶	195～197	—	—	—	SK9107	—
—	—	—	下部にしまり強の砂層、上層に炭化物粒など混入	微量	—	197	—	—	SK9116	SK9108	壁・床とも検出困難
—	暗オリーブ褐～黒褐	2.5Y3/3～3/1	下部に炭化物混入層	微量	赤彩土器	197	—	—	—	SB9010	—
床面堅固	黒褐～灰黄褐?	—	下部に砂質土、中間に炭化物混入層、その後自然埋没	炭化物混入層に多量	—	198、199	—	—	—	—	炉検出まで住居と特定できず、壁削平
床面堅固	黒褐～	2.5Y3/2～	中間に炭化物混入層	炭化物混入層に多量	—	200～202	—	—	—	SK9127	炉検出まで住居と特定できず、壁削平
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

—	—	—	—	—	—	203	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	208	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
掘り込みの形状から竪穴住居の一部である可能性有	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SB9016	竪穴住居の可能性有
掘り込みの形状から竪穴住居の一部である可能性有	—	—	—	炭化物混入層に多量	—	—	—	—	—	—	竪穴住居の可能性有

が不明確であったこと、などの所見があることから、検出できなかった竪穴住居が南側に存在していた可能性も否定できない。その場合、これらの集礫土坑は南側未検出住居に伴うものと推定される。

(3) 土坑 (SK) (図版28、表12)

54基確認された。個々の属性については表12に記した。個別図は代表的な例についてのみ掲載した。定形的な土坑はなく、用途を確定できる例も少ない。以下の例が存在する。

- A. 掘り込みの浅い土坑で、獣骨片を伴う…SK5901ほか
- B. 炭化材と焼土ブロックを埋土に持つ…SK5936ほか
- C. SQ7003内には不定形の掘り込みを持つ土坑がいくつか見られ、炭化物粒を多く混入する場合が多い…SK7670ほか

特に、SK7670では底部に浅い掘り込みを有し、礫が並んだ状態で出土した。

- D. 掘り込みが周囲の層と見極めにくく、形状も不整形を呈する。樹木痕など自然の営力による落ち込みの可能性が高い…SK9013ほか

(4) 焼土跡 (SF) (図版29、表13)

59基確認された。個々の属性については表13に記し、実測図は図版29に代表的な例について掲載した。それ以外については、1/500遺構分布図のみである。

以下の5分類が可能である。

- A. 掘り込みは浅いか不明確であり、火床の上部や周辺に炭化物・灰、獣骨が分布する…SF5206ほか
XIV-2層では、短期的な逗留地に設営された調理施設、XIV-1層においては、集落に伴う屋外の調理施設と考えられる。火床は地表面を浅く窪めて設定されていたと見られる。また、焼土の広がりや円形ではなく、一方に長くなる傾向がある。これらは、屋外での調理施設あるいは焚き火の基本的な方法を示している可能性がある。SF9033では南西部に火床があり、その北東方向に炭化物が広がっている。この場合、火の管理者は南西側に位置していたのであろう。炭化物は若干窪んだ位置にも認められることから、火を起こす前に地表の土をかき寄せる程度の窪みを作っていた可能性がある。
- B. Aと同様の火床を有し、その他の要素が認められない例…SF9027
Aの炉の上層部がカクラン、削平されたものと見られる。
- C. 集石を伴う例…SF7038のみが存在する。
調理用の集石炉と見られるが、集落内で1ヶ所しか存在しておらず、特別な意味を持つ可能性がある。
- D. 掘り込みはないか、あるいは竪穴建物の凹地を利用したもので、2m内外の広範囲に明瞭な焼土が広がる例…SF9025、9028ほか
よく焼けたブロック状の焼土塊、あるいは厚く焼土が堆積した例があり、調理用の屋外炉とは異なった用途に使用されたものと推定される。

(5) 遺物集中 (SQ) (図版30、31)

SB7502の上層、およびその西～北側にかけて最も遺物が集中しており、SQ7003と命名した。このほか、SB9012の北側にも比較的多くの遺物が見られる (SQ9004)。

SQ7003 最も多量の遺物が出土した。下面には凹凸が見られ、不定形な土坑や焼土跡が存在している。埋土は炭化物粒を多量に含んだXIV-1b対応層である。遺物は土器片を主体に石器、石器素材や剥片、獣

表12 屋代遺跡群XIV-1・2層検出土坑(SK)一覧

遺構名	旧遺構名	検出層位・面	仮地区	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色番号	堆積状況	遺物	遺物図	備考
SK5901		XIV1 b	5b	I	N15	28	楕円形	A	0.96	0.8	0.18	暗褐	10YR3/4	砂	骨542924		
SK5903		XIV1 b	5b	I	N15	-	不整楕円形	D	0.78	0.6	0.1	暗褐	10YR3/3	粘性有、しまり弱			
SK5905		XIV	5b	I	N19, 24	-	不整形	B	0.4	0.36	0.56	-	-	-			
SK5906		XIV1 c	5b	I	N19, 24	-	不整形	B	0.46	0.44	0.2	にぶい黄褐	10YR4/3	砂少量混入			
SK5910		XIV2	5b	I	N25	-	(不整楕円形)	C	(1.22)	-	(0.28)	暗褐	10YR3/3	上層に炭化物粒多混入			
SK5911		XIV2	5b	I	N25	-	(不整楕円形)	-	-	-	-	暗褐	10YR3/3	上層に炭化物粒多混入			
SK5912		XIV1c	5b	I	N15	-	楕円形	-	1.44	0.94	0.39	暗褐	10YR3/3 ~3/4	炭化物粒微混入	土器2点15g、礫2点	203	
SK5913		XIV1c	5b	I	016	-	-	A	()	()	(0.28)	暗褐	10YR3/4	炭化物粒、焼土粒少混入	土器7点64g、石器A5点	203	
SK5915		XIV1b	5b	I	06	-	(楕円形)	C	()	1.04	0.44	褐~ にぶい褐	10YR4/ 4~4/3	1~4層に砂・灰混入、5・6層は砂多混入層			
SK5916		XIV1c	5b	I	N24	-	不整形	C	0.94	-	0.36	にぶい黄褐	10YR4/3	砂に粘土ブロック多混入			
SK5917		XIV1c	5b	I	N19	-	(楕円形)	B	-	-	0.51	にぶい黄褐	10YR4/3	〃			
SK5918		XIV1 c	5b	I	N19	-	(楕円形)	-	-	-	0.46	にぶい黄褐	10YR4/3	SK5917よりブロック減			
SK5919		XIV1 c	5b	I	N19	-	(円形)	F	(0.34)	-	(0.24)	にぶい黄褐	10YR4/3	砂			
SK5920		XIV1 c	5b	I	N19	-	円形	-	-	(0.38)	-	暗褐	10YR3/4	砂			
SK5921		XIV1	5b	I	N19	-	不整形	-	-	-	-	にぶい黄褐	10YR4/3	XIV-1b層が落ち込む			
SK5923		XIV1 b	5b	I	N15	-	(楕円形)	C	-	(1.32)	-	-	-	-			
SK5925		XIV2	5b	I	011	28	不整楕円形	C	1.12	0.72	0.24	暗褐	10YR3/4	砂、炭化物粒微混入			
SK5926		XIV1 b	5b	I	N20	-	円形	-	0.72	0.64	0.14	暗褐	10YR3/4	炭化物粒微混入			
SK5927		XIV1	5b	I	06	-	楕円形	B	0.41	0.31	0.37	-	-	-			
SK5928		XIV1	5b	I	06	-	楕円形	F	0.54	()	(0.25)	灰黄褐	10YR4/2	上層に炭粒混入			
SK5931		XIV1	5b	I	011	-	(不整形)	C	-	(0.72)	0.48	灰黄褐~褐	10YR4/2 ~4/4	上層の方が明るい			
SK5932		XIV1 b	5b	I	N25	-	不整形	C	-	1.6	(0.16)	暗褐	10YR3/4	炭化物混入	土器5点95g、礫1点	203	
SK5933		XIV1	5b	I	N14	-	(楕円形)	-	-	(0.68)	-	-	-	-	石器A2点		
SK5934		XIV1 c	5b	I	N14	-	(長楕円形)	C	1.18	0.28	0.09	灰黄褐	10YR4/2	砂質シルト、炭化物微混入			
SK5936		XIV2	5b	I	N18	28	(円形)	A	1.84	()	(0.24)	暗褐	10YR3/3	シルト、炭化物多混入			
SK5937		XIV3	5b	I	N14, 19	-	楕円形	-	0.92	0.6	0.19	暗オリーブ褐	2.5Y3/3	ブロック土混入			
SK5939	SB5405	XIV1	5b	I		28	(隅円方形)	-	()	3.08	0.24	暗褐	10YR3/4	砂、炭化物微混入			203
SK7670		XIV1 c	6a	I	H25	28	不整形長方形	F	1.7	0.88	0.54	灰オリーブ灰	5Y5/2~7.5Y4/1	シルト、下層に炭化物粒多	土器265点4465g、石器A7点、礫19点骨多	203	骨番号6aJ3041.3043.3044.9179.16319
SK7671		XIV1	6a	I	N1	-	楕円形	A	2.15	1.32	0.3	暗緑灰	7.5GY4/1	黒褐色土混入	土器10点185g、礫1点		
SK7674		XIV1	6a	I	I21	-	円形	-	0.32	0.28	0.14	-	-	-			
SK7676		XIV1	6a	I	I22	28	不整楕円形	C	3.36	1.62	0.74	灰	5Y4/1	上面と坑底付近の層に炭化物粒多混入	土器84点2140g、石器A17点、礫26点、骨	203?	骨番号6aJ10200.3043.土器注記はSK7666だか？
SK7677		XIV1	6a	I	H15	-	不整楕円形	-	0.58	0.5	0.21	-	-	-			
SK7678		XIV2	6a	I	I17	-	不整形	-	0.4	0.38	0.15	-	-	-			203? 注記はSK7668
SK9095		XIV1 b	6b	I	N3	-	円形	B	0.3	0.28	0.11	-	-	-	土器10点210g、礫3点		
SK9096		XIV1 b	6b	I	N3	-	円形	B	0.28	0.28	0.07	-	-	-			
SK9097		XIV1 b	6b	I	N3	-	不整楕円	-	0.56	0.44	0.11	-	-	-			
SK9098		XIV1 b	6b	I	N3	-	不整形	C	0.84	0.64	0.16	-	-	-			
SK9099		XIV1 b	6b	I	N3	-	円形	B	0.24	0.22	0.14	-	-	-			
SK9101		XIV1 b	6b	I	N2	-	不整形	-	0.52	0.32	0.2	-	-	-			
SK9102		XIV1	6b	I	N2	-	隅円方形	F	0.75	0.75	0.2	-	-	-	土器74点1180g、石器A8、B1点、礫16点		
SK9103		XIV1 c上面	6b	I	N7,8	28	不整形	G	2.76	2.52	0.32	-	-	XIV-1c層を基調に炭化物粒多混入			
SK9104		XIV1 c	6b	I	N7	-	不整形	G	2.36	1.68	0.24	-	-	-	土器9点85g		
SK9105		XIV1 c	6b	I	N7,8	-	不整形	A	4.8	2.68	0.12	-	-	-	土器3点190g		
SK9106		XIV1 c上面	6b	I	N8	-	楕円形	A	0.36	0.28	0.1	-	-	-			
SK9107		XIV2	6b	I	I23	-	楕円形	A	(1.24)	()	0.4	-	-	XIV-1c層土に炭化物粒混入、中部層に多量混入	土器4点105g	185	
SK9108		XIV2	6b	I	N4	-	不整形	A	1.96	1.76	0.12	-	-	XIV-2層土に炭化物片混入	土器14点235g、石器A1点、礫3点	185	
SK9109		XIV2	6b	I	I24	28	楕円形	C	1.72	0.88	0.61	-	-	XIV-1b層土が落ち込む			
SK9110		XIV2	6b	I	I24	28	楕円形	C	1.84	0.84	0.56	-	-	XIV-1c層土が落ち込み、中部層に炭化物を多混入	土器4点40g、礫2点		
SK9111		XIV2	6b	I	I24	-	楕円形	A	0.64	0.4	0.12	-	-	-	土器4点55g	185	
SK9114		XIV2	6b	I	I25	-	(円形)	C	-	(0.84)	(0.15)	-	-	-	骨・6bJ11220		
SK9115		XIV2	6b	I	I25	-	(楕円形)	-	-	(1.64)	(0.16)	黒褐	2.5Y3/2	炭化物、焼土粒混入			
SK9116		XIV2	6b	I	I24, M4	-	(不整形)	-	-	(2.52)	-	-	-	-			
SK9117		XIV2	6b	I	I24	-	不整形	-	-	(2.56)	-	-	-	-			
SK9127		XIV	6b	I	I19	-	(不整形)	C	-	-	0.22	-	-	-			SB9016に切られる

表13 屋代遺跡群XIV-1・2層検出焼土跡(SF)一覧

遺構名	旧遺構名	仮地区	大地区	中地区	検出面	遺構図	平面形	類別	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積状況	遺物	遺物図	備考
SF5201		5b	I	06	XIV2 上	-	(不整形)	平面火床	1.64	0.52	0.04	火床脇に炭化物点在	-	-	
SF5202		5b	I	06	XIV2 上	-	不整形	"	1.16	0.76	0.08	ビット状に火床脇に炭化物、焼土粒混入凹み	-	-	
SF5206		5b	I	N14	XIV2 中	29	不整形	"	(1.50)	0.94	0.06	火床周辺に炭化物点在	-	-	
SF5207	5207A	5b	I	N14	XIV2 中	-	不整形	"	0.42	()	0.1	検出面に焼土、下部に炭化物粒と焼土混在層	-	-	
SF5212	5207B	5b	I	N14	XIV2 中	-	不整形	火床近くの焼土散布	0.35	0.18	0.02	焼土、炭化物粒混入	-	-	SF5207付属の焼土の散布場所?
SF6901		5a	I	R9	XIV1 b上面	-	楕円形	平面火床	0.76	0.62	0.02	火床のみ	-	-	
SF6902		5a	I	R12, 13	XIV1 a上面	-	不整形	"	2.6	2.4	0.07	火床周辺に炭化物分布	-	-	
SF6911	SK6901	5a	I	R17	XIV2	-	不整形	"	(1.5)	(1.45)	0.1	焼土厚く堆積	-	-	
SF7009		6a	I	H25	XIV2 上	-	楕円形	平面火床?	0.36	0.26	-	焼土のみ	-	-	
SF7011		6a	I	H20	XIV2 上	-	不整形	"	1.4	1.16	0.02	"	-	-	
SF7019		6a	I	N1	XIV2 中	-	不整形	"	0.26	0.14	0.06	"	-	-	
SF7020		6a	I	N1	XIV2 中	-	不整形	"	0.24	0.16	-	"	-	-	
SF7021		6a	I	N6	XIV2 中	-	不整形	"	0.31	0.14	-	"	-	-	
SF7022		6a	I	N1	XIV2 中	-	不整形	"	0.17	0.16	-	"	-	-	
SF7023		6a	I	N1	XIV2 中	-	不整形	"	0.18	0.11	-	"	-	-	
SF7024		6a	I	N1	XIV2 中	-	不整形	"	0.15	0.14	-	"	-	-	
SF7031		6a	I	H20	XIV1 b	-	円形	"	0.26	0.16	-	"	-	-	
SF7032		6a	I	H20	XIV1 b	-	不整形	"	0.32	0.2	-	"	-	-	
SF7033		6a	I	H20	XIV1 b	-	不整形	"	0.32	0.32	0.11	"	-	-	
SF7035		6a	I	H20	XIV3 上	-	不整形	"	0.36	0.3	0.04	"	-	-	
SF7036		6a	I	H20	XIV3 上	-	不整形楕円	"	0.64	0.36	0.08	"	-	-	
SF7037		6a	I	H20	XIV3 上	-	不整形	"	0.72	0.62	0.24	"	土器1点	185	
SF7038		6a	I	I17	XIV1 b	29	(不整形)	平面火床	()	0.8	-	火床周囲に焼土ブロック集中、上部に焼礫集中	土器12点 220g	-	集石遺構
SF7041		6a	I	I11	XIV1 C	-	円形	平面火床?	0.12	0.12	0.05	焼土のみ	-	-	SF7043脇のビットか?
SF7042		6a	I	I11	XIV1 C	-	円形	"	0.56	0.4	0.1	"	-	-	SF7043脇のビットか?
SF7043		6a	I	I11	XIV2	-	不整形	"	0.44	0.24	0.1	"	-	-	
SF7044		6a	I	H15	XIV1 c	-	不整形	"	0.88	0.6	0.08	"	-	-	
SF7045		6a	I	H15	XIV1 c	-	不整形楕円	"	0.44	0.28	0.05	"	-	-	
SF7046		6a	I	H15	XIV1 c	-	不整形楕円	"	0.42	0.3	-	"	-	-	
SF7048		6a	I	I16	XIV1	-	不整形	"	0.46	0.22	-	"	-	-	
SF7052		6a	I	I17	XIV2	-	不整形	"	0.76	0.44	0.08	"	-	-	
SF7053		6a	I	I17	XIV2	-	不整形	"	0.32	0.16	0.01	"	-	-	
SF7054		6a	I	I22	XIV2	-	不整形	"	0.22	0.08	0.01	"	-	-	
SF7057		6a	I	I17	XIV2	-	不整形	"	0.44	0.36	0.02	"	-	-	
SF7059		6a	I	I17	XIV2	-	不整形	"	0.36	0.28	0.01	"	-	-	
SF7061		6a	I	I22	XIV3	-	不整形楕円	"	0.36	0.2	0.01	"	-	-	
SF7062		6a	I	I22	XIV3	-	不整形楕円	"	0.48	0.14	0.01	"	-	-	
SF7069	甲 SB7500 内焼土	6a	I	H25	XIV1	-	不整形楕円	"	0.37	0.3	-	"	-	-	
SF7070	焼土	6a	I	H25	XIV1	-	不整形楕円	焼土捨て場?	0.78	0.6	-	"	骨2点	-	
SF7071	焼土	6a	I	H21	XIV2	-	不整形楕円	平面火床	0.31	0.23	0.1	火床上と脇に焼土分布	-	-	
SF7072	焼土	6a	I	I16	XIV3	-	不整形楕円	焼土捨て場?	0.77	0.55	-	焼土のみ	-	-	
SF7073	焼土	6a	I	M5	XIV1 b	-	(不整形楕円)	平面火床?	0.77	-	-	"	-	-	
SF9025		6b	I	I25, J21	XIV1	29	不整形長方形	平面火床	3.48	2.32	0.16	厚さ10cm強の硬い焼土層か有、上部に灰や炭粒・焼土粒	-	-	
SF9027		6b	I	N9	XIV1 C	29	不整形	"	0.96	0.56	0.13	火床のみ	-	-	
SF9028		6b	I	N5.10	XIV1 C	-	(不整形)	"	()	2.24	0.16	厚さ10cm強の硬い焼土層	-	-	
SF9029		6b	I	N10	XIV1 C	-	(不整形)	"	0.86	()	0.08	焼土、炭化物粒混在	-	-	
SF9030		6b	I	I25	XIV1	-	不整形楕円	平面火床?	0.6	0.36	0.08	焼土のみ	-	-	
SF9032		6b	I	N3	XIV2	-	卵形	平面火床	0.76	0.5	0.1	火床脇に焼土ブロックを含む落ち込み	-	-	
SF9033		6b	I	N4	XIV2 上面	29	円形	"	(2.52)	2.08	0.1	火床周囲に炭化物散布	土器10点70g	185	
SF9124	B(125)	6b	I	I24	XIV2	-	不整形楕円	平面火床?	0.36	0.2	0.1	焼土のみ	-	185	SK9117に付属するか?
SF9125	A(125)	6b	I	I25, J21	XIV2 上面	-	不整形長方形	"	2.12	1.16	0.23	焼土のみ	-	-	
SF9126		6b	I	J21	XIV2	-	(不整形)	"	1.36	1.28	0.02	"	-	-	
SF9138	SK9119	6b	I	J21	XIV1	-	不整形	"	1.28	0.46	0.04	焼土ブロックのみ	-	-	
SF9139	SK9120	6b	I	I25	XIV1	-	不整形	"	0.43	0.36	0.08	"	-	-	
SF9140	SK9120	6b	I	I25	XIV1 上面	-	不整形楕円	"	0.8	0.4	-	"	-	-	
SF9141	SK9121	6b	I	I25	XIV1	-	不整形	"	0.4	0.3	0.05	"	-	-	
SF9142	焼土	6b	I	I24	XIV1 b	-	不整形楕円	"	0.26	0.15	-	"	-	-	
SF9143	焼土	6b	I	I25	XIV2 上面	-	不整形楕円	"	0.7	0.25	-	"	-	-	
SF9144	焼土	6b	I	01	XIV2	-	不整形	"	0.55	0.3	0.01	"	-	-	

骨などが含まれている。比較的長期にわたって廃棄場所に利用されていたと見られる。その変遷過程については第10章第2節に模式図(図83)を掲載した。

黒曜石剥片集中 SQ7003内のうちSB7502西側地区では、黒曜石の剥片が直径20~30cmほどの範囲にまとめて廃棄された地点が6ヶ所存在する(図版30.31)。

幼児頭骨 SQ7003には多くの獣骨片が廃棄されていたが、ヒトの3~5歳男児頭骨が1点出土している。竪穴住居の埋葬例についても、後にカクランを受けている場合が多々見られた。このことから、この頭骨についても、いったん埋葬した後、廃棄場所になった時点でカクランされた可能性が最も高い。しかし、頭骨のみである点、幼児である点、下層に廃屋が存在したかが不明確である点など、他の埋葬骨のカクラン状況とは異なる点が認められる。この頭骨が特殊な扱いを受けた可能性も視野に入れておきたい。

2 XIV-1・2層出土遺物

(1) 土器 (図版185~229、表14、15)

XIV-1・2層からは、中期前葉2期(五領ヶ台II式~直後型式併行期)の土器が多量に出土した。総量は42,092点、791,109gである。特に、善光寺平地域においては、これまでにまとまった資料が少なかったため、詳細に記述を行うこととする。

A. 掲載方法

図化可能な土器は、系統毎の量比は考慮せず残存率を基準に選択した。また、拓本資料は、各遺構やグリットの出土量と系統を勘案してある。ただし、東海系や北陸系といった少量しか見られなかった異系統土器は優先的に掲載してある。掲載順は出土位置を優先した。遺構内出土例をSB→SK→SF→SQの順にし、その後に包含層出土土器を置いた。SQ7003については、範囲が広いいため8mグリット順とした。この他、同一遺構内や同一グリット内については細別層位順に並べてある。諸般の事情により掲載順が前後してしまった資料については、遺物番号脇に本来の出土地点を明記した。

B. 諸属性の観察基準

図化可能であった大型破片や完形品についてのみ、観察表(表14)を掲載した。観察表の記述方法と分類記号は以下の通りである。記号については図9を合わせて参照していただきたい。

① 出土位置

遺構外出土遺物については基本土層と出土グリットを、遺構内の場合は遺構名と遺構内層位や取り上げ番号を記した。また、接合関係も明記した。

② 器種

器の用途を左右する基本的な属性である器種、器形について以下の分類を行った。また、法量については図を参照していただきたい。

器種 深鉢、鉢、浅鉢、その他に大別した。筒形や樽形は深鉢形に含め、器形の変異は器形の欄に記号化して示した。

器形 口頸部、体部を基本として、口縁部と底部の形状を記号化した。

口頸部はI. 大きく外反、II. 直線的、III. 緩やかに湾曲、IV. 屈曲気味に湾曲、V. 屈曲、VI. そろばん玉状に屈曲、に分類した。

体部は1. 大きく外反、2. 直線的、3. 体部上半で湾曲、4. 体部中位で湾曲、とした。

口縁部は、A. 平縁、B. 平縁に突起や把手が付く、C. 波状、に区分した。また底部は、a. 体部と直線的に接合、b. 体部下半が外反して接合、c. 体部側がいくぶん屈曲して接合、に分類した。

例えば、図版189-SB9008-2はV 2 Baである。

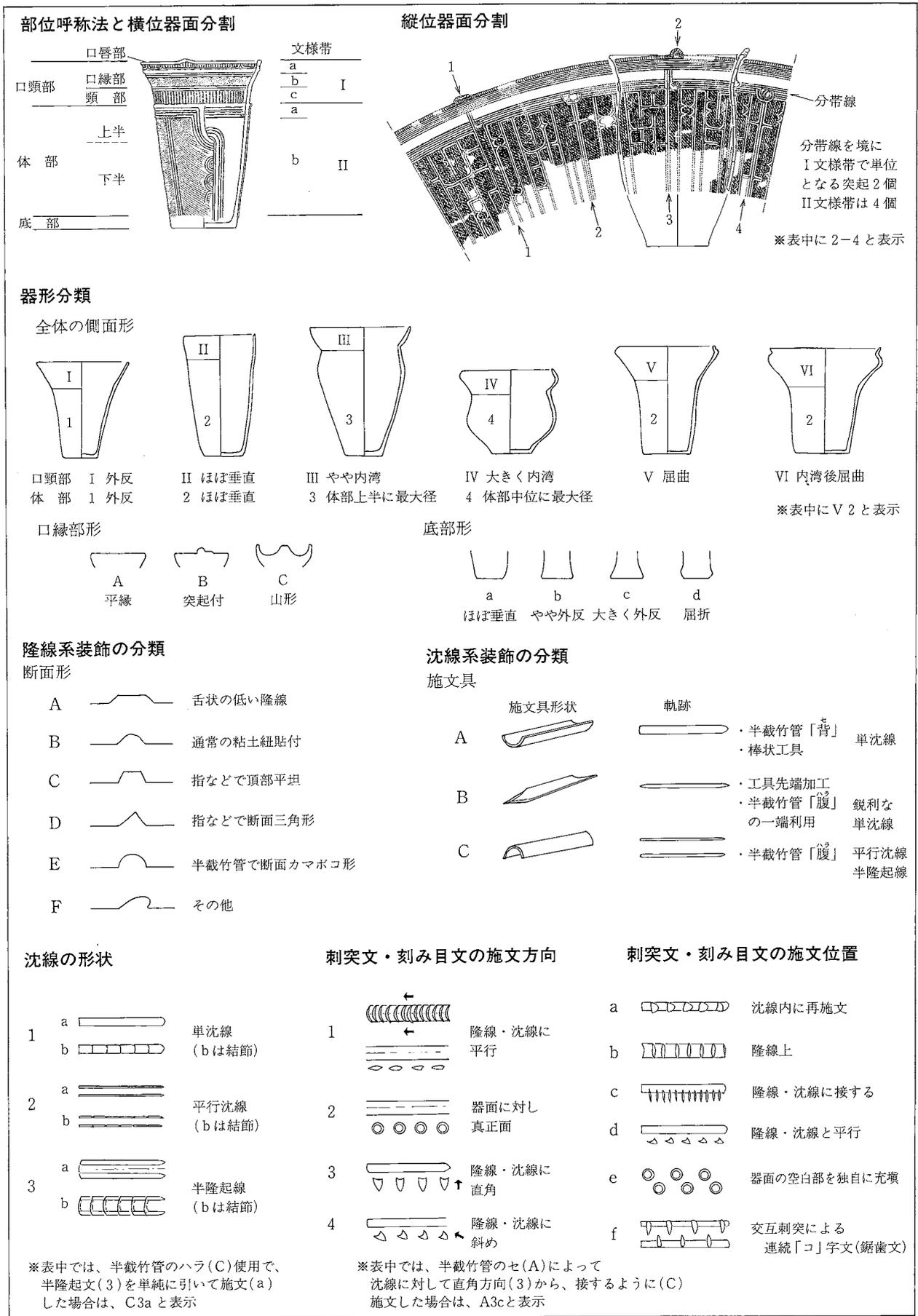


図9 縄文中期前葉土器観察表(表14)の分類記号

③ 造形(装飾以外)

粘土の選択から、整形に関する項目として、胎土、色調、底部裏面圧痕、地文を取り上げる。焼成については観察表のスペースの関係で割愛した。

胎土 肉眼観察の第一印象で、質感に大きな違いを示す要素として雲母、石英、および白色粒子(長石ほか)の混入量関わっている。これらの有無や量の多少は、ある程度の装飾技法(系統)との相関関係が認められる。そのため、ここではこれらの要素についてのみ記した。蛍光X線分析による粘土の分析については、第10章第1節3(3)で成果を示した。また、同一資料については、混和材観察のためのプレパラートを作成してある。後日、機会を改めて公表する所存である。

色調 上記した混和材の違いと焼成の違いによって灰褐色系統の3タイプ(深沢、北陸系、東海系)と赤～黒褐色の4タイプ(深沢系の一部、和泉A系、東信系、五領ヶ台系)に大きく分けられる。

底部裏面圧痕 この時期の土器には網代痕などは見られない。

地文 器外面には、縄文・撚糸文を施す例と、施されない例が存在する。

④ 装飾

装飾割付(縦位・横位の器面分割) 深鉢形土器では、円筒形の外面が装飾の中心となる。円筒であるため一度に全装飾を見ることはできない。そのため、一度に見ることのできる面の中心に基準となる装飾(把手や懸垂文など)を配し、円筒の面を分割するのが普通である。これを縦位器面分割として、区切りの単位となる装飾の数によって表示した。ただし、口頸部文様帯(4単位)に対して体部文様帯(3単位)、といった具合に分割が異なっている場合があるため、4-3と表示した。今回、展開図作成の期間が確保できなかったため、縦位器面分割を確認する手がかりとして展開写真を掲載した(PL50~55)。

横位器面分割(文様帯)は、器形変換線などを基準に装飾が上下で異なるもので、口頸部をI文様帯、体部をII文様帯とする。I文様帯内が上・中・下で異なる場合はI a.b.cと細別した。

隆線系の装飾 粘土紐や、粘土による個別装飾を貼付したものを隆線系装飾とした。

隆線形状と粘土紐の幅 隆線の形状は断面形によって次の5通りに区分した。

A. 盛り上がりの少ない隆線、B. 粘土紐を貼付し、簡単な整形を施しただけの一般的な隆線、C. 指で断面四角形に整形した隆線、D. 指で断面三角形に整形した隆線、E. 半截竹管などにより断面カマボコ状に整形した隆線、である。また、隆線の幅を記した。

隆線装飾の用例 隆線は装飾の分割や区画文、主装飾として利用されている。その特徴を簡略に記した。

貼付文 特徴と貼付位置を略記した。

把手と突起 特徴と位置、数を略記した。

沈線系の装飾 器面を彫り込んだり、棒状工具を引いたり刺突して作る装飾を沈線系装飾とした。

沈線形状と竹管等の幅 沈線の分類は、施文具の先端形状により、A. 棒状工具や半截竹管のセ部分を利用したもの、B. へら状工具、先端を鋭利に加工した竹管、半截竹管の片端のみを利用したもの、C. 半截竹管のハラを利用したもの、に分類した。また、施文された痕跡から1. 単一沈線、2. 半截竹管による平行沈線(竹管のハラが器面に付かない)、3. 半截竹管のハラ側の形状を押しつけカマボコ形の断面形を示す平行沈線、に3分類した。さらに、単純に引いたもの(a)と押し引きや連続押圧したもの(b)に分けた。例えば、全竹管で単一沈線を押し引いて施文した例は、A1bとなる。

沈線の幅は、器面の痕跡によって計測した。平行沈線(半隆起線)の場合は一対となる2条分の幅を記した。

沈線装飾の用例 文様帯別に個別装飾や分帯などの代表的な用例について記した。

刺突・刻み目文 沈線と同様に工具によってA~Cに分け、さらに施文角度によって1. 隆線・沈線に平

行、2. 器面に対して真正面、3. 隆線や沈線に対して直角、4. 隆線や沈線に対して斜め、に4分類した。次に、施文手法としてa. 沈線内に再施文、b. 隆線上に施文 c. 沈線・隆線に接する位置、d. 沈線・隆線脇に並列（沈線とは重複しない）、e. 単独で器面の空白部を埋める、f. 交互刺突による連続「コ」の字文（鋸歯文）、に分類した。fはこの時期に特徴的な施文手法であるため、独立させた。

陰刻文 三叉文などの個別装飾や区画文角部の削り込みなどについて代表的な例を記した。

地文以外の縄装飾 撚糸の側面圧痕や、区画文内や把手の一部分に装飾的に施された縄による装飾について記した。

付着物・二次焼成ほか 漆、赤色塗彩、あるいは強く二次焼成を受けた例については備考に記した。

c. 破片資料の分類

破片資料については記載を簡略化するため、観察表に掲載した土器の属性をもとに以下の類別を設定し、表15に分類を示した。類別は細片資料にも適用させるため、最も多用されている沈線系の装飾要素を主体とした。これに隆線系装飾や文様帯分割などを加味した。

深鉢形土器は、沈線装飾の施文具によってI群、II群に大区別し、沈線装飾の認められなかった破片については、地文によってIII～V群に分類した。また、浅鉢形土器は個々の番号の後に類別を示した。大分類、細分類の基準は以下の通りである。

I群…半截竹管による平行沈線（半隆起線）を用いたもの。平行沈線と単沈線併用の例も含めた。

II群…沈線装飾として単沈線のみを使用したもの。

III群…撚糸側面圧痕の認められるもの。

IV群…沈線装飾の認められなかった破片のうち、縄文・撚糸文を地文としたもの。

V群…沈線装飾の認められなかった破片のうち、地文が見られないもの。

浅鉢形土器は、別列に載せ番号の後に群別を示した。

I群土器の分類 I群は各々の装飾の特徴からa類～h類に区分した。

a類…断面カマボコ状隆線（E）と半截竹管による半隆起線（C3a）を多用する土器。このうち、隆線装飾では継手文を多用する。沈線装飾では、I a文様帯で縦位集合や逆「U」字文、II文様帯では継手文や渦巻き文、横「U」字文などを特徴的な装飾として施す。地文に縄文を持つ例と竹管文だけの例が存在する。色調は黄灰～黄橙色を呈する例が圧倒的に多い。北信地域に比較的多く見られ、深沢遺跡出土土器（西沢1982）を指標とする一群である。

b類…I群と同様、半截竹管による半隆起線を多用し、色調が黄灰色を示す例のうち、I群に特徴的な装飾要素が認められなかった資料を集めた。a類の一部分であるか、あるいは北信地域の在地の土器と見られる。

c類…断面カマボコ状隆線の上を半截竹管によって刻む（刻みC1b）もの。半截竹管による充填装飾や連続「U」字文などを多用する。a・b類と同様な色調を示しているが、緻密な胎土をしており焼きしまっている。北陸系の土器やその在地化した土器、あるいは、時期的に古い資料が含まれる。

d類…隆線装飾がごく一部にしかなく、半截竹管による半隆起線（C3a）で縦位区画を行う。蓮華文、正格子目文、区画脇を挟り取る陰刻文を多用する。灰褐色で緻密な胎土により焼きしまっている。新保・新崎式土器やその影響を受けた土器群と考えられる。

e類…半截竹管による半隆起線でd類よりも大枠となる区画を描き、その中を斜格子目文や斜行沈線で充填する。隆線はd類より長いものが使用される。口唇部に貫通する突起がつき、裏面に縄文を施すのが特徴となる。色調は赤黒い例が多い。和泉A遺跡でまとまった資料（荒川1999）が出土しており、松原土器の新しい段階に含める説（上田・三上1995）がある。ここでは、和泉A遺跡の段階に類似する資料の

ほか、完形であればa類にすべき新しい段階の資料も含めてある。

f類…薄い器壁を特徴とし、扁平な隆線上を多載竹管によって刻む。灰褐色を呈する例が大半である。東海系の土器群（山下1998, 1999）である。

g類…地文に縄文や捺糸文を持ち、半載竹管による装飾が見られる土器のうち、a～f類を除外したものを一括した。五領ヶ台式土器に系譜を持つ一群を中心とし、小破片のため判断を保留した在地の土器が含まれる。

h類…地文に縄文などを持たないもののうち、a～f類を除外した一群である。五領ヶ台式土器に系譜を持つ土器が大半を占め、若干在地の土器が加わる。

II群土器の分類 II群はa・b類に区分した。

a類…地文に縄文を施す例。大半が五領ヶ台式土器に系譜を持つ一群である。

b類…地文に縄文を持たない例。大半が五領ヶ台式土器に系譜を持つ一群である。特に、斜行する集合単沈線を多用する例は、千曲川中・上流域で多く見られる土器（東信系）で、本類の主体をなす。

浅鉢形土器の分類 浅鉢形土器には、I群d類の北陸系と見られる例、I群f類の東海系の可能性を持つ例。II群a・bの五領ヶ台式と見られる例が存在する。

系統分類のために参考とした文献は、表14-4の下段に掲載した。

(2) 土製品

土偶と土器片製円盤が出土した。土錘・土器片製錘は見つかっていない。

A. 土 偶 （表16）

XIV層から出土した土偶は29点（接合後26点）を数える。全て破片資料で分割塊毎に割れた状況を示す例が多い。

胎土・色調の特徴 大きく4種類に分かれ、土器胎土と同様の傾向を示す。

1類 雲母の混入が目立ち赤黒い色調を示す例。五領ヶ台式系統の土器と類似した胎土である。

2類 雲母の混入がほとんどなく、にぶい赤褐色を呈する例。五領ヶ台式系統の在地土器に類似する。

3類 長石と思われる白色粒子を多量に混入し、色調も灰白色を呈する。深沢系統の土器と類似する。

4類 石英の混入が目立つ例。土器では北陸系統の土器にやや近い。

製作上の特徴 いずれも部品毎に製作し、接合して行く方法を取っている。ソケット状の凸部と凹部部分で割れている例が多い。また、部品をつなぐための串状の芯部分が空隙となって残っている。

形態・装飾の特徴 頭部が残存しているのは、1・2類のみである。頭頂部の平らないわゆる河童形を示し、結髪表現はない。眉から鼻を隆線で表現し、目や口などの周囲に沈線装飾が施される例が多い。2類の頭部16は目と口を刺突のみで表現している。1類の沈線装飾は鋭利であるが浅い施文を基本としており、2類はしっかりとした施文となっている。胸から腹部は乳房と腹部の膨らみが顕著で、妊娠女性像と考えられる。腕は真横に開く。脚部から足部では、1類ではラッパ状に裾が開いて行く例が多く、14は靴状に前後に長い。3類とした12も前後に長くなる。また、4類は踵側が直線的となって、脚部全体が台形状を呈しており、他と比べ特異な形態となっている。

系 統 1, 2類は千曲川中・上流域の土器胎土・色調と類似しており、3類は千曲川中流域の深沢土器に類似している。4類は胎土・色調、整形、形態ともに異なっている。

表14-(1) 屋代遺跡群XV層・XIV層・XIII層出土土器観察表

図版番号	出土地点				器種	器形			造形(素材～焼き上がり)		地文 器面調整	装飾割付		把手、突起	
	基本層位	出土遺構/地点	層位・取上No.・接合関係			A-O 類型	口 縁	底 部	胎土	色調		縦位分割	文様帯		
184	5	XV上面	IM14	1	4.7.10.17.18.19.28.30.31.34	深鉢	V2	B	-	小礫、白色粒	灰褐～黒褐	体部下半、縦・結束第2種?	4-(4)	I a, b- II a, b	円形(貫通)と不定形突起
184	3.7	XV上面	IM14	5	6.9.20.22.23.24.25.26	深鉢	III?	B	-	雲母混入	灰褐～黒褐	?	4?	I-?	-
185	5	XIV-3	N14 J32	-	-	深鉢	II1	B	-	白色粒多	灰黄褐	縦・LR繩、一部結束第1種	?	I-II	口唇突起
186	12	XIV-2上面	I17 J66	-	I17 J67, J76, J78	深鉢	II4	B?	a	白英など	にぶい黄橙～褐灰	縦磨き	4?	I a, b- II a, b, c	口唇部に突起
186	1	XIV-1c	SB5401	炉体		深鉢	II?	1	-	白英、石英等	にぶい黄～褐灰	縦・RL繩	4-4	I-II	?
186	2	XIV-1c	SB5401	床	上層No1, SB5402, N5・N10・06付近北レンチ, 011, N10・No4, N15・No10, SB5402	深鉢	?	4	-	白色粒多	にぶい黄～褐灰	-	?-4?	?-II a, b?	-
186	5	XIV-1c	SB5401	下層	SB5402No4, SB5402埋土	深鉢	V2	A?	-	石英、雲母ほか	にぶい赤褐～黒褐	縦・横RL繩	?-4?	I a, b- II a, b	-
187	1	XIV-1c	SB5404	炉体	No12, No3, 南壁付近、北壁際、レンチに口縁部片	深鉢	III2	A	b	雲母ほか	赤褐～黒褐	I帯・縦LR繩、II帯・乾燥後、縦・LR繩	4-4	I a, b- II a, b	-
187	3	XIV-1c	SB5407	3層	-	深鉢	?	2	-	雲母ほか	赤褐～黒褐	-	(-)-4	?-II a, b	-
187	2	XIV-1c	SB5408	床直No1	-	深鉢	V2	B	a	雲母微	にぶい赤褐	-	4?	I a, b-II	-
187	10	XIV-1c	SB5408	8	2層, No11.12.16.19.20.50	深鉢	?	2	-	雲母、石英、白色粒多	にぶい赤褐～暗褐	-	?-4	IIのみ残存	-
188	1	XIV-1c	SB5412b	2床 No1	-	深鉢	?	2	-	雲母	にぶい橙～にぶい赤褐	縦・R短軸絡条体1類	?	(-)-II	-
188	1	XIV-1c	SB5412a	炉体	-	深鉢	III4	B	a	白粒多、石英など	橙～褐灰	磨き	(4)-3	I a, b-II	口唇突起
188	1	XIV-1c	SB7502	炉体	1層、3層	深鉢	II3	B?	a	白色粒多	にぶい黄橙～灰黄褐	縦・LR繩	4-4	I-II	?
189	1	XIV-1c	SB9008	No1	-	深鉢	I4	B	a	雲母、石英	にぶい橙～赤褐	輪積若干残存	lor2	-	小突起1ヶ所
189	2	XIV-1c	SB9008	炉体	-	深鉢	V2	B	(b)	石英多、雲母少	赤褐～黒褐	磨き	2.2-2.2	I a, b- II a, b	口唇突起
189	23	XIV-1c	SB7502	焼土1層	-	深鉢	(II)2	A	(b)	白、黒粒子など	赤褐～黒褐	縦・横・R繩	1-0	-	口唇1ヶ所のみ波状
190	1	XIV-1c	SB9009	炉体	-	深鉢	IV2	B	-	白粒、雲母	明赤褐～黒	I a帯横、II帯縦ほか・RL繩	4-4	I a, b-II	口唇波状突起
190	2	XIV-1c	SB9009	No1	-	深鉢	III2	Bor C	b	白色粒、雲母など	赤褐～黒褐	磨き	(-)-4	I a, b- II a, b	-
190	7	XIV-1c	SB9009	No2	No3, 2・3層	深鉢	I2	B	a	白色粒多	灰黄～黒褐	縦・L(1.1)繩?	?	I a, b- II a, b	貼付文の波状突起
191	1	XIV-1c	SB9010	炉体	3・4層、床下、SB5408-2層No108	深鉢	III?	4	-	雲母多	赤褐～灰褐	縦・R短軸絡条体1類	?-4	I-II	-
192	33	XIV-1c	SB9010	No6	SB9009-3層(底部)	深鉢	II3	B	a	石英ほか	にぶい黄橙～褐灰	-	?	I-II a, b	口唇に渦巻き突起
192	41	XIV-1c	SB9010	3層 No3	SB9010 No2, 2.3層、4層、SQ7003 I21-J11・J61, I22-J42・52, I23-J38, I24-J43	深鉢	III3	B?	b	雲母	にぶい褐～黒	縦・RL繩	(-)-4	I-II	-
193	30	XIV-1c	SB9012	2層	1層, SB9011-1.2層、SB9012 No10	深鉢	-	-	a	黒粒、雲母	にぶい赤褐～黒褐	縦・LR繩	(-)-4?	-	-
194	31	XIV-1c	SB9011	2層 No1	-	深鉢	III2	C	b	黒粒多	橙～黒褐	縦・L結節繩	4-2.2	I a-II	-
194	33	XIV-1c	SB9011	1.2a層	XIV-1b層 I24J42	深鉢	I2	B	b	黒・白粒	暗灰黄～褐	縦?・LR繩	1.1.2-4	I a, b-II	口唇菱形突起など
194	35	XIV-1c	SB9011	1.2層	SQ9004, I24J62	深鉢	I2	B	b	白粒多、赤粒	明赤褐～黒褐	I帯横、II帯縦・LR繩	4-1.2	I a, b-II	口唇突起
195	5	XIV-1c	SB9012	炉体	-	深鉢	V4	Aor B	-	白粒多	灰白～黒	縦、斜・RL繩	(4)?-3	I a, b, c- II a, b	口唇突起?
195	6	XIV-1c	SB9012	N4 No8	SB9012 No10	深鉢	I2	-	b	黒粒、雲母多	赤褐～黒褐	縦・L繩	(-)-4?	I a, b-II	-
196	9	XIV-1c	SB9012	I23-1層No5	-	深鉢	?	3	-	白色粒多	浅黄～黒褐	縦、斜・RL繩	(-)-4	I(?) -II	-
196	16	XIV-1c	SB9012	1層 N3 No1, 2	1層	深鉢	V2	B	a	雲母	明赤褐～黒褐	縦・RL繩	4-4	I a, b-II	口唇突起
198	1	XIV-1c	SB9015	炉体	-	深鉢	III3	B?	-	白色粒多	にぶい黄橙～褐灰	縦・LR繩	?-4	I a-II b	-
198	22	XIV-1c	SB9015	XIV-1b対応層 No6	4層	深鉢	V?	B	-	石英、白色粒など	にぶい黄橙	-	?	I a, b-?	口唇円形突起など
198	27	XIV-1c	SB9015	XIV-1b炭素対応 I20J41	-	深鉢	II2	B	-	雲母多	にぶい赤褐～黒褐	I a帯横、他縦・LR繩	4?-4?	I a, b-II	口唇と分帯線上に環状把手
199	29	XIV-1c	SB9015	No4	I25J05, J35, XIV-1a層 I24J53, SQ7003XIV-1b炭層 I21J26, J25	深鉢	III4	B	-	雲母混入	にぶい赤褐～黒褐	I a帯横、II帯縦・RL繩	?-4?	I a, b-II	-
199	30	XIV-1c	SB9015	XIV-1c対応層 I20J77	J68, XIV-1b対応層 J07	深鉢	III2	C	b	雲母なし	にぶい赤褐	縦・LR繩	-	I-II	-
199	35	XIV-1c	SB9015	XIV-1b対応層 I20J75	-	鉢	I4	C	a	岩片多	灰黄褐～褐灰	横、斜・RL繩	-	I-II	-
199	44	XIV-1c	SB9015	XIV-1b対応層	SQ7003 I21-J27, I22-J17, J22, I20-J66, I24-J21, I25-J05	浅鉢	IV	B	や 波状	白色ほか岩片	赤褐～黒褐	横、斜・RL繩(ほとんど沈線で消失)	?	I・II(分帯せず)	-

形状	隆線系装飾				沈線系装飾				刺突・刻み	陰刻文形状	施文特徴	その他	備考
	幅(mm)	I文様帯用例	II文様帯用例	貼付文	沈線形状	幅	I文様帯用例	II文様帯用例					
-	-	-	-	棒状	C3a, b	4	I a帯で粗い結節文、I b縦位	II a斜格子、II b縦位	-	-	-	口唇、貼付文上にL縄連続圧痕	
-	-	-	-	棒状	C3a	3	分帯線と矢羽状集合沈線	?	-	-	-	口唇、貼付文上にLR縄連続圧痕	
B	7	分帯、懸垂分	短い懸垂分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	懸垂分上部に反転の字状	C3a, B1a	6/0.5	C3は分帯線、B1は連華文	C3は分帯と区画、B1は区画内充填	-	連華文、三叉文、三角抉り	連続的陰刻(連華文)や器面抉り取る	I a帯に横RL縄、II帯区画内装飾に縦・RL縄	
E	8	分帯、単位文?	継手懸垂文	-	C3a	5	隆線沿い	隆線沿い、継手懸垂文	A3c	-	-	-	炉使用時に裏面上半被熱、タール付着
E	10	-	懸垂文	-	C3a	5	-	区画文、斜格子充填文	-	三角抉り	区画文角の残部削り	-	
B	13	分帯線のみ	分帯線のみ	-	C3a	4	集合沈線	分割線補助	A2f	-	-	-	
B	8	分帯、楕円形区画	懸垂文	-	A1a	2	区画沿い	隆線沿い	-	三叉文	渦巻き三叉など	-	
E	8	-	分帯、懸垂文	懸垂上端	C3a, B1a	5/1	-	C3aで区画し、格子・斜行で充填。一部結節	C1b	-	-	-	
B	6	懸垂文	懸垂文	棒状貼付	A・B1a, b	1~2	分帯線、充填	縦位区画、充填	B? 1b	-	-	-	内面に漆
B	7	-	懸垂文	-	C2・3a	3/7	-	縦位区画、充填	C1b	三角抉り	区画隅	-	
-	-	-	-	-	C3a	4	-	懸垂文に横U字、集合沈線、円文等が付	-	-	-	-	底部張出しを半載竹管ハラで整形
D, E	6	分帯と舌状隆線の渦巻文など	2条組の分帯、継手懸垂文	懸垂基部棒状貼付	A1a, C3a	3/5	隆線沿い、I a帯を3で斜行充填	Iで継手隆線を2条化。3で隆線沿い、懸垂、貼付文上、器面充填	A3c	三叉	II帯区画内	-	I帯崩れ
E	7	分帯、懸垂	分帯、継手懸垂	分帯上単位装飾として	B1a, C3a	1/5	B1a横位	C3a隆線脇	B3c	-	-	-	
-	-	折り返し口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
B, D	7	IIとの分帯	懸垂文	II帯棒状貼付	A1a, II a帯上部でA4b	3	I a帯斜行充填	隆線沿い、II a斜行充填、bで懸垂	A1, 3b, A2a	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	口唇部やや突出
B	7	重三角区画	分帯と懸垂文	-	C3a, A4a	5/3	隆線沿い、渦巻文など	隆線沿い、渦巻三叉付懸垂文	-	三叉	渦巻+片三叉区画	隆線上縄文	
D	5	幅狭区画文	-	-	A1a, b	2	隆線脇	懸垂文	-	三叉	I帯区画内玉抱三叉?、II帯上半三叉	-	内面下半にアフラ状炭化物
A, B, E	7~11	分帯	懸垂文	I a帯に渦巻きと波状文	C3a	3	縦横集合、空間充填	隆線脇とII a帯で正格子	B3c	-	-	-	内面下半やや炭化
E	8	分帯	-	-	C1a	3	疎らに斜行	精円懸垂文、隆線脇	-	鼓状抉り	区画文連結部処理	一部の隆線上	
E	9	分帯	分帯、継手懸垂	-	C3a/B1b (三角押文)	7/2	横位	隆線脇、継手文、縦位区画文	B3c/A3f/B3f	三角抉り	区画文連結部処理	-	
B	7	分帯とクランク懸垂	分帯とY字・クランク懸垂文	-	A1a	2	隆線沿い	隆線沿い	-	-	-	隆線上縄文	
B	7	-	懸垂文	-	C3a	5	-	縦位B字に近い区画	-	-	-	-	
B, D	6	重三角区画、渦巻文	分帯・懸垂文	懸垂文基部	A1a	2	隆線沿い、斜行・渦巻等で区画内充填	隆線沿い、沈線のみで懸垂文	-	三叉	I帯区画中央で渦巻三叉	-	
B, D	5/3	I bに幅狭楕円区画	棒状張出しを持つ懸垂文	-	A1a	2	I a帯に横位充填	隆線沿い、区画と円文等で充填	A1口唇	三叉	II帯の器面を充填	-	
B, D	5	I bで幅狭楕円区画	継手懸垂文と三角区画	-	A1a, b	2	I a帯d区画、隆線沿い	隆線沿い、懸垂文	-	三叉	突起裏、I帯残部充填、II帯区画中央	-	押しき多
B, F	8/1.6 (1.0)	分帯、II帯との境は厚く、竹管が被い切れない	懸垂文基部にB隆線	-	C3a, B1a	6/2	I a帯でI-B横位、U字沈専	隆線沿い、II a帯横位、渦巻付懸垂文など	B3c	三角抉り	U字文脇抉り	-	
B	7~10	分帯のみ	分帯と2条懸垂文	-	-	-	-	-	-	-	-	-	貼りっぱなし隆線のみ
E	7~9	分帯	継手懸垂文	-	C3a	7	隆線沿い	隆線沿い、独自懸垂と渦巻	-	-	-	-	
A	2.5	隆線というより折返し口縁	-	-	A1a, C3a	3/7	A1aで肥厚口唇分線、C3aで分帯	C3aで分帯と懸垂文	A3e	三角抉り	懸垂文基部を三角陰刻	底部裏面に粗い縄圧痕	深い半隆線
B/D/E	10/7	Bで渦巻き分、Eで分帯	D, Eで継手懸垂	-	C3a	3/5	5mmで隆線脇、3mmで集合沈線	隆線脇、縦位短沈線3段	A3c, d	-	-	-	継手隆線基部上に集合沈線
A-B/E	10	A, Bで継手、Eで分帯	-	継手頂点に円形貼付	C3a/b1a	5	隆線脇、正格子目文(横線B1a)	-	A3f	三角抉り	I a帯U字脇	-	
E	7	逆U字懸垂と分帯	懸垂	-	C3a	5	隆線脇と区画	隆線脇と逆U字	B3c	-	-	-	
B	12	分帯	懸垂	-	C3a/B1a	6/1	縦位集合	隆線脇、懸垂ほか	-	-	-	隆線上縄文	
B-D	5	区画文、分帯	2条懸垂	-	C2a	3	隆線脇、渦巻き	隆線脇、縦位2条3段	-	三叉	渦巻三叉文、単独三叉文	口唇部に縄文	
E, 低い	12	I a帯横位、分帯	懸垂	-	C3a/B1a	3/1	-	C隆線脇	C1b/B3c	三叉	II帯沈線文湾曲部	-	
E, 低い	7~12	抽象文(貼付文)	-	-	C3a	4	空間充填	空間充填	C1b	-	-	-	

表14-(2) 屋代遺跡群XV層・XIV層・XIII層出土土器観察表

図版番号	出土地点				器型	A~C 口縁	口縁	底部	造形(素材〜焼き上がり)		地文 器面調整	裝飾割付		把手、突起
	基本層位	出土遺構/地点	層位・取上No.・接合関係	器					胎土	色調		縦位分割	文様帯	
200	1	XIV-1c	SB9016	炉体	-	深鉢	?3	a	石英、白色粒	にぶい赤褐 〜黒褐	縦横不規則磨き	?-6	(I)-II	-
200	2	XIV-1c	SB9016	XIV-1bel対応層、I19J56No1	-	深鉢	II3	C	白色粒多	にぶい黄〜 灰白	縦・LR結節縄	-	I a.b- II a.b	口唇筒状突起
200	13	XIV-1c	SB9016	XIV-1bel対応層 I12J51	J41、I19J57、トレンヂ	深鉢	II2	B	白色粒多	にぶい黄〜 褐灰	-	4?	I a.b-II	I a帯橋状把握手
201	20	XIV-1c	SB9016	-	-	深鉢	I2	B	石英、黒色粒	にぶい赤褐	縦・RL結節縄	4?-5	I-II	口唇上に一重、二重の山形突起
201	23	XIV-1c	SB9016	XIV-1b炭対応層 I20J71No1	-	深鉢	?2	-	雲母多	にぶい赤褐	縦・LR縄	?-2	?-II	-
204	6	XIV-1b炭	SQ7003	H20J47No1	-	深鉢	I2	B	雲母多	にぶい赤褐 〜黒褐	-	1-3	(I)-II	突起欠け
205	35	XIV-1c	SQ7003	H25J48	-	深鉢	III3	B	石英、白色粒	にぶい橙〜 褐灰	縦・L縄	-	I-II	貼付文上端が突起状
205	36	XIV-1c	SQ7003	H25J53	-	深鉢	II2	?-	石英、黒色粒	灰褐〜黒褐	磨き	-	I-II a.b	-
206	52	XIV-1b	SQ7003	H25J08	-	深鉢	III3	B	石英、白色粒	褐灰〜黒褐	I帯縦・横、II帯縦・LR縄	-	I-II	貼付文が口唇上へ
206	61	XIV-1b	SQ7003	H25No9	H25-No3.8、H25J57ほか	深鉢	I4	A	雲母多	黒(一部にぶい赤褐)	磨き	4?	I- II a.b.c	-
206	62	XIV-1b	SQ7003	H25J58	I21-J51・J61	深鉢	II2	B	雲母など	赤褐〜褐灰	粗い縦磨き?	2.2-4	I a-II a	口唇部に凹+山と小山形
206	66	XIV-1b	SQ7003	H25No3	H25-No9、H25J53	深鉢	III2	A	白色粒混入	にぶい赤褐 〜黒褐	I帯=横・RL、II帯=縦・RL結節	6?-4	I-II	-
207	73	XIV-1b	SQ7003	H25(HSK7664-3層)	-	深鉢	II1	B	白色粒多	にぶい黄橙 〜褐灰	縦、(一部横)・RL縄	-	I-II	口唇に突起
207	74	XIV-1b	SQ7003	H25(HSK7664-3層)	-	深鉢	?2	-	白色粒多	にぶい黄橙 〜褐灰	縦・RL縄	-	-	-
207	75	XIV-1b	SQ7003	H25(HSK7664-3層)	SK7664-1層	深鉢	III4	C	岩片多	暗赤褐	縦・結束第1種RL+LR縄	4?-4?	I-II	-
207	82	XIV-1b	SQ7003	M5-No2	XIV-1a層M5J17	深鉢	I2	B	白色粒多	にぶい黄橙 〜褐灰	縦・LR縄	4-4	I a.b-II	環状突起
207	78	XIV-1b	SQ7003	H25J34	H25J33、XIV-1c層M9No1、XIV-1b層I21J53、XIV-1b炭層I21J31、HBSQ11.2層	浅鉢	-	-	岩片多	灰白〜黒	磨き	-	-	-
207	83	XIV-1b	SQ7003	M5-No1	M5J06	深鉢	III1	C	雲母混入	にぶい赤褐	I帯=多方向、II帯=縦・LR縄	4-4	I-II	-
208	95	XIII-3~ XIV-1b	SQ7003	HBSB7500-2層	SB7500P1-1層、M5J05	深鉢	II2	B?	雲母、石英ほか	にぶい赤褐 〜黒褐	-	?-4?	I- II a.b.c	欠損部?
208	98	XIII-3~ XIV-1b	SQ7003	HBSB7500-2層	-	深鉢	I1?	C	岩片多、雲母	灰黄褐	縦・RL縄	-	I-II	欠損
208	119	XIII-3~ XIV-1b	SQ7003	HBSQ1-H25J35	-	深鉢	?2	-	雲母少	にぶい赤褐	縦・LR縄	?-4	I-II	-
209	120	XIII-3~ XIV-1b	SQ7003	HBSQ1-H25J35	H25J25、J35	深鉢	II2	B	雲母多	にぶい赤褐 〜黒褐	縦・LR縄	-	I-II	渦巻突起など
209	121	XIII-3~ XIV-1b	SQ7003	HBSQ1-1~2層	H25J77	深鉢	V3	B?	雲母少	にぶい赤褐 〜黒褐	縦・RL縄	?	I a.b-II	-
209	132	XIV-1b炭	SQ7003	I16-No13	-	深鉢	II4	B?	白色粒多、石英	にぶい黄橙 〜褐灰	縦・RL縄?	-	I-II a.b	-
210	142	XIV-1b炭	SQ7003	I16J76	I16J67、J68	深鉢	II2	A	白色粒など	褐灰	I a帯一部に縄文残存	?-4	I a.b-II	-
210	159	XIV-1b炭	SQ7003	I16-No4	-	深鉢	II2	A?	雲母多	にぶい赤褐 〜黒褐	縦磨き	4	(I)-2a、 b	-
210	160	XIV-1b炭	SQ7003	I16-No1の2	-	深鉢	III2	C	雲母、石英など	にぶい赤褐 〜黒褐	縦磨き	4?-4	I a.b- II a.b	-
210	161	XIV-1b炭	SQ7003	I16-No2	-	深鉢	II2	B	白色粒、石英、雲母	にぶい褐〜 黒褐	-	4-4	I-II a.b	-
210	162	XIV-1b炭	SQ7003	I16-No3	I16-No2の2	深鉢	V2	B	黒色粒ほか	にぶい赤褐 〜黒褐	磨き	-	I a.b- II a.b	U字状貼付が口唇突出
211	164	XIV-1b炭	SQ7003	I16J52	-	深鉢	III4	B	石英、雲母	黒褐	磨き?	-	I-II a.b	-
211	165	XIV-1b炭	SQ7003	I16-No9	I16J61	深鉢	II2	A	雲母ほか	にぶい赤褐 〜暗赤褐	磨き	0-4	II a.b	-
211	166	XIV-1b炭	SQ7003	I16-No12	I16J54、J55、J56	深鉢	II2	B	雲母、赤色粒	にぶい橙〜 黒褐	輪郭段差残る程度の磨き	4-4	I-II a.b	4突起
211	167	XIV-1b炭	SQ7003	I16-No16	-	深鉢	II2	-	雲母、石英	にぶい赤褐 〜黒褐	磨き	-	I-II a.b	-
211	168	XIV-1b炭	SQ7003	I16-No5	-	深鉢	II2	B	雲母、石英	黒褐	磨き	4-4	I-II a.b	I帯に橋状突起
207	84	XIV-1b	SQ7003	N1-No6	N2	深鉢	I2	A?	白色粒ほか	にぶい赤褐	縦・LR縄	?-4?	I-II	-
212	197	XIV-1b炭	SQ7003	I16-No1の3	I16J14	深鉢	III2	C	雲母入り	にぶい(赤褐)〜黒褐	磨き	-	I-II a.b	-
212	204	XIV-1b炭	SQ7003	I17-No9	I17J61、J62、J78、I22J52	深鉢	III2	B	雲母入り	褐〜黒褐	I帯横、II帯縦・RL縄	4?-4?	I-II	突起有
212	205	XIV-1b炭	SQ7003	I17-No8	-	深鉢	VII	A	雲母入り	にぶい橙〜 黒褐	縦・結節RL縄	-	I a.b-II	-
213	213	XIV-1b炭	SQ7003	I17-No3	-	深鉢	II2	B	黒色粒、白色粒多	にぶい黄橙 〜黒褐	磨き	(-)-2、 2?	I a.b- II a.b	口唇部半円連続貼付
213	214	XIV-1b炭	SQ7003	I17-No5	No9、I17J67	深鉢	V2	C	雲母少	にぶい赤褐	-	-	I a.b-II	口唇部突起

形状	幅 (mm)	隆線系装飾			沈線系装飾			その他			備考		
		I文様帯用例	II文様帯用例	貼付文	沈線形状	幅	I文様帯用例	II文様帯用例	刺突・刻み	陰刻文形状		施文特徴	縄圧痕など
-	-	-	-	-	C2a	5	-	分帯下、懸垂	A4d/C3d	-	-	-	体部～底部二次造部成強
E	8	分帯	分帯	-	C3a/B1a	7/1.5	隆線脇交互刺突文と融合、Bは縦位	U字+渦巻文、十字文、隆線脇	A3f	三叉文	口唇裏面、縦位B沈線と接合、II帯連続三叉文	-	-
E	10	分帯	懸垂	-	C3a/C2a	5	隆線脇、I b 区画と充填	縦位区画、分帯、変形B字文、格子目充填	-	-	-	-	-
C	8	口唇部折返し	-	-	A1a	2.5	分帯	懸垂	-	-	-	-	-
B	10	-	三角形区画	-	B2.3a	6	-	隆線脇、渦巻	-	三叉文	渦巻三叉文	-	-
-	-	-	-	-	C3a	5	横線	懸垂、縦位区画文	C1b 口唇	三角	区画文脇挟りなど	-	-
B	9	-	逆「し」字懸垂	「6」字	C3a (浅い) 脇文	5	貼付脇、分帯	隆線脇、クランク文など	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	C3a.b/B1a	4・6/1	C3b横位集合	C3aで分帯、懸垂棒。中にB1a	B3c/B3f	三角	II帯文様のコーナー	-	-
E	9	-	継手懸垂	口縁に連続半円+「し」字、懸垂基部	C3a/B1a	7/1.5	Bで縦位、Cで分帯	Cで分帯と隆線脇	C1b	三角	I帯で沈線+で連華文、蛇行沈線脇	-	-
E	9	分帯	懸垂、分帯	円形、横X字状	C3a/C2a	7	Cで横線	Cで隆線脇や区画、Bで区画内斜格子充填	B3c/C1b	三角	区画文脇挟り	-	-
B	7	分帯	分帯、懸垂文	-	A1a	3	横線などで空間充填	Y字、楕円などをII帯中心に配置	A3c.f	-	-	-	山形突起直下I a帯に縄文(風化原体不明)
A	6	分帯	懸垂文	懸垂文基部	A1a/C2a	3/5.5	Aで渦巻文、半円+三角形区画	Aで隆線脇、渦巻文。Cで縦楕円懸垂文	A3a	-	-	-	-
D,E	7~13	Eで分帯だが施文ラフ	Dで懸垂	口唇突起部	C3a	6	連続三角形、横位	懸垂文の一部	-	-	-	-	-
E	7~10	-	分帯、継手懸垂文、2条クランク	-	C3a	6	-	隆線脇、継手懸垂	-	-	-	-	-
B/D	6	分帯、口唇	Y字懸垂	-	C2.3a	3	-	隆線脇、II a 横帯	A3f	三角	区画コーナー沈線続きを挟る	隆線上縄文	-
B/E	8	分帯、懸垂	分帯、2条懸垂	口唇裏面に円文ほか	C3a	5	隆線脇横位	隆線脇、1区画のみ各種文様充填	B4d (矢羽)/A3f	三角	横U字連結部挟り	-	-
-	-	-	-	短継手	C3a/B4b	7/1	横位沈線、再刻み	連華文	C1a	三角	連華文形成	-	-
B/D	7	頸部長格円	Y字懸垂	-	C2.3a	4	三叉とセットで主装飾、口縁下横位	隆線脇、2条2段垂下、渦巻	A1e	三叉文	波状沈線と主装飾	隆線上縄文	-
E	9	分帯のみ	-	-	C2.3a	3.5	U字文充填	区画、U字文充填、B2aで斜格子	-	三角	U字文の下部など挟り	-	-
B-C	8	-	クランク懸垂の一部	-	A1a.b	3	分帯、口唇裏面にA1b	懸垂の下隆線	A3f, A1b (口唇)	-	-	-	-
B	7	分帯、区画?	懸垂	-	A1a	3	隆線脇、渦巻	懸垂文、隆線脇	-	三叉文	I帯で渦巻+三叉文	-	-
E	8	分帯	継手懸垂	継手連結部に円文	C3a	5	隆線脇	隆線脇、クランク文・円文など	A3f	三角	I帯で交互挟り、II帯で沈線文角挟り	-	-
B(高い)	7	分帯	懸垂	懸垂基部	C2.3a	4.5	隆線脇、横位小分帯	隆線脇、懸垂	C3d/C3e/A3f	C3eII帯で縦位連続、	A3fは沈線に近い長さ	-	-
E	9	分帯	-	II帯単位	C3a/B1a	5/1	隆線脇、Bは三叉文	区画、渦巻文、U字文など	B3c/B2e/C1b	B2eと沈線で玉抱き三叉	-	-	-
-	-	-	-	-	C3a	6	斜行、横位集合	懸垂、区画、円文、充填	-	三角	区画文角部挟り	-	-
B	5	分帯のみ	-	-	B1a	2	横位一条	懸垂文、半楕円区画内充填	B1d/B3b	-	-	-	-
-	-	-	-	I帯に横棒状	A1a.b	2	分帯横位、斜行充填	懸垂、斜行充填	A4a/A2.3f	-	-	-	-
A	13	分帯のみ	-	渦巻、蛇行線	A1a	1.5	口唇部縦位	懸垂、区画、半渦巻充填	A3a.d/A3f/A3b	A3b隆線上を2列	三叉と沈線で連続「コ」字文	-	-
F	9	I a帯張り出し	-	II帯に懸垂基部に棒状貼付	A1a	2.5	隆線上など	懸垂、横位区画、斜行充填	A1a/A1.4d/A3f	刺突文各種	-	-	-
-	-	-	-	I-II帯境に横棒状貼付	A1a	2	間隔において縦位など	II a帯横位、懸垂II b帯充填	A3.4a.c.f/A3b	刺突文各種	-	-	-
I	-	-	-	-	A1a	2	-	II a帯横位、II b帯懸垂文	A3.4c.f	-	-	-	-
-	-	-	-	懸垂文基部に棒状	A1a	1	-	II a帯横位、II b帯懸垂文	B3c.f	鋭い刻み	-	-	I帯無文
-	-	I a帯折り返し口縁	-	-	A1a	2.5	-	II a帯横位、II b帯懸垂文	A4d/A3f	-	-	-	-
C	9	分帯、区画兼用	-	-	A1a.b	2.5	-	II a帯横位、II b帯懸垂文	A3f/A3b	角押文が一部A4d化	-	-	-
E/B	8/6	分帯、口唇	懸垂	-	C3a	4.5	横位充填	隆線脇、区画内装飾	-	三角	II帯装飾脇挟り	懸垂文上縄文	-
-	-	-	-	I-II帯境に棒状貼付	A1a	2	斜行充填	II a帯横位、II b帯懸垂文	A4d.f/A2d	A2dとA4fで連続円分	-	-	-
A,B	8	分帯、三角区画、渦巻	懸垂	懸垂基部	C2a	3	隆線脇、渦巻ほか	隆線脇ほか	-	-	-	隆線上縄文	-
B	10	分帯	-	隆線上分割単位として	C3a	6	隆線脇、区画、I b帯で縦位充填	縦位区画など	-	三角	I a帯で交互陰刻文	-	-
E	8	全て刻み有、分帯線	-	口唇と懸垂文基部	C3a, B1a	7/1	I a文様帯充填	交互沈線「コ」字文、懸垂文	C1b/B3c	-	-	-	外下部に棒付着
-	-	-	-	口唇に突起	A1a	1.5	横位充填	懸垂、渦巻文ほか	A4a.c.f	-	-	-	-

表14-(3) 屋代遺跡群XV層・XIV層・XIII層出土土器観察表

図版番号	基本層位	出土地点			器種	器形			造形(素材～焼き上がり)		地文 器面調整	裝飾割付		把手、突起	
		出土遺構/地点	層位・取上No.・接合関係			A～O 類型	口縁	底部	胎土	色調		縦分割	文様帯		
213	215	XIV-1b炭	SQ7003	I 17-No4	I 17J75	深鉢	II2	A?	-	雲母多	にぶい明褐～黒褐	縦磨き	(-)-4	IIa.b	-
213	220	XIV-1b炭	SQ7003	I 17-No9	-	深鉢	II2	B	-	黒色粒	にぶい橙～黒褐	磨き	4-4	I-II	口唇部突起
213	221	XIV-1b炭	SQ7003	I 17-No2	I 17J75	深鉢	V2	B	a	白色粒、石英ほか	にぶい黄橙～褐灰	磨き	4?-4?	I a.b-II a.b	口唇部貼付文で突起
214	226	XIV-1b炭	SQ7003	I 17-No11	I 17-No4(底部)	深鉢	III1	B	b	石英	灰黄～黒褐	磨き、I帯とII帯の部分に縦・短軸絡糸帯第1種L縄	4-4	I-II	口唇4ヶ所突起
214	227	XIV-1b炭	SQ7003	I 17J72	-	深鉢	II2	B	-	白色粒多	にぶい黄橙～黄灰	縦・LR縄	4?-4?	I-II a.b	口唇突起
214	228	XIV-1b	SQ7003	N1-No4	N1J03, J08	深鉢	III2	A	a	雲母	にぶい赤褐～黒褐	縦・LR縄	4-4	I-II	-
214	230	XIV-1b炭	SQ7003	I 17-No1	I 17J74, J75	深鉢	II2	B	-	白粒、石英など	褐～黒褐	磨き	4?	I a.b-II a.b	単位部に突起
214	231	XIV-1b	SQ7003	I 17-No5	No9, J67, J72	深鉢	III2	B	a	混和材少ない	にぶい赤褐～黒褐	磨き	-	I-II a.b	-
215	232	XIV-1b炭	SQ7003	I 21-No3の1	No3の2, No5SQ7003 I 21J03, J04, J16, J25, J35, J36, J48ほか	深鉢	II2	B	-	白色粒混入	明褐灰～黒褐	縦・LR縄	6?-4	I a-II a.b	環状把手と欠損突起など
215	235	XIV-1b炭	SQ7003	I 21-No14	I 21J36, J46	深鉢	V2	B	a	雲母など混入	赤褐～黒褐	縦・LR縄	(4?)-4	I a-II a.b	円、台形把手
216	240	XIV-1b炭	SQ7003	I 21-No5	I 21J04, J05, J43, J45, J55	深鉢	II2	B	-	白、黒粒混入	明褐～黒褐	縦・LR縄	2-8	I-II	裏面に陰刻文
216	246	XIV-1b炭	SQ7003	I 21-No2の1	I 21J12, J13	深鉢	I	B	-	黒色粒ほか	にぶい橙～黒	磨き	4	II a.b	小突起
216	247	XIV-1b炭	SQ7003	I 21-No3の1	I 21-No9の2, I 21J04, J14, I 16J74	深鉢	III2	C	b	雲母	にぶい赤褐～黒褐	-	4-4	I a.b-II a.b	山形
216	250	XIV-1b	SQ7003	I 21-No16 (J45)	-	深鉢	?4	-	a	白色粒多	灰白～黄灰	縦・RL+?結束第1種縄	?-4?	()-II	-
216	251	XIV-1b	SQ7003	I 21-No25	-	深鉢	II2	A	-	白色粒多	にぶい橙	縦・LR結節縄	-	I a横線のみ	-
217	252	XIV-1b	SQ7003	I 21-No12	I 21J38, J48	深鉢	III3	C	a	白粒多	赤褐～褐灰	縦・RL縄	4-4	I a.b-II a.b	口縁突出部
217	258	XIV-1b	SQ7003	I 21-No12	I 21J44, J48	深鉢	V2	B?	a	白粒多	赤褐～黒褐	縦・RL縄	4-4	I a.b-II a.b	-
218	261	XIV-1b炭	SQ7003	I 21-No9	I 21-No10, No23, No24 SQ7003炭層、	深鉢	III2	B	-	白色粒混入	にぶい黄橙～褐灰	縦・LR縄	2.2-(4)	I a.b-II	貫通孔大把手
218	264	XIV-1b炭	SQ7003	I 21J44-No13	I 21-No14, J38-No9, J53, I 22J31, J44	深鉢	V2	B	-	雲母	にぶい赤褐～黒褐	縦・結節LR縄	4-(-)	I a.b-II	口唇部に突起
219	280	XIV-1b	SQ7003	I 21J12	No37付近ほか	深鉢	II2	B?	-	白色粒、赤色粒ほか	にぶい赤褐	縦・結節RL縄	-	I-II	欠損
219	282	XIV-1b	SQ7003	I 21J58-No34	I 21J44, J58	深鉢	III2	C?	b	雲母少	褐～黒	縦・LR縄	4?	I a.b.c-II	?
219	283	XIV-1b	SQ7003	I 21J44	I 21ベルト	深鉢	II2	B	-	砂粒多混入	にぶい橙～褐灰	横・LR縄	2?-4	I-II	蛇帯突起
219	296	XIV-1b	SQ7003	N1-No5	-	深鉢	I1	B	b	雲母入り	にぶい赤褐	縦・RL縄	(4)-4	I a.b-II	円単独と対の突起
219	297	XIV-1b	SQ7003	I 21-No21	No18, I 21J65	深鉢	?2	-	b	雲母少	褐～暗赤褐	縦・LR縄	(-)-2.2	I-II	-
220	298	XIV-1b炭	SQ7003	I 21-No11の2	-	深鉢	I2	B	-	雲母混入	にぶい赤褐	縦・結節LR縄	-	I	2対突起
220	300	XIV-1b	SQ7003	I 21-No26	-	深鉢	III3	A?	A	白色粒	にぶい褐	縦・結節LR縄	-	I-II	-
220	301	XIV-1b	SQ7003	I 21-No19	-	深鉢	III2	B	-	黒色粒多、雲母少	明褐～黒褐	I帯横、II帯縦・RL縄	(-)-4	I a.b-II	対突起
220	303	XIV-1b	SQ7003	I 21J74	I 21J75	深鉢	II2	B?	b	石英、岩片混入	褐～にぶい赤褐	縦・RL縄	-	I-II	把手欠損
220	304	XIV-1b炭	SQ7003	I 21-No7	-	深鉢	III4	A?	-	雑多砂粒混入	黒褐	縦・結節LR縄	-	I-II	-
221	305	XIV-1b	SQ7003	I 21-No1	-	深鉢	III2	C	-	雲母	黒褐	磨き	-	I-II a.b	-
221	332	XIV-1b	SQ7003	I 21J77-No37 周辺	-	深鉢	?2	-	b	混和材細粒	にぶい黄橙	磨き	(-)-4	(-)-II a.b	-
222	341	XIV-1b炭	SQ7003	I 22J31-No1の1	-	深鉢	V?2	-	b	黒色粒ほか	明褐～灰褐	-	(4)-4	I?-II	-
222	340	XIV-1b炭	SQ7003	I 22-No3	I 22J25, I 16-No2の2	深鉢	?2	-	a	白色粒多	にぶい黄橙	縦・RL縄	?-4	I-II	-
222	344	XIV-1b炭	SQ7003	I 22-No3	I 22J35, I 16-No2の2	深鉢	III2	C	-	白色粒多	にぶい黄橙	縦・I縄	4-4	I-II	山形突起
223	353	XIV-1b炭	SQ7003	I 22J33-No2	I 22J21, J31, XIV-I a層 I 22J33	深鉢	III2	B	b	雲母少、黒粒、石英など	明赤褐～褐灰	I帯は縦II帯は縦・LR縄	(4)-4	I-II	貼付文付き突起
222	343	XIV-1b炭	SQ7003	I 22J04-No5	I 22J14	深鉢	V3	B	b	黒、白粒	にぶい黄橙～褐灰	I帯は横、II帯は縦・LR縄	4-4	I a.b-II	口唇突起
223	347	XIV-1b炭	SQ7003	I 22-No1.2	I 22J21, J31, 14-1a層 I 22J21, J33	深鉢	III3	B	b	雲母	赤褐～黒褐	縦・LR縄	(4)-3	I a.b-II	2ヶ残存
222	335	XIV-1b炭	SQ7003	I 21J47	I 21J37, J67,	深鉢	III?	B	-	雲母多	暗褐～黒褐	-	-	I a.b-II	突起
223	356	XIV-1b炭	SQ7003	I 22J01	-	深鉢	V?	B	-	黒色粒ほか	にぶい橙～黒褐	-	4?	I a.b-?	突起
223	362	XIV-1b	SQ7003	I 22J78	I 23J53, SD7042, SD7058混入	深鉢	V4	B	-	黒色粒ほか	褐灰	-	3-?	I a.b-II a.b	突起

形状	隆 線 系 装 飾			沈 線 系 装 飾			その他			備 考			
	幅 (mm)	I文様帯用例	II文様帯用例	貼付文	沈線形状	幅	I文様帯用例	II文様帯用例	判突・刻み		陰刻文形状	施文特徴	縄圧痕など
-	-	-	-	-	A1a	2	-	横位集合沈線、懸垂文	A3.4d.f / A2d	A2d+A3fで連続円文	-	-	隆線未貼付の懸垂文あり
-	-	-	-	懸垂文の基部	C3a/B1a	6/1	Cで分帯、Bで連続「コ」字文、連垂文など	懸垂、逆U字懸垂	-	三叉文	細かくしっぽの長い三叉、口唇裏面にも	-	-
-	-	-	-	懸垂文の基部、口唇	A1a	2	横位、短斜行、縦位施文、文帯	懸垂文、IIa斜行	A2.3A / A3f	-	-	-	-
B.D	5~20	-	懸垂	分帯基部、口唇突起部	C3a/B1a	5.5	口唇部裏面、分帯、B1aで縦位充填	C3a隆線脇、三角などの区画	B3c	-	-	-	底部裏面、二次焼成強
E	7	分帯	-	懸垂基部、口唇突起	C3a	6	口唇、分帯	IIa帯縦位区画、IIb帯懸垂、クランクなど	-	-	-	-	-
B	8	分帯	懸垂	懸垂基部	C3a	7	I帯で横位	-	A1a	三叉文	I帯の主装飾で玉抱三叉文	-	-
B.C	10	分帯	-	懸垂文基部棒状	A1a, A4b	2	空間充填	懸垂文と渦巻き文	A3f/A2d	A2dとA3cで連続円文	-	-	-
-	-	-	-	-	A1a	3.5	-	分帯、懸垂、横線	C4d/A3f	-	-	-	-
E	9	分帯、区画	分帯	懸垂文基部にボッチ状	C3a/B1a	7.5/1	Cは口唇下、Bで各種文様	CでIIa帯横位、IIb帯で懸垂文や各種文様	B3c/B2e	三角	わずかに沈線間挟り有	-	-
B.A	8	分帯、把手2本組み垂下1ヶ所	1条継手懸垂文	懸垂上端1ヶ所	C3a	5	横位充填	隆線脇	A3c.f	-	-	-	胎土は千曲川上流か?
-	-	-	-	I文様帯に棒状貼付1のみ	C3a.b	7	横位集合	縦位B字区画、斜行沈線充填	C1b	三叉文、三角挟り	口唇部裏面に玉抱三叉、[B]字文脇挟り	-	胎土は千曲川上流か?
B.D	6	-	懸垂文(1条・2条、上半のみ)	-	A1a.b	2	口唇部一条	懸垂文、IIa横位集合	A3.4c.b	-	-	-	I文様帯カットの筒、五領ケ台にしては判突が姿
C	9	Ib帯懸垂つづき、分帯	懸垂	円形貼付	A1a.b	1.5	円文周囲等、Ib帯で斜行充填	渦巻き、分割線周囲充填	A3b/A3f	三叉文	IIb帯渦巻き角	-	-
E	6.5	分解	-	-	C3a	3.5	-	隆線脇、懸垂、渦巻き継手文	A2.3f	-	-	-	-
E	8	口縁に2重横線のみ	-	-	C1a	1	-	-	-	-	-	-	-
B/E	7~11	Bで継手等の単位装飾	2条分帯、1条懸垂文、一部がE隆線	円形	B1a/C3a	3/6	隆線沿い、三叉文にB1沈線	隆線沿い、IIa帯で集合、IIb帯で渦巻き継手	-	三叉文、三角挟り	IIa帯主装飾+三叉、主装飾部沈線角挟り取り	-	SB7502上層
B~E	6~10	分帯	継手懸垂	Ia帯主装飾	C3a/B1a	5	Cで分帯、Ia充填、Bで交互「コ」字文	隆線起ほか	B3c	三叉文、三角挟り	II帯に大型三叉文、沈線文角を挟る	-	底部裏面、内面二次焼成強
E/C/B	7~15	分帯、2本組「し」字懸垂文	隆線上縄文、h字と横方向の複合懸垂文	-	C3a B1a	4	Ib帯斜沈線は密施文	隆線脇と逆U字など	A3f	-	-	隆線上縄	
B	6~7	分帯	分帯と継手懸垂文	Ia帯に継手状、懸垂基部	C3a	4	隆線脇、Ib帯で逆U字など	隆線脇、区画充填	C3f	-	-	-	-
E	6	分帯のみ	分帯のみ	-	C3a	4.5	横線、逆「U」字	渦巻き、横「U」字など	A2f	三角	沈線文角挟り	-	-
なし	-	貼付文がIb文様帯下	-	懸垂文上部に棒状貼付	C2a	6	2重円文が主、分帯に利用	懸垂文	C4f	-	-	-	貼付文の位置などに崩れ
E	10	口唇部のみ	-	「し」字貼付	C3a	5	多条横線	懸垂、分帯	C1b	-	-	-	-
B.D	4~8	X字	Y字懸垂	-	A1a	2	なし	隆線脇、三叉文とセット	-	玉抱三叉文	隆線脇、三叉文のみ挟り	-	-
A.B	4~7	重三角区画?	懸垂文、隆線上縄文	-	A1a	2	Ic文様帯に横位沈線	懸垂文に沈線沿わない	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	A1a	3	横線	-	A3b	突起上	-	-	-
B	7	分帯、重三角区画	-	-	A1a.b	3	区画中央に三叉文	-	A3b隆線結節点上	三叉文	I帯主装飾	-	単沈線
B	7	重三角区画	懸垂文	-	A1a	2.5	隆線脇と区画中央に玉抱三叉文	懸垂文脇になし	-	三叉文	線状三叉文と陰刻三叉文	-	-
B/D	4	Dで分帯	Bで三角区画など	-	A1a.b	3	隆線、口縁沿い	隆線脇	A3.4a / A3b (口唇)	三叉文	区画中央	-	-
B	6	重三角区画、隆線上縄文	-	-	A1a	2	区画内に三叉と斜行沈線	-	-	挟り三叉文	空間充填	-	-
B/A	7	器面縦位分割	懸垂	-	A1a	1.5	分割線、縦位集合	IIa帯縦位集合、IIb帯懸垂、分帯	B3b/A3f/A3b	A3bは口唇	-	-	-
-	-	-	-	-	A1a	2~3	-	沈線区画沿いと区画内細斜行	-	三角	沈線文角挟り	-	-
B.C	6	2条一組、区画線と継手文	継手懸垂文	-	C3a	5	綾杉条沈線や半隆起線上刻みで空間充填	継手文、コ字文ほかで空間充填	C1b/A3f/B2e	三叉文	交互三叉文など	-	-
E	7	2条一組、分帯	2条で継手連結懸垂	-	C3a	6	-	隆線脇、継手懸垂	-	-	-	-	-
E	8	分帯、懸垂	継手懸垂	-	C3a	3.5	隆線脇	隆線脇	B3d.f	-	-	-	-
B	7	分帯、大区画	分帯、懸垂文	突起に渦巻等	C3a	5	区画内隆線脇と中央に短線	隆線沿い、単独懸垂や短線	-	-	-	隆線上縄文	-
A.B	10/7	口唇にA隆線、Bは分帯	分帯と懸垂文	口唇突起	C3a	6	Ia帯縦位充填、b帯は長方形区画	隆線沿いと単独懸垂など	-	-	-	-	竹管は半裁以上
B	8	II帯との分割線のみ	Y字懸垂文	-	A1a	1~2	分帯や重三角区画、渦巻き三叉文	隆線沿い	B3f(三叉文と)	T字(Ib帯のみ)、三叉文	渦巻き三叉文など	隆線上	-
D	6	懸垂	-	口唇突起	A1a/B1a	3/1	斜行充填など	斜行充填	-	-	-	-	-
B	8	継手文など	-	-	C3a	3	斜行充填	斜行充填ほか	-	-	-	-	-
E	8	分帯、継手懸垂	分帯、懸垂	口唇突起	C3a	4	U字、縦位充填	U字、斜行充填など	-	-	-	-	-

表14-(4) 屋代遺跡群XV層・XIV層・XIII層出土土器観察表

図版番号	出土地点				器種	器形			造形(素材～焼き上がり)		地文 器面調整	装飾割付		把手、突起	
	基本層位	出土遺構/地点	層位・取上No.・接合関係			A～O 類型	口縁	底部	胎土	色調		縦位分割	文様帯		
222	334	XIV-1b炭	SQ7003	I21-No4	I21J14, J24, J48, Nグ リット脇ほか	深鉢	III2	C	-	雲母多	赤褐～褐灰	縦・結節LR縄	4-4	I-II	2対の突起
224	363	XIV-1b	SQ7003	I22-No3	?	深鉢	III3	C	b	雲母多	にぶい赤褐	縦・結節LR縄	4-4	I a. b-II	?
224	364	XIV-1b	SQ7003	I22J24	I22J34	深鉢	I 1	A?	b	雲母、石英ほ か	にぶい赤褐	磨き	-	I-II	-
224	370	XIV-1b	SQ7003	I22J28	-	深鉢	I 2	B	-	雲母、石英混 入	灰褐～にぶ い赤褐	縦・LR縄	-	I-II	1ヶ
224	374	XIV-1b	SQ7003	I22-No6	I22J37	深鉢	III2	B	-	雲母混入	褐灰～黒褐	縦・LR縄	-	I-II	-
225	1	XIV-1b炭	SQ9004	I24J21-No1	I24J18-No1, J21-No1, J31-No1, J01, J02, J11, I23J16-No1, J17, J18	深鉢	III3	B	-	白色粒多	灰白～褐灰	縦・RL縄とL縄	?	I a. b-II	環状突起など
225	7	XIV-1b炭	SQ9004	I18J69	J68, J78	深鉢	III?	B	-	雲母混入	褐～黒褐	I帯は横(一部 縦)・LR	?	I a. b-?	突起有
226	43	XIV-1b炭	SQ9004	I23J31	I23J42, J51, J52, J57, I21J61, N3J33	深鉢	I 3	B?	-	白色粒, 黒色 粒混入	にぶい赤褐 ～黒褐	縦・LR縄	?-4?	I a. b-II a. b	突起有
226	48	XIV-1b炭	SQ9004	I24J33	-	深鉢	V 2	B	-	混和材微小	にぶい赤褐	-	-	I a. b-II	波状突起
227	1	XIV-1c	包含層	I17J67	I17J77	深鉢	II 3	A?	-	白色粒, 石英 ほか	にぶい黄褐 ～褐灰	磨き	-	I-II	-
227	14	XIV-1b	包含層	I22J68	I22J78	深鉢	III2	B	-	雲母、石英な ど	にぶい赤褐 ～黒褐	縦・RL縄	4?-4?	I a. b-II	突起有
227	17	XIV-1b炭	包含層	I20J41	-	深鉢	? 4	-	-	雲母など	にぶい赤褐 ～褐灰	縦・LR縄	?-2?	?-II	-
227	21	XIV-1b炭	包含層	I23-No1	I23-No2, 3, 6, 7, I23 J01, J21, I18J66, I22- No3	深鉢	III4	B	-	雲母、石英な ど	赤褐～黒褐	I帯横, II帯縦・ LR縄	4?-4?	I-II	2対1単位突起
227	22	XIV-1b	SQ7003	I17-No3	-	深鉢	II 2	B	-	石英	にぶい黄褐 ～黒褐	磨き	-	I-II	小突起
228	23	XIV-1b炭	包含層	I23-No7	14-1b炭層 I23-J22	深鉢	III3	B	a	雲母、石英	赤褐～黒褐	縦・RL縄	(4?)-4	I a. b-II	?
228	34	XIV-1a 上面	包含層	M10-No1	-	深鉢	? 2	-	b	黒粒, 雲母	橙～灰褐	縦・結節RL縄	(-)-2.2	(-)-II	-
229	41	XIV-1c	包含層	N1J65	-	深鉢	I 2	B	-	岩片など混 入	にぶい赤褐	縦・LR縄	?	I-II	波状突起
229	42	XIV-1b	包含層	N1J37	-	深鉢	V 2	B	b	白色粒, 雲母 混入	にぶい赤褐 ～黒褐	縦・短軸絡糸体第 1種L縄	4?-4	I a. b-II a. b. c	突起有
229	43	XIV-1b	包含層	N8J36	-	深鉢	V 2	B	-	雲母、石英混 入	にぶい赤褐 ～黒褐	-	4-?	I a. b-II a. b	小突起
230	8	IV	他時期混入	SD7042-H15	SD7058	深鉢	I 1	A	-	黒色粒など	褐灰	縦・短軸絡糸体第 1種L, II帯では 条線化	-	I-II	-

中期中葉～後葉1期

237	1	XIII-2	SB6801	炉体	-	甕	(I) 4	B	-	石英、白色粒	灰褐～にぶ い赤褐	縦・RL縄	4-4	(I)-II	耳状突起
237	2	XIII-2	SB6801脇	N6-No1	-	浅鉢	V 1	B	a	白色粒, 黒色 粒	にぶい橙～ にぶい赤褐	磨き	4-2	I-II	貼付文で突起
237	4	XIII-2	包含層	H20J37	-	深鉢	4	A	a	白色粒, 石英 ほか	にぶい赤褐	指頭圧痕残存	?	II	-
237	12	XIII-2	包含層	I24J78	-	深鉢	1 3	小波 状	a	白色粒	にぶい赤褐 ～褐灰	縦・RL縄	?	I-IIa	-
238	13	XIII-2	包含層	H20J07	H20J17, SD7042・ 7062混入	有孔 鈎付	II 2	A	a	赤色粒など 混和材微	にぶい橙～ 褐灰	磨き	-	I-II	-
238	15	XIII-2	包含層	N2J71	SD8032混入	深鉢	VI?	小波 状	-	石英、黒色粒 混入	にぶい赤褐 ～黒褐	縦・L縄	4?	I a. b-?	-
238	18	XIII-2	包含層	N3J33	N3J01, J16, J26, N4, SD7045・8032混入	深鉢	III4	B	-	白色粒ほか	にぶい黄褐 ～にぶい赤 褐	-	4?-4?	I-II	橋状把手
238	19	XIII-2	包含層	I21J56	N2J02	深鉢	III3	?	a	白色粒多	にぶい橙～ 褐灰	縦・RL縄	?-4?	I-II	橋状把手

引用・参考文献

- 荒川隆史 1999 「第VI章 2 A 土器」『上信越自動車道関係発掘調査報告書 V 和泉A遺跡』(新潟県埋蔵文化財調査事業団)
- 上田典男・三上徹也 1995 「長野県の様相」『第8回縄文セミナー 中期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
- 加藤三千雄 1995 「北陸の様相」『第8回縄文セミナー 中期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
- 小林謙一 1995 「南関東の様相」『第8回縄文セミナー 中期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
- 寺内隆夫 1991 「長野県上水内郡三水村・上赤塩遺跡出土の縄文中期土器について」『長野県考古学会誌』61.62合併号
- 寺内隆夫 1997 「御代田町滝沢遺跡出土の縄文中期前葉(滝沢IV期)の土器について」『滝沢遺跡』御代田町教育委員会
- 寺崎祐助 1995 「新潟県の様相」『第8回縄文セミナー 中期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
- 中山真治 1992 「五領ヶ台式土器—その段階設定と系統について—」『東京考古』10

形状	幅 (mm)	隆線系装飾			沈線系装飾			刺突・刻み	陰刻文形状	施文特徴	縄圧痕など	備考
		I文様帯用例	II文様帯用例	貼付文	沈線形状	幅	I文様帯用例					
B	6	分帯	—	—	A1a	2.5	隆線脇、渦巻	隆線脇	A3f	三叉文	渦巻三叉文など主装飾	—
B	8	Ib帯長楕円区画	懸垂	—	A1a,b	3	横線、渦巻ほか	—	A3a,c	三叉文	渦巻三叉文など主装飾	—
—	—	—	—	—	A1a	2	横位	懸垂、渦巻	A4a,d/A3f	—	—	—
B	7	分帯	懸垂	「し」字貼付	A1a	3	口唇表面	—	—	三叉文	口唇表面	横位隆線上縄文
B	4~8	重三角区画	懸垂	区画基部に円、渦巻	A1a	3	隆線脇根三叉文など	隆線脇	A,B3f	—	—	—
E	10	分帯、懸垂	継手懸垂	—	C3a	6	隆線脇、斜行充填	隆線脇	A3c,d	—	—	口唇表面に突帯
B	6	重三角区画	—	—	C2.3a	3	隆線脇、円文	—	A3b(突起上)	三叉文	玉抱三叉文ほか	隆線上縄文
B	4	—	IIa帯長楕円区画、懸垂文、三角形文	—	A1a,b	2	Ib帯に角押文	渦巻、楕円懸垂ほか	A3b(口唇)	三叉文	口唇表面、IIb帯文様の角部	—
B	8	分帯	懸垂	懸垂基部横棒状	A1a	1.5	Ib体に斜格子	隆線脇と斜行充填	—	—	—	—
B	11	分帯	分帯、懸垂	懸垂基部	B1a/C3a	3.5	Bで縦位充填	Cで区画、Bで充填	C1b	三叉文	II帯で交互三叉文	—
B	6	重三角区画	懸垂	—	A1a	3	隆線脇	—	—	三叉文	Ib帯中	隆線上縄文
B	6	クランク状分帯?	—	—	C2.3a	4	正格子ほか	隆線脇、懸垂	—	—	—	—
B,D	7~12	重三角区画	懸垂、三角区画など	—	C2.3a	4	隆線脇、円文ほか	隆線脇、その他	—	三叉文	玉抱三叉文ほか多用	—
—	—	—	—	—	A1a	2	横線	渦巻文ほか	A1~4A~f	三叉文	玉抱三叉文ほか	—
B	8	Ia,b両帯に掛かる重三角区画	分帯、Y字懸垂文	—	A1a	3	隆線沿、渦巻文	隆線沿いほか	—	三叉文	I帯で渦巻三叉文が主装飾	隆線上
A,B	5~8	—	分帯と懸垂文、隆線上縄文	—	A2a	3	隆線沿い	隆線沿い、独自懸垂と渦巻	—	—	—	隆線上
A	7	—	三角区画	—	A1a,b	2.5	横位	隆線脇	—	三叉文	I帯に	—
E	6	2条1組で分帯など	2条1組で懸垂	—	C3a	3.5	Ia帯横位充填、Ib帯斜格子	IIa帯縦位充填、IIb帯クランク文ほか、IIc帯斜格子	C1b	—	—	—
B	6	分帯のみ	—	—	A1a/C3a	2.5/5	Ia帯Aで、Ib帯はCで縦位充填	IIa帯斜行、IIb帯は渦巻文ほか	A3f/A2e(突起上)	三叉文	渦巻三叉文	—
—	—	—	—	頸部単位文	C3a	4.5	横線	分帯、懸垂ほか	B3f	三叉文	沈線装飾脇、交互三叉文	—

A,B,D	11	口唇から延びる耳状突起	逆「し」字懸垂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B,D	4.5	分帯	クランク懸垂	I帯に蛇行、舌状	B1b	2	隆線脇、充填	—	B2e/B3f	三角	B2eとセット、B3fは口唇部	内外面ベンガラ塗布	ベンガラ
A	8	—	蛇行懸垂	懸垂基部	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	C3a	4	口唇表面横位	横位多条	A3b 口唇小波状	—	—	—	—
B,D	6	分帯、鐙	クランク懸垂?	欠損	—	—	—	—	—	—	—	内外面ベンガラ塗布	ベンガラわずかに残存
D	8	半楕円区画、曲隆線文	—	曲隆線文基部	C3a	5	Ia帯で横位、Ib帯で隆線脇多条	—	B1b(口唇)	—	—	—	—
B	9	懸垂	懸垂	隆線上	A1a	2	連続「U」字文	縦位充填	B1b	—	—	—	—
B	10	分帯、区画文?	分帯	—	A1a	1.5/3	太い方を隆線脇、細い方で充填	太く浅い方で渦巻文など	—	—	—	—	—

- 西沢隆治 1982 「深沢遺跡」『長野県史』考古資料編全1巻(2) 主要遺跡(北・東信) 長野県史刊行会
 山口逸弘 1995 「群馬県の様相」『第8回縄文セミナー 中期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
 山下勝年 1998 「山田平遺跡出土の縄文中期初頭の土器1」『伊勢湾考古』12
 山下勝年 1999 「山田平遺跡出土の縄文中期初頭の土器2」『伊勢湾考古』13

表16 屋代遺跡群XIV層出土土偶観察表

報告番号	仮地区	大地区	中地区	小地区	層位	遺構名	遺構内層位	取上番号	部位	胎土/色調	製作	装飾	備考
1	5b	I			XIV 1	SB5408	2L	90	頭	雲母多/赤褐～黒褐	ソケット頭部	鋭利な単沈線	同一個体有(18)
2	5b	I			XIV 1	SB5408	2L	59	左胸～左腕	雲母多/にぶい赤褐		平行沈線	
3	6a	I	H25		XIV 1 c~2	SK7670			胸部下半	雲母多/にぶい赤褐		単沈線	
4	6a	I	H25		XIV 1 c~2	SK7670			胸部上半	礫混入/黒褐		平行沈線	左・右出土地点別 接合
5	6a	I	I21	J25	XIV 1 b	SQ7003	炭層		頭	雲母多/にぶい赤褐		鋭利な単沈線	
6	6a	I	I16	J73. J15	XIV 1 b	SQ7003	炭層		左胸・腕～頭	雲母多/にぶい赤褐	胸下部に串痕、首側 ソケット凸部	鋭利な平行沈線	同一遺構内で接合
7	6a	I	I21	J47. J36	XIV 1 b	SQ7003	炭層		胸部上半～ 両腕	雲母微/にぶい赤褐	首部、足下に串痕	単沈線	同一遺構内で接合
8	6a	I	I21	J19	XIV 1 b	SQ7003			胸部下半	雲母多/にぶい赤褐	右腹上に串痕	平行沈線/単沈線	
9	6a	I	I16	J61	XIV 1 b	SQ7003	炭層		左腕	雲母/にぶい赤褐	首部凹部	鋭利な単沈線	
10	6a	I	I21	J44	XIV 1 b	SQ7003			左足	雲母多/にぶい赤褐	串痕	鋭利な単沈線集合	
11	6a	I	I16	J72	XIV 1 b	SQ7003	炭層		右足	雲母多/にぶい赤褐	串痕	鋭利な単沈線と 髑髏文	
12	6a	I	I16	J46	XIV 1 b	SQ7003	炭層		右足	白色粒多/灰黄褐	串痕	鋭利な単沈線	
13	6b	I	I17	J75	XIV 1 b	SQ7003	炭層		右足	石英多/灰黄褐	脚部削り、足部の突 出なし	なし	異系統
14	6a	I	H24	J68	XIV 1 a	-			左足	雲母多/にぶい赤褐	串痕	単沈線	
15	5b	I	N15		XIV 1 a	-		15	胸～胸部	雲母多/にぶい赤褐	-	単沈線	
16	6b	I			混入	SD8044	-		頭	雲母無/黒褐	-	単沈線	二次焼成

B. 土器片製円盤 (図版232)

総点数117点を数える。XIV-1・2層において多く出土しており、他層位には皆無となる。

定義と分類 土器片を5cm前後に小割りし、側面を研磨して円形あるいは隅円方形に加工した土製品。加工の程度によりA～Eに分類した。

- A 円形あるいは隅円方形を呈し、側面の全周に磨きがかかったもの
- B-1 平面形は円形に整っているが、側面に研磨されていない部分が残るもの
- 2 側面の全周に磨きが行き届いているが、形が不整形を呈するもの
- C 平面形はほぼ円形や隅円方形に近く、側面には部分的に磨きがかかったもの
- D 平面形は不整形で、ごく一部に磨きがかかっているもの
- E 土器片を小割にしたもの。磨き認められないもの

A=17点、B=27点、C=43点、D=14点、E=16点を数える。

形状と計測値 平面が円形に整えられている例はA・Bランクの内に30点、隅円方形や隅円長方形に近いものが9点存在する。形状が整ったA～Cの計測値の平均は、長径はA=3.4cm、16.8g。B=3.5cm、17.0g。C=3.7cm、20.3gである。

製作 形が整い、側面の研磨が行き届いているAを完成品とすると、E→Aの工程を想定することができる。形が整いつつあるCからAへは、大きさや重さの平均値が次第に小さくなっており、研磨が最も進み小型化したAが最終的な形態を示していると思われる。ただし、研磨が部分的であっても平面形がほぼ整っているCも完成品として活用されていた可能性は残る。

素材の選択は、土器の体部破片を主とし、隆線を避ける傾向がある。しかし、研磨しやすい軟質な土器を選ぶ傾向は認められない。

製作は土器片を小割にすることからはじまる。同一個体の土器を使った例があり、土器片を分割する段階で数個を同時に製作して行く場合があったと考えられる。次に、側縁を打ち欠き形状を整え(E)、さらに側面に研磨を施して行く工程を踏む(D→A)。図版232-14は、打ち欠きによって大きさを整えることをせずに、比較的大きな土器片をいきなり研磨して小型の円盤を作成しようとした例である。しかし、D段階で放棄されている。

点数と出土状況 他遺物の出土量も多いSQ7003に多く見られ、特異な出土状況は示していない。

(3) 石器・石製品

A 整理の方法

XIV-1・2層から出土した石製遺物の総点数は、遺構内出土(5,033点・64%)に遺構外および包含層出土(2,861点・36%)を加えた計7,894点である。このうち剥片石器・剥片類・石核は4,440点(56%)、礫石器・搬入礫は3,441点(44%)である。そのうちここでは遺構内出土遺物を中心に取り上げ、遺構外出土遺物については整理期間の制約により総点数の計上にとどまった。したがってここで提示できる石製遺物組成・石材組成等については、特別の記載がない限り遺構内出土遺物に基づいている。

またすべての遺構内出土遺物については、次項で述べる分類に基づき類別および台帳記載を行い、その中から代表的なもの25点を図化した。さらに剥片石器は欠損状況を類別した上で、完形および半損以上の資料については、次項の属性に基づき観察表を作成した(表23)。

B 分類の方法と類型

① 剥片石器・剥片類・石核

<概要>

XIV-1・2層から出土した剥片石器は、石鏃・石錐・削器類(小形・大形)・楔形石器・打製石斧・磨製石斧がある。さらに微細剥離を有する剥片・二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核・原礫を組成する(分類については第5章第3節2に準拠する)。遺構内から出土した剥片石器・剥片類・石核(以下、剥片石器類とする)は、合計2,666点を数え、そのうち剥片石器の占める割合は221点(8%)に上る。剥片石器は黒曜石を素材とする小形剥片石器と粘板岩などの細粒の堆積岩を素材とする大形剥片石器に大別できる。小形剥片石器では石鏃(38点)・小形削器類(34点)が主体をしめ、これに石錐(15点)・楔形石器(3点)が伴う。粘板岩製の大型剥片石器では打製石斧(68点)と大型削器類(60点)が主体で、これに磨製石斧(3点)が伴う。

また微細剥離を有する剥片は、黒曜石の小形剥片を素材とするものが479点、粘板岩の大型剥片を素材とするものが97点と多数出土し、石製遺物組成のうえで高い割合をしめる。この他、二次加工のある剥片が111点、剥片・碎片が1494点、石核が264点出土している。

剥片石器類に利用された石材は、肉眼鑑定により黒曜石・珪質頁岩・粘板岩に類別した(石質の分類については第5章第3節2に準拠する)。また磨製石斧の利用石材についてはEPMAによる元素解析を行い(第5章第3節(3))、その鑑定により蛇紋岩・透緑閃石岩に類別した。

XIV-1・2層の遺構内から出土した剥片石器類の総重量は、21,685.5gである。これを石材別にみると粘板岩16,449.2g(698点)・黒曜石4,572.8g(1955点)・その他663.5g(13点)となり、剥片石器類の総重量の約76%が粘板岩、逆に点数では約73%が黒曜石であることを示している。

表17 XIV-1・2層遺構内出土の剥片石器器種別利用石材

	黒曜石	粘板岩	計
石鏃	38	0	38
石錐	15	0	15
楔形石器	3	0	3
小形削器類	34	-	34
大型削器類	-	60	60
打製石斧	-	68	68

表18 XIV-1・2層検出竪穴建物跡及びSQ7003出土の剥片石器器種別欠損状況

	完形	略完形	一部欠損		半損		半損以上	計
			a	b	a	b		
石鏃	11	4	4	5	1	4	8	37
石錐	7	1	-	-	2	1	4	15
打製石斧	12	2	6	6	4	7	24	61
磨製石斧	0	0	1	0	0	1	1	3

	完形	形	-	-	-	-	半損以上	計
小形削器類	10	2	-	-	-	-	22	34
大型削器類	17	8	-	-	-	-	29	54

〈石鏃〉（図版233-1～10）

XIV-1・2層では計38点が出土している。

利用石材 すべて黒曜石である。

形態・属性 第5章第3節2に準拠する。

形態組成（表19）・欠損状況（表18） XIV-1・2層検出の全竪穴建物跡（SB）およびSQ7003から出土した石鏃は計37点を数える。このうち形態の判明した石鏃22点中、14点（64%）がD3類（凹基式鏃）、4点（18%）がD2類、残りの約18%がC1類（3点）とC2類（1点）である。

XIV-1・2層検出の全SBおよびSQ7003から出土した石鏃の欠損状況をみると、完形品11点と略完形品4点の合計は、15点（40%）におよぶ。一部欠損品9点、半損品5点、半損以上が8点を数える。一部欠損・半損品（計14点）のなかでは先端部が残存し基部を欠くものが9点を数える。また完形・略完形品のうち11点は、明らかに石鏃未製品と考えられる資料である（図版233-6～10）。

法量 完形品における最大長・幅の相関関係を図10の散布図に示した。これによれば長さ15～27mm・幅10～23mmの範囲に散漫な分布をみせる。最大厚約3～4.5mm・重量0.8～1.2gの範囲におさまる。

特記事項 1は厚みのある剥片を素材とした平基式鏃。3は縁辺が鋸歯状を呈する凹基式鏃。5は裏面に礫面をとどめる小形の凹基式鏃。6～10はSQ7003出土の石鏃未製品。

表19 XIV-1・2層検出全竪穴建物跡出土の石鏃の法量・属性

	最大長/幅比			最大厚			挟長/最大長比			重量			最大長(以上-未満/mm)					先端角(以上-未満/度)							
	計上数	平均	偏差平均	計上数	平均(mm)	偏差平均	計上数	平均	偏差平均	計上数	平均(g)	偏差平均	10-15	15-20	20-25	25-30	30-	計	20-30	30-40	40-50	50-60	60-70	70-	計
C1類	3	1.43	0.13	3	6.0	2.08	3	0	0	2	1.4	0.78	0	1	2	0	0	3	0	0	1	2	0	0	3
C2類	1	1.09	-	1	6.3	-	1	0.14	-				0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1
D2類	2	1.34	0.07	4	5.5	2.45	2	0.12	0.03	1	3.3	-	0	1	0	1	0	2	0	0	1	1	0	0	2
D3類	8	1.45	0.30	14	3.8	1.54	10	0.28	0.06	5	0.9	1.06	1	4	4	1	0	10	0	1	6	2	1	0	10

〈石錐〉（図版233-11～15）

XIV-1・2層では計15点が出土している。

利用石材 すべて黒曜石である。

形態・属性 第5章第3節2に準拠する。

形態組成・欠損状況（表18） XIV-1・2層検出の全SBおよびSQ7003から出土した石錐は、計15点あり、A類（6点）、B類（9点）に類別される。

出土した石錐の欠損状況をみると、完形品7点と略完形品1点、半損以上が7点となる。

法量 完形品における最大長の度数分布にはかなりのばらつきが看取され、大きさに規格性は認められない。一方、石錐の機能部位と推察される錐部においては、その直径が2.5～4.0mmの範囲に集中する。また錐部の断面形は、A類では三角形が多く（計5点）、B類では菱形・円形・三角形に分かれる。

特記事項 11は錐部断面が三角形を呈するように仕上げた棒状の石錐の破片。12～15は剥片の縁辺を加工して錐部を作り出した資料。

〈楔形石器〉（図版233-16）

XIV-1・2層では楔形石器が計3点出土している。

利用石材 黒曜石が利用される。

属性 第5章第3節2に準拠する。

特記事項 16は石核の上下端に階段状剥離が接続する資料。

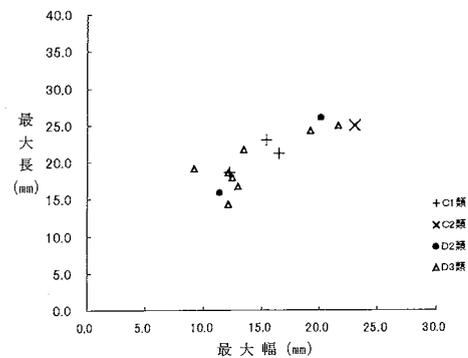


図10 XIV-1・2層出土の石鏃長幅相関散布図

〈削器類〉 (図版233-17~18、図版234-27~31)

利用石材・素材 小形削器類は、黒曜石を素材とする。XIV-1・2層では計34点が出土。大形削器類は、粘板岩を素材とする。XIV-1・2層では計60点が出土。

形態・属性 第5章第3節2に準拠する。

形態組成 (表20)・欠損状況 (表18)

形態の判明した小形削器類 (11点) は、A類 (計4点)・B類 (計2点)・C類 (計7点) に類別され、C類が過半数をしめる。また小形削器類の欠損状況を見ると、完形品10点と略完形品2点の計12点 (35%) にとどまる。次に形態の判明した大形削器類 (25点) は、A類 (計14点)・B類 (計4点)・C類 (計7点) に類別され、A類が過半数をしめる。また大形削器類の欠損状況を見ると、完形品17点と略完形品8点の計25点 (46%)、半損以上が29点となる。

法量 小形削器類は長さ約30~80mm・幅約10~40mmの範囲に、厚さでは約6~20mm、重量1~30gの範囲に分散し、形状の規格性は認められない。大形削器類は長さ50~110mm・幅30~70mmの範囲に、厚さでは約12~15mmの範囲に分布する。小形削器に比べ、最大長幅比 (指数) が指数1.7~2の範囲に集中する傾向がある。

〈打製石斧〉 (図版233-19~24、図版235-25~26)

XIV-1・2層では打製石斧が計68点出土している。

利用石材 専ら粘板岩が利用される。

形態・属性 第5章第3節2に準拠する。

形態組成 (表21)・欠損状況 (表18) XIV-1・2層検出の全SBおよびSQ7003から出土した打製石斧 (計61点) の形態組成を表21に示した。これによれば形態の判明した打製石斧37点の内、65%がA1類 (24点) で、24%がA2類 (9点)、他にA3類 (1点)・A4類 (1点)・A7類 (2点) がある。

打製石斧の欠損状況を見ると、完形品12点と略完形品2点の合計は14点 (23%) にとどまる。一部欠損品12点、半損品11点、半損以上が24点を数える。

表20 XIV-1・2層検出全堅穴建物跡及びSQ7003出土の削器類分類別点数内訳

	小形削器類	大形削器類
A1類	4	4
A2類	0	7
A3類	0	3
B1類	1	1
B2類	1	3
C1類	1	5
C2類	2	0
C3類	4	2
D類	0	0
E類	0	0
計	13	25

表21 XIV-1・2層全堅穴建物跡及びSQ7003出土の打製石斧の法量・属性

	総数	最大長/幅比			最大厚			最大長(以上-未満/mm)						微細剥離	摩耗痕	
		計上数	平均	偏差	計上数	平均	偏差	-80	80-100	100-120	120-140	140-	計			
A1類	24	5	2.58	0.48	24	19.45	5.11	0	1	2	2	0	5	A1類	5/24	12/24
A2類	9	6	2.24	0.42	8	12.88	4.43	1	1	2	2	0	6	A2類	3/9	6/9
A3類	1	0	-	-	1	16.20	-	0	0	0	0	0	0	A3類	0/1	0/1
A4類	1	1	2.19	-	1	14.70	-	0	0	0	0	0	0	A4類	0/1	1/1
A7類	2	2	1.43	0.71	2	17.62	1.56	0	1	1	0	0	2	A7類	2/2	0/2

	重量(以上-未満/g)					刃部形態				刃部角度(以上-未満/度)						
	-80	80-100	100-120	120-	計	直刃	円刃	偏刃	未調整	-20	20-30	30-40	40-50	50-60	60-	計
A1類	1	1	2	0	4	8	5	0	0	1	1	5	3	1	2	13
A2類	4	1	0	0	5	5	1	1	0	0	1	1	1	1	3	7
A3類	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
A4類	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
A7類	0	0	1	1	2	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	2

	基部形態			
	直頭	円頭	未調整	計
A1類	7	3	6	16
A2類	3	2	2	7
A3類	0	0	0	0
A4類	0	0	1	1
A7類	0	0	2	2

	基部-刃部形態							断面形態			
	基部刃部	直頭直刃	直頭円刃	直頭偏刃	円頭円刃	未調整直刃	未調整円刃	その他	計	凸レンズ	D字形
A1類	2	1	0	1	1	1	0	5	21	3	24
A2類	2	0	0	1	2	1	6	3	5	8	
A3類	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
A4類	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	
A7類	-	-	-	-	-	2	2	1	1	2	

法量 完形品における最大長・幅の相関関係を図11の散布図に示した。これによれば長さ90～130mm・幅35～60mmの範囲に集中が認められる。またXIV-1・2層の資料には、長さが150mm以上の超大形品は存在しない。最大厚は約12～20mmの範囲におさまる。

刃部角はA1類では30～40度、A2類では60度以上に分散する傾向がある。刃部形態では直刃（計14点・64%）、円刃（計7点・32%）、偏刃（計1点・4%）となる。基部形態では直頭形（計10点・38%）、円頭形（計5点・19%）、未調整（計11点・42%）となる。

刃縁に微細剥離痕が認められる資料は、形態の判明した打製石斧37点のうち計10点（27%）である。また摩耗痕は計19点（51%）に認められた。

特記事項 20は撥形を呈する打製石斧（A2類）で、刃部を直線的に仕上げる。21は基部側の側縁をわずかに内湾するように仕上げる（A4類）。24は裏面左側縁に敲打痕をとどめる（A1類）。

〈磨製石斧〉（図版235-44～50）

XIV-1・2層では計7点が出土している。

利用石材 蛇紋岩（2点）・透緑閃石岩（4点）・粘板岩（1点）である。

形態・属性 第5章第3節2に準拠する。

形態組成（表23-(2)）・**欠損状況**（表18） XIV-1・2層から出土した磨製石斧は、計7点を数える。このなかで形態の判明した磨製石斧は5点あり、B1類（3点）、A1・A2類（各1点）に類別される。

磨製石斧の欠損状況をみると、略完形品1点、一部欠損品1点、半損品2点、半損以上が3点を数える。

法量 完形品がないため、ここでは各形態の刃部・基部形態の特徴をまとめる。

刃部形態は、A1類では直刃形、A2類では円刃形となる。基部形態はA2類では円頭形、B1類では隅丸直頭形となる。

特記事項 44は板状の粘板岩礫片を素材とする磨製石斧。刃部に研磨を施しノミ状に仕上げている。45・48・49は厚みの有る定角式の磨製石斧。基端部を隅丸方形におさめる。45・49は蛇紋岩製。48は透緑閃石岩製。46は基端部を丸くおさめた小形の磨製石斧（透緑閃石岩製）。

〈微細剥離を有する剥片（M.F.）〉（図版234-32～39）

小形の微細剥離を有する剥片は、黒曜石を素材とする。長さがおおむね5cm未満の資料。

大形の微細剥離を有する剥片は、粘板岩を素材とする。長さがおおむね5cm以上の資料。

特記事項 32～39は黒曜石製の小形の微細剥離を有する剥片である。

〈石核〉（図版234-40～43）

特記事項 40は珪質頁岩製の石核。裏面はネガティブな打面で側面に対して剥片剥離を行う。41・42は黒曜石製で小形の板状石核。打面は180度転移するが、作業面は転移しない。43は剥片と石核の接合資料。

② 礫石器

〈磨石類〉（図版235-51～62、図版236-63～69）

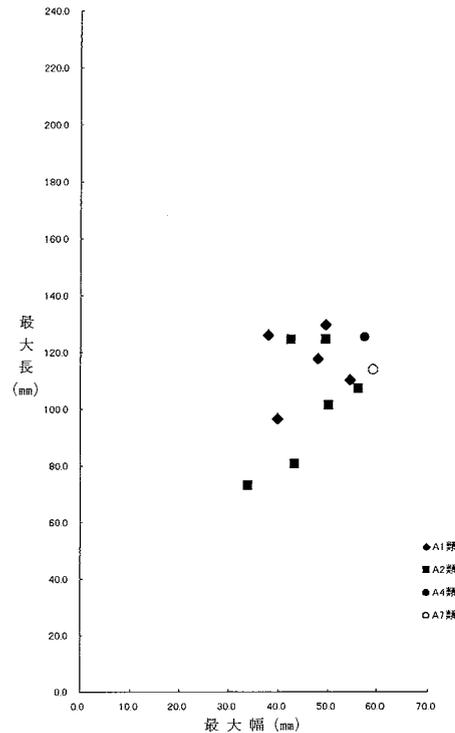


図11 XIV-1・2層出土の打製石斧相関散布図

磨る、敲く、みがくなどの作業（単独もしくは複合）に使われたことが推測される礫を「磨石類」とした。SQ7003を中心に202点出土した。図版では、特に顕著な磨痕が残り、ある程度方向が解る場合に限って「→」で示した。表中「使用痕」の欄には、平面や側面の磨り・みがき痕を「磨」、主に側面の敲打痕を「敲」、平面に敲打もしくは敲打と磨りなどによって顕著な凹みが生じたものを「凹」として記載した。平坦面の磨りと上下端面の敲きが合わさったものが多いが（51、52、55～58）、側面全体に敲きの痕跡が残るものも少数見られる（61）。また、「磨」と「凹」が合わさるものも認められる（63～69）。

〈石皿類〉（図版236-71～74）

対象物を載せてその上で磨る、敲くなどの作業をしたと推測される台を「石皿類」とした。34点出土している。素材に加工を施した「石皿a類」と、板状の石を選択採集してそのまま使用する「石皿b類」に分類した。石材は安山岩、閃緑岩などが見られる。使用痕は加工された表面に顕著に見られるが、未加工の裏面にも摩耗が認められるものがある（71・74）。

〈石棒〉（図版236-75）

石棒は1点出土した。断面形は楕円形で下部が幅広く上部に向かって細くなる。全体を敲打し、その後研磨して成形している。下端の割れ口はソケット状を呈し、摩耗しているため、垂直に立てるための加工であった可能性がある。上部は欠損しており、頭の有無は確認できない。

③ 石製装身具（図版236-70）

緑泥片岩製の玉斧が一点出土した。上部に両面穿孔による直径4mm程度の孔があり、下端は欠損している。幅は下端向かって膨らみ、厚さは孔下2cm程度をピークとして徐々に薄くなっていくことから、磨製石斧と類似した形状が推測される。表裏全面に縦・斜め方向の製作時の擦痕が顕著に見られる。また、孔の上下に幅の広い浅溝が観察され、紐による使用痕と推測した。

表22 XIV-1・2層出土の石製遺物組成表・剥片石器類利用石材組成表

品名	剥片石器類										磨石類		石皿類		多石製		その他		磨入礫		黒曜石		粘板岩		他の石材				
	石鏃	石錐	楔形石器	小形剛器類	大形剛器類	打製石斧	磨製石斧	小形MF	大形MF	R.F.	剥片	砕片	石核	剥片石器類小計	磨石類	石皿類	多石製	石棒	その他	磨石類小計	磨入礫	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)		
SB 5401	1	0	0	0	2	0	0	5	2	0	20	0	4	34	3	0	0	1	0	0	4	17	29	87.5	5	100.3	0	0	
SB 5402	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	4	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	7	4	7.0	3	349.2	1	43	
SB 5403	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	1	1	7	0	0	0	0	0	0	0	1	6	8.6	0	0.0	1	10	
SB 5404	1	1	0	0	0	1	0	3	2	2	8	3	1	22	2	1	1	0	0	0	4	27	17	39.0	5	131.6	0	0	
SB 5405	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	1	11.2	0	0	
SB 5406	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	1	85.1	0	0	
SB 5407	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	15	13	0	33	0	0	0	0	0	0	4	26	32.1	5	39.5	1	33		
SB 5408	1	1	0	1	0	1	0	25	2	4	19	16	4	74	3	1	0	0	1	0	5	5	67	122.7	7	185.7	0	0	
SB 5409	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.9	0	0.0	0	0	
SB 5411	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0	0	0.0	0	0		
SB 5412	1	0	1	0	1	1	0	21	2	2	20	3	15	67	2	0	0	0	0	0	2	1	60	186.7	6	78.8	0	0	
SB 7501	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	3	4	1	0.6	0	0.0	0	0	
SB 7502	0	0	0	0	1	2	0	4	1	0	19	4	1	32	15	0	0	0	0	0	15	143	13	28.5	19	357.9	0	0	
SB 7503	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	1	1	3	22.4	0	0.0	0	0	
SB 9008	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0	2	22.8	0	0	
SB 9009	0	0	0	2	0	2	0	2	1	0	4	0	2	13	3	0	0	0	0	0	3	0	9	31.2	4	288.8	0	0	
SB 9010	0	0	0	1	3	1	0	22	5	2	20	0	10	64	5	0	0	0	0	0	5	10	38	131.7	21	583.0	5	442	
SB 9011	1	0	1	0	2	1	0	18	6	0	16	4	8	57	12	2	0	1	0	2	17	183	44	134.9	13	406.9	0	0	
SB 9012	1	1	0	0	3	1	0	28	7	0	17	8	7	73	1	0	0	0	0	0	1	1	52	126.6	21	758.6	0	0	
SB 9013	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0.0	2	132.5	0	0	
SB 9014	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	1	0	1	7	1	0	0	0	0	0	1	0	3	17.5	4	225.6	0	0	
SB 9015	1	0	0	0	1	1	0	13	1	1	26	21	43	108	2	0	0	0	0	0	2	17	97	266.0	6	145.2	0	0	
SB 9016	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0.0	0	0.0	0	0	
SK 5915	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	7.8	0	0.0	0	0	
SK 5933	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.4	0	0.0	0	0	
SK 7670	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	5	0	0	7	0	0	0	0	0	0	19	0	0.0	11	201.3	0	0		
SK 7676	0	0	0	0	0	3	0	4	3	0	6	0	1	17	2	0	0	0	0	0	2	26	8	35.3	9	487.5	0	0	
SK 7681	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	8	0	0.0	0	0.0	0	0	
SK 7682	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	0	0.0	0	0.0	0	0		
SK 9102	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	6	0	0	8	1	0	0	0	0	0	1	16	5	5.2	3	124.7	0	0	
SK 9108	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	1	10.0	0	0.0	0	0		
SF 7030	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0.0	0	0.0	0	0	
SQ 7003	26	11	1	29	39	49	3	316	59	97	885	288	160	1963	136	28	0	0	5	0	2	171	1444	1433	3179.0	526	10692.0	4	44
SQ 7004	0	0	0	0	1	1	0	4	0	2	19	3	4	34	3	0	0	1	0	0	4	61	14	54.2	19	781.1	1	91.0	
SQ 9003	1	0	0	0	1	0	0	4	0	0	9	1	1	17	0	0	0	0	0	0	0	41	14	35.0	3	168.8	0	0	
SQ 9004	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	91.1	0	0	
SD 7500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3	15	0	0	0	0.0	0	0	
総計	38	15	3	34	60	68	3	479	97	111	1128	366	264	2666	202	34	1	1	7	1	4	250	2117	1951	4573	698	16449	13	664

C 石器の遺構からの出土状況

XIV-1・2層からは、竪穴建物跡（SB）22軒、土坑（SK）54基、遺物集中部（SQ）2基が検出されている。石製遺物が出土した遺構は計38基あり、その中から計5,020点の石製遺物が検出されている。遺構内出土の石製遺物は、剥片石器類2,666点、礫石器・搬入礫2,354点に類別される。このうち竪穴建物跡（計23軒）からは、遺構内出土の石製遺物の23%にあたる1,160点が出土している。これを竪穴建物跡1軒あたりの石製遺物の出土量に割り振ると、平均50点、剥片石器類に限っても平均29点にとどまる。

一方、SQ7003からは、遺構内出土の石製遺物総数の71%にあたる3,579点が出土している。このことからXIV-1・2層で検出された遺構では、出土遺物が竪穴建物跡より遺物集中部であるSQ7003に圧倒的に偏る傾向が看取される。SQ7003の石器組成は、石鏃26点・石錐11点・楔形石器1点・小形削器類29点・大形削器類39点・打製石斧49点・磨製石斧3点・磨石類136点・石皿類28点・軽石製品5点となる。出土した剥片石器類のなかで剥片石器（製品）の占める割合は8%にとどまり、SQ7003では90%以上が剥片類や石核であることがわかる。

剥片石器類が50点以上出土する竪穴建物跡は、SB5408・5412・9010・9011・9012・9015がある。この6軒の竪穴建物跡での剥片石器（製品）の割合は平均で6%となり、SQ7003と同様の製品率を示す。

XIV-1・2層の石製遺物組成のなかで高い割合を示すものは、黒曜石製の小形の微細剥離を有する剥片である。SQ7003では剥片石器類の16%にあたる316点が出土し、先の6軒の竪穴建物跡でも平均で30%に近い値となる。一方、粘板岩製の大型の微細剥離を有する剥片の割合は、SQ7003で3%、先の6軒の竪穴建物跡でも5%にとどまる。また礫石器が多数出土した遺構は、SQ7003（173点）、SB7502（13点）、SB9011（15点）があげられる。

礫石器の器種ごとの出土状況では、磨石類がSQ7003、SB7502、SB9011から、石皿類がSQ7003からまともに出土している。



XIV層面の調査

表23-1) 屋代遺跡群XIV-1・2層出土石製遺物観察表

石鏃

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	袂/茎長	先端角	重量	備考
233	-	1	SB 5408	4LsNo33	AH	C1	ob.	-	略完形	21.2	16.5	7.3	0.0	51	2.2	未製品
233	57	2	SQ 7003	H-25	AH	D3	ob.	B	完形	18.6	12.1	4.2	4.7	49	0.5	
233	57	3	SQ 7003	I-16	AH	D3	ob.	B	完形	17.9	12.4	4.0	4.3	45	0.5	
233	57	4	SQ 7003	I-16	AH	D2	ob.	B	略完形	15.9	11.4	4.5	1.7	58	0.6	
233	57	5	SQ 7003	I-16	AH	D3	ob.	B	完形	14.3	12.1	2.4	5.6	67	0.2	
233	-	6	SQ 7003	I-21	AH	C1	ob.	A	完形	18.6	12.2	3.6	0.0	55	0.8	
233	57	7	SQ 7003	I-16	AH	D3	ob.	B	完形	25.0	21.6	7.6	7.0	58	2.8	未製品
233	57	8	SQ 7003	I-21	AH	D2	ob.	B	完形	26.0	20.1	9.1	3.7	43	3.3	未製品
233	57	9	SQ 7003	I-17	AH	C2	ob.	A	略完形	25.0	23.0	6.3	3.5	61	2.7	
233	57	10	SQ 7003	I-21	AH	(A)	ob.	B	完形	30.0	21.4	6.8	-	-	3.6	未製品
			SB 5404	sNo1	AH	D2	ob.	B	一部欠a	(14.9)	16.8	3.7	1.8	-	0.8	
			SB 5409	No. 1	AH	D2	ob.	B	一部欠a	(16.2)	14.2	4.6	2.7	-	0.9	
			SB 7501	9-2L	AH	D3	ob.	B	完形	21.7	13.4	3.0	5.8	40	0.6	
			SB 9011	-	AH	D3	ob.	B	一部欠b	19.1	9.2	2.5	5.7	39	0.4	
			SQ 7003	I-21	AH	D3	ob.	B	一部欠b	(17.2)	11.9	2.9	-	50	0.5	
			SQ 7003	I-21	AH	D3	ob.	B	半損a	(14.3)	17.9	4.3	3.3	-	1.0	未製品
			SQ 7003	I-21	AH	D3	ob.	B	一部欠a	(13.6)	14.2	2.6	5.1	-	0.5	未製品
			SQ 7003	I-21	AH	D3	ob.	B	一部欠a	(13.4)	12.7	2.7	6.2	-	0.3	
			SQ 7003	I-16	AH	D3	ob.	B	略完形	16.7	12.9	3.4	3.6	46	0.4	
			SQ 7003	I-16	AH	D3	ob.	B	一部欠b	20.0	(10.9)	3.9	5.1	42	0.5	
			SQ 7003	I-22	AH	D3	ob.	B	一部欠b	20.5	(9.9)	3.2	7.6	44	0.4	
			SQ 7003	I-16	AH	(C1)	ob.	A	完形	20.8	16.2	7.0	0.0	42	1.6	未製品
			SQ 7003	I-21	AH	(D1)	ob.	B	完形	22.0	18.8	6.6	1.5	-	2.2	未製品
			SQ 7003	H-25	AH	C1	ob.	B	完形	23.0	15.4	7.1	0.0	44	1.9	未製品
			SQ 7003	I-21	AH	D3	ob.	B	一部欠b	24.3	19.2	6.6	6.1	-	2.1	未製品

石錐

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	錐部断面	錐部直径	摩耗	重量
233	57	11	SB 5404	3LsNo8	Dr	A	ob.	-	先端部	(15.2)	5.0	3.6	三角形	3.1	×	0.3
233	57	12	SB 7502	埋焼炉内	Dr	B	ob.	B	完形	18.6	9.2	4.4	円形	2.5	○	0.8
233	-	13	SQ 7003	I-20	Dr	B	ob.	B	略完形	(17.4)	11.0	6.5	菱形	2.6	×	1.0
233	57	14	SQ 7003	I-22	Dr	B	ob.	B	完形	28.6	13.3	6.9	円形	3.7	○	1.8
233	57	15	SQ 7003	I-16	Dr	B	ob.	B	完形	23.9	18.8	7.1	三角形	3.6	×	2.0
			SB 5407	2LsNo15	Dr	B	ob.	B	完形	28.3	17.8	4.7	三角形	2.4	×	1.5
			SB 5408	3LsNo21	Dr	A	ob.	B	先端部	(15.1)	4.9	4.1	菱形	2.0	×	0.2
			SB 9012	2L	Dr	A	ob.	B	半損b	(15.5)	7.8	5.1	三角形	4.0	○	0.5
			SQ 7003	-	Dr	A	ob.	B	完形	23.6	18.3	8.0	三角形	3.7	×	1.5
			SQ 7003	-	Dr	A	ob.	A	完形	29.1	7.0	4.8	三角形	2.9	○	0.9
			SQ 7003	-	Dr	B	ob.	B	完形	20.9	16.2	5.6	円形	4.1	○	1.3
			SQ 7003	-	Dr	A	ob.	B	半損a	(21.9)	14.6	5.2	三角形	-	×	2.6
			SQ 7003	-	Dr	B	ob.	B	半損a	(35.3)	19.0	8.4	菱形	-	×	4.7

楔形石器・微細剥離を有する剥片・石核

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	石材	石質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
233	-	16	SB 5412	2L	楔形石器	ob	B	29.7	15.2	10.8	5.3	
234	57	32	SB 5412	3LsNo52	MF	ob	B	22.0	20.7	8.6	3.3	
234	57	33	SB 5412	2LsNo12	MF	ob	B	24.0	18.1	5.0	1.5	
234	57	34	SB 5412	2LsNo13	MF	ob	B	18.4	19.4	2.8	0.7	
234	57	35	SB 9010	4L	MF	ob	A	23.8	17.2	3.8	1.1	
234	57	36	SB 9010	3L	MF	ob	B	23.6	25.7	6.9	3.4	
234	57	37	SQ 7003	-	MF	ob	B	16.8	17.6	4.2	1.0	
234	57	38	SQ 7003	-	MF	ob	A	11.6	24.0	5.5	1.4	
234	57	39	SQ 7003	-	MF	ob	A	16.7	23.2	5.3	2.0	
234	57	40	SB 5403	-	Co	珪sh	赤	36.4	28.2	12.3	10.2	求心状剥離
234	57	41	SB 5412	上・下床間sNo2	Co	ob	B	20.0	35.5	9.4	6.0	剥片素材・両設
234	57	42	SB 5412	3LsNo58	Co	ob	B	20.5	28.2	12.3	7.0	剥片素材・両設
234	-	43	SB 5412	下床直sNo12	F+ Co	ob	B	19.9	21.8 26.8	5.0 11.4	2.2 5.2	接合資料

小形削器

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	調整角度	調整形態	整形角度	整形形態	重量	微細	摩耗	備考	
233	57	17	SB 9009	3L	小Se	B1	ob.	B1	完形	40.4	8.7	5.7	43	縮留	59	直線	1.3	○	×		
			SB 5408	4LsNo61	小Se	B2	ob.	B1	略完形	17.8	32.7	6.2	54	内湾	58	内湾	3.5	×	×	三脚石器?	
			SB 7500	1L	小Se	A1	ob.	B1	完形	28.9	25.8	8.2	43	外湾	-	-	4.8	○	×		
			SB 9009	3L	小Se	C3	ob.	B1	完形	32.4	14.8	5.1	-	-	57	直線	2.0	○	×		
			SQ 7003	-	小Se	C1	ob.	B1	完形	15.6	21.8	6.5	-	-	72	内湾	1.2	×	×		
			SQ 7003	-	小Se	C3	ob.	B2	完形	29.1	11.7	6.0	-	-	66/68	直線	1.4	×	×		
			SQ 7003	-	小Se	A1	ob.	B2	完形	51.7	19.1	19.6	43	直線	-	-	6.6	×	×		
			SQ 7003	-	小Se	C3	ob.	A2	完形	22.7	12.3	4.4	-	-	48/51	直線	1.1	×	×		
			SQ 7003	-	小Se	C2	ob.	B2	完形	21.7	26.8	7.7	-	-	70	外湾	4.6	○	×		
			SQ 7003	-	小Se	A1	ob.	A2	完形	30.7	13.1	18.6	-	-	直線	-	-	2.3	×	×	平坦剥離
			SQ 7003	H-25	小Se	A1	ob.	B2	完形	68.2	41.0	9.8	28	外湾	-	-	30.6	○	×		
233	57	18	SQ 7003	I-21	小Se	C3	ob.	-	略完形	27.6	8.1	3.4	-	-	55/68	直線	0.7	○	×		
			SQ 7003	-	小Se	C2	ob.	B2	半損	(25.5)	26.5	9.3	-	-	62	外湾	5.3	○	×		

表23-(2) 屋代遺跡群XIV-1・2層出土石製遺物観察表

大形削器

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	調整角度	調整形態	整形角度	整形形態	重量	微細	摩耗	備考
234	57	28	SB 5402	1L	大Sc	B2	珉tu		完形	72.0	47.0	12.4	48	直線	49	外湾	42.9	○	○	
234	57	29	SB 9010	-	大Sc	A2	珉tu		略完形	72.8	47.3	8.6	25	直線	-	-	33.4	○	○	
234	57	30	SB 9014	-	大Sc	B1	s.l.	B1	完形	146.5	74.1	16.0	43	直線	46	直線	161.4	○	×	
234	57	31	SB 5402	1L	大Sc	B2	s.l.	B1	略完形	118.2	66.4	16.4	36	直線	50	直線	121.7	○	○	
			SB 5401	LL	大Sc	C1	s.l.	B2	完形	79.6	58.0	10.6	-	-	55	直線	56.4	○	×	
			SB 7500	2L	大Sc	A2	s.l.	B2	完形	96.9	52.2	18.0	42	直線	-	-	106.6	×	×	
			SB 7500	1L	大Sc	A2	s.l.	B2	略完形	84.6	65.4	15.2	44	直線	-	-	86.5	×	○	
			SB 7500	2L	大Sc	A2	s.l.	B1	略完形	62.7	31.2	5.4	40	外湾	-	-	12.1	×	○	
			SB 9010	-	大Sc	A2	s.l.	B2	完形	105.2	30.0	6.2	43	外湾	-	-	21.4	○	×	
			SB 9010	1・2L	大Sc	A1	s.l.	B1	略完形	84.0	49.5	9.0	42	直線	-	-	30.6	○	○	
			SB 9011	2L	大Sc	C3	s.l.	B1	完形	73.2	43.4	11.0	-	-	55	直線	51.3	○	×	
			SB 9012	1L	大Sc	C1	s.l.	B2	完形	72.0	47.7	7.6	-	-	68	直線	23.3	○	×	
			SB 9012	1L	大Sc	C1	s.l.	B2	完形	68.2	39.1	11.4	37	外湾	-	-	27.1	×	○	
			SB 9012	1L	大Sc	C1	s.l.	B2	半損	(68.5)	43.2	7.8	-	-	-	22.2	×	○		
			SB 9015	-	大Sc	A3	s.l.	B2	完形	109.2	40.4	13.7	40/44	直線	-	-	63.4	○	○	
			SQ 7003	I-21	大Sc	A3	s.l.	B2	完形	82.2	55.8	11.3	35/42	直線	-	-	41.8	○	○	
			SQ 7003	I-21	大Sc	A2	s.l.	B2	完形	138.9	43.3	9.0	36	外湾	-	-	77.7	○	×	
			SQ 7003	I-21	大Sc	B2	s.l.	B2	完形	76.3	42.6	13.8	40	直線	88	直線	37.5	○	○	
			SQ 7003	I-17	大Sc	C1	s.l.	B1	完形	102.9	61.9	12.7	-	-	78	外湾	69.0	○	○	
			SQ 7003	I-17	大Sc	A1	s.l.	B1	完形	75.7	48.8	16.2	30	直線	-	-	47.3	○	○	
234	-	27	SQ 7003	I-16	大Sc	C3	s.l.	B2	完形	92.7	59.4	19.8	-	-	65/75	直線	10.2	○	○	
			SQ 7003	I-21	大Sc	A2	s.l.	B2	完形	93.8	33.9	14.2	55	直線	-	-	44.1	×	×	
			SQ 7003	I-21	大Sc	A3	s.l.	B1	完形	50.4	53.3	13.0	54/57	直線	-	-	27.8	×	○	
			SQ 7003	I-16	大Sc	A1	s.l.	B2	略完形	53.6	56.0	6.0	23	外湾	-	-	19.4	○	×	
			SQ 7003	-	大Sc	C1	s.l.	B1	略完形	73.4	27.5	8.2	-	-	83	鋸齒	15.6	○	×	
			SQ 7003	I-21	大Sc	C1	s.l.	B1	略完形	50.7	30.7	9.6	-	-	72	直線	14.6	○	×	

打製石斧

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損	長さ	幅	厚さ	刃部形態	刃部角	基部形態	横断面形	重量	微細	摩耗	備考
233	57	19	SB 9013	1L	打斧	A1	s.l.	B1	完形	117.8	47.9	15.3	直刃	33	直頭	凸レ	113.1	×	×	
233	57	20	SQ 7003	I-16	打斧	A2	s.l.	B2	略完形	107.3	56.0	14.3	直刃	25	未加工	D字	83.9	×	○	
233	57	21	SQ 7003	I-21	打斧	A4	s.l.	B2	完形	126.5	57.2	14.7	直刃	34	未加工	凸レ	113.0	×	○	
233	57	22	SQ 7003	I-21	打斧	A1	s.l.	A	略完形	126.0	37.8	11.2	直刃	30	未加工	凸レ	53.4	×	×	刃部熱ハツケ
233	57	23	SQ 7003	I-21	打斧	A1	s.l.	B2	完形	129.7	49.4	14.6	円刃	33	直頭	D字	111.1	×	○	
233	57	24	SQ 7003	I-21	打斧	A1	s.l.	C	一部欠a	(96.9)	47.7	23.3	直刃	46	-	凸レ	132.6	○	○	
234	57	25	SQ 7003	I-16	打斧	A2	s.l.	B2	完形	80.6	43.2	18.3	偏刃	64	円頭	凸レ	67.6	○	○	
234	57	26	SQ 7003	I-21	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠b	(103.8)	52.8	12.9	-	-	未加工	凸レ	74.1	×	○	
			SB 5404	-	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(88.1)	38.1	24.3	-	-	未加工	凸レ	94.0	×	○	
			SB 7502	1L	打斧	A7	s.l.	B1	完形	114.0	59.0	17.8	未加工	40	未加工	D字	135.6	○	×	
			SB 7502	周堤内	打斧	A1	s.l.	B1	半損b	(93.4)	(41.4)	23.6	-	-	直頭	凸レ	108.9	×	×	
			SB 9009	-	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠b	(104.2)	46.4	18.1	-	-	直頭	凸レ	115.7	×	×	
			SB 9010	-	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(91.5)	53.0	22.0	直刃	34	-	凸レ	118.8	×	×	
			SB 9011	-	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(79.5)	44.6	23.9	円刃	80	-	D字	92.9	×	○	
			SB 9012	1L	打斧	A1	s.l.	B1	一部欠b	(110.0)	47.0	25.8	-	-	未加工	凸レ	152.8	×	×	
			SQ 7003	H-20	打斧	A1	s.l.	B2	完形	96.6	39.8	17.0	直刃	55	直頭	凸レ	70.5	○	×	
			SQ 7003	I-16	打斧	A2	s.l.	B1	完形	124.4	42.4	12.9	直刃	63	直頭	D字	79.9	○	○	
			SQ 7003	I-16	打斧	A2	s.l.	B2	完形	101.3	50.1	7.6	直刃	78	直頭	凸レ	47.5	×	○	
			SQ 7003	I-16	打斧	A2	s.l.	B2	完形	73.0	33.9	8.7	直刃	49	未加工	D字	46.9	×	×	
			SQ 7003	I-17	打斧	A2	s.l.	B1	完形	124.6	49.4	13.6	円刃	30	円頭	凸レ	90.8	○	○	
			SQ 7003	I-22	打斧	A1	s.l.	B2	完形	110.4	54.3	15.3	円刃	18	円頭	D字	86.3	○	○	
			SQ 7003	I-22	打斧	A7	s.l.	B1	完形	88.4	95.8	15.6	未加工	27	未加工	凸レ	116.8	○	×	
			SQ 7003	-	打斧	A3	s.l.	C	一部欠a	(97.6)	57.2	16.2	円刃	55	-	凸レ	75.8	×	×	
			SQ 7003	I-16	打斧	A2	s.l.	B2	一部欠a	(74.8)	46.6	19.2	直刃	55	-	D字	85.8	×	○	
			SQ 7003	I-16	打斧	A1	s.l.	B1	一部欠a	(104.1)	45.4	23.8	直刃	41	-	凸レ	124.4	×	○	
			SQ 7003	I-21	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(88.7)	50.7	15.8	直刃	34	-	凸レ	98.9	×	○	
			SQ 7003	I-16	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠b	(115.3)	37.7	16.7	-	-	円頭	凸レ	84.7	×	×	
			SQ 7003	I-21	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠b	(113.9)	38.0	8.4	-	-	直頭	D字	45.4	×	×	
			SQ 7003	I-22	打斧	A1	s.l.	C	一部欠b	(104.1)	45.6	20.4	-	-	円頭	凸レ	93.7	×	×	
			SQ 7003	I-17	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(95.8)	49.1	25.7	直刃	60	-	凸レ	149.6	○	○	
			SQ 7003	I-21	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(72.5)	47.4	15.8	円刃	41	-	凸レ	66.9	○	○	
			SQ 7003	I-21	打斧	A1	s.l.	A	半損a	(60.0)	49.1	17.0	円刃	29	-	凸レ	44.8	×	○	
			SQ 7003	-	打斧	A2	s.l.	B1	半損b	(66.2)	(41.4)	(15.8)	-	-	直頭	凸レ	51.6	×	×	
			SQ 7003	I-16	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(82.2)	45.6	13.8	-	-	直頭	凸レ	68.2	×	○	
			SQ 7003	I-17	打斧	A1	s.l.	B1	半損b	(77.0)	50.1	27.1	-	-	直頭	凸レ	147.9	×	×	
			SQ 7003	I-21	打斧	A1	s.l.	B1	半損b	(78.7)	36.0	14.6	-	-	未加工	凸レ	49.7	×	×	
			SQ 7003	I-22	打斧	A1	s.l.	B1	半損b	(84.2)	59.0	28.9	-	-	未加工	凸レ	139.8	×	×	

磨製石斧

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	欠損	長さ	幅	厚さ	刃部形態	刃部角	基部形態	縦断面	横断面	重量	微細	摩耗	備考	分析
235	57	44	SQ 7003	I-17	磨斧	A1	頁岩	一部欠a	(63.2)	17.2	11.3	直刃	34	-	両刃	扁平	17.5	○	○	石質e.2類似	36
235	57	45	SQ 7003	UL	磨斧	B1	蛇紋岩	半損b	(66.2)	41.0	21.2	-	-	隅丸直	-	方形	75.3	×	×		21
235	57	46	-	I-20	磨斧	A2	透緑閃石岩	略完形	43.1	26.5	7.0	円刃	35	尖円	両刃	扁平	13.5	○	○		10
235	57	47	SQ 7003	H-25	磨斧	-	透緑閃石岩	破片	(33.3)	(28.8)	(7.4)	-	-	-	-	-	6.7	×	×		35
235	57	48	-	N-2	磨斧	B1	透緑閃石岩	半損b	(63.2)	(42.6)	(28.7)	-	-	隅丸直	-	方形	128.9	×	×		12
235	-	49	-	N-5	磨斧	B1	蛇紋岩	基部片	(37.2)	(38.8)	(22.2)	-	-	隅丸直	-	方形	53.1	×	×		25
235	57	50	-	N-8	磨斧	-	透緑閃石岩	刃部片	(36.0)	(37.2)	(18.1)	円刃	-	-	両刃	-	19.8	○	○		34

表23-(3) 屋代遺跡群XIV-1・2層出土石製遺物観察表

磨石類

図版	P L	No.	遺構名	出土位置	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	使用痕			備考
										表面	側面	裏面	
235	58	51	SQ7003	I I21J36	磨石類	76	49	30	150	磨	磨	磨	砂岩
235	58	52	SQ7003	I I21J74	磨石類	72	53	39	240	磨	磨	磨	安山岩か 頁岩、表面摩 耗か磨か
235	—	53	SQ7003	I I22J53	磨石類	44	10	10	25	—	—	—	—
235	—	54	SB5412	2L	磨石類	43	17	17	49	磨	—	—	—
235	58	55	SQ7003	I I22J46・47	磨石類	84	37.5	37.5	190	磨	磨	磨	砂岩
235	58	56	SQ7003	I I21J36	磨石類	63.5	28	28	80	磨	磨	—	安山岩
235	58	57	SQ7003	I I22J3	磨石類	60	16	16	50	磨	磨	—	火成岩
235	58	58	SQ7003	I I21J56	磨石類	124	52	52	710	磨	磨	—	—
235	58	59	SB9010	3L	磨石類	87	58	58	490	—	—	—	安山岩
235	58	60	SQ7003	I I21J12	磨石類	71	16	16	102	磨	—	磨	輝緑岩か
235	58	61	SQ7003	I I21J11	磨石類	64	32	32	140	磨	磨	磨	安山岩
235	58	62	SQ7003	I I21J12	磨石類	60	35	35	160	—	磨	—	安山岩
236	—	63	SB9009	2L	磨石類	110	65	65	785	磨・凹	—	—	安山岩
236	58	64	SB9011	3L	磨石類	100	37	37	350	磨・凹	—	磨・凹	安山岩
236	58	65	SB9011	3L	磨石類	94	29	29	220	磨・凹	磨	磨・凹	安山岩
236	58	66	SK9071	—	磨石類	97	46	46	440	磨・凹	磨	凹	角閃石 ^イ 付 安山岩、表裏 面に並行線条 痕
236	—	67	SQ7003	I I21J98	磨石類	108	48	28	610	磨・凹	磨	磨・凹	安山岩
236	58	68	SQ7003	I I17J78	磨石類	127	53	53	777	磨・凹	磨	磨・凹	安山岩
236	58	69	SQ7003	I I21J26	磨石類	106	52	52	540	磨り・凹	磨	磨・凹	砂岩、被熱

石皿類

図版	P L	No.	遺構名	出土位置	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	使用痕			備考
										表面	側面	裏面	
236	58	71	SQ7003	I I26J47	石皿類	150	213	100	5600	磨・凹	—	磨	閃緑岩、石皿 面は表面のみ
236	58	72	SQ7003	I I21	石皿類	112	130	60	1180	磨	—	—	安山岩
236	58	73	SQ7003	I I21J38	石皿類	157	188	63	1730	磨	—	—	表面被熱
236	58	74	SB9016	—	石皿類	223	233	82	7200	磨	—	磨	安山岩

石棒

図版	P L	No.	遺構名	出土位置	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
236	58	75	SB5408	I I6	石棒	535	158	117	12430	痕、炭 化物、 摩耗

石製装身具

図版	P L	No.	遺構名	出土位置	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	使用痕			備考
										表面	側面	裏面	
236	57	70	包含層	I H25J47	玉斧	72	19	5	12	紐擦痕	—	紐擦痕	緑泥片岩

※ただし、図版236-66 磨石類はXII-2層検出遺構(SK9071)出土



SB5408 石棒出土状況

第4章 縄文時代中期中葉（XIII層検出）の遺構と遺物

第1節 概 観

本章では、XIII層で検出された縄文時代中期中葉の遺構と遺物を掲載する。

最も早くXIII層に手が届いた⑤b区では中期中葉の遺物は皆無に近かった。そのため、⑤a区についても重機に調査研究員2～3名がついて平面検出を行い、遺構・遺物がない場合は直ちにXIV層まで掘り下げる方法をとった。⑤a区北部でSB6801が見つかった時点で、⑥区にかけて集落が存在する可能性を考え、SB6801以北での本調査を実施することとした。⑤区南側では遺物が出土しなかったことから、④d区と④a区北区については重機と調査研究員1名による平面検出にとどめた。さらに、④a区以南ではトレンチによる断面観察を行った。

XIII層は、⑥区の一部でXIII-1、XIII-2、XIII-3の3層に細別され、いずれの上面においても遺構が確認された。ただし、ほとんどの地区では細別区分が難しく、XIII-2層に代表させて遺構・遺物を取り上げている。

遺構はXIII-2層を中心に、竪穴住居跡1軒、土坑12基、焼土跡21基が検出された。遺物は少数の個体が散在していた程度で、竪穴住居からの出土も微量にとどまる。

以下、細別が可能であった地区を重視し、XIII-3層より記述する。

第2節 XIII-3層検出遺構と遺物

1 XIII-3層検出遺構と遺物出土状況

明確にXIII-3層を分離できたのは、⑥区の一部にとどまる。XIII-3層の遺構の多くは下部の遺物集中地点（SQ7003）を掘り込んでいる場合が多く、XIV-1層の遺物が混在する状況を示している。

SK7664とSD7500はXIII-3層で検出されたが、人為的な遺構であるか判然としない。また、旧SB7500は、XIV-1層のSQ7003凹地にXIII-3層が落ち込んだ跡と考えられ、SQ7003に含めた。

2 XIII-3層出土遺物

(1) 土 器（図版237、表14、15）

図版237の一部がXIII-3層出土遺物である。本来XIV-1層に含まれるべき資料が浮いてきた例が多いと考えられる。SD7500出土土器はXIV-1層出土土器に類似している。SD7500はSB7503、SQ7004を切り込んでおり、土器の多くは本来それらの遺構に伴っていた資料と見られる。XIII-3層・包含層No.1は中期中葉1期段階（猪沢式並行期）かその直前に位置づけられる指頭圧痕のみの土器である。XIII層・包含層No.1は深沢タイプの系譜を引く土器と見られ、XIV層出土のものに後出する可能性がある。

表24 縄文中期中葉（XIII-2層検出）竪穴住居跡（SB）一覧

遺構番号	旧遺構名	位置		竪穴プラン			規模			柱穴 配置/数	炉			付属施設 種別/数			
		仮地区	中地区	遺構図	平面形	断面形	長軸方位	長軸(m)	短軸(m)		深さ(m)	形態/数	位置		特徴	埋土	
6801	-	5a	M15	I	33	(隅円方形)	垂直	-	-	-	0.43	2	1	中央や北	埋甕	焼土微量	-

その他の特徴	埋土			遺物			埋葬	切合関係		備考
	色調	土色帳記号	埋土の特徴	遺物出土状況	特記遺物	遺物図		(古)	(新)	
床面やや軟弱	暗オリーブ ~にぶい黄褐	2.5Y3/3~ 10YR4/3	上部に炭化物粒混入層有り	微量、屋外隣 接地に赤彩 土器	-	237	-	-	-	-

表25 屋代遺跡群XIII層検出土坑（SK）一覧

遺構名	旧遺構名	検出面	仮地区	中地区	遺構図	平面図	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	堆積状況	遺物	遺物図	備考	
SK 6802		XIII 2	5a	I	R13	-	不整形	C	1	0.98	0.64	にぶい黄褐	10YR4/3	炭化物粒少混入			
SK 6803		XIII 2	5a	I	R13	-	不整楕円形	F	1	0.78	0.42	にぶい黄褐	10YR4/3	炭化物粒少混入			
SK 6804		XIII 2	5a	I	R13, 14, 18	-	不整楕円形	F	1.88	1.2	0.38	にぶい黄褐	10YR4/3	炭化物粒少混入			
SK 7664		XIII 3	6a	I		29	不整楕円形	C	2.32	0.94	0.42	黄灰~褐	2.5Y4/1~ 10YR4/4	焼土、炭粒多混入	土器78点14 85g、石器A2 6、礫8、骨多	238	骨番号 6aJ8155, 12236, 16313
SK 7665		XIII	6a	I			楕円形	B	0.48	0.25	0.25	-	-	-	-		
SK 7666		XIII	6a	I			楕円形	B	(0.8)	(0.45)	0.68	-	-	石器B1、礫1			
SK 7667		XIII	6a	I			円形	B	0.4	0.37	0.08	-	-	-			
SK 7668		XIII	6a	I			不整楕円形	C	0.94	0.5	0.36	黄灰~ 暗灰黄	2.5Y4/1 ~4/2	炭化物粒極微混入	土器146点2 613g、石器A 2、礫4		
SK 7669		XIII 1	6a	I			不整楕円形	C	2.45	-	0.6	黄灰~ 暗灰黄	2.5Y4/1 ~4/2	南壁際に炭化物粒多	土器45点38 5g		
SK 9092		XIII 2	6b	I	N3, 4	33	不整形	A	1.75	1.5	0.17	-	-	焼土ブロック、炭化物 片混入			
SK 9093	番号重複 小型の方 採用	XIII 2	6b	I	I22	-	不整楕円形	A	0.53	0.3	0.17	-	-	-	なし	投側に遺 物	-1c層の高 まりをX III層段階 で遺構と
SK 9094		XIII	6b	I	I22	-	不整形	A	0.96	0.88	0.2	-	-	-	土器片		

表26 屋代遺跡群XIII層検出焼土跡（SF）一覧

遺構名	旧遺構名	仮地区	中地区	検出面	遺構図	平面形	類別	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積状況	遺物	遺物図	備考	
SF6801	焼土	5a	I	M10	XIII 2	-	不整円形	平面火床?	0.34	0.25	-	焼土	-	隣接して炭 化物集中	
SF6802	SK6801	5a	I		XIII 2		(不整円形)	掘り込み火床	1.0	-	0.11	1. 焼土・炭化物層 2. 炭化物層 3. 焼土微混入	-		
SF7012		6a	I	I16, 21	XIII 1	33	不整楕円形	"	1.58	0.92	0.16	火床面上に焼土 ブロックなど	土器体 部下半 が火床 に設置	237	火床中央に 小ピット
SF7013		6a	I	I22	XIII 1	中	不整円形	平面火床?	0.4	0.36	0.06	-	-	-	
SF7014		6a	I	I22	XIII 1	中	不整円形	"	()	()	()	-	-	-	
SF7015		6a	I	I22	XIII 1	中	不整円形	"	0.16	0.16	0.04	-	-	-	
SF7016		6a	I	I22	XIII 1	中	不整円形	"	0.16	0.14	0.07	-	-	-	
SF7017		6a	I	I22	XIII 1	中~ 2上	不整楕円形	"	0.86	0.36	0.06	-	-	-	
SF7018		6a	I	H20	XIII 1		(不整円形)	平面火床	(0.35)	()	(0.07)	下部に焼土面	-	-	
SF9009		6b	I	I19	XIII 2	中	不整瓢箪形	"	2	0.78	0.13	よく焼きしまっ た焼土ブロック	-	周辺に焼骨 片入りのピ ット有	
SF9015		6b	I	I24	XIII 2	33	不整円形	平面火床?	1.32	1.16	0.11	-	土器片9	-	
SF9016		6b	I	I24, N4	XIII 2	33	不整楕円形	平面火床	2	1.04	0.28	焼土上層に炭化 物、焼土、焼骨混 入層	土器片1	-	
SF9017		6b	I	N4	XIII 2		不整形	平面火床?	0.88	0.66	0.08	焼土ブロック多 混入	-	-	
SF9018		6b	I	N4	XIII 2	33	不整形	"	0.88	0.76	0.11	"	-	-	
SF9019		6b	I	N4	XIII 2		不整円形	"	0.6	0.48	0.09	"	-	-	
SF9020		6b	I	N5	XIII 2		不整楕円形	"	0.96	0.48	0.11	"	-	-	
SF9021		6b	I	N5	XIII 2		不整形	平面火床	2.6	1.92	0.13	やや南よりに火 床面	底面に 土器底 部、骨	-	骨番号 6bJ18345
SF9022		6b	I	N3	XIII 2	33	不整楕円形	平面火床	1.4	1	0.13	焼土面有	-	-	
SF9127	a	6b	I	N5	XIII 2		不整長楕円形	平面火床?	2.4	0.76	0.01	-	-	-	
SF9128	c	6b	I	N5	XIII 2		不整長楕円形	"	2.2	0.76	0.1	-	-	-	
SF9129	d	6b	I	N5	XIII 2		不整長楕円形	"	1.96	0.52	0.08	-	-	-	

第3節 XIII-2層検出遺構と遺物

1 XIII-2層検出遺構と遺物出土状況

XIII層中では、最も黒色化が明瞭に認められた層であり、竪穴住居跡1軒、土坑10基、焼土跡14基が検出された。竪穴住居は中期中葉2期に属する例で、周辺の焼土跡付近からは中期中葉1期～中期後葉1期の土器が出土した。このことは、中期中葉～中期後葉にかけて、焼土跡を主体とした一時的な逗留地としての利用が続いていたと考えられ、中期中葉2期に単発的に竪穴住居が建てられたと見られる。

(1) 竪穴住居跡 (SB) (図版33、表24)

SB6801の1軒のみである。属性は、表24に掲載した。時期は埋甕炉の土器から中期中葉2期（新道式並行期）と見られる。竪穴外東側包含層上に伏せた状態で、全面赤色塗彩された浅鉢土器が出土しており、竪穴住居と関連性があると考えられる。

(2) 土坑 (SK)

10基確認された。個々の属性については表25に記し、代表的な例についてのみ個別図（図版33）を掲載した。SK9092には焼土や炭化物が混入しており、周囲の焼土跡との関連性をうかがわせる。

(3) 焼土跡 (SF)

14基確認された。個々の属性は表26に、代表例の個別図は図版33に示した。XIV層の分類で示すと、A類……SF9016ほか。XIV層検出例よりも火床の広がりが大きくなる傾向が認められる。

B類……SF7013ほか。

焼土跡は数基ずつまとまる傾向を見せており、SF7014周辺のグループ（A群）、SF9009を中心としたグループ（B群）、SF9016を中心としたグループ（C群）、が認められる。各々土坑を伴う可能性がある。また、竪穴住居に隣接した焼土跡は存在せず、いずれも20m以上離れている。焼土跡周辺で出土した遺物（図版235・236）がSB6801出土遺物（図版235-1）より新しい段階（中期後葉1期）の土器であり、焼土跡の時期も竪穴住居とは異なる可能性が大きい。

2 XIII-2層出土遺物

(1) 土器

XIII-2層中からは、中期中葉を中心とした土器が少量出土している。XIII-1層、XIII-3層との境が不明瞭な地点がほとんどであったためXIII層全体を含めて説明を加える。中期中葉には、断続的にこの地が利用されたと見られ、勝坂Ⅲ式（藤内式）段階、勝坂Ⅴ式（井戸尻式）段階の土器が欠落している。

また、中期後葉1期の土器がXIII-2層で取り上げられている。本来、中期中葉の土器群とは層位的に分離できたかも知れないが、一応、XIII層出土の中期後葉土器群として説明を加える。

中期中葉1期 在地と見られる土器には図版237の4・6が存在する。いずれも関東地域の阿玉台式か直前型式の影響を受けた土器である。この段階の阿玉台式Ⅰ類には図版237-10、図版238の他時期混入-1・5が存在する。勝坂Ⅰ（貉沢）式系統の土器としては、図版237-5が該当する可能性がある。

中期中葉2期 SB6801の時期である。在地の土器を炉体土器とし、壁上からは勝坂II（新道）式の浅鉢が出土している。図版237包含層-7、238他時期混入-6が在地の土器である。勝坂（新道）式系の土器では浅鉢の図版237-3のみが見られる。また、阿玉台式II類の変形と見られる図版238-2が存在する。

図版238-13の有孔鏝付土器もこの時期に伴うものと考えられる。

中期中葉3期 勝坂IV（井戸尻）式の土器が1点（図版237-8、11同一個体）のみ出土している。

中期後葉1期 梨久保B式段階に平行する土器群と考えられる。八ヶ岳方面から中信地域に多い図版238-18や図版238他時期混入の3が見られる。在地系の焼町土器（図版238-15）はこれらの土器群に伴出すと考えられる。図版237-12は越後系の粗製土器と考えられる。19はやや新しい可能性がある。

(2) 土製品

土偶の左腕が1点出土した（図版238）。

(3) 石器

整理の方法 XIII-2層から出土した石製遺物の総点数は、遺構内出土（101点31%）に遺構外および包含層出土（230点69%）を加えた計331点である。このうち剥片石器・剥片類・石核は151点（46%）、礫石器・搬入礫は180点（54%）である。そのうちここでは遺構内出土遺物を中心に取り上げ、7点を図化した（図版238）。

概要 XIII-2層から出土した剥片石器は、石鏃（1点）・石錐（1点）・大形削器類（1点）・打製石斧（2点）がある。さらに微細剥離を有する剥片（12点）・二次加工のある剥片（9点）・剥片（98点）・碎片（20点）・石核（7点）を組成する。（分類については第5章第3節2に準拠する）。

剥片石器類に利用された石材は、黒曜石（120点・328.7g）と粘板岩（31点・682.5g）からなり、礫石器では、安山岩が主体である。

図化資料の特徴 1は黒曜石製の石鏃（D3類）。裏面は周縁調整のみで、中央部に主要剥離面をとどめる。2は黒曜石製の石錐の先端部である。錐部は著しく摩耗し、丸みを帯びる。5は粘板岩製の打製石斧（A2類）の刃部片である。刃部の裏面側に摩耗痕が見られる。6は粘板岩製の大型削器類（A2類）で、背面右

表27 屋代遺跡群XIII層出土石製遺物観察表

石鏃

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	袂/茎長	先端角	重量	備考
238	59	1	SK7664	2L	AH	D3	ob	A1	完形	21.5	10.6	2.0	5.3	34	0.3	

石錐

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損	長さ	幅	厚さ	錐部断面	錐部直径	重量	摩耗	備考
238	59	2	SK7664	3L	Dr	A	ob	-	完形	13.6	5.8	2.3	三角形	2.2	0.1	○	

大型削器類

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	調整角度	調整形態	整形角度	整形形態	重量	微細	摩耗	備考
238	59	6	SK7664	3L	大Sc	A2	s1	B1	完形	75.8	47.0	10.8	35	外湾	-	-	40.9	○	○	

打製石斧

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	刃部形態	刃部角	基部形態	横断面形	重量	微細	摩耗	備考
238	59	5	SK7664	3L	打斧	A2	s1	B1	刃部片	(59.8)	48.6	18.3	直刃	60	-	凸レ	58.3	×	○	

石核

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	石材	石質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
238	59	3	SK7664	3L	Co	ob	A	25	21.5	9.4	4.6	剥片素材石核、打面転移2
238	59	4	SK7664	1L	Co	ob	A	22.5	28.6	11.3	6.0	剥片素材石核、打面転移2

磨石類

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	使用痕			備考
										表面	側面	裏面	
238	-	7	SK7664	3L	磨石類	89	44.5	23	140	-	敲	-	砂岩
238	59	8	SF9021	-	磨石類	99	71	40	330	凹	磨	凹	安山岩

側縁に外湾状の両刃刃部を備える。腹面末端部にわずかに摩耗痕が見られる。3・4は黒曜石製の石核。板状の剥片を素材とし、両方とも打面を90度、作業面を180度転移している。7・8は磨石類である。7は側面に敲き、8は表裏面に凹みが観察された。

第4節 XIII-1層検出遺構と遺物

1 XIII-1層検出遺構と遺物出土状況

⑥区の一部で、XIII-1層上面検出遺構が存在する。内訳は土坑1基と焼土跡7基である。

SF7012は、掘り込みを有する火床である。土器底部（図版235-SF7012-1）が据えられた状態で出土しており、激しい二次焼成によって器面が脆くなっていた。

2 XIII-1層出土遺物

SF7012は底部付近のみであり、時期限定はできない。

第5章 縄文中期後葉（XII-2層検出）の遺構と遺物

第1節 概観

1 層位区分

中期後葉の層位 本章に掲載した遺構は、すべて屋代遺跡群のXII-2層中で検出されたものである。XII-2層は層厚約20~40cm、黒色化したシルト~粘土層で、外周トレンチでの観察によると、黒色化の度合いや微妙な土質差によって細別される可能性があった。しかしながら遺構調査にできるだけ時間を割くために包含層の分層調査を断念し、その代わり検出面を詳細に記述することを目的に以下のような基準で人工分層を行った。

XII-2層上面 黄褐色のシルト~粘土のXII-1層とXII-2層との境は、⑤b区南側で特に明確に区分できる。ただし自然の要因による土器の移動を念頭に入れ、XII-1層とXII-2層の層理面下5cmを「XII-2層上面」として調査を開始した。XII-2層上面では全面的に土器が散布しており、密度はS16、S17、S18、S22が特に高く北へ行くほど低くなる。特に集中の顕著なところを「SQ」として土器の廃棄単位毎の取り上げを実施した。また屋外埋甕も上面で多く検出された。これらの一部や上面で多く検出された火床の一部は、整理時に掘立柱建物跡（平地式住居）に帰属することが判明している。この他に用途不明の浅い竖穴（SX）が検出された。以上の遺構の埋土はXII-1層の黄褐色シルトではなく、XII-2層の細別の範疇で捉えられる。XII-1層のみが埋土となっている遺構は1基のみであり、埋土最上層に自然堆積でXII-1層が流れ込んだ遺構が少数見られるにすぎない。このことは集落が廃絶し遺構が埋まり切る直前までXII-2層が形成され続けたことを意味しよう。出土した土器やXII-1層との層理面に埋設された土器の時期から本面は後葉4期の生活面として認定される。この他後述する柄鏡形（敷石）住居跡SB5325の柄部の石列と埋甕や、SH5101は本面で検出されている。またこの面や下のXII-2層-1・XII-2層-2で遺物の集中が見られ、調査面を下げてXII-2層下面に到達した段階で掘り込みが見つかり、そこが遺構として認定されたものも多い。

XII-2層-1・XII-2層-2 XII-2層上面より下~XII-3層との層理面までを層厚に応じて人工的に2つに分けて、上方を「XII-2層-1」、「下方をXII-2層-2」とした。ここでは住居跡をはじめ遺構の多くが検出された。

XII-2層下面 XII-2層を取り去ってXII-3層が出始めた状態で検出された遺構を「XII-2層下面」検出遺構とした。これらの第一埋没土はXII-3層であるものが多い。それは住居外の盛り土や周辺の土壌が埋積したものであり、XII-2層の黒色化が進行する以前に形成されていたことになる。

XII-3層上面 XII-2層を除去し、XII-3層を若干掘り込んだところで検出された遺構をXII-3層上面検出遺構とした。遺物から推測される時期はXII-2層下面と同様であるため、本来XII-2層で検出できた遺構の残りと考えられる。ただし、集落南端の④g区SQ4803ではXII-2層・XII-3層層理面に埋設された埋甕が後葉2a期に属することから、ここが後葉2a期、すなわち、後葉集落開始期における生活面であった可能性がある。

2 遺構の分布

環状集落 本章に掲載したXII-2層面検出遺構は、竪穴建物跡53軒、掘立柱建物跡27軒、土坑446基、溝跡16条、焼土跡97基、遺物集中54基、石集中2基、杭列43基、不明遺構7基で、他に多数のピットがある。下面の遺構密度はN18からO16ラインより南で特に高く、N23からO21を結ぶライン以南では更にピットや土坑が極めて多い。これに対しN15～O11の南からN20からO16北側にかけては小型のピットが中心で遺構密度がかなり低い部分が存在する。このような密度の傾向と建物のおおまかな方向性からは、集落が長年にわたる遺構の累積の結果、中央に広場をもつ環状構成になったことが解る。

遺構の掲載位置 これら遺構間の位置関係を提示するにあたって、まず現場で確実に記載されたXII-2層上面検出の遺構を分離し、「分布図」（図版37）、「割付図」（図版51～55）を作成した。一方XII-2層-1以下の面は、整理作業当初は層厚の違いや現場記録の程度によって一律に分離することが困難であったため、遺構一覧表のみに面の詳細を記載した。よって図版上で

表28 XII-2層検出遺構時期別出現数

遺構\時期	2 a	2 b	3 a	3 b	3 c	4	未確定	合計
SB	—	11	13	10	12	7	—	53
ST	—	—	5	—	6	9	7	27
SK	—	3	11	11	37	22	362	446
SD	—	—	—	3	8	1	4	16
SF	—	—	1	3	22	4	67	97
SQ	2	1	1	1	3	18	28	54
SH	—	—	—	—	—	1	1	2
SA	—	1	1	—	—	—	41	43
SX	—	—	—	—	3	—	4	7
合計	2	16	32	28	91	62	514	754

は、XII-2層-1～XII-3層上面までの遺構を「分布図」（図版36）、「割付図」（図版38～50）に一括記載している。特に整理段階に認定された掘立柱建物跡は埋土中一括遺物や炉の検出位置から本来XII-2層上面に記載すべきものであるが、ここでは柱穴の確認面などを優先してXII-2層下面にすべて含めた。これらを出土遺物との対比によって実際の生活面毎に再統合する作業を得た結果は、第10章に送る。

第2節 XII-2層検出遺構と遺物の出土状況

XII-2層検出遺構のうち重要なものについては図版56～138に個別図を示し、全遺構の個別説明は遺構毎に一覧表化した（表30～38）。そこで本節では遺構別に、まず一覧表の諸項目の設定意図と遺跡全体の概況を解説する（各項(1)）。次に一覧表の項目では説明しきれない特徴的な遺構がある場合に限り、部分的な解説を加えた（各項(2)）。

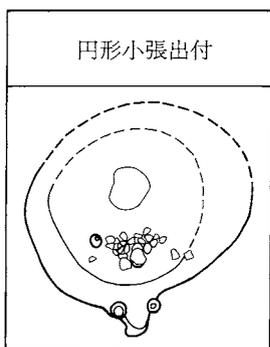
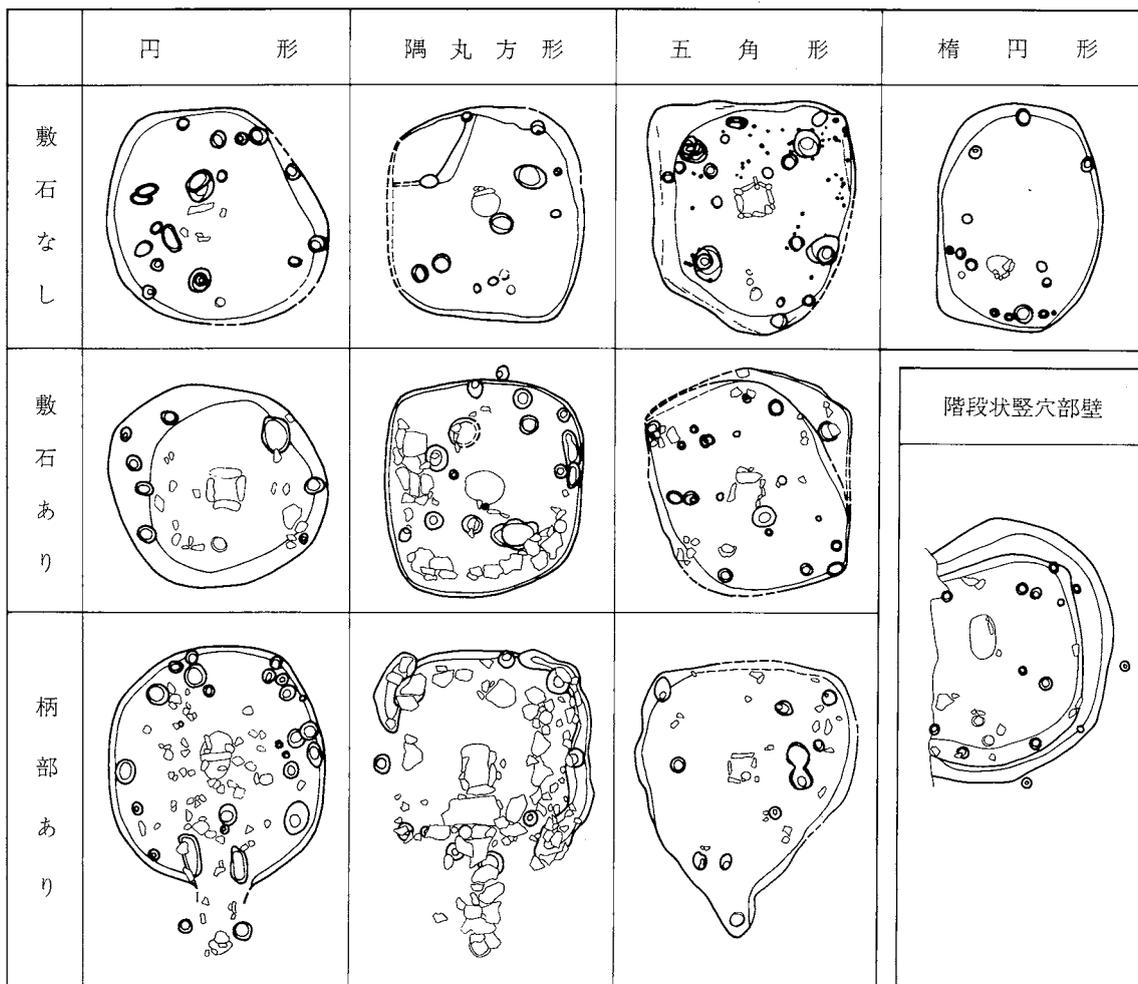
1 竪穴建物跡（SB）

(1) 竪穴建物跡の諸構造（表30）（図版56～103）

A 竪穴建物跡形態（構造）

竪穴建物跡の諸形態 SB（竪穴建物跡）として登録された遺構には、炉や埋甕が伴う「竪穴住居跡」（図12）、炉も柱穴も無い「竪穴状遺構」が含まれ、合計53棟に上る。このうち竪穴住居跡の平面形には、円形、楕円形、隅丸方形、五角形もしくは五角形を志向したものがある。さらに楕円形を除く上記3形態の竪穴部に柄状の張り出し（柄部）のついた、いわゆる「柄鏡形住居跡」が見られる。竪穴部壁は20～40度で立ち上がるものが多いが、この他に竪穴部壁の全周にテラスが一段付く「階段状竪穴部壁」を有するものが認められる（SB5335・5351）。また、床面の形態は、ほぼ平坦で軟弱なもの、貼りや使用によって床が極端に硬化したもの、床面の全面もしくは一部に平石（閃緑岩を主体とする角礫や、それ以外の小円礫・棒状礫）が敷かれる「敷石住居跡」が見られる。

柄鏡形（敷石）住居跡 柄鏡形住居跡には、平石が主体部と柄部に敷かれているもの（SB5325・5337）、どちらか一方のみに敷かれているもの（SB5316・5324・5336）、竪穴部壁面に沿って小礫と土を固めた「周礫」



形態		時期						計
		2b	3a	3b	3c-1	3c-2	4	
柄部なし	敷石なし	円形	8	3	4		1	16
	隅丸方形		2		1			3
	五角形		1	5				6
	楕円形		1	1				2
敷石あり	円形				3			3
	隅丸方形						2	2
	五角形					1		1
柄部あり	円形			(1)	1	1		3
	隅丸方形				1		2	3
	五角形				1	1	1	3
合計			9	7	10	10	5	42

形態		時期						計
		2b	3a	3b	3c-1	3c-2	4	
階段状竪穴部壁				2				2

※多時期にまたがる場合は最新時期とする。ただし、SB5318は新旧を1軒ずつ数えた
 ※敷石ありは床面のものを指す
 ※3c-1は古相、3c-2は新相
 ※不明は除いたため、合計は住居合計とは異なる

図12 竪穴住居跡の形態

(SB5319・5324・5338) やそれが崩れた小礫が散乱するもの (SB5321) などが見られる。これらを総称する場合「柄鏡形（敷石・周礫）住居跡」とし、状況に応じて「柄鏡形敷石住居跡」、「柄鏡形周礫住居跡」を使い分けることにする。また、柄鏡形以外で石が敷かれている住居跡は「非柄鏡形敷石住居跡」と呼ぶ。屋代遺跡群の柄鏡形敷石住居跡は後葉3c期から構築され始めるが、奥壁土壇 (SB5332) や階段状竪穴部壁部分 (SB5335、SB5351) など部分的に石が敷かれる竪穴住居跡は、その前段階の後葉3a～b期に出現する。これに対して柄部は、初期のものの中に主体部五角形住居の頂部を若干延長した様な短いもの (SB5321) があるため、後葉3b期の五角形竪穴住居跡 (SB5345) や小張り出しのある住居跡 (SB5346) にその系譜が辿れる。このように柄鏡形（敷石）住居跡の構造は竪穴住居跡と共通する点が多いため、B以下の住居構造の個々の説明でも、両者を分離して記載することは避け、同一項目の中で比較しながら叙述していくという方式を採った。

B 柱穴配置 (図13)

主柱穴 柱穴の配置には基本的に主柱穴型と壁柱穴型がある。主柱穴の基本はSB5345に代表される4本柱であるが、その間に柱を入れる5本、6本柱穴や、不整形の柱穴配置のものも多い。また、柄鏡形住居跡のSB5325、SB5336では外側に主柱穴、内側に径の小さい側柱穴が三角形に配置されている。

壁柱穴 SB5345を除いては屋代遺跡群の住居跡全てに共通して柱穴が貧弱であるため、主柱穴と壁柱穴の違いは規模で示すことができず、また、主柱穴も不規則であるものが多いため、これらの区別はさらに曖昧になる。このような中で、壁面に沿って柱穴が並んでいると見なしうるものはSB5324、SB5338、SB5344である。これらはどれも主柱穴となるものが検出されていないため、壁柱穴によって上屋を支えていたことになる。掘り込みの状態から、柱は垂直に立てられていたことが解る。主柱穴によって上屋を支える構造は出現期の柄鏡形（敷石）住居に多く、後期になると壁柱穴構造に変化していくとされるが、上記の2基はその先駆的なものと見なしうる。一方SB5335、SB5351では階段状竪穴部壁のテラス部分に沿って並んでいる柱穴があり、やはり壁柱穴と見なせる。ただしこれらには床面検出の主柱穴も伴う。

小ピット 掘り込みが住居跡中央に傾く小ピットを有する例がある (SB5345、SB9007)。SB5345のものは

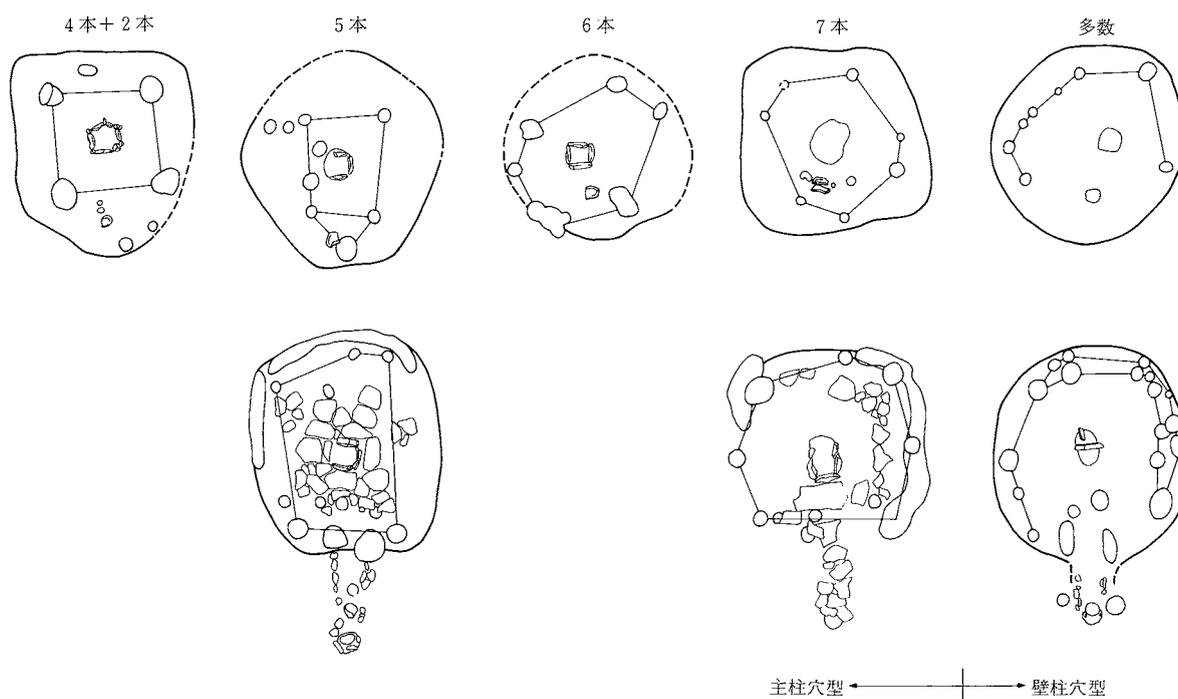


図13 柱穴配置

床面北側に集中し、深さは約3~10cm程度と浅く、図版91E-E'に見られるように住居中心を向いて斜めに穿たれているものが殆どである。これらは柱穴というよりも竪穴住居の何らかの付属施設の痕跡と考えたい。これに対し、SB9007の南~西側傾斜部を巡るピット列は竪穴の外まで巡る形で延びる(図版103)。SB9007の西側にほぼ同規模のSA9002がみられるため、それらとの関係も注目されるが、「現場所見からは埋土を切ることなく検出されている」とされる。仮にこの柱穴列がSB9007に伴うことが確実とすると、竪穴部壁中段に垂木尻を設置し、主柱穴を持たない合掌形の小屋が推測されよう。また、垂木尻の可能性のあるピットは杭列SA9003で、SB9001の壁面外側を壁面に沿うように弧を描きながら等間隔で並ぶ。ただし南側の入口部のみの検出である。

炉辺穴 上記の柱穴から外れ、炉周辺に比較的大形のピットが検出される例が多い。SB5312のP7、SB5328のP4、SB5332のP5、SB5341のP8、SB5338のP26、SB5340のP23、などが該当する。埋土は他のピットと差が無く、炭化物も数%以内に止まるため、特に灰を蓄えるなど炉に関連する機能は想定し難い。そこで住居の中心柱、もしくは住居上部から炉辺に向かって降りる入り口施設などに関連する可能性をあげておきたいが、今後調査時の詳細な観察が欠かせない。

C 主軸方位 (図14)

主軸方位の2者 建物の入口と奥壁を結ぶ線を主軸として、主軸方位を計測した。入口は、柄鏡形住居跡の柄部分をはじめ、硬化面、周溝の途切れ方、いわゆる入口ピットの存在など推測の方法がある。一方、本遺跡では、屋内埋甕がほぼ全ての竪穴建物跡で検出されたため、入口施設が明確に捉えられない建物については、仮に埋甕が埋設された方向を入口と考え、それと炉を結ぶ線を仮主軸として()で記載した。

主軸の特徴 主軸方位のとらえられた住居跡の傾向を図14に示した。東に最高44度、西に最高93度の傾きを持つことから、奥壁は概して北から西、入口は南から東を向き、採光に配慮した構成になっていることが解る。時期別に概観すると、2期~3a期には西側に大きく振れるものがあるが、3b期にはN30°E~N30°Wに収束する。3c期になると竪穴住居跡や柄鏡形でも平石の敷石が明確でないSB5316、SB5321、SB5338が東に振れるのに対し、平石の敷石を有する住居跡はSB5325を除く全てが西に振れ、N33°~67°Wの傾きをとる。これに対し4期になると東側に振れるものは柄鏡形周礫住居のSB5319のみでその他はすべて西に振れるようになる。

D 法量

深さ 住居跡確認面から床面まで(石が敷かれている場合は石の上面まで)の距離を「深さ」とした。完存した竪穴住居跡で最深0.6m、最浅0.13mを測る。一般の竪穴建物跡よりも敷石住居跡の方が浅い傾向が認

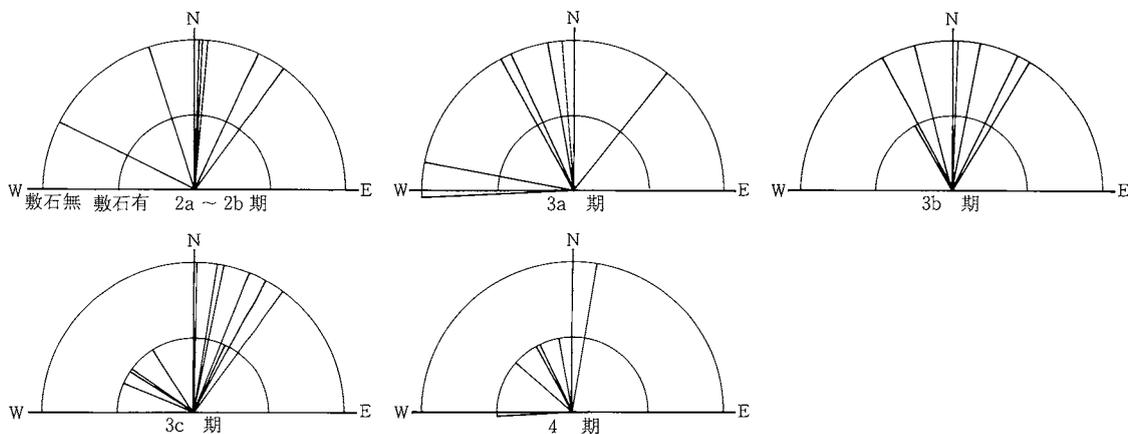


図14 住居跡の主軸方向

められる。

床面標高 「深さ」は確認面の違いが反映される危険性を持つのにに対し、「床面標高」は同一時期の地表面の標高がほぼ同じとすると、より正確な深さを推測する手がかりとなるが、やはり全体に平石の敷石を有するものの方がそれ以外よりも高い傾向にある（図15）。ま

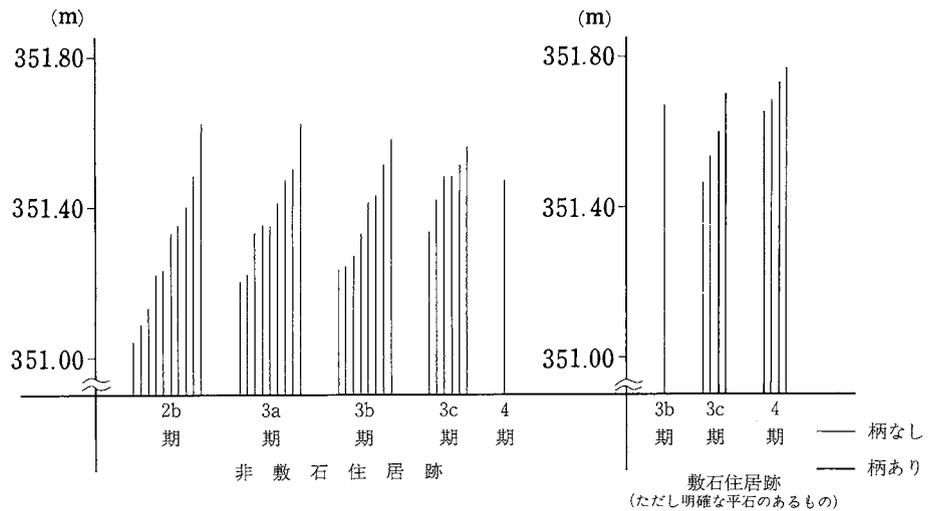


図15 住居跡の床面標高

た、柄鏡形敷石住居跡は主体部に比べて柄（入口）部分がやや高くなっているため、入口から竪穴部へは、かなり緩いスロープとなっていたことが解る。これは竪穴住居跡の入口が急勾配で下方へ向かっていたのと対照的である。また、部分敷石の住居跡の石の敷かれていない部分は北村遺跡555号住居跡のようにクリなどの板材が敷かれており、水平をキープしていたと考えられる。

床面積 床面積はプランメーターを用いて測定している。

E 炉

炉の種類（図16） 炉の種類は、石囲炉が66%を占め、地床炉19%、（石囲）埋甕炉8.5%、土坑炉6.3%である。石囲炉は方形石囲炉が全体の半数を占めるが、長軸が短軸の2倍を越える長方形の石囲炉が2基、五角形を呈するものが2基みられる。このうち縁石を直角に組み合わせたものをA類、使用前の分割か使用中の割れに伴うずれによって同種の石が破片となって一辺が構成されているものをB類、平石の隅に立柱石を立てたものをC類として、さらに平面形を組み合わせて、「方形石囲炉A類（方A類）」、「方形石囲炉B類（方B類）」、「長方形石囲炉B類（長B類）」、「五角形石囲炉B類（五B類）」、「五角形石囲炉C類（五C類）」に分類した。ただしSB5311の炉は2つの西側縁石の間に小形の礫が挟まれることから「五C類」とも共通する（図16-3）。使われる縁石には切り出した角礫（殆どが閃緑岩）、川原石の円礫・棒状礫などが見られるが、角礫が多く、1基の縁石に角礫と円礫が併用される例も多い。炉の遺存状況は完存が17基で全体の45%、西、北、南側など一方向のみ抜かれているものが4基23%で、その他は複数方位が抜かれている。

土器敷の炉（図17） 石囲炉のうち7基には、炉の底面に土器が敷かれている。土器は裏面を上にして敷かれている例が多い。そのうち5基に圧痕隆帯文土器が見られ、加曾利E系4基、曾利・唐草文系1基、大木系1基が続く。土器は被熱しているものが多く、使用時に敷かれたものと推測されるが、SB5325のように明確な被熱痕が無く、土器上の焼土も殆ど検出されない場合もある。土器を炉の底に敷く例は山形県、福島県、新潟県、栃木県北部など大木式が分布し、複式炉が発達する地域に多い。例えば法正尻遺跡の祖形複式炉では、埋設土器の代わりに土器を割って敷くという例（SI90住居跡）が見られる（松本他1991）。特に栃木県広表遺跡では複式炉の石組部の炉床に圧痕隆帯文を有する土器が敷き詰められており、屋代遺跡群同様、炉と圧痕隆帯文土器の関わりを認識させられる（海老原1998）。

土坑炉（図18） 土坑炉とは深い土坑内で火を焚き、炉として使用しているもので、3軒の柄鏡形住居跡内で確認した。深さはSB5319で70cm、SB5324で65cm、SB5337で52cmを計る。これらは通常の炉の約2倍の深さである。共通する特徴は次の3点である。まず第一に底部を除く土坑壁が、ほぼ全面的に極めて強

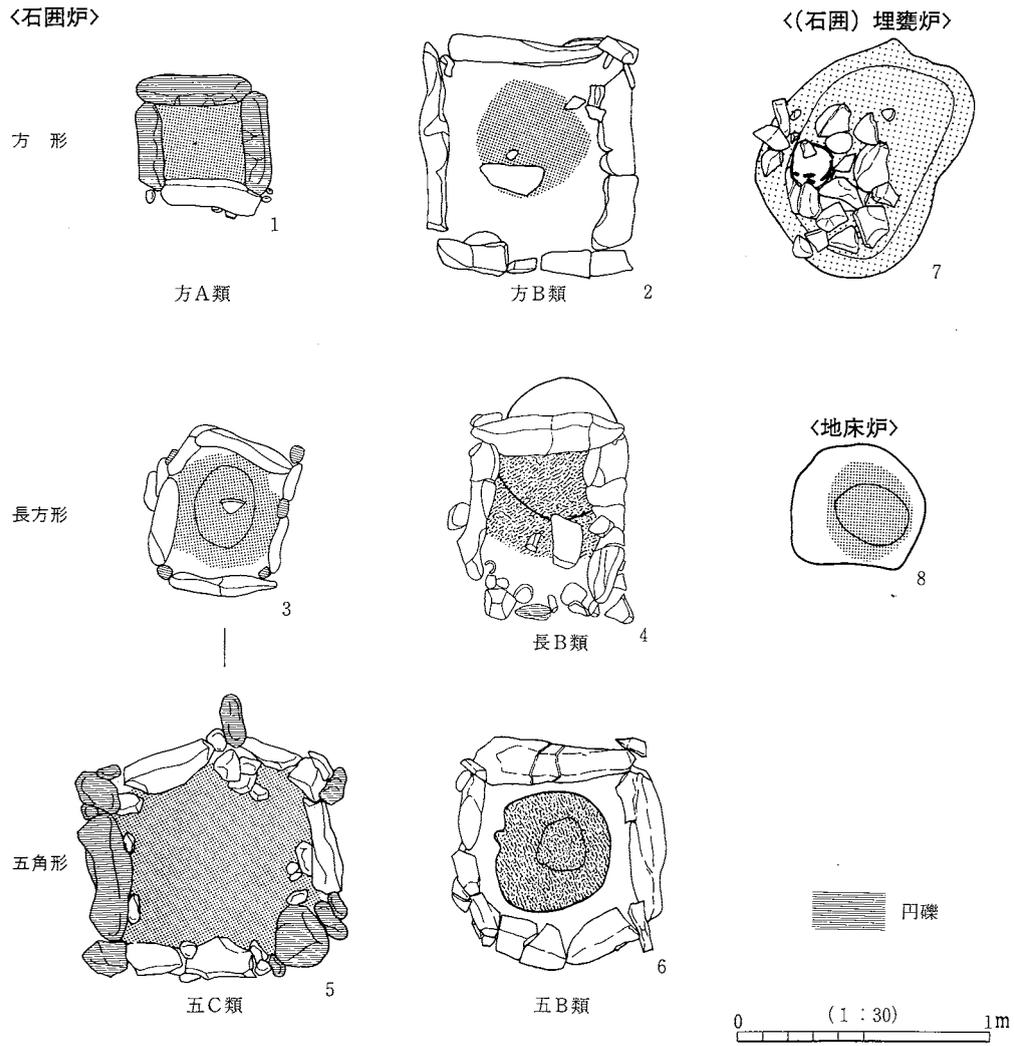


図16 炉の種類

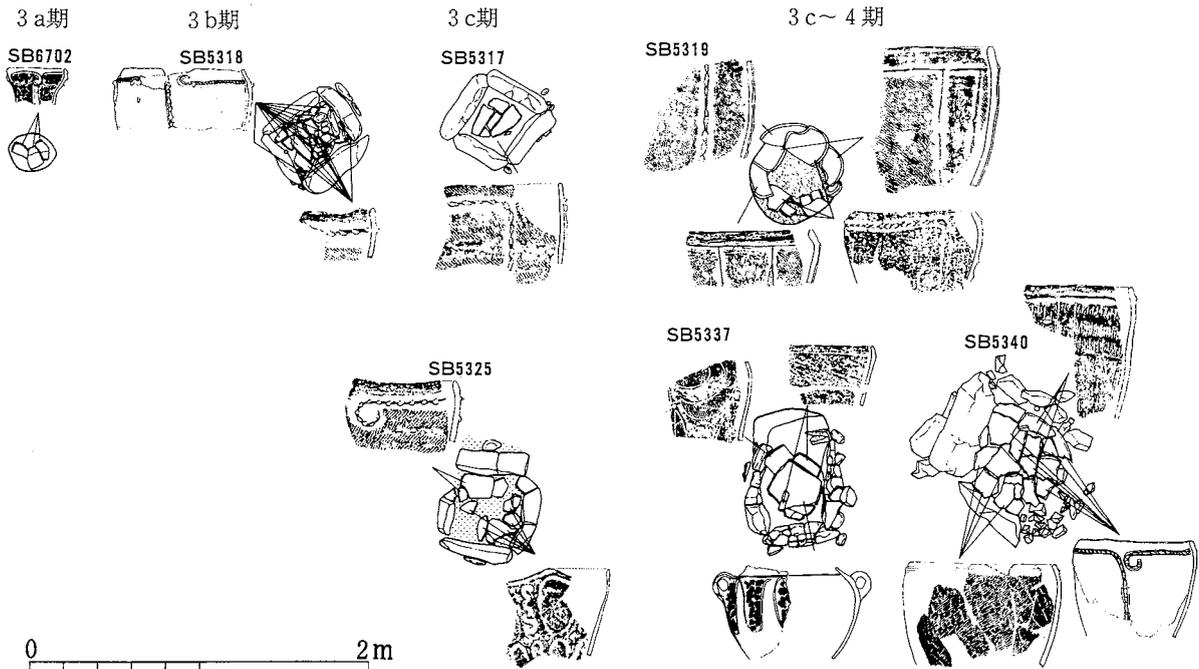


図17 土器敷炉

く被熱していること。第二に下からおおまかに純粋な炭層、焼土が含まれるシルト層を挟んで、灰層という堆積順序であること。第三に土坑壁の被熱部分より内側に石が差し込まれ（SB5337は抜き取り痕と推測される5・6層と、4・8層層理面敷設土器から推測）、区画部分を縮め新しい炉を作っていることである。特にSB5319では炭層内に土器が敷かれ、さらにその下に焼け粘土が詰まった9層が堆積している。土坑炉では壁面の強力な被熱痕跡や底部の炭のタール状の様相から通常の炉よりかなり強く火が焚かれたことは確実である。おそらくそのために掘り込みを予め深く造ったものと見られる。

炉縁石の火床上への差し込み（図18） 柄鏡形（敷石）住居跡および非柄鏡形敷石住居跡であるSB5325、SB5338、SB5340の3棟では、明確に被熱した一方の縁石が炉の火床上の灰層や炭層中に差し込まれている。ところが反対側の縁石は、火床面の端、すなわち炉の端に取まっている。そして炉を主軸で輪切りにすると、差し込まれているのは奥壁よりの縁石に限定される。また通常の石囲炉の場合、石の外側の壁が焼ける例は殆ど見られないのに対し、この種の炉は、掘り込みの床面と壁面が極めて強く被熱している。焼けた壁面の外側には石の抜き取り痕は観察されていない。同様に縁石外側の土坑壁が弱いながらも被熱している例として竪穴住居跡のSB5343があげられる。さて、このような状況を検討した場合、最も一般的な解釈は炉の作り替えであろう。それを裏付けるようにSB5325では敷石が古い火床面を覆って火床上部の差し込まれた縁石の脇まで載っているし、SB5340では動かされた縁石によって作られた新しい炉の

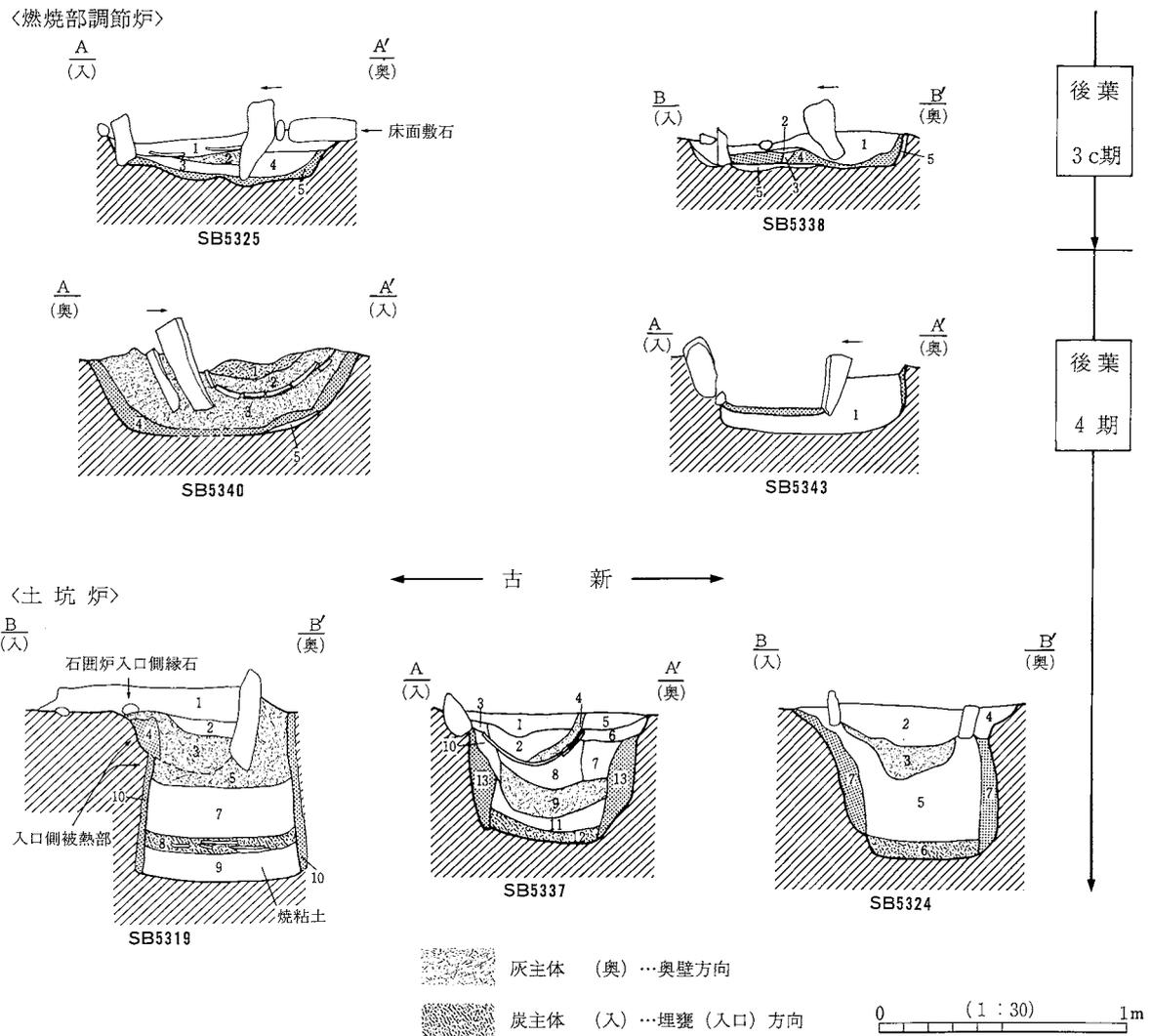


図18 「燃燒部調節炉」と「土坑炉」

底に土器が敷かれ、その上で火が焚かれた痕跡が見られる。しかしながらも単純な炉の作り替えとすれば、なぜ一律に奥壁側の縁石のみが動かされたのだろうか。別の場所になぜ作らなかったのだろうか。この答えとして、これは完全な炉の「作り替え」というわけではなく、一方の炉縁石を動かすことによって燃焼部の大きさを調節したのではないかという推測ができる。これを炉の「作り替え」と異なる行為として「炉縁石の移動」と表現したい。そして炉縁石の移動が行われた炉を「燃焼部調節炉」と呼ぶことにした。

「炉縁石の移動」と土坑炉(図18) このような「炉縁石の移動」は、先に述べた土坑炉と石囲炉の関係にも適用される。例えばSB5319の炉では、石囲炉北側(奥壁側)の縁石が、土坑炉の灰中に差し込まれているのに対し、土坑炉南側(入口側)の被熱部は石囲炉の南限に合致する。そして南北方向(奥壁・入口方向)に両者のプランはずれるが東西方向には殆どずれない(図版65)。SB5337でも土坑炉の南限(入口側)の壁に沿って石囲炉の縁石が挿入されている(図版81)。すなわち土坑炉→石囲炉の関係は、旧炉→「炉縁石の移動」後の新炉の関係とかなり類似するのである。結果的には土坑炉も「炉縁石の移動」行為がなされた結果変化した可能性が浮上する。さらにこれは時期的な変遷を考える上で興味深い。というのは旧炉→「炉縁石の移動」後の新炉という変遷の例は後葉3c期で2例、後葉4期で2例であるのに対し、土坑炉→「炉縁石の移動」による石囲炉という変遷は後葉4期に限られる。「炉縁石の移動」以前に係わる何らかの行為が、もはや浅い「燃焼部調節炉」では対応できなくなり、深い「土坑炉」で対応するようになったのではないだろうか。それではこのような「炉縁石の移動」はいつ、誰の手によって行われたのであろうか。SB5324は主軸方位自体の改変、SB5338は柱穴から推測するプランの拡張の可能性があり、この際に「炉縁石の移動」が行われた可能性は否定できない。しかしながらここで、明確な火床を持ち、「炉縁石の移動」の行われた住居に共通するファクターは、それらがいずれも柄鏡形(敷石)住居跡もしくは非柄鏡形敷石住居跡であるということなのだ。このような法則性に則った行為は、住居の機能との関係を抜きにしてはもはや語り得ないと考える。詳述は第10章に譲ることにする。

F 埋甕

埋甕の分類(図19) 本遺跡で竪穴住居跡と認定された遺構のうち、埋甕を有するものは36例で、完存する住居跡の100%にあたる。最多はSB5316の6基、次いでSB5325の5基、SB5319の4基と、柄鏡形住居跡の初期のものに多い傾向がある。ただしSB5316の6基は後述するように、主軸の方向から2段階に分かれるが、SB5319は埋甕自体が2時期に分かれる。非柄鏡形住居跡での埋設位置は東、南に限られ、柄鏡形住居跡では主体部炉の南側の空間と柄部に限られる。埋甕の形態と埋設方法は『城之腰遺跡』(田辺他1991)を参考にして以下のように分類した。

まず、欠損部位を基準に

- a. 完形
- b. 胴部上半以上を切断し、全体の1/2以上が残存しているもの
- c. 胴部下半以上を切断し、全体の1/2未満が残存しているもの
- d. 胴部下半以下を切断し、全体の1/2以上が残存しているもの
- e. 胴部上半以下を切断し、全体の1/2未満が残存しているもの
- f. 口縁部、胴部下半を切断し、胴部中央のみが残存しているもの

の6類型に分類した。また、ほぼ垂直に正置されているものを「正」、ほぼ垂直に倒置されているものを「倒」とし、床面から60°以上の角度で斜置されているものを「正斜」、「倒斜」とした。さらに60°よりも角度が小さいものを「正極斜」「倒極斜」とした。また、口唇部を「1」、底部を「2」とし、口唇部のみが欠損もしくは磨り切られているものは「-1」、底部のみが切断されているものは「-2」として、a～f

と組み合わせて示した。また、複数の埋甕が組み合わさっているものは、2基が重ね合わさる「被覆型」と一方が他方の中に入らばり入り込む「埋納型」に分類した。

埋甕の埋設方法 (図20) 埋甕の口唇部は、埋設後の摩耗か故意に磨り切ったのか判断が付かないものが多く、底部切断はSB5310とSB5314で見られるにすぎないため、これらの属性を除いた各類型の出現状況を概観すると、正斜aと正斜bが最も多く、次いで倒dが多い。正置では胴部～底部を、倒置では逆に口縁部～胴部を用いているものが目立つ。時期的には倒置主体から正fを挟んで正斜へと明確な変遷をたどる。また、柄鏡形住居跡では口縁部を建物中央に向けて「極斜」めに埋設している例が多く、それ以外も口縁部を建物中央に「斜」めに傾けて埋設している。これらの埋設角度は、同一の住居でも炉周辺にあたる埋甕よりも柄部の方が角度がき

つい傾向が窺える(図21)。また、本遺跡の埋甕で石蓋をもつ例は3b期と3c期の正斜bで1例ずつ、3b期の倒dで1例で、敷石の一部が完全な石蓋となっているものは3b期に2例ある。複数の埋甕が組み合わさるものは被覆型では2b期に倒eと倒d、3a～3b期に倒eと正a、倒dと正a、倒eと倒e、fと倒dの組み合わせが存在する。埋納型は4期に正極斜aと正極斜c、正aと正斜の組み合わせが1例ずつであった。このことから柄鏡形(敷石)住居跡出現以前に被覆型が盛行し、それ以降埋納型が出現することが解る。これらの埋甕の埋設時期を推測するために必要な貼り床との関係は、貼り床自体が住居中央部のみに限

(正置)

	a (完形)	b (胴上半以上切)	c (胴下半以上切)	f (上・下切)
正				
正斜			—	—
正極斜				—

(倒置)

	d (胴下半以下切)	e (胴上半以下切)	f (上・下切)
倒			
倒斜			—

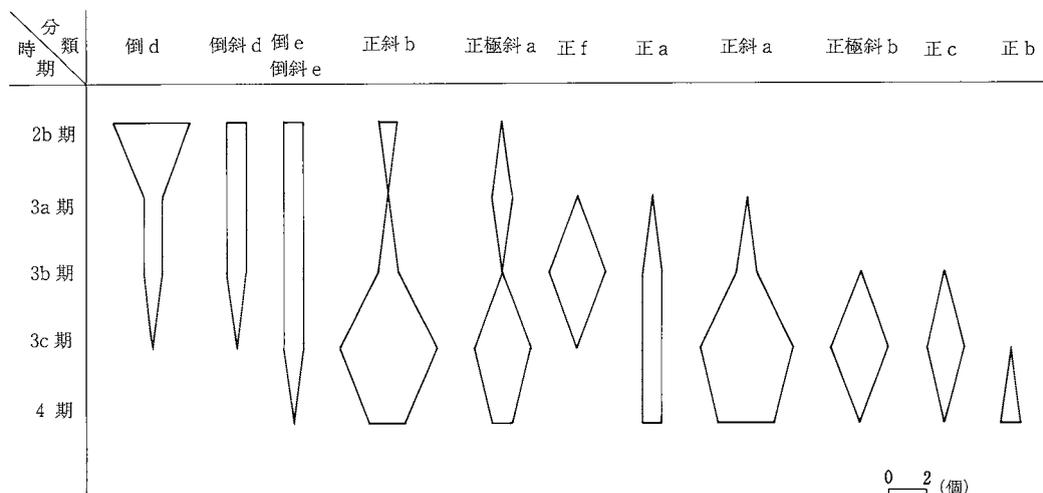
<被覆型>



<埋納型>



図19 埋甕の分類



0 2 (個)

図20 埋甕時期別埋設状況

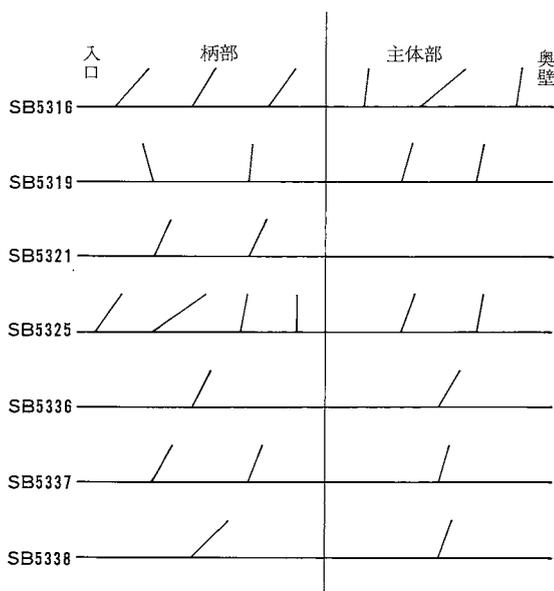


図21 柄鏡形住居跡の埋甕埋設角度

られ、埋甕が埋められる縁辺部には及ばない傾向があるため難しい。唯一埋甕の上に貼り床が貼られている例がSB5332の西側の埋甕に見られる(図版94)。

G 入口施設

入り口対ピットと柄部 家屋の入口には、1) 壁面の一部を開けて入り口とするタイプ(所謂妻入り、平入り)、2) 天井の一部を開けて梯子で出入りするタイプ、3) 入り口部を壁面の外に張り出させてその頂部もしくは脇から出入りするタイプ、などが知られている。これに伴う施設は1の場合は対ピット、2の場合は梯子の痕跡となるピットなど、3の場合は主体部から張り出す柄部や三田原遺跡例(長野県埋蔵文化財センター1992)に見られるような横入りの階段施設などがあげられる。屋代遺跡群で入り口ピットが見られる例は非柄鏡形住居跡で8例、柄鏡形住居跡で6例である。前者の代表例はSB5345のP7で、同ピットの西側で壁板材も途切れており、ここが入り口であった可能性が高い。その他の住居跡は元来主柱穴が特定しづらいため推測が難しいが、SB5332のP7、SB5334のP3のように主柱穴とセットで入り口部を構成するものとSB5340のP7、P21のように主柱穴の一回り内側に設定されているものが見られる。これに対し3c期の柄鏡形住居跡の入り口ピットは整然と対称で明確である。特にSB5316は柄部の両脇に7基のピットが検出され、逆にSB5325は連結部に大形の対ピットをもつ。SB5336とSB5338はこの両者を兼ね備えており、前者は連結部にP4・6、柄部先端両脇にN23 P7とN23 P6の2組を、後者は連結部にP21・22柄部先端にP22・24を有する。4期になるとSB5337やSB5319のように連結部に埋甕が埋設され、入り口ピットは明確でなくなる。さて、柄鏡形住居跡の上屋構造を推測するに当たって、柄部のみに屋根がかけられていたか、主体部から柄部まで大きく屋根がかけられていたかが問題となるが、SB5316やSB5336のように柄部両脇の入り口ピットを有するものは柄部のみに主体部とは別に屋根がかけられていたか、何らかの遮蔽施設が推測される。

H 周溝

明確な周溝が検出された住居跡はSB5324、SB5325、SB5336、SB5337で、すべて柄鏡形(敷石)住居跡である。この他にピットの細長いもので周溝の可能性が高いものがあり、一覧表では「周溝」に含めている。

周溝の位置は、主柱穴間がSB5324、SB5337、主柱穴の外側をめぐるものがSB5325、逆に内側をめぐるものがSB5336である。主柱穴間の例は4期に限定され、壁板を支える機能が推測される。SB5336は周溝間に補助柱穴が2基見られることから、主柱穴よりも炉寄りの空間に何らかの遮蔽施設が存在した可能性がある。

I 掘方

弥生時代や古墳時代の住居跡のように明確な掘方が検出されている例は無い。SB5337に代表される敷石住居跡の中には石を除去した後に若干土質の変化した部分が認められるようであるが、石の影響による変化の可能性も残る。

J 平石と挟石

屋代遺跡群のXII-3層は砂質シルト層であるため、本来地山に石は存在しない。そのため多くの住居跡の床面でみられる石は搬入礫である。これらには廃棄か遺棄か判断が難しいものもあるが、大形の平石

はそれが床面に沿って平らに敷かれているのかどうかを観察することによって遺棄を認定できる。表29に平石が1枚敷かれているものと2枚以上敷かれているものを掲げた。2枚以上敷かれているものには平石と平石の間に小円礫、棒状礫が挟み込まれているものが多く、これを「挟石」とした。石が敷かれる部位は、炉に接して敷かれるもの

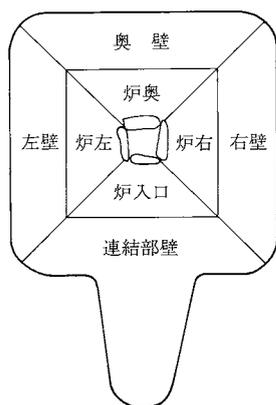


図22 敷石部位名称

の（炉奥・炉左右・炉入口）、炉周辺空間と壁際空間の間に敷かれるもの（奥壁・左右壁・連結部壁）、住居跡の隅の立石に伴っているもの（立石脇）に分類される（図22）。特に炉に接して敷かれるタイプは柄鏡形住居跡に多い。また、立石脇に敷かれるものの中には柱穴を塞ぐ例が見られ、他のものとは機能的に異なる可能性が高い。

K 周礫と立石

周礫 住居の床面に土を盛り上げてその中に小礫、棒状礫を組み込んだものを「周礫」と呼ぶことにする。床面の平石脇に並ぶ縁石とは同様の礫を用いているが、区別される。明確な周礫住居跡はSB5319、SB5324、SB5338のみであるが、SB5337では柱穴から周溝にかけて平面的に小円礫が並ぶ。その位置は、SB5338では柱穴を結ぶように、SB5324では柱穴の内側に構築され、柱の抜き取りの際に崩れたものもあるようである。また、周礫に囲まれた床面に、焼土や炭化物が目立つ。さて、SB5311、SB5335など竪穴住居の中には、住居の機能停止後の若干の埋め戻しの後に火が焚かれている例が多い。「火を焚く」という行為そのものを考えた場合、竪穴住居の場合は竪穴の壁が風を遮断し、また類焼を防ぐのに役立つと推測される。これに対し、敷石・周礫住居は床面が竪穴住居より高く、掘り込みも浅いため周礫が類焼を防ぐ役割を担ったと考えられる。次に「火を焚く行為」自体の意味が問題となるが、単なる住居の清掃行為、あるいは住居機能停止の祭祀（イエ送り）などの説がある。屋代遺跡群の場合、周礫中出土遺物に石棒やミニチュア土器、土製品や人骨、獣骨が含まれ、それが機能時から呪術的な役割を担っていたことは確実であろう。特に土壙墓以外で人骨が出土した例はすべて（柄鏡形）敷石（周礫）住居跡（SB5319、SB5337、SB5338、SB5340、SB5342）である。これはイエ送りに際してヒトを送るような祭祀が存在した可能性を示唆している。

立石 明確な立石はSB5337、SB5340、SB5342で認められる。特にSB5337の立石は、柱穴内に木柱と置換される形で入れられた可能性が高い。また、それ以外の2例は、一部が柱穴を塞ぐ形に構築されている。

L 埋土の堆積状況

建物構築時の埋土 住居跡の埋土を大きく捉えた場合、建物構築時に土を動かすことによって形成された埋土と、廃絶後に埋め戻されたり、自然に土が流れ込んだことによって形成された埋土がある。遺構の属性一覧表には後者の様相のみを記した。一方遺構図版には前者の観察をも載せている。埋土の種類としては、床を貼る際の土、柱設置後にその脇を固めた土、埋甕埋設後に脇を固めた土などがある。その多くはXII-3層に類似した黄褐色のシルト層である。

表29 敷石の部位

	S B名	平石	挟石	部 位
柄 部 あ り	5316	2	-	柄
	5319	2	-	炉奥、奥壁
	5321	-	-	—
	5324	1	-	奥壁、柄
	5325	2	○	炉奥・左・右・入口、柄
	5336	2	○	炉左・右・入口
	5337	2	○	奥・右壁、炉入口、柄
	5338	-	-	—
柄 部 な し	5346	2	-	炉入口～連結部壁
	5314	2	○	奥・左壁
	5317	1	-	右壁
	5318	2	○	炉右・入口
	5340	2	-	立石脇
	5342	2	-	立石脇
	6703	2	-	奥・左壁

平石1：平石が1枚のみ
平石2：平石が2枚以上

建物機能時の埋土 建物が機能している間に形成される埋土として、炉の堆積土があげられる。比較的明確な火床の上に灰層、炭層が見られ、灰を掻きだしながら何度も火を焚いたことがわかる。これに対し先に述べた「炉緑石の移動」の行われた炉の火床はさらに層が厚く、硬く焼けている。

廃絶後の埋土 住居廃絶後の埋土は普通3～5層程度である。第一埋没土である最下層はXII-3層に近い黄褐色土層で、その上に遺物や炭、焼土が多量に含まれる黒褐色土層が何枚かにわたって堆積するケースが多い。さらにその上の黒褐色土との間に再び黄褐色土を挟む場合もある。第一埋没土の黄褐色土は周堤などの可能性が考えられる。また、遺物や炭を大量に含む黒褐色土の場合は人為的な焼却行為に伴うものと推測される。特にSB5341やSB5335のように廃絶後にその窪地を利用して何回も火が焚かれたような遺構は、埋土が細かく分層され、特に後者は最高35層に上る分層が可能であった。

M 遺物の出土状況

遺物の採集方法 屋代遺跡群では、床面や第一埋没土内から出土した遺物は小破片を除いて非常に少なく、多くは先に述べた黒色土層から出土する。これは住居廃絶時の徹底した片づけ行為を示唆する。集中的に出土した遺物は、確実に層名が記載され、なおかつ出土位置を点で表記した後に取り上げられた場合に限って「分層点取り」とした。また、本来は複数の層に分層されるにも拘わらず、層を記載せずに点取りが行われてしまった場合は、整理段階にセクションベルトの土層と遺物のレベルから遺物の層を推測仮決定した。この場合は「○○層相当点取り」として記載した。また、遺物を遺構個別図内に図示する場合、床面出土遺物は完掘図に挿入し、埋土中出土遺物は層別に分布図を作成した。

遺物の廃棄状況 今回、単独層を単位としたまとまりで遺物出土状況を図示できた住居跡は以下の通りである。SB5310（3層相当・1層相当）、SB5311（4層下面と5層）、SB5312（1層下部）、SB5313b（1層下部）、SB5321（2層相当）、SB5323（3層）、SB5326（2層相当）、SB5340（床と2層）、SB5341（7層上面と5層上面）、SB5343（1層）、SB5345（5層と2層上部）、SB5350（3層）。このうち相当層単位のもの除外して、遺物の出土状況を概観すると、以下の2つのパターンが見られる。

- ・厚い1枚の層全体から遺物が出土するもの・・・SB5340、SB5343、SB5350
- ・層理面近くに遺物が集中するもの・・・SB5311、SB5312、SB5313b、SB5323、SB5341、SB5345

遺構間接合による段階の推定 屋代遺跡群は上面の攪乱が無い場合、廃棄した遺物全てが回収されたことになる。そのため十分な時間をかけて遺構間接合をすれば、遺構間の時間的な関係を土器型式の枠よりも更に細く捉えられる可能性を秘めていたが、時間的制約から作業進行上は、隣接した遺構に限ったことを述べた。また、同一個体認定もかなりラフに行われており、今後土器属性表の見直しが必須である。そのためここでは同一個体を外し、確実に接合されたもののみによる遺構間接合に基づく時間的なセルを図73に示した。今後遺物の接合等をさらに徹底することによってより細かな廃棄単位に基づく同時性の検証と時間軸の再設定が可能であると考えられる。

N 遺物量

土器量 接合前の遺構毎の土器の出土量の大小を提示するために「土器量」という項目を設けた。下段が遺構毎の土器の総重量(g)、中段括弧内が口縁部個体数(個)、上段が口縁部の重量(g)である。

石器量 石器の遺構毎の出土量を提示するために「石器量」という項目を設けた。下段が搬入礫(円礫・角礫)の個数、上段左が剥片石器・剥片類・石核の個数、上段右が礫石器・石製品の個数である。

5～8章は他遺構も同様の表示方法を採用している。

(2) 遺構各説

基本的な記述は一覧表で代用しているため、ここでの記述は遺構間で特に統一していない。いずれも時

期の古い方から、竪穴住居跡、柄鏡形（敷石）住居跡の順に記載する。

A 後葉2b期～3a期の竪穴住居跡

①SB5310とSB5322

SB5310・SB5322の関係 SB5310（図版56）の直下からSB5322（図版68）が検出された。SB5322の埋土はXII-3と極めて類似した土質で、その上に炭化物や焼土を含んだ層が4層重層しており、この部分をSB5310としている。SB5310には明確な床と推測される部分が無く、炉や、炉の廃絶に伴う縁石の散乱もなかった。これに対してSB5322はやや堅固な床面と石囲炉、埋甕を伴う。このことから両者が1軒の住居で階段状竪穴部壁を有していた可能性も考えられる。ただしその場合階段の踊り場部分に埋甕の1つが埋設されていたことになり、同様に階段状竪穴部壁を有するSB5351とは異なる埋甕配置となる。また、埋甕もSB5322の方がやや古い。そこでここではSB5322を埋め戻してSB5310を構築した可能性が高いと考えたい。

XII-2層形成とSB5322の埋土 SB5322の埋土は1層であるが、XII-3層に極めて類似した土で、XII-2層ブロックを含んでいなかった。このことはこの埋土が周堤の土の流れ込みであったにしろ、人為的な埋め戻して形成されたにしろ、当時まだXII-2層の形成が希薄だったことを裏付ける。また、SB5310の1層より上の凹みにはXII-2層が堆積しており、竪穴掘削時からの時間的な推移を確認できる。

②SB5341

炉 本住居跡の炉内は火床、被熱層、縁石掘方も含めると11層に細分される（図版86）。9層が火床で硬く焼け、直上8層は灰層、7・6層は炭化物層である。6層上面に割られた炉縁石が散乱、XII-3層に類似する5層で埋め戻されている。1～4層は部分的に火床や炭化物が挟まれるため、再びここで火が焚かれたと推測される。

住居廃絶と火入れ行為 住居の廃絶時に床面で強力な火を焚く行為「火入れ行為」は後葉5期の「周礫」住居跡で多く行われている（SB5338他）。それよりも3段階古いSB5341でも明確な火入れ行為が認められた。住居廃絶後、7層によって埋め戻しが行われた後にその上面で火が焚かれ、遺物が廃棄されている（図版87上）。さらに6層、5層が堆積した後にその上面で再び火が焚かれ、土器の廃棄が行われた（図版87下）。特にこの段階には北側に5基のピットが掘り込まれており、この火入れ行為との関係を窺わせる。

B 後葉3a期の竪穴住居跡

①SB5332

石敷の土壇 SB5332は本遺跡唯一、奥壁に土壇を有する竪穴住居跡である。土壇は高さ5～10cm程度で壇上に角礫が置かれている（図版76）。角礫は敷石住居跡で使われるような扁平なものではないが、比較的平らな面を上にして配置されている（PL11）。ほぼ中央の角礫上に石皿（図版397-388）と磨石、石棒状の棒状礫が置かれている。この他本住居跡では南西部のP9脇に角礫が散在するが、これは炉の縁石の投棄の可能性があろう。

②SB5311

住居廃絶と火入れ行為 SB5311の床面は本来8層下部の下床であるが、10～15cm程度の間層を挟んだ上部に同様な平坦面があり、上床とした（図版57）。炉も同様に下床に伴う石囲炉の火床直上に10cm程度の埋め戻し土が堆積し、その上に炉の石囲いからかなりはみだした状態で火床が広がっていた（図版57下段右・図58）。この火床は上床に伴う。すなわち住居廃絶後に床面から炉にかけて埋め戻しを行い、整地した後に再びかなり強力な焚き火を行っていることになる。さらに、埋土1～6層はどの層も焼土・炭化物が多く、土器片や粘板岩製の剥片も多く含む。特に4層は炭化物に混じって下部に土器片が集中廃棄されている（図版58）。4層堆積後に再びこの場所で火が焚かれ、3層火床面が形成されている。

C 後葉3b期の竪穴住居跡

③SB5335

奥壁部敷石 本住居跡は南東半分が外周トレンチで破壊されているため、残存部の形態や施設の位置関係から全体像を推測する必要がある。まず壁は、断面形から判断する限りにおいては、階段状竪穴部壁構造が予想される。南側のテラスの幅は約40cm。北側は床面から約36cm幅で15度の角度の緩やかな立ち上がりが見られ、この壁に沿って角礫平石が敷き並べられている。石の背面から掘り込みにかけては約36cmの幅で45度の急角度で立ち上がる。テラスに石が置かれた階段状竪穴部壁構造という点ではSB5351と共通する。

平面形と埋甕 本住居跡の平面形は、北側の壁がかなり直線的で南側が張り出す点から五角形と推測される。また、埋甕が炉の南西部分に近接しており、どちらかという柄鏡形（敷石）住居跡での位置に近い。ただし五角形の主体部に張り出し部が付属すると仮定すると、かなり大形となる。五角形の大形主体部を有する柄鏡形（敷石）住居跡としてはSB5321が掲げられるが、もし柄鏡形（敷石）住居跡だとすればこのクラスに相当しよう。

断続的な火入れ行為 SB5335では、本遺跡の中で最も住居廃絶後の火入れ行為が明確に認められた（図版77）。まず8層堆積後に本来の炉の位置でかなり強い火が焚かれ、その上に磨製石斧、打製石斧、角礫や微細剥離を有する剥片、二次加工を有する剥片、その他の剥片や礫が投げ込まれる（図版77下「炉上SF」）。7層から1層の間には局所的に堅固な火床が見られ、繰り返し火が焚かれては埋め戻しが行われた様子が観察された（図版77上A-A'）。今回は調査期間の問題から精密な分層発掘を断念したが、調査に時間的な余裕があれば、火床・被熱層とそれに付属する炭・灰層のセットを面的に捉え、帰属する遺物を記載することが十分可能であろう。更に1層から住居掘り込み上10cmの間には10基のSFが面的に捉えられており、竪穴が埋まり切った後まで繰り返し火が焚かれていたことが解る（図版77下）。

④SB5345

SB5345の5層では、面的に多量の焼土が検出され（全面が焼土であるため遺構図版では特にスクリーントーンを貼っていない）、クリ材を中心とした炭化材が多量に出土した（図版92上）。

壁材の構造 炭化した建築部材（以下部材と呼称）の中で現位置を止めているものに、壁板材^(註1)があげられる（図23）。現場段階では「3層（図版91のB-B'）に壁板材が含まれている」という注記があるが、壁板材の設置方法の観察が無いため、壁板材をウレタンで取り上げたものを6年後の1999年になって解体したおりの断面図（図版92上段B-B'）を併記した。ただしこれは若干の収縮が予想される。これらを検討した結果、3層・3層層理面に壁板材がはめ込まれたことによって層厚約7.5cmの3層が形成されたと推測した^(註2)。

さて、板の上端は、残りの良いもので床上30cm程度、下端は12cm程度に位置する。3・3層の上には遺物が大量に廃棄されていた2層が堆積し（図版92下）、下には先述した焼土、炭化物を大量に含む5層が延びる。すなわち板の先端は床面に到達していないのである。ウレタン土層の観察からは壁板の下には大型の炭化物が密集し、壁板材に続く可能性もあるため、この解釈として以下2つを併記する。あ）、壁板材の下端は当時から直接床に接しておらず、燃えやすい繊維質の覆いの中に埋め込まれるか接していた。そのためここで火を焚いたおりに燃えやすい下の方だけが焼けて、板材から成る上の方は焼け残った。い）、下の部分は本来床に設置していたものの、解体の際に破壊され、燃えてしまった。

何れにしても、壁板材の残存によって本住居の壁が南側が張り出す五角形を呈していたことが判明した意義は大きい。これは遺構の掘り込みの形とほぼ一致する。また、壁板材はSB5338によって切られている北西側とSB5321、SB5319によって切られている東側以外にもいくつかの断絶がある。特に顕著なもの

は東北隅とP7西脇の南側頂部であり、入口施設の可能性が高い。

屋根材 5層内で焼け残った部材には屋根材と柱材がある(図23)。屋根材と認定できるものは炉東側の屋根材1と北東部の屋根材2である。とくに屋根材1は材の繊維が放射状に走り、周りが焼土で覆われていることから、屋根を葺いた材と垂木、屋根木舞、屋根の上に載せられていた土などが一緒に焼けたものと推測される^(註3)。特に約50°以下の角度で交わる樹65、69、73を垂木とすれば、直線的な棟木を持たず垂木同士が1点で交差するような構造が推測されよう。また樹72とその上に載る板および樹28は、幅が26cm以上で厚さが最厚部で4cmであるため、通常の丸木材とは考えられず、板葺き屋根の板の可能性もある。その他西側および南側の材の多くもその規模から屋根材の可能性が高い。このような推論が正しければ、残存木材の中に柱材は殆ど無いことになる。

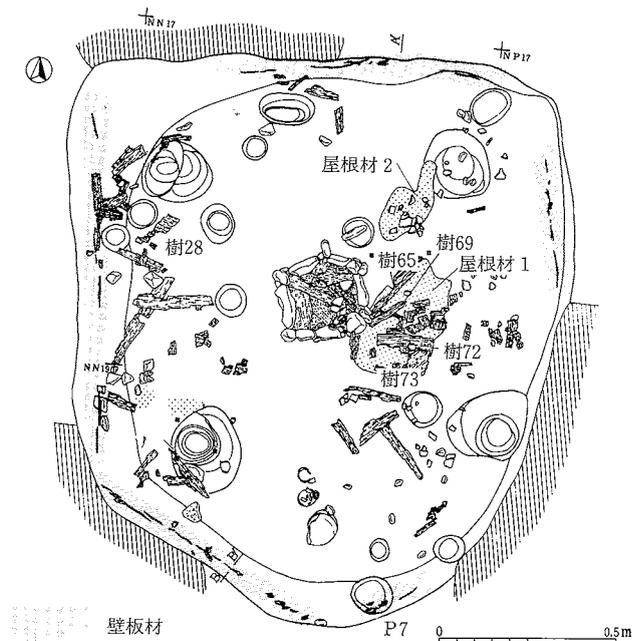


図23 SB5345の構造材と壁板材

焼失の理由 本住居跡の第一埋没土は6層(炭化物10%、焼土3%程度を含む暗褐色シルト層)であり、床面直上に直接この5層が堆積しているわけではない。一番低い炭化材も床から浮いた状態で検出されている。また、炉も炭化物を大量に含む9・10層は炭化物が比較的少ない7・8層に覆われている。このため住居機能時の失火によって火災が起きたとは考えづらい。ただし炭化材の中には、現位置に近い状況で落下した屋根材や、現位置を保った壁材が含まれており、1軒の建物の構造を反映する部分もある。このことから解釈の一つとして、住居の廃絶後に家財道具を持ち去り、柱・屋根は残したまま部分的に解体を行い、第一埋没土が流入してから、放火したという可能性が考えられよう。また、明確な柱材が見られない理由として、焼却行為の後に別の用途のために持ち去ったとも推測される。

D 後葉3c期の柄鏡形(敷石)住居跡

①SB5316

建物の構造(図24) SB5316は⑤b区の西端で検出され、本遺跡の柄鏡形敷石住居跡では最古にあたる。柱穴は主柱穴形で、P10・11・13・5が深さ30cm以上と揃っていて、P13をぬかした3基は奥壁から炉縁石に接する軸O上の点Oを中心とした半径105cmの円周上に載っている。また、この円の南限は連結部にあたり、さらに南に半径と同じ長さ分伸ばした点は埋甕3にあたる。次にP8とP12、P9とP17は炉を挟んで対象になっており、何れも柱痕を有するが、中心Oの若干南に点Pを設定すると、Pを中心とした半径90cmの円周上にこのうち3基のピットとP13が収まる。そしてこの点を通る軸Pと円周の交点をP'としたとき、さらに南へ半径と同じ長さ分伸ばした点は埋甕3にあたる。このようにSB5316は、奥壁一炉、炉一連結部、連結部一柄部先端が1:1:1となった柄鏡形住居跡が2棟重複していたことが解る。また、南からP1・2・3・4とP16・15・14の2列は軸Oの段階に伴う入口施設と考えられる。

炉の構造 炉は他の柄鏡形住居跡と同様に2段階にわたって使用されている。第1段階には深さ30cmのところに火床面が形成され、火床の上には灰が厚く堆積する。第2段階にはこれを1層(シルト土)で埋め戻した後に、胴部中央部分のみを残して上下が割られた埋設土器(図版257-12)が埋め込まれる。埋甕炉としての使用痕は明確で、内外面ともに被熱して灰が付着している。北側の炉縁石は火床に沿って並んで

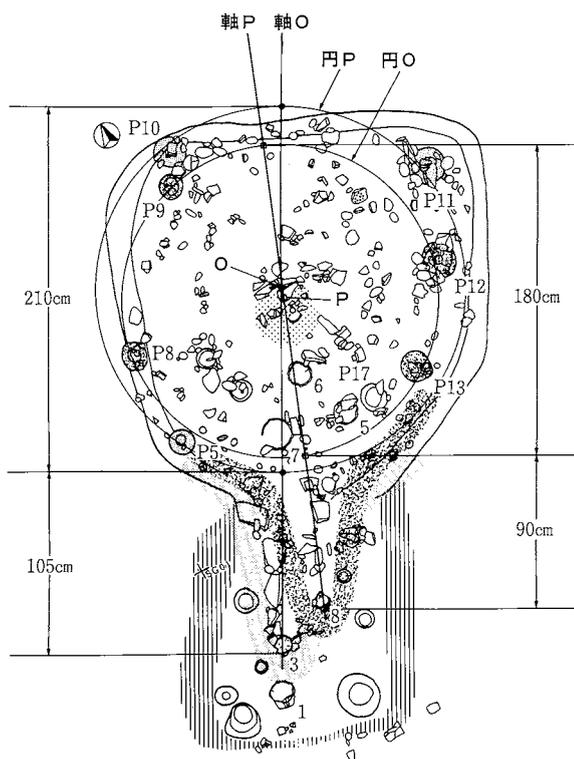


図24 SB5316の2段階変遷

おり、石の下も明確に焼けている。1層上には炉縁石の破壊による石が散乱している。

埋甕 埋甕は柄部に3基、主体部に3基で、本遺跡の柄鏡形住居跡の中で最も多い。土器の様相からは段階差は認められないが、他の5点とは埋設方法が異なり、胴部以下を打ち欠いた状態で倒置されている埋甕5は、埋設方法としては後葉3b期以前の古い様相を呈しており、内部からチップやフレイクが出土した点でも異質である。先述した建物や炉の2段階の変遷と埋甕の配列から以下の推定を行う。SB5316第1段階：ほぼ軸O上に並ぶ埋甕1・3・7が相当する。埋設角度は1・3がほぼ50°、7が70°で住居跡中心部に上部を傾けて埋設されている。SB5316第2段階：軸P上に位置する埋甕6と8をこの段階に対比させる。軸Pは同時に炉の縁石の残存部である北側の石列とほぼ直交することから石囲炉はこの段階に構築されたと推測される。埋甕炉はそれより新しいことから本段階に含まれる。

1と6には底部に植物が埋納されており（第9章第3節参照）、両段階を通じて植物を敷いた上に何らかの埋甕内包物を埋置する習慣が踏襲されたことが解る。

周礫の様相 本住居跡の埋土2層～床では、10～20cm程度の円礫と角礫がまとまって検出された。現場ではランダムに散乱しているような印象であったが、部分的にはP6・7・10脇などのように角礫の平石が水平に敷かれた箇所や、西壁付近のように小礫が弧を描くように巡る箇所も認められる。これに対して柄部の西側では平石が、主体部と埋甕を結ぶように整然と並んでいるが、小礫の末端はこの平石の上を覆うように延びている。また、検出されたピットの多くはこれらの円礫で覆われている。このことから柄部や主体部に部分的に残存している角礫平石が住居跡機能時のものであるのに対し、少なくとも小礫の一部は住居跡の廃絶時に散らばったものと推測される。礫には被熱しているものや使用痕のあるものも見られる。またこれらとともに出土した石棒（図版400-431）はSB5324出土の石棒（図版399-427-緑泥片岩製）と素材が似通っている。

住居のライフヒストリー 第一段階：主軸O柄鏡形敷石住居（P10・11・(13)・5、埋甕1・3・7・(5)、柄部に敷石有り）→第二段階：主軸P柄鏡形敷石住居（P9・12・13・8・(17)、埋甕6・8、炉北側縁石と埋設土器、柄部敷石・柱穴周辺には周礫が伴う可能性あり）→第三段階：剥片石器・礫石器や小礫・石棒等の遺棄もしくは廃棄（儀礼の様相）→第四段階：前段階から継続して土器破片の廃棄もしくは遺棄、という変遷を推定した。

②SB5325

建物の構造 石の残存状況の良好な柄鏡形敷石住居跡である。主体部の掘り込みは検出面から20cm程度で、北壁、西壁北側に周溝が巡る。柱穴は5本で北を頂点とする五角形を呈する。この柱穴列空間の一回り内側の炉を取り囲む空間が、その外側よりも約10cmほど低く、ここに角礫平石が敷き詰められている。また、この一段低い部分でも、住居跡主軸部分のP4を頂点に、主体部埋甕の外側にP7・8が対置し、ほぼ二等辺三角形を描く3基のピットが確認されている。敷石は、北側が少し動いた様子があるが、南側は平石間に円礫や棒状礫を詰めてジョイントしている。平石は炉縁石や埋甕2・6の際まできっちりと敷か

れている。

炉 炉は深さ18cm程度の方形石囲炉である。火床（5層）の上に焼土層があり、その上は灰層である。この灰層上面に圧痕隆帯土器(8)と大木系土器(9)が裏面を上にして敷かれている。土器の上には顕著な灰や炭化物層が見られないことから、これらの土器が火床を封鎖していた可能性も否定できない。さて、この炉の火床は、南側は炉の縁石下から始まるが、北側は炉の縁石の22cm外側まで延びている。すなわち火床が北側炉縁石をまたいで連続するのである。そしてこの部分は完全に敷石の下に隠れることになる。さらに北側の炉縁石は本住居跡の炉縁石の中で最も強力に被熱している。そのため(1)で述べたような「炉縁石の移動」が行われた炉と解釈できる。すなわち長方形の石囲炉→北側縁石を南に移動させた方形石囲炉→石囲炉の封鎖もしくは石囲炉での弱い焚き火という変遷が辿れる。

住居跡外ピットの可能性と上屋構造 住居跡外のピットは皆無に等しいため、上屋構造を復元する手掛かりは主柱穴のみである。ただし第一埋没土がXII-3層に類似しているため、周堤にXII-3層を盛り上げていて、それが崩れ込んだ可能性がある。

③SB5338

建物の構造 SB5338は⑤b区のほぼ中央で検出された柄鏡形住居跡である。柱穴は壁柱穴型で、P25・19・18・17の延長上に、内列にはP1・4・5・6・7・9・29、外列はP16・15・3・14・8・10・29が検出されている。P7とP8の重複とP29の11層→9・10層という変遷から、内列から外列に拡張した可能性がある（図版82）。連結部のP21とP22、柄部先端両脇のP23・24はそれぞれ対をなすため、入口対ピットと考えられる。連結部対ピットの南側には棒状礫が直線的に並んで柄部を形成し、その先端に両耳壺（1）が住居跡内側に口縁部を傾けた形で埋設されている。棒状礫の基部は主体部の床面より10cmほど高く、ほぼ埋甕の口縁部の高さにあたる。床面には17cm程度までの円礫、角礫が散乱しているが、周礫、部分敷石と炉縁石が混在しているものと推測される。炉北側の床面1.3～2mの範囲には厚さ4～6cmの焼土が広がり、クリの炭化材が出土しており、床面直上で火が焚かれていたことがわかる（5・6層）。焼け面の西側には円礫が双環状に配置されている。

炉 炉には、長軸70cm、短軸40cm程度の火床部が確認されている（図版83）。南側は縁石が境を形成しているが北側は約12cmの深さの掘り込みの壁が強く被熱しているのみである。石の抜き取り痕跡は確認されなかったが、火床の直上や炉の周辺に縁石が散乱しているため、石囲炉であったと推測されよう。火床中央部には斜めに、被熱した大形の縁石が埋め込まれているが、もしこの石が火床を分断していたり、石の前後の堆積の様相が異なれば、複式炉のように石が炉の区画として機能していた可能性もあろう。しかし石の前後には一連の焼土・炭化物層が形成され、石の下にも火床が見られることからそうとは言い難い。そのため「燃焼部調節」を目的として縁石を動かしたものの、あまり使用せず廃絶したものと解釈したい。ただし、縁石の傾きを他の「燃焼部調節炉」と比べると（図18）、本炉のみが燃焼部側を広くとるように設けられている。これは当時人々が意識した燃焼部が北側であったことを示すのではないだろうか。炉の北側の1層直上には先述した床面直上焼土が広がっており、仮に炉1層が当時の人々による埋めもどし土であるとすれば、この縁石の移動は床面全体に及ぶ焼却行為とも関連する可能性が高い。

周礫 住居跡主体部の壁の内側には周礫が構築されている。連結部のやや西側から始まり、連結部の東側から東壁に沿った部分がかつとも残りが良く、北西壁際にも若干見られる。構造は床面に15cmほど土を盛って2～10cm程度の小礫を埋め込んでいる（図版82C-C'）。この中からは剥片石器や土器小片も出土している。P22・29はいずれも周礫に覆われている。

床面人骨 炉の東側には人骨が埋葬されている。頭蓋骨と四肢骨の一部が認定されている。周りから出土した大形の石は人骨に沿って置かれた可能性もある。この人骨付近からは焼かれていない獣骨も出土して

いる。

住居のライフヒストリーと周礫 付属施設の検討結果から以下のような変遷が追える。第一段階：内帯のピット列を壁柱穴とした柄鏡形住居→第二段階：壁柱穴を外帯に拡張した柄鏡形住居。部分敷石の可能性もある。炉は石囲炉もしくは北側が解放された石囲炉と推測される。→第三段階：炉の中心に石が埋め込まれ、床面に遺体が埋葬される。これと前後して炉縁石北側を中心に火が焚かれる。

さて、周礫はP22からP29直上が最も残りが良い。P29は第一・第二両段階に共通するため、この上を塞ぐことの意義は大きい。1つには周礫が構築されたのが柱の取り外し以降であるという解釈が、もう一つは住居廃絶後柱材を抜き取る際に崩れ込んだという解釈が浮上しよう。ここでは周礫が第一段階柱穴を繋ぐ形で構築され、第二段階のピット列とも並行している点を重視し、周礫は元来柱列を補強する形で作られていたと考えたい。

E 後葉4期の竪穴住居跡

①SB5340

建物の構造 本住居跡の埋甕は3c期の口縁部文様帯を有する両耳壺であるが、床面遺物は4期の破片が主体で、埋土出土土器も同段階に属するため、4期に含めた。本住居跡は掘り込みと立石の配置から、西側に頂点を持つ五角形の平面形を有する(図版84)。柱穴は19基確認され、何回かの建て替えがあったと推測される。まずP19を頂点にP18・26、SK5610に切られたピット、P9の5本支柱穴が基本となりこの柱穴の付近もしくは延長線上に立石、敷石が認められる。これよりも一回り内側にP19・18・21・7・9が支柱穴となる五角形のプランが認められる。特にP21は柱の基部が炭化した状態で残っており、直径40cmのクリ材であることが解った。P11・22・8はこれらの支柱穴を結ぶライン上に位置する。これに対しP10・14・12・16・17・13・25は何れも直径20cm内外と小振りで、中でもP16・17・13・25は深さ15cm内外で炉を取り囲む位置にある。炉の東側に近接するP23は深さ20cmで他の柱穴とは別の機能を考えたい。床面は、炉を取り囲む小ピットと埋甕を結ぶ線が硬く敲きしめられているが、埋甕脇では途切れ、軟弱である。

立石・配石 配石は、立石1基、敷石3～4個が一組になっていたと推測されるが、ほぼ床面上に4つの群が検出されている。まず五角形の頂点に位置する西側中央の群は先の尖った立石が上部を約55度住居跡中央に傾けた状態で検出され、その内側に平石2基が敷かれている(図版84C-C')。南西隅の群はP9の内側に長径30cmの平石と大形の角礫が4点まとまっているが角礫の1つはP24の上に載っている。北西隅の群では長径20cm厚さ15cmの小形角礫と小円礫がまとまっており、P18の北半分は角礫によってふさがれている。南東隅の群は住居跡コーナー寄りに10×30cmの横転した棒状礫と長径20cm程度の角礫3点と小礫で構成されている。北東隅では土坑が錯綜しており配石は見つかっていない。

炉の構造 炉は住居跡のほぼ中央に位置する石囲炉である。縁石は西側と南側が残るだけであるが、西側の縁石は主軸に直交し、南側の縁石は並行する。深さは36cm程で、縁石とは無関係に土坑の壁及び底面が強く被熱している。3層は焼骨を多量に含む灰層であり、この灰層に西側の炉縁石と炉縁石の後ろを支える角礫が差し込まれている。南側の縁石もこの時点で差し込まれたらしい。この縁石で囲まれた部分に裏を上にして土器が3点敷き詰められている。圧痕隆帯文土器は1点のみ(16)でその他は加曽利E系(12)と曾利・唐草文系(13)である。土器の直上層には灰が80%以上含まれている。

獣骨の一括出土 本住居跡2層は炭化物を20%程度含む黒色土で、その中からイノシシを中心とした獣骨が67点出土し、上部で土器、石器が多量に出土した。特に東側では打製石斧、両面調整石器が少数、微細剥離を有する剥片、二次加工を有する剥片がまとまって出土しており、動物の解体作業と関連した可能性が高い(図版85上)。A-A'には2層における代表的な獣骨のレベルと土器、石器全点のレベルを示したが、

獣骨の方に下位で出土しているものが多い。2層は層厚30cm以上であるにも拘わらず分層が不可能であったことから、人為的な埋め戻しが行われたと推測される。獣骨の個別所見は第9章第6節に譲るが、発掘調査時（1993年12月）の西本豊弘氏の指導所見を以下に記載する。「鑑定数24のうち、顎骨が特に多いが手足の骨も極少量認められる。年齢は成獣から幼獣、最年少で生後4ヶ月のものまでである。1軒の竪穴住居跡から出土した個体数としては本州で最も多い。歯の生え方から推測する捕獲年齢は0.5歳、1.5歳、2.5歳が普通多く、秋～冬の狩猟を想定する根拠となっているが、SB5340の場合1.0歳や2.0歳のものも含まれ、春先に捕獲されたものが混じっている。このことから出土した獣骨は集中的に捕獲したとするよりも順々に捕獲された可能性が高い。」

住居のライフヒストリー 各遺構の検討結果から以下のような変遷が追える。第一段階：竪穴住居で五角形の柱穴配置がなされ、必要に応じて「炉縁石の移動」が行われる段階。P19・18・26・9の段階とP7・8・21の段階が推測される。配石はP18を除いては完全に柱を覆うわけではないので五角形住居跡に伴った可能性があるが、住居廃絶に伴って柱と置換された可能性も残る。→第二段階：獣骨の埋置の段階である。P21の炭化柱痕から第二段階直後に火が焚かれた可能性があり、獣骨の弱い被熱もその折りのものとも考えられる。ただし獣骨の遺棄が一時的なものでないという所見や剥片石器のレベル差から、一定の期間ここが「イノシシ送り」のような儀礼の場として存続し、何度かに分けて獣骨が持ち込まれた可能性が推測される。周礫や立石が検出された住居跡では、住居の廃絶時に柱穴を石で塞ぎ、床面で火が焚かれるが、そこでは呪術性の高い遺物や人骨が検出されている。本住居跡では、配石をもつ呪術的な場がイノシシ送りの場として存続したことになろう。

F 後葉4期の柄鏡形（敷石）住居跡

①SB5319

炉の構造 本住居跡の炉は石囲炉と土坑炉からなる（図版65）。土坑炉は深さ約70cmで壁面が被熱し、厚さ5cm程度の火床面が形成されている。最深部9層には焼けた粘土塊が敷き詰められた状態で出土したが、粘土塊下の土坑底面は全く被熱の痕跡が無い。粘土は細粒の鉱物を含み、上面が平滑に成形されていた。9層の直上の8層は炭層であるため、9層の粘土上面で火が焚かれていたと推測される。8層内の土器はいずれも裏面を上にして敷かれていたが、圧痕隆帯文土器（13・16・18）のみ裏面が被熱していて、加曾利E系土器（12・15）は殆ど被熱していない。土坑内の位置関係からはこの事実に対する適当な解釈ができない。14も8層内で出土している。7層は埋め戻し土と考えられる。5・7層層理面に帯状に炭化物層が見られ、3・5層は灰層である。石囲炉は土坑炉の灰層（3・5層）内に北側の縁石を差し込んで造営され、南側は小円礫が直線的に配置されている。石によって方形に区画された内側が14cm程度掘り込まれているが、石囲炉内の焼土は極少量である。このような観察結果から本住居跡の炉は、土坑炉→石囲炉という変遷をたどると推定される。

周礫と敷石 本住居跡では炉のやや北側と北壁に並行する石列の中に平石がある。また、埋甕周辺から柄部の結節点には小礫が直線上に並べられているがこれらは埋甕の口縁部のレベルとほぼ同じ高さであり、床面に並べられていることが解る。これに対し、炉の縁石に並行するように住居跡の北、東西辺に並べられている小礫は床面の敷石よりも15cm程度高く土を盛り上げて、その中に埋め込まれていたと推測される。周礫内からは人骨の頭部が打製石斧（図版381-149）を伴って出土した。四肢骨は認められないが楕円形の骨分布範囲が確認されているため、周礫内に埋葬されたものであろう。

住居のライフヒストリー 本住居跡では土坑炉→石囲炉という変遷が推測されるが、土坑炉内の遺物にも埋甕にも加曾利EⅢ新式に併行するもの（3・13・14他）と加曾利EⅣ式に含まれるもの（1他）が併存する。このことから本住居跡は後葉3c期～4期にかけて使用され、必要に応じて埋甕の追加や炉内埋設土

器の交換が行われたものと考えたい。

②SB5324

建物の構造 SB5324は⑤b区の北西部で検出され、本遺跡最新の柄鏡形敷石・周礫住居跡と考えられる(図版69)。掘り込みは不明だが、炉と周溝、柱穴、周礫の配置から南側に頂点を持つ五角形の平面形が推測される。ただし、柄部は住居跡主軸から大幅に外れて西よりで検出され、しかも主体部と柄部の間は60cmにわたる石の全くない空白部が認められる。柱穴は全体に小形で周礫外側を巡るが、特にP1・2・6が深い。周礫はSB5319と同様に床面から5~10cm程度土を盛り上げて小礫を載せる、もしくは埋め込んで築造されている。柱穴のうちP1・6・9では、礫が柱穴中心上に載っている。本住居跡では多くの石が出土したが、主体は小円礫で、角礫平石が水平に敷かれていたのは柄部と炉を結ぶ延長線上(軸O)北側のみで、その平石の上にも周礫が載っていた。

炉 炉は石囲炉で、深さ65cm程度ある。底部に火床は無く、炭の堆積のみで、土坑の壁面が炉の縁石の外側まで強く被熱している。敷設土器や粘土塊等は見あたらないが様相としてSB5319の土坑炉に類似する。断面観察から、炉縁石は、土坑壁が被熱した7層より内側に差し込まれていることから、本炉も土坑炉→石囲炉という変遷を辿った可能性が高い。また、石囲炉の四辺の縁石の方向は、柄部と炉を結ぶ主軸線との平行線よりも、周礫の五角形のうち2辺の方向により近似する。このことから石囲炉は五角形の周礫に付属すると考えられる。

埋甕 埋甕は、住居跡の中央南東部にほぼ垂直に正置されていた両耳壺で、胴部には条線以外の施文は成されていない。ほぼ完形で内部は全面に煤が付着している。柄鏡形住居跡の埋甕のなかで、主体部に1基のみという例は本住居跡に限られる。この埋甕も完全に周礫に覆われていた。

周礫内出土遺物 周礫施設では1層~周礫内にミニチュア土器(図版267-9・10・12・15)や石棒(図版399-426~429、図版400-432・433)がまとまって出土しており祭祀色が極めて強い。これはとりもなおさず居住空間→祭祀空間という変化を示すものと考えられよう。そしてさらにこの施設を廃絶するおりに人為的に石が動かされた結果、SH5101が形成されたと考えられる。それはSH5101からSB5324周礫にかけて投棄されていたSH5101-2(図版138上、図版369-2)からも裏付けられる。これは加曾利EIV式~後期初頭にかけて製作された深鉢で、本集落全体の中でも最終の時期にあたるものと推測される。本遺跡では、後期初頭の住居跡がみられないことから、SB5324からSH5101にかけての遺物の廃棄が集落廃絶直前の様相を示しているものと解釈したい。また、SH5101はSB5324の周礫よりやや大きめの礫を多く含むことから、これが本来第二段階の周礫施設の柄部を構成していた可能性も考える必要がある。また、SH5101の下のSF5176は埋甕をともなっており、SB5324との関係も重要である。

住居のライフヒストリー このような観察から以下の段階を推測した(図25)。第一段階：主軸Oの柄鏡形敷石住居(柄部と奥壁の平石、P1・4・6・7・9と埋甕が付属する)→第二段階：主軸Pの五角形周礫住居(小壁柱穴列P2・3・5・11・10、石囲炉が付属)→第三段階：柄部の廃棄。

③SB5337

主体部隅丸方形の柄鏡形敷石住居跡 北壁の掘り込みと石の配列から隅丸方形の住居跡主体部が推定される(図版80)。床面には閃

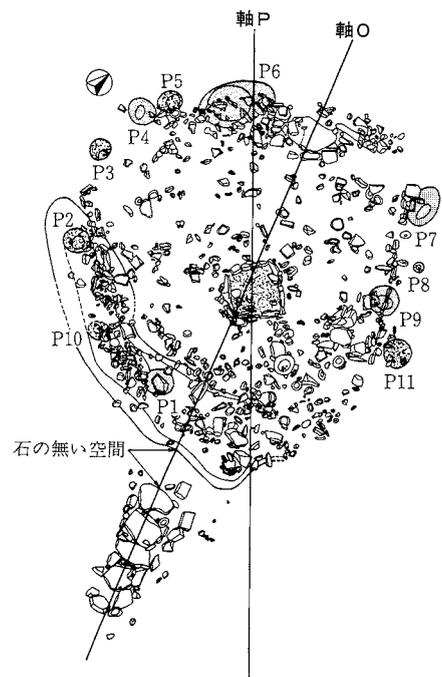


図25 SB5324の2段階変遷

緑岩の角礫平石がほぼ水平に敷かれ、特に東側の残存状況は良好。平石の直下には約8～10cmの凹みがあり、掘方として捉えられる。主体部の東壁際にはP4・5を繋ぐように周溝が巡り、小円・棒状礫からなる周礫がその上に載る。周溝は北西隅でも検出されている。柱穴は壁面から周溝にかけて主体部の外周に沿って検出され、南東隅が不明確であるものの、支柱穴7本型に分類される。柄部は主体部よりも30cm程度高く、全面に角礫平石が敷かれている。特に連結部埋甕南側の敷石は、炉の方向に向かい斜めに敷設されている。平石外の縁石は認められない。埋甕は連結部と柄部先端に2組。連結部のものは平石の間に収まるが、柄部のものは北側1/4が平石で覆われている。P6に近い平石上には人間の頭蓋骨が頂部を下にして置かれ、P4に近い平石上にも骨片が載っていた（図版81）。

立石 柱穴、周溝を塞ぐように構築された施設として、立石が認められる。立石は角礫や細長い平石で、住居跡主体部の4隅に見られ、何れも周溝もしくはピット内に全長のおよそ半分を埋没させ、若干傾いた状態で埋め込まれている。北西隅には周溝内に約40cmのものが2基、北東隅にはP4内に60cmのものが1基、南東隅は周溝内に50cmのものが1基、南西隅はP8内に約30cmのものが1基確認されている。特にP4の断面の観察からは、柱を抜去した後に石を入れた可能性が推察される（図版81）。

周礫 これら立石と立石を結ぶ位置、特に住居跡東辺から南辺にかけては、ほぼ直線的に小円礫・棒状礫と角礫が並ぶ。礫に混じって石器も認められる。これらは周溝に沿っており、連結部で柄部方向に40cmほど屈曲する位置で終結する。住居跡機能時に周溝に壁板が埋設されていたとすれば、それらを止める役割を担っていたと推測できよう。また、大形の立石に近接して、小円礫が垂直もしくは立石を支える土盛りを更に固めるように埋め込まれている。仮に立石の位置に本来は柱が立っていたとすれば、これらの礫は壁板から柱にかけての押さえの役割を担い、やがて崩れたと推測される。

炉の構造 本住居跡の炉は土坑炉と石囲炉である。土坑炉は深さ52cmで壁面が被熱し、厚さ10cm程度の火床面が形成されている。最深部の12層はタール状の炭堆積層で、底面は全く被熱の痕跡が無い。11層は砂～シルトの間層で、直上の9層が焼土・炭を含んだ灰層となる。7層も灰が主体で5・6層がシルトの埋め戻し層と考えられる。8層の直上南側で土器が裏面を上にして敷かれ、その上に灰層、多量の焼土、炭化物、骨を含む2層、住居埋土に少量の焼土、炭化物が混入した1層の順で堆積している。石囲炉の長軸は住居跡の主軸に一致し、南東側と南西側の縁石は1つの石を2つに割ったものである。土坑炉と石囲炉の関係を考える上で、南側の縁石から敷かれた土器の直上に堆積した灰層の北端までの距離が炉の東西の縁石の距離とほぼ一致することが注目される。このことからこの土器で画されたほぼ正方形の空間が石囲炉で囲まれた空間である可能性が高い。もしそのような仮定が成り立つとすれば5・6層は縁石の抜き取り痕に堆積した土であると考えられ、本来土坑炉に伴っていた北側の縁石を動かして正方形の石囲炉を作り、底面に土器を敷いたと解釈される。このような観察結果から本住居跡の炉は、土坑炉→石囲炉という変遷をたどると推定されよう。また、この石囲炉には焼土層や灰層が明確に形成されており、他の「燃焼部調節炉」よりも被熱の痕跡が顕著である。炉内に敷かれている加曾利EIV式土器（15・18）には内面に被熱と灰掻き出しに伴うと見られる削痕が顕著に見られる。

住居のライフヒストリー 以上の検討から本住居跡では以下のような2段階の変遷が推測される。第一段階：柄鏡形敷石住居（土坑炉→石囲炉を伴う）→第二段階：柱を抜き去って代わりに石を立て、土と小礫で固める行為（頭蓋骨の設置はこの段階に伴う祭祀の可能性が高い）。第二段階には柱の抜去に伴って上屋も取り外されている。

2 掘立柱建物跡 (ST)

(1) 全体概要と属性 (表31) (図版104~119)

掘立柱建物跡類型 屋代遺跡群では現場段階で5棟の掘立柱建物を確認し、整理段階で設定したものも含めると総数は27棟にのぼる。柱穴配置が比較的明確であるものを、主柱穴と棟持柱の位置によって以下の5類型に分類した(図26)。図示した位置以外にも補助的に柱穴が桁・梁の軸線上にみられるものもあるが、対称でないため主柱穴からは除外した。

- a. 建物の短軸方向(妻側)に2本の主柱穴を有するもの
- b. 建物の短軸方向(妻側)に3本以上の主柱穴を有するもの
- c. 建物の外側に突出する柱(棟持柱か)が加わるもの
- d. 主柱穴を結ぶ軸線が5角形以上の多角形を描くもの
- e. 主柱穴を結ぶ軸線が円形を描くもの

これらに、外側に突出した棟持柱を除いた、短辺と長辺の柱穴数を組み合わせて建物の細別を表現した。たとえば短軸に2本、長軸に2本の主柱穴を有する建物の場合はa22と表現できるが、位置付けが難しいものが多い(図26)。

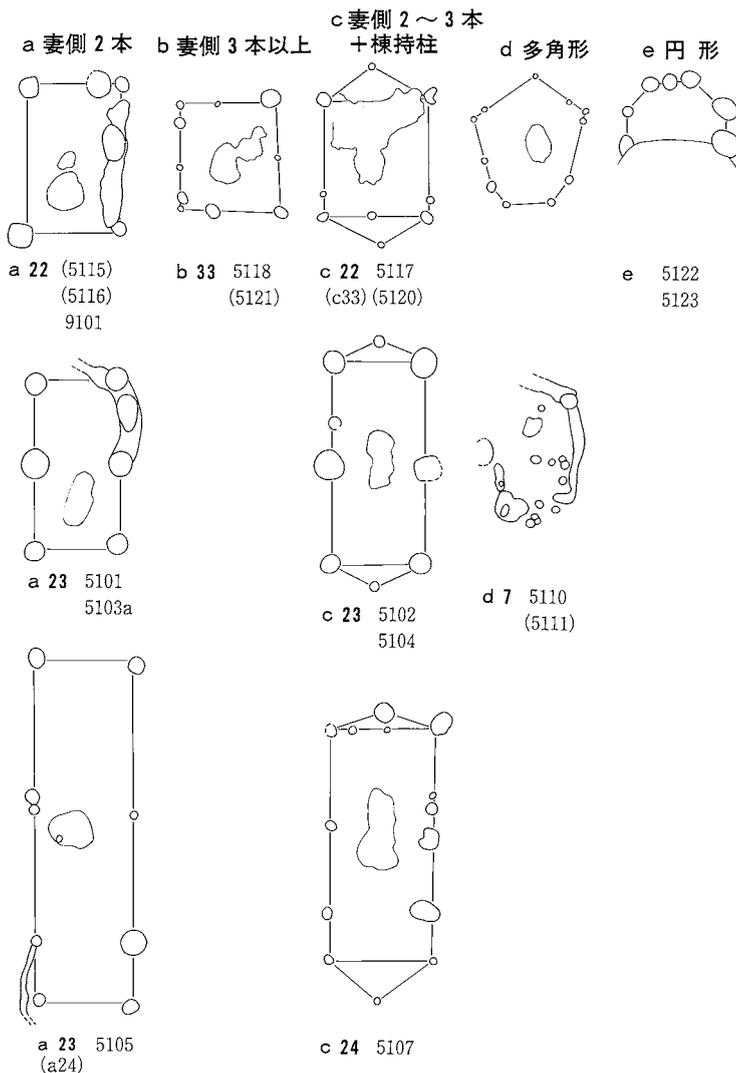


図26 掘立柱建物跡の分類

掘立柱建物跡の表示方法 本項で掲載した掘立柱建物跡の多くは整理段階で認定したものである。そのため調査段階にはSK、SF、一括など別々の遺構名で登録されていた。そこで掘立柱建物の根幹となる柱穴のみは、STの北西隅から順番にピットナンバーをふり直したが、帰属する可能性が高い他の遺構に関しては、現場段階の名称を変更せずに踏襲することにした。また、1軒のSTの中で上面検出の遺構と下面検出の遺構がある場合は、1/120、1/500の全体図では下面検出遺構に加えている。さらに、柱穴配置、深さが不自然なものについては、可能性の範疇に止めるという意味を込めて柱穴間を破線で結んでいる。

炉の有無と平地式住居跡 XII-2層面には屋外炉が多数検出されたが、掘立柱建物の柱間にも火床が挟まれる。主に検出レベルからの判断ではあるが、15棟の掘立柱建物跡が火床を伴うことを確認した。これらはかなり強く被熱しているものが多いため、何れも炉と認定される。特にST5105(図版109)のものは、南側に埋甕をもつ埋甕炉であった。このよう

に炉や埋甕を伴う掘立柱建物跡の機能は、平地式の住居と判断できよう。逆に炉を伴わないST5114（図版115）などは住居以外の倉庫、小屋などの付属施設と推測できる。

掘立柱建物跡の周溝 周溝はST5101、ST5103b、ST5105、ST5111、ST5115で見られる。棟方向の柱穴間を結ぶ形に掘削され、鍵状に屈曲する例も見られる。いずれも中央に炉が検出されている。

出土遺物 掘立柱建物の内側となる部分には、XII-2層上面検出段階で多くの遺物が出土した。現場ではこれらを「一括」遺物と命名し、廃棄の単位を反映するものと考え、単位毎の取り上げを行った（図版104～106）。これは竪穴住居跡の埋没後もその位置が廃棄場とされているのと同様に、掘立柱建物の跡地に集中的に土器や石器を投棄したことによると考えられる。また、ST5102は西側支柱穴脇に埋甕が検出された。仮にこの付近が入口とすると平入りの平地式住居となる。

（2）遺構各説

ST5101（図版104） S11・12ではXII-2層-1～2にかけて顕著な遺物集中が見られたためここをSX5512として掘り下げたところ、下からST5101の支柱穴が検出された。本STは1×2間で東西の柱穴列が整然と並び、中心やや南よりから炉（SF5126）が検出された。床面は炉周辺部分を中心に極めて硬いため、平地式住居として機能していたことが明確に解る。また、ピットの埋土1層とP2・7・3を結ぶ溝の埋土は何れもSX5512の埋土と類似する。このようなことから平地式住居が廃絶し、柱も抜き取られ、埋没する際の埋土と廃棄遺物がSX5512であると考えられる。P6上部からはミニチュア台付き壺形土器などが（図版104）、SX5512からは北陸系土器（図版343-6）など、3c期の土器片が多量に出土した。

ST5102（図版105） P1・3・4・5・7・8が支柱穴で、P2・6が対になり、棟持柱の可能性がある。

中央部に火床面が硬化した炉（SF5101）があり、STの内側には一括土器が15カ所、埋甕が2基検出されている。一括39の埋甕は西側P1・8間に胴部上半以下を切断した形で正置で埋設されている。またSX5509内にSQ5529埋甕が、やはり胴部上半以下を切断した形で正置されている。後者はSXの2層を切り込む形で埋設されているため、本STとは時間差を推測して屋外SQとして登録したが、埋甕一括39をはじめとするST内の他の一括土器と同様に中期後葉4期の範疇でとらえられるため、STが機能している間に埋設された可能性も考えられる。また、本STの西側支柱穴の延長上にP9、東側支柱穴列の延長上にP11、P2の西側にP10が位置し、ST5102と主軸がほぼ重なることは構造上注目される。

ST5103a・b（図版106・107） SB5311を取り囲むようにSD5101とSD5104が検出された。この溝を切っているピットをST5103aに、溝の底面で検出されたピットをST5103bに帰属させた。よってST5103b→ST5103aという関係にあり、前者は周溝を伴う。柱間にはSF5130、一括6b、一括7bとSX5505が挟まれる。被熱土器が廃棄された一括6bがP3を覆うことから、類似した被熱土器を含む一括7bも併せてST5103aに帰属する可能性が高いと考えた。一括7bはSF5130の中に集中していた土器群を指し、SF5130で火を焚いたおりに焼かれたものを廃棄したと考えられる。土器はすべて胎土中の混和材が劣化するほどに被熱している。SF5130はST5103aの地床炉と考えられる。

ST5109・ST5110（図版112） ST5110の南、ST5109の内部にSK5595がある。SK5595内の埋設土器は口縁部をST5110の頂部に向けて斜めに埋め込まれているため、ST5110の埋甕の可能性もある。ST5110はP3を頂点に、中央に炉SF5140を持つ七角形の平面形を呈する。

3 土坑（SK）

（1）全体概要と属性（表32）（図版120～127）

土坑類型 調査段階でSKとして登録されたもののうち直径が20cm以上のもの446基を「土坑」として一覧

表を作成した。ただし遺物が1点でも出ている場合は20cm未満でも土坑として名称を残した。特に断面形は『弥生・古墳編』（水沢1998）と同一の基準で類型を表記した。

土坑の機能 屋代遺跡群の土坑は、大きく墓壇、埋納施設、柱穴と認定されるものと、その他に分けられる。その他は、大きさ、深さともにばらつきが大きい。この中に、すり鉢状の底面をもち、完形土器を中心にした遺物が大量に廃棄されているものが見られる。この他に、貯蔵穴などとして使われていたものがあるだろうが、掘立柱建物跡の柱穴の中には直径50cm、深さ90cmという大規模なものもあり、遺物も多く出土しているため、これらとの区別はかなり難しく今後の課題としたい。

出土遺物 土坑内に良好な一括資料が見られる場合も多いが、掲載遺物を極力絞り込んだ。また、初めて遺物を広げた際に時期をおおまかに捉えて「土器概要」として簡易的にメモしたものを（ ）で載せた。住居跡の遺物は全体の時期区分ができた段階で再検討したが、これらは再検討を経ていない。

墓壇 (図27) 人骨の検出によって土壇墓と認定されたものはSK5589・5590・5790・5823・5833・5867の6基である。東側外周トレンチ内から検出されたN25人骨No.1～4(図版122)もプランが未確定であるが、本来土坑に埋められていた可能性がある。この他にSK5574(図版121)では透緑閃石岩製の垂飾(図版400-449)が出土しており、円形の土坑形状も合わせて墓壇と認定した。何れの土壇墓にも北村遺跡のような上面配石は見られない。頭位が解るものはSK5589が東、SK5823が北西、SK5790が南西、SK5833が西である。副葬品は、SK5823とSK5790で何れも頭の部分から深鉢形土器が出土している。またSK5590は

深鉢の内側にべったりと骨がくっついた状態で検出され、土器を割り敷いてその上に埋葬された可能性もある。また、SK5589では胸～背中部分の土に赤色顔料が付着しており、埋葬時に播かれたことが解る。この他住居跡から人骨が検出された例として、SB5319周礫内、SB5337敷石直上、SB5338床面、SB53421層最上部がある。前3者は特殊住居の廃屋にとまなう儀礼と関連し、後者は埋土中に埋葬されたものと考えられる。

動物骨埋納土坑 動物骨を埋納するために掘削された土坑はSK5602の1基のみである(図版122)。埋納された部位はイノシシの頭蓋骨である。ウレタンで取り上げたため骨の正確な埋納位置は不明だが、頭頂部を下にはほぼ床面近くに置かれたと推測される。また土坑の長軸と頭蓋骨長軸が一致することから別の場所で解体したものを持ち込んで埋めたと推測される。

大型廃棄土坑 極浅く、すり鉢状の断面形を有するものはSK4461・4903・5629・9003・9017・9070・9071に代表され、集落

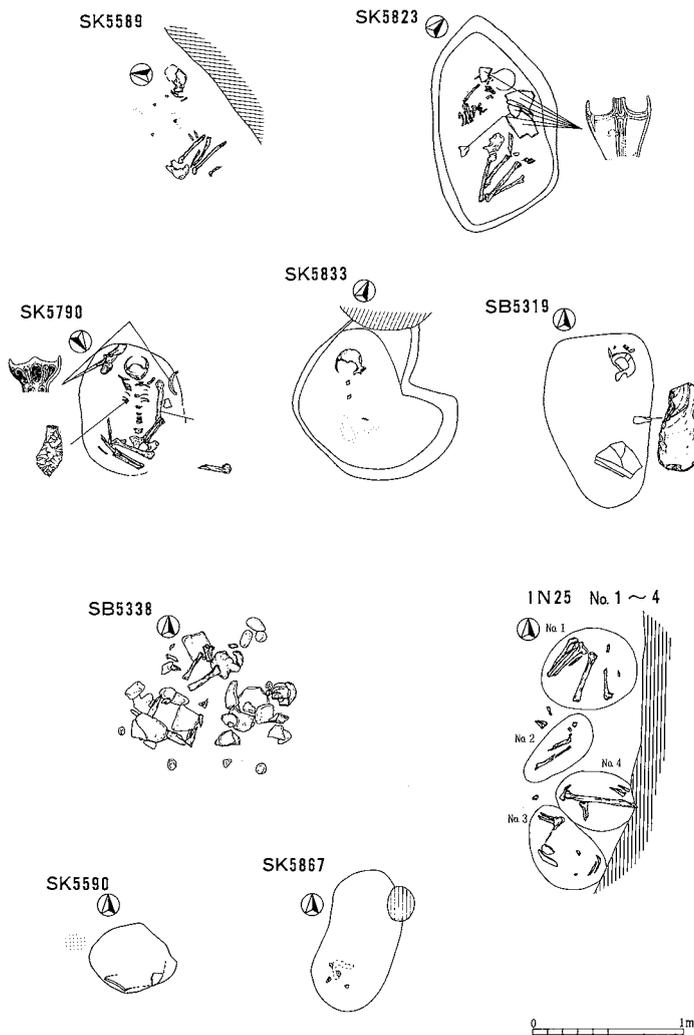


図27 墓壇と出土人骨

全域に分布する。SBとして登録されたSB5339もこれに類する。やや深いものにSK5576、SK9058などがあり、SB5348もこれに類する。この中にはSK4461・5695・9045・9070・9071のように土器が埋土中につぶれた状態で入っているものやSK4903・5523・5629・5770・5812・9003・9017・9058のように小破片がまとまっているものが見られる。このうち特にSK9071は土器の良好な一括資料を含む（図版127）。3層出土の1は底部と把手の1つを、7は同じく底部と把手の2つのみが故意に切断された状態で、並んで出土した。そして7の切断した把手の1つはSB5313bの1層下部の一括廃棄土器として出土している。

4 溝跡（SD）

(1) 全体概要と属性（表33）（図版128他）

SD表記の遺構 SDとして登録された遺構は16基で、自然流路、人工溝を問わず水が流れたと推定されるものは無く、全長9.06mのSD5103が最長でその他は2mに満たないものが殆どである。断面形態は『弥生・古墳編』に従って4類型に分類したが、浅いすり鉢状のものが多く見られる。SDとして登録されたものの中には掘立柱建物跡の周溝となったものもあるが、その他のものは土坑に類する機能が推測されよう。

一括廃棄遺物 このうちSD5102とSD5103では土器の一括廃棄が認められる。

5 焼土跡（SF）

(1) 全体概要と属性（表34）（図版129～133）

A SF表記の遺構の特徴

SFの種類 XII-2層面では97基がSF（焼土跡）として登録されている。これらを土層の状況から推定される機能に基づいて、以下の4つに分類した（図28）。

a 「平面火床」：比較的平坦な面で火を焚いた跡。堅固な火床の下に薄い被熱面が確認されることが多い。火床部分はSF5109のように極狭いもの、SF5150のように1mを越える広がりをもつものが見られる。

b 「掘り込み火床」：浅い穴を掘ってその中で火を焚いた跡。堅固な火床の上に灰や炭化物が堆積。長径2m前後の浅い土坑内で火が焚かれている。SF5172とSF5192などが代表的である。

c 「焼土a」：土坑の中に焼土塊や焼土が堆積しているもの。明確な被熱層がないこと、火床部分の広がりが狭いこと、焼土が散乱している状況などからa・bのように恒常的に火が焚かれた可能性は低い。別の場所で形成された火床が持ち込まれ、廃棄された可能性も考慮する必要がある。土坑の中にはSF4808・5119のようにやや深いすり鉢状のもの、SF5108のように極浅いものが見られる。

d 「焼土b」：比較的平坦な面に焼土塊や焼土が散らばるもの。解釈に関しては「焼土a」に同じ。これらの分布状況は（図28）、集落の中心部でも柄鏡形（敷石）住居跡が密集する部分を中心に火床a・bが検出され、焼土a・bは⑤a・⑥b・④g区など、周辺部まで広がる傾向が見られる。

SFの機能 焼土中から焼骨片が出土したSFはSF5104・5106・5117・5144・5166・5188・5192・9008の8例で、このうちSF5166は集石炉、SF5117・5188・9008は火床でその他は焼土a・bである。これらは調理施設と推測される。また、埋甕を取り囲んだり近接するSF5120、SF5103～5107と周辺のSF群、SF5138・5170などは埋甕に係わる祭祀的な行為とも関連する可能性が高い。この他に明確な火床面を有するものはSF5112・5172・5301、SB5335上SF群など数多いが、これらの機能については第10章にまとめる。



図28 焼土跡 (SF) と遺物集中 (SQ) 分布図

(2) 遺構各説

S9 SF群とN10埋甕群 調査区の中央やや南側のS9区のXII-2層上面では、SF5116・5110・5107・5114・5104・5103・5105・5106の8基のSFがSQ5507屋外埋甕を取り囲んでいる。SFは焼土aが多い。これに対し調査区北側のN10区ではXII-2層上面に極めて近いXII-2層-1で、SF5120を取り巻くようにSQ5531～5537の屋外埋甕群が埋設されている。どちらも土器自体の被熱は弱い、土器はほぼ完形で出土しており、屋外埋甕に関わる祭祀に「火を焚く」という行為が密接に関係していることが解る。またこれらがXII-2層でも上方から検出されたことは、集落の終焉に近い頃の状況を反映していると推定される。

SF5176 火床部の中央やや南よりに胴部下半以上を切断された土器6がほぼ垂直に正置で埋設されているため埋甕炉と考えられる。土器は外面が底部まで被熱しており、そのため剝離が著しい（図版132）。

集石土坑SF5166 本遺構は集石土坑であるが、検出面に現れた2・4層の焼土によって「SF」として登録されている。土坑底面に直径5～10cm程度の円礫を全面に敷き詰めその上で火が焚かれている。石の上面には厚さ10cm以上の堅固な火床が形成されており、石がかなり被熱していること、上部2層を中心に炭化材が検出されていること、石上から焼けた骨（種類不明）が出土していることなどから、調理を目的とした集石炉と認定される。上面を覆うSF5193がST5118に伴うと推測されるため、本遺構はSTより古いものと考えた。XII-2層検出遺構で確実な屋外集石炉と認定されたものは本遺構のみである（図版131）。

6 遺物集中（屋外埋甕・一括土器）（SQ）

(1) 全体概要と属性（表35）（図版134～137）

XII-2層検出遺構のうち、屋外埋甕と、遺物が面的に廃棄されたまとまりを「SQ」として登録している。総数54基のうち前者は16基、後者は38基確認された。

A 屋外埋甕

屋外埋甕の分類は先述した屋内埋甕の分類に準ずる。まず、欠損部位を基準にすると

- c. 胴部下半以上を切断し、全体の1/2未満が残存しているもの
- d. 胴部下半以下を切断し、全体の1/2以上が残存しているもの
- e. 胴部上半以下を切断し、全体の1/2未満が残存しているもの

の3類型が見られ、更に正置と倒置に分類した。また双方ともほぼ垂直に埋設されているものを「正」と「倒」とし、床面から50°以上の角度で斜置されているものを「正斜」、「倒斜」とした。その結果型式の解るものは正aが1例、正cが4例、正dが3例、正斜dが1例、倒dが2例、倒斜dが1例、倒eが1例で、被覆型や埋納型は見られなかった。集落における分布は（図28）、大きく5群に分けられる。

1群：SQ5531・5532・5534a・5535。SB5324の北側、4期住居跡群の描く弧の延長線上に位置する。胴部下半以下が切断され、3c～4期に相当する。

2群：SQ5544・5545・5547。集落ほぼ中央3c期の柄鏡形住居跡群がとりまく広場の中央西側に位置する。いずれも胴部下半以上が切断され、3c～4期に相当する。

3群：SQ5507a・5551・5558。SB5317の埋土およびその周辺で検出された。SQ5507aはほぼ完形、SQ5551は胴部下半以下切断、SQ5558は下半以上切断でいずれも3c期。

4群：一括廃棄小片SQ4804を伴うSQ4801

5群：SQ4803a・b。集落の南側縁辺部に位置し、胴部下半以下が切断された状態で埋設。2a期に属する。2a期の遺構は本埋甕以外に調査区内には見られなかった。ただし、後述する5群が集落南西部境に係わる祭祀に関連するものであるとすれば、本埋甕を保有した集落も同様に埋甕埋設

地の北東部40m付近の畑下に広がっていると考えられる。

6群：SQ4701・4702。SQ4701は胴部下半以下切断、SQ4702は胴部上半以上切断。前者は4期、後者は3b期と推測される。集落南西部40m付近に位置し、集落の境に係わる祭祀と関連するものであろうか。

B 遺物集中

遺物集中の属性には、平均的な標高を加えた。また土器片が被熱しているものが多いことから被熱した土器の重量を別に示した。

(2) 遺構各説

SQ4803a・b 集落主体部の南側約8mの位置に孤立して存在する(図版134)。周囲には土器集中も付属の施設も見られない。aとbは隣り合い、下部のレベルが同一であること、どちらも土器内部に粗い洪水砂に似た砂が堆積していることからほぼ同じ時期にb→aの順に埋設されたものであろう。また、bの口縁部がちょうどXII-2層とXII-3層層理面にあたることから、本埋甕はXII-3層が生活面であった時期に埋められた可能性が高い。また上記の理由から、aもbとほぼ同時に口縁部を外に20cm程度露出させた状態で埋設され、その後XII-2層が堆積したと推測されよう。また、土器内部の粗い砂は、埋甕外には全く見あたらないことから埋甕の埋設の際に故意に入れられたものであろう。また、本埋甕は時期的に中期後葉の中では最も古い屋代遺跡群中期後葉2a期にあたるものであり、この埋甕の埋設状況からXII-3層上面がこの時期の生活面に当たることが解る。

SQ4801・SQ4804 SQ4801(図版37)とSQ4804(図版134)は、XII-1層直下～XII-2層最上面で検出された遺物集中と屋外埋甕である。屋外埋甕SQ4804は後葉4期にあたるが、その口縁部とSQ4801出土遺物の多孔石のレベルがXII-1層とXII-2層の層理面にあたることから、XII-2層上面が屋代4期の生活面であった可能性が高い。

SQ5537土器群 N-10区のXII-2層上面には、屋外埋甕SQ5531・5532・5534aと土器集中SQ5537が重なって検出されている(図版136)。特にSQ5531の埋甕最低部はXII-3層に到達しているが、上部はXII-1層と2層の層理面よりも10cm程度上で検出され、XII-1層にパックされていた。当時の埋設レベルを推定する際に、埋甕の上部をどの程度露出させていたかが問題となるが、床面が明確な住居跡内埋甕の場合、数cmから十数cm程度上部を出して埋設することが多い。本SQ周辺のXII-1・2層層理面は標高約351.87mであるが、SQ5531の上部が351.85～351.9m、SQ5532が351.9～351.98、SQ5534aが351.98mであるため、XII-2層が形成し終わる前後の時期に埋設すれば、それぞれ層理面から約10cm上部を露出させて埋設したことになる。このことは本SQがSQ4804と同様に、XII-2層の形成終了直前に埋設され、その後放置された期間にXII-1層が堆積したことを裏付けよう。埋甕はいずれも胴部下半以下を切断した状態で、SQ5531とSQ5534aは倒置、SQ5532は正置で埋設されていた。また、SQ5534aの内部には胴部下半から上を切断したSQ5534bがつぶれた状態で入り、SQ5531の内部には円礫が埋甕底付近に入っていた。さらにこれら3基の埋甕は平面火床であるSF5123の西側を取り巻くように弧状に埋設されており、本SFと同時性が高い。この3基の埋甕の周辺部分からはSQ5537とした大量の土器がつぶれた状態で折り重なって出土した。土器片はSFの側には少なく弧の外側に多い。埋甕群は3c期～4期、SQ5537の土器片は4期が主体となるため、火焚きを伴う埋甕に関わる祭祀の後、数回に分けて土器を廃棄したと考えられる。

7 石集中（SH）

(1) 全体概要と遺構各説（表36）（図版138）

石の集中 面的に石が集中している遺構をSHとして登録した。敷石住居跡は当初SHで登録されたものもあるが、炉の確認後すべてSB登録としているため、実際に該当するものは2基である。

SH5101 XII-1層とXII-2層の層理面で検出され、下げて行く過程でSB5324が検出されたという経緯がある。SB5324の最終段階にあたる周礫住居は周礫や炉は残りが良いが、柄のみが完全に破壊されている。SH5101はこの住居跡のちょうど柄にあたる部分から東側にかけて広がり認められるため（図版138）、これは、SB5324の柄部分を破壊して、散乱した石である可能性がある。

8 杭列（SA）

(1) 全体概要と属性（表37）（図版35～37）

SAとして登録された遺構は、XII-2層上面で12基、下面で29基存在する。SAは本来連続する柵・杭列・材木列などを指すが、ピットが密集しているため完全に分離できない部分もある。断面形態はA～Iの9形態に、柱穴配置の類別はA～Dの4形態に分類した。

④区下面検出SA群 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の最南端の杭列は、④a区～④d区にかけてのものである（図版35）。個々のピットは、直径10～15cmほどで、10cm～30cm程度の深さである。また柱間距離は40～50cmと等間隔でほぼまっすぐに並ぶ。杭の先端の形は中央が尖り、垂直に穿たれるA類が主だが、片側が尖るC類や、H類も見られる。全体の位置関係は、調査区の縁に沿って東西方向に伸びた1列（SA4514）が直角に曲がり、東端に南北列が2列（SA4515）見られる。また、この杭列の北側には未調査区を挟んでSA4513が南北方向に連続する。ただし検出面がXII-2層中である。西端にも同様に直交する列が見られ、その南側先端は調査区外へ連続している。北側は未調査区を挟んで北側のSA4512-1へ連続し、その先端は東へ約45°屈曲してSA4512-2となる。これらの検出面はXII-2層下面であるが、SA4513だけはXII-2層の途中で検出されており、埋土も褐色～鈍い黄褐色で若干異なる。もしこのSAのみが時期的に新しい場合、これらの杭列は南側が開口もしくは半開口する台形を描き、それぞれの頂点からさらに杭列が延びるような形態をとっていたものと考えられる。

⑤a区下面検出SA群 ⑤a区には④区で検出されたものよりも短い杭列が点在する（図版36）。④区より浅いものが多く断面形態も多岐にわたるが、多くはほぼ垂直に穿たれている。おおまかに東西方向のものがSA6723・6719・6720・6718・6715で南北方向がSA6722・6716、南西から北東に弧を描くものがSA6713である。住居跡を取り巻くものや区画するものは無いため杭列独自の機能が推定される。

集落内下面検出SA 住居跡や土坑が密集する⑤b～⑥b区の集落内でもSAが検出されている。特にSA9001（図版49）・9004（図版48）・5101（図版47）は他の遺構との切り合いもなく直線的に連続し、周辺の住居・土坑と併存する可能性が高い。これに対し、SA5103は、ST5101が廃絶した後の廃棄場であるSX5312をさらに切るため、集落廃絶後の可能性がある。このSAは南北列がΓ字状に東西方向に屈曲するが、SA4801は東西列が逆Γ字状に屈曲して南北列に繋がる。

⑤a区上面検出SA群 ⑤a区のXII-2層上面では南と北にSAが集中し、大きく2つの群が形成されている（図版37）。南群は深さが揃った3～4列が並行し、部分的に円を描く。北群は1列で、下面検出のSAよりも鋭角に先端が尖った掘方が特徴的である。特にSA6705・6703・6707・6708で区画された部分にSF6701・6702が、SA6707・6702・6701で区画された部分にSF6703が見られることから、杭列に付随する何らかの作業に弱い焚き火が関係することが解る。

杭列の機能 杭が連続する遺構は当時どのような形態を有していたのだろうか。北方狩猟採集民の諸施設を概観すると、例えばニブヒ（ギリヤーク）やウィルタ（オロッコ）などの魚干し棚や、ニブヒの犬小屋は細い杭を垂直に等間隔で打ち込み、横木を渡したり、斜めに屋根をかけて固定する方法がとられており、遺構として残った場合、屋代遺跡群のような形態になることが予想される。また、設置場所と形態によっては、獲物を追い込んで捕獲するための杭列（山田1997）や、動物飼育用の檻の可能性もあろう。仮にXII-2層上面検出の杭列が、集落の終焉もしくは廃絶後に構築されたものとすれば、直線的な形態のものいくつかは、集落に残った残飯に集まる獲物を対象にした追い込み猟に使われた可能性が指摘できよう。またXII-2層下面検出の杭列が集落と同時期であるとするれば、集落内や集落に近接した杭列は、獲物の捕獲用以外の生活により密着した機能が、集落から離れた杭列は上記の機能が推測される。屋代遺跡群検出のSA群の場合、共伴する遺物が殆どないため、検出面と土層による同時性と集落の中での位置関係以外に機能を予測する手がかりが無いものの、個々のピットの観察からは、単一の機能に収束し得ない状況が予測される。今後、機能の可能性の集積作業と他の遺跡での類例との比較検討を行った上で再考したい。

9 不明遺構 (SX)

(1) 全体概要 (表38) (図版138)

XII-2層上面では11基の浅い竪穴状遺構が検出されたが、そのうち4基は掘立柱建物跡に付属する可能性が高いため除外し、それらと関係しない竪穴状遺構6基をSXとして登録した。特にSX5502では土器小破片が549点出土し、全点点取りで取り上げた。

註

- 1 第9章第4節に高橋敦氏の考察あり。
- 2 盛土施設の硬化状況を観察するための実験が参考になる（高橋1998）。ここでは階段を作り、階段の段部分に垂直に板を据え、板の間に土を入れて、階段状に盛り土を施し、板を固定するための杭を打ち付けて、階段を使用した後に土層を観察した。その結果、板の脇の階段寄りに、板に沿って厚さ5cm程度の層が形成されていることが確認された。これはSB5345で観察された壁板奥の7.5cm幅の3'層に相当しよう。
- 3 SB5345の構造に関しては、伊藤友久氏に多くの御教示をいただいた。

引用・参考文献

- 石井 寛 1995年 「縄文時代掘立柱建物址に関する諸議論」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』6
- 海老原郁雄 1998年 「南限の複式炉」『しのぶ考古』11
- 田辺早苗他 1991年 『関越自動車道関係発掘調査報告書 城之腰遺跡』新潟県教育委員会
- 高橋泰子・多々谷香里 1998 「竪穴住居跡に関する基本用語の定義」『土壁』第2号
- 高橋泰子 1998年 「盛土施設の硬化状況観察—盛土を施す出入口施設の検討に向けて—」『土壁』第2号
- 長野県埋蔵文化財センター 1992年 「7 三田原遺跡群」『長野県埋蔵文化財センター年報』9
- 平林 彰他 1993年 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11 北村遺跡』(勸長野県埋蔵文化財センター)
- 松本 茂他 1991年 『東北横断自動車道遺跡調査報告11 法正尻遺跡』(勸福島県埋蔵文化財センター)
- 水沢教子 1998年 「弥生・古墳時代の集落」『上信越道埋蔵文化財発掘調査報告書25 更埴条里遺跡・屋代遺跡群—弥生・古墳時代編—』(勸長野県埋蔵文化財センター)
- 山田昌久 1997年 「道具・技術と居住のかたち」『ここまでわかった日本の先史時代』角川書店



XII-2層面の調査

表30-(1) 屋代遺跡群XII-2層検出竪穴建物跡（SB）一覧

遺構記号	遺構番号 (旧遺構番号)	検出面	観察最古時期 (構築時期に近接)	観察最新時期 (廃絶時期に近接)	遺構区	仮地区	大地区	中地区	遺構図版番号	竪穴建物類型	柱穴数 (主柱穴)	主軸方向	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m) 床 標高 (m)	床面積 (㎡)	炉				附属施設 (床下を含む)												
																	炉類型	炉位置	炉土器種類	埋土堆積状況	埋土種類	埋土状況	埋土分類	埋土系統	入口施設	周溝							
SB	5302 (SB 5307)	XII-2	2b~3a期	埋炭炉	5b	I	O11	56	-	-	-	-	-	-	-	-	(石囲)埋炭炉(緑石散乱)	外周トレンチ内	5正置。頸部以下切断磨り	-	-	-	-	-	-	-	-						
SB	5307	XII-2	2b~3a期	-	1層土	5b	I	O11・12・16・17	56	-	2	-	-	-	0.22 351.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
SB	5309	XII-2	2b~3a期	-	1~2層土	5b	I	O11・12・16・17	56	-	3	-	-	-	0.27 351.47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
SB	5310	XII-2下	3a期	埋炭	3a~3b期	1~3層土	5b	I	O6・7	56・57	3(2)	(N25°W)	4.9	4.55	0.43 351.22	15.74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
SB	5311	XII-2上で検出されたSX5505の直下	2b~3a期	6層土	3a期	~1層土	5b	I	S13	57・58	7	(N10°W)	3.85	3.25	上床 0.49 351.22 下床 0.6 351.1	6.98	上床に石囲炉上の火床、下床に石囲炉に石五C類が伴う	中央やや西より	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(P中に廃棄されたα)	P9	上床に伴う。北側・東側			
SB	5312	XII-2下	3a期	埋炭	3a~3b期	~1層土	5b	I	S7・8・12・13	58・59	17	(N93°W)	4.15	4.1	0.29 351.41	11.42	石囲炉(南北東緑石無し)	中央	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SB	5313a (SB 5313)	SX5513下・XII-2下	2b~3a期	埋炭	3a期	~1層土	5b	I	S7	59	15	(N80°W)	6.1	4.3	0.38 351.35	18.72	石囲炉(南西緑石無し)	東側	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SB	5313b (SB 5313)	SB5313aの下	2b期	3層土	2~3期	1層土	5b	I	S7	60	6	-	4.7	-	0.53 351.13	(16.13)	地床炉	中央北西より	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SB	5314	XII-2中~下	4期	埋炭	3c~4期	1~2層土	5b	I	S2・3	61	10(石下1)	(N92°W)	3.5	3.15	0.25 351.59	8.96	石囲炉(南東西緑石無し、小石散乱)	中央	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	東側		
SB	5315 (SX 5505)	XII-2下	3c期	床	3c期	1~3層土	5b	I	S2・N22	61	なし	-	-	3.1	0.27 351.57	(7.32)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SB	5316	XII-2-1~2	3c期	埋炭	3c期	~1層土	5b	I	N22・23・S2・3	62・63	16(4→5)	主軸O(N28°E)主軸P(N21°E)	4.55 6.2 4.32 5.55	4.25 (3.95)	0.41 351.48	第1段階: 14.52 第2段階: 14.20	石囲炉(南東西緑石無し)→石囲埋炭が(石散乱)	主体部中央	12はβと推測され、胴部中央を残し切断正置。内外面被熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

床・掘方	その他施設	層位的取り上げの有無	埋土堆積状況	床面遺物	遺物出土状況	特記遺物	土器量 (g)	石器量 (個) 割片等・礫石器等・搬入礫等	遺物図版番号	切合関係 (古)	切合関係 (新)	備考
炉周辺貼床	-	-	-	炉周辺に石	-	-	715(1) 715	-	239	-	SB5309	本調査前の外周トレンチ掘削時に検出。SB5307と同一住居跡の可能性もあるが住居規模が推測できないので確定不可能
外周セクションで貼床	炭化物・灰中に焼骨片集中部分あり	単層一括	単層	-	土器破片廃棄。2b~3a期のβ加曾利E系多くα大木系少	-	130(5) 895	14・5 8	239	-	SB5309	外周トレンチ掘削時に検出されたSB5302は本住居跡の炉である可能性が高い
2・3層層理面堅固。掘方あり	-	分層取り上げ	埋土は1~2層。2層下面の床を挟んで3~5層が掘方	-	土器破片廃棄。1・2層でα・β(1~3)など	-	145(2) 555	13・2 10	239	SB5307	-	-
床面軟弱	-	点は相当層	埋土は1~4層。4層上部の褐鉄集積、3層炭多量混入状況などから時間を置いて徐々に埋め戻されていった可能性あり。1層の陥没部分にXII-2層が堆積	-	3層と1層に相当するレベルに遺物が集中。組成上はαが単純。3層では区画曲線縦手文のα(2)、幅状磨り損じ区画を有するβ(9)。1層でもαが多く綾杉状沈線を地文に持つε(26)がもたらう。石器は埋土から石鏃・打製石斧中心に出土。石材は粘板岩・黒曜石多	-	24768 (340) 82130	156・42 216	239~ 241	(SB5322)	(SB5322)接合関係から同時の可能性もあり	炉や明確な床面が認定できない。本跡の直下に一回り規模の小さいSB5322があるが、本跡とセットで階段状壁部を有する1軒の住居跡であった可能性がある
床2枚あり。上床は6層下部軟弱。下床は8層下部で堅固な貼りあり	-	分層点取り	埋土は1~7層。8層は上床・下床間の間層。7層はXII-3層に相当。2~6層は焼土・炭化物を多く含む。4層堆積時の窪地を使って火を焚いた痕跡が3層。1層堆積後の窪地も廃棄場となる	β2片	6層と5・6層トレンチから土器の大破片が各系統ともに出土。4層下面~5層では細片が集中出土。4層下面土器がSB5332埋装と、6層土器がSB5333床直土器と接合。石器は4層下面~5層にかけて打斧調整割片を含む粘板岩製の割片が出土。全体に製品は少ない	2層から高温焼熟した台付き深鉢(50)、埋土から釣手(53)	18464 (160) 48853	147・14 165	242~ 245	SB5341、 ST5102、 SK5604、	ST5103a、 S103b、 S13-P3 ・48・ 49・50 ・61	-
床軟弱。掘方あり	-	分層点取り	埋土は2層。両側ともXII-3層ブロック含む。2層には部分的に灰が集中し、焼骨や土器も集中	床面の特定が難しいためやや曖昧だが破片53点。内32点取り、新旧混在	2層灰中、1層下部に大破片一括土器あり。被熱多い。2層上部は細片。2層東壁際に同一母岩の黒曜石の破片集中あり。埋装の破片がSB5313b1層から出土。床面から石核・微細刺離割片・割片はか。全体に打斧・微細刺離割片多い	炉3層(灰層)中から焼骨多量。床面からミニチュア鉢の漆パレット(11)、1層下部から漆付着土器(49)。1・2層層理面に砕片集中	22598 (134) 81535	103・48 125	245~ 249	ST5103b ・5122、 S7-P32・ P42・	ST5103a、 S13、 S16、 SF5181	-
床面軟弱。西側で浅くなる	東側と西側はかなり深い対ビットあり。東側は廃絶時に石柱が埋設される	分層点取り(層理面有)	埋土は3層。炭化物を15%程度含む2層がキ一層となる。西側でやや浅くなる	-	P5の東10cm程度上から3。2層・1層ともに3a期でβ多い。1・2層層理面から石鏃・打製石斧・微細刺離割片が出土	3層から赤彩土器(4)。1層からミニチュア台付鉢の漆パレット転用品(31)、釣手(29-33)、ミニチュアカップ形土器(28)	27280 (322) 95215	152・47 282	250~ 252	ST5108	ST5107	床面は西側が高く、東側に炉・炉の更に東側に柱穴を埋め戻した石柱。
3層上面~下面が床か	-	分層点取り	埋土は3層で、3層がかなり堅い貼床	3層出土土器の一部	1層下部で土器片集中出土(15~43)。2b期のβA類多い。SB5312埋装・SK9071-3層土器と接合。3層遺物は貼床にかかると推測されるが、西側のグライ化が激しいため整地段階の貼床が特定できなかった	-	7189 (81) 32665	上に 含む	252~ 255	SB5352、 ST5108	SB5313a、 ST5107	SB5313b-1層に遺物を廃棄した後整地してSB5313aを造ったと推測されるが、西側のグライ化が激しいため整地段階の貼床が特定できなかった
敷石の無いところは軟弱	敷石が壁際に立ち上がる	分層取り上げ	埋土は2層で何れもXII-1b層に近い腐食の弱い土	-	厨下からe唐草文系II段階(1)、2層からは破片のみ。石器toolは少ない	-	5667 (33) 14276	56・71 2768	255、 256	-	SK5580、 S3-P43	当遺跡の非柄鏡形敷石住居としては最新
掘方あり	-	分層取り上げ	埋土は4層で自然堆積	加曾利EIII系小片	各層とも小破片のみ	-	5316 (120) 30311	81・11 130	256	SB5316・ 5331	-	SB5316の柄部が埋まる過程で遺物を廃棄した凹地
柄部に大角礫平石が敷かれている。主体部は角礫、大小円礫が混在。その他の部分は軟弱	-	分層点取り	埋土は4層	加曾利EIII系新系小片。9の口縁部の一部のみ床面出土	遺物は1~4層で出土しているが厨下のレベルよりも若干上の1層に多い。β・γ主体。石器は石鏃・打斧・スクレイパー多く、石材は粘板岩・チャート主体。打斧素材石核あり	埋装立ち割り時のトレンチから胎土が赤い壺形胴部(2)。1層から緑泥片岩製の石棒(431)。磨製石斧は3点	32032 (186) 72980	202・ 105 343	256~ 259	SB5326、 N23-P34 ・P35・ P38	SB5315	柄鏡形敷石住居→礫石器や石棒の遺棄・廃棄→土器破片の廃棄。柄部まで上屋がかかっていたとするとSB5326・SB5346とは機能時の時間差があろう

表30-(2) 屋代遺跡群XII-2層検出竪穴建物跡（SB）一覧

遺構記号	遺構番号(旧遺構番号)	検出面	観察最古時期(構築時期に近接)	観察最新時期(廃絶時期に近接)	根拠	仮地区	大地区	遺構図版番号	竪穴建物類型	柱穴数(主柱穴)	主軸方向	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)床標高(m)	床面積(m ²)	炉			附属施設(床下を含む)								
																炉類型	炉位置	炉土器種類	埋土堆積状況	埋土と埋設状況	埋土分類	埋土系統	入口施設	周溝			
SB	5317	XII-2下	3c期	埋土	-	5b	I	S8・9	円形竪穴住居	8(6)	(N56°W)	2.78	2.65	0.2 351.51	3.73	石圍炉方A類(土器敷)	中央	火床直上に裏を上にしてγ圧痕隆帯土器(5)が割られる。全体に被熱	火床部以下に焼土・灰が若干混じる層	南東部。ほぼ完形で口縁部を住居中央に傾けて埋設	正斜a	-	-	-	-		
SB	5318	XII-2下	右下3b期石上3c期	埋土、石上土器	3c期	敷石上埋土	5b	I	N20・25	64	円形竪穴住居	9(6)	(N30°W)	(3.72)	(3.5)	0.13 351.59	(9.01)	石圍炉方A類(土器敷)	中央南より	火床直上の純炭層(2層)とその上の埋め戻し土の層面にγ圧痕隆帯土器(6・7)を裏面を上にして敷設	火床面上に炭層	南東部の平石直下、胴部以上を切断し正置。胴部を住居跡中央に傾けて埋設。口縁部・胴部の一部は周辺の石下から検出	敷石下正斜b	α	-	-	-
SB	5319	XII-2	3c~4期	埋土・灰	4期(周溝は3c期)	埋土	5b	I	N24・25・S4・5	65・66	主体部隅丸方形柄鏡形陶器住居	-	(N9°E)	4.45 7.3	(4.45)	0.20 351.47	(18.93)	土坑炉(土器敷)→石圍炉方B類	中央	土坑炉内8層炭層に裏を上にしてγ圧痕隆帯土器(13・16・18)・β加曾利EIV式土器(12・15)が敷設。γのみ上面が被熱。α大木系14は8~9層にかけて出土	石圍炉は焼土層上に灰層・土坑炉は壁面のみ被熱し、9層内土坑底部に焼け粘土約3kg。8層は土器敷の炭層。7層は灰層。5層は灰層	主体部主軸を扶んで東西に2基、柄部に縦列に2基、何れも正置。1・3・7は口縁部を住居跡中央に傾けて埋設。西側1は柄部東側3は口縁部文様帯より上を切断。4・7は胴部より上を切断。3・4は加曾利EIII新系	注：正斜a・正斜b 柄：正斜b・正斜b	β基	4	柄部	-
SB	5321	SB5322中	3c期	埋土	3c期	~2相	5b	I	N24・25・S4・5	66・67	主体部五角形柄鏡形住居	10	(N9°E)	(6.57)	6.10	0.32 351.42	(27.5)	石圍埋炉方	中央	火床の外側石圍の南東隅にγ圧痕隆帯土器(8)が口縁部以上を切断して正位で埋設。内面全周に灰の盛り出し痕跡の溝があり、溝内と上部破断面付近帯状に灰が残存	堅固な火床。6層上に灰の堆積	柄部先端に2が正置。胴部上半以上を切断して上部を住居跡中央に傾けて埋設。内面燻炭。1は2の南側に10cmの深さに埋め込まれている。地表には現れていなかったのではない	柄：正斜b γ不明	柄部	-		
SB	5322	SB5310	2b期	埋土	2b期	1層	5b	I	O6・7	68	円形竪穴住居	-	(N24°E)	-	3.55	0.15 351.09	-	石圍炉(緑土無し、散乱)	中央東より	-	-	炉方向に体部を傾けて倒置。頸部以下切断。切断部研磨	倒斜d	β	-	-	
SB	5323(SB5323・SK5563)	XII-2下	3b期	埋土	2b~3b期	3相	5b	I	O6・11	68	円形竪穴住居	-	(N30°E)	3.15	2.97	0.29 351.33	5.52	地床炉	中央	火床5層上に灰・焼土少量	南西部にはほぼ垂直に正置。口縁部一部欠損の他は完形。使用痕なし	正斜a-1	β	-	-		
SB	5324	SH5101直下	4期	埋土	4期	周溝・1相	5b	I	N9・10・15・71	69・70・71	柄鏡形敷石住居→主体部五角形柄鏡形陶器住居	11(壁柱穴)	主軸O(N26°W) 主軸P(N49°W)	4.5 6.3	(4.4)	0.25 351.6	第1段階(12.42) 第2段階(15.73)	土坑炉方B類	中央	底部は炭の埋積で被熱部なし。掘り込みの壁面が緑石の外まで強く被熱	主体部南東部にはほぼ垂直に正置。周溝に完全に覆われている	正斜a	β	-	主体部と柄部の間に60cmの空白あり	西壁側	
SB	5325	XII-2層上	3c期	埋土	4期(3~8相3c期)	1~8相	5b	I	N18・19・23	72・73	主体部隅丸方形柄鏡形敷石住居	9(5)	(N25°5'E)	4.4 6.50	3.78	0.33 351.52	13.70	石圍炉方B類(土器敷)→燃焼部調節炉	中央	火床上の灰層の上面に、γ圧痕隆帯土器(8)・α大木系(9)を裏面を上にして敷く。上に焼土層が無いので火床対傾か	火床は南縁石下から、北縁石より22cm北まで延びる	主体部主軸を扶んで東西で2基、柄部に一列に3基、正置。主体部西の6はほぼ完形。東の2は底部付近のみでやや斜位埋設。柄部南から1はほぼ完形。7は胴部下半以上切断で急角埋設。1は胴部下半以上切断で垂直に埋設。なお斜位埋設のものは何れも住居中央に上部を傾ける	注：正斜a・正斜c 柄：正斜a・正斜b・正斜c	β基・γ基	3	北壁と西壁北側	P12・13→P10が入口対ビット
SB	5326	XII-2J	3a~3b期	埋土	2相	-	5b	I	N22・23・S2・3	74	隅丸方形竪穴状遺構	-	-	2.53	(2.45)	0.39 351.41	(2.96)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SB	5328	XII-2下	3b期	埋土	3b期	~2層相	5b	I	N17・18	74・75	隅丸五角形竪穴住居	10(5)	(N28°W)	4.20	4.0	0.44 351.41	9.55	石圍炉方B類(火床上封鎖、西縁無し)	中央	火床上、灰層内に平石が2重に置かれ、火床面を封鎖している	5角形の頂点に完形で正置。口縁部をやや住居跡内側に傾けている。直上に石蓋	石蓋下正斜a	γ	-	埋土石蓋の東側	東壁に裏跡	
SB	5329	XII-2-1検出SK	2b~期	埋土	3a期	埋土	5b	I	N17	75	円形竪穴状遺構	-	-	2.5	-	0.33 351.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

床・掘方	その他施設	層位的取 り上 げの 有無	埋土堆積状況	床面遺物	遺物出土状況	特記遺物	土器量 (g) 口縁部 (口縁 部数) 全量	石器量 (個)刺 片等・ 礫石器 等・搬 入礫等	遺物図 版番号	切合関係 (古)	切合関 係 (新)	備 考
北東・南東隅に部分敷石	—	—	埋土は1層	土器破片1片	埋土中に土器破片少量廃棄。βあり	ガラス質安山岩製剥片	2598 (17) 6110	39・37 123	259	SK5777	SK 5687, SQ5551	—
5枚の平石が敷かれ石間に棒状礫。掘方あり	9基の柱穴のうち1基は敷石下から検出	単層点取り	埋土は1層	微隆起線の細片2点(4・5)	埋土出土土器16点が点取りされたが、が周辺敷石上南西部に集中する。細片が多い。石鏃・両面調整石器・スクレイパーのセットあり	—	449(22) 8339	32・33 84	259・ 260	—	—	石下に埋土やビットが封入されていることから、3b期の壁穴住居を3c期に敷石住居に造り替えた可能性がある
炬やや北側と北壁に並行する石列の中に平石1点あるにすぎない	炬の礫石と並行に方形に固着が並べられ、柄部の床面上には周礫の直線的な配置あり	点は相当層	埋土は2層	3c～4期にかけてのβ小片	周礫中、2層相当層からは3c～4期のβが混在し、埋土・炬と同様の状況である。また、検出がSB5321と同時であり、接合遺物もあることから遺物の一部はSB5321と混在している可能性が否定できない。埋土中出土土器は製品率高く、打斧・スクレイパー・微細剥片豊富。石材はチャートが多い	磨製石斧2点、人骨頭部礫から打製石斧	20103 (103) 36762	89・54 507	260～ 263	SB5321	—	主体部南西隅周礫中で人骨が検出された。頭を北に向け、左を向いて埋葬されている
東側床やや硬化	礫が散乱するが平石は敷かれていない	点は相当層	埋土は大きくは単層だがやや炭の多いところを1層、少ないところを2層としている	3c期の連結U字文のβ	埋土全体に円礫、角礫が投棄されている。レベルの殆どは床面上であるが、動いている可能性もある。土器は殆ど2層相当で、3b～3c期のβが混在。石器は製品率高く、両面調整石器・スクレイパー多い	埋土中から磨製石斧2点	7892 (138) 45946	145・40 306	263、 264	SB5332・ 5345	SB 5319, SK5597	西壁がSB53345の壁材を切る
やや堅固	—	単層点取り	埋土は1層。X II-3層に酷似	2b期 主体土器片	遺物少数。埋土中、連結曲流兼手文(8)、双翼状突起(7)のα出土	—	3088 (13) 5662	14・0 25	264、 265	—	(SB 5310)	SB5310と合わせて1軒であった可能性あり
床面軟弱。掘方なし	炬と埋土の間に大形円礫	点は相当層	埋土は3層。2層中炭多量。3層はX II-3と酷似	—	3層からα・βの大破片が一括出土。3層から2b期のβ(10)。胴部以下を切断研削していることから別住居の埋土を投棄したものであろう	—	20705 (22) 28650	21・4 18	265～ 267	SB5310 (接合関係 から同時 の可能性 もあり)	—	1の埋土は第一文様帯が区画化し、新しい様相を呈する。埋土である3層相当中の土器が2b～3a期の様相を示すことからこれらと同時にもしくは以前に作られた可能性もある
—	主体部、柄部ともに掘り込みは認められない。周礫の下5～10cmから周礫	周礫と1層で点取り	埋土は1層。	—	P9からγ(13)とε(17)、17の口縁部破片がSB5342で出土。周礫～1層で、土器125点、石器103点を点取り。4期βの両耳壺(18)他。埋土から周礫中の石器は製品率高く、打斧・スクレイパー、微細剥片豊富。図版71には現場で町田調査研究員が観察した石材名を記載した	周礫～2層でミニチュア土器9・10・12・15、三角罎形土製品、石棒9点、磨製石斧1点	11525 (53) 32023	103・62 916	267～ 269	—	SH5101	主体部5角形柄鏡形周礫住居の柄部は破壊され、SH5101として散乱
主体部の柱穴列空間の一回り内側の炬を取り囲む空間が約10cmほど低く、ここに角礫平石を敷き詰め、間を円礫や棒状礫でジョイントしている。掘方あり。主体部の方が柄部より床面は20cm程度低い	入口部対ビットP12・13の上に柄部の敷石が載っていることから、柄部よりも前の段階に機能していた可能性もある	床と6～8層の炭層中	埋土は8層。1層はX II-1層に類似し、本住居上層でもX II-1層埋土のビットが検出された。2～5層、中でも2層は炭化物が多量に混入。6・7層は更に焼土を含む。これに対し第一埋没土の8層はX II-3層に類似している	—	柄部3基の埋土を結んだ延長線上北の敷石上に、底部以下を切断した17か所設置で置かれる。5～8層と1層・2層で3c期のβ、γ、ε破片が多数。1層から4期のβ・εが出土している。埋土3内から石鏃、剥片出土。埋土中両面加工石器と打製石斧多い	19は微隆起線によって区画化し、大木製土器で、埋没3の2本隆帯による渦巻も大木10式と関連する可能性がある	27605 (184) 60540	166・42 463	269～ 272	SB5334	SB5337	本遺跡では最も良好な状態で残存していた柄鏡形敷石住居である
床面軟弱	—	点は相当層	埋土は6層。4～6層は埋め戻し土と推測される。2層に炭化物粒子が多量に混入し、土器片が一括投棄されていた	—	4～6層からは小破片と粘土塊、赤彩土器1など。2層相当に多くの土器が廃棄	—	2121 (43) 10040	43・8 60	272	—	SB 5316, ST5109	—
床面は炬付近でやや堅めて隙隙は軟弱	—	点は相当層	埋土は5層。2・3層で炭化物・焼土粒子多い	—	土器は3～5層と1～3層相当で特にまとまっている。どちらもα系が多く、βの口縁部文様帯を有するものは見られない	埋土中から器管、α大木9b系(2・27)、台付(30)、ジョッキ形(15)ほか	51242 (346) 107515	183・21 241	273～ 278	SB5329・ 5340・ 5353	SB 5336, SK5576 ・5577, N18・ P13・ 32・34	—
やや凹凸有り	—	埋土一括	埋土は2層	—	本壁穴直上に位置する「SK5576下トレンチ破片」が多数帰属	—	4014 (49) 15107	14・10 37	278・ 279	SB5349・ SK5575	SB 5328, SK5576	—

表30-(3) 屋代遺跡群XII-2層検出竪穴建物跡（SB）一覽

遺構番号 (旧遺構番号)	検出面	観察最古時期 (構築時期に近接)	観察最新時期 (廃絶時期に近接)	根拠	仮地区	大地区	遺構図版番号	竪穴建物類型	柱穴数 (主柱穴)	主軸方向	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m) 床標高(m)	床面積(m ²)	炉				附属施設(床下を含む)						
															炉類型	炉位置	炉土器種類	埋土堆積状況	埋土と埋設状況	埋土分類	埋土系統	入口施設	周溝		
SB 5331	XII-2下	3b期	3層	-	5b	I	S2	75	(隅丸方形)竪穴状遺構	-	-	-	0.17 351.58	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB 5332	XII-2-2	3a期末	3a期末	埋土	5b	I	N24・25	76	隅丸方形竪穴住居	9	(N5°W)	5.50	(4.45)	0.49 351.22	-	石閉炉 (南東西 縁石無し、散 乱)	中央	-	火床直上に 純灰層	南側に入口P7を挟んで 2列。東列はほぼ垂直に 埋設され、住居跡外側から 倒置状態状態で5と6、 その内側に倒置で8、い ずれも胴部上半から下を打 ち欠く。西列の7は倒置で 胴部下半以下を打ち欠 き、胴部を入口に傾けて 埋設	倒eと 倒eの 被覆型 ・倒e ・倒斜 d	$\beta \cdot \gamma \cdot 2$ δ	P7	-	-
SB 5334	XII-2上	2b ~3a期	2層	-	5b	I	N18	75	円形竪穴住居	4	-	2.65	-	0.17 351.62	-	石閉炉 (縁石無し、散 乱)	中央西 より	-	火床上に施 土層。埋土 中に小礫が 散乱	-	-	-	-	P3 可能 性有 り	-
SB 5335	XII-2下	3b期	埋土	3b期	5b	I	S9・10	77・78	5角形竪穴住居もしくは柄杓形住居(壁際隙に竪穴敷)	13(うち9基は壁の傾斜部から)	(N2°W)	-	-	0.53 351.23	-	石閉炉 (南北縁 石無し、散 乱)	中央か	-	火床上に灰 層と炭層が 互層になる 。縁石は灰 層中に廃棄	南西に正置。胴部下半 以下を切断し、胴部を住 居跡中央部に傾けて埋設	倒斜d	α	-	-	
SB 5336 (SB 5530 SB 5536)	XII-2上ピット	3b ~3c期	埋土	3c期	5b	I	N17・18・22・23	79	主体部円形柄杓形竪穴石住居	18(3か4)	(N57°W)	(3.95) (5.0)	(3.75)	0.23 351.18	-	石閉炉 方A類 (北縁石 無し)	中央	西側の縁石の下に β (5)と γ (6)が裏面 を上にして重ね敷 かれる	明確な火床 はなく焼土 層、灰層。1 層上が角礫 平石によっ て封鎖	1は柄部主軸上に正置。2 は主体部主軸西側に正 置。胴部下半以上を切断 し上部を住居跡内面にや 傾けて埋設	主:正 斜b、 正斜 b	$\beta \cdot 2$ 基	P4・6 ・5 N23 P6 ・7	西側 半周	
SB 5337	XII-2-2	4期	埋土	4期	5b	I	N19	80・81	主体部隅丸方形柄杓形竪穴石住居	10(7)	29°W	3.45 4.40	(3.55)	0.35 351.58	(8.39)	土坑炉 →石閉 炉が長A 類(北縁 石無し)	中央や 南より	15・16・18ともに β 加管利EIV系。内 面を上にして敷か れ、内面には被熱し 灰掻き出しに伴う 痕跡	1つの石を 割って南東 と南西の縁 石にしてい る	12は連結部主軸やや西側 に正置。柄部には外側に 13、内側に14埋納状態 で正置。いずれも口唇部 が若干欠損し、口縁部 を住居中央に傾けて埋 設	主:正 斜a、 柄:正 斜aと 正斜 の埋納 型	$\beta \cdot 2$ 基・ γ	柄部は 主体部 より高 く角礫 平石敷 設	北西 隅、北 東隅か ら東に あり	
SB 5338	XII-2-2	3c期	埋土	3b ~3c期	5b	I	N19・24	82	主体部円形柄杓形竪穴石住居	竪柱穴 17(11 →11)	N11°E	3.5 4.55	3.45	0.28 351.56	11.08	地床が →石閉 炉(北縁 石無し) 縁石移 動あり	中央や 北より	-	堅固な火床 と被熱部分 を有する。 1層で埋め 戻し後北側 縁石を熱流 部のほぼ中 心に傾けて 埋設。1の方 が傾斜がき ついでいる	1は柄部先端に正置。2は 主体部主軸やや西側に 正置。口縁部1/2を欠損。1、 2とも口縁部を住居中央 に傾けて埋設。1の方が傾 斜がきついでいる	主:正 斜a、 柄:正 斜a-1	$\alpha \cdot \beta$	連結部 P21、 22と 柄部 P23、 24	-	
SB 5339	XII-2-2	4期	1層	-	5b	I	N23・24	83	円形竪穴状遺構	-	-	3.67	3.2	0.23 351.71	7.16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB 5340	XII-2下	3c期 (埋土) 4期	埋土	4期	5b	I	S8	84・85	5角形部分竪穴石住居	19(5→5)	N67°W	(5.50)	5.0	0.39 351.33	(18.37)	(地床 が)→石 閉炉(北 縁石無 し)・東 縁石無 し・熱流 部調整 あり	中央や 南より	2・3層(どちらも灰 層)層理面に γ (16)、 β (12)、 e (13) の採跡が内面を上 にして敷かれてい る。1層上部からも 土器片多数	火床上に厚 い灰層があ り散骨が多 量。3層灰層 の中に縁石 を深く埋め 込む	1はほぼ菱形で主軸やや 西側に正置。口縁部を住 居跡中央に向けて斜めに 埋設	正斜a	$\alpha \cdot \beta$	P7と P21が 該当す るか	-	
SB 5341	XII-2-1~2	2b期	埋土	3a期	5b	I	S13・14・19	86・87	(円形)竪穴住居	11	(N19°W)	5.80	-	0.36 351.23	-	石閉炉 方B類	東側寄 り	-	火床は9 層、8層灰 層、7・6層 炭化物層、 5層縁石の 東中敷、5層 で埋め戻し。 1~4層でも 炭化物	2は外周トレンチ内には ほぼ垂直に倒置。胴部下半 から下を切断した内い様 相を有する	倒d	β	-	-	

床・掘方	その他施設	層位 取 り 上 げ の 有 無	埋土堆積状況	床面遺物	遺物出土状況	特記遺物	土器量 (g) 口縁部 (口縁 部数) 全量	石器量 (個) 刺 片等・ 礫石器 等・掘 入礫等	遺物図 版番号	切合関係 (古)	切合関係 (新)	備 考
床面軟弱	—	分層 点取 り	埋土は4層。3・4層に炭化物・ 焼土片。埋土中に2カ所焼け面 あり	—	3層から遺物が多く出土	器台(8)、鎖状 圧痕をもつ1は か	1457 (18) 6335	19・0 4	279	—	SB 5315、 SK5582 ・5583	殆どがSB5315に切 られているため詳細 は不明
中央、埋土周辺に堅 固な貼り	奥壁部西側に高さ 10cmの土壇。平石を 敷き、石棒、石皿を 散せる	点 は 相 当 層	埋土は6層。各層とも炭が入る が特に3層で多量に混入	α ・ β の小破片が 少量	6層相当土器は炉の周辺に集中し、3a 期の様相を示す。2層相当土器は奥壁 東側に集中し、3b期を含む様相。床下 土器がSB5350 1~2層と、埋土8がSB 5311-4層土器と接合。埋土中出土土器 は石皿・打斧・スクレイパーが多く 粘板岩製剥片多量	奥壁土壇から の横転した石 棒上から壺形 (15)、脇から石 皿(388)	19695 (249) 101376	146・27 270	279~ 283	SB5350	SB5321 ・5345	SB5345の壁材がSB 5332によって切られ ないことから切り合 い関係が補強される
床若干しまっている 程度	西隣階角礫中有り の可能性がある	点 は 相 当 層	埋土は2層。XII-3層に炭化物 粒混入	—	2層相当に集中しており14点取り で取り上げた	—	1220 (12) 3760	24・3 15	283	N18-P15	SB 5325、 ST 5111、 SK5579	角縁部には石間が 残存の石の抜き取り 痕ある
ほぼ全面堅固。床面 に角礫、円礫散乱	階段状窪穴部壁北 壁から壁際床面に かけて角礫が敷設 されている	点 は 相 当 層	埋土は細別35層大別8層に分 層。炉の直上で火が焚かれ「炉 上SF」が形成され、その上に角 礫が敷設されている。7層~3層 までは火が焚かれ、それを埋め 戻し、また火が焚かれるという 繰り返し	—	床面から石皿がまとまって出土。埋土 (6~8層相当で α ・ β を主体とした土 器細片・石・石器が集中し、土器144 点を点取り。「炉上SF」出土土器もこ れらと接合するもの多い。1~6層にも 集中。石器は石皿・打斧・スクレイ パー、粘板岩製剥片多量。石材はガラス質 安山岩多い	が南側の床面 付近から石製 品(445)出土。 埋土中より石 棒、石製 品 (446)ほか	9643 (115) 49590	284・27 260	283~ 285	SK5664	SK 5596、 SF5152 ・4・ 5167・ 5168・ 5177・ 5179・ 5180・ 5188・ 5189、 S9-P16 ・55	埋土の位置と奥壁の 礫から、柄杓形(数 点)住居の可能性あり
床面は階段状に掘 り込まれ、炉辺部が 数cm程度低い。低い 部分を中心に角礫 平石、円礫、棒状礫 が間隔をあけて敷 かれる	東側は他遺構との 重複はないが、柄部 の敷石が認められ ない	点 は 相 当 層 に 配 分 不 能	3層と5層に焼土、炭化物が多量 に混入	3期の小 片のみ	埋土出土土器は少ないが、3c期を主体 に前後の時期のものが見られる。埋土 も1が3b期、2は3c期の様相である。 埋土中では崩れた α と連結U字文対 向型共伴	埋土中より小 形鉢12	6792 (66) 20647	77・45 187	285、 286	SB5328	ST5109 ・5110、 SF5140、 N 2 3 - P58	主体部中央が若干低 くなる点でSB5325 と共通する
四角形の主体部。東 側は掘込傾斜に沿 って角礫平石敷設。 平石直下に掘方も しくは重みによる 凹み	住居東辺、床面敷石 の東側に角礫。4隅 に立石	石 上 ・ 石 下 で 点 取 り	埋土は単層でXII-3層地山と 類似。柄部の掘方も住居跡埋土 と同様の土	石上遺物 として図 示	炉出土土器は4層下部に一括資料。石 下は3c期の様相。埋土出土土器は破片 が多い。埋土土器は製品率高く、打斧 ・スクレイパー・微細刺片多量	が南東敷石上 から漆ハレット (17)、南東 敷石上から人 の歯茎管歯部。 北東敷石上から 骨片。1層から 小形深鉢 (19)	9292 (46) 16324	142・60 496	286~ 288	SB5325・ 5338	—	—
床面は軟弱。床面に 角礫・円礫が散在。 掘方なし。床面が北 側1.3×2mの範囲 にクリの炭化材を 伴う被熱層と焼土 層。部分敷石の可 能性あるか	床面に15cmほど土 を盛って2~10cmの 小礫を埋め込む周 際施設	点 は 相 当 層	埋土は5層。砂質シルトで、4層 は炭化物、焼土、5層は焼土層。 炉の北側は床がやや低くなり、 固く焼けた火床がみられ、上に 円礫が散る	床の特定 難しいた め相当層 とする。 小片多い	床面土器、ヒット、礫中以外は無層点 取りと上層、中層、下層取り上げ。床面 点取り遺物では炉周辺に6・9・10・ 39の一括、7・8・11・15の一括、礫中、 柄では小破片。P10出土の24は周礫か らの混入か。埋土中~下層の44はSB 5318埋土土器と接合。埋土中からは3 b~3c期の破片多	埋土は赤焼き の陶器。漆ハ レット4は埋土 柄部先端の埋 土層間から出 土。1層から赤 彩小形深鉢(46)	13255 (179) 53760	142・68 1398	288~ 291	SB5345・ 5350	SB 5337、 SA5102	P外列は西からP16 ・15・14・8・10、内 列は西からP25・19 ・18・17・1・4・5 ・6・7・9・29でP7 と8の重複から拡張 の可能性あり。炉東 側床面に入行
軟弱	—	1層 点取 り	掘り込みは最新部でも27cmと 浅く炭化物を多量に含む層が 1層堆積している	—	埋土は1層であるため、全体に多量に 出土している遺物は一括資料と見な しう。また、遺構の側面まで途切れ なく連続しており、埋土後も土器捨て 場として機能していたことが解る	赤彩の注口土 器1、壺形土器 3、頸形土器5	12149 (147) 47100	475・14 227	292、 293	SB5345、 SK5613・ 5738	—	—
炉周辺が固く破さ しめられている。南 側を中心掘方あり	4つの頂点に立石と 敷石のセットが4群 あり	分層 点取 り	埋土は2層。1,2層とも炭化物を 20%程度含む	—	床面では 土器・石 器60点を 点取り上 げた。土 器はβ破 片が多い	2層から赤彩深 鉢(39)、赤彩ミ ニチュア壺 (42)、釣土器 (41)、埋土から 鳥形手(46)、 注口土器(45)	40892 (298) 109030	378・58 698	293~ 298	SK5765・ 5766・ 5767・ 5770・ 5809・ 5812	SK5610 ・5622 ・5732 ・5743、 ST5120 ・5122	P19を頂点にP18・ 26・9とP21・P7の 柱穴、炉周辺に P16・17・13・25の 側柱穴。P21は柱礎 残存
7層下面が床で中央 部が特に堅固。8層 が掘方	—	分層 点取 り	埋土は7層。7層はXII-3層に 類似した土で埋め戻し土の可 能性ある。7層上面は軟弱であ るか平ら面を成し、炉の南東の 位置に堅固な火床が形成され る。5層は炭化物、焼土を含むか 上面がやや平坦になり火床、炭 化物、灰層が見られる	床面土器 は少量で 破片のみ。 石器 は微細刺 片・剥片	床下からβ加曽利E11新系(1)が出土。 炉5層下面から3と7出土。7層上面、5 層上面からは、中央部の焼土を取り巻 くようにして α ・ β ・ γ ・ δ ・ ϵ を含む 2b期の良好な一括資料	5層から赤彩壺 (42)、 α 大木8b 式(44)	17465 (192) 53932	135・29 197	298~ 301	—	SB5311 ・ST51 03a・ 5103b、 ST5119 ・SK56 16・56 17・56 18、 S13-P 51-54・ P62、 S14-P3 ・P62	外周トレンチで約1/ 2が不明。外周トレン チ内で炉の縁石から 推測する主軸上に検 出された2を埋土に 測定。SB5341以上は も以下にも住居跡が 確認できなかったこ とから本住居に伴う ものとした

表30-(4) 屋代遺跡群XII-2層検出竪穴建物跡（SB）一覧

遺構記号	遺構番号 (旧遺構番号)	検出面	観察最古時期 (構築時期に近接)	観察最新時期 (廃絶時期に近接)	根拠	仮地区	大地区	中区	遺構図版番号	竪穴建物 種類	柱穴数 (主柱穴)	主軸 方向	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m) 床 深さ (m)	床面積 (㎡)	炉			附属施設 (床下を含む)							
																	炉 種類	炉位置	炉土器種類	埋土堆積状 況	埋土と埋設状況	埋土分 類	埋土 系統	入口 施設	備考		
SB	5342	XII-2	4期	4期	埋炭	1相	5b	I	N14	隅丸方形部分敷石住居	8(7)	(N11°W)	4.0	4.0	0.18 351.58	11.04	(石囲)埋炭炉	中央	完形のβ加曽利EIV系深鉢(5)が正位で埋設	22cmの振り込みの壁が被熱。灰層の上に右の投棄	住居南側に3組。最西の組は口縁部、底部を欠損した2が高位箇に正位、南に隣接して口縁部を欠損した4が正位斜めに埋設。中央はほぼ完形の1が正位で、東側には胴部下半から上を切断した3が正位	-	α・β	P3可能性有り	-	-	
SB	5343	XII-2	3c期	3c期	埋炭	1層	5b	I	N8・9・13・14	隅丸方形竪穴住居	1	(N15°E)	4.56	4.12	0.39 351.48	13.06	深い地床炉→石囲炉方B類(炉の縮小)一燃焼部調節炉	中央南より	-	壁が被熱している深さ30cmの深い地床炉。石囲炉は底部が被熱	炉の南西部に1.胴部上半以上を切断し口縁部を住居内側に傾けて斜めに埋設。上に石蓋	石蓋正斜β	-	-	-	-	
SB	5344	XII-2-2	3c期	3c期	埋炭	埋土	5b	I	N23・S3	円形竪穴住居	8(除柱穴)	(N35°E)	4.2	3.94	0.29 351.51	9.34	地床炉	中央東より	-	3層火床の上に2層灰層と1層焼土炭化物層	住居南西より正位で1基。口唇部やや摩耗欠損した深鉢。口縁部を住居中央に傾けて埋設。底部に積物埋納。土器内土壌は脂肪酸分析	正斜α-1	α(β)	-	-		
SB	5345	XII-2-2	3a~3b期	3b期	埋炭	2層	5b	I	N24	5角形竪穴住居	15(他に直径10cmに満たない小柱穴(4))	主軸1(N5°W)主軸2(N15°W)	6.5 6.6	5.7 5.7	0.45 351.27	23.40	石囲炉五C類(隅に立石)	中央	-	火床の上に灰層と炭層、焼土層。特に9層は炭化材	住居中央南側の5角形の張り出し部に3基並ぶ。南から1は石蓋を持ち倒置。胴部下半以下を切断。中央の3と中心よりの2は胴部上半以上と下半以下を切断し正置。3基ともほぼ垂直に埋設	石蓋倒d・正α・β・γ	-	P7、(6、14)	-		
SB	5346	XII-2-2	3b期	埋炭	-	-	5b	I	N23・S3	円形部分敷石住居	1	(N25°E)	-	4.28	0.29 351.51	-	石囲炉埋炭炉	中央	-	3層火床の上に灰層、炭化物層。炉の外北側に炭化物、焼け骨の集中	炉南側敷石の一枚を石蓋として口縁部同士を重ねて2個体かほぼ垂直に埋設。上のα(1)は胴部中央以下を切断して倒置。下のγ(2)はほぼ完形で正置	石蓋倒αと正α被覆型	α・γ	P11、p12	-		
SB	5348	XII-2	4期	6~2層	-	-	5b	I	N13・14	円形竪穴状遺構	0	-	(2.10)	(2.1)	0.40 351.29	(2.35)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB	5349	XII-3上	2b~3a期	切	-	-	5b	I	N17	94	2	-	-	-	0.39 351.33	-	地床炉	-	-	炉内には白色化した焼骨と灰	-	-	-	-	-	-	
SB	5350 (SB 5320-SB 5350)	XII-2下	2b期	床下埋炭	2b~3a期	3~1層	5b	I	N19・20・24・25	楕円形竪穴住居→楕円形竪穴住居	7	主軸1第一段階(N5°E)主軸2第二段階(N63°W)	6.0 6.15	5.45 (5.5)	0.37 351.33	23.25	地床炉もしくは石囲炉方B類	ほぼ中央	-	炉2は単円な火床の上に灰層と5層埋め灰し土。炉3は火床の上に灰層	南壁際に2組。中央や西に入れ子で2個体。東隣付近に1個体。西側の組は1が底部に近い胴部下半以下を切断して倒置。7は胴部上半以下を切断して1に被せて倒置。埋めた後に貼り床が貼られる。東側の6は胴部下半以下を切断して倒置。両組ともほぼ垂直に埋められている	西側は倒d・β2基、東側はγ	-	-	-	-	
SB	5351	XII-2	3b期	埋炭	3b期	~2相	5b	I	S2 N22	96 97	12(内5基は階段部分)	(N9.5°E)	6.25	-	0.22 351.24	-	石囲炉長B類(南北石無し、散乱)	中央や北より	-	3層火床の上に炭土層2層と炭化物層1層。火床部は南北2つの振り込み	炉の南側に2組がほぼ垂直に埋設。中央よりの組は、胴部以下を切断したが倒置状態でほぼ完形正置の2と口縁部同士組合わさる。外側の組は、胴部下半以下を切断した3が倒置でほぼ完形正置の4の内側に入る	倒eとの被覆型倒dと正α被覆型	内側はα2基、外側はγとβ	-	-		
SB	5352	XII-3上	2a~2b期	埋炭	2期	炉	5b	I	S7	97	5	(N3°E)	4.70	4.6	0.43 351.04	13.81	石囲炉(緑石無し、散乱)	中央や北より	-	火床の上に灰層。焼骨含む	住居南側主柱穴間にはほぼ垂直に倒置。底部付近の胴部下半以下を切断	倒d	β	-	-		

第2節 XII-2層検出遺構と遺物の出土状況

床・掘方	その他施設	層位 取り 上げ の有 無	埋土堆積状況	床面遺物	遺物出土状況	特記遺物	土器量 (g) 口縁部 (口縁 部数) 全量	石器量 (個)割 片等・ 燧石器 等・搬 入雑等	遺物図 版番号	切合関係 (古)	切合関 係 (新)	備 考
中央に貼り床	住居のはば4隅に立石と敷石のセット。1層上部から人の四肢骨と思われる骨出土	埋土一括	埋土は2層で、2層に炭が混入する	—	埋土中土器は3c~4期までのものが出土。石器は製品が少ない。炉周辺1層相当の8にST5111埋土中土器が検出	釣手土器(10)	11770 (12) 19040	42・56 172	302・ 303	—	—	P6は立石、敷石に覆われる。P4が主柱穴とすれば石を設置する後の段階と考えられる
—	柱穴は深さ5cmのP1のみ。がの北側は床直、南側は石蓋として角礫	点を相当層に分配	埋土は2層で、1層には多量の炭。2層はXII-3層に近い	—	本遺跡で土器の密集度が最も高くはば全点を点取り。1層相当層に特に集中し、3c期の良好な一括資料を形成している。土器は住居強り込み外側までに続く。α・βの蓋形土器とγが特に多い。特にγの圧痕隆帯の形状は指で押したような大形の圧痕(48)、細かい刺みめのもの(47・52)が並存	2層から注口土器(11)、1層相当から内面に化粧粘土が塗布された鉢形土器(37)	56920 (456) 172265	115・31 165	303~ 307	ST5113	—	αは嘴・杯状突起の破片、βは楕円区画や多重沈線と眼手態垂文の組み合わせのA-2類が主体。微線起線の土器が伴いA-1類が欠落する。ここに隆帯の高いγが多く組成する
床面は堅固。SB5346床面とレベルが同じ	床面に礫が散乱	点を相当層に分配	埋土は2層、2層に炭少量含まれる	小片のみ	SB5346と遺物が一部混在しているが、1層~2層へ連続して遺物出土。α・β・γ・εともに出土するが連結U字文入り組み型が含まれる	2層相当から器台(7)、赤彩壺(22・23)	12563 (167) 41406	52・26 102	308・ 309	SB5346・ SK5668	5667・ S3-P23 ・24 ・24	—
床面は比較的堅固。掘方あり	クリの薄板による壁材が五角形に壁際をめぐる	分層点取り	埋土は6層で、5層から炭化材が集中出土し、床面直上の6層で炭化物が10%ほど含まれる	殆どなし	5層からは屋根材・壁材など炭化材と焼土、打製石斧(190)、土器片が出土。2層上部から大量の遺物出土。特に土器はαが多く潰れた状態で折り重なるとして出土している。βは連結U字文入り組み型(49)、γには液状口縁の(56・58)、綾形状沈線の地文をもつ65が共伴	—	86879 (432) 158004	226・51 603	310~ 318	SB5332・ 5350・SK 5865	SB5321・ 5338 ・5339 ・SK 5866・ SF5196	埋土3は大木9aの古相。2は加普利EII式的で胎土に在地にはない変成岩片を含む。1は圧痕隆帯土器でも隆帯が低く新しい線相を呈するため2・3-1という変遷も推測される
床は比較的堅固	炉の南側直径1m程度の広がり角礫、円礫を敷き詰め間隙に小石を入れる部分敷石あり。この敷石部と炉を結ぶ中軸線の延長土面に小張り出し部あり	SB5344と混在し不明	埋土は1層で炭化物が少量含まれる。埋土の大部分はSB5344によって切られる	—	南壁際に遺物若干出土	—	92002 (3) 92003	78・10 35	319	SK7379	SB5344・ S3-P25	SB5344の埋土との区別が非常に難しい。南側に小張り出しや部分敷石を持つ点は次段階に盛行する柄線形住居との関連が窺える
—	—	点を相当層に分配不能	埋土は6層、4、5層に炭化物粒子が多量に混入	—	1~6層でまんべんなく遺物が出た。連結U字文対向型や微線起線文のβ、γが見られる。4層では注口土器(7)、2層には10・11と大形のα(12)。石器は製品率高く特に打斧多い	—	23715 (85) 42120	61・29 161	319~ 321	ST5112・ 5113・SK 5800・ 5874・ SD5108	—	βに3c期の要素と4期の要素が折衷して、土器が見られ、また3期のαもこれらと共伴
軟弱で不明瞭であるため炉の上で埋土中の焼土がとぎれる面を床とした	—	層で取り上げ	埋土は1層。焼土ブロック混入	—	遺物は破片が極少量	—	93(2) 510	—	321	—	SB5328・ 5329・ SK5573 ・5574 ・5575 ・5576 ・5594・ S17-P1 ・3	SK5573・5575・5594の床面で検出
ほぼ全面堅固な貼り。XII-3層に砂を敷いて強く踏み固めたもの。9層に相当	西側の埋土の上に貼り床が貼られていること、がが作り替えられていることから2段階の変遷が推定できる。が2と西側埋土(1段階)、が1、P5と東側埋土と貼り床(2段階)。P10は貯蔵穴の可能性あり	1,2層内分配不可。3層は確定層点取り	埋土は3層。2・3層層理面には深さ10cm程度のピットが8基、2層分布範囲は中央に火床が見られることから、住居廃絶後に火焚き場として使われたことが解る。3層はXII-3層と酷似したシルト層	2のみ	床下からαの8と9。特に9の口縁部はP10、SB5341-5層とSB5332床下で出土。3層では西壁際を中心に土器が潰れた状態で出土。特にγ(25)は第二段階の埋土6に酷似。16は西側埋土よりも新しいβ。1,2層では小破片が集中。石器は比較的少ない	赤彩土器片(38)	13575 (124) 54683	150・31 283	321~ 325	—	SB5332・ 5338 ・5345・ SK5752 ・5764 ・5790	第一段階：が2と西側埋土、床下土器が帰属。第二段階：が1とP5。東側埋土、3層出土遺物などが帰属
床面に円礫が散在しているが軟弱	階段状窪穴部壁を有し、壁面傾斜部分に沿って棒状礫が敷設されている。掘り込みの外側に小ピット	点を相当層に分配	埋土は3層。特に2層に炭化物大量に含まれ、部分的に焼土や灰も混在している	—	床面遺物は見られないが、1~3層に相当する部分から遺物が多数出土。特に埋土2層相当ではα・γ・εと系の一括資料。1層相当では無文深鉢(27)や器台(30)。石器では先端を研磨した石鏃(44)、打製石斧(197)、ノッチ(238)などが埋土中から出土	埋土の4は口縁部下に15×12cmの穴があけられている。この土器の底で草を束ね入れたと推定される植物の固まり検出	67339 (185) 105870	64・33 104	325~ 330	—	SF5160 ・5161・ S2-P24 ・28・ 35・37 ・40	埋土2層相当一括土器はSB5345埋土2層上部出土土器に類似した線相を示す
グライ化により不明	埋土の南側の住居壁がやや外に張り出す	埋土遺物なし	埋土は1層でXII-3層に酷似する	破片が2点(3)のみ	遺物は土器のみでが石とともにが上に埋土されていたもの(4-7)とピット内(8)以外は殆どなし	—	3565(3) 3915	—	331	—	SB5313 b, ST 5108	埋土はSB5341のものと同様のヒレ状隆帯を有する。がの4の帰属によっては本遺跡で最も古い住居となる

表30-(5) 屋代遺跡群XII-2層検出竪穴建物跡（SB）一覧

遺構記号	遺構番号 (旧遺構番号)	検出面	観察最古時期 (構築時期に近接)	観察最新時期 (廃絶時期に近接)	根拠	仮地区	大地区	中地区	遺構図版番号	竪穴建物 物類型	柱穴数 (主柱穴)	主軸 方向	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m) 床 標高 (m)	床面 積 (㎡)	炉			附属施設 (床下を含む)						
																	炉 炉位置	炉土器種類	埋土堆積状 況	埋埋と埋設状況	埋埋分 類	埋埋 系統	入口 施設	周溝		
SB	5353	SB 5328の 床下	2b 期か	が	-	5b	I	N18	98	-	4	-	-	-	-	-	地床炉	-	-	3層火床 上に炭化物、 焼土層、焼 骨含む	-	-	-	-	-	
SB	6701	XII-3 上	2b 期	2相	-	5a	I	M19	98	円形竪 穴住居	3	(N35° E)	(4.50)	-	0.50 351.40	-	石囲炉 長B類	中央や 南より	-	3,4層に焼 土	-	-	-	-	-	
SB	6702	XII-2	3a 期	が	3a~ 3b	1層	5a	I	99	柄杓形 住居も しくは 五角形 竪穴住 居	6	N38° E	-	0.23 351.35	-	地床炉	中央北 より	β(2)が裏面を上 にして割り敷かれて いる。封鎖か	縁辺部がう つつら焼け て焼土が散 らばる	-	-	-	P1、 6か	-		
SB	6703 (SB 6702・ SB 6703)	SB 6702内	3c 期	埋 葬	-	5a	I	N6	99	敷石住 居	-	(N33° W)	(3.30)	(2.75)	0.25 351.40	(10.64)	石囲炉 方B類	中央や 南西 より	-	2層火床。1 層は炭化物 と骨片	炉の南側に正置。ほぼ完 形で炉方向に口縁部を傾 けて埋設	正斜 a	β	-	-	
SB	9001 (SK 9016)	XII-2 上	2a~ 2b 期	埋 葬	3a 期	2~ 1相	-	-	125	100	円形竪 穴住居	2	(N1° E)	4.68	4.23	0.39 351.35	13.59	石囲炉 五B類 (南西北 熱割れ)	中央や 北よ り	明確な火床 は無く焼土 アロップ、 灰層の順に 堆積	炉南側主軸状に1基。胴部 上半以上を切断し正置。 上部を住居内側に若干傾 けて埋設	正斜 b	β	-	-	
SB	9002	XII-2 上	2b 期以 前	切	2b~ 3a 期	2~ 1相	6b	I	N 3 ・ 4 ・ 8 ・ 9	101	円形竪 穴住居	1	-	(4.18)	-	0.22 351.62	-	石囲炉 か地床 炉	や西 寄りか	上面を切ら れているが 5層火床上 に炭化物層	-	-	-	-	-	
SB	9003	XII-2 上	2b 期	(埋 葬)	3a~ 3c 期	が 1層	6b	I	N 4 ・ 9	101	円形竪 穴住居	-	-	5.15	-	0.29 351.48	(16.21)	石囲炉 方A類	かなり 西よ り	8層火床。7 層灰層、6層 焼土層でそ の上は焼土 や炭化物を 含む	調査時には本住居に帰属 する埋埋を確定し得てい ない。切り合い等から判 断して1を該当させたが 位置に問題が残る	例 e	β	-	-	
SB	9004	XII-2	2b ~3 a期	(埋 葬)	3c 期	埋 土	6b	I	N 4 ・ 9	102	隅丸長 方形竪 穴状遺 構	2	-	(4.0)	(2.80)	0.21 351.41	(6.64)	-	-	-	P1の南側で出土した1が 相当する可能性がある が、床面土器の可能性も ある。埋設方向等不明	-	β	-	-	
SB	9005	SB 9003	3b 期	(埋 葬)	3b 期	2層	6b	I	N 4 ・ 9	102	円形竪 穴住居	2	(N1° E)	(2.82)	2.55	0.31 351.43	(8.42)	石囲炉 方B類 (南北縁 石無し)	中央	-	4層が火床 で炭化物 層、灰層の 順に堆積	同じレベルで炉南側東西 2基確認。西側の1は胴部 下半を切断倒置。東側の 2は口縁部と胴部下半を切 断正置。どちらもほぼ 垂直に埋設	例 e と 正 f	β 2 基	-	-
SB	9006	XII-2	2b 期	埋 葬・ 炉	3a~ 3b 期	1層	6b	I	I24	103	円形竪 穴住居	4	(N29° W)	-	-	0.17 351.50	-	石囲炉 方B類 (南北縁 石無し)	-	-	南側の縁石 抜き。4層が 火床で灰 層、骨片を 含むシルト 層	住居南側の主軸上床下30 cmの位置に被覆形で2体。 内側の2は胴部下半を切 断してほぼ垂直に倒置。 外側の1は上下不明	例 e と f の被 覆型	αβ 、β	-	-
SB	9007	XII-2 下	3c 期	2層	3c~ 4 期	2層	6b	I	N 8 ・ 13	103	楕円形 竪穴状 遺構 (楕円 形竪穴 住居)	-	壁面よ り7基 の小ピ ット	3.15	2.70	0.39 351.35	3.61	-	-	-	-	-	-	-	-	-

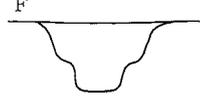
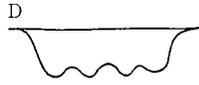
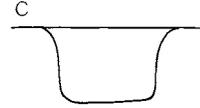
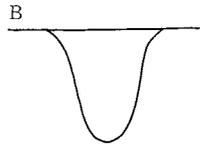
床・掘方	その他施設	層位的取 り上げの 有無	埋土堆積状況	床面遺物	遺物出土状況	特記遺物	土器量	石器量	遺物図 版番号	切合関係 (古)	切合関係 (新)	備考
							(g) 口縁部 (口縁 部数) 全量	(個)刺 片等・ 礫石器 等・搬 入礫等				
SB5328に切られて 不明	-	埋土 削平	-	-	地床が1層中に底部を切断した壺形 土器1が口縁部を斜め下にして横載	-	0(0) 1410	0・0 2	331	-	SB5328	-
炉周辺に貼り床あ り	P2の南側に1層に 類似した埋土をも つ土坑状の落ち込 みがある。もしこれ が一体であれば病 部となり、2b期の 柄鏡形住居となる が詳細は不明	層毎 に取り 上げ	埋土は7層。1層はXII-2層に 炭や骨片が混ざった層。2-7層 はXII-3層に類似	-	埋土1・2層相当層に土器片が集中	赤彩壺形土器 (6・7)	1247 (25) 4655	7・11 23	331、 332	SK6723	SK6713 ・6714	外周トレンチによっ て東側を切られる。石 田炉は東と南の縁石 は角礫2枚を組み、西 と北は小角礫を6個 組み合わせている
SB6703に切られて いない部分はかなり 低層	炉とP1・6の2等分 線を結ぶ主軸上南 側に張り出し部あり	1層 で点 取り	埋土は2層。北側に粘質シルト。 柄部と推測される南側のみ堆 積する2層はXII-3層に類似す る	床面倒置 土器(1)	中央部の遺物はSB6703に帰属するた めに北側のみ破片が出土	頸部以下を切 断した床面倒 置土器(1)	4125 (11) 6810	20・26 110	332	-	SB6703	外周トレンチによっ て北側と東側を切ら れる
北から南西壁際床 面に平石の敷石。そ 他の床面は軟弱	-	1層 で点 取り	埋土は1層で、SB6702の1層と 類似しているため分離が難し い	-	全体に小破片散らばる。小礫は完 整図に入れてあるが、一部は埋土 中の遺物と混在。南側床面から炭 化材出土	-	2560(1) 2560	-	332	SB6702	-	外周トレンチによっ て東側を切られる。SB 6702の窪地を利用し て構築。炉の縁石の 方向と主体部埋土の 位置から主軸を想定
炉周辺灰黄褐色土 を貼り、踏み固める	-	相当 層に 分配	埋土は5層。黄褐色の1・4・5層 の間に炭化物、焼土を多量に含 む2・3層が挟まれる。後者には 遺物も多く人為的な埋戻しの 可能性高い	-	土器は良好な破片が多いが層位的 に取り上げられていないために 床面も含めて「埋土」図に記入。 5層相当以下は2b期、2層相当以 上は3a期の様相でα・β・γが まとまって出土。石器は打 斧と黒曜石製微細刻離剥片多 い	ジョッキ形土 器24、底部が 極めて小さいα 大木9a古相 (13)ほか	18515 (182) 64190	174・45 272	333~ 335	-	-	-
比較的平坦で炉周 辺に焼土	-	点を 相当 層に 分配	埋土は3層。2層は暗褐色で炭化 物が多く含まれる。3層はXII -3に類似。レンズ状の自然堆積 と推測される	-	1・2層相当を中心に遺物が多く、 特に1層で炭化物や骨が伴う	埋土から磨 石斧	2153 (55) 10390	40・7 16	335	SK9065	SB 9003、 ST9101	SB9003に1/3程度を 切られるため詳細が 不明
西側で平坦な貼床 確認。暗褐色の粘質 土を固めたいらしい	-	点を 住居 と相 当層 に配 分	埋土は4層で、黒褐色土と黄褐 色土が互層になる	-	がからα(4)とβ(3)が出土。1 ~3相当層では2b期~3c期ま での土器が混在。石器は黒曜石 製の微細刻離剥片多い	-	10722 (230) 41360	118・21 229	335~ 337	SB9002、 SK9065	SB 9004、 9005	SB9003~9006の埋 土が混在しているた め整理時に位置と時 期によって振り分け
軟弱で建物の床と はいえない	-	1層 で点 取り	埋土は1層で炭化物が多量に含 まれる	-	先行して調査されたSB9003、9005 の遺物が混在するが、切り合 いのない南東部では3c~4期 のβ・γほか。石器は少ない	赤彩壺形土器 (8)	16930 (80) 32840	25・15 94	337、 338	SB9003・ 9005	SK9058	SB9003、9005が先 行して調査されており 、更に埋土の平面・ 断面の照合ができない
暗褐色土を踏み固 めて貼床	-	相当 層	埋土は3層で1、2層に炭化物や 骨片が多い	-	SB9003の遺物が混在。ただし2層 相当層にα・β	-	6140 (16) 12764	1・1 18	339	SB9003	SB9004	当初SB9003として 調査されたため遺物 が混在
掘方あり	-	層毎 に取り 上げ	調査段階に上部が失われたた めに埋土は1層でXII-3層に類 似。柱穴、掘方の埋土もXII-3 層と区別が難しい	-	埋土の遺物は極めて少ないが、 炉やピットから3期のα・β。P1 からは地文に筒歯状工具による 糸線文が施されたγ(7)。埋 土1とP1の7がSB9001の4 ~5層土器と接合	-	4405 (36) 11580	16・12 7	339、 340	-	-	古墳時代の澄地状の 流路に北側が切られ る
平坦部あり	西南に小ピットが めぐり、遺構外へ延 びる	層毎 に取り 上げ	埋土は3層で特に2層に炭化物、 灰が集中	2層下 部から つづ くもの あり	2・3層層理面上に土器中~小片が びっしりと張りつく。β・γを 中心に完形に近い個体も多く、 3c~4期にかけての良好な一括 資料と捉えられる。2層には 拳大の角礫集中、石器は打 斧のみ多く、小形石器はない	-	54020 (320) 90240	72・16 213	340~ 342	-	SK 9067、 SA9002	遺構西~南にかけて 巡る小ピットは掘り 込みが住居内側に傾 くことなどから遺構 の上層に関する可能性 あり

表31 屋代遺跡群XII-2層検出掘立柱建物跡 (ST) 一覧

遺構記号	遺構番号	旧遺構名	検出面	仮地区	本地区	中地区	遺構図	棟方向	類型	長軸 (m)	短軸 (m)	面積 (㎡)	面積 (㎡)	柱頭跡	土器概要	土器量 (g)	石器量 (g)	遺物	備考
ST 5101	SK5537, SK5538, SK5539, SK5555, SK5544, SK5556, SK5572, S12P35, S12P36, SF5126, SK5512, 一括N04・16・23		X II-2 1~2	5b I	S11, 12, 17	104	N32° W	a	5.6	2.7	15.12	15.12	P2・3にあり	3b~3c期	9185 (154) 44810	38・6 60	343	中央を南よりに地床跡。P6の1層からはボコツ土器の台付蓋形(4)、SK5512では北陸系土器(6)などが出土、後葉3b~3c期	
ST 5102	SK5529, SK5533, SK5535, SK5562, SK5581, SK5605, SK5607, SK5619, S12P7, S12P14, S18P66, SF5101, SF5134, SF5136, SK5509, 一括N014・7・3b・5・8・9・11・12・14・20・18・19・20・21・22・26・27・28・38・39・54		X II-2上・下	5b I	S12, 13, 18	105	N45° W	c	9.65	3.1	27.84	27.84	P4・7にあり	3b~4期	17567 (100) 59935	51・4 16	343	西側柱六間の埋蔵(1)、中央やや南よりに地床跡。埋土中検出の掘立柱土器(2~9)は後葉3b~3c期の検出、ただしP4からSK5511に切られる事からは後葉3a期以前となり、またP11は後葉3b~3c期の検出	
ST 5103a	SK5585, SK5586, SK5601, SK5614, SK5627, SK56870, 一括N06b, 7b, SF5130, SK5505		X II-2上・下	5b I	S8, 13	106	N30° W	a	7.8	3.6	28.08	28.08	なし	3c期	12540 (136) 47990	32・1 34	344	中央を北よりに地床跡と埋蔵土器、S15103b, SF55112を切る。一括N7から後葉3c期、一括N6から後葉3c期、一括N7から後葉3c期	
ST 5103b	SK5529, SK5530, SK5533, SK5535, SK5562, SK5581, SK5605, SK5607, SK5619, S12P7, S12P14, S18P66, SF5101, SF5134, SF5136, SK5509, 一括N014・7・3b・5・8・9・11・12・14・20・18・19・20・21・22・26・27・28・38・39・54		X II-2上・下	5b I	S8, 13	107	N25° W	c	9.67	4.4	37.93	37.93	P3・5・8・10にあり	2b~3c期	4590 (95) 23250	42・4 32	—	S15111を切り、S15132に切られる事から3a期に位置づけられる	
ST 5104	SK5529, SK5533, SK5535, SK5562, SK5581, SK5605, SK5607, SK5619, S12P7, S12P14, S18P66, SF5101, SF5134, SF5136, SK5509, 一括N014・7・3b・5・8・9・11・12・14・20・18・19・20・21・22・26・27・28・38・39・54		X II-2下	5b I	S17, 18, 13, 14, 18	108	N63° W	c	6	2.5	17.08	17.08	なし	—	—	—	—	P1はS15123と、P5はS15119と共有	
ST 5105	SK5529, SK5533, SK5535, SK5562, SK5581, SK5605, SK5607, SK5619, S12P7, S12P14, S18P66, SF5101, SF5134, SF5136, SK5509, 一括N014・7・3b・5・8・9・11・12・14・20・18・19・20・21・22・26・27・28・38・39・54		X II-2下	5b I	S12, 17, 18	109	N63° W	a	11.4	3.2	36.48	36.48	なし	2b~4期	1120 (15) 4625	2・0 2	345	中心部に埋蔵土器、P7から東に延びる溝が周溝とすれば、更に東に延びる溝、P5はS15105と共有	
ST 5106	SK5530, S18P7, S18P45, S18P51, S18P59, S18P60, S18P72, S18P73, S18P76, SF5124		X II-2下	5b I	S18	108	N80° W	c	(5)	2.9	(14.39)	(14.39)	なし	(3b~3c期)	65	—	—	中央やや東よりに地床跡、P8はS15105と共有	
ST 5107	SK5533aP2, P3, SK5696, SK5699, S2P4, S2P6, S2P10, S2P11, S2P12, S2P15, S2P16, S2P17, S2P18, S2P19, S2P20, S2P21, S2P22, S2P23, S2P24, S2P25, S2P26, S2P27, S2P28, S2P29, S2P30, S2P31, S2P32, S2P33, S2P34, S2P35, S2P36, S2P37, S2P38, S2P39, S2P40, S2P41, S2P42, S2P43, S2P44, S2P45, S2P46, S2P47, S2P48, S2P49, S2P50, S2P51, S2P52, S2P53, S2P54, S2P55, S2P56, S2P57, S2P58, S2P59, S2P60, S2P61, S2P62, S2P63, S2P64, S2P65, S2P66, S2P67, S2P68, S2P69, S2P70, S2P71, S2P72, S2P73, S2P74, S2P75, S2P76, S2P77, S2P78, S2P79, S2P80, S2P81, S2P82, S2P83, S2P84, S2P85, S2P86, S2P87, S2P88, S2P89, S2P90, S2P91, S2P92, S2P93, S2P94, S2P95, S2P96, S2P97, S2P98, S2P99, S2P100, S2P101, S2P102, S2P103, S2P104, S2P105, S2P106, S2P107, S2P108, S2P109, S2P110, S2P111, S2P112, S2P113, S2P114, S2P115, S2P116, S2P117, S2P118, S2P119, S2P120, S2P121, S2P122, S2P123, S2P124, S2P125, S2P126, S2P127, S2P128, S2P129, S2P130, S2P131, S2P132, S2P133, S2P134, S2P135, S2P136, S2P137, S2P138, S2P139, S2P140, S2P141, S2P142, S2P143, S2P144, S2P145, S2P146, S2P147, S2P148, S2P149, S2P150, S2P151, S2P152, S2P153, S2P154, S2P155, S2P156, S2P157, S2P158, S2P159, S2P160, S2P161, S2P162, S2P163, S2P164, S2P165, S2P166, S2P167, S2P168, S2P169, S2P170, S2P171, S2P172, S2P173, S2P174, S2P175, S2P176, S2P177, S2P178, S2P179, S2P180, S2P181, S2P182, S2P183, S2P184, S2P185, S2P186, S2P187, S2P188, S2P189, S2P190, S2P191, S2P192, S2P193, S2P194, S2P195, S2P196, S2P197, S2P198, S2P199, S2P200, S2P201, S2P202, S2P203, S2P204, S2P205, S2P206, S2P207, S2P208, S2P209, S2P210, S2P211, S2P212, S2P213, S2P214, S2P215, S2P216, S2P217, S2P218, S2P219, S2P220, S2P221, S2P222, S2P223, S2P224, S2P225, S2P226, S2P227, S2P228, S2P229, S2P230, S2P231, S2P232, S2P233, S2P234, S2P235, S2P236, S2P237, S2P238, S2P239, S2P240, S2P241, S2P242, S2P243, S2P244, S2P245, S2P246, S2P247, S2P248, S2P249, S2P250, S2P251, S2P252, S2P253, S2P254, S2P255, S2P256, S2P257, S2P258, S2P259, S2P260, S2P261, S2P262, S2P263, S2P264, S2P265, S2P266, S2P267, S2P268, S2P269, S2P270, S2P271, S2P272, S2P273, S2P274, S2P275, S2P276, S2P277, S2P278, S2P279, S2P280, S2P281, S2P282, S2P283, S2P284, S2P285, S2P286, S2P287, S2P288, S2P289, S2P290, S2P291, S2P292, S2P293, S2P294, S2P295, S2P296, S2P297, S2P298, S2P299, S2P300, S2P301, S2P302, S2P303, S2P304, S2P305, S2P306, S2P307, S2P308, S2P309, S2P310, S2P311, S2P312, S2P313, S2P314, S2P315, S2P316, S2P317, S2P318, S2P319, S2P320, S2P321, S2P322, S2P323, S2P324, S2P325, S2P326, S2P327, S2P328, S2P329, S2P330, S2P331, S2P332, S2P333, S2P334, S2P335, S2P336, S2P337, S2P338, S2P339, S2P340, S2P341, S2P342, S2P343, S2P344, S2P345, S2P346, S2P347, S2P348, S2P349, S2P350, S2P351, S2P352, S2P353, S2P354, S2P355, S2P356, S2P357, S2P358, S2P359, S2P360, S2P361, S2P362, S2P363, S2P364, S2P365, S2P366, S2P367, S2P368, S2P369, S2P370, S2P371, S2P372, S2P373, S2P374, S2P375, S2P376, S2P377, S2P378, S2P379, S2P380, S2P381, S2P382, S2P383, S2P384, S2P385, S2P386, S2P387, S2P388, S2P389, S2P390, S2P391, S2P392, S2P393, S2P394, S2P395, S2P396, S2P397, S2P398, S2P399, S2P400, S2P401, S2P402, S2P403, S2P404, S2P405, S2P406, S2P407, S2P408, S2P409, S2P410, S2P411, S2P412, S2P413, S2P414, S2P415, S2P416, S2P417, S2P418, S2P419, S2P420, S2P421, S2P422, S2P423, S2P424, S2P425, S2P426, S2P427, S2P428, S2P429, S2P430, S2P431, S2P432, S2P433, S2P434, S2P435, S2P436, S2P437, S2P438, S2P439, S2P440, S2P441, S2P442, S2P443, S2P444, S2P445, S2P446, S2P447, S2P448, S2P449, S2P450, S2P451, S2P452, S2P453, S2P454, S2P455, S2P456, S2P457, S2P458, S2P459, S2P460, S2P461, S2P462, S2P463, S2P464, S2P465, S2P466, S2P467, S2P468, S2P469, S2P470, S2P471, S2P472, S2P473, S2P474, S2P475, S2P476, S2P477, S2P478, S2P479, S2P480, S2P481, S2P482, S2P483, S2P484, S2P485, S2P486, S2P487, S2P488, S2P489, S2P490, S2P491, S2P492, S2P493, S2P494, S2P495, S2P496, S2P497, S2P498, S2P499, S2P500, S2P501, S2P502, S2P503, S2P504, S2P505, S2P506, S2P507, S2P508, S2P509, S2P510, S2P511, S2P512, S2P513, S2P514, S2P515, S2P516, S2P517, S2P518, S2P519, S2P520, S2P521, S2P522, S2P523, S2P524, S2P525, S2P526, S2P527, S2P528, S2P529, S2P530, S2P531, S2P532, S2P533, S2P534, S2P535, S2P536, S2P537, S2P538, S2P539, S2P540, S2P541, S2P542, S2P543, S2P544, S2P545, S2P546, S2P547, S2P548, S2P549, S2P550, S2P551, S2P552, S2P553, S2P554, S2P555, S2P556, S2P557, S2P558, S2P559, S2P560, S2P561, S2P562, S2P563, S2P564, S2P565, S2P566, S2P567, S2P568, S2P569, S2P570, S2P571, S2P572, S2P573, S2P574, S2P575, S2P576, S2P577, S2P578, S2P579, S2P580, S2P581, S2P582, S2P583, S2P584, S2P585, S2P586, S2P587, S2P588, S2P589, S2P590, S2P591, S2P592, S2P593, S2P594, S2P595, S2P596, S2P597, S2P598, S2P599, S2P600, S2P601, S2P602, S2P603, S2P604, S2P605, S2P606, S2P607, S2P608, S2P609, S2P610, S2P611, S2P612, S2P613, S2P614, S2P615, S2P616, S2P617, S2P618, S2P619, S2P620, S2P621, S2P622, S2P623, S2P624, S2P625, S2P626, S2P627, S2P628, S2P629, S2P630, S2P631, S2P632, S2P633, S2P634, S2P635, S2P636, S2P637, S2P638, S2P639, S2P640, S2P641, S2P642, S2P643, S2P644, S2P645, S2P646, S2P647, S2P648, S2P649, S2P650, S2P651, S2P652, S2P653, S2P654, S2P655, S2P656, S2P657, S2P658, S2P659, S2P660, S2P661, S2P662, S2P663, S2P664, S2P665, S2P666, S2P667, S2P668, S2P669, S2P670, S2P671, S2P672, S2P673, S2P674, S2P675, S2P676, S2P677, S2P678, S2P679, S2P680, S2P681, S2P682, S2P683, S2P684, S2P685, S2P686, S2P687, S2P688, S2P689, S2P690, S2P691, S2P692, S2P693, S2P694, S2P695, S2P696, S2P697, S2P698, S2P699, S2P700, S2P701, S2P702, S2P703, S2P704, S2P705, S2P706, S2P707, S2P708, S2P709, S2P710, S2P711, S2P712, S2P713, S2P714, S2P715, S2P716, S2P717, S2P718, S2P719, S2P720, S2P721, S2P722, S2P723, S2P724, S2P725, S2P726, S2P727, S2P728, S2P729, S2P730, S2P731, S2P732, S2P733, S2P734, S2P735, S2P736, S2P737, S2P738, S2P739, S2P740, S2P741, S2P742, S2P743, S2P744, S2P745, S2P746, S2P747, S2P748, S2P749, S2P750, S2P751, S2P752, S2P753, S2P754, S2P755, S2P756, S2P757, S2P758, S2P759, S2P760, S2P761, S2P762, S2P763, S2P764, S2P765, S2P766, S2P767, S2P768, S2P769, S2P770, S2P771, S2P772, S2P773, S2P774, S2P775, S2P776, S2P777, S2P778, S2P779, S2P780, S2P781, S2P782, S2P783, S2P784, S2P785, S2P786, S2P787, S2P788, S2P789, S2P790, S2P791, S2P792, S2P793, S2P794, S2P795, S2P796, S2P797, S2P798, S2P799, S2P800, S2P801, S2P802, S2P803, S2P804, S2P805, S2P806, S2P807, S2P808, S2P809, S2P810, S2P811, S2P812, S2P813, S2P814, S2P815, S2P816, S2P817, S2P818, S2P819, S2P820, S2P821, S2P822, S2P823, S2P824, S2P825, S2P826, S2P827, S2P828, S2P829, S2P830, S2P831, S2P832, S2P833, S2P834, S2P835, S2P836, S2P837, S2P838, S2P839, S2P840, S2P841, S2P842, S2P843, S2P844, S2P845, S2P846, S2P847, S2P848, S2P849, S2P850, S2P851, S2P852, S2P853, S2P854, S2P855, S2P856, S2P857, S2P858, S2P859, S2P860, S2P861, S2P862, S2P863, S2P864, S2P865, S2P866, S2P867, S2P868, S2P869, S2P870, S2P871, S2P872, S2P873, S2P874, S2P875, S2P876, S2P877, S2P878, S2P879, S2P880, S2P881, S2P882, S2P883, S2P884, S2P885, S2P886, S2P887, S2P888, S2P889, S2P890, S2P891, S2P892, S2P893, S2P894, S2P895, S2P896, S2P897, S2P898, S2P899, S2P900, S2P901, S2P902, S2P903, S2P904, S2P905, S2P906, S2P907, S2P908, S2P909, S2P910, S2P911, S2P912, S2P913, S2P914, S2P915, S2P916, S2P917, S2P918, S2P919, S2P920, S2P921, S2P922, S2P923, S2P924, S2P925, S2P926, S2P927, S2P928, S2P929, S2P930, S2P931, S2P932, S2P933, S2P934, S2P935, S2P936, S2P937, S2P938, S2P939, S2P940, S2P941, S2P942, S2P943, S2P944, S2P945, S2P946, S2P947, S2P948, S2P949, S2P950, S2P951, S2P952, S2P953, S2P954, S2P955, S2P956, S2P957, S2P958, S2P959, S2P960, S2P961, S2P962, S2P963, S2P964, S2P965, S2P966, S2P967, S2P968, S2P969, S2P970, S2P971, S2P972, S2P973, S2P974, S2P975, S2P976, S2P977, S2P978, S2P979, S2P980, S2P981, S2P982, S2P983, S2P984, S2P985, S2P986, S2P987, S2P988, S2P989, S2P990, S2P991, S2P992, S2P993, S2P994, S2P995, S2P996, S2P997, S2P998, S2P999, S2P1000		X II-2上・下	5b I	S2, 7	110	N17° W	c	9.5	3.34	28.81	28.81	P3にあり	(2b~3c期)	273 (10) 2425	5・0 1	—	中央に地床跡、SB5313aを切る。西側は、側面はSB5313bと同一位置	
ST 5108	S2P10, S2P13, S2P15, S2P19, S2P20, S2P21, S2P22, S2P23, S2P24, S2P25, S2P26, S2P27, S2P28, S2P29, S2P30, S2P31, S2P32, S2P33, S2P34, S2P35, S2P36, S2P37, S2P38, S2P39, S2P40, S2P41, S2P42, S2P43, S2P44, S2P45, S2P46, S2P47, S2P48, S2P49, S2P50, S2P51, S2P52, S2P53, S2P54, S2P55, S2P56, S2P57, S2P58, S2P59, S2P60, S2P61, S2P62, S2P63, S2P64, S2P65, S2P66, S2P67, S2P68, S2P69, S2P70, S2P71, S2P72, S2P73, S2P74, S2P75, S2P76, S2P77, S2P78, S2P79, S2P80, S2P81, S2P82, S2P83, S2P84, S2P85, S2P86, S2P87, S2P88, S2P89, S2P90, S2P91, S2P92, S2P93, S2P94, S2P95, S2P96, S2P97, S2P98, S2P99, S2P100		X II-2下・X II-3-2	5b I	S2, 7	111	N6° W	c	7.25	3.3	23.35	23.35	なし	—	—	—	—	仮に桁方向が3期とすれば、中央部をSB5103a・bにように切られていることになる	
ST 5109	(SK5595), N22P7, N22P11, N23P6, N23P8, N23P15, N23P19, N23P25, N23P26, N23P30, N23P37, N23P41, N23P45, N23P49, N23P53, N23P57, N23P61, N23P65, N23P69, N23P73, N23P77, N23P81, N23P85, N23P89, N23P93, N23P97, N23P101, N23P105, N23P109, N23P113, N23P117, N23P121, N23P125, N23P129, N23P133, N23P137, N23P141, N23P145, N23P149, N23P153, N23P157, N23P161, N23P165, N23P169, N23P173, N23P177, N23P181, N23P185, N23P189, N23P193, N23P197, N23P201, N23P205, N23P209, N23P213, N23P217, N23P221, N23P225, N23P229, N23P233, N23P237, N23P241, N23P245, N23P249, N23P253, N23P257, N23P261, N23P265, N23P269, N23P273, N23P277, N23P281, N23P285, N23P289, N23P293, N23P297, N23P301, N23P305, N23P309, N23P313, N23P317, N23P321, N23P325, N23P329, N23P333, N23P337, N23P341, N23P345, N23P349, N23P353, N23P357, N23P361, N23P365, N23P369, N23P373, N23P377, N23P381, N23P385, N23P389, N23P393, N23P397, N23P401, N23P405, N23P409, N23P413, N23P417, N23P421, N23P425, N23P429, N23P433, N23P437, N23P441, N23P445, N23P449, N23P453, N23P457, N23P461, N23P465, N23P469, N23P473, N23P477, N23P481, N23P485, N23P489, N23P493, N23P497, N23P501, N23P505, N23P509, N23P513, N23P517, N23P521, N23P525, N23P529, N23P533, N23P537, N23P541, N23P545, N23P549, N23P553, N23P557, N23P561, N23P565, N23P569, N23P573, N23P577, N23P581, N23P585, N23P589, N23P593, N23P597, N23P601, N23P605, N23P609, N23P613, N23P617, N23P621, N23P625, N23P629, N23P633, N23P637, N23P641, N23P645, N23P649, N23P653, N23P657, N23P661, N23P665, N23P669, N23P673, N23P677, N23P681, N23P685, N23P689, N23P693, N23P697, N23P701, N23P705, N23P709, N23P713, N23P717, N23P721, N23P725, N23P729, N23P733, N23P737, N23P741, N23P745, N23P749, N23P753, N23P757, N23P761, N23P765, N23P769, N23P773, N23P777, N23P781, N23P785, N23P789, N23P793, N23P797, N23P801, N23P805, N23P809, N23P813, N23P817, N23P821, N23P825, N23P829, N23P833, N23P837, N23P841, N23P845, N23P849, N23P853, N23P857, N23P861, N23P865, N23P869, N23P873,																		

表32-(1) 屋代遺跡群XII-2層検出土坑(SK)一覧

断面分類記号



G その他

遺跡記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色機記号	推積状況	土器概要(0は推前)	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SK	1114	2f	XII-2	VI	Y10	34	不整形	—	0.78	0.74	0.17	明褐色～黒褐色	7.5YR5/6～10YR3/2	2層(粘土質・焼土少)	—	—	—	—	—
SK	1131	2i	XII(上)	V	O25	34	楕円形	B	0.25	0.18	0.08	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性弱粒子細・炭化物・焼土微量)	—	—	—	—	—
SK	1132	2i	XII(上)	V	O25	34	楕円形	F	0.66	0.3	0.21	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性弱粒子細・炭化物多・焼土微量)	—	—	—	—	—
SK	4451	4c	XII-2中	I	W5	42	(円形)	A	(0.62)	—	(0.24)	灰白色	10YR7/1	1層(粘質・炭化物多)	3b期	580(7) 1900	—	347	—
SK	4452	4c	XII-2上	I	W15	120	楕円形	D	2.56	1.92	0.22	にぶい黄褐色	10YR6/3～7/4	2層(粘質・炭化物・2層のみ黄色焼土アロワ)	—	0(0) 90	—	—	—
SK	4453	4c	XII-2下	I	X11	42	不整形	—	0.86	0.78	0.08	灰黄褐色	10YR6/2	1層(炭化物混入)	—	—	—	—	—
SK	4454	4c	XII-2下	I	X11	42	不整形	E	0.5	0.40	0.18	灰黄褐色	10YR6/2	2層(炭化物混入)	—	—	—	—	—
SK	4455	4c	XII-2	I	W15	42	(不整形)	D	(1.12)	—	(0.06)	—	—	1層(—)	—	—	—	—	—
SK	4456	4c	XII-2上	I	W15	37	(不整形)	—	—	—	(0.7)	(0.17)	—	—	1層(—)	—	—	—	—
SK	4457	4c	XII-2下	I	X11	42	円形	C	0.48	0.47	0.12	灰黄褐色	10YR6/2	1層(粘質・炭化物混入)	—	—	—	—	—
SK	4458	4c	XII-2下	I	X11	42	円形	E	0.46	0.44	0.08	灰黄褐色～黄灰色	10YR6/2～2.5Y6/1	1層(粘質・炭化物混入)	—	—	—	—	—
SK	4459	4c	XII-2下	I	W15	42	不整形	—	0.78	0.72	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	4460	4c	XII-2下	I	X11	120	円形	E	0.80	0.70	0.24	灰黄褐色～にぶい黄褐色	10YR6/2～6/3	2層(1層のみ焼土アロワ混入・粘質・炭化物混入)	—	0(0) 15	—	—	—
SK	4461	4c	XII-2下	I	X6	120	(楕円形)	—	—	1.02	—	—	—	—	3c期	3570(7) 3880	1・0 0	347	—
SK	4462	4c	XII-2下	I	W15	120	不整形	G	1.54	0.96	0.12	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	4463	4c	XII-2下	I	W15	120	楕円形	E	1.56	1.14	0.24	にぶい黄褐色～黄灰色	10YR6/3～2.5Y6/1	1層(粘質・炭化物混入)	—	0(0) 43	—	—	—
SK	4464	4c	XII-2下	I	W15	42	楕円形	E	0.90	0.56	0.32	灰黄褐色	10YR6/2	1層(粘質・炭化物混入)	2b～3c期	0(0) 30	—	—	—
SK	4465	4c	XII-2下	I	X7	42	(円形)	B	(0.22)	—	(0.22)	—	—	1層(—)	—	—	—	—	—
SK	4466	4c	XII-2下	I	X6	42	(円形)	B	(0.26)	—	(0.14)	黄灰色	10YR6/1	1層(粘質)	—	—	—	—	—
SK	4862	4f	XII-2	I	R22	40	円形	B	0.3	0.26	0.7	暗褐色	10YR3/4	1層(粘質焼土・炭化物)	—	—	—	—	—
SK	4901	4g	XII-2	I	X2	43	(不整形)	—	—	—	(0.1)	褐色～暗褐色	10YR4/4	2層(焼土少・炭化物多アロワ・2層炭化物少)	—	0(0) 50	—	—	—
SK	4902	4g	XII-2上	I	W5	120	(楕円形)	A	2.04	—	0.25	褐色～暗褐色	10YR4/4	2層(1層粘性あり・炭化物・焼土)	(2b～3c期)	55(2) 155	—	—	—
SK	4903	4g	XII-2	I	X2	120	円形	A	2.82	(2.14)	0.08	褐色～暗褐色	10YR4/4	1層(炭化物多)	3c～4期	940(7) 2800	0・1 16	347	—
SK	4904	4g	XII-2	I	S21	43	円形	A	0.82	0.8	0.09	褐色～暗褐色	10YR4/4	1層(炭化物多)	—	—	—	—	—
SK	4905	4g	XII-2	I	S22	43	円形	E	1.2	1.14	0.16	褐色～暗褐色	10YR4/4	1層(炭化物多)	(3a～3c期)	28(1) 148	1・0 0	—	小片のみ。粘土塊あり(3.355g)
SK	4906	4g	XII-2	I	R25	43	楕円形	B	0.48	0.38	0.14	灰黄褐色	10YR4/2	1層(炭化物)	—	—	—	—	—
SK	4907	4g	XII-2	I	S22.23	43	(不整形)	—	—	0.42	(0.14)	褐色～暗褐色	10YR4/4	1層(炭化物多)	—	—	—	—	—
SK	5501	5b	XII-2	I	S14	44	円形	—	0.26	0.24	—	灰褐色	7.5YR4/2	1層(粘土質・炭化物)	—	—	—	—	—
SK	5502	5b	XII-2	I	S14	44	楕円形	—	0.44	0.2	—	灰褐色	7.5YR4/2	1層(粘土質・炭化物多・焼土少)	中期後葉	0(0) 20	0・0 5	—	—
SK	5503	5b	XII-2	I	S14	44	楕円形	—	0.6	0.44	—	灰褐色	7.5YR4/2	1層(粘土質・炭化物多・焼土少)	(3a～4期)	30(1) 310	—	—	—
SK	5504	5b	XII-2	I	S9	44	楕円形	—	1.1	0.78	—	灰褐色	7.5YR4/2	1層(粘土質・炭化物・焼土多・火床あり)	(3a～3c期)	810(5) 1370	9・1 7	—	小片のみ
SK	5505	5b	XII-2	I	S16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(3a～4期)	2960(12) 9200	—	347	西側外周10m以内で出土。平断面図なし
SK	5506	5b	XII-2上	I	S12.17	120	不整形	A	1.22	0.64	0.25	暗褐色～褐色	10YR3/4～4/4	3層(2層のみ炭化物・焼土・1・3層粘性强)	3a～3c期	650(14) 3005	1・2 13	347	口縁：α・β・γ・δ14点 体部：α・β2080g 底：1点
SK	5507	5b	XII-2上	I	N15	37	円形	E	0.65	0.56	0.25	—	—	—	(3a～3c期)	122(3) 410	1・0 0	—	—
SK	5518	5b	XII-2下	I	S22	43	(楕円形)	—	—	0.44	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5521	5b	XII-2上	I	N15	37	円形	B	0.24	0.24	0.21	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性土・炭混入)	3c期	40(1) 920	1・0 0	—	—

表32-(3) 屋代遺跡群XII-2層検出土坑(SK)一覽

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色標記号	推積状況	土器概要(0は推測)	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SK	5629	5b	XII-2下	I	N23	123	(楕円形)	A	—	2.16	—	暗褐色	—	1層(土器・炭化物多)	3b~3c期	1560(37) 5890	26・0 23	348	床面検出のどつが5基伴う
SK	5631	5b	XII-2下	I	S8	44	不整形	F	0.84	0.53	0.33	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり・炭・焼土少)	—	—	—	—	—
SK	5632	5b	XII-2下	I	S8.9	45	(不整形)	A	—	0.54	—	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり・炭・焼土少)	(2b~3c期)	40(1) 360	1・0 0	—	—
SK	5633	5b	XII-2下	I	N23	133	(楕円形)	—	—	—	—	暗褐色~にぶい黄褐色	10YR3/2~4/3	2層(1層炭化物少・2層炭化物多)	(2b~3c期)	430(10) 1750	2・0 5	—	ST5109に切られるため3c期以前
SK	5635	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	C	0.22	0.18	0.18	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5637	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	B	0.46	0.42	0.38	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5639	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	B	0.24	0.2	0.14	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5641	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	E	0.32	0.26	0.13	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5642	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	B	0.22	0.16	—	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5643	5b	XII-2下	I	N20	46	不整形	—	—	0.2	—	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5644	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	B	0.38	0.28	0.36	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5645	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	B	0.25	0.24	0.18	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5648	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	E	0.34	0.32	0.24	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5649	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	A	0.27	0.22	0.08	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5650	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	C	0.28	0.26	0.11	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5654	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	E	0.32	0.3	0.16	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5655	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	C	0.26	0.26	0.16	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5657	5b	XII-2下	I	O16	46	円形	F	0.8	0.72	0.24	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5658	5b	XII-2下	I	O16	46	円形	B	0.38	0.34	0.4	—	—	3層	—	380(2) 480	—	—	—
SK	5659	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	B	0.3	0.28	0.28	—	—	1層	—	—	—	—	—
(SK)	(5660)	5b	XII-2下	I	S5	45	—	—	0.2	—	—	—	—	—	—	240(6) 1230	—	—	立木の根本部分で直径0.2m 根本部分130.3m以上広がる 「わかめ」・「藤根」の鑑定で 351.51m 幹最上部:351.61m
SK	5661	5b	XII-2下	I	S13.14	44	不整形	—	0.58	0.58	—	—	—	—	—	—	—	—	SD5105の上により3b以降
SK	5662	5b	XII-2下	I	N22.23	13	不整形	—	0.94	—	—	—	—	2層(炭化物少)	(2b~3c期)	45(1) 165	2・0 3	—	ST5110を切るため3c~4期以降
SK	5663	5b	XII-2下	I	N23	43	(不整形)	—	—	—	—	—	—	1層	(2b~3c期)	25(1) 1440	0・1 3	—	—
SK	5664	5b	XII-2下	I	S9	45	楕円形	B	0.62	0.4	0.08	黒褐色	10YR2/3	1層(粘性あり・炭・焼土少)	(3a~3c期)	20(1) 170	6・0 0	—	SB5335に切られるため3b期以前
SK	5665	5b	XII-2下	I	S13	44	—	—	—	—	—	—	—	—	中期後葉	65(1) 280	0・1 0	—	—
SK	5666	5b	XII-2下	I	N23	45	円形	F	0.61	0.6	0.3	暗褐色	—	2層(炭化物あり)	(2b~3c期)	60(3) 150	3・0 2	—	—
SK	5667	5b	XII-2下	I	N23	123	不整形	A	1.38	1.3	0.18	黒褐色	10YR3/2	1層(焼土・炭化物・土器多)	(3a~3c期)	630(6) 4160	0・0 8	—	SB534を切るため3c期以降
SK	5668	5b	XII-2下	I	N23	123	(不整形)	C	—	(0.42)	0.69	—	—	3層(炭化物・焼土多・2層土器多・3層のみ焼土なし)	4期	130(3) 810	1・0 0	348	SB5344に切られるため3c期以前。埋土中土器SR5314土器と接合
SK	5669	5b	XII-2下	I	N23	123	円形	C	0.6	0.58	0.41	黒褐色~暗褐色	10YR3/2~3/3	2層(1層炭多・2層炭なし)	(2b~3c期)	10(1) 80	—	—	—
SK	5670	5b	XII-2下	I	N20	46	不整形	B	0.44	0.42	0.55	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5671	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	F	0.32	0.3	0.28	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5672	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	B	0.24	0.22	0.29	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5673	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	E	0.3	0.3	0.33	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5674	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	B	0.38	0.38	0.26	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5675	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	C	0.34	0.32	0.22	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5676	5b	XII-2下	I	N25	46	円形	—	0.44	0.41	—	—	—	1層	—	395(2) 795	0・0 2	—	—
SK	5677	5b	XII-2下	I	N25	45	円形	B	0.44	0.44	0.26	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5678	5b	XII-2下	I	N25	45	円形	B	0.26	0.25	0.24	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5680	5b	XII-2下	I	N25	45	円形	C	0.26	0.24	0.26	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5681	5b	XII-2下	I	N25	45	円形	B	0.3	0.28	0.16	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5682	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	B	0.44	0.42	0.31	—	—	2層	—	—	1・0 2	—	—
SK	5683	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	C	0.26	0.24	0.15	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5684	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	E	0.24	0.24	0.16	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5685	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	B	0.26	0.24	0.18	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5686	5b	XII-2下	I	S5	45	楕円形	B	0.3	0.21	0.18	—	—	1層	中期後葉	0(0) 90	—	—	γ1点
SK	5687	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	B	0.38	0.38	0.4	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5688	5b	XII-2下	I	S5	45	楕円形	C	0.36	0.3	0.18	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5689	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	B	0.34	0.32	0.24	—	—	1層	—	—	—	—	—
SK	5690	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	—	0.24	0.21	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5691	5b	XII-2下	I	S13	44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0・0 4	—	ST5103(SD5101)の下により3a以前
SK	5695	5b	XII-2下	I	S7	123	楕円形	B	0.96	0.52	0.31	にぶい黄褐色	10YR4/3	2層(2層炭化物多)	4期	3820(7) 6460	0・0 7	349	—
SK	5697	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	E	0.36	0.34	0.34	—	—	2層(-)	—	—	—	—	—
SK	5698	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	B	0.42	0.42	0.14	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5699	5b	XII-2下	I	S5	45	(不整形)	—	0.26	—	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5700	5b	XII-2下	I	S5	45	(不整形)	—	—	—	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5701	5b	XII-2下	I	S5	45	楕円形	C	0.88	0.6	0.66	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5702	5b	XII-2下	I	S5	45	楕円形	B	0.66	0.53	0.16	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5703	5b	XII-2下	I	S5	45	(不整形)	—	0.44	—	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—

表32-(4) 屋代遺跡群XII-2層検出土坑（SK）一覧

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要() は推測	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考	
SK	5704	5b	XII-2下	I	S5	45	不整形	E	1.08	0.76	0.46	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5705	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	C	0.46	0.4	0.5	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5706	5b	XII-2下	I	S5	45	円形	C	0.26	0.25	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5708	5b	XII-2下	I	S5	45	楕円形	—	0.84	0.66	0.78	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5709	5b	XII-2下	I	S5	45	(不整形)	—	—	—	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5711	5b	XII-2下	I	S5	45	楕円形	E	0.32	0.22	0.27	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5712	5b	XII-2下	I	S10	45	—	B	1.05	—	0.3	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5713	5b	XII-2下	I	S5	45	不整形	B	0.7	0.44	0.49	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5715	5b	XII-2下	I	N15	47	円形	B	0.22	0.22	0.2	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5716	5b	XII-2下	I	N15	47	円形	B	0.22	0.22	0.24	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5717	5b	XII-2下	I	N15	47	円形	A	0.32	0.3	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5718	5b	XII-2下	I	N15	47	円形	B	0.3	0.28	0.11	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5719	5b	XII-2下	I	N15	47	円形	—	0.36	0.32	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5720	5b	XII-2下	I	N15	47	円形	—	0.38	0.32	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	
SK	5722	5b	XII-2下	I	S7	45	不整形	—	0.7	0.4	—	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性あり・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	5723	5b	XII-2下	I	S8	44, 45	不整形	E	1.62	0.82	0.43	暗褐色～にぶい黄褐色	10YR3/4～4/3	3層	(3a～3c期)	0(0) 110	2・0 2	—	—	
SK	5724	5b	XII-2下	I	S13	44	円形	B	0.68	0.62	0.16	褐色	10YR4/4	1層(粘性弱)	—	—	—	—	—	
SK	5725	5b	XII-2下	I	S8	44	(不整形)	C	—	0.64	0.29	褐色	10YR4/4	1層(粘性中・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	5726	5b	XII-2下	I	S8	44	不整形	—	0.62	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	5729	5b	XII-2下	I	N23	123	不整形	B	—	1.04	—	黒褐色～暗褐色	—	2層(炭化物)	(3a～4期)	150(5) 640	2・0 4	—	埋土上層から頭蓋骨の可能性ある骨。ST5115を切るため3c～4期以前	
SK	5731	5b	XII-2下	I	S8.13	123	不整形	—	—	—	—	暗褐色～褐色	10YR3/3～4/4	3層(粘性あり・炭化物)	(3a～3b期)	2110(2) 3200	—	—	—	
SK	5732	5b	XII-2下	I	S3.8	122	(不整形)	B	0.78	—	0.24	—	—	—	中期	0(0) 80	2・0 16	—	SB5340を切るため4期以降	
SK	5734	5b	XII-2下	I	S8	122	(不整形)	—	—	—	—	—	—	1層(-)	中期後葉	0(0) 40	0・0 2	—	—	
SK	5735	5b	XII-3上	I	S17	43	楕円形	—	0.7	0.55	—	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性弱・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	5736	5b	XII-3上	I	S17.22	43	不整形	—	0.74	0.72	—	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性中・炭化物)	(2b～3c期)	0(0) 100	0・1 1	—	—	
SK	5737	5b	XII-3上	I	S22	43	不整形	—	0.54	0.3	—	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性中・炭化物)	(3a～3c期)	0 260	—	—	—	
SK	5738	5b	XII-2下	I	N24	123	(楕円形)	F	1.16	1.02	0.16	—	—	2層(炭)	3c～4期	130(2) 579	4・0 7	349	SB5339に切られるため4期以前	
SK	5739	5b	XII-2下	I	S3	45	(不整形)	—	—	—	—	—	—	—	(3a～3c期)	50(2) 750	0・0 2	—	SB5346に切られるため3b期以前	
SK	5741b	5b	XII-2下	I	S2	123	(楕円形)	—	—	—	—	にぶい黄褐色	10YR4/3	2層(粘性中)	2b～3a期	910(1) 3120	—	349	—	
SK	5742	5b	XII-2下	I	S2	45	(円形)	—	—	—	—	暗褐色	10YR3/3	1層(微粘性・炭化物・焼土少)	(2b～3c期)	20(1) 670	8・0 12	—	—	
SK	5743	5b	XII-2下	I	S8	44	楕円形	—	0.72	0.58	—	—	—	—	—	—	—	—	SB5340を切るため4期以降	
SK	5746	5b	XII-2下	I	S3	45	楕円形	—	0.5	0.43	—	黒褐色	10YR2/3	1層(粘性・しまり強・炭化物)	3c期	170(3) 1470	5・0 0	349	—	
SK	5748	5b	XII-2下	I	S8	44	(楕円形)	—	2.04	—	—	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性中・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	5749	5b	XII-2下	I	S2	123	円形	B	0.8	0.8	0.18	暗褐色～にぶい黄褐色	10YR3/4～4/3	2層(粘性あり・炭化物)	(2b～3c期)	150(4) 500	5・0 0	—	—	
SK	5750	5b	XII-2下	I	S2	45	楕円形	—	0.95	0.72	—	暗褐色	10YR3/4	2層(粘性あり・炭化物)	(2b～3c期)	30(3) 400	2・2 9	—	—	
SK	5751	5b	XII-2下	I	N5	47	円形	E	0.72	0.62	0.22	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	5752	5b	XII-2下	I	N20	46	円形	C	0.62	0.52	0.34	—	—	—	—	—	—	—	SB5350を切るため3a期以降	
SK	5753	5b	XII-2下	I	N5.10	47	楕円形	—	1.04	0.74	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	5754	5b	XII-2下	I	O1.6	47	不整形	B	0.88	0.62	0.35	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5755	5b	XII-2下	I	N10	47	楕円形	—	0.78	0.46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5756	5b	XII-2下	I	N10	47	楕円形	B	0.56	0.42	0.22	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	SF5120の下により3c～4期以前
SK	5757	5b	XII-2下	I	N10	47	円形	—	0.38	0.37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SF5120の下により3c～4期以前
SK	5758	5b	XII-2下	I	N10	47	円形	—	0.32	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5760	5b	XII-2下	I	N10	47	円形	—	0.31	0.29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5761	5b	XII-2下	I	O6	47	円形	B	0.36	0.34	0.18	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5762	5b	XII-2下	I	O6	47	円形	C	0.37	0.35	0.34	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5763	5b	XII-2下	I	O6	47	円形	B	0.34	0.32	0.5	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5764	5b	XII-2下	I	N19	46	円形	—	0.25	0.24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SB5350を切るため3a期以降
SK	5765	5b	XII-2下	I	S8	45	不整形	—	—	—	—	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性弱・炭化物)	(2b～3c期)	40(1) 90	0・0 2	—	SB5340に切られるため3c期以前	
SK	5766	5b	XII-2下	I	S7	45	(円形)	—	—	—	—	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性中・炭化物)	中期後葉	0(0) 90	—	—	SB5340に切られるため3c期以前	
SK	5768	5b	XII-2下	I	S7.8	44	(楕円形)	—	—	0.58	—	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性弱・炭化物)	—	—	—	—	—	—
SK	5769	5b	XII-2下	I	S8	45	(不整形)	—	—	—	—	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性弱・炭化物)	(3a～3c期)	0(0) 330	0・0 5	—	SB5340に切られるため3c期以前	
SK	5770	5b	XII-2下	I	S8	123	円形	—	0.99	0.92	—	黒褐色	10YR3/2	1層(粘性強・炭化物)	2b～3c期	560(4) 4450	12・0 7	349	SB5340に切られるため3c期以前	
SK	5772	5b	XII-2下	I	N23	124	(楕円形)	—	—	—	—	黒褐色	—	1層(炭化物あり)	(3a～3c期)	1640(3) 1840	1・2 3	—	—	
SK	5773	5b	XII-2下	I	S7	124	楕円形	A	0.82	0.6	0.11	暗褐色～暗灰色	10YR3/4～5YR5/1	3層(2層のみ焼土・炭化物)	3c期	180(1) 180	—	349	2層中に切断木材	
SK	5777	5b	XII-2下	I	S9	45	(不整形)	—	—	—	—	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性ややあり・炭・焼土・土器混入)	3c～4期	50(2) 190	1・0 6	349	SB5317に切られるため3c期以前	
SK	5778	5b	XII-2下	I	S3	124	(円形)	B	0.54	—	0.27	黒褐色～暗褐色	—	2層(炭化物)	2b～3c期	450(2) 1080	6・0 19	349	—	
SK	5779	5b	XII-2下	I	S3	124	(円形)	F	—	0.72	0.45	暗褐色～にぶい黄褐色	—	2層(2層のみ炭化物)	(3c期)	110(2) 650	2・0 14	—	—	
SK	5781	5b	XII-2下	I	N15	47	円形	B	0.3	0.23	0.33	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5782	5b	XII-2下	I	N15	47	不整形	B	0.44	0.26	0.24	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5783	5b	XII-2下	I	O6	47	楕円形	C	0.41	0.32	0.33	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—

表32-(5) 屋代遺跡群XII-2層検出土坑(SK)一覽

遺構 記号	遺構 番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構区	平面形	断面 形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色 記号	推積 状況	土器 概要 (は推測)	土器 量(g)	石器 量 (個)	遺物 区	備考
SK	5784	5b	XII-2	I	N15	47	楕円形	—	0.8	0.58	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5785	5b	XII-2	I	N15	47	円形	—	0.22	—	—	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5786	5b	XII-2	I	N15	47	円形	A	0.28	0.26	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5787	5b	XII-2	I	N20	46	円形	—	0.4	0.36	—	—	—	—	(3a~3c期)	10(1) 90	—	—	—
SK	5789	5b	XII-2	I	O6	47	円形	—	0.23	0.22	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5790	5b	XII-2	I	N19	124	円形	—	0.8	0.75	—	—	—	—	3b期	880(2) 1020	1・0 0	349	土壌層(標高351.2m)。SB5350を切るため3a期以降
SK	5793	5b	XII-2	I	N24	45	(楕円形)	—	—	0.72	—	暗褐色~褐灰色	—	2層(炭化物)	(2b~3c期)	15(1) 135	0・1 0	—	SB5339の下により4期以前
SK	5795	5b	XII-2	I	S3	45	不整形	—	—	—	—	黒褐色~褐色	10YR3/2~4/4	2層(粘性あり・炭化物)	—	—	—	—	—
SK	5796	5b	XII-2	I	S8	44	(楕円形)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ST5103aに切られるため3c期以前
SK	5798	5b	XII-2	I	S11	44	(不整形)	—	—	—	—	暗褐色	10YR3/3	2層(炭化物)	(3a~3c期)	85(4) 515	3・0 0	—	ST5101に切られるため3b~3c期以前
SK	5799	5b	XII-2	I	S7	44	不整形	G	0.5	0.29	0.3	—	—	2層(-)	—	—	—	—	—
SK	5800	5b	XII-2	I	N13	124	(不整形)	—	—	—	—	黒褐色	10YR3/2~3/3	2層(1層炭化物・焼土・炭化物)	(3a期)	0(0) 120	1・0 1	—	SB5348、ST5101に切られるため3c期以前
SK	5803	5b	XII-3	I	S7	45	楕円形	—	1.04	0.66	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5804	5b	XII-2	I	N22	45	(不整形)	—	—	—	—	褐色	7.5YR4/4	1層(NS粘性なし炭・焼土少、WE粘性なし炭少)	(2b~3c期)	0(0) 210	—	—	—
SK	5805	5b	XII-3	I	S13	44	不整形	—	—	—	—	—	—	—	(2b~3c期)	40(1) 100	—	—	—
SK	5806	5b	XII-2	I	S3	45	(不整形)	F	—	—	0.48	暗褐色	—	1層(炭化物あり)	(3a~3c期)	30(1) 120	1・1 0	—	ST5101に切られるため3b~3c期以前
SK	5809	5b	XII-2	I	S8	124	(円形)	—	0.7	—	—	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり・炭化物)	(3a~4期)	170(3) 1120	0・0 3	—	SB5340に切られるため3c期以前
SK	5810	5b	XII-2	I	S3	122	—	—	—	—	—	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性中)	(3a~3c期)	0.7(1) 100	—	—	—
SK	5811	5b	XII-2	I	N14	46	不整形	C	1.5	0.9	0.24	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり・焼土・炭(ロウ)混入)	(2b~3c期)	150(2) 365	1・0 4	—	SB5342の下により4期以前
SK	5812	5b	XII-2	I	S8	124	(楕円形)	—	2.06	—	—	暗褐色~灰黄褐色	10YR3/3~4/2	2層(1層粘性なし・2層粘性高い・炭化物・炭)	3b~3c期	7940(19) 13650	17・4 17	350	SB5340に切られるため3c期以前
SK	5813	5b	XII-2	I	S18	44	円形	—	0.49	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5818	5b	XII-2	I	N17	124	(不整形)	—	1.1	—	—	暗灰色	—	1層(炭化物あり)	(2b~3c期)	0(0) 30	—	—	—
SK	5819	5b	XII-2	I	N18	46	(不整形)	—	1.57	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	5821	5b	XII-3	I	S9	124	楕円形	B	1.04	0.98	0.23	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり・焼土・炭少)	(3a~3c期)	0(0) 140	—	—	SK5777の下により3c期以前
SK	5822	5b	XII-2	I	S4.9	45	(不整形)	—	—	—	—	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり・焼土・炭少)	—	—	2・0 0	—	—
SK	5823	5b	XII-3	I	S18	124	楕円形	—	1.08	0.63	—	—	—	—	3b期	1170(15) 1160	—	350	土壌層(骨標高351.2m)
SK	5824	5b	XII-3	I	N10	47	円形	E	0.43	0.38	0.31	—	—	2層(-)	—	—	—	—	—
SK	5825	5b	XII-3	I	N10	47	円形	B	0.34	0.3	0.3	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5826	5b	XII-3	I	N10	47	円形	B	0.32	0.35	0.36	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5827	5b	XII-3	I	O11	47	円形	B	0.18	0.16	0.32	—	—	1層(-)	(2b~3c期)	0(0) 470	1・1 0	—	—
SK	5828	5b	XII-3	I	O11	47	不整形	A	0.62	0.4	0.1	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5829	5b	XII-3	I	O11	47	円形	B	0.35	0.33	0.18	—	—	1層(-)	(3a~3c期)	0(0) 140	—	—	—
SK	5830	5b	XII-3	I	O11	47	円形	C	0.25	0.24	0.3	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5831	5b	XII-3	I	O11	47	円形	B	0.26	0.24	0.22	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5832	5b	XII-3	I	O11	47	円形	C	0.22	0.17	0.18	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5833	5b	XII-3	I	S12	124	不整形	—	0.72	0.44	—	褐色	10YR4/4	1層(巨大焼土塊)	—	—	—	—	土壌層(骨標高351.2m)
SK	5834	5b	XII-3	I	N10	47	不整形	B	0.6	0.4	0.39	—	—	1層(-)	(3a~3c期)	90(3) 190	—	—	—
SK	5835	5b	XII-3	I	N10	47	不整形	G	0.34	0.34	0.13	—	—	1層(-)	中期後葉	0(0) 50	0・0 13	—	—
SK	5836	5b	XII-3	I	N9	47	円形	G	0.22	0.18	0.08	—	—	1層(-)	—	—	—	—	SB5324の下により4期以前
SK	5837	5b	XII-3	I	N9	47	円形	B	0.34	0.34	0.29	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5838	5b	XII-3	I	N9	47	円形	B	0.23	0.22	0.22	—	—	1層(-)	(2b~3c期)	0(0) 70	—	—	—
SK	5839	5b	XII-3	I	N14	47	楕円形	C	—	0.34	0.17	—	—	1層(-)	(3c期)	75(2) 230	—	—	—
SK	5840	5b	XII-3	I	N14	47	円形	E	0.36	0.3	0.22	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5842	5b	XII-3	I	N14	47	楕円形	B	0.32	0.22	0.3	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5843	5b	XII-3	I	N14	47	円形	G	0.5	0.44	0.12	—	—	1層(-)	(2b~3c期)	0(0) 90	0・0 2	—	—
SK	5844	5b	XII-3	I	N14	47	円形	E	0.34	0.33	0.13	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5845	5b	XII-3	I	N14	47	楕円形	B	0.42	0.36	0.23	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5846	5b	XII-3	I	N14	47	円形	A	0.4	0.36	0.12	—	—	1層(-)	—	—	—	—	SB5345の下により4期以前
SK	5847	5b	XII-3	I	N10.15	124	円形	C	0.4	0.38	0.16	—	—	1層(-)	3b~3c期	500(4) 860	3・1 0	350	—
SK	5848	5b	XII-3	I	N15.011	47	不整形	B	0.65	0.64	0.19	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5850	5b	XII-3	I	N15	124	楕円形	B	0.5	0.34	0.22	—	—	2層(-)	—	—	—	—	—
SK	5852	5b	XII-3	I	N15	124	円形	B	0.3	0.3	0.42	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5854	5b	XII-3	I	O11	47	円形	C	0.3	0.27	0.7	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5855	5b	XII-3	I	O11	124	不整形	E	0.54	0.4	0.36	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5856	5b	XII-3	I	O11	46	楕円形	C	0.25	0.2	0.1	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5858	5b	XII-3	I	O16	46	円形	C	0.22	0.2	0.16	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5862	5b	XII-3	I	N20	46	円形	B	0.22	0.2	0.2	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5864	5b	XII-3	I	N20	46	円形	C	0.22	0.2	0.26	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SK	5865	5b	XII-2	I	N24	124	(円形)	—	0.94	—	—	にぶい黄褐色	10YR4/3	2層(1層のみ炭化物・2層のみ粘性あり)	—	—	—	—	SB5345に切られるため3a期以前
SK	5866	5b	XII-2	I	N24	45	(楕円形)	—	—	—	—	にぶい黄褐色	10YR4/3	2層(1層のみ炭化物・2層のみ粘性あり)	—	—	0・0 1	—	SB5345を切るため3b期以降
SK	5867	5b	XII-3	I	N25	124	楕円形	—	0.94	0.58	—	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性弱砂質強・炭化物)	—	—	0・0 3	—	土壌層(骨標高351.2m)

表32-(6) 屋代遺跡群XII-2層検出土坑 (SK) 一覧

遺構 記号	遺構番 号	版地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面 類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要 (は推測)	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考	
SK	5868	5b	XII-3 上	I	N25	45	楕円形	—	0.24	0.18	—	褐色	10YR4/4	1層(粘性あり・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	5872	5b	XII	I	O11	47	円形	—	0.72	0.62	—	—	—	—	—	—	—	—	焼け付集中	
SK	5873	5b	XII-2	I	N13	46	(円形)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ST5113に切られるため3c期以前	
SK	5874	5b	XII-2	I	N13	125	(不整形)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SB5349に切られるため3a~4期	
SK	5875	5b	XII-2	I	N14	46	楕円形	C	0.76	(0.66)	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	5876	5b	XII-2	I	N14	46	(楕円形)	—	—	0.44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	5877	5b	XII-3	I	O11	47	円形	—	0.34	0.34	—	—	—	—	—	—	—	—	SB5323の下により3b期以前	
SK	6704	5a	XII-2	I	R8	51	円形	—	0.32	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	6705	5a	XII-2	I	R4	51	円形	—	0.22	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	6707	5a	XII-2	I	R3	51	円形	—	0.36	0.34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	6708	5a	XII-2	I	R8	51	円形	—	0.34	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	6710	5a	XII-2	I	R4	51	楕円形	—	0.32	0.22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	6711	5a	XII-2	I	R4	51	楕円形	—	0.22	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	6712	5a	XII-2	I	R7, 12	125	楕円形	D	2.24	1.92	0.2	暗褐色へに よ い 黄褐色	10YR3/3~5/4	3層(1層焼土集中・2 層炭化物多・焼土少 3層炭化物少)	—	—	—	—	—	SB6701を切るため2b期以降
SK	6713	5a	XII-2	I	M24	41	円形	—	—	—	—	褐色	10YR4/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	SB6701を切るため2b期以降	
SK	6714	5a	XII-2	I	M24, 25	41	(楕円形)	A	1.8	—	0.32	褐色	10YR4/4	1層(粘性弱)	—	—	—	—	—	
SK	6715	5a	XII-2	I	M14	49	円形	B	0.29	0.25	0.11	—	—	1層(—)	—	—	—	—	—	
SK	6716	5a	XII-2	I	M14	49	楕円形	B	0.22	0.16	0.12	—	—	1層(—)	—	—	—	—	—	
SK	6719	5a	XII-2	I	M10	125	円形	C	0.5	0.44	0.58	—	—	1層(炭化物あり)	—	—	—	—	—	
SK	6720	5a	XII-2	I	M15, N1 1	125	不整形	A	2.08	1.48	0.25	暗褐色へに よ い 黄褐色	10YR3/3~4/3	3層(粘性ややあり・ 炭化物)	3b~3c期	1210(17) 4210	15・2 19	350	—	—
SK	6721	5a	XII-2	I	M23	125	円形	C	0.62	0.6	0.58	—	—	1層(—)	—	—	—	—	—	
SK	6722	5a	XII-2	I	M24	125	円形	B	0.54	0.42	0.32	—	—	1層(—)	—	—	—	—	—	
SK	6723	5a	XII-2	I	M24	41	不整形	A	1.62	1.46	0.26	褐色へに よ い 黄褐色	10YR4/4~7/2	3層(粘性あり・しま り良・炭片)	—	—	—	—	—	SB6701, ST6723に切られる ため2b期以前
SK	7503	6a	XII-2	I	H20	53	楕円形	B	0.28	0.22	0.14	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7504	6a	XII-2	I	H20	53	円形	B	0.27	0.24	0.27	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7505	6a	XII-2	I	H20	53	円形	B	0.22	0.2	0.28	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7507	6a	XII-2	I	H20	50	楕円形	B	0.22	0.22	0.22	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7508	6a	XII-2	I	H20	50	円形	B	0.27	0.22	0.31	褐灰色	10YR4/1~5/1	2層(粘性弱・鉄分多)	—	—	1・0 0	—	—	
SK	7515	6a	XII-2	I	H24	53	円形	C	0.22	0.2	0.16	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7517	6a	XII-2	I	H24	53	円形	B	0.22	0.18	0.21	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7521	6a	XII-2	I	H24	53	円形	B	0.23	0.21	0.18	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7522	6a	XII-2	I	H24	53	楕円形	C	0.28	0.26	0.18	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7524	6a	XII-2	I	H24	53	楕円形	C	0.52	0.36	0.3	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7537	6a	XII-2	I	H25	53	円形	E	0.26	0.22	0.38	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7545	6a	XII-2	I	H25	53	楕円形	C	0.8	0.68	0.22	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7547	6a	XII-2	I	H25	53	円形	B	0.22	0.2	0.27	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7549	6a	XII-2	I	H25	53	円形	C	0.34	0.34	0.17	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7552	6a	XII-2	I	H25	53	楕円形	B	0.54	0.34	0.18	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多 ・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	7553	6a	XII-2	I	M4	53	円形	E	0.25	0.21	0.2	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7555	6a	XII-2	I	M4	53	楕円形	B	0.22	0.09	0.06	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7557	6a	XII-2	I	M4	53	円形	A	0.24	0.22	0.05	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7558	6a	XII-2	I	M9	53	円形	B	0.28	0.24	0.08	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7560	6a	XII-2	I	M5	53	不整形	A	0.46	0.1	0.5	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7572	6a	XII-2	I	N1	53	円形	B	0.24	0.22	0.08	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多 ・炭化物)	—	—	0(0) 10	—	—	
SK	7573	6a	XII-2	I	N1	53	円形	C	0.38	0.36	0.2	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7574	6a	XII-2	I	N1	53	円形	A	0.28	0.28	0.05	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7575	6a	XII-2	I	N1	53	不整形	B	0.34	0.2	0.1	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7577	6a	XII-2	I	N1	53	楕円形	B	0.3	0.2	0.16	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7579	6a	XII-2	I	N1	53	不整形	B	0.38	0.2	0.14	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7584	6a	XII-2	I	N1	53	円形	B	0.21	0.2	0.44	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7586	6a	XII-2	I	N1	53	円形	B	0.4	0.36	0.4	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多 ・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	7587	6a	XII-2	I	N1	53	円形	B	0.26	0.24	0.18	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多 ・炭化物)	(3a~3c期)	35(1) 45	1・0 0	—	—	
SK	7589	6a	XII-2	I	N1	125	円形	C	0.22	0.2	0.2	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多 ・炭化物)	(2b~3c期)	80(2) 140	—	—	—	
SK	7598	6a	XII-2	I	N6	37	円形	C	0.34	0.14	0.11	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7601	6a	XII-2	I	H25	53	円形	B	0.48	0.46	0.46	褐灰色	10YR4/1~5/1	2層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7602	6a	XII-2	I	H25	53	円形	B	0.24	0.22	0.24	褐灰色	10YR4/1~5/1	2層(粘性弱・鉄分多 ・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	7603	6a	XII-2	I	H25	50	円形	C	0.28	0.3	0.34	褐灰色	10YR4/1~5/1	2層(粘性弱・鉄分多 ・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	7604	6a	XII-2	I	H25	50	円形	B	0.3	0.3	0.26	褐灰色	10YR4/1~5/1	2層(粘性弱・鉄分多 ・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	7605	6a	XII-2	I	H25	50	楕円形	C	0.22	0.18	0.26	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7606	6a	XII-2	I	H25	50	円形	B	0.28	0.29	0.36	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7607	6a	XII-2	I	H25	50	楕円形	E	0.28	0.28	0.22	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多 ・炭化物)	—	—	—	—	—	
SK	7608	6a	XII-2	I	H25	50	円形	B	0.28	0.26	0.2	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	
SK	7609	6a	XII-2	I	H25	50	円形	B	0.28	0.26	0.4	褐灰色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—	

表32-(7) 屋代遺跡群XII-2層検出土坑(SK)一覽

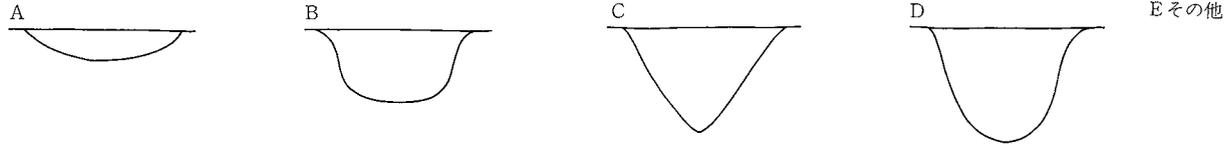
遺構 記号	遺構番 号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面 類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色焼記号	推積状況	土器重要○ は推測	土器量(g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SK	7610	6a	XII-2	I	H25	53	円形	C	0.24	0.24	0.3	褐色	10YR4/1~5/1	2層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7611	6a	XII-2	I	H25	50	円形	B	0.22	0.2	0.22	褐色	10YR4/1~5/1	2層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7612	6a	XII-2	I	I21	53	楕円形	D	0.44	0.36	0.12	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7614	6a	XII-3	I	H25	50	不整形	—	1.26	0.72	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	7615	6a	XII-3	I	H24	50	不整形	—	1.04	0.84	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	7616	6a	XII-3	I	H24	50	円形	—	0.28	0.26	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	7617	6a	XII-3	I	H25	50	不整形	B	0.24	0.24	0.23	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7621	6a	XII-3	I	M5	49	不整形	E	0.38	0.26	0.14	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・炭化物・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7622	6a	XII-3	I	N1	50	不整形	C	0.46	0.26	0.66	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7623	6a	XII-3	I	N1	50	不整形	A	0.86	0.08	0.08	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7626	6a	XII-3	I	N1	50	不整形	E	0.34	0.26	0.08	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7627	6a	XII-3	I	N1	50	楕円形	E	0.8	0.1	0.22	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7628	6a	XII-3	I	N1	50	不整形	B	0.39	0.22	0.06	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7629	6a	XII-3	I	N1	50	不整形	C	0.26	0.22	0.23	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・炭化物・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7639	6a	XII-3	I	N1	50	楕円形	B	0.36	0.16	0.16	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7641	6a	XII-3	I	N1	50	楕円形	A	0.56	0.34	0.08	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7642	6a	XII-3	I	N1	50	円形	C	0.34	0.26	0.12	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7644	6a	XII-3	I	N1	50	円形	C	0.48	0.44	0.18	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7645	6a	XII-3	I	N2	50	楕円形	E	0.3	0.26	0.18	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7646	6a	XII-3	I	N2	50	楕円形	B	0.28	0.22	0.24	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・炭化物・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7647	6a	XII-3	I	I21	50	不整形	C	0.4	0.38	0.26	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7650	6a	XII-3	I	I21	50	円形	E	0.24	0.22	0.09	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7651	6a	XII-3	I	I21	50	円形	B	0.34	0.34	0.24	暗緑灰色	10G4/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7654	6a	XII-3	I	N1	50	楕円形	G	0.22	0.1	0.1	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7657	6a	XII-3	I	N1	50	円形	B	0.21	0.14	0.18	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7658	6a	XII-3	I	N1	50	楕円形	E	0.3	0.26	0.26	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7659	6a	XII-3	I	N1	50	円形	B	0.28	0.24	0.12	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7662	6a	XII-3	I	H25	50	円形	B	0.24	0.22	0.19	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	7663	6a	XII-3	I	N1	50	円形	B	0.24	0.22	0.1	褐色	10YR4/1~5/1	1層(粘性弱・鉄分多)	—	—	—	—	—
SK	9001	6b	XII-2	I	J21	125	(楕円形)	—	—	0.76	—	暗褐色	10YR3/3	1層(炭化物多)	2b~3c期	0(0) 85	3・0 0	—	—
SK	9002	6b	XII-2	I	O1	—	—	—	—	—	0.1	暗褐色	10YR3/4	1層(炭化物)	(3a~3c期)	100(6) 910	1・0 2	—	平面図なし
SK	9003	6b	XII-2	I	N5	125	不整形	—	—	—	—	暗褐色~褐色	10YR3/4~4/6	3層(炭化物)	2b期	4360(50) 8680	36・4 49	351	—
SK	9004	6b	XII-2	I	J21	126	円形	A	1.52	1.3	0.17	暗褐色	10YR3/3~3/4	2層(炭化物)	3c期	1430(8) 2650	3・3 31	351	—
SK	9005	6b	XII-2	I	J21.01	48	不整形	—	—	—	—	暗褐色	10YR3/3	1層(炭化物)	2b~3c期	270(8) 2540	14・3 25	351	—
SK	9008	6b	XII-2	I	N4	48	不整形	A	0.66	0.22	0.08	にぶい黄褐色	10YR5/4	1層(炭化物)	—	—	0・0 8	—	—
SK	9009	6b	XII-2	I	N5	48	円形	D	0.28	0.26	0.06	褐色	10YR4/4	1層(炭化物)	—	—	1・0 0	—	—
SK	9010	6b	XII-2	I	I24	48	不整形	—	—	—	—	褐色	10YR4/4	1層(炭化物)	(2b~3c期)	365(6) 1755	4・0 14	—	—
SK	9011	6b	XII-2	I	N4	47	円形	C	0.28	0.28	0.28	褐色	10YR4/4	1層(炭化物)	(3a~3c期)	0(0) 160	1・0 4	—	—
SK	9012	6b	XII-2	I	N4	48	円形	B	0.22	0.22	0.08	暗褐色	10YR3/4	1層(炭化物)	(2b期)	10(1) 30	1・0 0	—	—
SK	9013	6b	XII-2	I	I25	48	円形	C	0.24	0.24	0.16	暗褐色	10YR3/3	1層(炭化物)	(3a~3c期)	0(0) 145	—	—	—
SK	9014	6b	XII-2	I	I25	48	円形	B	0.22	0.18	0.06	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(炭化物)	—	—	0・0 1	—	—
SK	9015	6b	XII-2	I	I25	48	不整形	A	1.48	1.14	0.12	暗褐色	10YR3/3	1層(炭化物)	(3c期)	220(15) 3450	16・2 12	—	—
SK	9017	6b	XII-2	I	I25. J21	125	楕円形	A	2.42	1.46	0.06	褐色	10YR4/4	1層(炭化物)	3c期	2150(21) 4300	7・4 63	352	—
SK	9018	6b	XII-2	I	N5	48	不整形	—	—	—	—	褐色	10YR4/4	1層(炭化物)	(2期)	60(1) 305	0・0 4	—	—
SK	9019	6b	XII-2	I	N4	47	円形	A	0.3	0.3	0.04	褐色	10YR4/4	1層(炭化物)	(2b~3a期)	0(0) 50	—	—	—
SK	9021	6b	XII-2	I	N4	48	円形	B	0.38	0.36	0.17	褐色	10YR4/4	1層(炭化物)	—	—	10(1) 30	1・0 0	—
SK	9022	6b	XII-2	I	I25	125	楕円形	E	0.72	0.56	0.1	暗褐色	10YR3/3	1層(炭化物)	2b~3a期	190(6) 380	4・5 5	351	—
SK	9023	6b	XII-2	I	N5	48	不整形	D	0.94	0.68	0.09	にぶい黄褐色	10YR5/4	1層(炭化物)	中期後葉	80(1) 240	1・0 0	—	—
SK	9026	6b	XII-2	I	N4	47	不整形	B	0.98	0.8	0.17	暗褐色	10YR3/4	1層(炭化物)	(2b~3c期)	0(0) 85	1・0 0	—	—
SK	9027	6b	XII-2	I	N4	48	円形	B	0.38	0.32	0.14	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(炭化物)	—	—	—	—	—
SK	9028	6b	XII-2	I	N4	48	楕円形	A	0.4	0.28	0.1	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(炭化物)	(3a~3c期)	0(0) 50	—	—	—
SK	9029	6b	XII-2	I	N4	47	楕円形	B	0.4	0.28	0.1	暗褐色	10YR3/4	1層(炭化物)	(3a~3c期)	0(0) 10	—	—	—
SK	9030	6b	XII-2	I	I24	125	(不整形)	—	—	—	—	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(炭化物)	2b~3a期	440(8) 1260	2・0 13	351	—
SK	9031	6b	XII-2	I	I25	48	(円形)	—	—	—	—	—	—	—	—	70(2) 430	1・0 8	—	—
SK	9032	6b	XII-2	I	N5	48	不整形	A	1.32	1.2	0.13	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(炭化物)	(3a~3b期)	355(8) 890	3・0 0	—	SD9004に切られるため3a~3c期以前。SD9009に切られるため2b~3c期以前
SK	9033	6b	XII-2	I	N5	48	(不整形)	—	—	—	—	—	—	—	—	0(0) 165	—	—	SD9004に切られるため3a~3c期以前
SK	9034	6b	XII-2	I	I20	125	楕円形	B	1.04	0.76	0.22	—	—	1層(-)	(2b~3c期)	20(2) 150	0・0 2	—	—
SK	9035	6b	XII-2	I	J21	126	(不整形)	—	—	1.1	—	黒褐色	2.5Y3/2	2層(1層炭化物多・2層機土層)	(2b期)	90(4) 360	3・0 3	—	SK9004に切られるため3c期以前
SK	9036	6b	XII-2	I	J21	48	楕円形	B	0.38	0.22	0.2	黒褐色	2.5Y3/2	1層(細粒子)	—	—	—	—	—
SK	9037	6b	XII-2	I	J21	48	楕円形	A	0.57	0.36	0.06	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—

表32-(8) 屋代遺跡群XII-2層検出土坑（SK）一覧

遺構 記号	遺構 番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面 形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要 (は推測)	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SK	9038	6b	XII-2 下	I	J21	126	楕円形	A	1.44	1.06	0.22	黒褐色～ オリーブ褐色	2.5Y3/1～4/3	2層(1層炭化物少、2層炭化物・焼土多)	(2b～3b期)	910(9) 1660	2・1 6	—	—
SK	9039	6b	XII-2 下	I	J21	48	不整形	A	0.6	0.38	0.04	オリーブ褐色	5Y3/2	1層(炭化物)	2b～3a期	890(4) 1000	1・0 0	351	—
SK	9040	6b	XII-2 下	I	J21	48	円形	B	0.16	0.18	0.13	黒褐色	2.5Y3/1	1層(炭化物)	中期後葉	0(0) 45	—	—	—
SK	9041	6b	XII-2 下	I	I24, 25	48	(不整形)	—	—	—	—	—	—	(2b～3c期)	0(0) 15	0・0 1	—	—	
SK	9042	6b	XII-2 下	I	I25	48	楕円形	A	0.26	0.2	0.08	暗褐色	10YR3/4	1層(炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	9043	6b	XII-2 下	I	I25	48	円形	—	0.26	0.23	—	—	—	—	(3a～3c期)	185(3) 270	1・0 1	—	—
SK	9045	6b	XII-2 下	I	J16	126	不整形	B	0.4	0.34	0.32	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性のある砂質土)	2b期以前	1670(1) 1780	0・0 2	352	—
SK	9046	6b	XII-2 下	I	I24	48	楕円形	—	0.28	0.24	—	—	—	—	(2b～3c期)	0(0) 105	—	—	—
SK	9047	6b	XII-2 下	I	N4	47	円形	B	0.4	0.34	0.13	褐色	10YR3/4	1層(炭化物)	(2b～3c期)	0(0) 80	—	—	—
SK	9048	6b	XII-2 下	I	N4	47	不整形	B	0.42	0.38	0.12	暗褐色	10YR3/4	1層(炭化物少)	(2b期)	0(0) 50	1・0 0	—	—
SK	9049	6b	XII-2 下	I	N4	48	不整形	E	0.32	0.16	0.2	黒褐色～褐色	10YR3/2～4/4	3層(炭化物)	—	—	—	—	—
SK	9053	6b	XII-2 下	I	N5	47	円形	B	0.22	0.2	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	9054	6b	XII-2 下	I	N10	47	楕円形	F	0.3	0.22	0.14	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	9055	6b	XII-2 下	I	N10	47	楕円形	B	0.28	0.2	0.08	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	9056	6b	XII-2 下	I	O1.5	126	不整形	—	—	—	—	—	—	—	(3a～3c期)	130(2) 450	0・0 6	—	—
SK	9057	6b	XII-2 下	I	O1	126	不整形	—	—	—	—	—	—	—	(2b～3c期)	9(0) 150	—	—	—
SK	9058	6b	XII-2 下	I	N9	126	(不整形)	G	—	2.24	0.58	黒褐色～暗褐色	2.5Y3/2～10YR3/4	3層(炭化物、3層粘質で細粒子)	3c～4期	3190(55) 17960	19・1 35	352	SK9004を切るため3c期以降
SK	9059	6b	XII-2 下	I	J21	48	楕円形	—	0.22	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	SK9004の下により3c以前
SK	9060	6b	XII-2 下	I	J21	48	不整形	A	1.04	0.64	0.08	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	1層(微小炭化物少)	(2b期)	0(0) 850	0・0 2	—	—
SK	9062	6b	XII-2 下	I	N5	49	円形	C	0.28	0.28	0.24	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	1層(炭化物多)	—	—	—	—	SK9003の下により2b以前
SK	9063	6b	XII-2 上	I	N8	47	不整形	A	0.66	0.38	0.12	暗褐色	10YR3/4	1層(微小炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	9064	6b	XII-2 上	I	N8	126	円形	C	0.32	0.32	0.3	暗褐色～褐色	10YR3/3～4/4	3層(3層炭化物多)	(2b～3c期)	50(2) 150	0・1 11	—	—
SK	9065	6b	XII-2 下	I	N9	126	楕円形	B	0.84	0.64	0.32	黒褐色～褐色	10YR2/3～4/4	2層(1層微小炭化物多)	2b～3c期	250(2) 760	2・0 1	352	SK9002・9003に切られるため2b期以前
SK	9066	6b	XII-2 上	I	N13	126	(不整形)	—	1.66	—	—	黒褐色～にぶい黄褐色	10YR3/2～4/3	2層(1層土器・炭化物多)	3c期	1385(18) 6960	0・3 3	352	—
SK	9067	6b	XII-2 下	I	N8	126	楕円形	A	0.78	0.54	0.1	暗褐色	7.5YR3/3	1層(炭化物、焼土70%多)	3b～3c期	390(4) 460	1・2 7	352	SK9007を切るため3c期以降
SK	9068	6b	XII-2 下	I	N8	126	円形	E	1.24	1.04	0.2	暗褐色	7.5YR3/3	1層(小指頭炭化物多)	2b～3b期	590(16) 2380	0・1 6	352	—
SK	9069	6b	XII-2 下	I	N7	127	円形	A	0.96	0.86	0.13	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	1層(炭化物少)	2b～3a期	500(5) 1305	0・0 7	353	—
SK	9070	6b	XII-2 下	I	N7	126	楕円形	A	2.28	1.76	0.24	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	1層(砂質・炭化物)	2b期	5520(34) 6370	14・5 27	353	3は、曾利III～IVの特徴を持つ
SK	9071	6b	XII-2 下	I	N7	127	不整形	A	4.24	2.92	0.46	灰黄褐色～褐色	10YR4/2～4/4	3層(2層炭化物多)	2b～3a期	18510(150) 41080	30・4 69	353	2b～3a期の良好な一括土器を含む
SK	9072	6b	XII-2 下	I	N8	47	不整形	B	1.28	0.32	0.14	黒褐色～褐灰色	10YR3/1～4/1	2層(炭化物)	(2b～3c期)	60(2) 60	—	—	—
SK	9073	6b	XII-2 下	I	N8	48	楕円形	C	0.9	0.74	0.16	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	1層(炭化物・粘質土)	—	120(4) 400	—	354	—
SK	9074	6b	XII-2 下	I	N7	49	楕円形	B	1.32	0.5	0.12	黒褐色	10YR3/2	1層(炭化物)	中期後葉	50(1) 170	—	—	SK9091を切るにより2b～3c期以降
SK	9075	6b	XII-2 下	I	N6	49	楕円形	B	0.48	0.36	0.09	黒褐色	10YR3/2	1層(粘性強・炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	9076	6b	XII-2 下	I	N7	127	不整形	B	1.28	0.66	0.17	褐色	7.5YR4/4～10YR4/4	3層(1層炭化物多、3層焼土)	(3c期)	110(3) 740	2・0 1	—	—
SK	9077	6b	XII-2 下	I	N7	49	円形	A	0.58	0.5	0.06	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	1層(粘質土・炭化物)	—	—	—	—	SK9091を切るにより2b～3c期以降
SK	9078	6b	XII-2 下	I	N13	46	楕円形	B	0.62	0.44	0.2	黒褐色	2.5Y3/2	1層(炭化物多・粘質土)	(3c期)	0(0) 220	—	—	—
SK	9079	6b	XII-2 上	I	N13	37	(不整形)	—	—	—	—	—	1層(—)	(3c期)	60(2) 300	0・1 1	—	—	
SK	9080	6b	XII-2 下	I	N12	127	(不整形)	C	—	0.44	—	—	—	1層(炭化物)	(3c期)	240(2) 990	0・0 2	—	—
SK	9081	6b	XII-2 下	I	N6	49	円形	B	0.68	0.66	0.2	黄褐色～にぶい黄色	2.5YR5/4～6/4	2層(炭化物)	—	—	—	—	—
SK	9082	6b	XII-2 下	I	N3	48	(不整形)	—	—	1.44	—	暗褐色	10YR3/3	1層(炭化物)	(3a～3c期)	10(1) 60	2・0 0	—	—
SK	9083	6b	XII-2 下	I	N6	127	不整形	B	1.26	0.86	0.36	黄褐色～にぶい黄色	2.5YR5/4～6/4	2層(炭片混)	(2b～3c期)	0(0) 90	—	—	—
SK	9084	6b	XII-2 下	I	N6	49	楕円形	C	0.55	0.36	0.18	黄褐色	2.5Y5/4	1層(炭片混)	—	40(1) 160	—	—	—
SK	9085	6b	XII-2 下	I	N2	50	不整形	G	1.74	1.3	—	黄褐色	2.5Y5/3	(炭片混)	(2b期)	130(2) 180	1・0 1	—	—
SK	9086	6b	XII-2 下	I	N8	47	不整形	G	1.4	1.22	0.14	オリーブ灰色	10Y5/2	1層(炭片混)	(2b～3c期)	30(1) 200	0・0 3	—	—
SK	9087	6b	XII-2 下	I	N9	47	不整形	—	1.74	—	—	オリーブ灰色～黄褐色	10Y5/2～10YR5/6	1層(炭片混)	—	—	—	—	—
SK	9088	6b	XII-2 下	I	N2.3	48	不整形	D	1.5	1.44	—	黄褐色	2.5Y5/3	(炭片混)	—	—	—	—	—
SK	9089	6b	XII-2 下	I	N9	47	不整形	D	1.14	0.74	—	オリーブ灰色～黄褐色	10Y5/2～10YR5/6	1層(炭片混)	(2b～3c期)	0(0) 20	2・0 0	—	—
SK	9090	6b	XII-2 下	I	N9	47	楕円形	—	1.02	—	—	—	—	—(粘土質)	—	—	—	SK9058の下により3c～4期以前	
SK	9091	6b	XII-2 下	I	N7	127	不整形	D	4.34	1.4	—	—	—	—(粘土質・遺物多)	2b～3c期	200(8) 1990	1・1 3	354	—

表33 屋代遺跡群XII-2層検出溝跡(SD)一覽

断面分類記号



遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	全長(m)	幅(m)	深さ(m)	色調	土色係記号	堆積状況	土器概要	土器量	石器量	遺物	備考
SD	5102a	5b	XII-2下	I	N10	128	直線的	C	2.9	0.92	0.35	暗褐色	10YR3/4	1層(砂質土、φ2~3mm炭、ロケット、焼土)	3c期主体	13490(28) 26710	4・1 7	355	大破片多。土器摩耗なし、5点、γ多
SD	5102b	5b	XII-2下	I	N10	128	直線的	B	2.95	1.05	0.22	暗褐色	10YR3/4	1層(砂質土、φ2~3mm炭、ロケット、焼土)	3c期主体	—	—	356	—
SD	5103	5b	XII-2下	I	N10	128	中央よりやや緩やかに湾曲	C	9.06	3.5	0.37	暗褐色	10YR3/4	1層(砂質土、φ2~3mm炭、ロケット、焼土)	3c~4期	1165(17) 6100	13・3 25	357	β、γと曽利的な円形刺突文(?)ほか
SD	5105	5b	XII-2下	I	S9.1 3.14	128	緩やかに湾曲	A	4.2	1.52	0.3	褐色	10YR4/4	2層(φ1~2mmの炭化物物少)	1層:3c期 2層:3b~3c期	480(7) 1760	3・0 3	357	被熱土器あり
SD	5108	5b	XII-2下	I	N13	46	直線的	B	0.9	0.4	0.17	—	—	—	—	—	—	357	SB5348に切られるため4期以前
SD	5109	5b	XII-2下	I	S18	44	直線的	B	1.5	0.15	0.12	—	—	—	—	—	—	357	—
SD	9001	6b	XII-2下	I	N4	48	直線的	A	1.4	0.5	0.06	暗褐色	10YR3/3	1層(炭化物、焼土)	3a~3c期	0(0) 140	1・2 5	357	—
SD	9002	5b	XII-2下	I	N5	48	蛇行	A	1.1	0.38	0.05	暗褐色	10YR3/3	1層(炭化物、焼土)	2b~3c期	0(0) 360	0・0 1	357	—
SD	9003	5b	XII-2下	I	N5	48	緩やかに湾曲	B	1.28	0.28	0.06	暗褐色	10YR3/4	1層(炭化物、焼土)	3a~3c期	0(0) 30	—	357	—
SD	9004	5b	XII-2下	I	N5	48	蛇行	A	1.6	0.25	0.03	褐色	10YR4/4	1層(炭化物、焼土)	3a~3c期	15(1) 130	4・1 2	357	—
SD	9005	6b	XII-2下	I	N4	46	直線的	A	1.3	0.26	0.1	暗褐色	10YR3/4	1層(炭化物、焼土)	3a~3c期	0(0) 20	—	357	—
SD	9006	6b	XII-2下	I	124 125	128	1字型	B	1.73	0.39	0.11	暗褐色	10YR3/3	1層(炭化物)	3b~3c期	150(4) 480	7・0 0	357	—
SD	9007	5b	XII-2下	I	N5	48	直線的	B	2.03	0.4	0.12	—	—	—	—	—	—	358	—
SD	9008	5b	XII-2下	I	N5	48	直線的	D	0.75	0.25	0.11	—	—	—	—	—	—	—	—
SD	9009	5b	XII-2下	I	N5	46	直線的	B	3.5	0.57	0.12	褐色土	10YR4/4	1層(炭化物)	2b~3b期	25(3) 450	2・0 5	358	—
SD	9010	5b	XII-2下	I	N5	47	直線的	A	1.45	0.26	0.01	—	—	—	—	—	—	—	—

表34-(1) 屋代遺跡群XII-2層検出焼土跡(SF)一覽

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	SF種類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積状況	土器概要	土器量	石器量	遺物	備考	
SF	203	2b	(XII-2)もしくはXI	VI	J24	34	不整形	焼土a	0.46	(0.25)	0.25	1層(焼土粒多、炭化物少)	—	—	—	—	XII-2層かXII-1か不明	
SF	4808	4g	XII-2上	I	X1	129	円形	焼土a	1.37	1.2	0.27	3層(1層炭、焼土、2層焼土、炭化物少、3層炭)	(2a~3c期)	0(0) 50	—	—	—	
SF	4809	4g	XII-2下	I	X2	129	長方形	掘込み火床もしくは焼土a	0.87	0.64	0.06	2層(炭化物)	—	—	—	—	SQ4802が伴うか	
SF	4810	4g	XII-2下	I	X2	43	円形	焼土b	0.4	0.4	0.05	1層(焼土)	—	—	—	—	—	
SF	4811	4g	XII-2下	I	X2	129	不整形	焼土a	0.85	0.7	0.08	2層(炭化物、焼土)	(3a~3c期)	0(0) 70	—	—	—	
SF	4812	4g	XII-2下	I	X1	129	楕円形	焼土a	1.51	1.25	0.25	5層(1層焼土、2層炭、3・5・6層焼土、炭化物、4層焼土・炭化物なし)	(3a~3c期)	0(0) 63	—	—	—	
SF	5103	5b	XII-2上	I	S9	130	不整形	焼土a	1.26	1.2	0.18	2層(炭・焼土・炭化物)	3a~3c期	115(5) 170	—	358	SQ5507を囲むため3c期か	
SF	5104	5b	XII-2上	I	S9	130	楕円形	焼土a	1.25	0.95	0.17	2層(1層炭・焼土、2層炭・焼土・骨片)	3a~3c期	50(3) 360	—	358	SQ5507を囲むため3c期か	
SF	5105	5b	XII-2上	I	S9	130	楕円形	焼土a	0.85	0.46	0.18	3層(1・3層炭・焼土、2層炭)	3a~3c期	5(1) 170	—	358	SQ5507を囲むため3c期か	
SF	5106	5b	XII-2上	I	S9	130	不整形長方形	焼土a	1.43	0.85	0.17	3層(1層焼土、2層炭・焼土・骨片、3層炭・骨片)	3a~3c期	120(2) 500	26・0 13	358	SQ5507を囲むため3c期か	
SF	5107	5b	XII-2上	I	S9	130	隅丸方形	平面火床	1.03	0.62	0.17	2層(1層火床、2層炭・焼土)	3a~3c期	30(1) 130	2・0 3	358	SQ5507を囲むため3c期か	
SF	5108	5b	XII-2下	I	S9.14	129	不整形長方形	焼土a	4	1.95	0.12	3層(1層焼土、2層炭・焼土・3層炭)	3a~3b期	100(3) 420	10・2 19	358	SD5105直上で検出されたため3b期以降	
SF	5109	5b	XII-2上	I	S12	129	楕円形	平面火床	1.16	0.32	0.05	3層(1層火床、2層火床直下の被熱部分、3層炭化物)	2b~3b期	60(1) 260	—	358	—	
SF	5110	5b	XII-2上	I	S9	130	隅丸方形	平面火床	0.65	0.53	0.2	4層(1層火床、3・4層炭・焼土少)	3b~3c期	100(3) 420	0・1 5	358	SQ5507を囲むため3c期か	
SF	5111a	5b	XII-2上	I	S2	129	方形	平面火床	0.9	0.48	0.05	7層(1層火床、2・3・4層焼土、5・7層焼土・炭、6層焼土・炭多)	3c期	265(8) 1900	2・0 11	358	—	
SF	5111b	5b	XII-2上	I	S2	129	円形	焼土a	1.1	0.75	0.12	7層(1層火床、2・3・4層焼土、5・7層焼土・炭、6層焼土・炭多)	3c期	—	Aに含む	Aに含む	—	
SF	5112	5b	XII-1-2	I	S2.7	45	不整形楕円形	掘込み火床	1.58	0.8	0.24	4層(1層暗褐色土、2~4層焼土・炭多、4層骨片)	3b~3c期	180(4) 690	2・0 12	359	SF5172と同時期で検出され、SF5172の上に乗る。SK5742・5746の上で検出された事より3c期以降	
SF	5113	5b	XII-2上	I	S3	129	楕円形	平面火床	0.46	0.3	0.1	2層(1層火床、2層炭・焼土少)	—	—	—	—	—	
SF	5114	5b	XII-2上	I	S9	130	円形	平面火床	0.73	0.63	0.12	5層(1層火床、2層火床直下の被熱部分、3・4層炭・焼土多、5層焼土・炭少)	3a~3c期	90(2) 240	5・0 10	359	SQ5507を囲むため3c期か	
SF	5115	5b	XII-2上	I	S2	55	楕円形	焼土b	1	0.38	0.05	1層(焼土アロツのみ)	—	—	—	—	添込み見られず、遺構とは認定し難い	
SF	5116	5b	XII-2上	I	S9	130	不整形	焼土a	0.54	0.48	0.18	3層(1層焼土、2・3層焼土・炭)	(3a~3c期)	0(0) 30	—	—	359	SQ5507を囲むため3c期か
SF	5117	5b	XII-2上	I	S9	55	楕円形	平面火床	0.35	0.24	0.1	1層(火床・炭・骨片)	3b~3c期	150(4) 1070	0・0 1	359	—	
SF	5118	5b	XII-2-1	I	S7	44	楕円形	焼土b	0.86	0.42	0.02	1層(焼土・炭)	(3a~3c期)	30(1) 490	0・1 1	—	SB5313およびSF57512ピット上で検出されたため3a期以降	
SF	5119	5b	XII-2-1	I	N10	131	不整形楕円形	焼土a	1.6	1.03	0.3	4層(1層焼土、2層焼土少、3層炭アロツ、4層φ1mm炭アロツ多)	3c期	1420(16) 7030	4・0 19	359	SD5102の上で更にSQ5541が上に乗ることより3c期、βが異常に多い	
SF	5120	5b	XII-2-1	I	N10	47	不整形	平面火床	2.94	1.65	0.1	4層(1層焼土アロツアロツ、2層炭30%、3層焼土、4層粘砂質土)	—	—	—	—	SQ5531・5532・5534a・5537に伴うため3c~4期	
SF	5121	5b	XII-2下	I	N10	47	不整形	平面火床	(1.22)	1.02	—	1層(焼土炭)	—	—	—	—	木SFを囲むようにSQ5555、SD5102・5103が延びることから可能性が高いか	
SF	5122	5b	XII-2-1	I	S8	44	隅丸方形	焼土a	0.6	0.55	0.1	2層(1層焼土、2・3層焼土・炭化物少)	2b~3c期	20(1) 80	0・0 1	359	JK5608と検出レベルが近似	
SF	5123	5b	XII-2下	I	S17.2 3	43	不整形楕円形	焼土a	1.03	0.68	0.05	1層(焼けた土を砕いて投棄)	—	—	—	—	—	

表35-(1) 屋代遺跡群XII-2層検出遺物集中(屋外埋壘・一括土器)(SQ)一覽

遺構記号	遺構番号	旧遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	長軸(m)	短軸(m)	標高(m) (口縁) (埋設面)	土器概要	土器総量(g)	内被熱土器(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SQ	4451	SQ4451	4c	XII-2下	I	X6.7	42	2.25	1.52	351.65	—	0	0	0・2 0	—	石・石器と骨片の小集中
SQ	4452	SQ4452	4c	XII-2下	I	X7.8	42	2.92	2.48	351.59	3a~3c期	1030	0	1・1 16	—	土器片・石・石器の低密度集中
SQ	4453	SQ4453	4c	XII-2下	I	X6	134	4.32	3.7	351.62	3c~4期	3230	0	0・0 8	360	土器片・石器片低密度集中
SQ	4454	SQ4454	4c	XII-2下	I	X6.7 11.12	42	5.24	5.05	351.53	3c期	4780	0	1・2 24	—	土器片及び、石・石器が低密度に広く集中
SQ	4455	SQ4455	4c	XII-2下	I	X16	42	3.2	1.55	351.31	—	460	—	—	—	—
SQ	4701	4f埋壘1	4f	XII-2	I	R22	134	0.32	0.3	(352.83) (352.78)	4期	705	—	—	360	4f区屋外埋壘、?d、4期β
SQ	4702	4f埋壘2	4f	XII-2	I	R22	134	0.27	0.23	(352.74) (362.64)	3b期	—	—	—	360	4f区屋外埋壘、?d、3b期α
SQ	4801	SQ4801	4g	XII-2上	I	S22	54	7.7	6.17	351.85	3c~4期	33150	—	45・13 140	—	XII-1層直下で、土器、石器(剣片石器・礫石器)が大量に出土、土器は何れも細片。3c~4期
SQ	4802	SQ4802	4g	XII-2下	I	X2	43	3.07	2.65	351.73	3c期	480	—	1・0 4	—	SF4809周辺に広がる低密度集中
SQ	4803a	4g埋壘 1A	4g	XII-2下	I	S21	134	0.3	0.25	(351.82) (351.76)	2a期	2360	—	—	360	4g区屋外埋壘、正d、2a期ε
SQ	4803b	4g埋壘 1B	4g	XII-2下	I	S21	134	0.18	0.15	351.72	2a期	1060	—	—	360	4g区屋外埋壘、正d、XII-2・XII-3層層面に埋設
SQ	4804	4g埋壘 No.2	4g	XII-2上	I	S22	134	0.35	0.25	(351.87) (351.82)	4期	3770	—	—	360	4g区屋外埋壘、正斜d、4期β周辺に、2a期ε。SQ4801、XII-1層直下に口縁部が位置する
SQ	5501b	S13一括No.1	5b	XII-2-1	I	S13	44	2.68	0.45	351.71	3a~3c期	5800	5400	—	—	SB5312埋土最上層で検出。十数個体の土器片・石器・石が帯状に集中
SQ	5501c	S8一括 No.1	5b	XII-2-1	I	S8	44	2.85	1.2	351.73	3a~4期	9910	7800	—	360、 361	細片が低密度で集中。SQ5503aにつながる
SQ	5501d	S5一括 No.1	5b	XII-2-1	I	S5	45	0.5	0.35	351.73	3a~3c期	1570	130	—	—	土器片3点の小集中
SQ	5502a	S13一括No.2	5b	XII-2-1	I	S13	44	1	0.4	351.64	4期	1120	150	—	361	数個体の土器片の小集中、4期のβを含む
SQ	5502b	S13土器集中 No.2	5b	XII-2-1	I	S13	44	0.95	0.35	351.72	3a~3c期	760	130	—	—	SQ5501bにつながる
SQ	5502d	S5一括No.2	5b	XII-2下	I	S5	45	0.3	0.15	351.64	2b~3a期	515	0	—	361	2b~3a期のδを含む
SQ	5503a	S13一括No.3	5b	XII-2-1	I	S13	44	(0.8)	(0.35)	351.69	3a~4期	400	400	—	—	細片が低密度で集中し、SQ5501cにつながる
SQ	5503c	S5一括 No.3	5b	XII-2下	I	S5	45	0.57	0.3	351.73	3a~3c期	545	145	—	—	土器片数点の小集中
SQ	5506a	S11土器集中 No.6	5b	XII-2上	I	S11	135	0.78	0.55	351.79	3c期	1990	95	—	361	数個体の土器片の小集中
SQ	5507a	S9埋壘 (一括No.7)	5b	XII-2上	I	S9	140	0.4	0.38	(351.86) (—)	3c期	4360	0	—	361	屋外埋壘、8基のSFにとり囲まれる形で埋設。正a、3c期β
SQ	5508b	S11土器集中 No.8	5b	XII-2上	I	S11	135	0.84	0.4	351.77	2b~3c期	1160	205	—	361、 362	数個体の土器片と石・石器の小集中。3b~3c期αほか
SQ	5514	S11土器集中 No.14	5b	XII-2上	I	S11	54	0.85	0.42	351.75	3a~3c期	1330	145	—	—	数個体の土器と石・石器の小集中
SQ	5515	S11土器集中 No.15	5b	XII-2上	I	S11	54	1.15	0.65	351.76	2b期	1760	315	—	—	十数個体の土器細片の集中
SQ	5529	S12土器集中 No.29	5b	XII-2上	I	S12	135	0.34	0.32	(351.95) (351.7)	3c~4期	5740	—	—	362	屋外埋壘、倒d、4期ε。切断部分を研磨。ST5102内、SX5509を切るためSTとは別遺構としたが、もし付属するとすれば、北側の棟柱と主柱穴の中間に入る
SQ	5530	S7.8一括 No.30	5b	XII-2上	I	S7.8	55	1.4	0.75	351.79	3a~3c期	4250	0	—	—	35点を点取り
SQ	5531	N10一括埋壘 No.31	5b	XII-2上 ~1	I	N10	136	0.92	0.78	(351.90) (351.81)	3c~4期	880	0	0・1 0	363	屋外埋壘、倒斜d、3c~4期γ
SQ	5532	N10一括埋壘 No.32	5b	XII-2上 ~1	I	N10	136	1.18	0.65	(351.98) (351.83)	3c~4期	400	0	1・0 1	363	屋外埋壘、正c、3c~4期β
SQ	5534a	N10一括埋壘 No.34	5b	XII-2上 ~1	I	N10	136	1.68	(1.1)	(351.98) (351.83)	3c~4期	2000	0	2・0 0	363	屋外埋壘、倒d、3c~4期α。内部にSQ5534b
SQ	5534b	N10一括 No.34	5b	XII-2上 ~1	I	N10	136	—	—	—	—	—	—	362	—	
SQ	5535	06.N10一括 No.35	5b	XII-2-1	I	06.N10	135	0.92	0.45	(351.91) (351.87)	4期	3430	10	—	362	屋外埋壘、倒e、4期ε
SQ	5537	N10一括 No.37	5b	XII-2-1	I	N10	136	3.0	3.0	351.84	4期	57390	2765	16・9 4	362、 363、 364、 365、 366	一括33・34b・36を含む。潰れた状態の物を含む多量の土器片を廃棄。206点を点取り。4期のα・β・γ他
SQ	5541	06.N10 SQ41	5b	XII-2-1	I	06.N10	137	3.95	3.43	351.71	3c期	17190	0	6・1 5	365、 366	3c期のα・β・γを中心に細片が広く集中する。134点を点取り。一部SF5119aの上に乗る
SQ	5542	N23土器集中 No.42	5b	XII-2-1 ~上	I	N23	135	1.1	0.42	351.97	3c~4期	4800	320	—	367	胴部下半以下が欠損した1とほぼ完形の2が並び、横転して出土。S75110と関連する可能性あり。4期βほか
SQ	5544	N23埋壘 (一括No.44)	5b	XII-2-1 ~上	I	N23	135	0.18	0.18	(351.95) (—)	中期後葉	710	0	—	367	屋外埋壘、正c、時期不明。SQ5545と近接、周辺にSQ5546
SQ	5545	N23埋壘 (一括No.45)	5b	XII-2-1 ~上	I	N23	135	0.14	0.13	(351.93) (—)	3c~4期	350	40	—	367	屋外埋壘、正c、3c~4期か。SQ5544と近接、周辺にSQ5546
SQ	5546	N23一括 No.46	5b	XII-2-1 ~上	I	N23	135	0.87	0.6	351.86	3c~4期	1900	320	—	367	SQ5544・5545と近接。3c~4期ε
SQ	5547	N23一括 No.47	5b	XII-2-1 ~上	I	N23	135	0.63	0.52	(351.97) (351.91)	4期	1400	1380	—	367	屋外埋壘、埋設方法不明、4期か

表35-(2) 屋代遺跡群XII-2層検出遺物集中（屋外埋壘・一括土器）（SQ）一覧

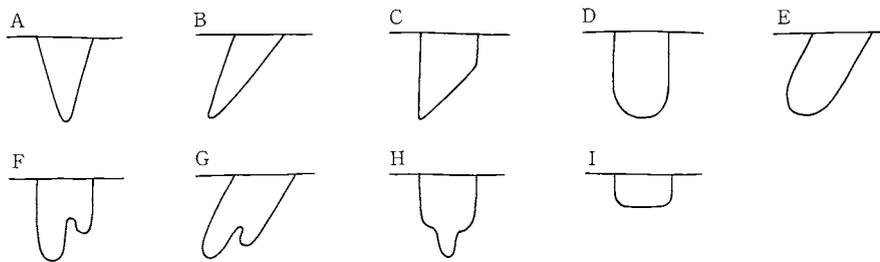
遺構記号	遺構番号	旧遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	長軸 (m)	短軸 (m)	標高 (m) (口縁) (埋設面)	土器概要	土器総量 (g)	内被熱土器 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SQ	5548	N23一括No. 48	5b	X II-2-1 上	I	N23	135	1.16	0.68	351.92	4期	1410	180	—	367	β・γほか、細片集中。4期
SQ	5549	N23一括No. 49	5b	X II-2-1 上	I	N23	135	2.02	1.1	351.91	4期	3470	420	—	368	β・γほか、潰れた状態で集中し、赤彩淺鉢(1)が含まれる。37点を点取り。4期
SQ	5550	N23一括No. 50	5b	X II-2-1 上	I	N23	55	0.3	0.2	351.93	中期後葉	280	150	—	—	SQ5544・5545の西側、ほぼ一個体の土器片が割れた状態で出土
SQ	5551	S9埋壘 (一括No. 51)	5b	X II-2-1	I	S9	137	0.25	0.2	(351.76) (351.71)	3c~4期	1720	0	—	368	屋外埋壘、正d、3c~4期、SB5317の埋土上部に埋込まれている。S3・4・8・9境界付近の小形ピット、SK群と関連するか
SQ	5552	S12一括土器集中 No. 52	5b	X II-2下	I	S12	44	0.7	0.68	351.68	—	—	—	—	—	ST5101 P4の上部に廃棄された土器小片
SQ	5553	S8一括No. 53	5b	X II-2下	I	S8	45	0.48	0.4	351.63	3c期	1700	0	—	368	数個体分の細片の集中
SQ	5555	N10 SQ55	5b	X II-2下	I	N10	47	3.05	2.28	351.74	3c期	12090	0	6・6 13	—	SF5176の上部に廃棄された細片の広範囲集中
SQ	5556	S8土器集中 No. 56	5b	X II-2下	I	S8	45	0.26	0.23	—	中期後葉	300	60	—	—	S8P29上部に廃棄された土器片小集中
SQ	5557	S9一括No. 57	5b	X II-2下	I	S9	45	0.35	0.23	351.58	3a~3c期	350	350	—	—	SF5179上部に廃棄された土器片小集中
SQ	5558	S8一括No. 58	5b	X II-2下	I	S8	137	0.26	0.24	(351.67) (351.61)	3a~3c期	1110	20	—	368	屋外埋壘、正c、ε
SQ	5560	SQ60	5b	X II-2下	I	N8.9 .13. 14	47	3.3	2.5	353.89	2b~3c期	800	0	—	—	SB5343西側の土器集中。破片はSB5343より更に細かく、石・石器も混じる
SQ	5565	S18一括No. 65	5b	X II-2上	I	S18	54	0.9	0.6	351.83	3a~3b期	750	280	—	—	土器片数点の小集中
SQ	5566	S18.23一括 No. 66	5b	X II-2上	I	S18. 23	54	0.75	0.57	351.78	3c期	1640	1640	—	—	土器片数点の小集中で、ε 管利Vほか含む
SQ	7001	SQ7001	6a	X II-2上	I	N1	137	1.5	1.23	351.69	3c~4期	5110	0	1・2 3	368	浅い落ち込みに一個体がまどまつて潰れた状態で出土。4期
SQ	7002	SQ7002	6a	X II-2下	I	H25	50	3.35	2.55	351.59	2b期	7200	0	0・1 4	368	約10cmの落ち込みの中に遺物が廃棄される。β・γ・ε共に2b期

表36 屋代遺跡群XII-2層検出石集中（SH）一覧

遺構記号	遺構番号	旧遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	長軸 (m)	短軸 (m)	標高 (m)	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SH	5101	SH5101	5b	X II-2上	I	N10.15	138	5.4	3.54	351.89	4期~後期	3200 (49) 16335	28・14 136	369	SB5324の柄部の破壊石の可能性あり。2はSB5324土器と接合し4期~後期の様相、口縁の多くは、圧痕隆帯。体部には、加εも含まれる。4期~後期
SH	5103	SH5103	5b	X II-2下	I	S8	138	1.28	0.7	351.8	—	0 (0) 555	1・0 103	—	直径6cm程度の礫が面的に集中している

表37-(1) 屋代遺跡群XII-2層検出柵・杭列・材木列など（SA）一覧

柱穴断面形



- 類別
 A 直線配置
 B 曲線配置
 C 不規則配置
 D 曲折配置

遺構記号	遺構番号	仮地区	Pit数	検出面	大地区	中地区	遺構図	類別	列方向	規模 (m)	材径・柱穴径 (m)	材・柱穴平面形	柱穴断面形	材・柱穴深さ (m)	材間距離 (m)	備考
SA	4511	4d	18	X II-2下	I	W6.7	39	A	N80° W	7.25	0.05~0.2	円形	ADFG	0.08~0.32	0.08~0.75	—
SA	4512-1	4d	28	X II-2下	I	V20	39	C	N45° E	5	0.08~0.15	円形	ACDF	0.06~0.25	0.7~1.2	—
SA	4512-2	4d	34	X II-2下	I	V20. W11. 12. 16	39	A'	N8° W	15.3	0.1~0.2	円形	ACDF	0.05~0.25	0.2~0.95	—
SA	4513	4d	10	X II-2中	I	W12.17	39	A	NS	3.3	0.06~0.12	円形	ADI	0.04~0.1	0.08~0.5	—
SA	4514	4a	25	X II-2下	I	V25. W21	38	A	N78° W	15	0.1~0.2	円形	CDHI	0.04~0.2	0.15~2.25	—
SA	4515	4a	49	X II-2下	I	W22. C2.7	38	C	N3° W N8° E	16.8	0.09~0.19	円形. 楕円形	ABDHI	0.05~0.2	0~2.2	—
SA	4516	4a	6	X II-2下	I	V25	38	A	NS	2	0.1~0.18	円形. 楕円形	BDHI	0.05~0.2	0.15~0.6	—
SA	4801	5b	10	X II-2下	I	W5	43	D	N88° E	4	0.11~0.22	円形	ADEH	0.07~0.3	0~1.8	—
SA	5101	5b	7	X II-2下	I	O6	47	A	N80° E	3	0.05~0.16	円形	CDEF	0.02~0.15	0.35~1.1	SB5310北側の柵か、3a期

表37-(2) 屋代遺跡群XII-2層検出柵・杭列・材木列など(SA)一覽

遺構記号	遺構番号	仮地区	Pit数	検出面	大地区	中地区	遺構図	類別	列方向	規模(m)	材径(m)	柱穴径(m)	材・柱穴平面形	柱穴断面形	材・柱穴深さ(m)	材間距離(m)	備考
SA	5102	5b	22	XII-2下	I	N24	45	A'	N53° W	3.65	0.05~0.09	円形、楕円形、方形	ABCDEH	0.03~0.12	0.01~0.55	SB5338を切るため4期以降	
SA	5103	5b	27	XII-2下	I	S11.12.16	44	A.B	N80° E	8	0.06~0.29	円形、楕円形	DI	0.03~0.16	0~1.1	St5101を切るため、3b~3c期以降	
SA	5104	5b	13	XII-2下	I	S17	44	A	N39° W N64° E	4.3	0.07~0.21	円形、楕円形、方形	—	—	0.2~1.4	St5105付属遺構と近似したレベルで検出される	
SA	6701	5a	10	XII-2上	I	N11	52	C	N10° E	3.2	0.1~0.2	円形、楕円形	ACD	0.05~0.21	0.2~0.7	—	
SA	6702	5a	4	XII-2上	I	M15	52	A	EW	3.1	0.08~0.11	円形	ABE	0.05~0.15	0.6~1.6	—	
SA	6703	5a	5	XII-2上	I	M14	52	A	N69° E	2.95	0.1~0.18	円形	AEH	0.05~0.2	0.95~1.0	—	
SA	6704	5a	2	XII-2上	I	M14	52	A	EW	0.71	0.1~0.16	円形、楕円形	AH	0.09~0.31	5.5	—	
SA	6705	5a	9	XII-2上	I	M14	52	B	N19° W N63° W	5.3	0.1~0.18	円形、方形	ABDH	0.01~0.25	0.45~0.85	—	
SA	6706	5a	3	XII-2上	I	M15	52	A	N51° W	1.06	0.05~0.1	円形	AB	0.05~0.1	0.5~0.55	—	
SA	6707	5a	16	XII-2上	I	M15	52	B	N35° W N85° E	4.15	0.1~0.19	円形	ABCDPH	0.1~0.21	0.2~0.6	—	
SA	6708	5a	6	XII-2上	I	M15.20	52	A	N2° E	3.65	0.08~0.1	円形、楕円形	ADE	0.08~0.19	0.4~1.15	—	
SA	6709	5a	147	XII-2上	I	M24.R3.4.9	51	C	N28° E	15.1	0.04~0.22	円形、楕円形	ABCDE	0.05~0.24	0.1~1.15	—	
SA	6710	5a	63	XII-2上	I	R3.8.9	51	C	—	9.44	0.04~0.16	円形、楕円形	ABCDEI	0.03~0.34	0~2.85	—	
SA	6711	5a	6	XII-2上	I	R3	51	C	—	1.1	0.08~0.11	円形、楕円形	ACF	0.05~0.1	0~1.5	—	
SA	6712	5a	10	XII-2上	I	R3.8	51	C	—	1.95	0.05~0.1	円形、楕円形	ABC	0.03~0.2	0.15~1.28	—	
SA	6713	5a	26	XII-2下	I	M15	49	B	EW N65° E	8.3	0.07~0.2	円形	ABDH	0.05~0.31	0.02~0.8	SK6720を切るため3b~3c期以降	
SA	6714	5a	2	XII-2下	I	M20	41	A	EW	0.78	0.1~0.15	円形	AC	0.11~0.25	0.75	—	
SA	6715	5a	7	XII-2下	I	M19.24	41	A'	N56° W	5.73	0.08~0.1	円形、楕円形	ABDE	0.09~0.2	0.52~2.35	—	
SA	6716	5a	19	XII-2下	I	R3.4.8	41	A	N26° E	11	0.06~0.13	円形、楕円形	ADEHI	0.04~0.18	0.5~0.95	—	
SA	6717	5a	2	XII-2下	I	R7	41	A	N65° E	0.35	0.06~0.11	円形、楕円形	—	—	0.25	—	
SA	6718	5a	6	XII-2下	I	R8	40	C	N49° W N65° W	2.52	0.1~0.17	円形	DEH	0.05~0.15	0.65~0.9	—	
SA	6719	5a	16	XII-2下	I	R8.9.13	40	B	N67° W N72° W	7.65	0.07~0.15	円形	ABDPH	0.06~0.1	0.25~1.0	—	
SA	6720	5a	8	XII-2下	I	R13.14	40	B	N74° W N53° W	4.1	0.08~0.13	円形、楕円形	ACDHI	0.03~0.11	0.2~1.15	—	
SA	6721	5a	5	XII-2下	I	R13	40	C	N46° E	2.3	0.08~0.2	円形	ABDE	0.04~0.09	0.2~1.21	—	
SA	6722	5a	16	XII-2下	I	R12.13	40	A'	N13° E	5.83	0.07~0.17	円形、楕円形	ABDEHI	0.04~0.12	0.15~1.03	—	
SA	6723	5a	8	XII-2下	I	R12	40	A'	N83° W	3.3	0.07~0.19	円形、楕円形	ADI	0.05~0.12	0.4~0.75	—	
SA	6724	5a	6	XII-2上	I	R9	51	A	N5° E	2.85	0.06~0.14	円形、楕円形	ADE	0.02~0.22	0.4~0.8	—	
SA	7101	6a	11	XII-2上	I	M5.N1	53	A	N80° E	7.5	0.06~0.09	円形、楕円形	CDEFHI	0.03~0.15	0~1.5	—	
SA	9001	6b	15	XII-2下	I	N7.12	49	A	N24° E	6.23	0.09~0.2	円形、楕円形	—	—	0.15~0.62	—	
SA	9002	6b	28	XII-2下	I	N8.13	49	B'	N23° W N80° E	10	0.06~0.17	円形、楕円形	—	—	0.1~1.4	SB9007を切るため3c期以降	
SA	9003	6b	6	XII-2下	I	I25	48	B	N61° W N72° E	3.1	0.06~0.1	円形	ACDEI	0.03~0.13	0.43~0.8	SB9001南壁に併行であるため同SBの垂木尻の可能性があり、2a~2b期	
SA	9004	6b	6	XII-2下	I	J21	48	A'	N60° E	2.65	0.07~0.1	円形	ADF	0.05~0.22	0.42~0.7	SA9003と同様弧を描くが内部に施設なし	
SA	9005	6b	15	XII-2下	I	N4	47.48	C	—	3.8	0.02~0.19	円形、楕円形	ABCDEFGHI I	0.03~0.13	0.28~1.65	—	
SA	9006	6b	13	XII-2下	I	N6.7	49	A'	N36° W	2.78	0.09~0.2	円形、楕円形	—	—	0.15~0.85	—	

表38 屋代遺跡群XII-2層検出不明遺構(SX)一覽

遺構記号	遺構番号	旧遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	堆積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SX	5501	落込みN01	5b	XII-2上	I	S13.18	54	不整形	(2.85)	(2.6)	0.11	明赤褐色~褐色	5YR3/3~10YR4/4	4層(2層火床)	(3c~4期)	530(12) 4370	6・0 3	—	4層、火床上にβ.εほか
SX	5502	落込みN02	5b	XII-2上	I	S17.18	138	楕円形	2.7	2.43	0.16	暗褐色	10YR3/3	1層(φ5mm~1cmの炭化物30%・炭土粒30%)	3c期	7980(78) 18920	16・2 32	369	SX5506と接する遺物全点を点取り、一括40埋壘
SX	5503	落込みN03	5b	XII-2上	I	S12.13 17.18	54	不整形	2.05	1.95	0.13	暗褐色	10YR3/3	1層(φ5mm~1cmの炭化物30%・炭土30%・1層下部に炭土の腐葉あり)	(3c期)	440(16) 3100	5・5 10	—	—
SX	5504	落込みN04	5b	XII-2上	I	S8	54	隅丸方形	3	2.95	0.17	暗褐色~にふい黄褐色	10YR3/3~10YR4/3	2層(1層炭化物10%・炭土10%)	(3c期)	1075(22) 7480	6・3 8	—	他時期の混入なし。
SX	5506	落込みN06	5b	XII-2上	I	S17.18	54	不整形	(2.32)	2.16	0.12	暗褐色	10YR3/3	1層(φ5mm~1cmの炭化物30%)	(3c~称名寺)	5525(87) 26910	6・2 2	369	SX5502と接する
SX	5507	落込みN07	5b	XII-2上	I	S18	54	不整形	1.05	0.8	—	—	—	(3c期)	300(3) 1500	1・0 0	—	—	
SX	5508	落込みN08	5b	XII-2上	I	S13	54	不整形	1.58	1.12	—	—	—	(3c~4期)	1070(4) 2120	—	—	—	

第3節 XII-2層出土遺物

1 土器

屋代遺跡群では縄文中期後葉の土器が約1400箱出土した。このうち遺構から出土したものが約半数を占める。本節では、遺構出土で形が判断できるものを中心に1741点を図示し（図版239～372）、図示したもののうち、口縁部が残存しておりかつ外形が復元できたものについては7項目の属性を、それ以外については出土位置についての情報を中心に、観察表を作成した（表39）。そこで、図示した土器の分類基準についての説明を加え、併せて属性表の項目についての解説を行う。

(1) 器種・器形と文様帯

以下のように器種別に器形の細分を行い、それを文様帯構成ならびに口縁部の形態と組み合わせた「類型」を提示する。

A 器種（図29）

出土土器は、深鉢（1551点）・浅鉢・鉢（5点）・壺（98点）・台付深鉢（鉢）（13点）・釣手もしくは釣手付深鉢（15点）・注口土器（4点）・瓢箪形（3点）・ジョッキ形（2点）・器台（4点）の9器種に分けられる（図29）。深鉢が主体を占め、壺が少数、その他は極少数である。その他に蓋（1点）やミニチュア土器（23点）が出土している。

B 器形と文様帯 主要器種である深鉢は大きく3つ、壺は大きく2つの器形に分けられる。以下この器形毎に文様帯との関連を説明する。

【深鉢】

① **深鉢A** 口縁部が内湾し、頸部でくびれる器形。

器形（図29上段左） 口縁部の内湾の度合いは、強く内湾するもの（1・2）、直立気味に弱く内湾するもの（3・4）、殆ど直立しているもの（5・6）があり、同様に頸部のくびれ方、胴部の膨らみ方にも差異がある。また、口唇部の形状には1. 平縁（4）、2. 波状口縁（5）、3. 通常4単位の突起を有するもの（6）、が見られる。

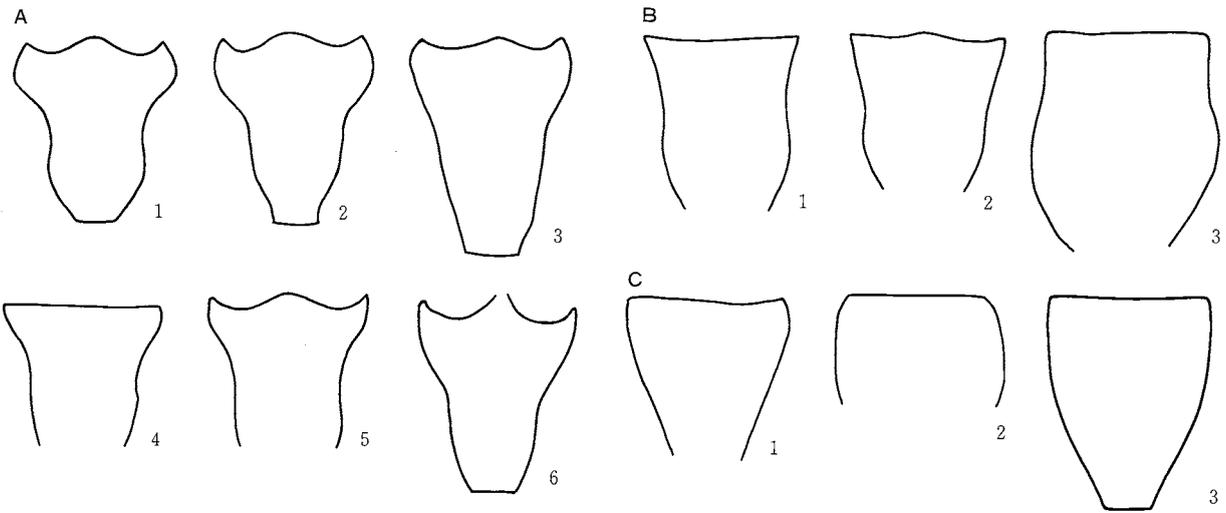
文様帯（図30） 文様帯には以下の4種類が見られる。a. 口縁部最大径より更に上の、帯状の無文部や、深い溝、1本沈線と無文部、2本沈線、沈線と刺突などの文様帯（口唇部文様帯）（3） b. 口縁部のくびれ部より上に分帯線を持ち、そこから口唇部までの区間に渦巻文や区画文などが繰り返されるもの（口縁部文様帯）（1・2）、c. 口唇部もしくは口縁部文様帯以下に、連続する文様が描かれ、底部ぎりぎりまで文様が連続するものと、底部やや上で途切れるものがあり、時期的に変化する（胴部文様帯）（1～4）。明確な分帯線を伴わないモチーフの途切れは連続する文様とみなし、ここに含める。d. 口縁部文様帯と胴部文様帯の間の文様帯。帯状の文様帯の場合と無文の場合がある（2）。

類型（図30） 以上の器形と文様帯の組み合わせによる類型を提示する。

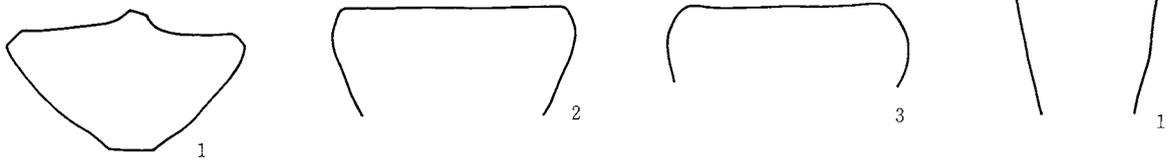
深鉢A-I 頸部のくびれ部分を境に口縁部文様帯と胴部文様帯に分かれるもの（1・2）。極少数頸部無文帯がみられるものがある。平縁（A-I 1）（1）、波状口縁（A-I 2）、突起を有するもの（A-I 3）（2）がみられる。特に後2者には口唇部に深い溝や先端に渦巻文が付く溝によって構成される口唇部文様帯^(註1)をもつものが見られる。

深鉢A-II 口唇部文様帯を持ち、以下胴部文様帯が展開するもの（3）。口唇部文様帯が2段構成にな

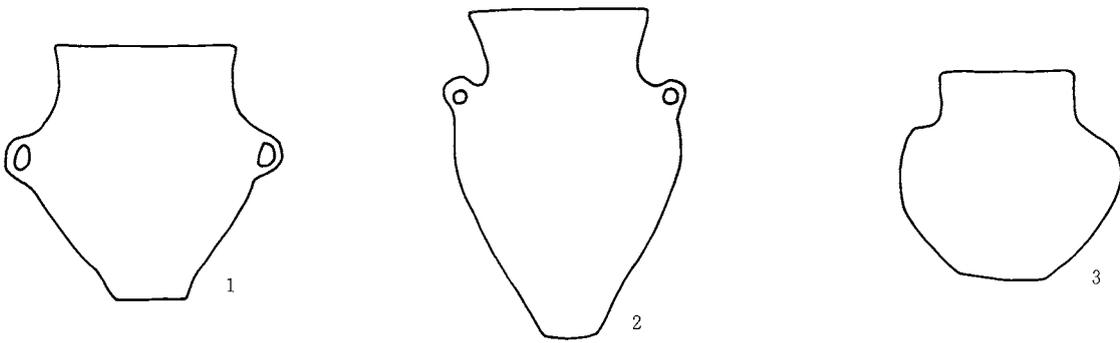
深鉢



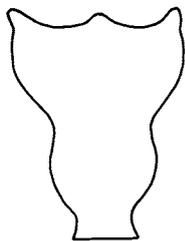
浅鉢・鉢



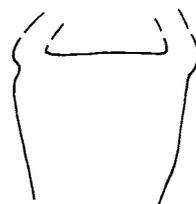
壺



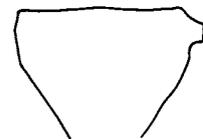
台付深鉢



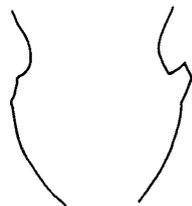
釣手付深鉢



注口土器



瓢箪形



ジョッキ形



器台



図29 中期後葉土器の器種・器形分類

るものもある。平縁（A-II 1）、波状口縁（A-II 2）（3）、波状口縁に4単位の突起を有するもの（A-II 3）に分類される。

深鉢A-III 分帯線が無く、器面全体に胴部文様帯が展開するもの。平縁のもの（A-III 1）（4）が目立つ。

② 深鉢B 口縁部が緩やかに外反もしくは直立し、胴部にかかるいくびれが見られるもの。

器形（図29上段右） 口縁部が大きく外反するもの（1）と直立気味に外傾するもの（2）、直立するものがあり（3）、胴部は膨らみが弱いもの（1・2）と大きく膨らむもの（3）がある。

文様帯（図30） 文様帯は頸部のくびれ部より上に帯状に広がる口縁部文様帯とそれ以下の胴部文様帯が見られる（5・6）。

類型（図30） 以上の器形と文様帯の組み合わせによる類型を提示する。

深鉢B-I 口縁部文様帯と胴部文様帯に分かれ、口縁部文様帯が全く無文のもの（5）。平縁（B-I 1）が多い。

深鉢B-II 口縁部に分帯線を有し、口縁部文様帯と胴部文様帯に分かれるが、分帯線が口縁部文様帯内および胴部文様帯へ連続する渦巻文や楕円文から成るもの。基本は平縁（B-II 1）だが、稀に口唇部が渦巻きの上でやや隆起するものがある（B-II 1'）（6）。

深鉢B-III 口唇部に分帯線があり、口唇部文様帯と胴部文様帯に分かれるもの。

③ 深鉢C 頸部にくびれが無く、口縁部が内湾するもの。

器形（図29上段右） 器形内の変異が大きいため、底部のすぼまり方、胴部のふくらみ方の差異に応じて以下のC₁~C₃を設定した。なお残存率上最大径の位置が不明確なものは「深鉢C」とした。

C₁ 口縁部が内湾し、胴部が外傾気味であるもの。口縁部に最大径をもつ。内湾の度合いにかなりの差異があり、底部が著しくすぼまるものもある（1）。

C₂ 胴部中央に最大径を持ち、胴部から口縁部にかけて大きく内湾するもの（2）。底部にかけて著しくすぼまるものがある。

C₃ 口縁部の内湾が弱く、口縁部~胴部前半までの径がほぼ同じもの（3）。

文様帯（図30） 文様帯は胴部最大径より上に分帯線があり、口縁部文様帯と胴部文様帯に分かれるもの（7~11）、胴部文様帯が口唇部まで連続するもの（12）が見られる。

類型（図30）

深鉢C_{1.2.3}-I 口縁部文様帯をもつもので、口縁部文様帯が無文のものや隆帯がめぐるものがある（7・8・9）。口縁部文様帯はかなり幅の狭いものもあるがここに含める。

深鉢C_{1.3}-II 口縁部文様帯をもち、分帯線の一部が下方へ垂下するもの（10・11）。

深鉢C_{1.3}-III 全く分帯線を持たないもの（12）。

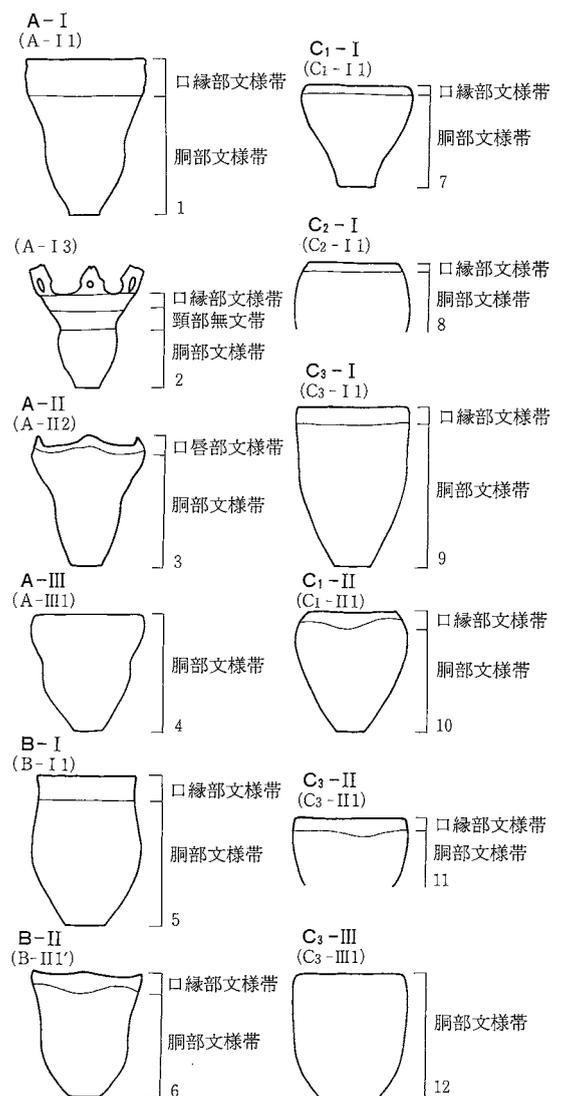


図30 後葉土器の文様帯分類

さらに口縁部形態に着目し平縁のものを1、波状縁のものを2、口唇部に突起が付くものを3とすると、殆どが1であるが、C₁-III2 (図版276-27)、C₁-III3 (図版289-6) など分帯線の無いものの中に2や3が見られる。

④ **深鉢D** くびれが無く、口縁部がやや外傾気味に直立するもの (図29中段)。

類型

深鉢D-I 口唇部に無文帯を有するもの (図版360 SQ4803b-1)。

深鉢D-II 全く分帯線をもたないもの。

【浅鉢・鉢】

器形 (図29中段) 口縁部が強く内湾し、橋状把手が付くもの (1)。口縁部が緩く内湾し、胴部が直線的に立ち上がるもの (2)。などが見られる。底部まで残存していないため浅鉢になるか鉢になるか区別がつかないものもあるため「浅鉢・鉢」として類型を設定した。

文様帯 口縁部文様帯から胴部文様帯に分かれるものと、胴部文様帯が全体に及ぶものに分かれる。

類型

浅鉢・鉢A-I 口縁部が強く内湾するもの。口縁部文様帯を持つもの (図版368 SQ5549-1)、突起をもつもの (図版308 SB5344-2) など。

浅鉢・鉢A-II 口縁部が緩く内湾し、口縁部文様帯をもつもの (図版355-1)。

浅鉢・鉢A-III 胴部が張り出し、球形を呈するもの。壺と類似する (図版370-8)。

【壺】 (図31)

頸部の最細部が胴部最大径の2/3以上のものを含むが、口縁部～頸部が無文、2単位の把手が胴上部に付くなど定型化していることから、「壺」として、深鉢から分離して記載することにした。

① **壺A** 胴部中央から上半が膨らむ壺。

器形 口縁部～頸部にかけての無文部の長さには長短があり、内傾気味に直立するものと外傾・外反するものがある。また胴部最大径部分から口縁部にかけて著しく内傾するもの (図版349 SK5695-2) が稀にみられる。胴部形状は、最大径が胴部上半にあるため逆三角形のプロポーションを呈するものが、最大径が胴部中央や、やや下半にあるもの、胴部球形のものを数量的に凌駕する。

文様帯 頸部文様帯を有するものと、胴部文様帯が無文部直下まで連続するものがある。

類型 (図31)

壺A-I 幅を持った頸部文様帯を有するもの。頸部文様帯には、深鉢Aの口縁部文様帯に類する一群 (1～3) と、微隆起線や隆帯によってπ字状の隆帯区画が添付される一群がみられる (5～8)。これら両者に共通し、2つの把手が付くもの、いわゆる両耳壺をA-I 1とした。

壺A-II 頸部文様帯は無く、一連の胴部文様帯を有するもの。胴部と頸部の分帯線上にヒレ状隆帯による円形区画が添付されるものを含む (9・10)。胴部文様は、隆沈線による楕円区画や渦巻文・懸垂文などをもつもの (9～12・20～21・23) と、沈線による横方向に連結する充填区画文をもつもの (13～15)、地文のみのもの (16～19) の三群が認められる。これら三者を含めていわゆる両耳壺をA-II 1、把手が4つ付くものをA-II 2、把手が付かないものをA-II 3とした。

② **壺B** 頸部が極めて短かく、赤彩が施されるもの。

器形 胴部中央が比較的強く張り出す。頸部は壺Aよりは短い、中でもやや長いものと短いものに分かれる。

文様帯 頸部と胴部を区画する分帯線が高隆帯や溝からなり、文様帯的な様相を呈する。胴部には一連の渦巻文や区画文が施され、胴部文様帯を形成している。地文は施されない。

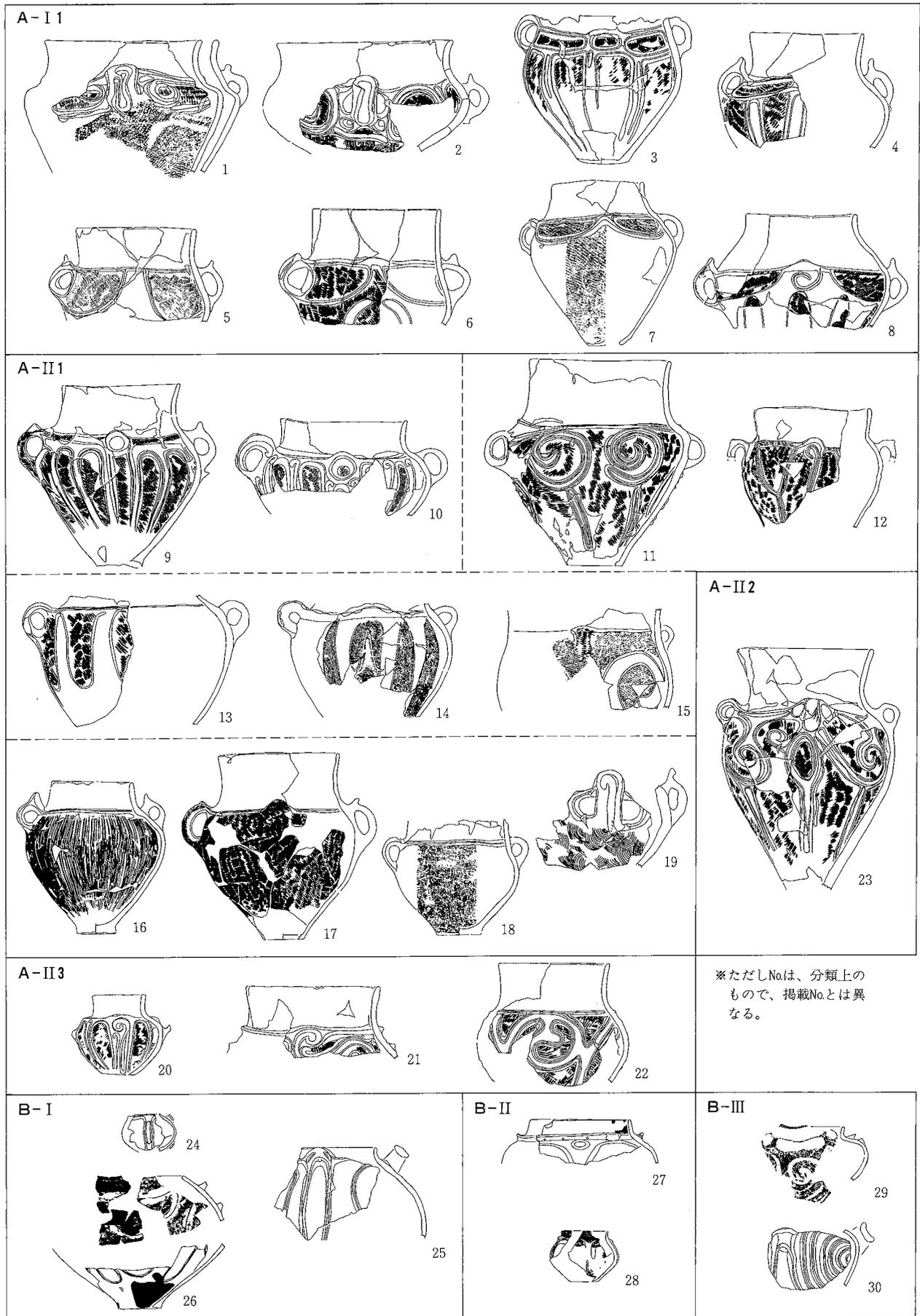


図31 壺の分類

類型 壺Bは破片が多く全体のプロポーシオンが解るものが少ないため、大きく以下の3つの類型に仮分類した。

壺B-I 胴部中央が強く張り出し、横位に橋が渡されたような薄い「横位橋状把手」や縦に橋が渡されたような「縦位橋状把手」を有するもの(24~26)。

壺B-II 頸部がB-Iよりやや長めのもので、主体はいわゆる有孔罽付土器(27・28)。

壺B-III 胴部上半が極端に膨らむもの(29・30)。

【台付深鉢】

台付深鉢の殆どは底部付近で欠けているため、全体のプロポーシオンが解るものは⑤a区東壁部分から出土した1点(図版372 ⑤a区東壁-1)にすぎないが、台部分を除いた器形・文様構成は深鉢Aと大差ない。台には円形透かしのあるものと無いものがみられる。

【釣手付深鉢】

釣手付深鉢の殆どは、釣手部分で欠損しているため、本体と釣手の関係が解るものは④g区W-2の1点にすぎない(図版369)。釣手部は平坦で幅広のもの(図版245-53)や、厚手で上部に溝を持ち、断面がC字形になるもの(図版370 ⑤b区N-2)がある。正面部分に円形刺突が施されたものが多い。

【注口土器】

器形が解るものはSB5348-7(図版320)とSB5339-1(図版292)の2点である。前者は胴部上半で膨らみ、口縁部文様帯(無文帯)と胴部文様帯(地文のみ)の分帯線上に水平に注口が付き、深鉢C₁-I 1に注口が付いた格好である。これに対し後者は胴部から注口がかなり緩やかに立ち上がり、口縁部で強く屈曲し、浅鉢・鉢に注口が付いた様相である。

【瓢箪形】

明確に瓢箪形を呈するものはSB5339-5(図版292)のみで、上半で張り出した胴部からくびれ部にかけての破片が残存している。くびれ部よりも若干下に壺B-Iにみられるような「横位橋状把手」が付き、上下方向に微隆起線による弧線文が描かれている。これに対し、瓢箪形と推測される⑤b区N-17(図版371)は口縁部からくびれ部以上の部分は壺B-I、くびれ部以下の部分は下半が強く張り出す器形である。このことから、壺形土器として分類したもので、胴部下半以下が欠損しているものの中には瓢箪形土器が含まれている可能性が考えられよう。

【ジョッキ形】

SB5328-15(図版274)とSB9001-24(図版334)の2点出土している。両者とも頸部から口縁部にかけては無文で、分帯線以下に胴部文様帯を有する。把手は、前者は分帯線以下に、後者は分帯線を挟んで付けられている。把手の形は前者には、深い溝状沈線による渦巻文が描かれ、上部が突出して壺の把手に類似するのに対し、後者は環状である。

【器台】

器台には何れにも円形の透かしがみられる(図版279-8、図版308-7・11)。特に、SB5344-7(図版308)は5単位で、透かしの間に沈線による縦位のS字状文が挟まれている。

【ミニチュア土器】

ミニチュア土器には口縁がやや開く深鉢形(図版352 SK9066-2、図版349 SK5773-1)、鉢形(図版246-11)、口縁がややすぼまる筒形(図版267-9・15)、台付壺形(図版343 ST5101-4)、スプーン形もしくはカップ形(図版251-28)が見られる。このほか台付き深鉢もしくは鉢・壺などの台の部分のみ残存したもの(図版251-31、図版267-12、図版297-40)が見られる。このうち特にSB5312-11やSB5313-31の内側底部には漆が付着していた。

(2) 土器の諸属性 (表39)

A 文様と施文手順

土器群は器形と文様帯・文様構成によって分類されるが、分類された各類型の変異は類型名だけでは表示しきれない。そこで各土器の文様や施文順序を記述することで土器の特徴をより詳しく示そうと考え、「文様と施文手順」の項目を設定し、口唇部・口縁部文様帯の文様を「口」、頸部・胴部文様帯の文様を「体」として記載した。また、施文技法の表現には以下の用語を用いている。**隆帯**：器面に貼り付けが行われているもの。隆沈線を含む。**部分隆帯**：同一のモチーフの中で部分的に貼り付けや摘み出しによって隆起部を作り出しているもの。**高隆帯**：断面が鋭角もしくはヒレ状に尖った高い隆帯。**微隆起線**：断面三角形の低い隆帯。**沈線**：器面を陰刻している線。これらによって表現される文様要素と文様は多岐にわたるが、特に代表的なものを図32に掲げた。

また、縄と沈線・隆帯の前後関係を観察すると、縄を転がしてから沈線を引き、沈線間を磨り消すものと、区画を描いてから縄文を転がして区画内を部分的になぞり返すものがあるようである。表中では観察可能範囲に限って→で施文手順を表現した。

B 地文

地文の主体は単節縄文で、無節・複節が極少数認められる。深鉢Aの縄は、口縁部文様帯が横転がしと縦転がし、胴部文様帯は縦転がしが多い。これに対し深鉢B類の中には胴部文様帯でも横に転がされるものが目立つ。そのため属性表には口縁部(口)・胴部(体)に分けて縄の種類と方向を記載した。縄以外の地文には条線(縦・波状)、長沈線(縦・綾杉状)、短沈線(雨垂状)などがみられる。

C 色調

色調は新版標準土色帖を用いて、外面の黒斑や付着物の見られない部分を選択して記載した。

D 胎土の観察

胎土は主に断面を観察し、混和材に関する情報を以下のように記述した。

粒径 岩石・鉱物とも1mm未満を小、1mm～3mm程度を大とした。

種類 bi (biotite) 黒雲母/qu (quartz) 石英/pl (plagioclase) 長石類/ho (hornblende/augite) 角閃石・輝石：肉眼観察で確定が難しいため一括した。ただし偏光顕微鏡観察の結果、角閃石、普通輝石、紫蘇輝石がともに含まれていることが確認された。/mg (magnetite) 磁鉄鉱・赤鉄鉱/BR 黒色の岩片を一括した。おもに安山岩などであろう。/WR 白色・乳白色の岩片を一括した。裾花水冷破碎岩起源の石英や斜長石の可能性がある。/GR 灰色の岩片を一括した。/RR 赤色の岩片を一括した。

量 時間的な制約から量を多段階で表現することは避け、比較的多いものに「多」を付記した。

E 備考

土器の使用痕に関しては備考に記載した。観察項目は以下の通りである。

炭化物付着状況/煤付着状況/焦げ付着状況/赤彩状況/被熱の程度/漆付着・塗布状況/残存個体最下部の打ち欠き・磨などの処理状況/胴部の打ち欠き等穿孔状況/底部切断の有無。

またSB5351の2と4、SB5337の12、SB5338の1と2、SB5342の5、SB5346の2、SB5348の1、SB5350の6については小林正史氏の観察を掲載した。

(3) 系統と群・類

系統 屋代遺跡群出土土器には在地土器の他に東北地方・関東地方・八ヶ岳山麓・北陸地方などで主体的に出土しているものやそれらに類似したもの、さらにそれらが相互に折衷したものが認められ、複雑な様相を呈する。そこでまず周知の土器型式に当てはめて、明らかにそれらに包括されるものとそれらからの

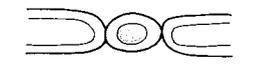
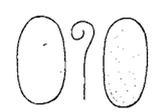
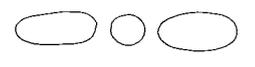
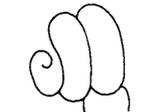
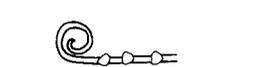
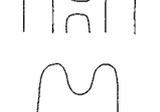
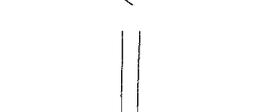
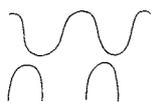
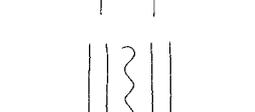
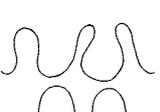
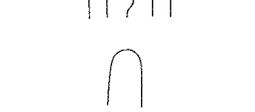
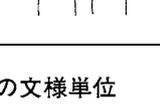
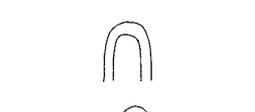
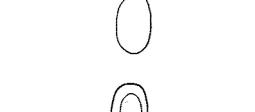
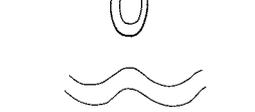
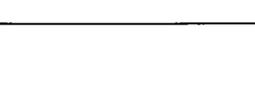
模 式 図	文 様 単 位	技法	模 式 図	文 様 単 位	技法
	長尾渦卷文	隆帯		連結曲流蕨手文	部分隆帯・沈線
	横位渦卷楕円文	隆帯		区画曲線蕨手文	部分隆帯・沈線
	横位連続区画文	隆帯		区画蕨手懸垂文	沈線
	横位入り組み渦卷楕円文	隆帯		区画蕨手懸垂文	沈線
	横位充填渦卷楕円文	沈線		区画蕨手懸垂文	沈線
	横位区画文	沈線		区画蕨手懸垂文	沈線
	横位方形区画文	沈線		区画蕨手懸垂文	沈線
	横位C字状文	隆帯		区画蕨手懸垂文	沈線
	渦卷多連文	隆帯		区画蕨手懸垂文	沈線
	圧痕隆帯文	隆帯		区画蕨手懸垂文	沈線
	蛇行懸垂文	隆帯 沈線		区画蕨手懸垂文	沈線
	平行懸垂文	隆線・沈帯		区画蕨手懸垂文	沈線
	(磨消・充填)懸垂文A	沈線		区画蕨手懸垂文	沈線
	(磨消・充填)懸垂文B	隆帯・沈線		区画蕨手懸垂文	沈線
	(磨消・充填)蛇行懸垂文	沈線		区画蕨手懸垂文	沈線
	逆U字区画文	微隆起線・沈線		区画蕨手懸垂文	沈線
	多重逆U字区画文	沈線			
	縦位楕円文	沈線			
	縦位楕円文	隆帯			
	波状文(磨消波状文)	沈線			

図32 中期後葉土器の文様単位

変容過程がたどれるものを「〇〇系」として分類し、そこから通常の型式学的な記述を行うことにした。ただし「〇〇系」とはあくまでも分類概念で、ある基準の範囲内で等質と認識できた土器群を指しているにすぎず、それが即「搬入品」であることや何らかの背景を意味するものではない。

群・類 (1)で設定した器形と文様帯構成から各系統の土器群をまず大きく分類し、それを「群」とした。群の中でさらに文様などによって細別されるものを「類」とした。分類の基準は時期・地域の示準となり、そのような文様構成上のメルクマールを取り上げた。

α. 大木8b式～10式からの系譜が考えられるもの（大木系）（図33）

大木8b式～9a式過渡期の土器は、宮城県浅部貝塚^(註2)、里浜貝塚^(註3)で層位的に出土しており、山前遺跡・青島貝塚例や山内資料、大梁川遺跡IV層土器群と比較検討することで大木8b式から漸的に変化していく実体が把握できる。屋代遺跡群で多量に出土している「大木系」土器にはこれらの資料に極めて類似しているものと、それらが変容したものとが認識される。また、大木9a～9b式期は加曾利E式との文様要素の共有が予測される。

1群：深鉢A-Iで構成されるもの（図33-1～8）。

1類：深鉢A-I 3で、頸部が無文のもの（1・2）。1は4単位の突起が付き、口縁部の隆起部には陰刻された円形・楕円形区画が連続する。胴部は隆帯（隆沈線）による区画蕨手懸垂文であるが、区画から渦巻が延びることによって不整形となる。2の胴部文様は区画文よりも渦巻文が優勢であるものの、胴部の張りが弱く、隆帯も大木8b式新段階の断面隅丸台形のものよりは低い摘み出し状の部分もみられるため、大木9a式古相^(註4)に属すると考える。施文順序は何れも縄文→区画沈線もしくはナデ。

2類：深鉢A-I 1で頸部無文帯が見られないもの（3・4）。3は隆帯による長尾渦巻文（口縁部）、連結曲流蕨手文（胴部）が見られ、区画沈線→地文の施文手順である。4は5単位で、口縁部正面に高隆帯による横位C字状文が付され、それ以外の4つは楕円文で、胴部は部分隆帯と沈線による区画曲線蕨手文である。区画沈線→縄文のいわゆる充填縄文手法を採る。

3類：深鉢A-I 2で頸部無文帯が見られないもの（5・6）。5は口唇部に長尾渦巻による溝状の沈線が巡り、胴部には断面台形の隆帯による楕円区画が組み合い、H字状の構成をとる。東北部の大木9a式新相よりも頸部が強くすばまり、胴部径も小さい。

4類：深鉢A-I 3で頸部無文帯が見られないもの（7・8）。7は口唇部に溝が巡り、口縁部は、4単位の突起の間に高隆帯による充填縄文の楕円文と円文が交互に配される。胴部は連結曲流蕨手文である。

2群：深鉢A-IIで構成されるもの（図33-9～16）。

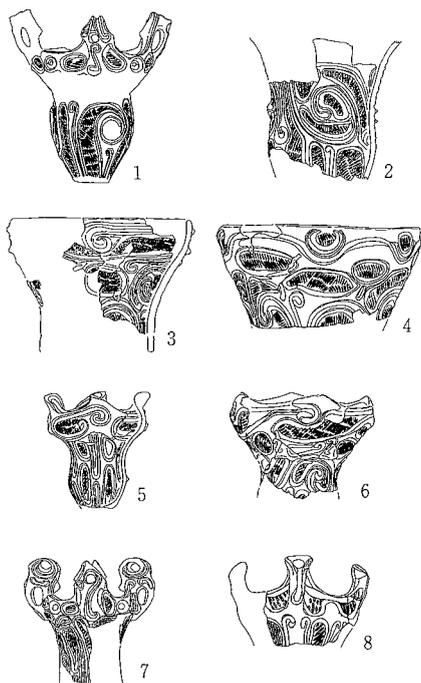
1類：深鉢A-II 3で、口縁部に4単位の突起を有するもの。口縁部形態は、口唇部直下に隆帯が添付されることで溝状を呈するもの（9）、口唇部を肥厚させ、やや下に隆帯を添付する事で2本隆帯が巡るもの（10）、口縁部が無文のもの（11）などが見られる。特に9は口縁部隆帯からのびる高隆帯による円文が突起の間に4単位巡り、1群4類の口縁部文様帯に類似した構成をとる。胴部文様は摘み出し隆帯で部分的に高隆帯渦巻や、やや高めの隆帯が添付される連結曲流蕨手文（9）や、区画曲線蕨手文（11）、沈線による区画蕨手懸垂文（10）などが見られる。施文手順は縄→沈線・沈線→縄の両者があるが、前者が多い。

2群1類や1群4類の口縁部突起の形態はおおまかに以下の4類に分かれる（図33下段）。

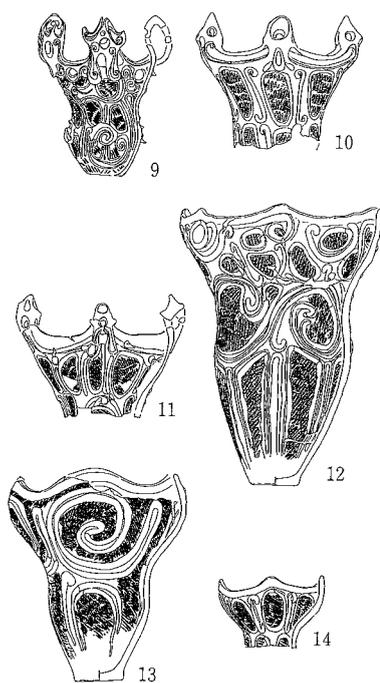
「双翼状突起」：突起の左右が翼のように張り出す形態で突起頂部は尖るもの（3・4）と長尾渦巻によって2つの山ができるもの（1・6）がある。本体との接続部には、左右2又に垂下する隆帯渦巻（1～4）と1本のみ垂下する隆帯渦巻（5・6）が見られ、大木9a式古相特有の2形態を踏襲している。

αの群・類

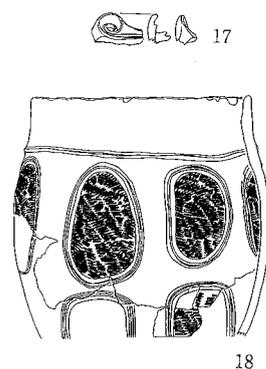
1群



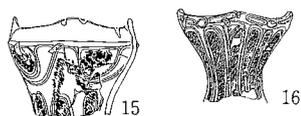
2群



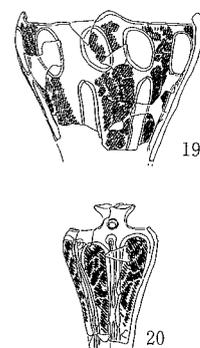
3群



5群

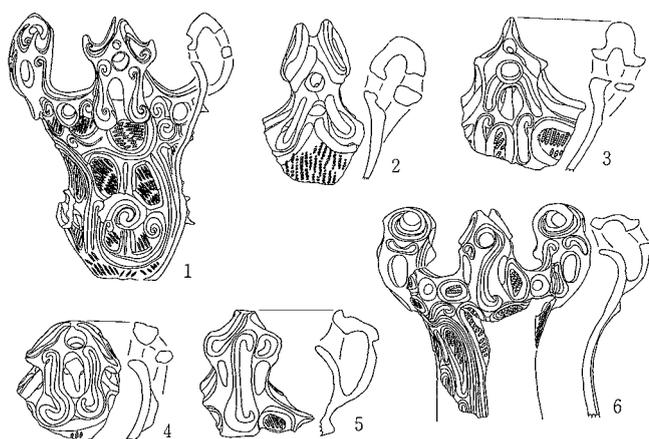


4群

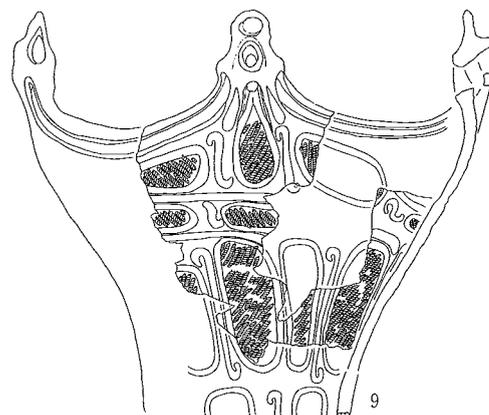


1群4類・2群1類の突起

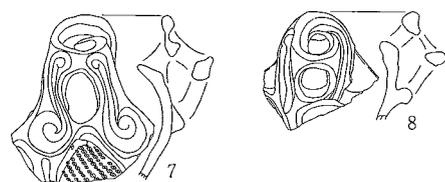
双翼状突起



嘴状突起



平突起



盃状突起

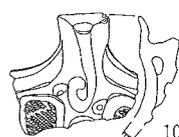


図33 大木系土器(α)の分類

「平突起」：突起の頂部が平らで、溝状の長尾渦巻文が円形の透かしに向かって落ち込むもの（7・8）。

「嘴状突起」：突起の頂部が扁平で、嘴状に突出するもの。双翼的に左右対称の突出部分を持つが、全体になだらかである（9）。

「盃状突起」：突起の頂部が盃状に窪むもの。より定型化したものは、加曾利EIV式の口縁部突起であろう（10）。

2類：深鉢A-II 2（12）。部分隆帯により、くびれ部の上は小区画を基調とした構成、くびれ部以下はS字を基調とする連結曲流蕨手文が描かれる。

3類：深鉢A-II 2で、沈線による上下2段の文様構成をとるもの（13・14）。文様には磨り消し帯を持つ渦巻文（13）や区画曲線蕨手文（14）が見られる。枠組みによっては加曾利E系とされる。

4類：深鉢A-II 2で、微隆起線による上下2段の文様構成をとるもの（15）。15の胴部文様は、J字文の先端が口縁部の分帯線に連結した形で大木10式の様相をもつ。

5類：深鉢A-II 2で、部分隆帯による逆U字状区画が、くびれ部上から下まで一段で描かれるもの（16）。区画間に蕨手文が付加されるものもある。枠組みによっては加曾利E系と理解される。

3群：深鉢B-Iで構成されるもの。

1類：大木8b式のB類型（水沢1996）。本遺跡では口唇部の渦巻部分が出土しているのみ（17）。

2類：微隆起線や沈線による楕円区画が描かれるもの（18）。18の口唇部形態は大木9a式新相B類よりも直立する。

4群：深鉢C₁-IIIで構成されるもの。

1類：上下2段にわたり円区画・楕円区画文を有するもの（19）。大木9a～b式の範疇でとらえられる。

2類：くびれ部を挟んで1段で楕円区画やU字区画が続くもの（20）。

5群：壺A-II 3で、胴部に隆沈線による楕円区画と渦巻文の組み合わせがみられるもの（21）。

1類：文様構成ともに大木9a式古相の長根貝塚や山前遺跡例に類似する。βの壺A-II 1の中には類似した文様構成をとるものがある。

2類：頸部の分帯線が無く、ステッキ状区画を有する。大木9b式新相に相当するか（22）。

6群：台付き深鉢の一部。

β、加曾利E II式～加曾利E IV式と考えられるもの（加曾利E系）

屋代遺跡群出土の加曾利E式の中には、関東のものとは細部が異なり、在地的に変容しているものがあるようであるが、今回は加曾利E式といわれているものの定義を拡大し、以下の6群を設定した。

1群：深鉢A-I（稀にC-I）で、第一文様帯は基本的に渦巻文と楕円区画もしくは楕円渦巻文からなる。胴部文様は沈線が垂下する。

1類：第一文様帯全体が断面三角形の隆帯で描かれているもの。胴部文様は蛇行隆帯の垂下もしくは磨り消しの未発達な沈線によって描かれる（図版331 SB5352-1など）。

2類：第一文様帯全体が隆起し、文様が陰刻されるもの。胴部は幅の狭い磨り消し帯を有し、地文上に蛇行沈線が施文されるものがある（図版321 SB5350-1など）。

3類：第一文様帯に隆帯、沈線もしくは上部は隆帯、下部は沈線によって横位充填渦巻楕円文や横位入り組み渦巻楕円文が描かれるもの。胴部には比較的幅の広い磨り消し帯がある。口縁部文様帯内の渦巻は間延びして、中心部にも地文が施される（図版279 SB5332-5など）。

4類：第一文様帯が区画文からなるもの（図版256 SB5316-5など）。

2群：深鉢A-IIにあたり、口唇部に無文部や刺突文を有するもの。くびれは深鉢A-Iに比べて弱いもの

が多い。

1類：口唇部が無文で隆帯もしくは微隆起線1～2条による渦巻を基調とした文様が描かれるもの。いわゆる「胴部隆帯文土器」⁽⁴⁵⁾である(石坂他1988)。微隆起線1条で構成されるもの(図版340-4・6)と、2条のもの(図版337-4)がある。

2類：口唇部が無文で、多重沈線による波状文(図版350 SK5812-1)や逆U字文(図版332 SB6703-1)が描かれるもの。

3類：口唇部に無文部があり、隆帯や微隆起線による逆U字もしくは楕円区画がくびれ部を縦断して1段で描かれるもの(図版283-52)。無文部が広いものもある(図版341-7)。

4類：口唇部に無文部がある「連結U字文入り組み型」(図版309-14)。上半部の区画の形に変異が見られ、区画間に蕨手文が付加されることもある。

5類：口唇部に分帯線もしくは無文部がある、「連結U字文対向型」(図版340-5)。

3群：深鉢A-IIIで胴部文様が口縁部までせり上がるもので、沈線でモチーフが描かれるもの。

1類：U字状の区画を持ち、蕨手懸垂文が見られるもの(図版339 SB9006-2)や逆U字状の区画を有するもの(図版288-2)。

2類：口唇部に無文部が無い「連結U字文入り組み型」。ただし口唇部のみ地文が横回転で2群4類との関連が認められる(図版314-49)。

4群：深鉢C-Iからなる。口唇部に無文帯をもち、横方向の区画線によって分帯がなされている。

1類：隆帯が口縁部を巡り、その隆帯から渦巻文が垂下するもの(図版270-10)。

2類：多重沈線もしくは単沈線による逆U字状の区画を有するもの(図版257-7)。

3類：並行して垂下する微隆起線や沈線による区画がみられるもの(図版296-29)。

4類：横方向の微隆起線もしくは沈線による区画以外は縄文のみのもの(図版362-4)。

5群：深鉢C-IIIからなる。

1類：連結U字文のもの(図版287-19)。

6群：深鉢D-IIからなるもの。

7群：壺を一括した。口縁部は何れも無文。

1類：壺A-Iにあたり、胴部の張りが強く、頸部に文様帯を持つもの。胴部は地文のみのものと隆帯が垂下するものがある(図31-1～3)。把手中央に長尾渦巻文による深い溝を有する。

2類：壺A-Iにあたり胴部の張りがやや強く、頸部に π 字状の微隆起線による区画を有するもの。胴部文様は地文のみのものと逆U字状区画を有するものがある(図31-4～8)。

3類：壺A-IIにあたり、胴部に微隆起線や半隆起線による逆U字区画文(図31-9・10)や隆帯や微隆起線による渦巻文や区画文(図31-11・12)が描かれるもの。頸部の把手の中間に隆帯円文が添付されるものもある(図31-9・10・12)。把手は中央に溝状の沈線を有するものが多い。

4類：壺A-IIにあたり、胴部に、沈線による「連結U字文」や連結波形文などが描かれる(図31-13～15)。把手中には溝が残るものと無いものがある。

5類：壺A-IIにあたり、区画線下の胴部は地文のみのもの(図32-16～19)。把手中には溝がみられない。

8群：壺B-1・2・3にあたる赤彩壺類である。 α や ε の系統が推測されるものも便宜的にここへ含めた。

1類：B-I

2類：B-II

3類：B-III

9群：台付き深鉢の一部（図版372 ⑤a区東壁-1）

10群：ジョッキ形土器。ただしαの5群との関連も認められる。

γ. 圧痕隆帯文土器の範疇でとらえられるもの（圧痕隆帯文系）（図34）

圧痕もつ隆帯が口縁下にめぐる土器に対して「圧痕隆帯文土器」の命名がなされ、口縁部が外反して立ち上がる折り返し肥厚口縁の群から、内湾して立ち上がる平縁の群への変遷が指摘されている（綿田1983）。屋代遺跡群ではこれらがかなりまとまった形で出土している。ここでは、従来の「圧痕隆帯文土器」に圧痕隆帯文を有する土器を加えて、以下の4群に大別した。

1群 深鉢B-IIのものを一括した。

1類：口縁部が外傾し胴部下半が膨らむ器形。口唇部が折り返されて肥厚しているもの（図34-1）が見られる。文様は上巻きの隆帯渦巻が口縁部を巡り、その逆の端が垂下して先端部が緩い渦巻になる極めて定型的な構成をとる（圧痕隆帯文土器「基本構成」）。垂下する渦巻は胴部くびれ部付近までのもの（1）と、それより下まで降りるもの（2）があり、前者の胴部下半には縄による逆U字的な文様が描かれるものもある。隆帯は断面三角形で、先端が尖ったものがある。頂部にはへら状工具による三角形の圧痕が押圧されている。地文は横回転の縄文で、間隔をあけて施文され、口唇部まで転がされているもの（4）と口縁部が無文のものがある。また、器形・文様構成ともに類似するものの、隆帯頂部の圧痕が欠落する土器が極少数見られる（5）。

2類：1群と同様の特徵で、地文のみが条線のもの。

2群 深鉢C-IIのものを一括した。

1類：口縁部が内湾し、胴部が膨らむ器形。上巻きの隆帯渦巻文が口縁部を巡り、その逆の端が垂下して先端部が渦巻になる。口縁部がやや内傾するもの（6・7）と強く内湾するもの（8）が見られる。隆帯は断面三角形もしくは台形（9）で、1群よりやや緩やかである。頂部には三角形もしくは紡錘形の圧痕が刻まれる。渦巻の巻き方も1類よりもやや緩いものが見られる（8・9）。地文は横方向の縄文で間隔をあけて施文される。口唇部が無文のもの（6・8・9）と縄が転がされているもの（7）がある。

2類：口縁部が内湾し、胴部が膨らむ器形で、上巻きの隆帯渦巻が口縁部を巡るが、地文が横方向の「簾状工具」⁽⁴⁶⁾による波状条線文。隆帯は断面三角形、圧痕は三角形を呈する（10）。

3類：下巻きの渦巻をもつ圧痕隆帯文が口縁部を巡る。隆帯は2類より更に低く、圧痕は扁平な紡錘形のものが増える。途切れなく地文が付加されるもの（13）や、隆帯直下に勾玉状沈線が沿うもの（15）が見られる。文様構成は1・2類同様の「基本構成」の他に、口縁部に圧痕隆帯が一条巡り、その下に「基本構成」の圧痕隆帯文（16）や、Γ字状圧痕隆帯文（17）が巡るものが出現する。

4類：地文が沈線のもの（18~20）。

5類：口縁部に沿って巡る隆帯の上のみに圧痕が付されるもの（21）。縦方向に微隆起線が垂下する手法や地文の回転方向は（縦方向）はβと共通する。口縁部に圧痕隆帯文の代わりに押圧縄文が施されるものも、圧痕と同様の効果を意図していると思われる（22）。

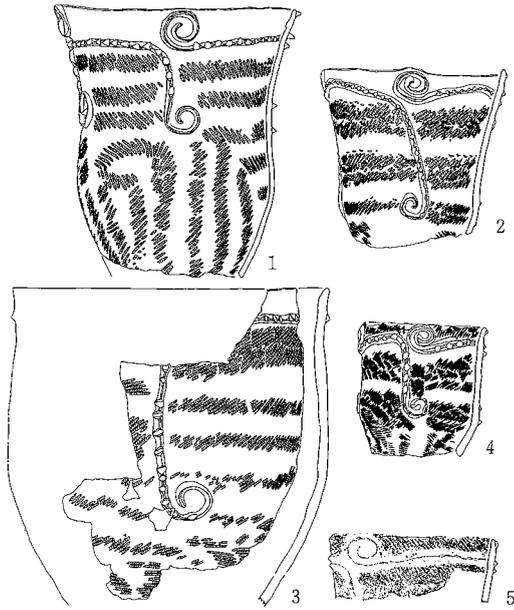
この他、口縁部に上巻きの長尾渦巻と下巻きの長尾渦巻が圧痕隆帯文土器と同様な構成をとり、胴部には逆U字の隆帯が添付されるものがあり、本群との関係が窺われる（図版354-16）。

3群：深鉢Aのもの。口縁部がやや内湾し、頸部で極めて緩やかにくびれ、胴部が微かに膨らむ器形。

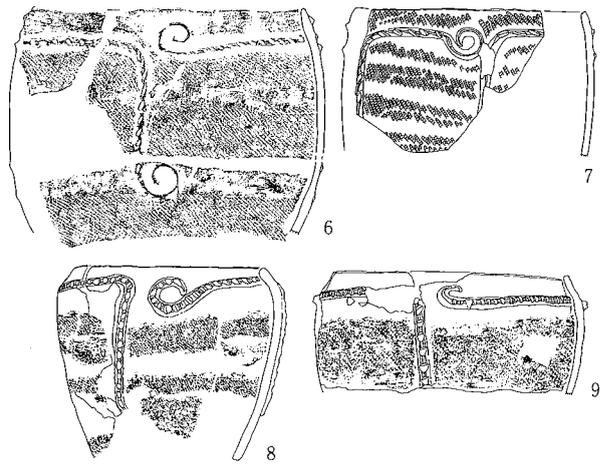
1類：深鉢A-III 1で、圧痕隆帯文が長C字状に添付され、縦に垂下するもの（23）。23の地文の条線は工具を連続的に半回転させながら付けたものである。

2類：深鉢A-II 1で、間隔の狭い円形・楕円形の圧痕隆帯文（「鎖状圧痕隆帯文」）によって文様が描

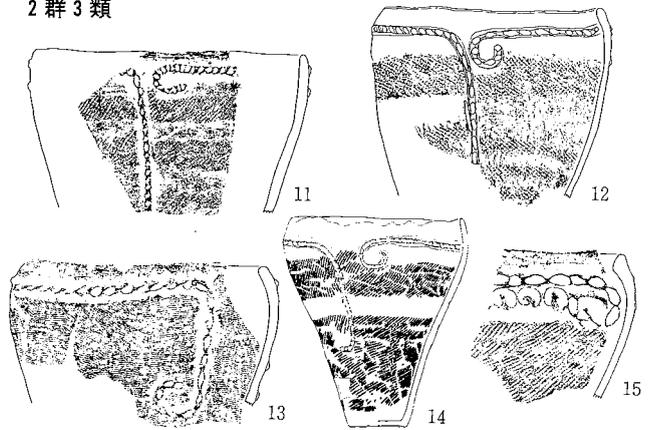
1群1類



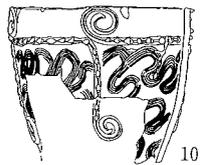
2群1類



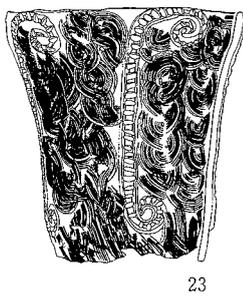
2群3類



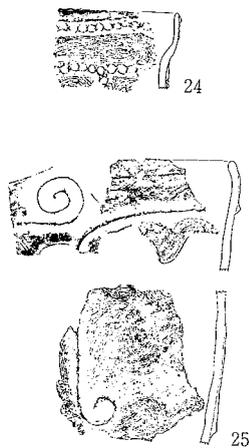
2群2類



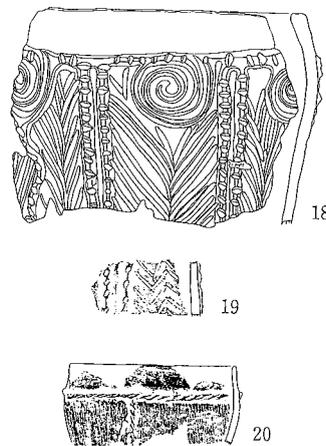
3群1類



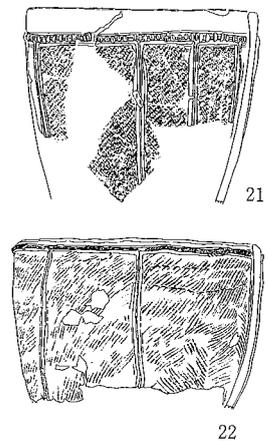
3群2類



2群4類



2群5類



4群

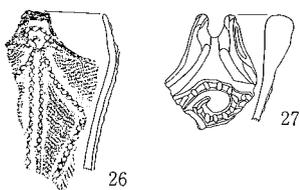


図34 圧痕隆帯文土器(γ)の分類

かれる。器形は波状口縁・平縁（24）ともにある。地文は条線が見られる。

隆帯上に圧痕の無いものに条線地文で深鉢Aのものがある（25）。

4群：深鉢（AもしくはC）で、波状口縁を有するものを一括した（26・27）。

δ. 渦巻多連文土器とそれに類するもの（渦巻多連文系）

屋代遺跡群では口縁部に隆帯渦巻文が多数連なる「渦巻多連文土器」とでも言うべき土器が多数出土し、時期的な変遷が看取される。これらは圧痕隆帯文土器などとともに千曲川流域における在り「土器型式」を構成する「類型」の一翼をになうものと認識している。

ここでは仮称「渦巻多連文土器」の定義と屋代遺跡群における型式学的な特徴を紹介したい。

1群：深鉢A-I 1のもの。器形には口縁部の内湾が弱いもの（図版353 SK9071-4・図版279 SB5332-6）と強いもの（図版273-7）がある。口唇部から延びるJ字状の隆帯渦巻が口縁部を一周する点が最大の特徴である。

1類：口縁部文様帯としては隆帯によるJ字状の渦巻文が9単位～10単位連続して添付される。地文は縦方向の単節・複節縄文で、胴部文様は、U字文と懸垂文（図版353 SK9071-4）、U字文と垂下沈線が入り組むもの（図版279 SB5332-6）、2本の垂下沈線（図版251-15）、変形M字状文（図版273-7）などで、沈線間に円形刺突や蛇行沈線が付随するものがみられる。

2群：深鉢C₁-I 2・3で、口縁部直下に、1類と同様のJ字状隆帯渦巻文が連なる。SB5313a-44（図版255）は、円形透かしの入った突起が4単位口縁部を巡り、突起部分に断面三角形の隆帯によるS字状の渦巻文が添付される。S字文から延びた2条の隆帯は平行して口縁部を一周するが、下段の隆帯から下方向に、渦巻多連文が付く。渦巻文下には沈線による直線懸垂文、蛇行懸垂文や、隆帯懸垂文（図版278-11）が垂下する。

ε. 条線文・沈線文の地文を有するもの（曾利・唐草文系）

曾利・唐草文系土器は同じ千曲川水系でも上小・佐久地方より格段に少なく、散発的に出土しているのみである。両者は別の土器型式であるが、点数が極めて少ないことから一括記載した。

1群：深鉢A-Iに相当する。

1類：口縁部はほぼ直立し、口縁部文様帯には横方向の、胴部文様帯上部には縦方向の綾杉状長沈線が地文となる。頸部のS字状隆帯から3本の腕骨文隆帯が垂下し、さらに斜め上に向かって棘の付いた長尾渦巻が添付されている^(註7)（図版360 SQ4803a-1）。唐草文系II段階に相当する。

2類：第一文様帯に縦の条線地文が施文されるもの。頸部には半截竹管による刺突列が巡る。曾利III式併行の深鉢（図版354-11）。

2群：深鉢A-IIに相当する。

1類：「連結U字文対向型」の地文に沈線が使われているもの（図版362 SQ5529-1）。地文を除いてはβに属する。曾利V式併行。

3群：深鉢B-IIに相当する。

1類：口縁部は直立し、湾曲する沈線が地文を構成するいわゆる「佐久系土器」（図版337-18）。

2類：口縁は直立し、無文で、体部に短沈線による地文が施されるもの（図版270-11）。

4群：深鉢C-I類に相当する。

1類：綾杉状を呈する長沈線が地文となるもの。中央に渦巻文が陰刻される2本一対の隆帯が垂下する（図版317-67）ものや、横方向の綾杉状沈線地文を有し、一条の微隆起線が垂下するもの（図版306-39）などがある。唐草文系II段階後半～III段階。

2類：縦の長沈線が地文となるもの。口縁部を巡る隆帯から渦巻文と蛇行懸垂文が垂下する（図版329

-22)。

3類：短沈線が地文となるもの。胴部には逆U字文などが描かれるもの(図版362 SQ5535-1)、1条の微隆起線が垂下するもの(図版268-17)、間隔の開いた2条の沈線(充填・磨消懸垂文A)が垂下するもの(図版295-13)、同様に2条の微隆起線が垂下するもの(図版302-7)がある。

4類：条線地文のみのもの(図版362-6)。

5類：短沈線地文のみのもの(図版371-7)。

5群：深鉢C-IIIに相当する。

1類：口縁部の渦巻文からのびる隆帯によるU字状の区画を有するもの。横方向の長沈線地文が、隆帯区画内を埋めている(図版354-12)。曾利IV式併行。

2類：隆帯による蕨手懸垂文が間隔を開けて貼付されるもの。地文は湾曲する条線である(図版330-26)。

6群：深鉢Dに属するもの。

1類：口唇部に溝を持ち、頸部に隆帯が一条巡るもの(図版360 SQ4803b-1)。

ζ、串田新式の範疇でとらえられるもの(串田新系)

屋代遺跡群では串田新式と考えられるもの、串田新式に類似しているもの、串田新式が加曾利E式と折衷したものが認められる^(註8)。

1群：串田新II式。M字状の双頭をもつ波状口縁の中央に、X字状隆帯とそれに並行する隆帯が添付される。隆帯上には縄が横方向に転がされ、隆帯間にはくの字状沈線が連続する。かなり薄手で焼きしまりも良好(図版370 ⑤a区M-3、図版360 SF5176-3)。

2群：串田新式に類似し、上越地方との関連が窺えるもの。胴部が膨らむ器形で口唇部は無文。口縁部直下に縄文が施文された隆帯が巡り、それらに沿って円形もしくは楕円形の刺突が施される。胴部は縄文(図版343-6・図版372-13)。

3群：串田新式の器形特徴を残したもの。波状口縁頂部に突出したM字状の双頭を有するもの(図版278-8)。

この他、縦方向に鋭く突出したM字状の双頭を有する口縁部破片が住居跡などから出土している(図版327-13他)。

η、その他の土器

以上周辺の土器型式や在地の類例から検討を加え、系統別に分類を行ってきた。以下はそれらと類似するものや折衷土器、あるいは別の系統が追える可能性が推測されるものである。今後資料の増加に伴い再考していきたいと考える。

1群：深鉢A-Iもしくは鉢形土器

1類：緩いM字状の双頭をもつ4単位の波状口縁で、口縁部に1～2条の浅い沈線が巡り、沈線間に楕円形の列点(図版284-8)や断面鋭三角形を呈する縦の紡錘形の刻み(図版276-28)を有するもの。胴部の文様は楕円区画と蕨手文からなる。ζがαやβと折衷したものか。

2群：深鉢B-I 1のもの。

1類：第一文様帯は無文で、口縁部下の区画隆帯からJ字状の連結渦巻や舌状区画隆帯が垂下するもの。δやεの可能性ある(図版252-34)。

3群：地文のみのもの

1類：口縁の内湾する深鉢A-III1で、縄文のみが施文されるもの。釣手付深鉢、注口土器、もしくは口縁部に突起が付く可能性もある。大木9式に類例が認められるが加曾利E式にも可能性ある(図版294-

9)。

2類：深鉢C-IIIで縄文のみが施文されるもの（図版326-3）。

3類：深鉢C-IIIで、波状条線のみ施文されているもの。

4群：全く無文のもの。

1類：深鉢A-IIIに相当するもの（図版329-24）。

2類：深鉢C-IIIに相当するもの（図版330-27）。

(4) 中期後葉土器群の出土状況

中期後葉土器5,949,629gのうち、約54%の3,232,195gが遺構出土、残りの2,717,434gが遺物包含層や外周トレンチで出土した（表5）。

A 遺構出土土器

遺構別の出土土器の概要は、住居跡出土土器を表30の「遺物出土状況」と「特記遺物」、掘立柱建物跡出土土器を表31の「土器概要」と「備考」、土坑出土土器を表32の「土器概要」と「備考」、溝跡出土土器を表33の「土器概要」と「備考」、焼土跡出土土器を表34の「土器概要」と「備考」、遺物集中出土土器を表35の「土器概要」と「備考」、石集中出土土器を表36の「土器概要」と「備考」、不明遺構出土土器を表38の「土器概要」と「備考」に記載した。なお杭列のピット内では土器は出土していない。

B 遺物包含層出土土器

遺物包含層出土土器で、復元・図示できたものは59点であるが、これは時間的制約にのみによるもので、内容としては遺構出土土器に匹敵する。8mグリッドを基準にすると、⑤・⑥区ではほぼ全てのグリッドで土器の出土が見られる。これらのグリッド別の土器量とそれぞれの概要は表39-②に記載した。

④区の様相 ④c・d・f・g区で土器片が出土している。特にXII-2層IW5区では小形の釣手付深鉢がβ2群1類土器と共伴する。

⑤a区の様相 ⑤b区よりは遺物量は少ないものの、串田新系土器や赤彩土器、後期に下る土器などが出土している。特に⑤a区XII-2層下面IM15区では赤彩が施された有孔鏝付土器（図版369 ⑤a区M-2）やξ串田新系土器（図版370 ⑤a区M-3）が出土し、周辺から加曾利EII新系や大木9a系土器が出土している。

⑤b区の様相 集落中央には住居跡が埋まりきった後まで廃棄され続けていた土器が多量に検出され、集落南側では集落に付属する廃棄場に捨てられた土器が面的に検出された。特にIN13区では釣手付深鉢の釣手部分や、ξ3群、αの双翼状突起が出土。さらにXII-2層上面IS11区ではξ2群（図版372 ⑤b区S13）に、β加曾利EIII新～加曾利EIV式系の破片が伴う。XII-2層-1IS18では鳥の頭の形をした口縁部突起（図版372 ⑤b区S-16）にβ加曾利EIII古系やα、δ、土製蓋（図版374-7）が伴っている。

⑥a・b区の様相 遺構密度とほぼ比例し、⑥b区で出土量が多い。特に⑥b区XII-2層IN3区では大木9a系土器の口縁部がまとまって出土しており、住居跡内出土土器と接合する可能性がある。またIN4区は、被熱土器を含む細片の一括廃棄場と見られ、β主体でα、γ、εが組成する。IN5区はγがやや多く、α・βなどの破片を含み、有孔球状土製品（図版374-3）が出土している。

(5) XII-2層検出の後期の土器とその出土状況

XII-2層面から検出されたものの、後期に含まれるか後期までの時間幅^(註9)で考えられる土器で、図化したものは4点である。まずはXII-2層の上部で検出されたSX5506の埋土中からは称名寺式併行の土器（図版369 SX5506-2）が出土した。XII-2層上面で検出されたSH5101からは加曾利EIV～称名寺式併行の

時間幅でとらえられるもの(図版369 SH5101-2)が出土した。一方R3区のXII-2層下面からは称名寺I式中段階に相当するもの(図版370 ⑤a区R-1)、N23区からは西日本的な称名寺式と推測されるもの(図版370 ⑤b区N-11)などが確認された。このように後期初頭の土器は、集落西側の⑤区を中心とした遺物包含層や上面検出の後葉の遺構内に少量混在しているにすぎない。

引用・参考文献

- 相原淳一他 1988 『大梁川・小梁川遺跡』宮城県教育委員会
- 石坂 茂・藤巻幸男・桜岡正信 1988 「加曾利E式土器に関する一考察」『群馬の考古学』
- 黒尾和久 1995 「縄文中期集落の基礎的検討(1)」『論集 宇津木台』
- 谷井 彪・宮崎朝雄他 1982 「縄文中期土器群の再編」『埼埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』
- 丹羽 茂 1989 「中期大木式土器様式」『縄文土器大観』1
- 西山太郎 1986 「微隆起線文土器群の変遷と分布」『千葉県文化財センター研究紀要』10
- 水沢教子 1996 「大木8b式の変容(上)―東北・越後そして信濃へ―」『長野県の考古学』
- 水沢教子 1998 「縄文文化の爛熟―中期―」『御代田町誌 歴史編』上
- 綿田弘実 1983 「北信地方における縄文中期後葉より後期初頭の土着土器」『須高』第17号
- 綿田弘実 1988 「北信濃における縄文中期後葉土器群の概観」『長野県埋蔵文化財センター紀要』2
- 綿田弘実 1997 「長野県伊那市手良出土の靴形土器」『長野県立歴史館研究紀要』第3号

註

- 1 大木8b式B類型に派生すると考えている(水沢1996)。
- 2 宮城県登米郡中田町浅部貝塚は1966年に調査され、大木8b式古相~大木9式新相が層位的に良好なまとまりをもって出土した貝塚であるが、正式報告は未刊である。
- 3 1998年度宮城県鳴瀬町教育委員会の調査による。
- 4 大木9a式は山前遺跡出土土器や浅部貝塚I o層出土土器を基準とした古相(大木8b~9式)と大梁川遺跡IV層・上深沢遺跡出土土器を基準とした新相に分けられる。
- 5 α の2群の中には隆沈線が微隆起線化し、渦巻の巻きが弱まり、「胴部隆帯文土器」への変容が予測されるものが含まれるが、その分布範囲や変容の度合いを考慮し、「胴部隆帯文土器」を β に含めた。
- 6 徳永哲秀氏の御教示による。圧痕隆帯文土器や曾利・唐草文系土器の条線地文原体の観察を、今後の課題としたい。
- 7 大木8b式の南下に伴って魚沼地方から北信地方を中心に生成された土器と推測している。屋代遺跡群の後葉集落がこの土器の埋設によって開始されることは、後に大木9式期になって更に活発化する大木式情報の南下を考える上で重要である。
- 8 綿田弘実氏、寺崎裕助氏にご教示いただいた。
- 9 中島庄一氏、綿田氏にご教示いただいた。

※表39-(1)~(3)は口縁部が残存している「外形あり」
表39-(4)~(7)はその他

表39-(1) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図号	報告書番号	出土位置	出土位置	器種	系統	地文	文様	色調	胎土	備考
239	SB 5302	1	SB5302埋壁	深鉢	δ	体:URL縦	口:隆帯渦巻多連文 体:地文→磨滑平行沈線文	7.5YR橙	p1小多.ho.mg大.WR.GR	体部打ち欠き、磨り
239	SB 5310	1	埋壁.SB53221L.3L.117中.上117中	深鉢	β	口:体:RL縦	口:横位渦巻精円文・地文→隆帯隆沈線 体:隆帯・地文→逆U字区画文+磨消懸垂文A	7.5YRこぶい 橙	bi小.qu.pl小多.ho小多.GR大	底部接合部で切断、磨り
239	SB 5310	2	3L.4.56./3L18	深鉢	α	体:RL横	口:突起・横帯 体:沈線・区画曲線隆帯手文→地文	7.5YRこぶい 褐	qu.pl.mg.BR.WR大.GR	—
240	SB 5310	27	1L相当68	深鉢	α	体:LR縦	口:横沈線 体:地文→勾玉状沈線・区画隆帯手懸垂文	2.5YR橙	bi.pl.ho.mg.GR	—
240	SB 5310	32	1L上面48.上117中./1L	深鉢	α	体:RL縦	口:横帯 体:地文→区画曲線隆帯手文・脇打	5YR橙	bi.qu.pl.ho.mg.WR.BR	—
241	SB 5310	35	X.II-2L.1L14.1L上面(21.22.34.44.51.63.65.69).3L19	深鉢	α	口:体:RL縦	口:横溝状沈線・隆帯突起 体:地文→沈線区画曲線隆帯手文・区画隆帯手懸垂文	7.5YR橙	p1小多.ho.mg小~大.GR	—
242	SB 5311	6	P1	深鉢	α	体:RL縦	口:横帯・隆帯突起 体:沈線区画曲線隆帯手文→地文	7.5YRこぶい 橙	p1小.ho小.mg	体部下半打ち欠き、磨り
242	SB 5311	13	C6L [△] .1L.5L.B1L.4L下面117中.5・6L.C4L [△] .4L下面116	深鉢	α	口:RL縦・横	口:隆帯横入り組み渦巻精円文→地文 体:連続曲線隆帯手文→地文	7.5YR橙	bi.qu大.pl.WR.GR	体部下半打ち欠き、磨り
242	SB 5311	15	C6L [△] .1L.C5L [△] .外	深鉢	δ	体:RL縦	口:隆帯渦巻多連文→横沈線 体:地文→磨消懸垂文A・沈線懸垂文	5YR明赤褐	qu大多.pl小.mg	—
243	SB 5311	23	117中5・6L.C1L.4L下面(136./19.31.54.58.61.139.157.158.162)./5L集中(7.23)	深鉢	α	体:縦条線	口:横溝状沈線・双翼状突起 体:区画曲線隆帯手文→地文	7.5YR橙	pl.mg.BR大.川砂	—
244	SB 5311	30	117中5・6L.4L下面(153.186./3.70)./C	深鉢	γ	—	口:圧痕隆帯文2条 体:圧痕隆帯文・脇打→地文	7.5YRこぶい 橙	bi.qu.pl.ho.mg.WR	缺状圧痕隆帯文
244	SB 5311	45	4L下面(20.67)	壺	β	体:LR縦	口:横・斜め磨り 体:地文→沈線逆U字区画文	7.5YR橙	qu大多.pl小~大.mg大.WR	—
245	SB 5312	1	埋壁1.SB5313b.1L45	深鉢	β	口:LR横・斜 体:LR縦	口:隆帯陰刻横位入り組み渦巻精円文→地文 体:磨消懸垂文A	7.5YRこぶい 橙	p1小多.GR大	体部下半打ち欠き
246	SB 5312	11	床30	ニテマコ鉢	—	地文なし	無文	7.5YRこぶい 橙	qu大.pl.mg.GR大.WR	口縁部一対の孔。内面底部漆付着。外面赤彩
246	SB 5312	16	P1.D3L.D1L./2L下面(104./100)	深鉢	β	体(上):LR横 体(下):LR縦	口:横沈線2条間連続刺突 体:地文→磨消波状文	10YR極灰	qu小.pl小多.mg小.BR大.GR	—
247	SB 5312	23	B2L灰中上.D117中3.A2L.1L集中(43.44./42)./A.B.D117中.D1L.B2L灰中	深鉢	γ	体:LR横	口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯文→地文	7.5YR橙	p1小多.mg.BR.WR.GR	—
250	SB 5313a	1	埋壁	深鉢	β	口:体:LR縦	口:隆帯横位渦巻精円文→地文 体:沈線磨消逆行懸垂文	7.5YRこぶい 橙	qu大多.pl.mg	体部下半打ち欠き、磨り
250	SB 5313a	3	炉.3L中.A1旧炉上.1LP5	深鉢	α	体:RL縦	口:隆帯横位渦巻精円文→地文 体:脇打	7.5YRこぶい 橙	qu大多.mg小.BR大 大片で岩石・磁物少	—
250	SB 5313a	9	B2L.SB5311 4L下面	深鉢	β	口:RL横 体:RL縦	口:隆帯横位渦巻精円文→地文 体:地文→区画隆帯手懸垂文	5YR橙	qu大.pl.WR.GR	—
251	SB 5313a	15	B2L	深鉢	δ	体:RL縦	口:渦巻多連文 体:地文→沈線磨消懸垂文	5YR赤褐	qu.pl.mg.WR	—
251	SB 5313a	28	1L	ニテマコ鉢 ~外形も しくはか り(7形)	—	地文なし	無文	7.5YR橙	p1小.ho小.mg小.BR大	—
252	SB 5313a	34	1L上面.SK5584 1L	深鉢	η	体:RL縦	口:横打・横隆帯 体:隆帯渦巻文とU字区画文・地文→地文脇打	5YR橙	qu大.pl.mg.WR	—
255	SB 5313a ~b	44	A2L [△] .1L.C2L.2L~SB5313b.1L.SB5311A5 1L.1L./D2L [△] .外	深鉢	δ	体:LR縦・横	口:横隆帯2条・5字状突起 体:地文→半載竹管 による平行懸垂文	5YRこぶい赤 褐	qu大多.pl小.mg.BR.WR.GR	底部割代
252	SB 5313b	1	B3L中.1L(165.166)	深鉢	α・β	口:— 体:RL縦・横	口:隆帯横位入り組み渦巻精円文→地文 体:網文のみ	2.5YRこぶい 赤褐	qu.pl.WR.GR	—
253	SB 5313b	15	B1L.SB5313aP.SB5313aA2L [△] .1L.44.A1 1L.外	深鉢	α	体:RL斜・横	口:溝状沈線・双翼状突起 体:隆帯連続曲線隆帯手文→地文	5YRこぶい赤 褐	qu大.pl小.mg.RR	—

表39-(2) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土位置	器種	系統	地文	文様	色調	胎土	備考
254	SB 5313b	22	1L (56, 58, 78)	SB5313a42L	深鉢	β	口：LR横 体：LR縦	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→脈状沈線 体：地文→磨消流線手文	10YRにぶい 黄橙	qu大, p1小~大, mg, BR, GR	—	
255	SB 5313b	36	SB5313a42L<ノ>ト, 1L	深鉢	α, β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YRにぶい 橙	p1, mg大, BR大, WR大	胎土分析323未		
255	SB 5314	1	厚襷/2L, SB5312 47, SB5328 168	深鉢	ϵ	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	7.5YRにぶい 橙	p1, WR大	胎土分析323未		
255	SB 5314	2	埋壘1	壺	β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	7.5YRにぶい 橙	bi, p1小, mg小	胎土分析323未		
256	SB 5316	1	埋壘1	深鉢	β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YRにぶい 橙	p1小, mg小, BR大, GR大, 川砂状	胎土分析284未		
256	SB 5316	3	埋壘2	深鉢	γ	口・体：LR横 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YRにぶい 橙	bi小, p1小, mg, WR	胎土分析285未		
256	SB 5316	5	埋壘4	深鉢	β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	7.5YRにぶい 橙	p1, WR大, RR大	胎土分析286未		
257	SB 5316	9	1L, 床, 20, 35	壺	β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	2.5YRにぶい 橙	p1, ho小, GR	—		
257	SB 5316	19	1L	深鉢	β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	7.5YRにぶい 橙	p1多, ho, mg, BR, WR	補修孔らしき跡あり		
258	SB 5316	29	1L, 埋土2L, /SB5328 3L	深鉢	—	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	7.5YRにぶい 橙	bi小, p1小, BR大, RR大	—		
259	SB 5317	1	埋壘	深鉢	—	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YR明赤褐	qu, p1, ho, mg, BR大, WR大, GR大, RR大	—		
259	SB 5318	3	埋壘, 21石下	深鉢	α	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YRにぶい 橙	p1小~大, WR大	—		
259	SB 5318	6	炉面	深鉢	γ	口・体：LR横 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YRにぶい 橙	bi, p1小多, mg小~大多, BR小~大多, GR大, RR大	—		
260	SB 5319	1	埋壘No.2	深鉢	β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YRにぶい 橙	p1小, ho, mg小, BR大, WR大	胎土分析300未		
261	SB 5319	13	炉底(1.5.6)	深鉢	γ	口・体：LR斜 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	7.5YRにぶい 橙	bi, qu大, p1小~大, ho, mg, BR大, WR大, GR大, RR大	胎土分析300未		
261	SB 5319	14	炉底, 4L	深鉢	α	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YR赤褐	qu大, p1小, mg小, WR大	—		
262	SB 5319	17	床, トンチ, 70	深鉢	β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	10YR明黄褐	p1小多, ho, mg, WR, RR	胎土分析300未		
262	SB 5319	21	2L相当65, 埋土, SB5345AUL	深鉢	β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	7.5YR浅黄橙	qu, p1, mg, BR, WR, GR	—		
262	SB 5319	23	2L相当(24, 25)	深鉢	β	口・体：LR斜・縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YRにぶい 橙	p1小, ho, mg小, BR, GR	—		
263	SB 5321	6	床, 120, SB5319 53	深鉢	β	口・体：LR横 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	7.5YRにぶい 橙	p1小, ho小, mg, BR, GR	下部磨耗		
263	SB 5321	9	2L相当ML, SB5319 (55, /77)	深鉢	β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YRにぶい 黄橙	bi小, p1小~大, ho小, GR大, RR大	—		
264	SB 5322	1	埋壘	深鉢	β	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	10YRにぶい 黄橙	p1, ho, WR大, GR	胎土分析300未		
265	SB 5322	8	埋土, 4, 6, 7, トンチ, /64	深鉢	α	口・体：LR縦・横・斜 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YRにぶい 黄橙	p1小, ho小, mg, BR, GR, RR	—		
265	SB 5323	1	ho, 33埋壘	深鉢	β	口・体：LR横 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	10YRにぶい 黄橙	p1, ho, WR大, GR大	—		
265	SB 5323	2	22, 25, 3L, トンチ	深鉢	α	口・体：LR縦・斜 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	7.5YRにぶい 黄橙	bi小, p1, ho小多, mg小, GR 川砂的	内面部分的に灰。弱く被熱		
265	SB 5323	4	3L相当(4, 21)	深鉢	α	口・体：LR縦 口・体：最上縁に 横線彩状	口：隆部刻線入り組み渦巻帯円文・地文→磨消流線 手文区画文・蛇行懸垂文 口：高隆部長尾渦巻文→沈線・刺突 体：隆部弱 骨文・沈線逆字文	5YR明赤褐	qu小, p1小, ho小, mg, BR, WR	—		

表39-(3) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図号	透視番号	透視番号	報告番号	出土位置	出土位置	器種	系統	地文	文様	色調	粘土	備考
265	SB 5323	5	3L相当39, SB53222 (SB5310 3L9)	3L相当(9.23)	深鉢	α	口: RL横・斜 体: RL縦	口: 部分隆帯・横位区画文→地文 体: 沈線区画 腕手懸垂文→地文	口: 横打* 体: 一	7.5YR浅黄緑	bi/h, pl/h, ho/h, mg/h, GR	—
265	SB 5323	6	3L相当(9.23)	3L相当(9.23)	壺	β	体: RL斜	口: 横打* 体: 一	口: 横打* 体: 一	5YRにぶい	pl/h, mg/h, BR, GR, RR	—
266	SB 5323	7	3L相当(25.30)	3L相当(25.30)	深鉢	α・β	口: LR横 体: LR縦	口: 地文・横沈線2条 体: 地文→逆U字区画文	口: 地文・横沈線2条 体: 地文→逆U字区画文	7.5YR明褐灰	pl/h, ho/h, mg/h, BR, GR, RR	—
266	SB 5323	8	3L相当(3.18, 19.26)	3L相当(3.18, 19.26)	深鉢	β	口: LR横 体: RL縦	口: 部分隆帯横位区画文→地文 体: 沈線区画腕手懸垂文B→地文	口: 部分隆帯横位区画文→地文 体: 沈線区画腕手懸垂文B→地文	5YRにぶい赤褐	pl/h, BR/h, GR/h	—
266	SB 5323	9	3L, SB5310 (51.3L), 3L相当(8.20, /1.7, 29)	3L相当(8.20, /1.7, 29)	深鉢	γ	体: RL横	口: 横帯・圧痕隆帯文 体: 圧痕隆帯文→地文	口: 横帯・圧痕隆帯文 体: 圧痕隆帯文→地文	5YR橙	bi, qu, pl/h, ho/h, mg/h, BR, GR, RR	—
267	SB 5323	10	2.3.9, 12.13.14.15.16.28.3L	2.3.9, 12.13.14.15.16.28.3L	深鉢	β	口: 体: LR横・L 横・L斜	口: 部分隆帯・横位入り込み渦巻帯文→地文 体: 地文→沈線区画腕手懸垂文	口: 部分隆帯・横位入り込み渦巻帯文→地文 体: 地文→沈線区画腕手懸垂文	5YR橙	pl/h, mg/h, BR, GR, RR	川砂多く焼きが弱い。体部下半に埋 葬に特徴的な打ち欠き、磨り
267	SB 5324	3	126埋覆	126埋覆	壺	β	縦条線	口: 横打* 口: 体: 横帯隆起線→腕手テ→地文	口: 横打* 口: 体: 横帯隆起線→腕手テ→地文	7.5YR橙	qu, pl/h, mg/h, GR	—
267	SB 5324	9	周壁中	周壁中	深鉢	—	口: 体: LR横・L 横・L斜	口: 体: 地文	口: 体: 地文	7.5YR橙	qu, pl, ho, mg, WR, GR	—
267	SB 5324	15	2L45	2L45	深鉢	—	体: RL横・横	口: 体: 地文	口: 体: 地文	7.5YR橙	pl/h, ho/h, mg, GR/h	—
268	SB 5324	17	P9, 原堀方, P9 (2.4.5.7.13.14.16./9, 10.11.12)/床面	P9, 原堀方, P9 (2.4.5.7.13.14.16./9, 10.11.12)/床面	深鉢	ε	短沈線(雨垂状)	口: 横帯隆起線→横打* 体: 横帯隆起線懸垂文1条→地文	口: 横帯隆起線→横打* 体: 横帯隆起線懸垂文1条→地文	5YR明赤褐	bi/h, qu, pl/h, ho/h, mg/h, BR, GR, RR	割口は磨耗 内面煤
268	SB 5324	19	2L相当(59.60)	2L相当(59.60)	深鉢	—	体: LR縦	口: 横帯・横帯隆起線 体: 地文	口: 横帯・横帯隆起線 体: 地文	7.5YR浅黄緑	qu, pl, ho, mg, BR, GR, RR, GR, RR	割口は磨耗 内面煤
269	SB 5324	30	周壁, 116, 122	周壁, 116, 122	深鉢	β	体: LR横(間隔施文)	口: 横沈線1条か2条・横打* 体: 地文	口: 横沈線1条か2条・横打* 体: 地文	7.5YR橙	bi/h, qu, pl/h, ho/h, WR/h, GR/h	—
269	SB 5325	3	埋覆1, 柄掘り方, 43	埋覆1, 柄掘り方, 43	壺	β	口: LR横・区画 内: LR横・縦	口: 横・斜帯・横帯隆起線 体: 隆帯→横帯隆起線 渦巻文・懸垂文・地文→腕手テ	口: 横・斜帯・横帯隆起線 体: 隆帯→横帯隆起線 渦巻文・懸垂文・地文→腕手テ	5YR橙	bi/h, pl/h, mg/h, BR/h, GR/h, RR/h	体部文様は、大木9b~10古に類列多 り
270	SB 5325	6	埋覆4	埋覆4	深鉢	γ	体: LR横	口: 横帯・圧痕隆帯文 体: 圧痕隆帯文→地文	口: 横帯・圧痕隆帯文 体: 圧痕隆帯文→地文	5YR橙	bi/h, qu, pl/h, mg	底部網代
271	SB 5325	19	2L, 4L, /6~8L	2L, 4L, /6~8L	深鉢	α	体: LR横, 縦	口: 横打* 体: 横帯隆起線2条によるU字区画文・逆 U字区画文→地文	口: 横打* 体: 横帯隆起線2条によるU字区画文・逆 U字区画文→地文	5YR橙	bi, pl, ho, mg	大木10系
271	SB 5325	21	5・8L, トリノ, 2L, 4L	5・8L, トリノ, 2L, 4L	深鉢	β	体: LR縦	口: 横帯 体: 多重沈線文→地文	口: 横帯 体: 多重沈線文→地文	10YRにぶい 黄緑	qu/h, mg/h, BR/h, GR/h, RR/h	体部下半打ち欠き、磨り。口縁部形 状不明につき、図上復元せず
271	SB 5325	23	5・8L, 1L, 2L	5・8L, 1L, 2L	深鉢	β	体: L斜	口: 横帯 体: 横帯隆起線多重不整帯区画文・地 文→腕手テ	口: 横帯 体: 横帯隆起線多重不整帯区画文・地 文→腕手テ	2.5YR橙	bi, qu, pl, BR, GR	—
272	SB 5325	25	2L, 1L, 柄	2L, 1L, 柄	深鉢	—	縦条線	口: 一 口: 体: 横沈線→地文	口: 一 口: 体: 横沈線→地文	10YR浅黄緑	pl, ho, mg, BR, GR, RR, GR, RR	外面煤
272	SB 5326	12	2L相当(10.13)	2L相当(10.13)	深鉢	α・β	体: LR縦	口: 体: 地文→沈線区画腕手懸垂文	口: 体: 地文→沈線区画腕手懸垂文	2.5YR橙	pl/h, ho, mg, BR, GR, RR, RR, GR	内面煤、口縁部外面帯状煤
273	SB 5328	1	埋覆	埋覆	深鉢	γ	口: 体(上): LR 横 体(下): LR縦	口: 地文・圧痕隆帯文→腕手テ 体: 圧痕隆帯文→地文	口: 地文・圧痕隆帯文→腕手テ 体: 圧痕隆帯文→地文	2.5YR橙	qu, pl/h, mg/h, BR/h, GR/h	体部下半磨り
273	SB 5328	6	2L~4L相当(60, 106, 111, 122, 142, 185, 191, 192), 1L, 2L, /3L・4L	2L~4L相当(60, 106, 111, 122, 142, 185, 191, 192), 1L, 2L, /3L・4L	深鉢	α	体: RL横・斜	口: 横帯隆起線・横帯 体: 地文→沈線区画腕手懸垂文 腕手テ→地文	口: 横帯隆起線・横帯 体: 地文→沈線区画腕手懸垂文 腕手テ→地文	5YRにぶい赤褐	qu/h, mg/h, BR/h, GR/h	—
273	SB 5328	7	4L相当180	4L相当180	深鉢	δ	体: 多細RL縦	口: 隆帯渦巻多連文・横沈線 腕手テ→地文	口: 隆帯渦巻多連文・横沈線 腕手テ→地文	5YR明赤褐	bi/h, pl/h, BR/h, GR/h	輪積み部分で欠け
274	SB 5328	15	3L相当164, /2L	3L相当164, /2L	深鉢	—	体: RL縦	口: 縦帯 体: 地文→沈線区画腕手懸垂文	口: 縦帯 体: 地文→沈線区画腕手懸垂文	7.5YRにぶい 赤褐	qu, pl/h, ho, BR/h, GR/h	—
275	SB 5328	18	3L相当190	3L相当190	深鉢	α	口: LR横 体: LR縦	口: 双翼状突起・部分隆帯横位渦巻帯文→地文 体: 区画腕手懸垂文→地文	口: 双翼状突起・部分隆帯横位渦巻帯文→地文 体: 区画腕手懸垂文→地文	7.5YRにぶい 赤褐	bi/h, pl/h, mg/h, BR, RR	外面弱く被熱。下部割れ口磨り
275	SB 5328	21	3L相当138, 1L, 2L, /3~4L	3L相当138, 1L, 2L, /3~4L	深鉢	α	体: LR横・斜	口: 横帯突起 体: 区画腕手懸垂文→地文	口: 横帯突起 体: 区画腕手懸垂文→地文	7.5YR橙	pl/h, ho/h, mg/h, BR, GR	嘴からのびる隆帯の中に溝が無く全 体に脆性を欠く
276	SB 5328	27	2L, 3L, 1L, 47, 51, 141, 177, 191, 3~4L, /190	2L, 3L, 1L, 47, 51, 141, 177, 191, 3~4L, /190	深鉢	α	口: 体: RL縦	口: 体: 地文→沈線区画腕手懸垂文・逆U字区画文→地 文	口: 体: 地文→沈線区画腕手懸垂文・逆U字区画文→地 文	5YR明赤褐	pl/h, ho/h, BR, GR, RR	—

表39-(4) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	器種	器種番号	報告番号	出土位置	出土位置	出土位置	器種	系統	地文	文様	色調	胎土	備考
276	SB	5328	28	2L・3L相当(44.71.183.109./26.41)	75	深鉢	7	体:RL縦	口:沈線2条の間の隆起部分に直交方向に刺突体 ;沈線区画手懸垂文・円形刺突体	5YR橙	qu.p1/mg小~大.WR.RR	γ・γ・αの要素が混在している	
276	SB	5328	37	2L相当166	75	深鉢	α	体:RL縦・斜・横	口:溝状沈線横帯・突起体;地文→区画曲線敷手文	7.5YRにぶい橙	qu.p1/mg小~大.BR.GR	外面炭化物付着	
277	SB	5328	38	1L・2L・4L.47.86./8	75	壺	α・β	体:RL縦・斜	口:横帯;体:高隆帯による溝凹区画文・沈線区画敷手懸垂文	7.5YR橙	p1/mg小,ho小,mg.WR	川砂的	
277	SB	5328	40	2L相当(3.6)	75	壺	α・β	体:RL縦・横	口:口頸部横沈線体;沈線懸垂文・沈線敷手懸垂文→地文	7.5YRにぶい橙	p1/mg小,ho,mg.BR大,RR大	胎土特異	
277	SB	5328	45	2L・4L.42.59./27	75	深鉢	δ	体:R縦・横	口:口頸部横沈線体;沈線懸垂文・沈線敷手懸垂文→地文	5YR赤褐	qu大,p1/mg.BR大,WR.GR大	胎土特異	
277	SB	5328	48	2L.195	75	深鉢	β	体:単線編文	体:地文→沈線多重逆U字区画文	5YR明赤褐	bi.p1/mg小~大,ho多,mg.BR.GR	—	
278	SB	5329	3	埋土	—	深鉢	β	口:LR横 体:LR縦	口:部分隆帯位渦巻帯円文→地文体;沈線充填懸垂文→地文	5YR明赤褐	qu大,p1/mg小,ho,mg小~大,WR大	内面上部帯状煤	
279	SB	5332	5	埋土2下	76	深鉢	β	口:LR横・縦 体:LR縦	口:部分隆帯位充填渦巻帯円文→地文体;充填懸垂文→地文	2.5YRにぶい橙	qu.p1/mg小,ho,mg小,RR	体部下半打ち欠き・磨り	
279	SB	5332	6	埋土2上	76	深鉢	δ	体:URL縦・RLR縦	口:隆帯渦巻多重連文体;沈線多重逆U字状文・円形刺突→地文	7.5YRにぶい橙	qu大,多,p1/mg小,mg.WR.GR	胎土特異・被熱か	
280	SB	5332	7	埋土1	76	深鉢	γ	体:LR横・端部結束	口:横帯・圧痕隆帯文体;圧痕隆帯文→地文	5YR橙	bi.p1/mg小~大,ho,mg.BR.GR.RR	4単位。外面胴部上半帯状煤。下部打ち欠き・磨り	
280	SB	5332	8	埋土3.SB5311 4L下面19	58.7 6	深鉢	γ	口:体:RL横	口:体;圧痕が無いが圧痕隆帯文の円文→地文	7.5YRにぶい橙	bi.qu.p1/mg.BR.WR.GR	褐色鉱物	
280	SB	5332	16	6L相当(33.36)	76	深鉢	β	体:波状委線	口:平行沈線区画間に平行刺突体;沈線区画による波状文→地文	2.5YR橙	p1/mg,mg.BR	—	
281	SB	5332	24	6L相当(16.51)107	76	深鉢	γ	体:RL横・斜	口:圧痕隆帯文体;圧痕隆帯文・地文	5YR明赤褐	p1/mg,ho,mg.GR	下部割れ口磨り	
282	SB	5332	35	2L.8.107	76	深鉢	γ	口:体:RL横	口:圧痕隆帯文・地文体;圧痕隆帯文・地文	5YR橙	qu.p1/mg小~大,ho,mg,WR多,GR	—	
282	SB	5332	36	2L.18.LL.107	76	釣り手付 深鉢か	α・β	口:体:RL縦 体:RL縦	口:横中広沈線体;区画敷手懸垂文→地文	7.5YR灰褐	bi.p1/mg.BR.WR	—	
283	SB	5332	52	107	—	深鉢	β	体:L縦	口:横帯体;微起線逆U字区画文・地文→脇行	7.5YRにぶい橙	qu大,多,p1/mg小~大,ho,mg.BR.GR	—	
283	SB	5335	1	埋土	77	深鉢	α	体:RL縦	口:横帯体;部分隆帯充填区画曲線敷手文→地文	7.5YRにぶい橙	qu大,多,p1/mg,WR	—	
283	SB	5335	6	炉上.SF1.168.203.213./炉上SF4.3L.1 SB.161.204.209.上床	78	深鉢	α	体:LR縦	口:嘴状突起(双翼状)・横帯状沈線・横帯体 ;区画敷手懸垂文→地文	7.5YR黄橙	bi.p1/mg.BR	—	
286	SB	5336	12	107	—	深鉢	—	体:LR縦	体:沈線逆U字区画文→地文	5YR5/6	qu.p1/mg小~大,多,WR	上部磨。土器全体が赤化	
286	SB	5337	3	石上(20.28.35)	81	深鉢	—	体:LR縦	口:横沈線体;地文	7.5YR7/4	qu.p1/mg.BR.GR	—	
286	SB	5337	12	埋土B	81	深鉢	β	体:RLR縦	口:横帯体;地文→沈線連続U字対向型	7.5YR橙	qu大,p1/mg.BR.RR	外面口縁から体部上半及び底部付近に炭化物付着。内面底部付近集積。胎土分析29	
287	SB	5337	14	埋土A.埋土A内	81	深鉢	β	体:L斜	口:横帯体;地文	7.5YR橙	bi.p1/mg.BR.GR	口縁部より9cm以下底面を除いて帯状に炭化あり。内面底部付近帯状に炭化。底部編代。胎土分析29,1未	
287	SB	5337	19	埋土.OML~LL	—	深鉢	β	体:LR縦	体:沈線連続U字文→地文	7.5YR5/3	bi.p1/mg小,多,mg.BR.GR.RR大型岩片	—	
288	SB	5338	1	埋土1	82	壺	α・β	口:隆帯上;LR横 体:LR縦	口:横帯・横隆帯→地文・高隆帯による凹文 ;微起線逆U字区画文・地文→脇行	2.5YR明赤褐	(p1,ho.BR.RR)	外面体部及び底部付近煤。内面集積なし。土器全体が赤化。胎土分析30	

表39-(5) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告書番号	出土位置	出土図号	系統	地文	文様	色調	胎土	備考
288	SB	5338	2	埋藏2	82	β	体(上): LR縦 体(下): LR縦 波状条線	体: 地文→沈線消通逆U字区面文 口: 孟状突起・環状把手・横磨・U字状沈線 体: 沈線消通逆U字区面文(先端の先尖る)	10YRにぶい 黄橙	qu. p1. ho. mg. BR. WR. RR	内外面共に煤、焦げなし。底部より8cm上に縦5.5cm×横5cmの穿孔あり。胎土分析302未
289	SB	5338	6	床相当76.8	82	α	体: LR縦(LR縦の可能性もあり)	口: 孟状突起 体: 地文→沈線区面横手懸垂文 口: 把手付孟状突起・環状把手・横磨・U字状沈線 体: 沈線消通逆U字区面文(先端の先尖る)	2. 5YR橙	bi. p1. ho. mg. BR. WR	底部輪積みに沿って切断。底部付片りまで施文。把手付近付片真
289	SB	5338	24	P10. 埋土BML~LL	—	β	体: LR斜	口: 把手付孟状突起・環状把手・横磨・U字状沈線 体: 沈線消通逆U字区面文(先端の先尖る)	10YRにぶい 黄橙	qu. p1. ho. mg. BR. GR	—
290	SB	5338	44	埋土(BML~LL, DUL, UL), SB5318埋土	—	β	体: LR縦	口: 把手付孟状突起・環状把手・横磨・U字状沈線 体: 沈線消通逆U字区面文(先端の先尖る)	5YR橙	qu. p1. mg. BR大. GR大. RR大. 多	—
290	SB	5338	46	埋土CUL, SB5344 (SB5346 3)/SB5344 (S B5346D)	—	—	地文なし	口: 横磨 体: 隆帯隆起区面横手懸垂文 体: 区面横手懸垂文→地文	10YRにぶい 黄橙	qu. p1. ho. mg. BR. WR. RR	口縁部下縁隆帯(鋸部分)に未貫通孔あり。内外面赤彩
291	SB	5338	64	埋土(BUL, B. B付近UL, BML~LL)	—	α	体: LR縦	体: 区面横手懸垂文→地文	7. 5YRにぶい 黄	qu. p1. ho. mg. BR	大木9a
292	SB	5339	8	1L相当243.6 ^外	83	—	体: LR縦	体: 逆U字区面文→地文	5YR橙	qu. p1. ho. mg. BR少. 全体に細粒	—
292	SB	5339	12	1L相当(164.165).6 ^外	83	γ	体: R斜	口: 横磨 口・体: 横圧隆帯文→地文	10YRにぶい 黄褐	qu. p1. 小. 多. ho. mg. BR多褐色岩片	—
293	SB	5340	1	埋藏	84	α・β	口: LR縦 体: LR縦	口: 横磨 頸: 隆帯横位連結区面文→地文・体: 隆帯逆U字区面文→脇付→地文	7. 5YR橙	qu. p1. 小~大. ho. mg. BR. WR. GR. RR	体部下半10cm×5cmの打ち欠き
294	SB	5340	9	3炉炭上	84	η	体: LR縦・斜	口: 環状把手か 体: 地文	7. 5YR明褐灰	p1. 小. ho. 小. BR. WR	鋸手付深鉢もしくは注口の可能性もあり
294	SB	5340	12	炉2L灰下(9.10.11.12).119.2L.A ^外 12 L.765L.54灰面	84.8 5	—	体: 複調縄文	口: 横磨・横隆帯 体: 地文	5YR橙	qu. p1. mg. BR. WR. GR	—
295	SB	5340	15	炉2L105.2L.4炉炭D2L.2L下1.B2L.B2L 下.A1L	84.8 5	β	体: L縦	口: 環状把手・横磨・微隆起線U字文 体: 連結U 字文→地文	5YRにぶい 赤褐	p1. 小. ho. 小. 褐色岩片多	—
295	SB	5340	16	炉2L灰下(3.4.5.6.7.9)	84	γ	体: RL縦	口: 横磨・横隆帯文(低隆帯系) 体: 圧痕隆帯文 →脇付→地文	7. 5YRにぶい 黄	p1. 小. 多. ho. mg. BR. WR. GR	—
295	SB	5340	19	A2L./D2L.2L下.B2L.C2L.2L17	85	β	体(上): LR縦 体(下): LR縦	口: 横磨・横隆帯・横隆帯→地文 体: 沈線区面渦 巻文→地文	7. 5YRにぶい 黄	p1. ho. mg. WR. 褐色岩片	—
296	SB	5340	21	2L.A2L.D2L.2L(90.97.140.144.150./1 35.146.151.156)./1炉付.B2L	85	β	体(上): LR横 体(下): LR縦	口: 横磨・横隆帯 体: 横隆帯・沈線区面文・円 文→地文	5YR橙	qu. 大. 多. p1. 小. mg. BR. GR大	—
296	SB	5340	29	2L82.A1L.B2L.D2L./2L122	85	β	体: LR横・縦	口: 横磨・横隆起線 体: 微隆起線充填懸垂文B 消懸垂文	5YR橙	p1. 小. ho. WR. GR. RR	—
298	SB	5341	1	床下一括.4~6L	86	β	口・体: RL縦	口: 隆帯横位渦巻槽円文→地文 体: 地文→沈線 消懸垂文	10YRにぶい 黄橙	bi. qu. 大. 多. p1. ho. mg	被熱か
298	SB	5341	2	埋藏	86	β	口: RL横 体: RL縦	口: 高隆帯渦巻・横位入り組み渦巻槽円文・地文 →脇付→地文 隆帯充填懸垂文1条と平行懸垂文2 条→脇付→地文	5YR橙	qu. p1. 小. ho. BR. WR	体部下半打ち欠き、磨り
298	SB	5341	3	炉2 ^上 上面3.1L./E炉付.7L上A2.F上面. 埋藏7L上.上床下7L.SB5311炉付外	86	α	口: RL縦.斜 体: RL縦.横	口: 及置状に近い大木9式の突起で異形頸型・高隆 帯槽円区面文→地文(分帯線なし) 体: 隆帯連結 曲流旋手文→地文	7. 5YRにぶい 黄	qu. 大. 多. p1. mg. WR	大木90に近似
298	SB	5341	7	炉2 ^上 上面(2.6).炉2 ^上 上面.炉B炉付 炉3L灰面./炉2L灰下7L上.上面4	86	—	体(上): RL横 体(下): RL縦	体: 条線によるL字状文・懸垂文→縄文	5YR明赤褐	bi. qu. 大. p1. mg. BR. GR. RR大	—
299	SB	5341	16	7L上.7L上(7.9.21.23.24./10.12.16.1 7.25.27.33.34.35.101)./5L.A2L	87	δ	体: RLR 縦	口: 横隆帯・隆帯渦巻多連文 体: 逆U字区面文→ 地文	5YR明赤褐	bi. qu. 大. mg. BR. GR. WR	内面明確な煤
300	SB	5341	38	S3L.4~6LEW ^外 .5L上面(3./24.27)./ 5L.4L.2L.E炉付.AXII-2L	87	β	口: RL斜 体: RL縦	口: 隆帯横位渦巻槽円文 体: 沈線充填懸垂文・ 隆帯懸垂文→地文	7. 5YRにぶい 黄	qu. p1. ho. mg 多	—
302	SB	5342	2	埋藏2上	88	α・β	体: L縦	口: 横磨・微隆起線U字区面文 体: 沈線円文・ 逆U字区面文→地文	7. 5YR橙	bi. p1. 小. ho. BR. GR	胎土分析321未
302	SB	5342	5	炉2	88	β	体(上): LR横 体(下): LR縦	口: 横磨・横隆起線 体: 変形連結U字状区面文→地 文	5YR橙	p1. ho. mg. BR. GR. RR	外面: 煤は見えない。全体に被熱か 。内面底部付近焦げ

表39-(6) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告書番号	出土位置	出土因号	器種	系統	地文	文様	色調	胎土	備考
302	SB	5342	7	埋土	—	深鉢	ε	体:短沈線(雨垂状) 口:横溝・横隆帯 体:隆帯充瑱懸垂文B・懸垂文→地文	口:横溝・横隆帯 体:隆帯充瑱懸垂文B・懸垂文→地文	5YR橙	bi.qu.pl.ho.mg大多.BR.GR	—
303	SB	5342	8	1L相当11.埋土.S75111(1.2)	88	深鉢	ε	体:短沈線(雨垂状) 口:横溝・横隆帯 体:隆帯充瑱懸垂文1条懸垂文など不定形	口:横溝・横隆帯 体:隆帯充瑱懸垂文1条懸垂文など不定形	7.5YR橙	bi.pl/小~大.ho.mg.BR.GR.RR	—
303	SB	5343	8	2L.429	89	深鉢	α・β	体:丸縦 口:横溝・横隆帯 体:連続曲流溝手文→地文	口:横溝・横隆帯 体:連続曲流溝手文→地文	5YR橙	qu.pl/小~大.mg.BR.WR大多.GR	下部輪積み部分で割れ
304	SB	5343	13	2L.14.20.554./16.97.596.598	89	深鉢	α	体:丸縦 口:横溝・横隆帯 体:連続曲流溝手文→地文	口:横溝・横隆帯 体:連続曲流溝手文→地文	7.5YRにぶい橙	qu.pl.ho.mg.BR.RR	—
304	SB	5343	14	441.412.417.420.2L	89	深鉢	ε	体:短沈線(雨垂状) 口:横溝・横隆帯 体:隆帯充瑱懸垂文B・地文	口:横溝・横隆帯 体:隆帯充瑱懸垂文B・地文	5YR灰褐	bi.pl/小多.ho.mg大	—
304	SB	5343	15	2L.28.154.163.181.184.628.632.638.641.701.709.720.723.736./96.147.17.183.636.650	89	深鉢	β	体:LR縦・一部LR横 口:横溝・横隆帯 体:磨消隆帯による多重不整隆帯区画文→地文	口:横溝・横隆帯 体:磨消隆帯による多重不整隆帯区画文→地文	7.5YR橙	pl/小~大多.mg/小~大多.BR大.WR.GR大褐色岩片多	内面被熱により、左右がかかり歪んでいる
305	SB	5343	23	428.631.639.1L./2L98.145.214.306.393.430.431.552.635	89	深鉢	γ(β)	体:RL縦 口:横溝・横中絞紐圧痕隆帯文 体:隆帯平行懸垂文→地文	口:横溝・横中絞紐圧痕隆帯文 体:隆帯平行懸垂文→地文	5YRにぶい橙	qu.pl/小~大.ho.mg.GR細粒/川砂?	γ2群5類
305	SB	5343	26	1L相当(4.29.30.31.33.34.37.52)	89	深鉢	—	体:LR縦 口:横溝・横位花線による区画懸垂文→地文	口:横溝・横位花線による区画懸垂文→地文	7.5YR灰褐	bi(大きいものあり).pl.mg	内面全体被熱。信濃川中流礫に類似あり
305	SB	5343	27	62.74.75.86.2L.1L./425.632	89	深鉢	α	体:RL縦 口:横溝 体:沈線区画曲線懸垂文	口:横溝 体:沈線区画曲線懸垂文	7.5YR灰褐	pl/小~大.ho.BR.WR	外面被熱
305	SB	5343	33	1L相当1	89	深鉢	α・β	体:LR縦 口:沈線帯正方形区画文 体:勾玉状沈線文・区画懸垂文→地文	口:沈線帯正方形区画文 体:勾玉状沈線文・区画懸垂文→地文	5YR明赤褐	bi.qu.pl/小~大.ho.BR大.GR褐色風化岩片多量	内面膏状被熱
305	SB	5343	34	1L相当(1L.730.769)	89	深鉢	β	体:LR横 口:横溝 体:隆帯逆U字区画文・隆溝手懸垂文	口:横溝 体:隆帯逆U字区画文・隆溝手懸垂文	7.5YR橙	pl.ho/小多.WR.GR	—
306	SB	5343	35	1L相当(5.9.305.329.424.755)	89	壺	α・β	口:LR縦・縦に多少不規則 体:LR縦 口:横溝 体:隆帯横位区画文か→地文 体:区画懸垂文→地文	口:横溝 体:隆帯横位区画文か→地文 体:区画懸垂文→地文	7.5YR浅黄褐	bi.pl/小.ho/小.mg/小.GR/川砂的	—
306	SB	5343	36	1L.190.205.206.1474.1L	89	深鉢	α	体:L横・下部一部LR横 口:横溝・横位花線・体:逆U字懸垂文→地文	口:横溝・横位花線・体:逆U字懸垂文→地文	7.5YR橙	bi.qu多.pl.ho.mg/小~大多.BR大超大.GR超大.RR超大(5mm~1cm)	—
306	SB	5343	38	1L相当(8.70.71.340.683)	89	壺	α	体:LR縦・横・斜 口:横溝・横隆帯起線 体:微隆起線多重不整隆帯区画文	口:横溝・横隆帯起線 体:微隆起線多重不整隆帯区画文	7.5YR橙	pl.ho.mg.BR.GR.RR	—
306	SB	5343	40	1L相当659	89	深鉢	ε	体:短沈線(雨垂状) 口:横溝・横隆帯 体:隆帯充瑱懸垂文A・地文	口:横溝・横隆帯 体:隆帯充瑱懸垂文A・地文	7.5YRにぶい橙	bi.pl/小~大.BR.GR.RR多	—
308	SB	5344	1	埋土	90	深鉢	α(β)	体(上):LR横 体(下):LR縦 口:横溝 体:沈線2条による湯巻区画文→地文 体:逆U字区画文と隆帯懸垂文	口:横溝 体:沈線2条による湯巻区画文→地文 体:逆U字区画文と隆帯懸垂文	5YR橙	qu大多.pl/小~大.ho.mg/小~大.BR大.WR	内面被熱下半部。内部に磁器片遺物遺存。大形川土層に類似あり。防熱被熱分析
308	SB	5344	7	2L相当(3.10).DML~LL	—	略台	—	地文なし	体:S字状文・円形透かし4単位	5YRにぶい橙	pl.ho.mg.BR.WR.GR	—
310	SB	5345	1	埋土No.1	92	深鉢	γ	体:半回転弧状条線 口:体:C字状圧痕隆帯文→地文	口:体:C字状圧痕隆帯文→地文	10YRにぶい黄橙	qu大多.pl/小.ho.mg岩石がほとんどない	体部下半打ち欠き、磨り
310	SB	5345	5	7L床54	92	深鉢	α	体:RL縦・斜 口:横溝 体:部分隆帯区画曲線懸垂文→地文	口:横溝 体:部分隆帯区画曲線懸垂文→地文	5YR明赤褐	pl.ho.mg.BR.WR/川砂的	胎土分析265塊
310	SB	5345	6	炉7L.CUL.床(46.54.~)S2L	92	深鉢	α	体:RL縦 口:横溝 体:部分高隆帯区画懸垂文・隆溝手懸垂文→地文	口:横溝 体:部分高隆帯区画懸垂文・隆溝手懸垂文→地文	7.5YR橙	pl/小~大.ho.mg.BR	内面膏状被熱。胎土分析266塊
310	SB	5345	8	5L.床(34.35.36.37.39.40).2L131	92	深鉢	α・β	口・体:LR斜 口:横溝 体:部分隆帯区画曲線懸垂文→地文 体:逆U字区画文	口:横溝 体:部分隆帯区画曲線懸垂文→地文 体:逆U字区画文	5YR明赤褐	qu.pl/小~大.mg.WR大多.GR	胎土分析268塊
311	SB	5345	13	P826.31.106.床下P3./2L114	92	深鉢	α	体:LR縦 口:横溝 体:部分隆帯区画曲線懸垂文(穴なし区画間凹沈線主体)→地文	口:横溝 体:部分隆帯区画曲線懸垂文(穴なし区画間凹沈線主体)→地文	2.5YRにぶい橙	pl/小多.ho.BR.GR.RR	胎土分析276未
312	SB	5345	21	2L49.79.96.135.B2L	92	深鉢	α	体:RL縦 口:横溝 体:部分隆帯区画曲線懸垂文→地文 体:逆U字区画文	口:横溝 体:部分隆帯区画曲線懸垂文→地文 体:逆U字区画文	7.5YRにぶい橙	pl.ho.mg/小~大.BR.GR.RR	大木9a式古相
312	SB	5345	24	2L(1.5.140).A2L	92	深鉢	α	体:RL縦 口:変形圧痕起線・横溝 体:隆帯区画懸垂文・地文→地文	口:変形圧痕起線・横溝 体:隆帯区画懸垂文・地文→地文	7.5YRにぶい橙	qu大多.pl.ho.mg.WR.GR	胎土分析274未
312	SB	5345	28	2L65.B2L.C2L	92	深鉢	α	体:RL横・斜 口:平突起・横溝状沈線 体:部分隆帯区画曲線懸垂文・地文→地文	口:平突起・横溝状沈線 体:部分隆帯区画曲線懸垂文・地文→地文	5YR橙	pl.ho/小多.mg.GR磁物少	胎土分析279塊

表39-(9) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

版号 番号	透構 記号	透構 番号	報告 番号	出土位置	出土 図番 号	器種	系統	地文	文様	色調	胎土	備考
332	SB	6703	1	No. 92埋壘	99	深鉢	β	口：L縦 体：RL縦	口：横沈線 体：地文一部分隆帯多重逆U字区画文 口：高隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YR橙 5YR明赤褐	p1.ho.mg.GR.磁物細粒 qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	外面上部上・内面底部付近共に帯状に煤 内面全面煤
333	SB	9001	6	4・5L相当。一括No.4.1L.2L	100	深鉢	δ	口：RL縦 体：RL縦	口：高隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YR橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	内面全面煤
333	SB	9001	7	4・5L相当。一括No.4	100	深鉢	—	口：RL縦	口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YR橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
333	SB	9001	8	4L相当。一括(No.1.No.8)	100	深鉢	β	口：L縦・縦 体：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YR明赤褐	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	外面上部上半煤
334	SB	9001	11	2L相当。一括No.7.1L	100	深鉢	α	口：RL縦 体：RL縦	口：部分隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YR橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	文様は大木9a。底部切断。内面全面煤
334	SB	9001	15	2L相当(30.31.65.68.71.72)。一括No.7.2L.1L./H/F	100	深鉢	β	口：RL縦 体：RL縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YRにぶい 橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
334	SB	9001	24	1・2L相当。一括No.2	100	3つ形	β	口：L縦	口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YR橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	二次焼成皆無
335	SB	9003	1	埋壘	101	深鉢	β	口・体：RL縦	口：低隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YRにぶい 橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	下部磨り。
336	SB	9003	4	炉	—	深鉢	α	口：L縦・縦 体：L縦・斜	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YRにぶい 橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
336	SB	9003	7	3L相当22.炉.1L./床D	—	深鉢	β	口：L縦	口：低隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YR黄緑	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
336	SB	9003	13	1L相当(26.58).1L./トノ	—	深鉢	β	口：L縦・縦 体：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YR黄	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	内面上部帯状煤
337	SB	9004	1	埋壘.47.1L.1L	102	深鉢	β	口：L縦 体：L縦	口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YRにぶい 赤褐	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
337	SB	9004	4	1L.1.2.34./48.50.52	102	深鉢	β	口：L縦・縦 体：L縦・斜	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YR橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
338	SB	9004	10	1L.SB9004(4.9.36.59./29.58).SB9003 (24.47.48.64.68./25.32.36.44.53)	102	深鉢	γ	口：L縦 体：L縦	口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YR橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
338	SB	9004	11	1L.11.48.66	102	深鉢	γ	口：L縦	口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YRにぶい 橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
339	SB	9005	1	埋壘	102	深鉢	β	口：L縦・縦 体：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YR橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	内面全体に煤。部分的に炭化物附着 胎土分析317未
339	SB	9005	3	2L相当(59.60).1L.ベノ	—	深鉢	α	口：L縦 体：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YRにぶい 赤褐	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
339	SB	9006	1	埋壘1.ノ外.SB9001 4-5L	103	深鉢	α・β	口・体：L縦 体(上)：L縦 体(下)：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YRにぶい 橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
339	SB	9006	2	埋壘2	103	深鉢	β	口：L縦 体：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YRにぶい 橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	下部磨り
340	SB	9007	4	2L	—	深鉢	β	口：L縦 体：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YR明赤褐	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	口縁内面帯状煤
340	SB	9007	5	2L	—	深鉢	β	口(上)：L縦 体(下)：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YR黄	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	下部打ち火き
340	SB	9007	6	2L	—	深鉢	β	口(上)：L縦 体(下)：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YR橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
341	SB	9007	7	2L	—	深鉢	β	口：L縦・斜	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YR橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
342	SB	9007	15	2L	—	深鉢	γ	口(上)：L縦 体(下)：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	7.5YR橙	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
342	SB	9007	20	2L	—	深鉢	γ	口：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	5YR明赤褐	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—
343	ST	5101	1	P5(1L.1L.埋土)	—	深鉢	α	口：L縦 体：L縦	口：隆帯渦巻多重文・横沈線 体：地文-U字文 ・平行懸垂文(僅か) 口：横溝 口・体：地文一横沈線	10YRにぶい 黄緑	qu.p1.ho.mg.BR大.GR大.大岩片多	—

表39-(1) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告書番号	出土位置	出土器種	系統	地文	文様	色調	胎土	備考
350	SK	5812	4	床(19.24.28).2L.下Pl.トナリ./床20	壺	α・β	頸:LR縦斜 体:波状条線	口:横溝 体:隆帯2条渦巻文→地文	7.5YRにぶい 褐	p1.ho.mg.GR鈳物少細粒	—
350	SK	5812	5	床(40.45).床	深鉢	γ	体:RL縦・横	口:横溝 口・体:圧痕隆帯文・脇行→地文	7.5YRにぶい 褐	bi.pl.ho.mg小〜大.BR.WR.GR大岩 片多	—
350	SK	5823	1	埋土(1.2.3.4.5)	深鉢	η	体:RL横・斜	口:台形突起・横沈線 体:垂下隆帯文・脇行→地文 沈線文・体:地文→区画隆帯手懸垂文	7.5YRにぶい 黄褐	p1.ho.mg.GR文.RR(鈳物少、岩片 多)	体部破熟。ξとα・β・γの要素が混 在 外面口縁〜体部上端帯状煤。内面炭 化物付着(底部以外全面)
351	SK	9003	3	埋土(6.11.14).埋土	深鉢	α	口:LR縦	口:部分隆帯渦巻文・沈線帯位区画文→地文・頸 :無文 体:沈線渦巻文・逆字区画文→地文	7.5YRにぶい 褐	qu大.p1.ho.mg.BR.WR.GR	—
351	SK	9003	4	埋土(6.48).SK9027	深鉢	β	口:RL縦・斜	口:隆帯縁刻帯位渦巻帯位区画文→地文 体:沈線充 填懸垂文→地文	10YRにぶい 黄褐	qu大.p1.ho.mg.WR.GR	外面口縁部帯状煤
351	SK	9003	5	埋土(8.29./1.4.43).埋土	深鉢	β	口:LR縦・横 体:RL縦	口:隆帯縁刻帯位渦巻帯位区画文→地文 体: 地文→隆帯逆字流線文A	10YRにぶい 褐	qu大.p1.ho.mg.WR.GR	—
351	SK	9039	1	埋土	深鉢	β	口・体:RL縦	口:沈線帯位充填渦巻帯位区画文→地文 頸: 沈線帯位懸垂文A	7.5YRにぶい 褐	qu大.p1.ho.mg.大.GR	外面体部破熟。口縁部煤。内面炭化 物付着
352	SK	9045	1	1L1	深鉢	α	口:RL縦・横	口:高隆帯帯位入り組み渦巻帯位区画文→地文 頸: 無文	10YRにぶい 黄褐	qu.p1.mg.BR大.GR	古いタテ?か。外面口縁部帯状煤
353	SK	9058	4	3L相当8./埋土	壺	β	体:LR縦	口:横溝隆帯線 体:地文のみ	10YRにぶい 黄褐	p1.ho.mg.BR.WR.GR	—
353	SK	9070	3	1L(1.3).1L	深鉢	β	口:LR横 体:LR縦	口:隆帯縁刻・高隆帯による渦巻文・横位区画文 体:地文→非隆帯平行懸垂文2条	7.5YRにぶい 褐	qu.p1.ho.mg.BR.GR褐色片川砂的	口縁部文様構成は常利皿〜IV式に類 似。外面口縁部〜体部煤
353	SK	9070	5	1L(7.9.10.12.13)トナリ.1L	深鉢	β	口:RL横 体:RL縦	口:隆帯縁刻帯位充填渦巻帯位区画文→地文 体:地 文→沈線渦巻帯懸垂文A	7.5YRにぶい 褐	qu大.p1.ho.mg.GR	—
353	SK	9071	1	3L2	深鉢	α	体:LR縦・横	口:双翼状突起・高隆帯円文・波状横沈線 体: 部分高隆帯帯位流線手文・地文→脇行	7.5YRにぶい 褐	qu.p1.ho.mg.大.GR	使用痕みられず。未使用状態か。把 手1つ打ち欠き。底部切断
353	SK	9071	2	3L19.17.トナリ	深鉢	α	体:RL縦・斜	口:双翼状突起・横溝隆帯線 体:隆帯区画曲線 懸手文・地文	10YRにぶい 黄褐	p1.ho.mg.BR.WR.GR大.RR	大岩片多い
353	SK	9071	4	3L3.埋土	深鉢	δ	体:RL縦	口:隆帯渦巻多重文 体:地文→沈線U字文・懸垂 文	7.5YRにぶい 褐	qu大.p1.大.mg.BR大.WR大.GR大	大岩片多い
354	SK	9071	7	3L1.SB53136.1L107	深鉢	α	口:LR斜 体:LR縦	口:双翼状突起・渦巻帯位区画文・隆帯縁刻帯位区画 文→地文 体:隆帯区画隆帯手懸垂文・地文→脇行	7.5YRにぶい 褐	qu大.p1.小〜大.多.ho.mg.WR大.G R大	把手2つ打ち欠き。底部切断。内面 口縁部炭化物付着
354	SK	9071	11	3L6.2.48	深鉢	ε	口:縦条線 体:縦条線・波 状条線	口:地文・頸部帯位帯竹管文 体:地文のみ	10YRにぶい 黄褐	qu大.p1.mg.GR	内面口縁下部炭化物付着。外面口縁 部帯状。胎土分析304未
354	SK	9071	12	2L相当(7.8.9).トナリ	深鉢	ε	横長沈線	口:交互突起 体:隆帯U字状→脇行→地文	5YRにぶい 灰	bi多.qu大.p1.mg.GR	内外面口縁部煤。下輪積み。胎土分 析305未
354	SK	9071	16	2L相当(5.7.12.17.19.30.31.34.36).1 L.トナリ	深鉢	(γ)	地文なし	口:隆帯圧痕隆帯文基本型 体:隆帯逆U字区画文	7.5YRにぶい 褐	qu.p1.小.ho.mg小〜大.WR.GR	—
355	SD	5102a	1	1L(27.33.61.67.74./3.6.11.53.55.62 .73).一括./LL.SF5119(16.22.36.47)	浅鉢・ 鉢か	α	口:RL横 体:RL縦	口:部分隆帯帯位渦巻帯位区画文・脇行→地文 体: 隆帯帯位流線手文→地文	5YRにぶい 赤 褐	bi.qu.p1.ho.mg.BR.WR.GR	—
355	SD	5102a	6	1L(1.26.36.58.59.63.90).一括./1L(5 .19.48.49.70.76.87).LL	深鉢	β	体:RLR縦か	口:横溝・横溝隆帯線 体:充填懸垂文B・地文→ 脇行	7.5YRにぶい 褐	bi.p1.ho.mg.BR.WR.GR	—
355	SD	5102a	7	1L4./1L(31.56.74.76.97).LL	深鉢	γ	体:LR横	口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯文・脇行→地文	10YRにぶい 黄褐	bi.qu.p1多重.ho.mg.BR.WR多	口縁部帯状煤
360	SQ	4453	2	埋土(70.74.109.118./26.31)	深鉢	β	体:LR縦	口:横溝・沈線1条 体:地文→隆帯逆U字区画文	7.5YRにぶい 褐	p1.ho.mg.BR	—
360	SQ	4701	1	埋土1	深鉢	β	体:LR縦	口:横溝・横沈線 体:通溜U字対向型	10YRにぶい 黄褐	qu.p1.GR	外面帯状煤(口縁部下)
360	SQ	4803a	1	IS21埋土1A	深鉢	ε	長沈線(線形状)	口:地文 口〜体:隆帯帯位渦巻文・横溝隆帯列 点文・体:隆帯帯位渦巻帯位渦巻文(筒背文)	7.5YRにぶい 褐	bi.p1.ho.mg.WR.GR.RR	内面口縁部煤

表39-(1) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器觀察表

図録 番号	遺構 記号	報告 番号	出土 位置	出土 図号	器種	系統	地文	文様	色調	粘土	備考
360	SQ	4803b	1S21埋壘1B	134	深鉢	ε	長沈線(縦) 体(上):LR横 体(下):LR縦	口:口唇溝状沈線・横隆帯・胎沈線 体:地文の 胎垂文A 口:横溝・横沈線 体:地文→逆U字区画文・磨消 字区画文→地文 口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯垂文・沈線逆U 字区画文→地文 口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯垂文・多重逆U字区画 文 口:横ナデ・横隆帯 体:連結U字対向文→地文	5YRにぶい赤 褐 10YRにぶい 黄橙 7.5YR褐灰 7.5YRにぶい 橙	bi.qu?.pl.ho.mg多.BR.GR bi.qu?.pl.ho.mg.BR大.WR.GR bi.qu.pl/小~大多.ho.mg.BR.GR.R R川砂的 bi.pl.ho.mg.GR大	内面に砂。内面口~体部まで炭化物 付着。胎土分析313未 外面体部帯状煤
361	SQ	4804	1S22埋壘2-1.埋壘2-2	134	深鉢	β	体(上):LR横 体(下):LR縦	口:横溝・横沈線 体:地文→逆U字区画文・磨消 字区画文→地文 口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯垂文・沈線逆U 字区画文→地文 口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯垂文・多重逆U字区画 文	10YRにぶい 黄橙	bi.qu.pl/小~大多.ho.mg.BR大.WR.GR R川砂的 bi.pl.ho.mg.GR大	外面体部帯状煤
361	SQ	5502d	埋土	—	深鉢	δ	体:RL縦・横	口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯垂文・沈線逆U 字区画文→地文 口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯垂文・多重逆U字区画 文	7.5YR褐灰	bi.qu.pl/小~大多.ho.mg.BR.GR.R R川砂的 bi.pl.ho.mg.GR大	内面炭化物付着。外面煤
361	SQ	5506a	埋土4	135	深鉢・壺	—	体:RL縦	口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯垂文・沈線逆U 字区画文→地文 口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯垂文・多重逆U字区画 文	7.5YRにぶい 橙	bi.pl.ho.mg.GR大	—
361	SQ	5507a	埋壘	130	深鉢	β	体(上):RL横 体(下):RL縦	口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯垂文・沈線逆U 字区画文→地文 口:圧痕隆帯文 体:圧痕隆帯垂文・多重逆U字区画 文	10YR灰黄褐	qu.pl.ho.mg.BR.GR/川砂的	口縁部帯状煤
362	SQ	5529	埋壘	135	深鉢	ε(β)	短沈線(雨垂状)	口:横ナデ・横隆帯 体:連結U字対向文→地文	5YR明赤褐	qu.pl.ho.mg.BR.GR/川砂的	—
363	SQ	5531	埋壘・埋土(5.6)	136	深鉢	γ(β)	隆帯上・体(上) :L横 体(下):L縦	口:横ナデ・横隆帯 体:連結U字対向文→地文	10YRにぶい 黄橙	qu.pl.ho.mg.WR.GR	外面体部帯状煤痕
363	SQ	5532	埋壘	136	壺	β	体:L縦	口:横ナデ・横隆帯 体:連結U字対向文→地文	5YR明赤褐	qu.pl.ho.mg.BR.GR/川砂的	—
363	SQ	5534a	埋壘・埋土(127.128.130.150)/埋壘一 帯	136	深鉢	α(β)	体:LR横・斜	口:横溝 体:横微隆起線・微隆起線・字状区画 →胎沈線 口:横溝・横微隆起線 体:縦位楕円文・地文→ 胎沈線	5YR明赤褐	qu?.pl.ho.mg.BR.GR胎物少	外面体下部破熱
362	SQ	5535	埋土(1.2.3.6.7.8.9.11.12./4.5.10)	135	深鉢	ε	長沈線(縦)	口:横溝 体:横隆帯・地文→沈線逆U字区画文	7.5YR灰褐	qu.pl.ho.mg.GR.RR	—
362	SQ	5537	埋土(100.160./50.198)	136	深鉢	β	体:RL縦・斜	口:横溝・横微隆起線 体:地文	7YRにぶい橙	qu大多.pl.mg.WR.GR	—
362	SQ	5537	埋土(73.75.92.190.192.196)	136	深鉢	ε	条線(縦)	口:一 口・体:横沈線→地文	10YR灰黄褐	pl.mg.BR.WR.GR	外面破熱
364	SQ	5537	埋土(17.61.62.179./174)	136	深鉢	β	体:LR縦	口:横溝 体:横微隆起線・微隆起線・充模懸垂文 →地文	10YRにぶい 黄橙	qu?.pl.ho.mg多.WR.GR胎土白色	外面帯状煤
364	SQ	5537	埋土143	136	深鉢	β	体:LR縦	口:横溝・横微隆起線 体:沈線区画文→地文	10YR灰黄褐	pl.ho.mg/小~大多.WR.GR	—
364	SQ	5537	埋土(94.37.38.351)	136	深鉢	β	体:LR縦	口:横溝・横微隆起線 体:連結U字(先尖)文対向 型→地文	10YR灰黄褐	pl.ho.mg.GR褐色胎物大	外面口縁部煤
365	SQ	5537	埋土(29.31.40.41.48.49.87.96.161.1 70.172.202.350)	136	壺	α(ε)	体:RL縦	口:一 体:横隆帯・隆帯2条規格溝巻文・胎沈 →地文	5YR灰褐	bi.pl.ho.mg.GR	外面強く破熱。胎土分析309未
365	SQ	5541	埋土(40./25.128)	137	深鉢	β	体(上):RL横 体(下):RL縦	口:横溝・横微隆起線 体:多重逆U字区画文・純 行懸垂文	10YR灰黄褐	bi.pl/小多.ho/小.mg.BR胎物細粒	外面煤
365	SQ	5541	埋土(38.40.104./60)	137	深鉢	γ(ε)	短沈線(雨垂状)	口:横溝・横微隆起線 体:圧痕隆帯文・地文 胎垂文	10YRにぶい 黄橙	qu大多.pl.mg.BR大.GR大	外面帯状煤
366	SQ	5541	埋土(38./41.51.53.101)	137	深鉢	α	体:RL縦	口:喙状突起・横溝状沈線 体:区画曲線胎手文 →地文	7.5YR灰褐	bi.qu.pl.ho.mg多.WR.GR	—
367	SQ	5542	埋土(7.9.15)	135	深鉢	β	体(上):RL横 体(下):RL縦	口:盃状突起・横溝・沈線U字文 体:沈線連結 U字文(先尖)対向型→地文	10YRにぶい 黄橙	qu多.pl.ho.mg.GR大多.褐色岩片	—
367	SQ	5542	埋土(14.15.22./12)	135	深鉢	β(γ)	体:LR縦	口:横溝・横溝状付盃状突起・燕庄痕隆帯文 体:微隆起線不整区画文・地文→胎ナデ	7.5YRにぶい 黄橙	bi.qu.pl.ho.mg.GR大多.RR.褐色 岩片多	—
367	SQ	5546	埋土1	135	深鉢	ε	長沈線(縦)	口:横溝・横微隆起線 体:沈線逆U字区画・地文	10YRにぶい 黄橙	qu大多.pl.mg.BR.WR.GR.褐色岩片 多	—
367	SQ	5548	埋土(4.7.8.10./1.5).埋土	135	壺	—	—	口:横溝(粗雑)	10YR褐灰	pl.mg.WR.GR	—
368	SQ	5549	埋土(28.29.37./17.18.24.28.35.36.) 埋土	135	浅鉢・鉢	—	体:LR縦	口:環状把手・横溝 体:地文	10YRにぶい 黄橙	qu.pl/小~大多.ho.mg/小~大多.BR WR.GR.RR大	注口の可能性があるか。外面赤彩

表39-(13) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土箇所	器種	系統	地文	文様	色層	胎土	備考
368	SQ	5549	2	埋土(11.12.14.15.16.19).埋土./10	135	深鉢	β	体(上):LR横 体(下):LR縦・ 横	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型 口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	7.5VRにぶ い槽	p1.ho.mg.GR	—
368	SQ	5551	1	埋土	137	深鉢	β	体:LR縦・横	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VR浅黄橙	qu?.p1.ho.mg.BR.GR大.RR	下新羅り。外面口縁部帯状煤
368	SQ	5553	1	埋土	—	深鉢	β	体:LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VR灰黄橙	bi.qu.p1多.ho.mg.BR大.GR大. 口縁部新帯状煤	—
368	SQ	7001	2	埋土(2.4.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.28.29.30)	137	壺	β	体:LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VRにぶ い黄橙	bi.qu.p1.mg.BR	—
369	SH	5101	2	埋土(1.2).下.SH5001.4.SB5324(95.2)	138	深鉢	—	LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VRにぶ い黄橙	p1.ho.mg.BR.GR	地文帯状間隔地文。加害利IV→称 名等式の中で与えられる。外面 煤
369	X-II-2 L7リット	46W	1	埋土(11.15.16.17.21.24.26.28.30.31.32. 33.34.35.36.38.41.45.74.75.76.77.170. 174./1.2.12.13.18.22.23.25)	—	深鉢	β	体:LR縦・斜	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	7.5VRにぶ い槽	p1.ho.mg.BR.GR	外面煤
369	X-II-2 L7リット	46W	2	埋土(119.120.122.126.162)	—	釣手付深鉢	—	体:LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VRにぶ い黄橙	qu.p1.ho.mg.BR.GR	外面帯状煤
369	X-II-2 L7リット	46X	1	X15 307	—	深鉢	α	体:LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VRにぶ い黄橙	qu.p1.ho.mg.GR.RR	—
369	X-II-2 L7リット	5aM	2	I M15 (296.298.305.311./434.M19 223)	—	壺	—	地文なし	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	7.5VRにぶ い槽	bi.qu?.p1多.ho.mg.BR.WR.GR	有孔釣付土器。内外面赤彩。胎土 分析(12米(2-2))
370	X-II-2 L7リット	5bN	3	I N13 (J12. J6. J46)	—	深鉢	η	体:LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VR灰黄橙	p1.ho.mg.BR.GR	単田式の器形特徴がみられるもの も。と α ・ β の所収が。胎土分析 08米
370	X-II-2 L7リット	5bN	8	I N18 (J68./J67)	—	浅鉢・ 鉢か	—	体(上):LR横 体(下):LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VRにぶ い黄橙	qu小.p1小.ho小.mg大多.GR	外面赤彩。補修孔有り
370	X-II-2 L7リット	5bN	9	I N18J45	—	深鉢か	β	体:LR縦・横	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VRにぶ い黄橙	qu.p1.mg.BR.GR.RR	口縁部下帯状煤
371	X-II-2 L7リット	5bN	13	I N23J61	—	浅鉢・ 鉢か	—	体:LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VR焼灰	p1小多.ho.mg小多.BR.GR	内外面赤彩
370	X-II-2 L7リット	5bN	12	I N24J7-1 (SB5339住居外(91.92.93.9 4.95./68.69))	—	壺	β	体:LR縦・横	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	7.5VRにぶ い槽	bi.qu.p1小.ho小~大.mg.BR.WR. GR川砂り	—
371	X-II-2 L7リット	5bS	1	I S3J17	—	深鉢	β	体(上):LR横 体(下):LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	7.5VR橙	bi.p1.ho.mg.BR大.GR.RR大. 川砂り的大岩片	図版371 ⑤b区S-1の種の表現は誤り。本表 が正しい。
371	X-II-2 L7リット	5bS	8	I S7J26J17	—	深鉢	β	体(上):LR横 体(下):LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VRにぶ い黄橙	bi.p1小多.ho.mg小.GR細粒	外面煤
372	X-II-2 L7リット	5bS	13	IS11 (J47. J48. J50). IS12 (J131. J41. J55). IS12 (J46. J62. J51. J52). SB5512?	—	深鉢	ζ	隆帯上:LR横 隆帯下:LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VR灰黄橙	qu小~大多.p1小.mg小.RR小.鉱 物細かく少い	串田新式に類似し。土盛地方と同 種。胎土分析06米
372	X-II-2 L7リット	5bS	18	IS12.6./IS12 (J63. J73). IS12 (5.7. J63. J74)	—	深鉢	α	体(上):LR横 体(下):LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VRにぶ い黄橙	p1小.ho.mg.BR.WR.GR	内面煤
372	X-II-2 L7リット	5bS	15	I 516	—	深鉢	δ	体:LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	7.5VR橙	qu.p1大多.ho.mg.WR.GR	内面炭化物付着。外面口縁部帯状 煤
372	X-II-2 L7リット	6bI	2	I 125J97	—	深鉢	δ	体:LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VRにぶ い黄橙	qu大多.p1.ho.BR.GR大	外面煤。内面口縁部帯状煤
372	X-II-2 L7リット	6bI	3	I 125J63	—	深鉢	—	体:LR縦	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	10VRにぶ い黄橙	qu.p1.ho.mg.GR.RR	類型不明
372	X-II-2	5a軍 壁	1	E17/J	—	台付深鉢	β	体(上):LR横 体(下):LR縦・ 斜	口:横唇,体:地文→連続U字文(先端波形・尖) 対向型	7.5VRにぶ い槽	qu.p1.BR大多.GR.RR硬質の大岩 片多	外面底部被覆。口縁下部帯状煤

表39-(14) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器觀察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
239	SB	5307	1	埋土	—	深鉢	—
239	SB	5307	2	埋土	—	深鉢	—
239	SB	5307	3	埋土LL	—	深鉢	—
239	SB	5309	1	1L	—	深鉢	—
239	SB	5309	2	2L	—	深鉢	—
239	SB	5309	3	1L	—	深鉢	—
239	SB	5310	3	3L相当32	57	深鉢	—
239	SB	5310	4	3L相当3	57	壺	—
239	SB	5310	5	3L相当45	57	深鉢	—
239	SB	5310	6	3L・3L [△] 鉢	—	深鉢	—
239	SB	5310	7	3L・2L・3L38	57	深鉢	内面上部煤
239	SB	5310	8	3L相当25	57	深鉢	—
239	SB	5310	9	3L・3L [△] 鉢・上面	—	深鉢	内面下部帯状煤
239	SB	5310	10	3L・3L(47.67)	57	深鉢	—
240	SB	5310	11	3L相当15	57	深鉢	—
240	SB	5310	12	3L・1L [△] 鉢	—	深鉢	底部切断
240	SB	5310	13	3L・3L [△] 鉢	—	深鉢	被熱
240	SB	5310	14	3L相当24	57	深鉢	—
240	SB	5310	15	3L14	57	深鉢	—
240	SB	5310	16	3L25	57	深鉢	—
240	SB	5310	17	3L10./3L	57	深鉢	内面下部煤
240	SB	5310	18	3L	—	深鉢	被熱
240	SB	5310	19	X II-2L上11	57	深鉢	—
240	SB	5310	20	3L [△] 鉢	—	深鉢	—
240	SB	5310	21	3L	—	深鉢	—
240	SB	5310	22	3L20	57	台付深鉢(鉢)	—
240	SB	5310	23	1L [△] 鉢	—	深鉢	—
240	SB	5310	24	1L上面59	57	深鉢	—
240	SB	5310	25	3L相当20	57	深鉢	—
240	SB	5310	26	1L	—	深鉢	—
240	SB	5310	28	1L [△] 鉢	—	深鉢	—
240	SB	5310	29	1L上トノゾ	—	深鉢	—
240	SB	5310	30	1L [△] 鉢	—	深鉢	—
240	SB	5310	31	1L上面50.1Lより上トノゾ上トノゾ	57	深鉢	—
241	SB	5310	33	1L上面(47.49).1L [△] 鉢	57	深鉢	—
241	SB	5310	34	1L上面45	57	壺	—
241	SB	5310	36	1L [△] 鉢	—	深鉢	—
241	SB	5310	37	1L	—	深鉢	—
241	SB	5310	38	1L上面61	57	深鉢	—
241	SB	5310	39	1L上面37	57	深鉢	内面附着物
241	SB	5310	40	X II-2L18	57	深鉢	外面煤
241	SB	5310	41	X II-2L(1.2.3)	57	壺	—
241	SB	5310	42	X II-2L19.トノゾ/埋土	57	深鉢	外面上部煤
242	SB	5311	1	B床	—	深鉢	—
242	SB	5311	2	F上7.4L下面117./B4L	57	深鉢	—
242	SB	5311	3	F上	—	深鉢	—
242	SB	5311	4	F上(8.12)	57	深鉢	—
242	SB	5311	5	F上13	—	深鉢	—
242	SB	5311	7	P1.C2bL.C1L./4L下面134	58	深鉢	—
242	SB	5311	8	P1	—	深鉢	—
242	SB	5311	9	P1	—	深鉢	強く被熱
242	SB	5311	10	1LP	—	深鉢	—

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
242	SB	5311	11	C8L	—	深鉢	—
242	SB	5311	12	C8L.C2L	—	深鉢	被熱
242	SB	5311	14	D2L	—	深鉢	—
243	SB	5311	16	C [△] 鉢6L.4L下面197	58	深鉢	—
243	SB	5311	17	A6L	—	深鉢	—
243	SB	5311	18	C [△] 鉢6L./トノゾ.C [△] 鉢15L	—	深鉢	—
243	SB	5311	19	D6L.D5L./トノゾ.4L下面.DトノゾP	—	深鉢	—
243	SB	5311	20	D6L.4L下面(7.11)/トノゾ・6L.B4L.B4L下面26.5L集中1./SB5313aL集中20	—	深鉢	内面煤
243	SB	5311	21	D6L	—	壺	—
243	SB	5311	22	トノゾ.5・6L	—	深鉢	—
243	SB	5311	24	トノゾ.5・6L	—	深鉢	—
243	SB	5311	25	トノゾ.5・6L	—	深鉢	—
243	SB	5311	26	トノゾ.5・6L.4L下面3./4L下面(30.178).5L集中(6.26.27.28).A4L	58	深鉢	—
243	SB	5311	27	トノゾ.6L	—	深鉢	—
243	SB	5311	28	トノゾ.6L./4L下面(5.65).C [△] 鉢5L	58	深鉢	—
243	SB	5311	29	トノゾ.6L./SB5313a2L集中20	60	深鉢	内面底部帯状煤
244	SB	5311	31	C [△] 鉢5L	—	深鉢	—
244	SB	5311	32	D5L [△] 鉢	—	深鉢	—
244	SB	5311	33	A [△] 鉢5L	—	深鉢	—
244	SB	5311	34	5L集中13.D2L	58	深鉢	下部磨り。内面被熱
244	SB	5311	35	5L集中6./D5L [△] 鉢.5DL.A4L.4L下面(29.40.71.184)	58	深鉢	内面煤
244	SB	5311	36	A5L.4L下面(42./2.50).P	58	深鉢	被熱
244	SB	5311	37	A4L.SB5313a1L	—	深鉢	内面煤。石英を多く含む
244	SB	5311	38	4L下面62	58	深鉢	—
244	SB	5311	39	4L下面41	58	深鉢	—
244	SB	5311	40	4L下面173	58	深鉢	被熱
244	SB	5311	41	4L下面160	58	深鉢	—
244	SB	5311	42	4L下面25	58	深鉢	—
244	SB	5311	43	4L下面124	58	深鉢	—
244	SB	5311	44	B4L./SB5312D2L灰中	—	深鉢	強く被熱。図版246の20と同一個体
245	SB	5311	46	4L下面111	58	深鉢	—
245	SB	5311	47	4L下面119	58	深鉢	—
245	SB	5311	48	4L下面14	58	深鉢	—
245	SB	5311	49	4L下面90	58	深鉢	—
245	SB	5311	50	D2L.トノゾ	—	台付深鉢(鉢)	—
245	SB	5311	51	トノゾ	—	—	—
245	SB	5311	52	埋土	—	深鉢	bi多く含む
245	SB	5311	53	トノゾ.IS13 X II-2上面.IS12 X II-2-1	—	釣手	鉱物細粒
245	SB	5312	2	床	—	深鉢	強く被熱
245	SB	5312	3	床(10.11.13.14.64.71)	58	深鉢	—
245	SB	5312	4	床(10.13.).67	58.59	壺	—
245	SB	5312	5	A床直/124	59	深鉢	—
246	SB	5312	6	床5	58	深鉢	—
246	SB	5312	7	床16	—	深鉢	—
246	SB	5312	8	床3	58	深鉢	—
246	SB	5312	9	Dトノゾ(1.2.)./(4.6.20)	58	深鉢	—
246	SB	5312	10	床9.65	58.59	深鉢	被熱
246	SB	5312	12	床32	58	深鉢	上部輪積み切断
246	SB	5312	13	床(5.31)	58	深鉢	内面煤

表39-(15) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
246	SB	5312	14	P1	—	深鉢	—
246	SB	5312	15	P1. 1L	—	深鉢	—
246	SB	5312	17	P1. 1L	—	深鉢	—
246	SB	5312	18	B2L灰中	—	深鉢	—
246	SB	5312	19	B2L灰中. 62	—	深鉢	内面煤
246	SB	5312	21	D2L	—	深鉢	—
246	SB	5312	22	B2L灰中. 1L集中50./34. B2L. 灰中上. Bトゾ	59	深鉢	び多く含む、mg多い
247	SB	5312	24	A1L. 1L集中30./Bトゾ	59	深鉢	被熱
247	SB	5312	25	2L4	59	深鉢	被熱
247	SB	5312	26	2L110	59	深鉢	—
247	SB	5312	27	2L5	59	深鉢	—
247	SB	5312	28	2L126	59	深鉢	—
247	SB	5312	29	2L(12./108)	59	深鉢	—
247	SB	5312	30	2L9	59	深鉢	—
247	SB	5312	31	2L63	59	深鉢	—
247	SB	5312	32	2L49	59	深鉢	—
247	SB	5312	33	2L67	59	深鉢	被熱
248	SB	5312	34	1L集中48	59	深鉢	—
248	SB	5312	35	1L集中40	59	深鉢	—
248	SB	5312	36	B1L. Bトゾ	—	深鉢	被熱
248	SB	5312	37	1L集中(38. 43). SB5340C1L	59	深鉢	強く被熱
248	SB	5312	38	1L集中38	59	深鉢	—
248	SB	5312	39	1L集中47	59	深鉢	—
248	SB	5312	40	1L	—	深鉢	—
248	SB	5312	41	1L集中(1. 3. 4. /5)	59	深鉢	被熱
248	SB	5312	42	1L集中(41. 42). Bトゾ	59	深鉢	内面体部大半帯状煤
249	SB	5312	43	1L集中(8. 15. 18. 19. 35)	59	深鉢	強く被熱。岩片が変質
249	SB	5312	44	A1L. B1L. Dトゾ. 16./121	—	深鉢	—
249	SB	5312	45	1L集中(12./16). Bトゾ	59	深鉢	—
249	SB	5312	46	1L集中54./A1L. 112	59	深鉢	—
249	SB	5312	47	A1L. 1L集中(23./55. 69)	59	深鉢	内面帯状煤
249	SB	5312	48	1L集中57. C1L下部	59	深鉢	被熱
249	SB	5312	49	A1L	—	深鉢	内面漆付着
249	SB	5312	50	1L集中45	—	深鉢	内面煤
249	SB	5312	51	1L集中(2. 3. 35). Bトゾ	59	深鉢	強く被熱
250	SB	5313a	2	P5. A1L. 1L上面./1Lハ	—	深鉢	—
250	SB	5313a	4	3Lハハ. A1L. B2L. SK5662	—	深鉢	内外面赤彩
250	SB	5313a	5	B2L	—	深鉢	—
250	SB	5313a	6	B2L	—	深鉢	—
250	SB	5313a	7	A2Lハハ	—	深鉢	—
250	SB	5313a	8	SB5313BD1L	—	深鉢	出土位置優先
250	SB	5313a	10	C2L	—	深鉢	—
250	SB	5313a	11	D2Lハハ	—	—	—
250	SB	5313a	12	1L上面./C1L. C2L	—	深鉢	—
250	SB	5313a	13	A2L. A1L	—	深鉢	—
251	SB	5313a	14	A2Lハハ	—	深鉢	—
251	SB	5313a	16	B2L. D26	—	深鉢	内面煤
251	SB	5313a	17	D1L./B2L	—	深鉢	—
251	SB	5313a	18	A2L	—	深鉢	—
251	SB	5313a	19	B2L	—	深鉢	—
251	SB	5313a	20	C1L2	—	深鉢	—
251	SB	5313a	21	トゾ	—	深鉢	—
251	SB	5313a	22	埋土	—	深鉢	—
251	SB	5313a	23	B1L	—	深鉢	—
251	SB	5313a	24	B1L	—	深鉢	—
251	SB	5313a	25	A1L	—	深鉢	—
251	SB	5313a	26	A1L	—	深鉢	—
251	SB	5313a	27	1L	—	壺	—
251	SB	5313a	29	C1L	—	釣手	被熱
251	SB	5313a	30	1L上面. C1L	—	深鉢	—
251	SB	5313a	31	C1L	—	ミヅフ台付鉢	内外面漆
251	SB	5313a	32	D1L	—	深鉢	—
251	SB	5313a	33	D1L	—	釣手	被熱
252	SB	5313b	2	D3L	60	深鉢	被熱
252	SB	5313b	3	旧炉上. 炉2上面3L	—	深鉢	—
252	SB	5313b	4	1L(41. 62./19. 51. 64. 130. 135. 136. 137. 144. 145. 148. 149. 155. 156. 171). /旧炉. 2L. A3L中. SB5313a2L. 3L中. P8	60	深鉢	—
252	SB	5313b	5	3L中	—	深鉢	—
252	SB	5313b	6	3L中	—	深鉢	内面煤
252	SB	5313b	7	A旧炉上. C旧炉上./1L130	—	深鉢	内面帯状煤
253	SB	5313b	8	1L127. SB5313a(2L92. 1L). 3L中	60	深鉢	—
253	SB	5313b	9	3L. 1L125. C旧炉上	—	深鉢	—
253	SB	5313b	10	A3L中. B3L./1L50	60	深鉢	—
253	SB	5313b	11	D3L	—	深鉢	—
253	SB	5313b	12	D3L	—	深鉢	—
253	SB	5313b	13	A3L中	—	深鉢	強く被熱
253	SB	5313b	14	B2L	—	深鉢	—
253	SB	5313b	16	1L(55./95). /SB5313aトゾ	60	深鉢	—
253	SB	5313b	17	1L168	60	深鉢	—
253	SB	5313b	18	1L99	60	深鉢	—
254	SB	5313b	19	1L(76./119). B2L	60	深鉢	—
254	SB	5313b	20	1L(77. 79./49)	60	深鉢	—
254	SB	5313b	21	1L54./SB5313a(1Lハハ. A2Lハハ)	60	深鉢	—
254	SB	5313b	23	1L159	60	深鉢	—
254	SB	5313b	24	1L117	60	深鉢	—
254	SB	5313b	25	1L167	60	深鉢	—
254	SB	5313b	26	1L172	60	深鉢	—
254	SB	5313b	27	1L52	60	深鉢	—
254	SB	5313b	28	1L(157. 160)	60	深鉢	—
254	SB	5313b	29	1L65	60	深鉢	—
254	SB	5313b	30	1L53	60	深鉢	—
254	SB	5313b	31	1L?	—	深鉢	—
254	SB	5313b	32	1L67	60	壺	—
254	SB	5313b	33	1L48	60	深鉢	—
254	SB	5313b	34	1L91	60	深鉢	—
255	SB	5313b	35	1L(110./101. 171). /D1L10	60	深鉢	—
255	SB	5313b	37	1L上面. 2L./1L	—	深鉢	底部網代
255	SB	5313b	38	1L73	60	深鉢	—
255	SB	5313b	39	1L14	60	深鉢	—
255	SB	5313b	40	1L118	60	深鉢	—
255	SB	5313b	41	1L(60. 61./63). 1Lハハ. A1Lハハ	60	深鉢	—

表39-(16) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
255	SB	5313b	42	1L36. B1L	60	深鉢	—
255	SB	5313b	43	1L(93. 95. 116)	60	深鉢	—
255	SB	5314	3	埋篋2	61	深鉢	—
256	SB	5314	4	床	—	深鉢	—
256	SB	5314	5	床 / SB5345 2L	—	深鉢	—
256	SB	5314	6	2L	—	—	外面赤彩
256	SB	5314	7	2L	—	深鉢	—
256	SB	5314	8	2L	—	深鉢	—
256	SB	5314	9	2L	—	深鉢	—
256	SB	5314	10	1L	—	壺	—
256	SB	5315	1	3L	—	深鉢	内面帯状煤
256	SB	5315	2	A2L	—	深鉢	赤色鉱物大量に含有
256	SB	5316	2	埋篋1(1. 2)、トレンチ	—	壺	—
256	SB	5316	4	埋篋2隣	—	深鉢	胎土分析289未
256	SB	5316	6	埋篋5	62	深鉢	胴部から底部付近にかけて斜めに縦9cm×横9cmの穿孔有り。胎土分析287未
257	SB	5316	7	埋篋6	62	深鉢	胎土分析288未
257	SB	5316	8	埋篋3	62	深鉢	—
257	SB	5316	10	床、トレンチ	—	深鉢	—
257	SB	5316	11	床	—	深鉢	—
257	SB	5316	12	炉243	63	深鉢	—
257	SB	5316	13	P1	—	深鉢	—
257	SB	5316	14	P15	—	深鉢	—
257	SB	5316	15	2L	—	深鉢	—
257	SB	5316	16	2L	—	壺	—
257	SB	5316	17	2L. 1L. 1L(93. 112)	63	深鉢	—
257	SB	5316	18	1L10	63	壺	胎土分析290未
258	SB	5316	20	1L	—	深鉢	—
258	SB	5316	21	1L	—	深鉢	—
258	SB	5316	22	1L1	63	壺	—
258	SB	5316	23	1L	—	深鉢	—
258	SB	5316	24	1L	—	深鉢	—
258	SB	5316	25	1L20	63	深鉢	—
258	SB	5316	26	1L	—	深鉢	—
258	SB	5316	27	B1L. 1L	—	深鉢	—
258	SB	5316	28	1L7. 1L	63	深鉢	—
258	SB	5316	30	1L	—	深鉢	—
258	SB	5316	31	1L13	63	深鉢	—
258	SB	5316	32	1L	—	深鉢	—
258	SB	5316	33	1L	—	深鉢	—
258	SB	5316	34	1L	—	深鉢	—
259	SB	5316	35	1L14	63	深鉢	—
259	SB	5317	2	P8	—	深鉢	—
259	SB	5317	3	P1	—	深鉢	—
259	SB	5317	4	床	—	深鉢	底部網代
259	SB	5317	5	炉1	64	深鉢	被熱
259	SB	5318	1	掘り方石下	—	深鉢	—
259	SB	5318	2	掘り方石下	—	深鉢	—
259	SB	5318	4	床	—	深鉢	—
259	SB	5318	5	床	—	深鉢	—
260	SB	5318	7	炉(7. 9. 10. 13. 20) / 炉14. 炉付近16	64	深鉢	—

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
260	SB	5318	8	埋土14	—	深鉢	内面煤
260	SB	5318	9	埋土下層	—	深鉢	—
260	SB	5318	10	埋土下層	—	深鉢	—
260	SB	5318	11	埋土上層	—	深鉢	—
260	SB	5318	12	埋土下層	—	深鉢	—
260	SB	5318	13	埋土3	—	ニシ7深鉢	—
260	SB	5319	2	床	—	深鉢	—
260	SB	5319	3	埋篋1. 床	65	深鉢	—
260	SB	5319	4	埋篋4	65	深鉢	積み部で割れ。胎土分析296未
260	SB	5319	5	床	—	深鉢	—
260	SB	5319	6	床	—	深鉢	—
260	SB	5319	7	埋篋3	65	深鉢	—
261	SB	5319	8	床	—	—	—
261	SB	5319	9	床	—	深鉢	—
261	SB	5319	10	床	—	深鉢	—
261	SB	5319	11	床トレンチ	—	深鉢	—
261	SB	5319	12	炉底(3. 7). 炉底	65	深鉢	被熱。表面炭化物付着。胎土分析299未
261	SB	5319	15	炉底4	65	深鉢	表面炭化物付着
262	SB	5319	16	炉底2. 炉底	65	深鉢	裏面被熱
262	SB	5319	18	炉底2	65	深鉢	裏面被熱。表面炭化物付着。胎土分析298未
262	SB	5319	19	埋土LL / 85. 周礫床 1L. 礫底. SB5339(232. 234)	66	深鉢	—
262	SB	5319	20	2L相当46	66	壺	—
262	SB	5319	22	埋土64	—	ニシ7深鉢	—
262	SB	5319	24	埋土	—	深鉢	強く被熱
262	SB	5319	25	2L相当62	66	深鉢	—
262	SB	5319	26	埋土LL	—	深鉢	—
262	SB	5319	27	埋土LL	—	深鉢	—
263	SB	5319	28	1L / 埋土. 周礫6	—	深鉢	—
263	SB	5321	1	張出埋土	67	深鉢	—
263	SB	5321	2	埋篋1	67	深鉢	内面帯状煤、外面底付近帯状煤
263	SB	5321	3	埋篋1	—	深鉢	—
263	SB	5321	4	P2床上	—	深鉢	—
263	SB	5321	5	床上P2. 埋土	—	壺	—
263	SB	5321	7	2L炉上	—	深鉢	—
263	SB	5321	8	炉1 / 炉1L	67	深鉢	—
264	SB	5321	10	2L相当5	67	深鉢	—
264	SB	5321	11	2L相当84	67	深鉢	—
264	SB	5321	12	トレンチ SB5319 60	—	深鉢	—
264	SB	5321	13	埋土M.	—	壺	—
264	SB	5321	14	埋土(M. LL)	—	深鉢	—
264	SB	5321	15	埋土LL	—	深鉢	—
264	SB	5321	16	埋土	—	深鉢	—
264	SB	5321	17	トレンチ	—	深鉢	—
264	SB	5321	18	埋土	—	台付深鉢(鉢)	—
264	SB	5321	19	埋土LL	—	深鉢	—
264	SB	5321	20	炉. 埋土. 埋土M.	—	深鉢	—
264	SB	5321	21	埋土LL	—	深鉢	—
264	SB	5322	2	床	—	深鉢	—
264	SB	5322	3	床	—	深鉢	—
264	SB	5322	4	床	—	深鉢	—

表39-(17) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
264	SB	5322	5	床	—	深鉢	—
264	SB	5322	6	埋土16	—	深鉢	—
265	SB	5322	7	埋土21	68	深鉢	—
265	SB	5323	3	3L相当(22.24)	68	台付深鉢(鉢)	内面底部煤。被熱
267	SB	5324	1	掘り方	—	深鉢	—
267	SB	5324	2	掘り方	—	深鉢	—
267	SB	5324	4	周礫下周構内 下掘り	—	深鉢	—
267	SB	5324	5	周礫下周構内 下掘り	—	深鉢	—
267	SB	5324	6	周礫下周構内 下掘り	—	深鉢	—
267	SB	5324	7	周礫下部	—	深鉢	—
267	SB	5324	8	周礫下掘り	—	深鉢	—
267	SB	5324	10	周礫下127.埋現内上部	70	ミナ7深鉢	底部内面に黒色付着物有り。割れ口磨り
267	SB	5324	11	周礫中	—	深鉢	—
267	SB	5324	12	周礫	—	ミナ7台付深鉢(鉢)か	底部輪積み
267	SB	5324	13	P9(3.6).周礫掘り	—	深鉢	外面煤
267	SB	5324	14	P9(8.9.12)	69	深鉢	—
267	SB	5324	16	2L相当47	70	深鉢	—
268	SB	5324	18	周礫下(1.2.30.34.40.44.116.126)/周礫下掘り(37.43)	70	壺	—
268	SB	5324	20	2L相当113	70	深鉢	—
268	SB	5324	21	1L相当18	70	深鉢	—
268	SB	5324	22	1L相当78	70	深鉢	—
268	SB	5324	23	1L相当66	70	深鉢	—
268	SB	5324	24	1L相当52	70	深鉢	—
268	SB	5324	25	1L相当(95.96.97./56.57)	70	深鉢	—
268	SB	5324	26	1L相当85	70	深鉢	—
268	SB	5324	27	1L相当13	70	深鉢	—
268	SB	5324	28	1L相当76	70	深鉢	—
269	SB	5324	29	1L46.1L^44	70	深鉢	—
269	SB	5325	1	埋竊3	72	深鉢	—
269	SB	5325	2	埋竊5	72	深鉢	底部輪積み部分で剥離
269	SB	5325	4	柄掘り方.41.45	73	深鉢	—
269	SB	5325	5	柄掘り方./37	73	深鉢	—
270	SB	5325	7	埋竊2.柄掘り方.4~5L	72	深鉢	—
270	SB	5325	8	炉20	73	深鉢	強く被熱。表面炭化物付着
270	SB	5325	9	炉(14.15.16.17.18.19)	73	深鉢	—
270	SB	5325	10	床39.トソチ	73	深鉢	—
270	SB	5325	11	床23.埋土	73	深鉢	—
270	SB	5325	12	床34	73	深鉢	—
270	SB	5325	13	床	—	深鉢	—
271	SB	5325	14	床18	73	深鉢	—
271	SB	5325	15	床15.トソチ.付近.2L.5~8L./1L	73	深鉢	—
271	SB	5325	16	床(33./28).5~8L	73	深鉢	—
271	SB	5325	17	床40	73	深鉢	—
271	SB	5325	18	床(25.31)5~8L./トソチ.4L.2L	73	深鉢	—
271	SB	5325	20	5~8L	—	深鉢	—
271	SB	5325	22	5~8L	—	深鉢	—
271	SB	5325	24	1L	—	深鉢	表面炭化物付着
272	SB	5325	26	1L	—	深鉢	—
272	SB	5326	1	4L.埋土	—	壺か	内外面赤彩
272	SB	5326	2	2L.埋土./25	74	深鉢	—

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
272	SB	5326	3	2L	—	深鉢	表面炭化物付着
272	SB	5326	4	2L	—	深鉢	—
272	SB	5326	5	2L	—	深鉢	—
272	SB	5326	6	2L.1L.トソチ	—	深鉢	内面煤
272	SB	5326	7	2L	—	台付深鉢(鉢)もしくは器台	—
272	SB	5326	8	2L	—	深鉢	—
272	SB	5326	9	2L	—	深鉢	—
272	SB	5326	10	2L相当16	74	深鉢	—
272	SB	5326	11	2L相当28	74	壺	外面煤
272	SB	5326	13	2L相当17	74	深鉢	—
272	SB	5326	14	2L相当30	74	深鉢	—
272	SB	5326	15	2L相当16	74	深鉢	内面帯状煤
272	SB	5326	16	2L相当5	74	深鉢	—
272	SB	5326	17	トソチ	—	深鉢	—
273	SB	5328	2	5L相当(194.197)./3~4L.3L	75	深鉢	—
273	SB	5328	3	5L相当206	75	深鉢	—
273	SB	5328	4	5L相当198./SK5633	75	深鉢	—
273	SB	5328	5	5L相当204.2L	75	深鉢	内面煤
274	SB	5328	8	5L相当103.3L105	75	深鉢	—
274	SB	5328	9	3~4L.2./1L	—	深鉢	—
274	SB	5328	10	3L相当121	75	深鉢	—
274	SB	5328	11	3L相当188	75	深鉢	—
274	SB	5328	12	3L相当182	75	深鉢	—
274	SB	5328	13	3L.186	75	深鉢	—
274	SB	5328	14	3L相当(7.76.109)	75	深鉢	—
274	SB	5328	16	3L相当97	75	深鉢	—
274	SB	5328	17	3L相当173	75	深鉢	—
275	SB	5328	19	3L相当72	75	深鉢	—
275	SB	5328	20	3L	—	—	内外面赤彩
275	SB	5328	22	107./116.3L	75	深鉢	—
275	SB	5328	23	3L相当160	75	深鉢	—
275	SB	5328	24	3L相当91	75	深鉢	—
275	SB	5328	25	3L相当92	75	深鉢	—
275	SB	5328	26	トソチ./3L相当81	75	壺	—
276	SB	5328	29	3L相当73	75	深鉢	—
276	SB	5328	30	3L相当178	75	台付深鉢(鉢)	内外面帯状煤
276	SB	5328	31	3L相当111	75	深鉢	—
276	SB	5328	32	3L相当167./2L.1L	75	深鉢	底部網代
276	SB	5328	33	3L相当(111.160.168)	75	深鉢	底部輪積み部分で剥離。底部網代
276	SB	5328	34	2L	—	深鉢	—
276	SB	5328	35	2L.1L	—	深鉢	—
276	SB	5328	36	2L19	75	深鉢	被熱
277	SB	5328	39	2L	—	深鉢	—
277	SB	5328	41	2L相当41	75	深鉢	—
277	SB	5328	42	2L相当54	75	壺	—
277	SB	5328	43	2L相当20	75	深鉢	底部内面煤
277	SB	5328	44	2L	—	深鉢	—
277	SB	5328	46	60./2L	75	深鉢	強く被熱。輪積み
277	SB	5328	47	2L	—	深鉢	—
278	SB	5328	49	2L相当60	75	深鉢	—
278	SB	5328	50	2L.47.55	75	深鉢	—

表39-(18) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
278	SB	5328	51	2L相当153	75	深鉢	—
278	SB	5328	52	1L相当127	75	深鉢	外面煤
278	SB	5329	1	埋土(SK5576下トレンチ)	—	深鉢	—
278	SB	5329	2	埋土(SK5576下トレンチ)	—	深鉢	—
278	SB	5329	4	埋土(SK5576下トレンチ)	—	深鉢	内面下部带状煤
278	SB	5329	5	埋土	—	深鉢	—
278	SB	5329	6	埋土	—	深鉢	—
278	SB	5329	7	埋土	—	深鉢	—
278	SB	5329	8	埋土(SK5576下トレンチ)	—	深鉢	—
278	SB	5329	9	埋土	—	深鉢	—
278	SB	5329	10	埋土	—	深鉢	—
278	SB	5329	11	埋土	—	深鉢	—
279	SB	5329	12	埋土(SK5576下トレンチ)	—	深鉢	—
279	SB	5329	13	埋土(SK5576下トレンチ)	—	深鉢	—
279	SB	5329	14	埋土	—	深鉢	—
279	SB	5329	15	埋土	—	深鉢	—
279	SB	5329	16	埋土(SK5576下トレンチ)	—	深鉢	—
279	SB	5331	1	D3L	—	深鉢	—
279	SB	5331	2	D3L	—	深鉢	—
279	SB	5331	3	D3L	—	深鉢	—
279	SB	5331	4	D3L	—	深鉢	—
279	SB	5331	5	D3L	—	深鉢	—
279	SB	5331	6	D3L	—	深鉢	—
279	SB	5331	7	D3L	—	深鉢	輪積み部分で剥離
279	SB	5331	8	D3L./SB5315 4	—	器台	—
279	SB	5332	1	床下2	—	深鉢	—
279	SB	5332	2	床下2	—	深鉢	—
279	SB	5332	3	床下2	—	深鉢	—
279	SB	5332	4	床下2	—	深鉢	—
280	SB	5332	9	埋土3	—	深鉢	—
280	SB	5332	10	床	—	深鉢	—
280	SB	5332	11	埋土3	—	深鉢	—
280	SB	5332	12	床	—	深鉢	—
280	SB	5332	13	床	—	深鉢	—
280	SB	5332	14	床 炉P5. 31. 34. 41. 48. 5L. 2L. SB5311 (6L. 5L. 27. 183. 2L. 55. 117. D1L). P. SB5345. 2L. 8. /SB5319. 43. SB5321 (10. 1L).	58. 67. 76. 92	深鉢	—
280	SB	5332	15	土壇59	—	壺	—
280	SB	5332	17	6L相当45	76	深鉢	—
280	SB	5332	18	6L相当47	76	深鉢	—
280	SB	5332	19	6L相当50	76	深鉢	—
280	SB	5332	20	6L相当46	76	深鉢	—
281	SB	5332	21	6L相当43	76	深鉢	—
281	SB	5332	22	6L相当(38./20./SB5321(107. 108. 埋土)	76	深鉢	—
281	SB	5332	23	6L相当1	76	深鉢	—
281	SB	5332	25	6L相当44	76	深鉢	—
281	SB	5332	26	6L相当15	76	深鉢	—
281	SB	5332	27	4L. 40. P5./2L. LL	76	深鉢	—
281	SB	5332	28	4L	—	深鉢	—
281	SB	5332	29	2L	—	深鉢	—
281	SB	5332	30	2L	—	深鉢	—
281	SB	5332	31	2L	—	深鉢	—
281	SB	5332	32	2L. ML	—	深鉢	外面煤

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
281	SB	5332	33	2L	—	深鉢	—
281	SB	5332	34	2L	—	深鉢	—
282	SB	5332	37	2L	—	深鉢	—
282	SB	5332	38	2L相当27	76	深鉢	—
282	SB	5332	39	2L	—	深鉢	—
282	SB	5332	40	2L(23. 6). /2L. UL	76	深鉢	—
282	SB	5332	41	2L相当22	76	深鉢	—
282	SB	5332	42	2L相当29. ML	76	深鉢	—
282	SB	5332	43	2L	—	深鉢	—
282	SB	5332	44	2L相当(10. 56)	76	深鉢	—
282	SB	5332	45	2L	—	深鉢	—
282	SB	5332	46	1L	—	深鉢	—
282	SB	5332	47	1L	—	深鉢	—
282	SB	5332	48	1L	—	深鉢	—
282	SB	5332	49	1L	—	深鉢	—
283	SB	5332	50	埋土ML	—	深鉢	—
283	SB	5332	51	1L	—	深鉢	ミナツ台付深鉢(鉢)か
283	SB	5332	53	トレンチ	—	壺	—
283	SB	5334	1	炉	—	深鉢	内面带状煤
283	SB	5334	2	炉	—	深鉢	—
283	SB	5334	3	1L相当11	—	深鉢	—
283	SB	5334	4	2L相当(2. 4./3. 6)	—	深鉢	内面口縁部煤
283	SB	5334	5	2L相当5	—	深鉢	—
283	SB	5335	2	床	—	深鉢	—
283	SB	5335	3	床	—	深鉢	—
283	SB	5335	4	床	—	深鉢	—
283	SB	5335	5	床トレンチ 148. 178. トレンチ/131. 194. 8L. ^*鉢	78	深鉢	—
283	SB	5335	7	炉上 76. 198. 208	78	深鉢	内面煤
284	SB	5335	8	111./炉上 92. 110. 112. 114. 116. 120. 125. 187. 210. ^*鉢. 床トレンチ. 外周トレンチ. 6L. 6トレンチ. 埋土	78	深鉢	—
284	SB	5335	9	炉上 132./173. 214	78	深鉢	—
284	SB	5335	10	炉上SF6. 137. 下床トレンチ	78	深鉢	—
284	SB	5335	11	炉上SF. 189. 8L. 埋土/76. 190. 198. 炉上	78	深鉢	—
284	SB	5335	12	8L相当119	78	深鉢	—
284	SB	5335	13	8L相当109	78	深鉢	—
284	SB	5335	14	8L相当140	78	深鉢	—
284	SB	5335	15	8L相当51	78	深鉢	—
284	SB	5335	16	7・8L相当62	78	深鉢	—
284	SB	5335	17	6~8L相当81	78	深鉢	—
284	SB	5335	18	6~8L相当(57. 127. 176. 215)	78	深鉢	—
284	SB	5335	19	7L相当82	78	深鉢	—
284	SB	5335	20	6L相当(27. 91)	78	深鉢	—
284	SB	5335	21	6L相当115	78	深鉢	—
284	SB	5335	22	5L	—	深鉢	—
284	SB	5335	23	5L相当27	78	深鉢	—
284	SB	5335	24	5L	—	深鉢	—
285	SB	5335	25	5L相当2	78	深鉢	—
285	SB	5335	26	5L相当84	78	深鉢	—
285	SB	5335	27	5L相当86	78	深鉢	—
285	SB	5335	28	5L	—	深鉢	—
285	SB	5335	29	5L相当(90. 94). /^*鉢. 外周トレンチ. トレンチ	78	深鉢	—
285	SB	5335	30	5L	—	深鉢	—
285	SB	5335	31	5L相当104	78	深鉢	—
285	SB	5335	32	3L相当85	78	深鉢	—

表39-(19) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
285	SB	5335	33	3L相当19	78	深鉢	—
285	SB	5335	34	3L	—	深鉢	—
285	SB	5335	35	3L	—	深鉢	—
285	SB	5335	36	3L相当9	78	深鉢	—
285	SB	5335	37	埋土	—	深鉢	佐久系土器
285	SB	5336	1	埋壘1	79	深鉢	底部網代、内面煤。胎土分析318未
285	SB	5336	2	埋壘2	79	深鉢	—
285	SB	5336	3	床	—	深鉢	—
285	SB	5336	4	床	—	深鉢	—
285	SB	5336	5	伊No.36	79	深鉢	—
285	SB	5336	6	伊No.35	79	深鉢	—
285	SB	5336	7	P15	—	深鉢	—
286	SB	5336	8	埋土4	79	深鉢	内面煤
286	SB	5336	9	埋土8	79	深鉢	—
286	SB	5336	10	埋土	—	深鉢	内面煤
286	SB	5336	11	埋土	—	深鉢	—
286	SB	5336	13	埋土	—	深鉢	—
286	SB	5336	14	埋土15	79	深鉢	—
286	SB	5336	15	埋土6	79	深鉢	—
286	SB	5336	16	埋土	—	深鉢	—
286	SB	5336	17	埋土7	79	深鉢	底部穿孔(直径3cm)
286	SB	5337	1	石上54	81	深鉢	—
286	SB	5337	2	石上47	81	深鉢	—
286	SB	5337	4	石上38	81	深鉢	—
286	SB	5337	5	1L石上39	81	深鉢	—
286	SB	5337	6	石上49	81	深鉢	—
286	SB	5337	7	掘り方(石上)10	81	深鉢	—
286	SB	5337	8	掘り方.37.D./22	81	深鉢	—
286	SB	5337	9	埋土石上43	81	深鉢	—
286	SB	5337	10	P2	—	深鉢	—
286	SB	5337	11	P5LL	—	深鉢	—
287	SB	5337	13	埋壘A.埋壘A(外).42	81	深鉢	底部網代、胎土分析292未
287	SB	5337	15	炉.炉埋壘	81	壺	胎土分析294未
287	SB	5337	16	炉埋壘	81	深鉢	外面炭化物付着、胎土分析295未
287	SB	5337	17	1L6	81	深鉢	底部4cmを残して切断、磨り。内面赤彩、内面底部漆
287	SB	5337	18	炉埋壘	81	深鉢	—
287	SB	5337	20	埋土(DUL. A^HHL)	—	深鉢	—
287	SB	5337	21	P10.C./埋土ML~LL	—	深鉢	—
288	SB	5337	22	埋土15	81	深鉢	—
288	SB	5337	23	埋土13	81	深鉢	—
288	SB	5337	24	埋土18	81	深鉢	—
288	SB	5337	25	1LB	—	深鉢	—
288	SB	5337	26	1L3	81	深鉢	—
288	SB	5337	27	埋土7	81	深鉢	—
288	SB	5337	28	埋土18	81	深鉢	—
288	SB	5337	29	A^HHL	—	深鉢	—
288	SB	5338	3	床相当120	82	深鉢	—
288	SB	5338	4	埋壘1	—	深鉢	内面底部漆
288	SB	5338	5	埋壘1	—	深鉢	—
289	SB	5338	7	床相当107	83	深鉢	—
289	SB	5338	8	床相当99	83	深鉢	—
289	SB	5338	9	床相当114.A.B.柄	82	深鉢	—
289	SB	5338	10	床相当115	82	深鉢	—

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
289	SB	5338	11	床相当101	82	釣手	—
289	SB	5338	12	床相当121	82	深鉢	—
289	SB	5338	13	床	—	深鉢	—
289	SB	5338	14	床相当119	82	深鉢	—
289	SB	5338	15	床相当102	82	深鉢	—
289	SB	5338	16	床相当117.AUL	82	深鉢	—
289	SB	5338	17	床相当10	82	深鉢	—
289	SB	5338	18	床相当154	82	深鉢	—
289	SB	5338	19	床相当51	82	深鉢	—
289	SB	5338	20	床相当96	82	深鉢	—
289	SB	5338	21	床相当149	82	深鉢	—
289	SB	5338	22	床相当77	83	深鉢	外面煤
289	SB	5338	23	床相当112.B.CUL	82	深鉢	内面帯状煤
289	SB	5338	25	P	—	深鉢	—
289	SB	5338	26	P	—	深鉢	—
290	SB	5338	27	周礫相当12	82	深鉢	—
290	SB	5338	28	周礫相当5	82	深鉢	—
290	SB	5338	29	周礫相当90	82	深鉢	—
290	SB	5338	30	周礫相当127	82	深鉢	—
290	SB	5338	31	周礫相当1	82	台付深鉢(鉢)	底部内面全面煤
290	SB	5338	32	周礫相当129	82	深鉢	—
290	SB	5338	33	9L	—	深鉢	—
290	SB	5338	34	9L礫	—	深鉢	—
290	SB	5338	35	4L相当(23,30).8UL.B	82	深鉢	—
290	SB	5338	36	4L相当21	82	深鉢	—
290	SB	5338	37	4L相当13	82	深鉢	—
290	SB	5338	38	4L^H鉢	—	深鉢	—
290	SB	5338	39	4L相当94	82	深鉢	—
290	SB	5338	40	B骨付近.UL/2L~ML.UL(B.D.トレンチ).埋土	—	深鉢	—
290	SB	5338	41	2L	—	深鉢	—
290	SB	5338	42	埋土柄	—	深鉢	—
290	SB	5338	43	埋土柄	—	深鉢	—
290	SB	5338	45	埋土	—	深鉢	—
290	SB	5338	47	埋土AUL	—	壺か	—
291	SB	5338	48	埋土AUL	—	深鉢	—
291	SB	5338	49	埋土BML~LL	—	深鉢	—
291	SB	5338	50	埋土AML~LL	—	深鉢	—
291	SB	5338	51	B骨付近埋土UL	—	深鉢	—
291	SB	5338	52	埋土1	—	深鉢	—
291	SB	5338	53	埋土(DUL./ML~LL)	—	深鉢	—
291	SB	5338	54	埋土BML~LL	—	深鉢	—
291	SB	5338	55	B骨付近埋土UL	—	深鉢	—
291	SB	5338	56	埋土UL	—	深鉢	内面煤
291	SB	5338	57	埋土DUL	—	深鉢	—
291	SB	5338	58	埋土CUL	—	深鉢	—
291	SB	5338	59	埋土AUL	—	深鉢	—
291	SB	5338	60	埋土BUL	—	深鉢	—
291	SB	5338	61	埋土UL	—	深鉢	—
291	SB	5338	62	埋土AML~LL	—	深鉢	—
291	SB	5338	63	埋土BML~LL	—	深鉢	—
291	SB	5338	65	埋土B骨付近	—	壺	—
291	SB	5338	66	埋土BUL	—	壺か	外面赤彩
291	SB	5338	67	埋土BUL	—	ミナ7深鉢か	—
291	SB	5338	68	埋土DUL~ML	—	深鉢	—
291	SB	5338	69	埋土ML~LL	—	深鉢	—

表39-(20) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器觀察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
291	SB	5338	70	埋土A1L	—	深鉢	—
291	SB	5338	71	埋土(D1L~M1L, BUL, M1L~L1L), B	—	深鉢	—
292	SB	5339	1	IL相当(107, 237), A ⁺ 鉢	83	注口	外面赤彩。胎土分析331未
292	SB	5339	2	IL相当(224, 225, 226 /54, 101, 193), A ⁺ 鉢	83	壺	—
292	SB	5339	3	IL相当143, A ⁺ 鉢	—	壺	内外面赤彩。胎土分析333未
292	SB	5339	4	埋土, A ⁺ 鉢	—	壺	外面付着物(化粧粘土もしくは赤彩)
292	SB	5339	5	A ⁺ 鉢	—	壺	外面赤彩
292	SB	5339	6	IL相当166	83	深鉢	—
292	SB	5339	7	IL相当117	83	深鉢	—
292	SB	5339	9	埋土, UL	—	深鉢	—
292	SB	5339	10	IL相当130	83	台付深鉢(鉢)か	—
292	SB	5339	11	埋土	—	深鉢	—
293	SB	5339	13	IL相当(82, 64)	83	深鉢	—
293	SB	5339	14	埋土, UL /IL相当175	83	深鉢	—
293	SB	5339	15	A ⁺ 鉢	—	深鉢	—
293	SB	5339	16	IL相当(77, 78, 88, 242)	83	深鉢	—
293	SB	5339	17	埋土, A ⁺ 鉢UL	—	深鉢	—
293	SB	5339	18	IL相当106	83	深鉢	—
293	SB	5339	19	IL相当241	83	深鉢	—
293	SB	5340	2	床35, 33, D	84, 85	深鉢	外面帯状煤
294	SB	5340	3	床5, 142, 2L, D1L	84, 85	深鉢	—
294	SB	5340	4	床57	—	深鉢	—
294	SB	5340	5	C床, SB531211P6の11	—	深鉢	内外面帯状煤
294	SB	5340	6	床49, 2L(123, 131), A2L /SB5339埋土	84, 85	深鉢	底部切断、磨り
294	SB	5340	7	床25	84	台付深鉢(鉢)	脚部で割れ
294	SB	5340	8	床46	84	深鉢	—
294	SB	5340	10	炉IL, トノチ /伊炭上23	84	深鉢	—
294	SB	5340	11	伊炭上(24, 25, 27, 29), 伊炭上	84	深鉢	—
295	SB	5340	13	伊2L, 灰上(2, 13), 伊(5, 2L)	84	深鉢	—
295	SB	5340	14	伊炭上(2, 12, 14, 15, 17, 20, 22, 31), 伊炭上, 炭上	84	深鉢	—
295	SB	5340	17	2LP13	—	深鉢	—
295	SB	5340	18	A2L	—	深鉢	被熱
295	SB	5340	20	埋裏付近 /D2L	—	深鉢	—
296	SB	5340	22	2L121	85	深鉢	内面煤
296	SB	5340	23	2LP18, 埋土	—	壺	—
296	SB	5340	24	2L, トノチ, 1L, A	—	深鉢	口縁部帯状煤
296	SB	5340	25	D2L	—	壺	—
296	SB	5340	26	A1L	—	深鉢	—
296	SB	5340	27	A1L /2L154	85	深鉢	内面煤
296	SB	5340	28	2L100	85	壺	—
296	SB	5340	30	B2L46, A1L	85	壺	—
297	SB	5340	31	2L(89, 93, 95), 2L, B2L	85	深鉢	強く被熱
297	SB	5340	32	2L115	85	深鉢	—
297	SB	5340	33	2L104 /2L86	85	深鉢	—
297	SB	5340	34	2L44, トノチ	85	深鉢	—
297	SB	5340	35	2L(99, 123, 133,)	85	壺	—
297	SB	5340	36	2L	—	釣手	—
297	SB	5340	37	A2L, 2L, A1L	—	深鉢	被熱
297	SB	5340	38	D2L	—	深鉢	強く被熱
297	SB	5340	39	2L21	85	深鉢か	補修孔。内外面赤彩
297	SB	5340	40	D2L	—	ミナブ台付深鉢	内面煤
297	SB	5340	41	D2L /IN19J63	—	釣手	—
297	SB	5340	42	D2L	—	ミナブ壺	外面赤彩
298	SB	5340	43	2L38, D2L, 2L /A1L	85	深鉢	—

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
298	SB	5340	44	A1L	—	壺	—
298	SB	5340	45	埋土A	—	注口	—
298	SB	5340	46	埋土	—	深鉢	鳥形突起
298	SB	5340	47	埋土A	—	深鉢	—
298	SB	5341	4	炉上面	—	深鉢	—
298	SB	5341	5	床下1	86	深鉢	体部下半以上を切断、切断部を丁寧に研磨
298	SB	5341	6	炉上面	—	深鉢	被熱
299	SB	5341	8	2L, A2L /炉1, 5L, 4L, 2L	—	深鉢	内面煤
299	SB	5341	9	炉5L, 7L上面87	87	深鉢	—
299	SB	5341	10	炉	—	深鉢	—
299	SB	5341	11	床P11	—	深鉢	—
299	SB	5341	12	7L上31	87	深鉢	—
299	SB	5341	13	7L上72, 5L, 2L	87	深鉢	内面煤
299	SB	5341	14	7L上(4, 62), 5L上面6, X II-2L, 4L8, SX5505 3L /外トノチの灰床, 5LEWA ⁺ 鉢	87	深鉢もしくは壺	—
299	SB	5341	15	5L /7L上49	87	深鉢	—
299	SB	5341	17	7L上61	87	深鉢	—
299	SB	5341	18	7L上(73, 90), 4~6L, 掘り込みP4, /7L上(4, 0, 42, 60, 63, 68, 80, 114) X II-2L, 炉5L, P1, 床下7L1, 4~6L掘り込みP2, 5L	87	深鉢	—
299	SB	5341	19	7L上(6, 110), SX5505 3L	87	深鉢	—
299	SB	5341	20	4~6L /7L上94, Eトノチ X II-2L, 5L, 4L	87	深鉢	—
299	SB	5341	21	7L上39, 5L, SX5505 3L	87	深鉢	—
299	SB	5341	22	7L上76	87	深鉢	SB5341 23と同一体か
299	SB	5341	23	7L上103, 5LEWA ⁺ 鉢	87	深鉢	SB5341 22と同一体か
299	SB	5341	24	7L上95	87	深鉢	—
299	SB	5341	25	7L上(64, 99, 100, 115)	87	深鉢	—
300	SB	5341	26	7L上83, SB5311外トノチ	87	深鉢	—
300	SB	5341	27	5L上面1 /7L上98, 5L上面, 5L	87	深鉢	—
300	SB	5341	28	7L上(13, 14)	87	深鉢	—
300	SB	5341	29	7L上(87, 88), A5L	87	深鉢	—
300	SB	5341	30	5L上面20	87	深鉢	—
300	SB	5341	31	5L上面(31 /40)	87	深鉢	—
300	SB	5341	32	6L1, 5L上面9	87	深鉢	—
300	SB	5341	33	5L上面4	87	深鉢	—
300	SB	5341	34	5L上面41	87	深鉢	—
300	SB	5341	35	5L上面18, 5L	87	深鉢	—
300	SB	5341	36	5L上面2, 4~6L	87	深鉢	内面帯状煤
300	SB	5341	37	5L上面13	87	深鉢	—
300	SB	5341	39	5L上面7	87	深鉢	—
300	SB	5341	40	5LEWA ⁺ 鉢, X II-2L	—	深鉢	強く被熱
300	SB	5341	41	5L上面, 3L, SB5311トノチ	—	深鉢	—
301	SB	5341	42	5L上面29	87	壺	内外面赤彩
301	SB	5341	43	4~6LEWA ⁺ 鉢	—	深鉢	—
301	SB	5341	44	5L	—	深鉢	内面煤
301	SB	5341	45	5L上面8, 5L25	87	深鉢	内面煤。底部網代
301	SB	5341	46	5L上面(10, 32), 5L, 4L, 3L	87	深鉢	—
301	SB	5341	47	4~6LEWA ⁺ 鉢	—	深鉢	—
301	SB	5341	48	A2L	—	深鉢	—
301	SB	5341	49	A2L /A1 X II-2L, 5L上面火床	—	深鉢	—
301	SB	5341	50	A2L /SX5505 3L	—	深鉢	—
301	SB	5341	51	A3L, A2L, Eトノチ	—	深鉢	—
301	SB	5341	52	A2L	—	深鉢	—
301	SB	5341	53	2L	—	深鉢	—

表39-(21) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
301	SB	5341	54	A2L, 2L, X II-2L, SB5311D4L	—	深鉢	—
301	SB	5341	55	1L	—	深鉢	—
301	SB	5341	56	埋土	—	壺	内外面赤彩
302	SB	5342	1	埋壘1	88	壺	胎土分析320未
302	SB	5342	3	埋壘3	88	深鉢	底部打ち欠き
302	SB	5342	4	埋壘2下	88	深鉢	胎土分析322未
302	SB	5342	6	埋土	—	深鉢	—
303	SB	5342	9	埋土	—	深鉢	—
303	SB	5342	10	埋土上	—	釣手付深鉢	—
303	SB	5342	11	埋土	—	深鉢	—
303	SB	5342	12	埋土	—	深鉢	—
303	SB	5343	1	埋壘	89	深鉢	胎土分析319未
303	SB	5343	2	2L	—	深鉢	—
303	SB	5343	3	2L	—	深鉢	—
303	SB	5343	4	2L	—	深鉢	—
303	SB	5343	5	2L	—	深鉢	—
303	SB	5343	6	2L	—	ミチナシ壺	—
303	SB	5343	7	2L	—	深鉢	—
303	SB	5343	9	2L	—	深鉢	—
303	SB	5343	10	2L337	89	深鉢	—
303	SB	5343	11	2L	—	注口	—
303	SB	5343	12	2L	—	深鉢	—
304	SB	5343	16	2L, 1L, 154	89	深鉢	—
304	SB	5343	17	2L	—	深鉢	—
304	SB	5343	18	2L	—	深鉢	—
304	SB	5343	19	2L	—	深鉢	—
304	SB	5343	20	1L相当134	89	深鉢	黒色付着物
304	SB	5343	21	1L相当216	89	深鉢	—
304	SB	5343	22	1L相当102	89	深鉢	—
305	SB	5343	24	1L相当414	89	深鉢	—
305	SB	5343	25	1L相当409	89	深鉢	—
305	SB	5343	28	1L	—	深鉢	—
305	SB	5343	29	1L相当724	89	深鉢	—
305	SB	5343	30	1L相当(545, 549, /548)	89	深鉢	—
305	SB	5343	31	1L相当179	89	深鉢	—
305	SB	5343	32	1L相当718	89	深鉢	—
306	SB	5343	37	1L相当(7, /623)	89	鉢か深鉢	外面赤彩。内面化粧粘土
306	SB	5343	39	1L相当(18, 19, 445) トリフ	89	深鉢	—
306	SB	5343	41	1L相当10	89	深鉢	底部網代
306	SB	5343	42	1L相当634	89	壺	胎土特異
307	SB	5343	43	1L相当(108, 113, 116, 492, 707)	89	深鉢	被熱
307	SB	5343	44	1L相当(738, /441, 443, 748)	89	壺	上・下輪積み
307	SB	5343	45	1L相当284	89	深鉢	—
307	SB	5343	46	1L相当(435, 739, 752)	89	深鉢	—
307	SB	5343	47	1L相当101	89	深鉢	—
307	SB	5343	48	1L相当360	89	深鉢	—
307	SB	5343	49	1L相当472	89	深鉢	—
307	SB	5343	50	1L相当301	89	深鉢	—
307	SB	5343	51	1L相当(134, 708)	89	深鉢	—
307	SB	5343	52	1L相当696	89	深鉢	—
307	SB	5343	53	1L相当136	89	深鉢	—
308	SB	5344	2	埋壘内	—	浅鉢・鉢	—
308	SB	5344	3	埋壘内	—	深鉢	—
308	SB	5344	4	床46	—	深鉢	—

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
308	SB	5344	5	2L相当6	90	深鉢	—
308	SB	5344	6	2L相当(SB5346 6)	90	深鉢	—
308	SB	5344	8	2L相当39	90	深鉢	—
308	SB	5344	9	2L43	90	壺	—
308	SB	5344	10	2L相当(SB5346 9)	90	深鉢	弱く被熱
308	SB	5344	11	2L相当37	90	器台	—
308	SB	5344	12	2L相当(SB5346 6, 7)	90	深鉢	—
309	SB	5344	13	2L相当(SB5346 5)	90	深鉢	—
309	SB	5344	14	Bトリフ, A ⁺ #HE	—	深鉢	—
309	SB	5344	15	D(SB5346)	—	深鉢	—
309	SB	5344	16	Bトリフ	—	深鉢	外面煤
309	SB	5344	17	埋土DML~LL	—	深鉢	—
309	SB	5344	18	埋土DUL	—	深鉢	—
309	SB	5344	19	2L相当(9, 10, 16, 17)	90	深鉢	内面煤
309	SB	5344	20	埋土DUL	—	深鉢	—
309	SB	5344	21	埋土DML~LL	—	深鉢	内面煤
309	SB	5344	22	Bトリフ	—	壺	内外面赤彩
309	SB	5344	23	埋土	—	壺	外面赤彩
309	SB	5344	24	Bトリフ	—	深鉢	—
309	SB	5344	25	埋土36, トリフ(B, D)	—	深鉢	—
309	SB	5344	26	Bトリフ	—	深鉢	—
309	SB	5344	27	埋土UL~LL	—	深鉢	—
309	SB	5344	28	C(SB5344)	—	深鉢	—
309	SB	5344	29	埋土OUL~LL	—	深鉢	—
310	SB	5345	2	埋壘No. 3. /埋壘No. 2 埋土	91	深鉢	胎土分析262掲
310	SB	5345	3	埋壘No. 2. /P3, 埋土	91	深鉢	内面縦磨き。体部下帯伏煤。胎土分析261掲
310	SB	5345	4	5L床	—	深鉢	—
310	SB	5345	7	5L床3	92	深鉢	—
310	SB	5345	9	5L床(2, 22)	92	深鉢	—
311	SB	5345	10	伊7L55, 2L(101, 104, /105, 132) /B2L, 2L	92	深鉢	—
311	SB	5345	11	床下P3	—	深鉢	—
311	SB	5345	12	5L床7	92	深鉢	—
311	SB	5345	14	5L床47	92	深鉢	内面帯伏煤
311	SB	5345	15	トリフ /5L床, P4 1L, 1L, トリフ	—	深鉢	—
311	SB	5345	16	5L床27	92	深鉢	胎土分析267掲
311	SB	5345	17	5L床23	92	深鉢	—
311	SB	5345	18	5L床5, A2L, D2L	92	深鉢	内面煤。胎土分析268掲
311	SB	5345	19	5L床(1, /14) /2L(72, 75), A2L, B2L, C2L, CUL, LS2L, 5L床	92	深鉢	胎土分析264掲
311	SB	5345	20	5L床53, 2L	92	深鉢	—
312	SB	5345	22	2L141	92	深鉢	—
312	SB	5345	23	2L140	92	深鉢	—
312	SB	5345	25	2L143	92	深鉢	—
312	SB	5345	26	2LNA ⁺ 鉢	—	深鉢	表面嘴状突起に煤。内面帯伏煤
312	SB	5345	27	2L64	92	深鉢	—
312	SB	5345	30	2LEA ⁺ 鉢	—	深鉢	—
312	SB	5345	31	B2L	—	深鉢	—
313	SB	5345	33	2L103	92	深鉢	—
313	SB	5345	35	2L(8, 139)	92	深鉢	胎土分析273掲
313	SB	5345	37	2L(42, 47)	92	深鉢	—
313	SB	5345	38	2L4, C2L, /2LA ⁺ #HE	92	深鉢	胎土分析272掲
313	SB	5345	39	2L133	92	深鉢	被熱
313	SB	5345	40	2L119, U2L	92	深鉢	内面煤。胎土分析277掲
313	SB	5345	41	B2L	—	深鉢	内面帯伏煤。胎土分析278未

表39-(2) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器觀察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
314	SB	5345	42	2L111	92	深鉢	—
314	SB	5345	43	A2L	—	深鉢	—
314	SB	5345	45	2L76, A2L	92	深鉢	—
314	SB	5345	46	2L [△] #IS	—	深鉢	—
314	SB	5345	48	C2L, 2L [△] #IS	—	深鉢	—
314	SB	5345	51	2L(91./75), A2L, B2L./2L(N [△] #IS, S [△] #IS), トンテ	92	壺	胎土分析269掲
315	SB	5345	53	2L109	92	深鉢	—
315	SB	5345	54	B2L, D1L, トンテ	—	壺	胎土分析281掲
315	SB	5345	55	2L(125, 126)	92	壺	—
315	SB	5345	56	2L, 110, 134./B2L, トンテ	92	深鉢	—
315	SB	5345	58	2L	—	深鉢	—
316	SB	5345	60	2L107	92	深鉢	—
316	SB	5345	61	2L [△] #HW	—	深鉢	—
316	SB	5345	62	B2L./2L84, トンテ	92	深鉢	—
316	SB	5345	63	54./C2L	92	深鉢	口縁部に補修孔
316	SB	5345	64	2L29	92	深鉢	—
316	SB	5345	65	2L(38, 72), 54	92	深鉢	胎土分析282掲
316	SB	5345	66	2L(74, 77)	92	深鉢	—
317	SB	5345	68	2L52	92	深鉢	—
317	SB	5345	69	トンテ, 2L(7, 25./4, 6, 15, 32), /A1L, A2L, D2L, 2L, トンテ, 2L [△] #IS	92	深鉢	—
317	SB	5345	70	2L106	92	深鉢	—
317	SB	5345	71	トンテ(N, W, S), /2L93, B2L, C2L, 2L, CL	92	深鉢	—
317	SB	5345	72	2L(38, 71), A2L	92	深鉢	—
317	SB	5345	73	2L106	92	深鉢	—
317	SB	5345	74	2L45	92	深鉢	—
317	SB	5345	75	2L56	92	深鉢	—
317	SB	5345	76	B2L	—	深鉢	—
318	SB	5345	77	2L(106, 113, 115, 140, 144), A1L, B1L, C2L	92	深鉢	胎土分析283掲
318	SB	5345	78	2L(53, 72)	92	深鉢	—
318	SB	5345	79	2L(9, 28, 31)	92	深鉢	内面体部帯状煤。胎土分析275未
318	SB	5345	80	2L [△] #IS	—	深鉢	内面煤
318	SB	5345	81	2L58, トンテ	92	深鉢	—
318	SB	5345	82	2L102	92	深鉢	—
318	SB	5345	83	2L149	92	深鉢	—
318	SB	5345	84	2L96	92	深鉢	—
318	SB	5345	85	2L75, 2L(E, N), 2L [△] #IS, トンテ	92	深鉢	—
318	SB	5345	86	2L142	92	深鉢	—
318	SB	5345	87	B1L	—	深鉢	—
318	SB	5345	88	B1L	—	深鉢	曾利・唐草文系
318	SB	5345	89	埋土	—	深鉢	—
318	SB	5345	90	トンテ	—	深鉢	内外面煤
319	SB	5348	2	6L相当(66, 67./98, 145, 193)	93	深鉢	外面煤
319	SB	5348	4	5L相当(15, 36, 41, 44, 70, 97, 99, 100, 108./78) トンテ/埋土	93	深鉢	—
319	SB	5348	5	5L相当(55, 56, 186)	93	壺	—
320	SB	5348	8	4L, 61, 156./139, 140, 151, 155, 158, 2L炭, トンテ	93	壺	—
321	SB	5348	13	2L, 2L炭, 48, 49, 埋土	93	深鉢	—
321	SB	5348	15	1L相当(14, 24)	93	深鉢	底部桶代
321	SB	5349	1	埋土	—	深鉢	—
321	SB	5349	2	埋土	—	深鉢	—
321	SB	5349	3	埋土	—	深鉢	—
321	SB	5350	2	床	—	深鉢	胎土分析254未
321	SB	5350	3	P10	—	深鉢	—
321	SB	5350	4	P10	—	深鉢	—
321	SB	5350	5	P10	—	深鉢	—
322	SB	5350	8	床下42, 掘り方(2, 9)骨付近, 44(SB5320)	95, 124	深鉢	胎土分析257掲
322	SB	5350	10	3L20	95	深鉢	—
322	SB	5350	11	3L8	95	深鉢	—
322	SB	5350	12	トンテ	—	深鉢	—
322	SB	5350	13	3L31	95	深鉢	内面煤
323	SB	5350	14	3L, トンテ(SB5320)	—	深鉢	—
323	SB	5350	15	3L	—	深鉢	—
323	SB	5350	18	3L33	95	深鉢	—
323	SB	5350	19	3L5	95	深鉢	—
323	SB	5350	20	3L(35, 36)	95	深鉢か	—
323	SB	5350	21	3L21, SB5313a(埋土./1L [△] #IS)	95	深鉢	—
323	SB	5350	22	3L3	95	深鉢	胎土分析259掲
323	SB	5350	24	3L18	95	深鉢	—
324	SB	5350	26	1・2L, トンテ	—	深鉢	—
324	SB	5350	27	1・2L8(SB5320), 1L./2L [△] #IS	95	深鉢	—
324	SB	5350	28	1・2L8(SB5320), [△] #IS(SB5320)	95	深鉢	—
324	SB	5350	29	3L14	95	深鉢	外面煤
324	SB	5350	31	3L(26, 50), 1L [△] #IS(SB5320), 1L(SB5320), 床下(SB5320)	95	深鉢	胎土分析258掲
324	SB	5350	32	1・2L51(SB5320), 1L [△] #IS(SB5320), トンテ(SB5320)	95	深鉢	—
325	SB	5350	33	2L [△] #IS(SB5320)	—	深鉢	—
325	SB	5350	34	1・2L18(SB5320)	95	深鉢	—
325	SB	5350	35	1・2L24(SB5320)	95	深鉢	—
325	SB	5350	36	1・2L54(SB5320)	95	深鉢	—
325	SB	5350	37	埋土1L	—	深鉢	—
325	SB	5350	38	1・2L(SB5320埋土)	—	—	内外面赤彩
325	SB	5350	39	1・2L14(SB5320), トンテ(SB5320)	95	深鉢	胎土分析256掲
325	SB	5350	40	1L [△] #IS(SB5320)	—	壺	—
325	SB	5350	41	1L [△] #IS(SB5320), 1L(SB5320)	—	深鉢	外面煤
325	SB	5350	42	埋土	—	—	外面赤彩
325	SB	5350	43	埋土	—	深鉢	—
326	SB	5351	5	P4	—	深鉢	—
326	SB	5351	6	3L相当12	97	深鉢	強く被熱
326	SB	5351	7	3L相当381	97	深鉢	—
326	SB	5351	8	2L(132./28)	97	深鉢	—
326	SB	5351	9	2L217	97	深鉢	—
327	SB	5351	11	2L相当(46, 121, 123, 137, 146, 207, 376), A, B, D, トンテ, CL	97	深鉢	—
327	SB	5351	13	2L相当(198./216)	97	深鉢	串田新系か
327	SB	5351	14	2L相当(229./231)	97	深鉢	—
327	SB	5351	15	2L相当30./DUL	97	深鉢	—
328	SB	5351	17	2L相当375, B./AUL	97	深鉢	—
328	SB	5351	18	2L相当(150, 152)	97	深鉢	—
328	SB	5351	20	D2L	—	深鉢	内面体部下半煤
329	SB	5351	23	1L相当(187./97)	97	深鉢	—
330	SB	5351	26	236, 255, 261./A2L, 26, 179, 244, 252, 254, 266, 270, 274, 285, 286, 287, 288, 289, BUL, B, トンテ1	97	深鉢	—
330	SB	5351	28	1L相当304	97	深鉢	—
330	SB	5351	29	1L相当(106, 114, 115), DUL, D2L, トンテ, D	97	深鉢	—
330	SB	5351	30	1L相当1	97	器台	—
330	SB	5351	31	1L相当168	97	深鉢	—
330	SB	5351	32	埋土	—	深鉢	—

表39-(23) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土回番号	器種	備考
330	SB	5351	33	埋土トレンチ2トレンチA	—	深鉢	—
330	SB	5351	34	埋土D	—	深鉢	—
331	SB	5352	2	1L1	—	深鉢	—
331	SB	5352	3	D床	—	深鉢	—
331	SB	5352	4	炉2.B貼り床中.D床	—	深鉢	被熱。内面煤
331	SB	5352	5	SB5313b旧炉上	60	深鉢	—
331	SB	5352	6	炉上SB5313a(D2L.LL131.2L).SB5313b(B2L.2L.B炉上.3L)	60	深鉢	—
331	SB	5352	7	SB5313b旧炉上./SB5313b1L71	—	深鉢	—
331	SB	5352	8	P71	—	深鉢	—
331	SB	6701	1	2L相当(73.177./74.89.108.120.128.132)	—	深鉢	胎土に川砂が多く、石英、斜長石、赤鉄鉱らしい赤色岩片を含む
331	SB	6701	2	2L相当(150.160.209.210./186)	—	深鉢	被熱
332	SB	6701	3	1L	—	深鉢	—
332	SB	6701	4	2L相当(76.134.154.215./13.17.31.37.38.44.52.59.81.90.103.114.128.136.164.192.198.207)	—	深鉢	内面煤
332	SB	6701	5	2L相当(57.107.165./21.66.68.84.129)	—	深鉢	—
332	SB	6701	6	2L相当161	—	壺か	内面赤彩
332	SB	6701	7	1・2L相当(10.163./169)	—	壺か	外面赤彩。内外面煤
332	SB	6702	3	1L(63.66.67)/SB6703(54.55)	99	深鉢	—
332	SB	6702	4	1L68	99	深鉢	—
332	SB	6702	5	1L(5./40)	99	深鉢	—
332	SB	6702	6	1L45	99	深鉢	—
333	SB	9001	1	埋土/床.1~3L	100	深鉢	内面体部下半煤。上部打ち欠き胎土分析314未
333	SB	9001	2	5L相当(一括No.5.1~3L)/SK9085	100	深鉢	被熱。内面煤。胎土分析303未
333	SB	9001	3	4・5L	—	深鉢	—
333	SB	9001	4	4・5L	—	深鉢	—
333	SB	9001	5	4・5L(65.2L.1~3L./トレンチ)	100	深鉢	弱く被熱。底部穿孔
333	SB	9001	9	4L相当(47.106.一括No.2)	100	深鉢	被熱
333	SB	9001	10	3・4L相当(90./70).1~3L./トレンチ	100	深鉢	—
334	SB	9001	12	2L相当8	100	深鉢	—
334	SB	9001	13	2L相当一括No.8	100	深鉢	内面底部以外煤
334	SB	9001	14	2L相当25	100	深鉢	—
334	SB	9001	16	2L相当63	100	深鉢	—
334	SB	9001	17	2・3L相当91	100	深鉢	—
334	SB	9001	18	2L相当67	100	深鉢	—
334	SB	9001	19	2L相当(26.66./88).1L	100	深鉢	—
334	SB	9001	20	2L相当(36.92.4・5L.1~3L)	100	深鉢	—
334	SB	9001	21	1~3L54.1~3L	100	深鉢	—
334	SB	9001	22	1・2L相当7	100	深鉢	—
334	SB	9001	23	1L相当6	100	壺	—
335	SB	9001	25	1L相当58	100	深鉢	—
335	SB	9001	26	1L相当8	100	深鉢	—
335	SB	9001	27	1~3L.トレンチ	—	深鉢	—
335	SB	9001	28	1L相当51	100	深鉢	—
335	SB	9001	29	1L相当74	100	深鉢	内面煤
335	SB	9001	30	1L相当39	100	深鉢	—
335	SB	9001	31	1L相当一括No.9	100	深鉢	底部切断もしくは剥離。上部摩耗
335	SB	9001	32	1L相当4.1~3L	100	深鉢	—
335	SB	9001	33	1L相当45	100	深鉢	—
351	SB	9001	34	SK9016	—	深鉢	—
335	SB	9002	1	1・2L相当7.トレンチ	—	深鉢	内面煤
335	SB	9002	2	1・2L相当22	—	深鉢	—

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土回番号	器種	備考
335	SB	9002	3	1L相当4	—	深鉢	—
335	SB	9003	2	埋土(SB9002.12)	—	深鉢	内面煤
335	SB	9003	3	炉	—	深鉢	—
336	SB	9003	5	炉	—	深鉢	—
336	SB	9003	6	炉./2L.ハ^鉢	—	深鉢	—
336	SB	9003	8	2L	—	深鉢	—
336	SB	9003	9	3L相当50	—	深鉢	—
336	SB	9003	10	1・2L相当(23.46).ハ^鉢.1L./トレンチ.SB9002.9	—	深鉢	—
336	SB	9003	11	1L相当(SB9002.32)	—	深鉢	—
336	SB	9003	12	1L相当(SB9002.11)	—	深鉢	—
336	SB	9003	14	1L相当21	—	深鉢	—
336	SB	9003	15	1L相当(SB9002.30)	—	深鉢	—
337	SB	9003	16	1L相当(SB9002(20./2L))	—	深鉢	内面煤
337	SB	9003	17	1L相当(SB9002(13.18./26))	—	深鉢	—
337	SB	9003	18	1L相当(SB9002(32.33./11.15.37.トレンチ))	—	深鉢	—
337	SB	9003	19	1L相当(SB9002(25.27.29.31))	—	深鉢	—
337	SB	9004	2	1L39	102	深鉢	—
337	SB	9004	3	1Lハ^鉢	—	深鉢	—
337	SB	9004	5	1L37	102	深鉢	内面煤
337	SB	9004	6	1L(49./52).UL	102	深鉢	—
337	SB	9004	7	1L10	102	深鉢	—
338	SB	9004	8	1L28	102	壺	外面赤彩
338	SB	9004	9	7.17.25.UL./24.1L	102	深鉢	—
339	SB	9005	2	埋土.1L	102	深鉢	—
339	SB	9005	4	2L相当57	—	深鉢	—
339	SB	9005	5	2L相当42	—	深鉢	—
339	SB	9005	6	2L相当56	—	深鉢	—
339	SB	9006	3	炉	—	深鉢	—
339	SB	9006	4	炉	—	深鉢	—
339	SB	9006	5	炉.D1L.ハ^鉢	—	深鉢	被熱
339	SB	9006	6	D1L.2.ハ^鉢	103	深鉢	底部切断。楔痕あり
340	SB	9006	7	P1.SB9001.4~5L	—	深鉢	—
340	SB	9006	8	D1L	—	深鉢	—
340	SB	9006	9	D1L	—	深鉢	—
340	SB	9006	10	C1L.D1L.1	103	深鉢	輪積みで打ち欠き
340	SB	9007	1	2L	—	深鉢	—
340	SB	9007	2	2L	—	深鉢	—
340	SB	9007	3	2L	—	深鉢	—
341	SB	9007	8	2L	—	深鉢	—
341	SB	9007	9	2L	—	深鉢	—
341	SB	9007	10	2L	—	釣手	—
341	SB	9007	11	2L	—	壺	—
341	SB	9007	12	2L	—	壺	—
341	SB	9007	13	2L	—	深鉢	輪積み
341	SB	9007	14	2L	—	深鉢	—
342	SB	9007	16	2L	—	深鉢	—
342	SB	9007	17	2L	—	深鉢	内面煤
342	SB	9007	18	2L	—	台付深鉢(鉢)	内面煤
342	SB	9007	19	2L	—	深鉢	—
343	ST	5101	3	P6.1L1	104	深鉢	底部切断
343	ST	5101	7	P6.1L22	104	深鉢	—
343	ST	5101	8	P6(1L.2.トレンチ)	104	深鉢	—

表39-(24) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器觀察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
343	ST	5101	9	P6 1L. 19	104	深鉢	—
343	ST	5102	3	一括8(7. 13)	105	深鉢	—
343	ST	5102	4	一括12a(1. 3. 5)	105	深鉢	—
343	ST	5102	5	一括2c6	105	深鉢	裾部帯状煤
344	ST	5102	6	5502d(8. 10)	105	深鉢	—
344	ST	5102	7	一括38. 一括38(3. 4. 27. /7)	105	深鉢	—
344	ST	5102	8	一括38. 一括39(33. 34. 35. /5. 10)	105	深鉢	—
344	ST	5102	9	一括3b(4. 5). SQ5502a2	105	深鉢	—
344	ST	5102	10	SX5509 1L	—	深鉢	強く被熱。胎土分析310未
344	ST	5103a	3	一括7b	—	深鉢	被熱
344	ST	5103a	4	一括7b	—	壺か	外面赤彩
344	ST	5103a	5	一括7b. SK5519 1	106	深鉢	—
345	ST	5103a	6	一括7b. SK5519 8	106	深鉢	—
345	ST	5103a	7	一括7b. 一括7b 3	106	深鉢	強く被熱
345	ST	5103a	8	一括7b. 一括7b 2	106	深鉢	—
345	ST	5103a	9	一括7b. SK5519(13. 14)	106	深鉢	—
345	ST	5103a	10	一括7b. SK5519 14	106	深鉢	被熱
345	ST	5103a	11	一括7b. SK5519 19	106	深鉢	—
345	ST	5103a	12	一括6b. /一括6b(2. 6. 12)	106	深鉢	被熱
345	ST	5103b	14	SD5101 2L	—	深鉢	—
345	ST	5103b	15	SD5101A1L	—	深鉢	—
345	ST	5103b	16	P31L	—	深鉢	—
347	ST	5103a	17	SK5519 13	—	深鉢	被熱
345	ST	5105	1	SF5125埋裏	109	深鉢	γか裾部帯状煤
345	ST	5109	1	SK5595埋土79	112	深鉢	—
345	ST	5109	2	SK5595トノゾ / SK5595埋土(48. 49. 51)	112	深鉢	—
345	ST	5109	3	SK5519 2L	—	深鉢	北陸・越後系か
346	ST	5109	5	SK5519(埋土 33)	112	深鉢	—
346	ST	5111	2	SB5333埋土(16. /21. 25. 26)	113	深鉢	—
346	ST	5111	3	SB5333埋土(29. /7. 18) / IN13(J35. J46. J64. J74. J75)	113	壺	—
346	ST	5111	4	SB5333埋土(18. 19)	113	深鉢	—
346	ST	5111	5	SB5333埋土(9. /12. 17)	113	深鉢	—
346	ST	5112	1	SF5182 1. 2	—	深鉢	—
346	ST	5114	1	P2 1L	—	深鉢	内外面漆(盃状突起の蓋部分)
346	ST	5118	1	SF5193埋土	—	深鉢	—
346	ST	5118	2	SF5193 2	—	深鉢	—
346	ST	5123	1	P5 1L	—	深鉢	—
346	ST	5124	1	P2埋土	—	深鉢	—
346	ST	5124	2	P2トノゾ	—	深鉢	—
346	ST	9101	1	P1埋土	—	深鉢	—
346	ST	9101	2	P4 1L2	—	深鉢	—
346	ST	9101	3	P1埋土	—	深鉢	—
347	SK	4903	1	1L(54. 62. 69. 70. 102 /17. 23. 45. 68)	120	深鉢	口縁部帯状煤
347	SK	5506	1	床. 3L. 1L	—	深鉢	強く被熱
347	SK	5523	1	埋土UL	—	壺	—
347	SK	5531	1	3L	—	瓢箪形	内外面赤彩
347	SK	5531	2	3L	—	深鉢	特異な地文方向
347	SK	5536	1	1L	—	—	内外面赤彩
347	SK	5559	1	1L	—	深鉢	—
347	SK	5559	2	1L	—	深鉢	破断面磨

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
348	SK	5576	1	埋土	—	深鉢	—
348	SK	5576	2	埋土	—	深鉢	—
348	SK	5576	3	埋土	—	壺	—
348	SK	5576	4	2L	—	深鉢	内面漆
348	SK	5579	1	1L	—	深鉢	炭化物付着
348	SK	5580	2	埋土	—	深鉢	—
348	SK	5584	1	1L	—	深鉢	強く被熱
348	SK	5584	2	1L	—	深鉢	強く被熱
348	SK	5590	1	埋土 土器棺	—	深鉢	土器内面に骨付着
348	SK	5590	2	埋土 土器棺	—	深鉢	内外底面赤彩
349	SK	5620	1	埋土	—	深鉢	—
348	SK	5625	1	埋土38	—	深鉢	—
348	SK	5626	1	埋土	—	深鉢	—
348	SK	5629	1	1L	—	深鉢	—
348	SK	5629	2	1L	—	—	内面赤彩
348	SK	5629	3	EW^斗	—	—	内面赤彩
348	SK	5629	4	1L5	123	深鉢	—
348	SK	5629	5	1L(1. 8)	123	深鉢	—
348	SK	5629	6	1L	—	深鉢	—
349	SK	5695	1	埋土33	123	深鉢	—
349	SK	5695	3	2L. 29	123	壺	—
349	SK	5695	4	埋土(5. 30. /11. 27)	123	深鉢か	qu(大多)
349	SK	5695	5	埋土(3. /18. 26)	123	深鉢	—
349	SK	5738	1	埋土	—	釣手	—
349	SK	5746	1	1L	—	深鉢	—
349	SK	5770	1	埋土(1. 7. 8. 9. 11)	123	深鉢	—
349	SK	5777	1	1L	—	深鉢	—
350	SK	5812	2	床(13. 16)	124	深鉢	—
350	SK	5812	3	床(2. 16. 17. /18). 2L 1L	124	深鉢	—
350	SK	5847	1	埋土	—	深鉢	—
350	SK	6720	1	埋土125	—	深鉢	—
351	SK	9003	1	埋土	—	深鉢	—
351	SK	9003	2	埋土	—	深鉢	外面煤
351	SK	9003	6	埋土 /8. 17. 19	125	深鉢	—
351	SK	9003	7	埋土(7. 15)	125	深鉢	—
351	SK	9003	8	埋土22. /5. 埋土	125	深鉢	—
351	SK	9003	9	埋土8. /24. 40. 41. 埋土	125	深鉢	佐久系土器
351	SK	9003	10	埋土44. /3. 7. 8. 35	125	深鉢	信濃川中流域に類例あり
351	SK	9003	11	埋土	—	—	内外面赤彩
351	SK	9003	12	埋土	—	—	内面赤彩
351	SK	9003	13	埋土 /23. 36	125	深鉢	上・下部輪積み
351	SK	9004	1	埋土	—	深鉢	—
351	SK	9005	1	1L	—	深鉢	外面被熱。内面炭化物付着
352	SK	9017	1	1L. 1. 4. /1. 2. 3. 4	125	深鉢	—
352	SK	9017	2	1L	—	深鉢	—
352	SK	9017	3	1L	—	深鉢	外面赤彩
351	SK	9022	1	1L	—	壺	有孔鐔付土器。内外面赤彩
351	SK	9030	1	1L	—	深鉢	—
351	SK	9030	2	1L	—	深鉢	—
352	SK	9058	1	埋土(OD)	—	深鉢	—

表39-(25) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
352	SK	9058	2	埋土	—	深鉢	煤
352	SK	9058	3	2L. 1./埋土	126	深鉢	—
352	SK	9065	1	SB9002(35. 38. 41)	126	深鉢	—
352	SK	9066	1	埋土8	126	深鉢	—
352	SK	9066	2	埋土6	126	ミナチ深鉢	—
352	SK	9066	3	埋土7	126	深鉢	—
352	SK	9067	1	1L1	—	深鉢	—
352	SK	9067	2	1L2	—	深鉢	—
352	SK	9068	1	1L(2. 3. 5)	126	深鉢	—
352	SK	9068	2	1L2	126	深鉢	—
352	SK	9068	3	1L	—	—	内外面赤彩
353	SK	9069	1	1L2	127	深鉢	曾利的な把手
353	SK	9070	1	1L2	126	深鉢	—
353	SK	9070	2	埋土4	126	深鉢	動物形把手か
353	SK	9070	4	1L(6./8)	126	深鉢	—
353	SK	9070	6	1L. 1L(13. 15./5)	126	深鉢	—
353	SK	9071	3	2L相当8	127	深鉢	—
353	SK	9071	5	3L	—	深鉢	—
354	SK	9071	6	2L相当(2. 3)	127	深鉢	—
354	SK	9071	8	2L相当3	127	深鉢	上・下部輪積み
354	SK	9071	9	2L相当(9./8. 15)	127	深鉢	—
354	SK	9071	10	2L相当(27. 28)	127	深鉢	—
354	SK	9071	13	3L7. 1L7	127	深鉢	上・下部輪積み
354	SK	9071	14	2L相当(4. 8. 15)	127	深鉢	—
354	SK	9071	15	3L相当 39	127	深鉢	—
354	SK	9073	1	1L	—	—	—
354	SK	9091	1	1L	—	深鉢	—
355	SD	5102a	2	1L98./SD5103 10	128	深鉢	—
355	SD	5102a	3	1L101	128	深鉢	—
355	SD	5102a	4	1L94./SD5103 10	128	深鉢	—
355	SD	5102a	5	1L50. 1L	—	深鉢	—
355	SD	5102a	8	1L(77. 89. 91)	—	深鉢	—
355	SD	5102a b	9	1L	—	深鉢	—
356	SD	5102a	10	1L6./8. 8B. 1L. 一括	—	深鉢	—
356	SD	5102a	11	1L39. 1L./9. 25. 69. 93. 一括	128	深鉢	—
356	SD	5102a	12	1L9. 1L./60. 71. 74. 78. 1L. SD5103 1L	—	深鉢	—
356	SD	5102a	13	1L./51. 54. 57. 80. 埋土	—	深鉢	—
356	SD	5102a	14	1L(3. 65. 66. 72. 82. 91). 1L./14. 38. 60. 99. 103. 1L	—	深鉢	—
357	SD	5103	1	1L24	—	深鉢	—
357	SD	5103	2	1L26	128	深鉢	—
357	SD	5103	3	1L16	128	深鉢	—
357	SD	5103	4	1L3	128	深鉢	—
357	SD	5103	5	1L14	128	深鉢	—
357	SD	5103	6	1L15	128	深鉢	—
357	SD	5103	7	1L13	128	深鉢	曾利. 唐草文系の円形刺突文
357	SD	5103	8	1L6	128	深鉢	—
357	SD	5103	9	1L. 一括./4	128	深鉢	—
357	SD	5103	10	1L19	128	深鉢	—
357	SD	5105	1	2L	—	深鉢	—
357	SD	5105	2	2L	—	深鉢	—
357	SD	5105	3	E1L	—	深鉢	被熱

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
357	SD	5105	4	E1L	—	深鉢	—
357	SD	5105	5	E1L	—	深鉢	—
357	SD	5105	6	E1L	—	深鉢	—
357	SD	5105	7	E1L	—	深鉢	—
357	SD	5105	8	E1L	—	深鉢	—
357	SD	5105	9	E1L	—	深鉢	—
357	SD	5105	10	E1L	—	深鉢	被熱
357	SD	5105	11	E1L	—	深鉢	—
357	SD	9001	1	1L	—	深鉢	—
357	SD	9001	2	1L	—	深鉢	—
357	SD	9002	1	1L	—	深鉢	—
357	SD	9002	2	1L3	—	深鉢	—
357	SD	9003	1	1L	—	深鉢	—
357	SD	9004	1	1L	—	深鉢	—
357	SD	9005	1	1L	—	深鉢	—
357	SD	9006	1	1L	—	深鉢	—
357	SD	9006	2	1L	—	深鉢	—
357	SD	9006	3	1L	—	深鉢	—
358	SD	9007	1	埋土	—	深鉢	—
358	SD	9007	2	埋土	—	深鉢	—
358	SD	9007	3	埋土	—	深鉢	—
358	SD	9007	4	埋土	—	深鉢	—
358	SD	9007	5	埋土	—	深鉢	—
358	SD	9007	6	埋土	—	深鉢	—
358	SD	9007	7	埋土	—	深鉢	—
358	SD	9009	1	1L	—	深鉢	—
358	SD	9009	2	1L	—	深鉢	—
358	SD	9009	3	1L	—	深鉢	—
358	SD	9009	4	1L	—	深鉢	—
358	SF	5103	1	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5104	1	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5104	2	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5104	3	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5104	4	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5104	5	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5104	6	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5105	1	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5105	2	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5106	1	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5106	2	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5106	3	埋土	—	—	—
358	SF	5106	4	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5107	1	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5108	1	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5108	2	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5108	3	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5108	4	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5108	5	埋土	—	深鉢	bi多い
358	SF	5108	6	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5108	7	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5108	8	埋土	—	深鉢	—

表39-(26) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器觀察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
358	SF	5108	9	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5108	10	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5108	11	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5109	1	2L	—	深鉢	—
358	SF	5109	2	3L	—	深鉢	—
358	SF	5109	3	3L	—	深鉢	—
358	SF	5110	1	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5110	2	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5110	3	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5110	4	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5111b	1	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5111 a, b	2	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5111b	3	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5111b	4	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5111 a, b	5	埋土	—	深鉢	—
358	SF	5111b	6	埋土	—	深鉢	—
359	SF	5112	1	トレンチ	—	深鉢	—
359	SF	5112	2	埋土A	—	深鉢	—
359	SF	5112	3	トレンチ	—	深鉢	—
359	SF	5112	4	埋土A	—	深鉢	—
359	SF	5112	5	トレンチ	—	深鉢	—
359	SF	5112	6	埋土A	—	深鉢	—
359	SF	5114	1	埋土	—	深鉢	—
359	SF	5114	2	埋土	—	深鉢	—
359	SF	5114	3	埋土	—	深鉢	底部網代
359	SF	5117	1	1L	—	深鉢	—
359	SF	5117	2	1L	—	深鉢	—
359	SF	5117	3	1L	—	深鉢	—
359	SF	5117	4	1L	—	深鉢	—
359	SF	5117	5	1L	—	深鉢	—
359	SF	5117	6	1L	—	深鉢	—
359	SF	5117	7	1L	—	深鉢	—
359	SF	5117	8	1L	—	深鉢	—
359	SF	5117	9	1L	—	深鉢	組み立て手順わかる例
359	SF	5117	10	1L	—	深鉢	—
359	SF	5117	11	1L	—	深鉢	底部網代、内面炭化物付着。外面底部煤
359	SF	5119	1	埋土44	—	深鉢	—
359	SF	5119	2	埋土28	—	深鉢	—
359	SF	5119	3	埋土54	131	深鉢	—
359	SF	5119	4	埋土41	131	深鉢	qu多い
359	SF	5119	5	埋土MLトレンチ	—	深鉢	—
359	SF	5119	6	埋土27	131	深鉢	—
359	SF	5119	7	埋土14	131	深鉢	—
359	SF	5119	8	埋土55	131	深鉢	—
359	SF	5119	9	埋土(15. 49. /50)	131	深鉢	—
359	SF	5119	10	埋土21	131	深鉢	—
359	SF	5119	11	埋土12	131	深鉢	—
359	SF	5119	12	埋土MLトレンチ	—	深鉢	—
359	SF	5119	13	埋土18	131	深鉢	—
359	SF	5122	1	トレンチ	—	深鉢	—
360	SF	5147	1	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	2	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	3	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	4	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	5	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	6	埋土	—	深鉢	台付深鉢(鉢)
360	SF	5147	7	埋土	—	深鉢	北陸系
360	SF	5147	8	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	9	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	10	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	11	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	12	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	13	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	14	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5147	15	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5172	1	3L	—	深鉢	—
360	SF	5172	2	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5172	3	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5172	4	埋土	—	深鉢	—
360	SF	5176	1	2・3L	—	深鉢	—
360	SF	5176	2	2・3L	—	深鉢	—
360	SF	5176	3	2・3L, SB5343	—	深鉢	串田新式M15 3と同一個体か
360	SF	5176	4	2・3L	—	深鉢	—
360	SF	5176	5	2・3L	—	深鉢	—
360	SF	5176	6	2L 1	131	深鉢	—
360	SF	5196	1	2L	—	深鉢	—
360	SF	5196	2	2L	—	深鉢	底部煤
360	SF	9010	1	1L	—	深鉢	—
360	SF	9010	2	1L	—	深鉢	—
360	SQ	4453	1	埋土(30. 56. /94)	134	深鉢	—
360	SQ	4702	1	埋土2	134	深鉢	—
360	SQ	5501c	1	埋土	—	壺	—
361	SQ	5501c	2	埋土15	—	深鉢	—
361	SQ	5502a	1	埋土3	—	壺	外面被熱
361	SQ	5506a	1	埋土6	—	深鉢	—
361	SQ	5506a	2	埋土5	135	深鉢	—
361	SQ	5508b	1	埋土3	135	深鉢	組み立て手順わかる例
362	SQ	5508b	2	埋土3	135	深鉢	—
362	SQ	5534b	1	埋土(5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14)	136	深鉢	底部網代、内面炭化物付着。外面底部煤
362	SQ	5537	1	埋土42	136	深鉢	—
362	SQ	5537	2	埋土147	136	深鉢	—
362	SQ	5537	3	埋土144	136	深鉢	—
362	SQ	5537	5	埋土131	136	深鉢	—
363	SQ	5537	7	埋土185	136	深鉢	—
363	SQ	5537	8	埋土145	136	深鉢	—
363	SQ	5537	9	埋土32	136	深鉢	—
363	SQ	5537	10	埋土(142. /132. 135. 150)	136	深鉢	—
364	SQ	5537	13	埋土(169. 180. 200)	136	深鉢	—
364	SQ	5537	15	140. 150. 163. 177. / 51. 55. 60. 63. 66. 68.	136	深鉢	下輪積み。内面炭化物付着。外面下半帯伏煤
364	SQ	5537	16	埋土(60. 77)	136	深鉢	—
364	SQ	5537	17	埋土186	136	深鉢	—
364	SQ	5537	18	埋土(22. 182)	136	深鉢	台付深鉢(鉢)
364	SQ	5537	19	埋土75	136	深鉢	外面被熱
364	SQ	5537	20	埋土19	136	深鉢	外面被熱
365	SQ	5537	22	埋土(105. 107. 115. 137. /113)	136	壺	—

表39-(27) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告番号	出土位置	出土図番号	器種	備考
365	SQ	5537	23	埋土118	136	深鉢	—
365	SQ	5537	24	埋土123	136	深鉢	内面炭化物付着。底部圧痕
365	SQ	5537	25	埋土85	136	深鉢	外面被熱。底部網代
366	SQ	5537	26	埋土(39.56.57.161.178.350./73)	136	深鉢	外面剥離
366	SQ	5537	27	埋土(43.76.78.80.81.82.83.84.203)	136	深鉢	裏は称名寺的間隔施文。外面帯状痕。内面炭化物付着
365	SQ	5541	3	1L10	137	深鉢	—
365	SQ	5541	4	1L51	137	深鉢	—
365	SQ	5541	5	1L(19.67)	137	深鉢	—
365	SQ	5541	6	1L(54.56)	137	深鉢	—
365	SQ	5541	7	1L2	137	深鉢	—
365	SQ	5541	8	1L(75.77)	137	深鉢	—
366	SQ	5541	9	1L39	137	深鉢	—
366	SQ	5541	10	1L116	137	深鉢	—
366	SQ	5541	11	1L46	137	深鉢	—
366	SQ	5541	12	1L8	137	深鉢	—
366	SQ	5541	13	1L42	137	深鉢	—
366	SQ	5541	14	1L(41.45)	137	深鉢	外面被熱。内面炭化物付着
366	SQ	5541	16	1L48	137	深鉢	—
366	SQ	5541	17	1L(126.127./4)	137	深鉢	—
367	SQ	5544	1	埋土	135	深鉢	外面煤
367	SQ	5545	1	埋土 埋土	—	深鉢	底部網代
367	SQ	5546	2	埋土2	135	深鉢	—
367	SQ	5547	1	埋土 埋土(3.4.6).S Q5546	135	深鉢	外面被熱。内面炭化物付着。底部網代
367	SQ	5548	1	埋土	—	深鉢	—
367	SQ	5548	3	埋土	—	深鉢	—
368	SQ	5549	3	埋土7.SQ5548.11	135	深鉢	—
368	SQ	5549	4	埋土(6.31)	135	壺	—
368	SQ	5549	5	埋土(25./21)	135	深鉢	—
368	SQ	5549	6	埋土(2./13)	135	深鉢	—
368	SQ	5558	1	埋土No.58	137	深鉢	体下部被熱
368	SQ	7001	1	1L52	137	深鉢	—
368	SQ	7002	1	埋土	—	深鉢	磨草文系II段階
369	SH	5101	1	埋土	—	深鉢	古手の磨草文系か
369	SX	5502	1	埋土255	138	釣手付深鉢	e 磨草文系
369	SX	5502	2	埋土510	138	深鉢	漆の可能性
369	SX	5502	3	埋土129	—	深鉢	強く被熱
369	SX	5502	4	埋土440	138	深鉢	—
369	SX	5502	5	埋土293	138	深鉢	被熱
369	SX	5506	1	1L下部	—	深鉢	—
369	SX	5506	2	1L下部	—	深鉢	称名寺古(EVか)
369	XII-2L上面ケリット	5aM	1	1M24(30./5)	—	壺か	内外面赤彩
370	XII-2L下面ケリット	5aM	3	1M15(306.711./31.291.299.300.304.308.309.315.316.345.357.518.610.690)	—	深鉢	串田新式。胎土分析307未
370	XII-2L下面ケリット	5aR	1	IR3.29	—	深鉢	称名寺I式中段階
370	XII-2L下面ケリット	5aR	2	IR3.107	—	深鉢	—
370	XII-2L下面ケリット	5bN	4	1N5(J67./J70.J78)	—	深鉢	—
370	XII-2Lケリット	5bN	1	1N13J01	—	深鉢	—
370	XII-2Lケリット	5bN	2	1N13J13.J12./J23)	—	釣手	煤
370	XII-2Lケリット	5bN	6	1N14J11(SB5348住居外214).1N14J12(SB5348住居外210)./SB5343.1L相当219.SK5523	89	深鉢	突起4個体同一と推測。故意に打ち欠き3点同一か
370	XII-2Lケリット	5bN	5	1N22	—	ミナ7深鉢	—
370	XII-2Lケリット	5bN	7	1N23J56	—	ミナ7深鉢	—
370	XII-2L上面ケリット	5bN	10	1N23J34	—	釣手	—
370	XII-2L-2ケリット	5bN	11	1N23J48	—	深鉢	西日本の要素をもつ称名寺式
371	XII-2L-2ケリット	5bN	14	1N23J45	—	深鉢	—
371	XII-2Lケリット	5bN	15	1N23J78(SB5339住居外21)	—	深鉢	—
371	XII-2Lケリット	5bN	16	1N23J77(SB5339住居外9.31.1L)./SB5313 a,b	—	深鉢	—
371	XII-2L上面ケリット	5bN	17	1N25(J6./J16).SB5319(1N25J15./SB5318(1W26J75.1N20)	—	瓢箪形	内外面赤彩
371	XII-2Lケリット	5b0	1	1O6J41	—	—	外面赤彩。被熱
371	XII-2L上面ケリット	5b0	2	1O11J36	—	壺か	外面・蓋状突起内面赤彩
371	XII-2Lケリット	5bS	2	1S3J41	—	—	内外面赤彩
371	XII-2L-1ケリット	5bS	3	1S3J08(SB5339住居外68).SA	—	深鉢	—
371	XII-2Lケリット	5bS	7	1S4J01(SB5339住居外70).S4	—	深鉢	—
371	XII-2L-2ケリット	5bS	4	1S5J68	—	深鉢	加EII~III古に含まれる
371	XII-2Lケリット	5bS	5	1S6	—	—	内外面赤彩
371	XII-2Lケリット	5bS	6	1S6. 外周11ノテ	—	深鉢	内外面赤彩
371	XII-2L-1ケリット	5bS	9	1S7J52	—	壺	外面赤彩
371	XII-2-2ケリット	5bS	10	1S7J34	—	壺	内外面赤彩
372	XII-2Lケリット	5bS	12	1S7J26	—	深鉢	—
371	XII-2L上面ケリット	5bS	11	1S8J76	—	釣手	—
372	XII-2L-1ケリット	5bS	17	1S12J47	—	深鉢	被熱。胎土分析311未
372	XII-2L上面ケリット	5bS	14	1S14J41	—	釣手	—
372	XII-2L-1ケリット	5bS	16	1S18.J.04	—	深鉢	鳥形突起
372	XII-2Lケリット	6bI	1	1I18J73	—	深鉢	—
372	XII-2Lケリット	6bI	4	1I25J07	—	深鉢	—
372	XII-2Lケリット	6bJ	1	1J16J73	—	—	内外面赤彩
372	XII-2Lケリット	6bN	1	1N3J68	—	—	内外面赤彩
372	XII-2Lケリット	6bN	2	1N8J15	—	壺	内外面赤彩。有孔罎付土器
372	XII-2Lケリット	6bN	3	1N12J05	—	深鉢	—
372	XII-2Lケリット	6bN	4	1N12J15	—	—	内面赤彩
372	XII-2Lケリット	6bS	1	1S17J48	—	壺	内外面赤彩
372	XII-2Lケリット	6bS	2	1S17J48	—	—	内面漆の可能性
372	ケリットピット	5bN18ピット	1	1N18P7	—	深鉢	器形は串田新式に類似
372	ケリットピット	5bS13ピット	2	1S13P61.1LM	—	深鉢	—

2 土製品

土製品としては土偶、三角壺形土製品、有孔球状土製品、土製円盤、土版、土錘、土製蓋などが出土している。

(1) 土偶 (表40) (図版373)

土偶は14点出土し、全て中実である。

出土状況 住居跡、土坑、ピット、包含層から出土し、全て部位毎に割れた状態である。頭部は見られない。胴部はSB5345 2層(図版373-5-後葉3b期)とトレンチ(8-後葉3b期)、SK5576の埋土(10-後葉3c期)、S3-P25(13)から出土した。腕部はSB5332(2-後葉3a期)とSB5338(3-後葉3c

期)の何れも埋土上層、SB9005の炉(9-後葉3b期)、SK9076埋土(11-後葉3c期前後)から出土した。脚部はSB5321の埋土上層(1-後葉3c期)、SB5343の1層(4-後葉3c期)、SB5345の2層(6-後葉3b期)と北トレンチ(7-後葉3b期)から出土した。その他遺構外では、⑤b区N24から胴部(12)、⑤b区の外周トレンチから胴部(14)が出土している。9は炉中出土であるが特に被熱した痕跡は認められない。また、SK5576では漆附着土器片が共伴する。

形態・文様特徴 胴部は比較的幅の広いもの(5・8・14)と細身のもの(10・12)がある。特に13は臀部とその左右が鋭角に張り出す。胸部貼り付け(10・12・14)、臍(8・13)や股間逆U字(8)などの身体特徴表現も見られる。文様としては、8に腰部横方向の条線施文によるパンツ表現、さらに背面に左右対称な「く」の字状の多重沈線文が見られる。同様な沈線文は5の背面にも施文されるが、腹部文様は条線ではなく沈線で表現されている。この他、腹部および背部に細密な条線(10)もしくは細い沈線(12・14)によって充填された左右対称の区画弧線文が施文されるものが見られる。脚部は、足先が広がるもの(1・7)、前方向に伸びるもの(6)がある。文様は、股部に近い方の方に横方向の細密な条線(4)や沈線(7)によるパンツ表現がなされるもの、足の付け根まで沈線が降りるもの(6)がある。腕部は先端が平坦なもの(9)と指の表現が見られるもの(11)がある。

製作特徴 製作時の繋ぎ目を示す凹部は5、7、8、9、10、12、14で見られる。一方各部品を繋ぐ串状の芯の跡が空隙となったものは10で痕跡的に見られる。さらに10には胸部中央に、胴部と垂直方向に直径2.5mm程度の円形の穿孔がある。胎土は、石英・斜長石の他大形岩片も含まれ、土器と類似した様相を呈する。

表39-(28) 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土器観察表

遺物包含層地区別土器量一覧表

検出層	地区	仮地区	総重量(g)	破片数(個)	口縁部量(g)	破片数(個)
XII-2層上面	I S	⑤ b・④ g	358200	9878	46780	903
	I R	⑤ a・④ f	3805	134	855	12
	I O	⑤ b	41610	1488	6740	130
	I N	⑤ a・⑤ b・⑥ a	177740	6661	30040	614
	I M	⑤ a	38165	1417	7780	155
	I I	⑥ a	670	34	40	4
	I H	⑥ a	1310	38	60	3
XII-2層-1・2	I S	④ g・⑤ b	539363	16511	96990	1972
	I N	⑤ a・b・⑥ a	233585	7688	36090	658
	I M	⑥ a	5	1	0	0
	I J	⑥ b	1640	50	140	5
	I H	⑥ a	4230	180	540	15
	I X	④ c・g	25970	777	6630	96
XII-2層下面 (XII-2を含む)	I W	④ c・d・g	14160	237	6200	27
	I S	④ g・⑤ b	177400	3778	43435	3801
	I R	④ f・g・⑤ a	35525	728	9850	110
	I O	⑤ b	96780	2503	15015	253
	I N	⑤ a・b・⑥ a	637500	37170	130565	2245
	I M	⑤ a・⑥ a	60150	7848	11985	250
	I J	⑥ b	59110	745	12350	226
	I I	⑥ a・b	148535	5645	31415	528
	I H	⑥ a	2265	97	110	4
XII-3層	I S	④ g・⑤ b	9470	328	1385	35
	I O	⑤ b	175	5	25	1
	I N	⑤ b・⑥ a	265	9	25	1
	I M	⑤ a	380	7	0	0
	I J	⑥ a	95	4	15	1
調査区外	外トレ他	④ g・⑤ b	4485	21	2500	2
合計			2672588	103982	497560	12051
その他	I	④・⑤・⑥	44846	—	—	—
総計			2717434	—	—	—

表40 屋代遺跡群XII-2層出土中期後葉土偶・土製品観察表

図版番号	遺構記号	遺構番号	報告書番号	出土位置	分類	色調(内/外)	備考
373	S B	5321	1	UL、N25J32	土偶	にぶい橙/にぶい橙	右脚部先端
373	S B	5332	2	UL、N25J31	土偶	にぶい黄褐/にぶい黄褐	左腕部先端
373	S B	5338	3	UL	土偶	橙/灰黄褐	腕部先端
373	S B	5343	4	1L、N14J2	土偶	にぶい橙/にぶい橙	脚部、先端欠け
373	S B	5345	5	2L、N14J2E	土偶	にぶい橙/にぶい橙	胴部
373	S B	5345	6	2L	土偶	にぶい褐/黒褐	胴部から右脚部
373	S B	5345	7	トN	土偶	にぶい黄橙/にぶい黄橙	左脚部
373	S B	5345	8	ト、N24J15	土偶	浅黄橙/浅黄橙	胴部
373	S B	9005	9	炉	土偶	にぶい赤褐/にぶい褐	左腕部
373	S K	5576	10	埋土	土偶	にぶい褐/にぶい褐	胴部
373	S K	9076	11	埋土	土偶	灰黄褐/にぶい黄橙	左腕部
373	XII-2-2 包含層	⑤b区N-24	12	N24J15	土偶	橙・褐灰/橙	胴部
373	XII-2下 面ピット 外周トレ ンチ	S-3 P25	13		土偶	にぶい黄橙/にぶい黄橙	胴部
373		⑤b	14	⑤b	土偶	にぶい橙/にぶい橙	胴部
374	S B	5324	1	99(周礫上)	三角壙形土製品	にぶい黄橙/にぶい黄橙	一面のみ黒色煤
374	S B	5321	2	石16(2L相当)	三角壙形土製品	にぶい黄橙/にぶい黄橙	
374	XII-2包 含層	⑥b区N-5	3	N5J31	有孔球状土製品	灰黄褐	1/4残存
374	XII-2下 包含層	⑤b区O-11	4	O11J22	土製円盤	にぶい褐/にぶい橙	片面縄文
374	S B	9003	5		小形土版	にぶい黄褐/にぶい黄褐	
374	S B	5319	6	67	土錘	橙/浅黄橙	
374	XII-2-1 包含層	⑤b区S-18	7	S18J2	土製蓋	明赤褐/明赤褐	有孔2個ずつ対称
374	S D	9002	8	埋土	不明土製品	にぶい黄橙/にぶい黄橙	

(2) 土製品 (表40) (図版374)

三角壙形土製品 (三角柱状土製品) (図版374-1・2) 2点出土した。1はSB5324周礫上(図版70)出土で4期、2はSB5321の2層相当下部(図版67)出土で3c期である。出土遺構が両者とも柄鏡形(敷石)住居であることは注目される。1は背面が弧状、他の2面は平坦であるため、歪んだ円柱を4分割した形状を呈している。側面は両面ともに平坦で、ほぼ中央に直径6mm程度の貫通孔が垂直に穿たれている。2は正面3方向がともに上下左右緩い弧状を描く長方形である。側面は正三角形を呈し、直径5mm程度の貫通孔が垂直に穿たれている。胎土は両者ともに類似し、大形の岩石片が見られず、斜長石、黒雲母、角閃石、輝石などの細粒が含まれている。

有孔球状土製品 (図版374-3) ⑥b区N5 XII-2層中から出土した。平面・側面ともに半分ずつが欠損しているため正確な形状は不明であるが、正面形は楕円形、側面形はやや扁平であると推測される。上側面から下側面にかけて孔が貫かれ、孔軸の断面形はほぼ正円になると推測される。平面の文様は幅の広い沈線による長尾渦巻文の組み合わせであろうか。胎土中には土器と同様に大形の岩石・鉱物を含む。

土製円盤 (図版374-4) ⑤b区O11 XII-2層下面から出土した。厚さ1.4cm程度の土器を切断し、全面を磨って製作している。表面には縄文が残る。

小形土版 (図版374-5) SB9003埋土中から出土した。小形薄手で、孔は貫通していない。胎土中には岩石・鉱物が殆ど見られず、表面は磨きが施されている。

土錘 (図版374-6) SB5319から出土している(図版66)。円柱形で無文。側面はかるく膨らむ。孔は直径1cm~1.2cmで直線的に穿孔されている。胎土中にはやや大形の岩片を含む。

土製蓋 (図版374-7) ⑤b区S18 XII-2層-1中から出土した。上部に2つ一組の直径3mm程度の孔が、左右対称に1対穿孔されている。内外面ともに良好な磨きかなされ、胎土中には大形の岩石・鉱物が見られない。瓢箪形土器や注口土器などに伴うものと推測される。

3 石器・石製品

(1) 整理の方法

XII-2層から出土した石製遺物の総点数は、遺構内出土(21,171点・67%)に遺構外および包含層出土(10,401点・32%)を加えた計31,572点である。このうち剥片石器・剥片類・石核は9,889点(31%)、礫石器・搬入礫は21,683点(69%)である。そのうちここでは遺構内出土遺物を中心に取り上げ、遺構外出土遺物については整理期間の制約により総点数の計上にとどまった。したがってここで提示できる石製遺物組成・石材組成等については、特別の記載がない限り遺構内出土遺物に基づいている。

またすべての遺構内出土遺物については、次項で述べる分類に基づき類別および台帳記載を行い、その中から代表的なもの452点を図化した。さらに剥片石器は欠損状況を類別した上で、完形および半損以上の資料については、次項の属性に基づき観察表を作成した(表58)。

(2) 分類の方法と類型

A 剥片石器・剥片類・石核

① 概要

XII-2層から出土した剥片石器は、石鏃・小形両面調整石器・石錐・削器類(小形・大形)・楔形石器・打製石斧・磨製石斧がある。さらに微細剥離を有する剥片・二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核・原礫を組成する。遺構内から出土した剥片石器・剥片類・石核(以下、剥片石器類とする)は、合計6,125点を数え、そのうち剥片石器の占める割合は1,047点(17%)に上る。剥片石器はチャート・黒曜石・珪質頁岩・ガラス質安山岩といった緻密石材を素材とする小形剥片石器と粘板岩などの細粒の堆積岩を素材とする大形剥片石器に大別できる。小形剥片石器では石鏃(151点)と小形両面調整石器(91点)が主体をしめ、これに石錐(34点)・小形削器類(42点)・楔形石器(36点)が伴う。粘板岩製の大型剥片石器では打製石斧(415点)と大型削器類(252点)が主体で、これに磨製石斧(26点)が伴う。

また微細剥離を有する剥片は、チャート・黒曜石の小形剥片を素材とするものが380点、粘板岩の大型剥片を素材とするものが394点と多数出土し、石製遺物組成のうえで高い割合をしめる。この他、二次加工のある剥片が350点、剥片・碎片が3,750点、石核が156点出土している。

剥片石器類に利用された石材は、肉眼鑑定によりチャート・黒曜石・珪質頁岩・ガラス質安山岩・粘板岩に類別した。しかしながら粘板岩に関しては、いわゆる頁岩と肉眼で類別困難な資料も多い。そこで粘板岩と一括した資料を石質により、粘土質で黒色緻密のもの(A類)、シルト質で黒色細粒のもの(B1類)、シルト質で黒色細粒かつ節理構造が発達したもの(B2類)、微砂混じりで暗灰色やや粗粒のもの(C類)に細分した。チャートについては石質や色調に基づき全資料の大まかなグループ化を行った

表41 XII-2層遺構内出土の剥片石器器種別利用石材

	ガラス質					計	
	チャート	黒曜石	珪質頁岩	安山岩	粘板岩		その他
石鏃	98	42	1	3	4	2	150
両面調整石器	78	2	3	2	3	3	91
石錐	25	5	1	0	2	1	34
楔形石器	19	10	0	2	5	0	36
小形削器類	30	7	2	1	-	-	40
大型削器類	-	-	-	-	248	2	250
打製石斧	-	-	-	-	411	1	412

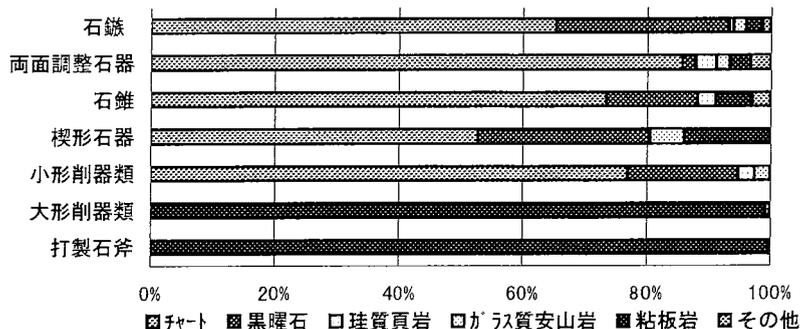


図35 XII-2層出土の剥片石器別の利用石材比

表42 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の
剥片石器種別欠損状況

	完形	略完形	一部欠損		半損		半損以上	計
			a	b	a	b		
石鏃	30	14	7	26	6	20	19	122
石錐	13	8	-	-	1	4	3	29
打製石斧	74	21	27	13	41	42	99	317
磨製石斧	3	2	0	1	5	0	9	20
							半損以上	
両面調整石器	66	6	-	-	-	-	6	78
小形削器類	25	7	-	-	-	-	3	35
大形削器類	124	18	-	-	-	-	60	202

うえで、それぞれを代表する色調名を記した（赤・青緑・青灰・青黒・黒灰・灰）。黒曜石については、肉眼下で微斑晶・斑晶が顕著でないものを（A類）、顕著なものを（B類）としそれぞれ観察表

に記載した。また磨製石斧の利用石材についてはEPMAによる元素解析を行い（本節(3)参照）、その鑑定により透緑閃石岩・角閃岩・滑石片岩・滑石透閃石片岩に類別した。

XII-2層の遺構内から出土した剥片石器類の総重量は、138,035gである。これを石材別にみると粘板岩120,505g（3,626点）・チャート5,801g（1,117点）・黒曜石2,009g（995点）・ガラス質安山岩5,296g（267点）・珪質頁岩469g（58点）・その他3,955g（62点）となり、剥片石器類の総重量の約90%が粘板岩であることを示している。

出土した剥片石器類の分類に関しては、技術形態的な観点に基づき、素材の形状・二次加工（調整・整形）の形態・二次加工の部位・二次加工技術（通常・押圧剥離）等の観察を重視した。したがって石器本来の機能的分類については今後の研究にゆだねることとした。以下、分類基準に基づき説明を行う。なお、法量等の記載は観察表を合わせてご参照いただきたい。

② 石鏃（図版375-1～46、図版376-47～56）

比較的薄身の剥片を素材とし、器面両面に押圧剥離によって面的調整を施した小形石器。先端部は尖鋭に整え、基部は抉り部もしくは茎部を作出する。XII-2層では計151点が出土している。

〈利用石材〉 チャート（98点）・黒曜石（42点）・ガラス質安山岩（3点）・粘板岩（4点）・緑色凝灰岩（2点）・珪質頁岩（1点）である。

〈形態〉（図37）

A類 基部を尖鋭に仕上げたもの。柳葉形（A1類）と木葉形（A2類）に細分した。

B類 茎部を作出したもの。基部側縁が丸みを帯びる（おおむねスぺード形を呈する）もの（B1類）と基部が直線的に張り出し、菱形を呈するもの（B2類）とに細分した。

C類 平面形を三角形状に仕上げたもの。そのなかで基部を直線的に仕上げたもの（C1類）と基部がわずかに外湾するもの（C2類）とに細分した。

D類 基部が内湾し、抉り部を作出したもの。そのなかで抉りの深度比（ $\alpha = \text{抉り長} \div \text{最大長}$ ）や形状により五細分した。

抉り部がわずかに内湾し（ $\alpha = 0.15$ 未満）、弧状を呈するもの（D1類）。

抉り部が内湾し（ $\alpha = 0.1 \sim 0.2$ ）、半月形を呈するもの（D2類）。

抉り部が内湾し（ $\alpha = 0.2$ 以上）、U字形を呈するもの（D3類）。

抉り部が直線的に仕上げられ、三角形を呈するもの（D4類）。

抉り部が「コ」の字状に仕上げられたもの（D5類）。

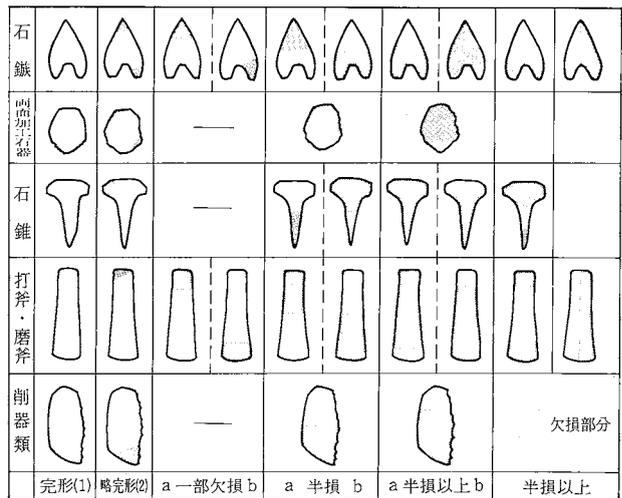


図36 剥片石器欠損分類概念図

〈属性〉 最大長、最大幅、最大厚、重量、抉り長（茎長）、先端角を計測した。

〈形態組成・欠損状況〉 XII-2 層検出の全竪穴建物跡（SB）から出土した石鏃（計122点）の形態組成を表43に示した。これによれば形態の判明した石鏃83点の内、約80%がD類（凹基式鏃）で、約10%がA類（尖基式鏃）、残りの約10%がB類（有茎式鏃）とC類（平基式鏃）である。

SBから出土した石鏃の欠損状況をみると、完形品30点と略完形品14点の合計は44点（36%）にとどまる。一部欠損品33点、半損品26点、半損以上が19点を数える。一部欠損・半損品（計59点）のなかでは先端部が残存し基部を欠くものが46点を数える。また完形・略完形品のうち5点は、明らかに石鏃未製品と考えられる資料である（11）。

〈法量〉 完形品における最大長・幅の相関関係を図38の散布図に示した。これによれば長さ15～27mm・幅10～20mmの範囲に集中が認められ、中形とみなすことができる。形態の判明した石鏃で長さ・幅の大きなものを大形とし、小さなものを小形とする（小形・1点、中形・65点、大形・17点）。中・大形品では最大厚約3～4.5mm・重量0.8～1.2gの範囲におさまる。

最大長幅比（指数）は各形態によりそれぞれ差が認められる。A1・B2・D4類はおおよそ指数2を上回る細身の石鏃であることを示す。一方、D1・D2・D3・D5類では指数1.2～1.4に平均値が集中し（標本偏差平均0.16～0.27）、規格性をみせる。

先端角は各形態で変異がみられる。A1・D4類では20～40度の鋭角である。D3・D5類では40～60度とやや先端が開く傾向が看取される。またD1・D2類では50度以上開くものが約半数を占める。

〈特記事項〉 2はXII-2層出土資料のなかで最小の黒曜石製石鏃。4は赤チャート製の石鏃で、並列する押圧剝離によって両面調整がなされ、左右非対称形をなす。5はガラス質安山岩製の有茎式鏃で、やや急斜な調整によって基部を作出する。7はチャート製の尖基式鏃で、基部末端部を急斜な加工によって整えている。9はチャート製の厚みのある石鏃。11はチャート製の石鏃未製品。抉り部の最深部の剝離はステップ・エンド。17は赤チャート製、表面左下端の剝離面はこの資料を石核から剝離した際の打面と考え

表43 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の石鏃分類別点数内訳

	計	2b-3a期	3b期	3c期	4期	3a-3b期	3c-4期		小形	中形	大形
A1類	6		1	1	2	2		A1類	2	4	
A2類	2		1(1)		(1)	1		A2類	1	1	
B1類	3	2				1		B1類	3		
B2類	2	1		1				B2類	2		
C1類	2		1		1			C1類	1	1	
C2類	1		1					C2類	1	1	
D1類	11	1	3	1	4	1		D1類	9	2	
D2類	21	3	6	3	4	4	1	D2類	1	18	2
D3類	23	6	7	1	4	4		D3類		20	3
D4類	2		2					D4類	1	1	1
D5類	10	1	1		7	1		D5類	7	3	
-	39	9	10	5	10	2	3	-	-	-	-
計	122	23	34	12	33	16	4	計	1	65	17

られる。23は黒曜石製の有茎式鏃で、基部断面を丸く加工する。25はチャート製、表面右側縁にわずかに突出した箇所が見うけられ、大形鏃もしくは石匙と考えられる資料。38は側縁を直線的に、脚部を尖鋭に調整する。39は側縁を丸く仕上げ左右対称をなす。基部断面を丸く加工する。珪質頁岩製の石鏃。抉り部を直線的に整え、長い脚部を作出。先端部には著しい摩耗が見られることから、石錐として転用された可能性がある。54は黒曜石製の大型鏃。表面上端から左側縁にむけての

表44 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の石鏃の法量・属性

	最大長/幅比			最大厚			抉り長/最大長比			重量			最大長(以上-未満/mm)					先端角(以上-未満/度)					計		
	計上数	平均	偏差平均	計上数	平均(mm)	偏差平均	計上数	平均	偏差平均	計上数	平均(g)	偏差平均	10-15	15-20	20-25	25-30	30-	計	20-30	30-40	40-50	50-60		60-70	70-
A1類	5	2.99	0.61	6	3.38	0.78	5	0.38	0.09	5	1.1	0.53	0	0	1	1	3	5	2	3	1	0	0	0	6
A2類	2	1.58	0.12	2	6.15	1.34	2	0.4	0.1	2	2.7	1.84	0	0	1	0	1	2	0	0	0	2	0	0	2
B1類	-	-	-	3	3.23	0.55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	1	0	0	1
B2類	1	2.01	-	1	3.50	-	1	0.39	-	1	0.8	-	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1
C1類	-	-	-	2	6.15	3.18	1	0	-	-	-	-	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1
C2類	-	-	-	1	4.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	0	0	0	0	1
D1類	5	1.34	0.17	11	4.19	1.35	6	0.13	0.15	2	0.7	0.07	0	2	2	2	0	6	0	0	1	2	1	2	6
D2類	11	1.26	0.27	21	3.90	1.44	14	0.18	0.07	9	1.2	0.94	1	5	4	4	0	14	0	1	4	3	7	3	18
D3類	11	1.41	0.17	23	2.89	0.53	13	0.25	0.05	7	0.8	0.3	0	2	7	4	1	14	1	4	6	4	1	3	19
D4類	1	1.94	-	2	4.10	0.14	1	0.29	-	1	1.2	-	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	2
D5類	7	1.33	0.16	10	3.39	0.78	9	0.21	0.07	1	1.1	-	0	1	2	5	0	8	0	1	3	3	2	1	10

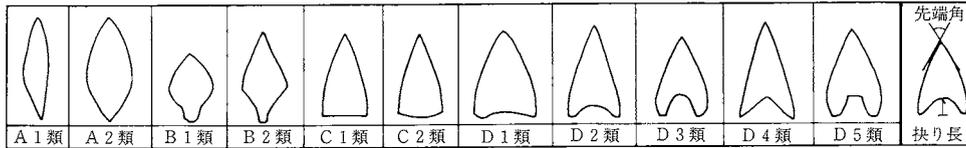


図37 石鏃分類概念図と計測箇所

剥離痕は、先端方向から形成された縦割れ面。

③ 小形両面調整石器
(図版376-57~68、図版

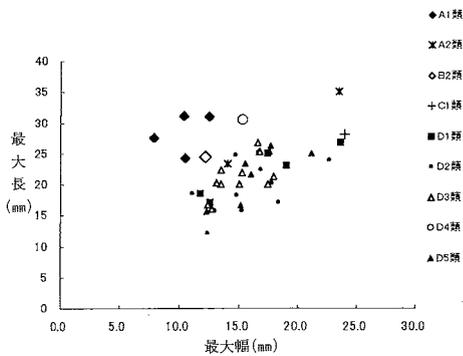


図38 XII-2層出土の石鏃長幅相関散布図

377-69~86、図版378-87~95)

比較的厚身の剥片を素材とし、器面両面に面的調整を施した小形石器。平面形態は、おおむね円形・滴形を呈する。XII-2層では計91点が出土している。

〈利用石材〉 チャート(78点)・黒曜石(2点)・珪質頁岩(3点)・ガラス質安山岩(2点)・粘板岩(3点)・玉髓系(3点)である。石鏃に比べ、チャートの占める割合(86%)がかなり高い。

〈形態〉(図39) この一群は不整形で粗い剥離調整段階のものも多く、従来、石鏃未製品としてみなされてきた。しかし同様の両面調整を行った上で、細部調整加工により円形搔器のような刃部を整えたものも多数ある。しかしこの両者(石鏃未製品・円形搔器)を明確に器種区分できるような技術形態的な根拠に欠く。またこの石器が、石鏃の製作工程のなかで派生したものかどうかについては、母岩別資料・接合資料に基づいた今後の研究にゆだねるところが大きい。したがってここでは、石鏃のような最終的な押圧調整を行わずに、両面に面的調整を施した一群を小形両面調整石器として捉えた上で、調整加工による細分を行った。

A類 細部調整加工により円形もしくは外湾する弧状の刃部を作出したもの。さらに平面形状により円形・楕円形を呈するもの(A1類)と基部側がやや尖る滴形を呈するもの(A2類)とに細分した。

B類 大きな剥離による調整加工がなされたのみで細部調整加工を施さないもの。

〈属性〉 最大長、最大幅、最大厚、重量を計測した。また最大幅を測るラインでの横断面形を凸レンズ形(a)とD字形(b)に類別した。

〈形態組成・欠損状況〉 XII-2層検出の全竪穴建物跡(SB)から出土した小形両面調整石器(計78点)の形態組成を表42に示した。A類(41点)、B類(37点)となり、出土点数に大きな隔たりはない。

SBから出土した小形両面調整石器の欠損状況をみると、完形品66点と略完形品6点の計72点(92%)、半損以上が6点となり、完形率の高さがうかがえる。

〈法量〉 完形品における最大長・幅の相関関係を図40の散布図に示した。これによれば長さ・幅ともA類では25~35mm、B類では30~40mmの範囲に集中が認められる。重量でもA類が5~10gに集中するのに対してB類では10~15gとやや大形である。最大長幅比(指数)はA・B類とも指数1~1.5に平均値が集中する。

〈特記事項〉 59は細部調整加工によって長楕円形に整えた資料。表面下端部中央に摩耗痕が認められる。63は珪質頁岩製、交互剥離によって調整がなされ、側面観はジグザグ縁を呈する。65は白色の玉髓を素材とし、下側縁にやや粗い調整を施した石器。70は下側縁をやや急斜な調整加工によって整える。74は下側縁を細部調整加工によって弧状に仕上げた石器。79はやや粗質なチャートを素材とし、平面形状を滴状に仕上げた資料。82は黒曜石製の資料で周縁部を急斜な調整加工によって整える。84は裏面下側縁に細部加工を施し、側縁を基部側にむかって細くすぼまるように仕上げた資料。下側縁辺には微細剥離が観察され

表45 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の小形両調整石器分類別点数内訳

	計	2b-3a期	3b期	3c期	4期	3a-3b期	3c-4期
A1類	26	1	3	8	8	3	2
A2類	15		5	3	5	1	1
B類	37	3	10	12	10	1	
計	78	4	18	23	23	5	3

る。95はメノウ製の資料で裏面下端部の剥離は階段状を呈する。

④ 石錐 (図版378-96~116)

剥片を素材とし、器面両面もしくは剥片一端を加工し、尖鋭な錐部を作出した石器。XII-2層では計34点が出土している。

表46 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の小形両調整石器の法量・属性

	最大長(以上-未満/mm)						計	重量(以上-未満/g)								計
	15-20	20-25	25-30	30-35	35-40	40-		0-5	5-10	10-15	15-20	20-25	25-30	30-		
A1類	1	1	5	7	3	4	21	3	11	3	0	2	1	1	21	
A2類	0	1	3	6	0	4	14	2	6	3	0	1	1	1	14	
B類	0	2	2	13	8	7	32	4	7	14	5	1	0	1	32	
計	1	4	10	26	11	15	67	9	24	20	5	4	2	3	67	

〈利用石材〉 チャート (25点)・黒曜石 (5点)・珪質頁岩 (1点)・粘板岩 (2点)・玉髓系 (1点) である。この石材利用比率は石鏃と共通する。

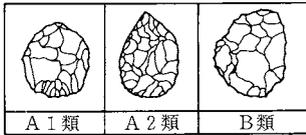


図39 小形両面調整石器分類概念図

〈形態〉 (図41) 調整加工により、以下に細分した。

A類 器面両面に押圧剥離による調整加工を行い、錐部を棒状に仕上げたもの。

B類 剥片縁辺部の全周にわたって調整加工を施し、平面形状を逆三角形・菱形に仕上げたもの。

C類 剥片の一端に部分加工を施し、錐部を作出したもの。

〈属性〉 最大長、最大幅、最大厚、重量、錐部直径を計測した。また錐部の断面形を円形 (a)、菱形 (b)、三角形 (c) に類別した。

〈形態組成・欠損状況〉 XII-2層検出の全竪穴建物跡 (SB) から出土した石錐 (計29点) の形態組成を表47に示した。A類 (10点)、B類 (16点)、C類 (3点) となる。

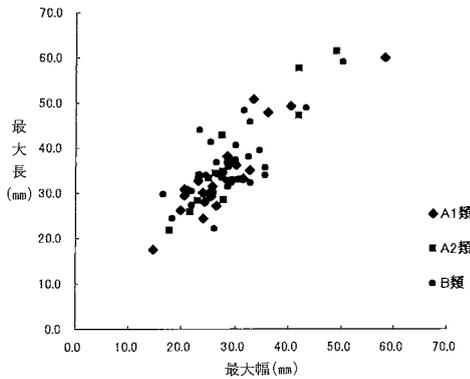


図40 XII-2層出土の小形両面調整石器長幅相関散布図

SBから出土した石錐の欠損状況をみると、完形品13点と略完形品8点は計21点 (72%)、半損以上が8点となる。

〈法量〉 完形品における最大長の度数分布にはかなりのばらつきが看取され、大きさに規格性は認められない (表48)。一方、石錐の機能部位と推察される錐部においては、その直径が2.5~3.5mmの範囲に集中する。また錐部の断面形は、A類では菱形が多く (計7点)、B類では三角形が多い (計10点)。

〈特記事項〉 96は粘板岩製の棒状礫 (片) を素材とし、一端を加工して錐部を作出する。錐部は摩耗が著しく丸みを帯びる。99はチャート製の石錐で、T字状の基部を作出する。100はチャート製三角柱状の剥片を素材に、周辺を調整する。102は黒曜石を

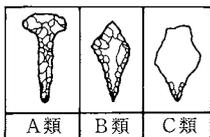


図41 石錐分類概念図

表47 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の石錐分類別点数内訳

	計	2b-3a期	3b期	3c期	4期	3a-3b期	3c-4期
A類	10	1	2	3	3		1
B類	14	3	3	1	6	1	1
C類	3	1	1		1		
計	27	5	6	4	10	1	2

表48 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の石錐の法量・属性

	重量			錐部直径			錐部断面				摩耗度			最大長(以上-未満/mm)						
	計上数	平均 (g)	偏差平均	計上数	平均 (mm)	偏差平均	円形	菱形	三角	計	有	無	計	15-20	20-25	25-30	30-35	35-40	40-	計
A類	4	0.92	0.80	9	2.54	0.37	0	7	2	9	3	8	11	1	1	1	1	0	0	4
B類	7	1.76	0.84	13	2.91	0.75	1	2	10	13	4	10	14	2	0	2	0	1	2	7
C類	2	1.60	1.27	3	3.43	1.53	0	1	1	2	1	2	3	1	0	0	1	0	0	2

素材とし、周辺を浅角度の押圧剥離で形状を整える。錐部には細かな調整が見られる。109はチャート製の石錐で上面部に摩耗が認められる。110はチャート製の石錐で、右側面下半部は折断面。116は珪質頁岩製の石錐、つまみ状の基部をなす。全体に剥離痕の稜線が摩耗している。

⑤ 楔形石器（図版379-117~126）

剥片もしくは石核を素材とし、相対する二側縁に第二次剥離によって形成された階段状剥離痕が接続した石器。ここでは階段状剥離が二側縁に並列したもののみを扱い、同様の剥離が部分的に見られるものは二次加工のある剥片とした。XII-2層では楔形石器が計36点出土している。

〈利用石材〉 チャート（19点）・黒曜石（10点）・粘板岩（5点）・ガラス質安山岩（2点）が利用される。

〈属性〉 最大長、最大幅、最大厚、重量を計測した。

〈法量〉 最大長の度数分布にはかなりのばらつきが看取され、大きさに規格性は認められない。

〈特記事項〉 117は方柱状の粘板岩製剥片を素材とし、上下端に階段状剥離が見られる。118はチャート製で縦断面形は凸レンズ形をなす。119は黒曜石製石核を素材とし、上下端につぶれ状の剥離痕が接続する。123は黒曜石製、上下端と裏面右側縁に階段状剥離が見られる。

⑥ 削器類（図版379-127~135、図版385-200~208、図版386-209~222、図版387-223~239）

剥片の縁辺部に連続する二次加工（調整・整形）を施し、意図的に刃部もしくは背部を作出した石器。技術形態上は、削器・搔器・抉入削器・鋸歯縁石器、また背部加工剥片と区分される。しかしながら、一資料において異なる加工形態が複合する例も多い。よってここでは剥片縁辺部に二次加工が接続する一群を削器類として捉えた上で、①素材（石材・法量）による大別、②二次加工部位、刃部・背部形態による細分を行う。

〈利用石材・素材〉

小形削器類 緻密な石材（チャート・黒曜石・珪質頁岩・ガラス質安山岩）を素材とする。長さがおおむね5cm未満の資料。XII-2層では計42点が出土。石材の内訳は、チャート（30点）・黒曜石（7点）・珪質頁岩（2点）・ガラス質安山岩（1点）となり、石材組成はおおむね石鏃と一致する。

大形削器類 細粒の石材（堆積岩）を素材とする。長さがおおむね5cm以上の資料。XII-2層では計252点が出土。石材の内訳は、粘板岩（248点）・珪質凝灰岩（1点）・砂岩（1点）となり、打製石斧と同様、専ら粘板岩を素材としている。

〈形態〉（図42）

A類 削器 剥片側縁部に浅角度（刃角45度未満）の調整剥離によって刃部を作出した石器。背腹面どちらか一方の面から調整し片刃の刃部を有するもの（A1類）と、背腹面両面から調整し両刃の刃部を有するもの（A2類）と、剥片の両側辺に調整剥離が見られ並刃をなすもの（A3類）とがある。

B類 背付削器 剥片片側縁に浅角度の調整剥離によって刃部を、さらに相対する片側縁に深角度（刃角45度以上）の整形剥離によって背部を作出した石器。A類同様、片刃の刃部を有するもの（B1類）と、両刃の刃部を有するもの（B2類）とがある。

C類 背部加工剥片 剥片片側縁に深角度の整形剥離によって背部を作出した石器。相対する片側縁は第一次剥離で形成された未加工の縁辺を有する。背腹面どちらか一方の面から整形した背部を有するもの（C1類）と、背腹面両面から整形した背部を有するもの（C2類）と、両側辺に整形剥離が見られ、切出状をなすもの（C3類）とがある。

D類 鋸歯縁石器 剥片側縁部もしくは末端部に鋸歯状の刃部を作出した石器。

E類 抉入削器 剥片側縁部にノッチ状の刃部を作出した石器。

〈属性〉 最大長、最大幅、最大厚、重量を計測した。また調整・整形加工角は加工部位の中央部付近で

表49 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の小形削器類の分類別点数内訳

	計	2b-3a期	3b期	3c期	4期	3a-3b期	3c-4期
A1類	4		1	2	1		
A2類	5		0	4		1	
A3類	3		2		1		
B1類	1		1				
B2類	4				3		1
C1類	8	3	3		1		1
C2類	2			2			
C3類	2	1		1			
D類	4		1	1	2		
E類	0						
計	33	4	8	10	8	1	2

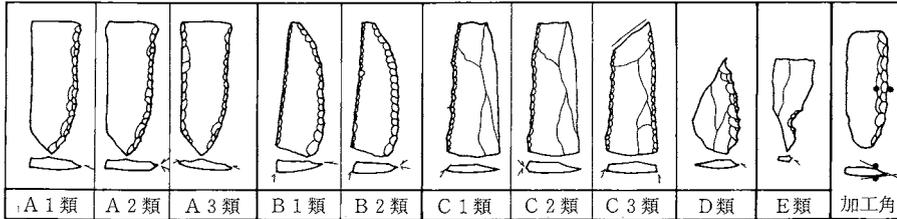


図42 削器類分類概念図と計測箇所

直線状の刃部、A2類では外湾状の刃部を呈するものが多い。

SBから出土した小形削器類の欠損状況をみると、完形品25点と略完形品7点は計32点(91%)、半損以上が3点となる。

大形削器類 XII-2層検出の全竪穴建物跡(SB)から出土した大形削器類(計202点)の形態組成を表50に

表50 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の大形削器類分類別点数内訳

	計	2b-3a期	3b期	3c期	4期	3a-3b期	3c-4期
A1類	32	5	11	5	6	2	2
A2類	19	3	4	7	5		
A3類	12	2		5	3	1	3
B1類	5			1	3		1
B2類	16	1	2	3	8		2
C1類	37	2	3	14	12	1	5
C2類	15	3	2	2	7		1
C3類	7	1	1	3	2		
D類	11	2	1	3	3	1	1
E類	1		1				
計	155	19	25	43	49	5	15

表51 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の小形削器類の度量・属性

	最大長/幅比			最大厚			最大長(以上-未満/mm)					重量(以上-未満/g)					
	計上数	平均	偏差平均	計上数	平均(mm)	偏差平均	0-20	20-40	40-60	60-80	計	0-10	10-20	20-30	30-40	40-	計
A1類	4	1.70	0.42	4	11.65	3.41	0	1	1	2	4	1	1	1	0	1	4
A2類	5	1.58	0.27	5	9.10	3.19	0	3	2	0	5	4	0	1	0	0	5
A3類	3	1.51	0.50	3	6.50	3.14	0	3	0	0	3	3	0	0	0	0	3
B1類	1	1.92	-	1	12.00	-	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1
B2類	4	1.31	0.58	4	8.23	1.46	0	2	2	0	4	1	3	0	0	0	4
C1類	7	1.16	0.20	7	7.79	3.29	0	5	2	0	7	4	3	0	0	0	7
C2類	2	1.35	0.13	2	6.75	2.05	0	2	0	0	2	2	0	0	0	0	2
C3類	2	1.83	0.82	2	7.90	3.25	0	1	1	0	2	2	0	0	0	0	2
D類	4	1.03	0.14	4	11.08	4.09	0	2	2	0	4	1	1	1	1	0	4

	調整形態			調整角度(以上-未満/度)						整形形態			整形角度(以上-未満/度)				
	直線	外湾	他	-20	20-30	30-40	40-	計		直線	外湾	他	-50	50-60	60-70	70-	計
A1類	3	1	0	0	0	3	1	4	B1類	1	0	0	0	0	0	1	1
A2類	0	5	0	0	1	1	3	5	B2類	2	2	0	2	2	0	0	4
A3類	1	1	1	0	0	2	1	3	C1類	1	5	1	1	2	3	1	7
B1類	1	0	0	0	0	0	1	1	C2類	2	0	0	2	0	0	0	2
B2類	4	0	0	0	0	3	1	4	C3類	1	0	1	0	1	0	1	2

計測した。さらに刃部・背部形態を、直線状(a)・外湾状(b)・内湾状(c)に細分した。また一資料で異なる形態が複合するものは、その組合せを観察表に示した。

〈形態組成・欠損状況〉

小形削器類 XII-2層検出の全竪穴建物跡(SB)から出土した小形削器類(計35点)の形態組成を表49に示した。これによれば形態の判明した33点の小形削器類は、A類(計12点)・B類(計5点)・C類(計12点)・D類(計4点)に類別され、A類とC類がほぼ同数であることが

わかる。

またA・B類の刃部の調整形状は、直線状(計9点)・外湾状(計7点)に類別される。これを各形態別にみると、A1・B2類では

直線状の刃部を呈するものが多い。SBから出土した小形削器類の欠損状況をみると、完形品25点と略完形品7点は計32点(91%)、半損以上が3点となる。

大形削器類 XII-2層検出の全竪穴建物跡(SB)から出土した大形削器類(計202点)の形態組成を表50に示した。これによれば形態の判明した155点の大形削器類は、A類(計63点)・B類(計21点)・C類(計59点)・D類(11点)・E類(1点)に類別され、A類とC類がほぼ同数であることがわかる。

またA・B類の刃部の調整形状は、直線状(計52点)・外湾状(計28点)に類別される。これを各形態別にみると、A1・A2類では直線状と外湾状の刃部がほぼ同数であるのに対し、A3・B1・B2類では直線状の刃部を呈するものが主体である。

SBから出土した大形削器類の欠損状況をみると、完形品124

点と略完形品18点は計142点(70%)、半損以上が60点となる。小形削器類に比べ、破損率が高い。

〈度量〉

小形削器類 完形品における最大長・幅の相関関係を図43の散布図に示した。これによれば長さ20~60mm・幅20~50mmの範囲に散漫

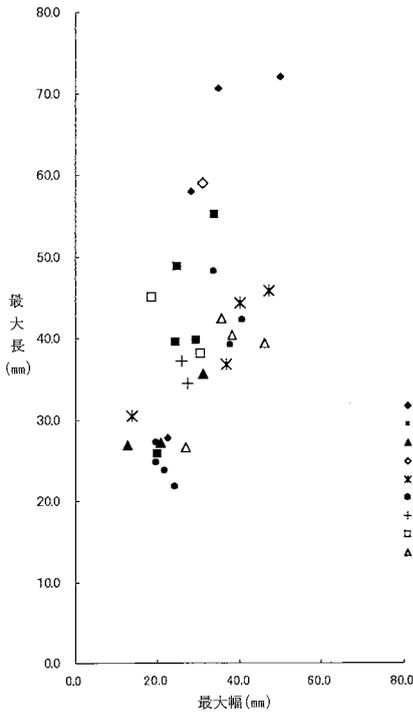


図43 XII-2層出土の小形削器類相關散布図

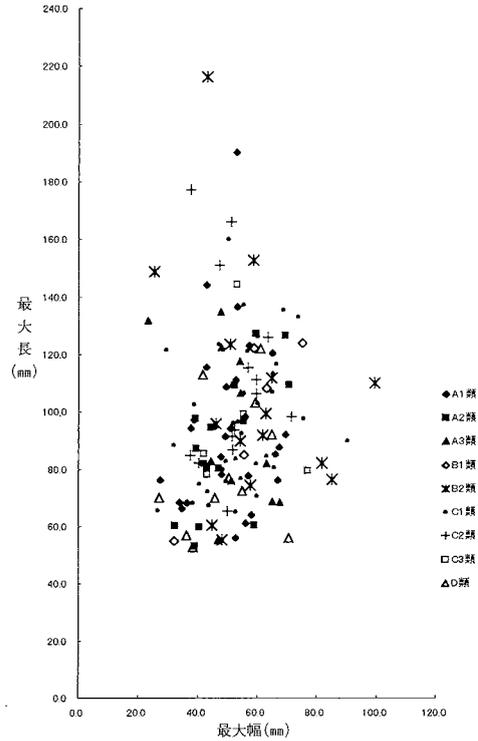


図44 XII-2層出土の大形削器類相關散布図

表52 XII-2層検出全竪穴建物跡出土の大形削器類の法量・属性

	最大長/幅比		最大厚			最大長(以上-未満/mm)							重量(以上-未満/g)										
	計上数	平均	偏差平均	計上数	平均(mm)	偏差平均	-40	40-60	60-80	80-100	100-120	120-140	140-	計	0-20	20-40	40-60	60-80	80-100	100-120	120-140	140-	計
A1類	29	1.88	0.63	32	13.17	4.63	0	2	9	10	3	3	2	29	1	6	3	7	2	2	0	2	23
A2類	15	1.83	0.37	19	13.10	2.68	0	2	2	7	2	2	0	15	1	2	5	1	1	0	2	2	14
A3類	11	2.10	1.34	12	12.46	5.98	0	1	3	2	2	3	0	11	1	1	3	2	2	0	0	1	10
B1類	5	1.74	0.20	5	13.72	2.54	0	1	0	1	1	2	0	5	0	1	0	2	0	1	0	0	4
B2類	15	2.09	1.47	16	14.96	4.70	0	1	3	5	2	1	3	15	0	1	4	3	3	0	1	3	15
C1類	36	1.89	0.62	37	12.05	3.85	0	0	10	11	7	7	1	36	2	9	6	6	1	3	0	3	30
C2類	14	2.22	0.91	15	12.01	4.27	0	0	1	6	3	1	3	14	0	1	6	1	1	1	0	1	11
C3類	5	1.88	0.61	7	11.14	1.99	0	0	2	2	0	0	1	5	0	3	0	0	0	2	0	0	5
D類	11	1.69	0.56	11	15.62	6.14	0	3	4	1	2	1	0	11	1	2	3	1	0	1	1	1	10
B類	1	1.80	-	1	9.0	-	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1

	調整形態			調整角度(以上-未満/度)						整形形態			整形角度(以上-未満/度)				
	直線	外湾	他	-20	20-30	30-40	40-	計		直線	外湾	他	-50	50-60	60-70	70-	計
A1類	17	15	0	0	2	19	11	32	B1類	4	0	1	0	4	1	0	5
A2類	9	9	1	0	2	10	7	19	B2類	12	4	0	1	4	7	4	16
A3類	9	1	2	0	3	5	4	12	C1類	26	10	1	6	9	9	13	37
B1類	5	0	0	0	2	3	0	5	C2類	11	3	1	3	6	4	2	15
B2類	12	3	1	0	4	8	4	16	C3類	4	1	2	0	3	1	3	7

な分布をみせる。最大長幅比（指数）1～2、最大厚約6～12mm、重量2～20gの範囲に分散し、形状の規格性は認められない。

刃部の調整角度は各形態とも30～40度の範囲におさまるが、両刃を有するA2類の刃角は40度を超えるものが主体を占める。

背部の整形角度は各形態とも変異が大きく、規格性は認められない。

大形削器類 完形品における最大長・幅の相関関係を図44の散布図に示した。これによれば長さ50～140mm・幅30～80mmの範囲に分布が認められる。これを最大長幅比（指数）で見ると、各形態とも指数1.7～2の範囲に集中することがわかる。また最大厚では12～15mmの範囲に各形態の平均値が集中する。

刃部の調整角度は各形態とも30～40度の範囲に集中する傾向はあるが、変異幅も大きい。背部の整形角度は一定の規格はなく、50～90度の範囲に分散する。

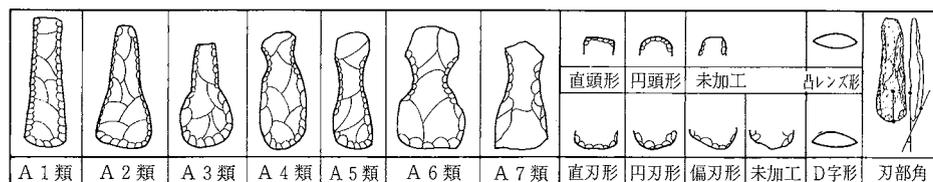


図45 打製石斧分類概念図と計測箇所

基部に向かって先細り、撥形を呈するもの（A2類）。

両側縁の基部側を直線的に細く仕上げ、柄鏡形を呈するもの（A3類）。

両側縁の基部側にわずかな挟りを有するもの（A4類）。
 両側縁がその中央に向かって弧状に内湾するもの（A5類）。
 両側縁中央部に挟り部が作出され、分銅形を呈するもの（A6類）。

刃部は未調整の鋭い縁辺が利用され、直刃斧（クリヴァー）状を呈するもの（A7類）。

B類 刃部磨製石斧。素材や調整加工は打製石斧と同様であるが、刃部に明確な研磨痕が認められるもの。

〈属性〉 最大長、最大幅、最大厚、重量を計測した。刃部角は刃部中央付近で計測した。また基端部・刃部・横断面の形態を次のように細分した。基端部の形態は、直頭形（a）、円頭形（b）、未調整のもの（c）に類別した。刃部の形態は、直刃形（a）、円刃形（b）、偏刃形（c）、未調整のもの（d）に類別した。また最大幅を測るラインでの横断面の形態を凸レンズ形（a）、D字形（b）に類別した。

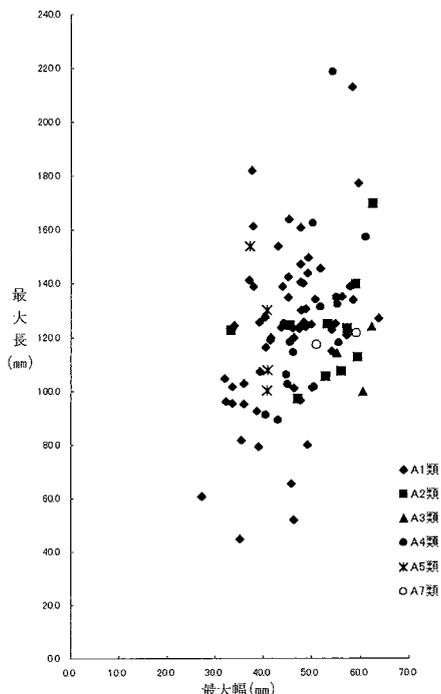


図46 XII-2層出土の打製石斧相関散布図

〈形態組成・欠損状況〉（表53・表42） XII-2層検出の全竪

穴建物跡（SB）から出土した打製石斧（計317点）の形態組成を表53に示した。これによれば形態の判明した打製石斧222点の内、79%がA1類（176点）で、7%がA2類（16点）、9%がA4類（20点）、他にA3類（3点）・A5類（5点）・A7類（2点）がある。

SBから出土した打製石斧の欠損状況をみると、完形品74点と略完形品21点は計95点（30%）にとどまり、一部欠損品40点、半損品83点、半損以上が99点を数える。一部欠損・半損品（計123点）のなかでは刃部が残存し基部を欠くものが68点、逆に基部側が残存するものが55点を数える。

〈法量〉 完形品における最大長・幅の相関関係を図46の散布図に示した。これによれば長さ90～150mm・幅35～60mmの範囲に集中が認められる。最大厚15～17mm・重量100～120gの範囲におさまる。

したがってこの規格を中～大形とみなすならば、これより長さ・幅の大きなものを超大形とし、小さなものを小形とする。これによれば完形品74点は、小形7点、中～大形55点、超大形12点に類別される。最大長幅比（指数）は各形態によりそれぞれ差が認められる。A1・A4・A5類は指数2.5（平均値）を上回る細身の打製石斧であることを示す。一方、A2・A7類はやや幅広、A3類は幅広の打製石斧であることを示す。刃部角は各形態とも30度前後に集中する傾向がある。刃部形態では直刃形（計57点・35%）、円刃形（計82点・50%）、偏刃形（計24点・15%）となる。基部形態では直頭形（計62点・43%）、円頭形（計38点・27%）、未調整（計42点・29%）となる。

刃縁に微細剝離痕が認められる資料は、形態の判明した打製石斧222点のうち計78点（35%）である。また摩耗痕は計120点（54%）に認められた。

〈特記事項〉 142は、薄身で短冊形の打製石斧（A1類）。四側辺とも直線的に仕上げる。144は縦断面形が

「く」の字を呈する打製石斧（A4類）。基部の側縁が内湾する。145は細身で短冊形の打製石斧（A1類）。裏面は風化が著しい。149は薄身の打製石斧（A4類）で、刃部の摩耗痕が発達する。153は大形で短冊形の打製石斧（A1類）。偏刃の刃部は摩耗が著しい。159は薄身で柄鏡形を呈する打製石斧。基部側を直線的に仕上げる。164は裏面刃部が摩耗によって屈曲する。169では下端部の折れ面に対して調整を行う。170は器面全域に摩耗痕が発達する。174は薄身で短冊形の打製石斧。表面の刃部には器軸方向に並行する線状痕が見られる。177は基部側が内湾する打製石斧（A4類）。刃部は摩耗によって「く」の字状に屈曲する。180には基端部にも摩耗痕が見られる。189は撥形を呈する刃部磨製石斧。刃部には第一次剝離で生じた縁辺上に幅2mm程度の研磨痕が見られる。198は直刃斧状を呈する石斧（A7類）で、裏面の刃縁に摩耗痕が見られる。199は細身で鎌状を呈する打製石斧（A5類）。表面刃部の左側面が著しく摩耗する。

⑧ 磨製石斧（図版392-316～326、図版393-327～330、図版394-331～338）

器面全面に研磨加工を施して、短冊形などに仕上げた石器。XII-2層では計26点が出土している。

〈利用石材〉 角閃岩（10点）・透緑閃石岩（10点）・粘板岩（3点）・滑石片岩（1点）・滑石透閃石片岩（1点）である。

表54 XII-2層検出層位別の磨製石斧利用石材

	透緑 粘板岩 他の					計
	蛇紋岩	角閃岩	閃石岩	(頁岩)	石材	
XII-2	0	10	10	3	2	25
XIV-2	2	0	4	1	0	7
XV	1	0	0	0	0	1

〈形態〉（図47） 大きさ・形態により以下に細分した。

A類 小・中形の磨製石斧（定角式）。完形品の最大幅が40mm未満のもの。

小形で両側辺が並行し、平面形がノミ状を呈するもの。最大幅20mm未満のもの（A1類）。

小形で両側辺が並行し、平面形が短冊形を呈するもの。最大幅20～30mmのもの（A2類）。

中形で両側辺が基部側に向かってわずかに先細り、表裏面をほぼ水平に仕上げたもの（A3類）。

中形で両側辺が並行し、平面形が短冊形を呈し、表裏面が器軸中央に向かって胴張り状のもの（A4類）。

B類 大形の磨製石斧（定角式）。完形品の最大幅が40mm以上のもの。

大形で両側辺が並行し、平面形が短冊形を呈し、横断面形がやや厚みのある方形を呈するもの（B1類）。

大形で両側辺が並行し、平面形が短冊形を呈し、横断面形が扁平な長方形を呈するもの（B2類）。

大形で両側辺が基部側に向かって先細り、表裏面が器軸中央に向かって胴張り状のもの（B3類）。

〈属性〉 最大長、最大幅、最大厚、重量を計測した。刃部角は刃部中央付近で計測した。また基端部・刃部・横断面の形態を次のように細分した。

基端部の形態は、直頭形（a）、隅丸直頭形（b）、尖円頭形（c）に類別した。刃部の形態は、直刃形（a）、円刃形（b）、偏刃形（c）に類別した。また最大幅を測るラインでの横断面の形態を扁平長方形（a）、隅丸方形（b）、胴張り方形（亜楕円形）（c）に類別した。

〈形態組成・欠損状況〉 XII-2層から出土した磨製石斧（計25点）の形態組成を表55に示した。これによれば形態の判明した磨製石斧21点の内、11点がA類（小～中形）、10点がB類（大形）となり、小形品と大形品の点数の隔たりは認められない。またA類ではA1類が5点、B類ではB3類が8点となり、形態組成に特徴が見られる。XII-2層からB1類は検出されていない。

SBから出土した磨製石斧の欠損状況を見ると、完形品3点と略完形品2点は計5点（25%）にとどまり、一部欠損品1点、半損品5点、半損以上が9点を数える。

〈法量〉 磨製石斧の法量は完形品が5点と少なく、各形態間で規格が異なるため、磨製石斧のすべてを網羅的に検討することはできない。また最大幅や最大厚といった法量は、分類基準にある程度加味されている。したがってここでは刃部・基部形態の特徴をまとめる。

刃部形態はA1・A3類では直刃形、A2・B3類では円刃形が主体をしめる。刃部角は各形態とも40～50

表55 XII-2層出土磨製石斧分類別点数内訳と磨製石斧の法量・属性

磨製石斧分類別点数内訳

	計	2b-3a期	3b期	3c期	4期	3a-3b期	3c-4期
A1類	5			1	2		
A2類	2			2			
A3類	3	1			1		
A4類	1					1	
B1類	0						
B2類	2		1				
B3類	8	1	1	2	2		1
-	4		1	1			2
計	25	2	3	6	5	1	3

磨製石斧の法量・属性

	最大幅			最大厚			刃部形態			刃部角度(以上-未満/度)				基部形態			刃部縦断面形				横断面形			
	計上数	平均(mm)	偏差平均	計上数	平均(mm)	偏差平均	直刃	凹刃	偏刃	30-40	40-50	50-60	計	直頭	隅丸直頭	尖凹頭	計	両刃	偏両刃	計	扁平	隅丸方形	凹槽凹	計
A1類	4	19.73	3.06	5	9.64	1.39	2	1	0	1	1	1	3	0	2	0	2	2	1	3	5	0	0	5
A2類	2	26.50	1.27	2	7.90	0.42	0	2	0	0	2	0	2	1	0	0	1	2	0	2	2	0	0	2
A3類	3	33.73	3.32	3	9.37	1.36	2	0	0	0	2	0	2	1	0	0	1	1	1	2	2	0	0	2
A4類	1	33.1	-	1	13.2	-	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1
B2類	1	54.0	-	1	19.5	-	0	1	0	1	0	0	1	2	0	0	2	1	0	1	0	0	2	2
B3類	3	48.87	11.43	7	23.53	7.28	0	3	1	1	3	0	4	0	2	2	4	1	3	4	0	0	8	8

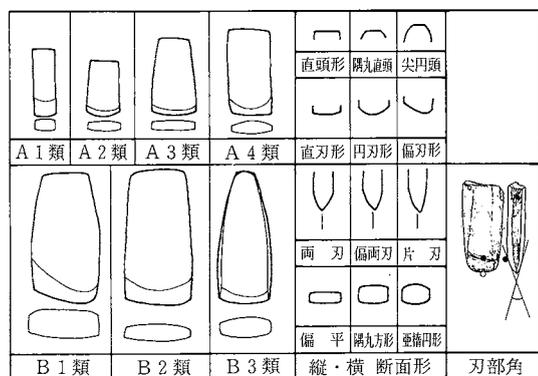


図47 磨製石斧分類概念図と計測箇所

度の範囲に集中する。刃部の縦断面形では両刃のものと表裏どちらか一方に刃部が偏るものがあり、A1～A4類・B2類では前者が主体的であるのに対して、B3類では後者のみがみられる。

基部形態はA2・A3・B2類では直頭形、A1類は隅丸直頭形が主体をしめる。B3類の基部は隅丸直頭形と尖凹頭形がある。

〈特記事項〉 316は表裏両面の上半部に剝離痕を残す磨製石斧。灰色の滑石透閃石片岩製。右側面縁辺部には敲打痕が認められる。317は粘板岩製の磨製石斧。板状礫片を素材にしたと考えられ、研磨加工による形状変更は少ない。器軸に斜行する約0.1mm程度の粗い研磨痕が表裏両面を覆う。319は滑石片岩製の磨製石斧。表面左上端に基端部をとどめる。裏面中央の剝離末端に剝片が接合する。320は粘板岩（頁岩）製の磨製石斧。基部は欠損。裏面は整形時の剝離痕を残す。321は透緑閃石岩製の磨製石斧の刃部片。刃縁裏面側に線状痕が観察される。323は角閃岩製の磨製石斧。刃部は強い凹刃形を呈し、横断面形は胴張りをなす。刃縁部には線状痕が顕著に認められる。324は透緑閃石岩製の磨製石斧。器面全面に精緻な研磨を施し、平滑に仕上げている。刃部には線状痕・摩耗痕が観察される。325は粘板岩製の磨製石斧の刃部片。裏面にはほとんど研磨は見られず、未製品の可能性が高い。326は透緑閃石岩製の磨製石斧の刃部片。324と規格性が高く、線状痕・摩耗痕の形状においても類似する。327は角閃岩製の磨製石斧。周縁部と裏面下半部に見られる敲打痕の形成は、表面中央の研磨面の形成より新しい。これは刃部再生のための調整加工とみられ、裏面下半部の敲打痕は刃部角を補整する目的で形成されたと考えられる。328は角閃岩製の磨製石斧。327と規格性が高い。331は透緑閃石岩製の磨製石斧。器面全面に精緻な研磨を施し、平滑に仕上げている。刃部には比較的粗い研磨痕が見られる。332は透緑閃石岩製の磨製石斧。先端に石斧のような刃部は見られず、横断面形が不等辺三角形をなす。335は透緑閃石岩製の磨製石斧。基端下約3mmに明瞭な稜を作り出すが、上端に平坦面をとどめ、刃部の形成には至らない。336は角閃岩製の磨製石斧。両側辺が基部側に向かって先細る。側面の縁辺部には敲打痕をとどめる。刃縁には微細剝離と線状痕が見られる。

⑨ 微細剝離を有する剝片 (M.F.) (図版388-240・243・245～246・248～249・251・253・254、図版389-255～290)

剝片の縁辺に微細剝離痕が認められる資料。この場合の微細剝離痕とは肉眼およびルーペ（×20）での

観察において、大きさが約1mm以下の剥離痕が接続して認められるものとする。削器類と同様に、素材の大きさによって大別できる。実測図には微細剥離が観察される箇所を実線で示した。

M.F. (大形) 細粒の石材(粘板岩)を素材とする。長さがおおむね5cm以上の資料。

M.F. (小形) 緻密な石材(黒曜石・チャート・珪質頁岩)を素材とする。長さがおおむね5cm未満の資料。

〈特記事項〉 240・245は粘板岩製の大型縦長剥片を素材とする資料。243は粘板岩製で切出状を呈する資料。背面中央の平坦剥離が二次加工かどうかはわからない。253の背面にも同様の平坦剥離が見られる。

255～290は小形の微細剥離を有する剥片。おおむね1.5cm程度の剥片を素材とする。微細剥離が観察される箇所はその剥片で最も鋭利な縁辺が多い。また相対する側縁は礫面や鈍角なものが多い。多くの微細剥離を有する剥片の背面は、多方向からの剥離痕で構成される。打面は欠損しているか単剥離面打面が多い。微細剥離痕は便宜的に大きさを1mm以下と規定したが、細かな二次加工痕と判別は難しい。276の腹面上端や281腹面下端に見られる小剥離痕は、剥片剥離の際に偶発的に生じた可能性がある。

⑩ 二次加工のある剥片 (R.F.) (図版388-241・242・244・247・250・252)

剥片の縁辺に部分的もしくは不連続な二次加工痕が認められる資料。いわゆる定形的な器種と比較して、一定の形状をなさない一群。剥片の一端に部分的な連続剥離が認められるものを(A類)、一側縁もしくは二側縁に不連続な二次加工痕が認められるものを(B類)、剥片の周縁にわたって不連続な二次加工が認められるものを(C類)とした。

〈特記事項〉 241・242・250は、粘板岩製の二次加工のある剥片(A類)。一側縁に部分的な二次加工が見られ、相対する側縁には微細剥離痕をとどめる。244・247・252は、粘板岩製の二次加工のある剥片(B類)。244は背面右側縁に不連続な二次加工、左側縁は著しく摩耗し丸みを帯びる。

⑪ 剥片・碎片 (図版390-291～293、図版391-304)

二次加工・微細剥離が認められない資料のなかで、便宜的に重量1g未満を碎片とし、1g以上を剥片とする。

〈特記事項〉 291～293は打面再生剥片である。旧打面と作業面で形成される稜線上を加撃し、厚みの有る剥片を剥離する(291・292)。304は粘板岩製で厚みの有る板状剥片。打製石斧の素材剥片の可能性はある。

⑫ 石核 (図版390-294～303、図版391-305～315)

最終的に形成された剥離痕がネガティブ面である資料。剥片剥離時に最終的に残された残核と考えられる。

〈特記事項〉 294・300・301は小形で板状を呈する剥片素材の石核(黒曜石製)。剥片の側面を打面とし、その周縁に打点を移動させながら、求心状剥離を行う。296は珪質頁岩製の円盤形の石核。分割面を作業面とし求心状に剥離が進行する。298は黒曜石製のサイコロ状の石核。打面と作業面の転移を繰り返す。302は主要剥離面を作業面とし数回にわたって剥片剥離を行った石核(チャート製)。303は黒曜石製の原礫で、一端に剥離痕が見られる。306は3度にわたって打面転移を繰り返す粘板岩製の石核。各作業面の剥離末端は階段状を呈する。307は板状剥片を剥離したと推察される石核。打面縁と左側面に細かな石核調整を施す。308は粘板岩製の両設打面石核。裏面は節理に沿った割れ面で構成され、敷石材に転用されたためか、わずかに摩耗が認められる。309は両極打法によって分割された板状礫を素材とする石核(粘板岩製)。310はガラス質安山岩製の両設打面石核。作業面も表裏両面に転移する。311は粘板岩製の円盤状石核。厚みのある剥片を素材とし、その周縁に打面を設定しながら背面側に対して剥片剥離を行う。314はガラス質安山岩の分割礫。礫面は円礫面からなる。315は粘板岩製の初期石核で、両側縁に対して稜形成のような石核調整を行う。

B. 礫石器

① 磨石類（表58-(11)）（図版395-339～363、図版396-364～379）

分類の基準 扁平礫もしくは円礫に使用痕の見られるもの。使用痕には研磨痕、敲打痕、敲打や敲打と研磨の組み合わせによる局所的な凹みなどが認められる。これらは通常使用痕によって磨石・敲石、凹石などと呼ばれるが、屋代遺跡群出土資料の場合、それらが複合している場合も多いため、全体を「磨石類」として一括し、備考に使用痕を記載することにした。遺構全体では1,149点が出土した。形態は、小形扁平（339・340・349～354）、棒状（341・375～378）、扁平棒状（373）、厚手円形（348・355～370）、球形（347・371）などが認められる。石材は火山岩が主体を占める。浅間山を含む東信火山列を産地とする輝石安山岩や、その他の輝石安山岩、八ヶ岳起源の角閃石デイサイトが確認された。

使用痕 使用痕は、小形扁平のものは全体に光沢を帯びた磨痕が見られ、みがきに使われたと推測される。棒状のものは、表面に磨りが認められるもの（341）、上下端および側面に敲打痕が認められるものがある（375・377・379）。特に375は表面に顕著な磨りと凹みが併存し、さらに下端に赤色顔料が付着していた。扁平な373も表裏面の磨りの痕跡が顕著で、上下端部には敲打痕も認められた。厚手円形～楕円形のものにはかなり定型的な凹みが表裏面に認められる。

② 石皿類（表58-(10)）（図版397-380～391・396・397）

分類の基準 大型扁平の礫の中央もしくは片面に凹みもしくは磨痕が見られるもので、置いて使用したと推定されるものを一括した。凹みを明らかに作出し、明確な皿部が認められるものと、複数回の研磨によって平坦な磨面ができあがったものを該当させ、前者を石皿a類、後者を石皿b類とした。後者は、磨石類と同様に使用痕による石器の認定となるため、使用痕の認識の仕方に左右されるという側面がある。例えば敷石住居の床面の挟石の磨痕が、生活痕跡か局所的な使用によって形成されたか。逆に、実際は使用されていたにも拘わらず、使用痕として認識されず、搬入礫に分類されていないか。石が多出する遺跡で、使用痕による分類を行う場合、常につきまとう危険性であろう。今回は肉眼観察による簡易的な観察の結果、遺構出土の石皿a類を25点、石皿b類を228点確認したが、実体顕微鏡他を用いた、より確実な石皿b類の認定を今後の課題としたい。

形態 石皿a類は縁辺部全体が作り出されて三角形に突出するもの（388他）、縁辺部が若干高まっているにすぎないもの（380他）、片側のみが高まりがあるもの（387他）が認められた。裏面に多数の凹みが認められ、多孔石と同様の用途に転用されたものが見られる。石材は安山岩、閃緑岩のほかに、SB5332奥壁土壇上から変成岩製のものが1点出土した。

使用痕 387は扁平棒状礫の縁辺部を加工して平面に対してほぼ直角の稜を作り出している。表面縦方向2/3程度には顕著な磨りが見られる。残りの1/2は磨面よりも8mm程度高いため、ここを押さえにして縦方向に磨石類を運動させたと推測される。この他石皿面の使用痕は光沢を帯びる程顕著に見られるものが多いが、方向が判断できるものは少ない。

③ 砥石（表58-(11)）（図版399-419・420）

分類の基準と形態 平坦な礫に、平坦な砥痕（419）、溝状痕（420）を有するもの。遺構出土のものは11点を確認した。

④ 多孔石（表58-(10)）（図版397-392～395、図版398-399～403）

分類の基準 大形の礫の1から複数の面に多数の凹みをもつ石器。多数の凹みから「蜂の巣石」とも呼ばれる。遺構・遺構外出土を含めて28点を確認した。石皿や石棒など他の器種に多孔石と同様の多数の凹みを有するものが見られるが、その場合は他の器種に含めた。形態は、円形、楕円形などで大形で厚手のもの

のが多い。多孔石の用途には火おこし具説や堅果類の粉碎具が有力であるが、柄鏡形敷石住居や屋外火床の側で出土したものが多く、それらの遺構の機能と関連づけられよう。石材は、浅間起源と推測される黒色の輝石安山岩が主体を占める。

使用痕 凹みは表面、裏面、側面に見られ複数面のものである。凹みは1.5～3cm程度が多く、すり鉢状を呈する。399は表・裏・側面に途切れなく凹みが見られ、二次的な切断面にも凹みを付けている。

⑤ **軽石製品** (表58-11) (図版397-398、図版398-404～418)

軽石を素材に成形を加えたもので、遺構・遺構外を含めて92点を確認した。軽石は浅間山を起源とするものであるが、千曲河畔での採取も可能であったと推定される。軽石製品の多くは石器を模したものと考えられる。これらの素材となった大形の軽石片は遺構内外でも多く出土している。

斧形 (404～406・408～411) 平面と側面の間にはほぼ直角の稜が作出され、中央が膨らみ、下端は薄く成形されているものが多く、穿孔が認められるものがあることから、磨製石斧、もしくは玉斧を模したものと推測した。しかし、実際には刃部となるべき下端が厚手のもの(406)や小判形のもの(409)、上端が細く収束するもの(410)など形に変異が見られる。404、409、410、411には上部に表面から裏面に貫通する孔が両面穿孔によって穿たれている。とりわけ405には表裏両面のほぼ同じ位置に深さ3mm程度の凹みがあり、両面から穿孔しようとした痕跡と考えられる。408は上部側面に両面穿孔の孔が見られる。

垂飾形 (412) 楕円形で中央やや上に、直径7mmの貫通孔が穿たれている。穿孔部上端の直径は2cm程度で、貫通部分に向かって漏斗状落ち込む。外形と貫通孔の形態から、通常硬玉や軟玉で作られる垂飾を模したものと推測した。

鉢形 (413～417) 土器に同様の形態のものはないため、模したというより軽石で最も単純な器の形態を作出したものと考えられる。ただし、木製の器を模した可能性は残る。

石皿形 (418) やや厚手の素材の中央に浅い凹みを作出したもの。側面、裏面は緩い曲線状に成形している。

多孔石(形) (398) 大きさは安山岩製を中心とした本来の多孔石と共通する。実用品であったかどうかは不明。

⑥ **石棒** (表58-12) (図版399-426～429、図版400-431～434)

形態 無頭のもの(426～429)と有頭のもの(431～434)を含め10点出土した。断面はいずれも円形を呈する。石材は安山岩と変成岩である。427はエネルギー分散型X線マイクロアナライザー分析で緑泥片岩という結果が出ている。

無頭石棒 上端の形状は、扁平に成形されたもの(428)と、緩く尖らせたもの(426・427・429)があり、特に426と429は側面の成形の後に上部を帯状に敲打し、頭を表現している。一方、430は上部の加工方法は石棒に類似するが全体が台形を呈する。基部は使用時に横方向全周から加撃が加えられ、切断されている。

有頭石棒 傘部分が緩やかな丸みを帯びるものと、鋭角に作り出されているものがある。

使用痕 431、432、433では頭部に使用時の敲打痕が認められる。また、頭部(432・433)もしくは側面(428・429)や破断面(428・429)に黒色の物質が帯状に付着している例が多い。428は頭部やや下で切断され、分割された2片とも切断面がかなり摩耗した状態で同一の住居跡から出土した。他の石棒も同様の位置で欠損して出土する例が多い。切断面を観察すると、最初に側面を敲打して形成した平坦面を作業面として横方向に切断しているようである。土偶の切断のように石棒の切断が儀礼的に行われた可能性が推測されよう。

⑦ **異形凹石** (表58-12) (図版399-421～422・425、図版400-435～436)

小形三角形の礫を意図的に選択し、中央やや下に溝を抉り込み、溝中に敲击や磨りなどによる加工を施し、女陰を象ったもの。5点を図示した。石材は安山岩、砂岩、頁岩、チャートと多様である。435は三角形の素材の下部に溝が抉り込まれ、テラス部分に左右対称の半月状の刻みが施される。溝の最深部には数カ所の細かな抉りがある典型的なタイプである。421・422・425・436にはこのような左右対称の刻みは見られないものの、素材の形状や溝の最深部の細かな抉りから、435に類する機能を推測した。

⑧ 有孔石（表58-12）（図版400-437～443）

中央部もしくはやや下方に穴が開いている小礫を一括し、8点を図示した。自然状態で穴が開いているものを選択的に採取したと考えられるが、部分的に手を加えているものもある。石材は装飾品一般とは異なり堆積岩が多く、加工も簡易的である。民俗例では、穴に水を通す占いなどの用途が知られる。

⑨ その他の石器・石製品（表58-12）（図版399-423～424）

筒状（423）、L字状（424）の石製品を1点ずつ図示した。素材の形状を生かし、部分的に成形、加工を施している。後者には屈曲部分に鋭い刻み痕が見られ、L字部分を利用した作業痕跡と推定される。

C 装飾品

① 石製装身具類（表58-12）（図版400-445～453）

石製装身具類には垂飾と玉があり、9点出土した。

垂飾 ヒスイ製の445と透緑閃石岩（軟玉）製の449は、筒状の工具で片面穿孔し、穿孔後表面を磨いている。447は敲打の跡を残すやや粗い作りで両面穿孔である。448は中央部分が雨垂形に削り抜かれ、外側全面に厚さをほぼ当分する形で溝が刻まれている。449は448と類似した形態が推測される。

玉類 450は形態は小形磨製石斧状であるが、本来上部となる幅の狭い部分が薄く、反対側の下部が逆に厚い。451は薄手隅丸方形で全面が磨かれている。

(3) 磨製石斧・石製品のX線マイクロアナライザー分析

XV層、XIV層、XII-2層出土の石製装身具、磨製石斧、石棒など合計37点の石器の石材を確定するために、糸魚川市立フォッサマグナムミュージアムの宮島宏氏に石材鑑定を依頼した。ここではその結果と分析に際してご教示いただいた事柄を中心にまとめた。

調査の方法 石材鑑定は、肉眼観察、双眼実体顕微鏡観察と、エネルギー分散型X線マイクロアナライザーによる非破壊の半定量分析を併用して行われた。エネルギー分散型X線マイクロアナライザーは、フォッサマグナムミュージアムの日本電子製JSM-6300走査型電子顕微鏡にOxford社製LinkQX2000エネルギー分散型スペクトロメーターを取り付けたものである。測定条件は、加速電圧15kV、分析時間45秒、分析領域0.5mm×0.4mmである。資料は分析前に表面を蒸留水で洗浄して十分乾燥させている。X線マイクロアナライザーによる分析においては、表面の電導性を持たせるために炭素蒸着を行うことが通常であるが、資料表面が炭素によって汚染されるので、今回の定性分析にあたっては炭素蒸着を行っていない。炭素蒸着をしない場合、チャージアップにより表面の操作電子顕微鏡観察がしにくい、半定量分析には特に支障はないと判断している。

分析の結果 分析の結果のEPMA分析チャートを第48図、得られたスペクトルのピークの高さから判断されるおよその量とそれらの検討の結果、確定された岩石名を表59に記載した。分析の結果、XII-2層検出遺構出土の装身具にヒスイ輝石岩製（いわゆるヒスイ）のものが1点、透緑閃石岩製のものが2点含まれていることが解った。さらにXIV-1層包含層出土磨製石斧の4点、XII-2層検出遺構出土磨製石斧6点も透緑閃石岩製と認定された。透緑閃石岩はいわゆる軟玉で、ヒスイを取り巻くように産するため、ヒスイ同様に糸魚川周辺に分布する遠隔地石材である。今回通時的に獲得されていたことが判明した。

表56-(3) XII-2 層出土石製遺物遺構別組成表

	石鏃	両面開 整石器	石錐	楔形 石器	小形削 器類	大形削 器類	打製 石斧	磨製 石斧	小形MF	大形MF	R.F.	剥片	砕片	石核	剥片 石器類 小計	すり 石類	石皿 類	砥石	多孔 石	石錘	軽石 製品	石棒	異形 凹石	石製 身具	その他 の石製 品	礫 器小計	石 器小計	搬入 礫 ・数石	
SK9064	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11		
SK9065	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
SK9066	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3		
SK9067	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7		
SK9068	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6		
SK9070	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	7	5	0	14	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	27		
SK9071	0	1	0	0	0	2	3	0	0	0	6	10	7	1	30	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	69		
SK9076	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
SK9079	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
SK9082	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SK9085	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
SK9089	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SK9091	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	
SQ4451	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	10		
SQ4452	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	16		
SQ4454	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	24		
SQ4801	0	0	1	0	0	1	4	0	2	2	1	17	12	6	46	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	146		
SQ4802	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4		
SQ5531	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
SQ5532	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
SQ5534	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SQ5537	0	1	0	0	0	2	4	0	0	1	0	8	0	0	16	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	5		
SQ5541	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	10		
SQ5555	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	3	0	0	0	6	2	3	0	0	1	0	0	0	0	0	6	13		
SQ7001	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3		
SQ7002	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4		
SD5102	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7		
SD5103	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3	7	0	0	13	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	25		
SD5105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	
SD9001	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	5	
SD9004	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	
SD9006	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SD9009	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	
SF4808	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3	3	
SF5106	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	15	6	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	13
SF5107	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
SF5108	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	5	0	2	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	19	19	
SF5110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	
SF5111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	
SF5112	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	12	
SF5114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	
SF5118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
SF5119	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	19	
SF5133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	
SF5147	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	21	
SF5152	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	
SF5153	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	9	
SF5157	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SF5162	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SF5165	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
SF5167	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	
SF5168	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	1	3	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	18	
SF5172	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
SF5174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SF5177	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	
SF5179	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
SF5185	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15	
SF5188	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	5	1	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SF5195	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	0	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	19	19	
SF5196	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	13	
SF5197	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	3	
SF9008	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
SF9013	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SH5101	0	0	0	0	0	1	3	0	0	5	0	18	2	0	29	9	3	0	0	2	0	1	0	0	0	15	140	140	
SH5103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	103	103	
SX5501	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0</																			

表57-(1) XII-2層出土剥片石器類利用石材組成表

	チャート		ガラス質安山		黒曜石		珪質頁岩		粘板岩		他の石材	
	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)
SB5306	1	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.8	0	0.0
SB5307	2	2.3	0	0.0	5	13.1	0	0.0	6	324.9	1	57.1
SB5309	3	7.5	0	0.0	7	7.2	0	0.0	3	28.3	0	0.0
SB5310	27	144.4	2	91.0	30	83.1	0	0.0	95	3296.7	2	31.3
SB5311	18	79.8	2	20.5	16	26.0	0	0.0	110	2127.4	1	29.2
SB5312	15	145.6	2	49.4	21	152.6	0	0.0	63	2457.0	1	56.5
SB5313	30	207.1	7	140.5	30	70.2	1	31.6	81	2738.1	3	219.1
SB5314	6	12.2	0	0.0	12	29.5	0	0.0	37	774.4	1	30.3
SB5315	14	202.8	3	14.7	9	12.0	0	0.0	55	1197.3	0	0.0
SB5316	29	236.3	5	26.2	9	23.8	2	38.2	153	7841.3	4	379.1
SB5317	8	50.3	15	92.6	2	2.3	2	7.2	12	327.9	0	0.0
SB5318	10	74.3	1	24.4	1	1.1	2	52.8	16	694.4	2	256.4
SB5319	19	235.4	3	71.3	4	24.4	1	3.2	62	3315.4	0	0.0
SB5321	36	237.3	9	159.0	27	69.1	3	56.6	69	2167.6	1	135.5
SB5322	1	3.2	0	0.0	3	10.7	0	0.0	10	231.7	0	0.0
SB5323	6	9.4	0	0.0	3	10.0	0	0.0	10	252.2	1	21.0
SB5324	7	78.8	4	95.2	3	13.5	2	32.0	86	5899.2	1	577.4
SB5325	28	189.1	9	221.2	15	28.7	1	2.3	110	2814.8	4	122.2
SB5326	13	41.2	4	40.3	8	8.3	0	0.0	18	488.2	0	0.0
SB5328	37	121.3	8	59.2	29	52.0	0	0.0	106	3549.7	3	6.6
SB5329	0	0.0	2	26.3	0	0.0	0	0.0	12	334.0	0	0.0
SB5330	2	2.0	2	7.9	1	5.4	0	0.0	13	390.2	0	0.0
SB5331	4	42.8	0	0.0	4	6.5	0	0.0	11	246.6	0	0.0
SB5332	26	97.8	9	81.8	27	63.5	1	5.7	82	2109.7	1	14.4
SB5334	7	26.2	1	4.1	9	5.5	0	0.0	6	241.7	1	75.4
SB5335	51	163.1	32	596.0	32	50.1	5	35.2	162	3067.3	1	240.4
SB5336	11	442.6	3	15.4	2	4.0	0	0.0	59	2356.0	2	8.2
SB5337	16	106.2	5	411.6	8	17.4	0	0.0	110	6667.0	3	58.1
SB5338	28	232.9	6	889.9	10	23.6	0	0.0	95	3489.6	3	321.6
SB5339	210	190.6	7	119.2	130	62.0	1	3.1	125	2009.5	2	48.4
SB5340	83	427.3	11	102.2	62	141.5	5	71.9	209	5993.7	8	98.7
SB5341	28	64.8	9	179.4	45	83.8	0	0.0	51	892.9	2	57.3
SB5342	5	15.5	0	0.0	1	0.9	0	0.0	33	1601.1	3	67.1
SB5343	8	126.5	1	13.4	3	5.5	1	65.3	101	4778.7	1	5.1
SB5344	9	53.5	3	19.0	6	22.2	0	0.0	34	541.0	0	0.0
SB5345	35	254.0	9	140.6	16	50.3	1	21.7	161	4694.7	4	34.9
SB5346	25	128.7	0	0.0	25	38.5	0	0.0	26	473.8	1	7.6
SB5348	8	59.1	0	0.0	5	17.1	0	0.0	46	1754.6	0	0.0
SB5350	15	44.7	14	229.3	32	81.6	1	7.5	85	2677.7	3	63.2
SB5351	4	25.8	4	142.6	10	26.0	1	1.2	44	1965.8	1	0.7
SB6701	5	60.0	0	0.0	2	124.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SB6702	4	17.8	1	7.0	4	6.5	0	0.0	11	473.3	0	0.0
SB9001	13	82.0	7	95.9	70	81.5	0	0.0	55	1795.2	1	4.6
SB9002	5	22.9	3	23.5	4	8.0	0	0.0	26	857.0	2	78.7
SB9003	19	48.0	8	57.6	28	53.0	1	3.8	62	1433.5	0	0.0
SB9004	1	2.2	1	11.2	2	7.9	0	0.0	20	917.1	0	0.0
SB9005	0	0.0	0	0.0	1	4.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SB9006	0	0.0	1	9.2	10	9.8	1	0.9	4	200.1	0	0.0
SB9007	7	4.0	6	178.2	6	4.5	0	0.0	53	2382.3	1	2.2
ST5101	4	13.6	1	12.9	9	22.2	0	0.0	28	1036.7	0	0.0
ST5102	1	0.6	0	0.0	1	2.0	0	0.0	46	1022.5	1	42.3
ST5103	15	82.2	1	41.6	22	36.4	0	0.0	51	1476.9	0	0.0
ST5105	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	1	3.0	0	0.0
ST5107	1	1.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	65.0	0	0.0
ST5109	3	18.7	4	36.3	2	2.9	0	0.0	31	1060.5	1	48.8
ST5110	6	31.6	0	0.0	0	0.0	2	9.6	17	763.6	1	71.3
ST5111	0	0.0	1	2.5	0	0.0	0	0.0	11	2443.8	0	0.0
ST5115	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	256.0	0	0.0
ST5116	1	17.3	1	7.1	2	12.3	0	0.0	6	194.1	0	0.0
ST5117	3	12.6	5	59.6	3	3.2	0	0.0	1	5.6	0	0.0
ST5118	0	0.0	0	0.0	8	10.6	0	0.0	6	62.7	0	0.0
ST5120	2	14.8	1	1.9	0	0.0	0	0.0	5	78.0	0	0.0
ST5122	1	8.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

	チャート		ガラス質安山		黒曜石		珪質頁岩		粘板岩		他の石材	
	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)
ST5123	0	0.0	1	51.3	2	2.6	0	0.0	7	326.2	0	0.0
ST5124	2	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	13	239.2	0	0.0
ST9101	0	0.0	0	0.0	4	4.7	0	0.0	6	52.9	0	0.0
SK4905	0	0.0	0	0.0	1	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5504	2	8.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	478.1	0	0.0
SK5506	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	120.7	0	0.0
SK5507	0	0.0	0	0.0	1	8.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5513	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5520	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	16.4	0	0.0
SK5521	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	6.1	0	0.0
SK5523	2	0.9	1	16.8	1	0.9	0	0.0	34	813.4	0	0.0
SK5525	0	0.0	1	16.2	0	0.0	0	0.0	1	29.2	0	0.0
SK5531	1	10.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	15	690.5	0	0.0
SK5536	0	0.0	0	0.0	1	3.9	0	0.0	1	108.8	0	0.0
SK5545	5	8.7	0	0.0	7	5.9	0	0.0	7	85.5	0	0.0
SK5550	2	6.5	0	0.0	3	1.6	1	0.9	15	83.2	0	0.0
SK5552	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	34.4	0	0.0
SK5559	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	96.2	0	0.0
SK5566	4	14.1	0	0.0	0	0.0	1	6.5	6	238.3	0	0.0
SK5569	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	96.0	0	0.0
SK5570	1	2.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5574	0	0.0	0	0.0	2	3.0	0	0.0	4	268.4	0	0.0
SK5575	1	31.4	1	6.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5576	4	7.2	1	4.6	2	3.0	0	0.0	24	455.8	0	0.0
SK5577	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	121.2	1	36.1
SK5580	2	1.0	2	18.5	4	11.1	0	0.0	10	327.1	1	19.8
SK5582	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	6.2	0	0.0
SK5583	1	3.3	0	0.0	1	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5596	2	8.5	0	0.0	1	0.2	0	0.0	2	8.3	0	0.0
SK5600	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	26.2	0	0.0
SK5603	2	0.6	0	0.0	1	3.0	0	0.0	5	124.9	0	0.0
SK5604	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	30.5	0	0.0
SK5606	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	26.3	0	0.0
SK5610	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	38.0	0	0.0
SK5613	3	4.7	0	0.0	1	0.9	0	0.0	15	127.0	1	2.9
SK5617	1	3.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	41.0	0	0.0
SK5621	0	0.0	2	3.7	0	0.0	0	0.0	6	44.5	1	11.3
SK5622	0	0.0	0	0.0	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5623	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	54.8	0	0.0
SK5625	0	0.0	1	8.4	5	11.0	0	0.0	1	90.7	0	0.0
SK5626	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	32.7	0	0.0
SK5628	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5629	5	7.3	1	3.6	5	10.1	0	0.0	14	96.1	1	5.3
SK5632	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	13.5	0	0.0
SK5633	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	36.2	0	0.0
SK5662	0	0.0	1	41.3	0	0.0	0	0.0	1	24.7	0	0.0
SK5664	0	0.0	0	0.0	3	1.5	0	0.0	3	102.3	0	0.0
SK5666	1	0.3	0	0.0	2	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5668	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	63.1	0	0.0
SK5682	1	20.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5723	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	16.8	0	0.0

表57-(2) XII-2層出土剝片石器類利用石材組成表

	チャート		ガラス質安山		黒曜石		珪質頁岩		粘板岩		他の石材	
	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)
SK5777	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	71.6	0	0.0
SK5778	0	0.0	1	18.6	1	5.9	0	0.0	4	68.6	0	0.0
SK5779	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	13.3	0	0.0
SK5790	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5794	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	26.1	0	0.0
SK5798	3	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5800	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	27.1	0	0.0
SK5806	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5807	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK5811	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	161.5	0	0.0
SK5812	8	5.0	1	15.6	2	12.6	0	0.0	5	169.1	1	3.4
SK5822	0	0.0	1	1.0	0	0.0	1	5.1	0	0.0	0	0.0
SK5827	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.9	0	0.0
SK5847	1	0.4	1	11.4	0	0.0	0	0.0	1	53.2	0	0.0
SK6720	2	14.1	0	0.0	2	16.5	0	0.0	11	191.7	0	0.0
SK7508	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	14.8	0	0.0
SK7587	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.2	0	0.0
SK9001	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	7.2	0	0.0
SK9002	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	60.9	0	0.0
SK9003	4	12.8	2	7.5	12	11.5	0	0.0	17	233.8	1	1.7
SK9004	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	2	89.5	0	0.0
SK9005	2	53.0	0	0.0	3	2.2	0	0.0	9	395.1	0	0.0
SK9009	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9010	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	110.2	0	0.0
SK9011	1	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9012	0	0.0	0	0.0	1	3.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9014	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9015	2	4.5	1	1.7	9	12.4	0	0.0	4	75.2	0	0.0
SK9016	2	4.0	3	32.4	5	6.0	0	0.0	18	253.8	0	0.0
SK9017	2	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	457.4	1	254.9
SK9021	0	0.0	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9022	0	0.0	1	3.1	0	0.0	0	0.0	2	102.1	1	37.1
SK9023	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
SK9026	1	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9030	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	18.3	0	0.0
SK9031	1	0.7	0	0.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9032	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	49.5	1	19.8
SK9035	1	7.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9038	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.5	1	62.4
SK9039	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	14.0	0	0.0
SK9043	0	0.0	0	0.0	1	9.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9048	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	9.0	0	0.0
SK9058	5	21.2	2	51.3	2	1.1	0	0.0	9	452.1	1	8.2
SK9065	0	0.0	2	7.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9067	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	66.8	0	0.0
SK9070	3	4.3	0	0.0	7	3.1	0	0.0	4	11.4	0	0.0
SK9071	2	13.2	1	5.0	9	5.0	0	0.0	18	820.3	0	0.0
SK9076	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	58.7	0	0.0
SK9082	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	40.1	0	0.0
SK9085	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	13.8
SK9089	0	0.0	0	0.0	2	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SK9091	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	36.9	0	0.0
SQ27	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	51.6	0	0.0
SQ31	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SQ32	1	34.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SQ34	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	192.0	0	0.0
SQ37	1	8.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	15	717.9	0	0.0
SQ41	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	151.2	0	0.0
SQ4451	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SQ4452	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	62.7	0	0.0
SQ4454	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	14.4	0	0.0
SQ4801	4	48.1	1	263.6	19	37.5	1	7.5	19	648.4	1	70.6
SQ4802	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	34.7	0	0.0

	チャート		ガラス質安山		黒曜石		珪質頁岩		粘板岩		他の石材	
	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)	(点)	(g)
SQ55	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	170.3	1	101.2
SQ7001	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	72.8	0	0.0
SQ7002	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SD5102	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	283.8	0	0.0
SD5103	2	65.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	378.8	0	0.0
SD5105	1	18.2	1	2.4	1	3.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SD7501	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	25.3	0	0.0
SD9001	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0
SD9004	0	0.0	0	0.0	3	2.4	0	0.0	1	2.8	0	0.0
SD9006	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	6	11.2	0	0.0
SD9009	0	0.0	0	0.0	1	3.2	0	0.0	1	64.8	0	0.0
SF4808	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5106	3	18.0	0	0.0	5	3.0	0	0.0	18	246.1	0	0.0
SF5107	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	19.0	0	0.0
SF5108	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	347.2	0	0.0
SF5110	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5111	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	26.1	0	0.0
SF5112	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	17.7	1	5.2
SF5114	1	11.0	2	56.0	0	0.0	0	0.0	2	21.4	0	0.0
SF5118	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5119	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	3	125.0	0	0.0
SF5133	1	4.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.0	0	0.0
SF5147	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	74.5	0	0.0
SF5152	0	0.0	0	0.0	1	4.1	0	0.0	2	56.0	0	0.0
SF5153	1	4.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	24.4	0	0.0
SF5157	0	0.0	0	0.0	2	9.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5162	0	0.0	0	0.0	1	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5165	1	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5167	0	0.0	1	12.6	1	2.1	0	0.0	5	24.4	0	0.0
SF5168	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	144.7	2	8.7
SF5172	3	18.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5174	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5177	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	13.0	0	0.0
SF5179	1	2.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0
SF5185	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	332.0	0	0.0
SF5186	3	8.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5188	1	158.7	0	0.0	1	2.0	0	0.0	11	81.4	0	0.0
SF5195	1	7.8	1	6.4	0	0.0	0	0.0	2	17.9	0	0.0
SF5195	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5196	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF5197	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF9008	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
SF9013	0	0.0	0	0.0	1	0.3	0	0.0	1	100.6	0	0.0
SH5101	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	28	842.2	0	0.0
SH5103	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	21.6	0	0.0
SX5501	0	0.0	0	0.0	1	2.3	0	0.0	5	120.6	0	0.0
SX5502	1	1.0	0	0.0	1	3.2	0	0.0	14	501.6	0	0.0
SX5503	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	190.4	0	0.0
SX5504	2	10.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	191.6	0	0.0
SX5506	1	5.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	203.8	0	0.0
SX5507	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	134.9	0	0.0
SX5513	0	0.0	0	0.0	2	9.2	0	0.0	4	58.4	0	0.0
SB小計	939	4820.5	219	4466.8	789	1643.3	32	440.2	2799	94875.4	65	3108.3
ST小計	40	206.1	15	213.2	54	98.9	2	9.6	240	9086.7	3	162.4
SK小計	106	334.8	27	274.8	109	176.5	3	12				

表58-(1) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物観察表

石鏃

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	サハ	袂/莖長	先端角	重量	備考	
375	119	1	SB	5310	3L	AH	D2	ch.	青緑	完形	17.1	18.3	3.8	中	2.3	60	1.2	
375	119	2	SB	5310	1L	AH	D2	ob.	-	完形	12.1	12.4	2.4	小	3.1	64	0.2	
375	119	3	SB	5310	UL	AH	D2	ch.	赤	略完形	18.2	14.8	2.7	中	3.6	44	0.6	
375	119	4	SB	5310	UL	AH	A1	ch.	赤	完形	27.6	7.9	2.6	大	12.1	22	0.4	
375	119	5	SB	5311	-	AH	B2	g. an	-	完形	24.5	12.2	3.5	中	9.6	49	0.8	
375	119	6	SB	5311	炉3L	AH	D2	ch.	青灰	略完形	(17.5)	13.2	2.5	中	3.3	40	0.4	
375	119	7	SB	5312	1-2L	AH	A1	ch.	青緑	完形	40.9	11.1	4.6	大	19.8	28	1.8	
375	119	8	SB	5318	UL	AH	D3	ob.	B	一部欠b	(28.2)	16.6	3.6	中	5.2	42	1.1	
375	119	9	SB	5319	入口部	AH	D2	ch.	青緑	略完形	(21.2)	19.4	6.7	中	3.1	52	1.5	
375	119	10	SB	5321	ML	AH	-	ch.	青灰	半損b	(19.2)	(12.6)	3.0	-	-	33	0.6	
375	119	11	SB	5321	-	AH	D2	ch.	青緑	完形	23.9	22.6	7.1	大	3.3	72	2.9	未製品
375	119	12	SB	5326	-	AH	D5	ch.	灰	略完形	15.5	12.3	2.4	中	3.2	54	0.4	
375	119	13	SB	5321	ML	AH	D2	ob.	B	一部欠b	(22.8)	17.8	3.8	中	5.0	63	1.1	
375	119	14	SB	5326	-	AH	D2	ob.	A	完形	24.8	14.7	2.8	中	3.1	41	0.7	
375	119	15	SB	5328	2L	AH	D2	ch.	青灰	完形	15.8	15.2	2.9	中	5.1	66	0.5	
375	119	16	SB	5328	2L	AH	D1	ch.	青灰	完形	17.0	12.6	3.7	中	1.7	44	0.7	
375	119	17	SB	5332	Pit8-1L	AH	C2	ch.	赤	略完形	(30)	18.6	4.2	中	-	38	1.8	
375	119	18	SB	5332	2L	AH	A2	ch.	青緑	完形	23.3	14	5.2	中	11.0	50	1.4	
375	119	19	SB	5334	-	AH	D5	ch.	青緑	一部欠b	(24.8)	14.8	2.7	中	3.2	51	0.9	
375	119	20	SB	5335	床面AH2	AH	D3	ch.	青灰	完形	21.2	17.9	2.2	中	7.2	70	0.7	
375	119	21	SB	5335	床面AH4	AH	D3	ch.	青灰	完形	20.0	15.0	2.7	中	5.9	51	0.6	
375	119	22	SB	5335	床面AH5	AH	D2	ch.	青灰	完形	20.2	17.7	3.0	中	3.8	62	0.7	
375	119	23	SB	5335	No.13	AH	D1	ob.	-	完形	18.4	11.8	3.3	中	0.8	80	0.6	
375	119	24	SB	5335	No.5	AH	D2	ob.	B	一部欠a	(18.8)	13.4	2.5	中	3.3	42	0.5	
375	119	25	SB	5337	礎堤下	AH	-	ch.	青緑	半損b	(30.6)	(20.6)	3.8	-	-	92	2.3	
375	119	26	SB	5337	-	AH	-	ob.	B	半損b	(29.3)	14.5	4.8	-	-	35	1.6	
375	119	27	SB	5339	-	AH	D5	ob.	A	完形	23.3	15.5	5.3	中	6.5	47	1.1	
375	119	28	SB	5339	-	AH	D3	ch.	青緑	完形	20.0	17.4	3.7	中	5.3	83	1.2	
375	119	29	SB	5339	-	AH	D5	ch.	青緑	一部欠b	29.3	(15.2)	3.5	大	4.1	51	1.4	
375	119	30	SB	5339	-	AH	A1	ch.	青灰	完形	31.1	10.4	3.4	大	9.3	36	1.1	
375	119	31	SB	5339	-	AH	-	ch.	青灰	半損b	(26.2)	(17.2)	2.8	-	-	40	1.1	
375	119	32	SB	5340	2L下部	AH	D2	s.l.	A	完形	25.2	16.6	5.9	中	3.3	75	2.0	
375	119	33	SB	5340	2L	AH	D2	ch.	青緑	完形	22.4	16.8	5.5	中	7.2	73	2.1	
375	119	34	SB	5340	2L	AH	A1	ch.	青緑	完形	31.0	12.5	3.4	大	12.8	37	1.3	
375	119	35	SB	5340	1L	AH	D3	ob.	-	完形	16.7	12.4	3.0	中	4.2	53	0.5	
375	119	36	SB	5340	1L	AH	D1	g. tu.	-	半損b	23.4	(16.8)	3.7	中	1.4	55	1.2	
375	119	37	SB	5341	7L	AH	D2	g. tu.	-	半損b	(26.6)	(17.1)	4.3	中	4.0	50	1.9	
375	119	38	SB	5341	4L	AH	D3	ch.	灰	半損b	28	(12.7)	2.2	大	5.8	30	0.5	
375	119	39	SB	5341	6L	AH	B1	ob.	B	略完形	(28.4)	13.4	3.2	中	3.2	58	1.0	
375	119	40	SB	5345	2L	AH	A1	ob.	B	完形	24.2	10.5	3.8	中	6.7	46	0.8	
375	119	41	SB	5345	UL	AH	D2	ch.	灰	完形	18.6	11.1	1.8	中	3.2	51	0.3	
375	119	42	SB	5346	UL	AH	D4	ob.	B	略完形	(24.4)	15.1	4.0	中	5.4	35	0.9	
375	119	43	SB	5351	-	AH	D3	ch.	青緑	完形	22.3	13.5	3.1	中	4.1	42	0.8	
375	119	44	SB	5351	-	AH	D4	g. sh	茶	完形	30.5	15.7	4.2	大	8.9	29	1.2	
375	119	45	SB	9003	-	AH	D3	g. an	-	一部欠b	27.8	(17.6)	3.8	大	-	78	1.7	
375	119	46	SB	9003	-	AH	D3	ch.	青灰	完形	20.0	13.5	2.7	中	4.8	43	0.5	
376	119	47	ST	5110	LL	AH	B1	ch.	青緑	完形	21.4	11.8	3.9	中	6.8	58	1.0	
376	119	48	ST	5124	No3	AH	D3	ch.	青灰	略完形	(21.5)	13.5	2.3	中	6.2	37	0.6	
376	119	49	ST	5124	No1	AH	D5	ch.	灰	完形	25.7	18.0	3.2	中	6.2	42	1.0	
376	119	50	SK	5576	-	AH	D3	ch.	青灰	完形	22.2	16.1	2.3	中	5.9	43	0.8	
376	119	51	SK	5629	-	AH	D3	ch.	青灰	略完形	20.0	15.2	2.7	中	5.1	60	0.7	
376	119	52	SK	5664	-	AH	C1	ob.	B	略完形	(22.5)	18.2	3.9	中	0.0	47	1.4	
376	119	53	SK	5770	AH No1	AH	D2	ch.	青緑	略完形	(23.8)	18.5	3.6	中	0.8	38	1.1	
376	119	54	SK	5790	人骨胸部	AH	A2	ob.	A	一部欠a	(34.1)	17.0	4.3	中	10.2	-	2.0	
376	119	55	SF	5119	火床下	AH	A2	ch.	青緑	完形	22.4	12.4	4.0	中	8.2	74	0.9	
376	119	56	SK	5513	上面No2	AH	D3	ch.	灰	完形	20.3	13.4	2.1	中	5.1	51	0.4	
			SB	5306	-	AH	D3	ch.	青緑	完形	25.3	16.7	3.4	中	6.6	45	1.2	
			SB	5310	XII-2L	AH	-	ch.	青緑	完形							4.9	未製品
			SB	5310	1L	AH	A2	g. an	-	完形	35.0	23.4	7.1	大	11.8	59	4.0	
			SB	5310	No13	AH	D1	ob.	B	一部欠b	(24.2)	13.8	3.7	中	-	51	0.8	
			SB	5312	床下	AH	D3	ch.	青灰	一部欠b	(28.1)	13.8	2.6	中	3.8	24	0.8	
			SB	5317	-	AH	D1	ch.	青緑	一部欠a	25.0	17.4	4.2	中	1.7	-	0.6	
			SB	5318	LL	AH	C1	ch.	青緑	完形	28.1	23.9	8.4	大	0.0	48	4.8	未製品
			SB	5318	LL	AH	D2	s.l.	B2	一部欠b	27.2	(16.5)	4.0	大	2.5	63	1.4	
			SB	5319	LL	AH	D1	ch.	青緑	半損a	(16.2)	22.2	4.8	大	1.2	-	2.3	
			SB	5321	床下SK	AH	D2	ch.	青緑	一部欠b	20.3	(14.2)	4.4	中	2.9	62	1.4	
			SB	5324	床面	AH	D5	ch.	赤	一部欠b	26.2	17.6	3.6	中	4.4	48	1.2	
			SB	5325	2L	AH	D2	ob.	A	略完形	(16.1)	14.5	4.0	中	1.2	-	0.8	
			SB	5328	-	AH	D5	ob.	A	一部欠b	21.6	16.0	3.1	中	4.2	46	0.8	
			SB	5332	床下No2	AH	D1	ch.	青灰	一部欠a	(19.8)	19.5	7.8	中	2.5	-	2.4	
			SB	5332	P8-1L	AH	D3	ch.	青緑	一部欠b	21.9	15.2	2.6	中	5.1	47	0.6	
			SB	5334	-	AH	D2	ob.	B	一部欠a	15.8	13.0	3.4	中	2.8	-	0.6	
			SB	5334	-	AH	D3	ob.	A	一部欠b	(14.8)	12.4	2.2	中	5.1	-	0.3	
			SB	5334	-	AH	D3	ob.	B	半損a	(15)	(13.6)	3.0	中	6.7	-	0.4	

表58-(2) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物觀察表

石鏃

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	ウイ*	扶/莖長	先端角	重量	備考
			SB 5335	床面AH3	AH	D2	ch.	青灰	一部欠b	26.2	(15.5)	3.5	中	2.9	39	1.1	
			SB 5335	床面AH7	AH	D3	ch.	青緑	半損a	(13.5)	18.7	2.2	中	6.9	-	0.4	
			SB 5336	-	AH	B2	ch.	青灰	略完形	(33.2)	(25.3)	(6.5)	中	-8.8	46	4.4	未製品
			SB 5339	-	AH	C1	ch.	青灰	一部欠a	(17.1)	19.2	3.9	中	0	-	1.6	
			SB 5339	-	AH	D1	ch.	青黒	略完形	26.7	23.6	5.0	大	1	60	2.9	
			SB 5339	-	AH	D1	ch.	青灰	一部欠b	23.0	19.0	3.1	中	2	82	1.3	
			SB 5339	-	AH	D2	ob.	B	一部欠a	(17.2)	14.5	4.8	中	2.5	-	1.1	
			SB 5339	-	AH	D3	ch.	青灰	一部欠b	35.6	(20.3)	3.8	大	10.1	66	1.8	
			SB 5339	-	AH	D5	ob.	A	略完形	16.6	15.1	3.5	中	5.2	68	0.7	
			SB 5339	-	AH	D5	ch.	青灰	一部欠b	27.2	(14.7)	3.6	大	5.2	68	1.3	
			SB 5340	2L下部	AH	(A2)	ch.	青緑	-略完形	(31.0)	(19.1)	(6.5)	-	-	-	3.8	未製品
			SB 5340	1L	AH	D1	ob.	B	半損a	(19.1)	(16.9)	3.2	中	0.9	-	1.1	
			SB 5340	1L	AH	D3	ob.	B	一部欠b	16.0	12.7	3.5	中	2.9	57	0.6	
			SB 5340	床	AH	D5	ch.	青緑	略完形	25.3	17.5	3.2	中	2.6	39	1.3	
			SB 5340	-	AH	D5	ch.	青緑	一部欠b	25.0	21.1	3.0	大	6.8	74	1.32	
			SB 5341	床直	AH	D3	ch.	青緑	略完形	(19.1)	13.2	2.5	中	4.2	35	0.6	
			SB 5343	1L	AH	D3	ch.	青灰	一部欠b	26.7	16.5	3.1	中	9.3	32	1.1	
			SB 5344	1L	AH	A1	ch.	青緑	一部欠b	(20.2)	8.7	2.5	中	-	37	0.4	
			SB 5345	2L	AH	D3	ch.	赤	一部欠b	(19.1)	(9.2)	2.7	中	4	32	0.5	
			SB 5346	-	AH	(A2)	ch.	青緑	完形	(25.5)	(15)	(7.5)	-	-	-	2.6	未製品
			SB 5350	床面	AH	D1	ch.	青灰	一部欠a	(17.1)	17.6	3.6	中	1.8	-	1.0	
			SB 9001	1L	AH	D3	ch.	青灰	半損a	(13.7)	14.7	2.4	中	6.8	-	0.4	
			SB 9002	-	AH	D3	ch.	青緑	一部欠b	20.2	13.1	2.7	中	4.5	50	0.5	
			SB 9003	1L	AH	B1	ob.	B	半損a	(16.2)	12.7	2.7	中	5.2	-	0.5	
			SB 9003	-	AH	D3	ch.	灰	略完形	(18.1)	14.3	2.7	中	5.1	48	0.6	

小形両面調整石器

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	断面形	重量	備考
376	-	57	SB 5316	-	BF	A1	ch	青灰	完形	33.2	31.4	8.0	D字	9.5	
376	-	58	SB 5316	-	BF	B	ch	青緑	完形	35.6	35.6	12.0	凸レ	10.6	
376	120	59	SB 5319	1L	BF	A1	ch	青緑	完形	47.8	36.0	13.3	凸レ	25.4	腹面摩耗光沢
376	-	60	SB 5321	炉内	BF	A1	ch	青灰	半損	(22.8)	22.2	6.9	凸レ	4.1	
376	-	61	SB 5321	-	BF	B	ch	青灰	完形	22.1	26.1	7.9	凸レ	4.4	
376	-	62	SB 5321	1L	BF	B	ch	青黒	完形	33.9	35.6	13.0	D字	14.8	
376	120	63	SB 5321	-	BF	A1	g. sh	茶	完形	50.8	33.2	10.3	凸レ	21.7	
376	120	64	SB 5324	周縁中	BF	A1	ch	青灰	完形	30.1	23.9	9.7	D字	7.1	
376	-	65	SB 5325	5~8L	BF	A1	ch	青灰	半損	(19.4)	17.8	6.4	凸レ	2.5	
376	120	66	SB 5325	5~8L	BF	A2	玉髓	白	完形	33.0	30.5	13.6	D字	11.2	
376	120	67	SB 5325	5~8L	BF	A2	g. an	-	完形	57.7	41.8	9.9	D字	25.3	
376	120	68	SB 5325	2L	BF	B	ch	青緑	完形	48.3	31.6	15.2	凸レ	19.8	
377	-	69	SB 5328	-	BF	B	ch	青黒	完形	30.1	26.0	10.6	凸レ	8.7	
377	120	70	SB 5332	1L	BF	A2	ch	青灰	完形	21.8	17.8	5.8	D字	2.7	
377	-	71	SB 5332	1L	BF	B	g. sh	茶	半損	(25.8)	22.8	9.9	凸レ	5.7	
377	-	72	SB 5332	1L	BF	B	ch	青灰	完形	37.3	30.0	13.2	D字	12.1	
377	120	73	SB 5337	炉壇壁下	BF	A1	ch	青緑	完形	36.2	30.1	12.5	凸レ	12.2	
377	120	74	SB 5337	礎台下	BF	A2	ch	赤茶	完形	34.8	27.7	7.4	凸レ	6.7	
377	-	75	SB 5337	M-1L	BF	B	ch	青灰	完形	41.3	25.4	11.6	凸レ	12.9	
377	120	76	SB 5339	-	BF	A2	ch	茶	完形	34.4	26.2	8.9	D字	8.2	
377	120	77	SB 5339	-	BF	B	ch	青灰	完形	43.9	23.3	11.2	D字	9.3	
377	-	78	SB 5339	-	BF	B	ch	青緑	完形	33.4	27.4	10.2	凸レ	9.1	
377	120	79	SB 5340	床直No1	BF	A2	ch	青緑	完形	32.9	23.1	9.0	D字	6.0	
377	-	80	SB 5340	2L	BF	B	ch	青緑	完形	27.4	21.9	7.1	D字	3.9	押圧調整
377	-	81	SB 5340	2L	BF	B	ch	青緑	完形	39.4	34.5	12.1	凸レ	16.2	
377	120	82	SB 5340	2L	BF	A1	ob	-	完形	17.6	14.7	5.5	D字	1.3	
377	120	83	SB 5340	床	BF	A1	ch	青緑	完形	29.3	25.5	10.2	凸レ	8.0	
377	120	84	SB 5340	1L	BF	A2	ch	青緑	完形	61.4	49.0	12.1	D字	40.0	
377	120	85	SB 5340	-	BF	A2	ch	青灰	完形	28.5	27.8	11.7	D字	10.0	
377	120	86	SB 5340	床	BF	A1	ch	赤	完形	31.6	25.8	8.8	D字	7.7	
378	120	87	SB 5341	1L上面	BF	A1	ob	A	半損	(17.3)	19.6	5.4	D字	1.8	AH未製品?
378	120	88	SB 5345	1L	BF	A2	ch	青灰	完形	25.8	21.6	9.4	凸レ	4.8	
378	120	89	SB 5346	-	BF	B	ch	青緑	完形	29.8	16.6	9.4	凸レ	4.4	
378	-	90	SB 5345	Pit10	BF	A2	ch	青灰	完形	42.8	27.5	11.4	凸レ	12.0	
378	-	91	SB 5351	2L	BF	A1	ch	青緑	完形	38.1	28.4	11.0	D字	11.8	片面調整
378	-	92	SB 5351	-	BF	B	ch	青灰	完形	32.8	28.3	9.9	D字	11.5	
378	-	93	SB 9003	-	BF	B	ch	赤	完形	34.1	23.3	10.8	D字	7.7	
378	-	94	SB 5341	7L	BF	B	ch	青緑	完形	34.5	27.8	10.2	D字	19.3	
378	120	95	-	M20sNo6	BF	A1	ノノ	-	完形	30.9	20.5	8.2	凸レ	5.1	
			SB 5310	1L	BF	A1	ch.	青緑	完形	30.6	21.1	12.4	D字	7.8	
			SB 5310	XII-2L	BF	A1	ch.	青灰	完形	32.7	23.1	10.9	凸レ	7.5	
			SB 5312	床直	BF	A1	ch.	青緑	完形	26.2	19.8	9.4	D字	4.8	
			SB 5313a	SK5569 礎土	BF	B	ch.	青灰	完形	36.8	29.5	12.2	凸レ	11.4	
			SB 5315	5L	BF	A2	G. An	-	完形	33.2	25.0	19.1	D字	7.1	
			SB 5315	5L	BF	B	ch.	青灰	完形	32.9	29.2	12.8	D字	9.9	
			SB 5316	2L	BF	B	ch.	青緑	完形	35.8	28.6	13.3	D字	12.9	

表58-(3) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物観察表

小形両面調整石器

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	断面形	重量	備考
			SB 5318	LL	BF	A2	ch.	青緑	完形	47.1	41.8	14.5	凸レ	22.5	
			SB 5318	上面	BF	B	ch.	黒灰	完形	48.8	43.3	10.4	D字	22.7	微細剥離有
			SB 5321	LL	BF	A1	ch.	青灰	完形	35.0	32.6	14.7	凸レ	13.8	
			SB 5321	ML	BF	A1	ch.	青灰	完形	24.4	24.1	11.7	凸レ	4.6	
			SB 5321	ML	BF	A1	sl.	B2	完形	49.2	40.4	11.4	凸レ	22.5	
			SB 5321	石No.68	BF	A1	sl.	B1	完形	60.0	58.2	16.9	D字	73.6	打斧を転用?
			SB 5321	LL	BF	B	ch.	青緑	完形	32.2	32.8	12.0	凸レ	11.0	
			SB 5321	ML	BF	B	ch.	茶	略完形	32.4	32.4	10.8	凸レ	7.3	
			SB 5321	炉一括	BF	B	ch.	青緑	完形	45.8	32.7	11.4	凸レ	17.8	
			SB 5321	炉一括	BF	B	ch.	灰	略完形	(37.4)	30.4	10.1	凸レ	10.0	
			SB 5324	周壁下	BF	B	ch.	黒灰	完形	34.1	26.7	13.8	凸レ	11.6	
			SB 5325	柄部	BF	B	ch.	黒灰	完形	36.8	28.4	10.3	D字	11.5	
			SB 5326	-	BF	B	ch.	青緑	完形	36.7	26.5	12.7	凸レ	10.8	
			SB 5328	2L	BF	A2	ch.	黒灰	完形	33.8	23.2	11.0	D字	8.3	
			SB 5332	床下	BF	B	ch.	青緑	完形	32.2	29.1	10.3	D字	10.3	
			SB 5332	2L	BF	B	ch.	青緑	完形	31.4	28.5	15.3	凸レ	13.2	
			SB 5335	-	BF	A1	ch.	青灰	完形	29.4	20.6	11.4	D字	5.9	
			SB 5336	P-11	BF	B	ch.	青緑	略完形	30.4	28.3	11.1	凸レ	8.5	
			SB 5336	-	BF	B	ch.	青緑	完形	34.0	24.6	13.2	D字	9.4	
			SB 5338	礫堤No39	BF	A2	ch.	青黒	完形	28.4	23.0	8.9	D字	6.2	
			SB 5339	-	BF	A1	ch.	青灰	完形	30.4	25.5	9.8	凸レ	8.4	
			SB 5339	-	BF	A1	ch.	青灰	略完形	27.8	27.6	7.2	凸レ	6.0	
			SB 5340	2L	BF	A1	ch.	青緑	半損	27.1	(16.8)	10.0	凸レ	4.7	
			SB 5340	床	BF	B	ch.	青緑	略完形	28.9	23.2	9.3	凸レ	6.1	
			SB 5344	-	BF	A1	ch.	青緑	完形	28.1	24.3	7.5	D字	5.7	
			SB 5345	-	BF	B	sl.	B2	完形	59.0	50.2	10.5	D字	37.7	
			SB 5345	UL	BF	B	ch.	青緑	完形	24.4	18.3	8.0	凸レ	3.4	
			SB 5346	-	BF	A1	ch.	青緑	完形	27.2	26.5	12.0	D字	7.4	
			SB 5348	2L	BF	B	ch.	青灰	完形	38.0	32.4	13.4	凸レ	16.1	
			SB 5348	2L	BF	B	ch.	青灰	完形	30.4	21.9	9.1	凸レ	6.2	
			SB 9001	検出面	BF	B	ch.	青灰	完形	40.5	30.0	10.7	凸レ	10.2	
			SB 9003	2L	BF	A2	ch.	赤	略完形	(37.2)	22	8.2	D字	6.4	

石錐

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	錐部断面	錐部直径	摩耗	重量	備考
378	120	96	SB 5313a	SK5869埋土	Dr	C	sl	B2	略完形	(104.9)	19.2	15	a	5.2	○	41.6	
378	120	97	SB 5313b	3L	Dr	A	ch	青緑	半損a	(22.3)	8.2	4.1	-	-	×	0.8	基部円頭形
378	120	98	SB 5315	4L	Dr	A	ch	青灰	完形	19.4	6.0	2.7	b	2.2	×	0.3	
378	120	99	SB 5319	2L	Dr	A	ch	青灰	完形	34.4	16.9	5.3	b	2.5	×	1.6	基部T字形
378	120	100	SB 5350	-	Dr	B	ob	B	一部欠	(23.6)	(14.9)	5.3	-	-	×	1.5	
378	120	101	SB 5325	柄掘方	Dr	A	eh	青灰	略完形	(33.6)	9.3	8.1	c	3.9	×	2.5	
378	120	102	SB 5335	1L	Dr	B	ob	-	完形	16.6	9.3	4.4	c	1.8	×	0.6	AH?
378	120	103	SB 5338	UL	Dr	A	ch	青緑	半損b	(25.2)	6.2	3.0	b	1.4	×	0.5	
378	120	104	SB 5339	-	Dr	A	ch	青緑	基部片	(23.2)	11.2	5.8	-	-	×	1.3	基部円頭形
378	120	105	SB 5339	-	Dr	B	ob	B	略完形	(28.6)	14.2	5.6	b	4.3	×	1.7	
378	120	106	SB 5340	床直No2	Dr	B	ch	青緑	略完形	(34.7)	14.3	5.3	c	2.5	○	2.4	
378	120	107	SB 5340	床直	Dr	B	ch	青灰	完形	(27.9)	14.3	4.6	c	3.2	×	1.6	
378	120	108	SB 5340	2L	Dr	A	ch	青緑	半損b	(21.8)	7.8	2.8	b	2.1	×	0.5	
378	120	109	SB 5340	-	Dr	A	ch	赤	完形	25.7	8.9	5.5	b	3.9	○	1.4	基部摩耗
378	120	110	SB 5340	-	Dr	B	ch	青灰	完形	28.9	14.6	5.4	c	3.2	×	2.0	
378	120	111	SB 5343	2L	Dr	A	ch	青緑	半損b	(17.2)	4.1	3.0	b	2.2	×	0.3	
378	120	112	SB 5345	ML	Dr	A	ch	青灰	半損b	(18.0)	6.2	2.9	b	2.1	○	0.4	
378	120	113	SB 5346	-	Dr	A	ch	青緑	完形	20.4	5.5	3.7	c	2.6	○	0.4	基部円頭形
378	120	114	SB 9001	-	Dr	B	ch	灰	略完形	(24.6)	10.1	5.3	a	2.8	×	1.0	
378	120	115	SB 9003	1L	Dr	B	ch	青灰	完形	25.5	17.3	6.1	c	3.6	×	2.2	
378	120	116	SQ 4801	No.566	Dr	A	g.shi	茶	略完形	(58.6)	15.4	9.1	b	5.6	○	7.6	基部作出
			SB 5335	-	Dr	B	ch.	青緑	完形	(22.2)	14.2	5.0	e	2.2	×	1.7	
			SB 5337	-	Dr	C	ch.	青灰	完形	18.6	14.8	3.3	b	2.4	×	0.7	
			SB 5342	1L	Dr	B	ch.	青灰	略完形	(22.7)	20.8	6.0	c	2.2	×	3.2	
			SB 5344	UL	Dr	B	ob.	A	完形	17.6	13.5	5.6	b	2	×	1.0	
			SB 5345	1L	Dr	B	ch.	灰	略完形	35.6	(20.2)	6.7	c	2.8	○	3.5	
			SB 5345	炉1L	Dr	C	ch.	灰	完形	32.2	10.6	10.0	e	2.7	×	2.5	
			SB 5348	No86	Dr	B	ch.	青黒	略完形	44.0	(13.1)	10.5	c	3.7	○	6.3	
			SB 5350	-	Dr	B	sl.	B1	完形	42.7	15.6	5.0	c	3.5	○	3.2	

楔形石器

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	石材	石質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
379	-	117	SB 5350	sNo7	楔形石器	sl	B2	109.3	32.2	27.8	134.3	
379	121	118	SB 5321	ML	楔形石器	ch	青灰	21.2	20.7	8.2	4.1	
379	121	119	SB 5332	-	楔形石器	ob	B1	19.4	21.3	14.3	9.2	石核
379	-	120	SB 5338	-	楔形石器	ob	A2	21.7	19.5	5.2	2.1	石核
379	121	121	SB 5339	-	楔形石器	ch	青灰	20.5	32.2	8.8	6.0	
379	-	122	SB 5340	2L	楔形石器	ch	赤	36.8	25.4	13.0	11.8	石核
379	121	123	SB 5340	1L	楔形石器	ob	B2	24.6	19.4	8.2	3.2	
379	-	124	SB 5344	U-LL	楔形石器	ob	B2	27.5	22.5	11.3	6.0	
379	121	125	SB 5345	UL	楔形石器	ch	青灰	25.6	40.2	8.2	9.6	
379	121	126	SB 5346	-	楔形石器	ob	B2	26.2	30.5	11.1	6.1	

表58-(4) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物観察表

微細剝離を有する剥片・二次加工のある剥片

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
388	124	240	SB	5312	床面No26	M.F		sl.	B1	151.8	57.4	13.1	94.4
388	124	241	SB	5324	No73	R.F	A	sl.	B2	189.1	65.3	22.6	169.3
388	—	242	SB	5328	No14	R.F	A	sl.	B1	110.0	61.1	15.0	84.9
388	—	243	SB	5335	stNo9	M.F		sl.	B1	69.8	30.0	15.3	26.9
388	—	244	SB	5337	No346	R.F	B	sl.	B2	110.7	50.9	15.6	87.9
388	124	245	SB	5337	No13	M.F		sl.	B2	189	55.6	13.5	104.7
388	124	246	SB	5340	sNo124	M.F		sl.	C1	119.8	61.3	14.0	88.8
388	—	247	SB	5340	sNo131	R.F	B	sl.	B2	68.1	54.0	10.4	43.4
388	—	248	SB	5340	sNo63	M.F		sl.	B1	81.3	43.7	10.0	36.8
388	—	249	SB	5340	No12	M.F		sl.	B2	108.4	48.2	7.2	34.7
388	—	250	SB	5340	No30	R.F	A	sl.	B2	78.3	55.8	17.3	67.2
388	124	251	SB	5345	No39	M.F		sl.	B2	80.3	53.2	7.5	32.3
388	—	252	SB	5343	sNo60	R.F	B	sl.	B1	109.2	66.7	11.8	84.2
388	124	253	SB	5345	No47	M.F		sl.	B1	143.2	82.4	14.5	168.8
388	—	254	SB	9001	No22	M.F		sl.	B2	81.6	38.3	5.8	16.7
389	—	255	SB	5312	床直	M.F		ob.	B1	24.7	22.6	7.2	3.0
389	121	256	SB	5312	2L	M.F		ch.	青緑	20.6	16.6	3.7	1.1
389	—	257	SB	5313 a	2L	M.F		ob.	B2	33.5	15.8	6.9	2.6
389	121	258	SB	5313 b	2L	M.F		ob.	A1	26.2	12.1	3.3	1.0
389	—	259	SB	5316	1L	M.F		ch.	青灰	36.6	17.4	9.4	5.3
389	121	260	SB	5350	UL	M.F		ob.	B2	26.8	15.3	3.9	1.5
389	—	261	SB	5321	LL	M.F		ch.	青緑	39.3	33.4	10.6	11.8
389	121	262	SB	5328	—	M.F		ch.	青灰	24.7	22.5	6.0	2.0
389	—	263	SB	5328	—	M.F		ch.	青灰	20.4	16.0	5.1	1.5
389	—	264	SB	5328	2L	M.F		ob.	—	22.4	9.7	5.0	0.6
389	—	265	SB	5328	2L	M.F		ob.	—	14.4	13.4	3.0	0.4
389	—	266	SB	5332	LL	M.F		ob.	B2	23.2	19.7	7.8	2.7
389	121	267	SB	5332	2L	M.F		ch.	青黒	27.5	18.7	7.6	2.6
389	121	268	SB	5332	床下	M.F		ob.	B1	35.6	13.3	7.3	2.8
389	—	269	SB	5332	M.L	M.F		ch.	青緑	43.0	21.4	12.1	13.4
389	121	270	SB	5335	炉直上 stNo10	M.F		ch.	青灰	36.3	32.4	7.0	5.9
389	121	271	SB	5335	Pit1	M.F		ob.	B2	28.4	12.1	5.1	1.1
389	—	272	SB	5335	Pit6	M.F		ch.	青緑	27.3	20.4	4.8	2.8
389	—	273	SB	5335	—	M.F		g.an	—	18.2	29.4	6.0	2.5
389	—	274	SB	5335	炉直上	M.F		ob.	B1	22.1	14.4	5.8	1.4
389	—	275	SB	5335	—	M.F		ch.	青緑	20.4	28.4	8.7	4.4
389	—	276	SB	5336	—	M.F		ch.	青緑	29.8	55.0	5.4	9.4
389	—	277	SB	5337	—	M.F		ch.	青緑	19.8	16.1	5.8	1.8
389	121	278	SB	5338	No35区	M.F		ch.	青緑	26.0	41.0	13.2	12.1
389	121	279	SB	5340	Pit14	M.F		g.sh	茶	27.2	41.7	5.8	6.1
389	—	280	SB	5340	床	M.F		ob.	—	14.0	16.1	5.0	0.8
389	—	281	SB	5340	床	M.F		ch.	青緑	25.6	21.7	4.2	2.4
389	121	282	SB	5340	床	M.F		ob.	B1	31.3	25.5	4.3	2.1
389	—	283	SB	5341	7L	M.F		ob.	B1	16.0	20.0	7.0	1.4
389	121	284	SB	5341	2L	M.F		ob.	A2	22.8	21.6	7.4	2.0
389	—	285	SB	5345	床	M.F		ob.	A2	26	17.6	6.1	1.9
389	—	286	SB	5345	床	M.F		ch.	青灰	39.6	24.6	6.4	7.1
389	121	287	SB	9001	床直	M.F		ob.	A2	31.8	15.2	8.0	1.5
389	—	288	SB	9001	2L	M.F		ob.	B1	19.7	15.3	5.7	0.9
389	121	289	SB	9003	2L	M.F		ob.	A2	25.7	19.5	5.4	1.5
389	—	290	SB	9003	2L	M.F		ob.	B1	24.2	22.4	5.4	1.7

剥片・石核

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	石材	石質	長さ	幅	厚さ	重量	備考	
390	—	291	SK	5576	—	F	g.sh	緑	36.8	16.9	14.9	6.0	打面再生剥片
390	—	292	SB	5351	—	F	ob.	A2	33.2	22.8	20.0	10.5	打面再生剥片
390	—	293	SB	5310	—	F	ob.	B1	22.4	24.9	11.4	4.1	打面再生剥片
390	121	294	SB	5324	周壁下部	Co	ob.	B1	22.9	42.0	10.8	10.4	
390	—	295	SB	5312	床面 sNo46	Co	ch.	青灰	42.5	48.0	26.3	64.9	
390	121	296	SB	5335	Pit7	Co	g.sh	茶	67.6	55.1	30.1	87.1	
390	—	297	SB	5344	—	Co	ob.	B2	17.0	35.0	13.8	6.6	
390	121	298	SB	5345	—	Co	ob.	B1	27.0	28.6	22.4	17.5	
390	—	299	SB	5337	LL	Co	ob.	A2	17.7	20.0	11.2	3.3	
390	121	300	SB	5346	—	Co	ob.	A2	21.2	27.8	7.6	4.2	
390	121	301	SB	9003	—	Co	ob.	A1	20.3	26.0	10.8	4.4	
390	—	302	SB	9001	床直	Co	ch.	青灰	49.7	41.8	14.4	32.8	
390	—	303	SB	5312	—	原礫	ob.	B2	42.7	53.1	32.0	67.8	
391	124	304	SB	5335	炉直上stNo6	F	sl.	B2	157.3	43.1	36.4	357.8	
391	124	305	SB	5324	—	Co	sl.	B1	108.4	79.0	55.3	402.6	
391	124	306	SB	5338	床直 sNo74	Co	sl.	B1	109.6	84.3	78.0	611.1	
391	124	307	SB	5316	柄石No41	Co	sl.	B1	125	75.2	38.3	568.7	
391	124	308	SB	5337	sNo31	Co	sl.	B2	168.3	96.8	86.4	2370	
391	124	309	SB	5336	sNo4	Co	sl.	C1	175.2	115.2	37.3	697.1	
391	124	310	SB	5338	No72	Co	g.an	—	155.2	79.6	58.4	856.7	
391	124	311	SB	5327	—	Co	sl.	A2	60.6	78.6	26.2	148.3	
391	—	312	SB	9001	sNo21	Co	sl.	B2	58.2	67.5	15.7	54.2	
391	124	313	SK	9017	sNo5	Co	sl.	B2	104.7	119.3	29.6	439.3	
391	—	314	SB	5337	No49	Co	g.an	—	58.0	82.8	41.2	328.4	
391	124	315	SB	5316	sNo146	Co	sl.	B1	165.7	115.0	65.1	1410.0	
	121		SB	5316	—	Co	ch.	青灰	27.9	35.0	17.8	18.2	
	121		SB	5319	—	Co	ch.	青緑	30.9	42.8	9.8	10.4	
	121		SB	5345	LL	Co	ch.	青緑	33.5	26.4	15.0	12.4	

表58-(5) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物観察表

小形削器類

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	調整角度	調整形態	整形角度	整形形態	重量	微細	摩耗	備考
379	121	127	SB 5316	1L	小Sc	A1	ch.	赤	完形	58.0	28.1	13.6	32	直線	-	-	16.7	○	×	
379	121	128	SB 5321	1L	小Sc	A2	ch.	青灰	完形	55.1	33.6	14.0	44	外湾	-	-	28.8	○	×	
379	121	129	SB 5324	No7	小Sc	D	g. sh	茶	完形	42.4	35.4	8.8	57	鋸齒	-	-	12.5	○	×	
379	121	130	SB 5325	-	小Sc	C1	ch.	青緑	完形	39.2	37.5	10.4	-	-	77	外湾	16.4	○	○	
379	121	131	SB 5335	床面付近	小Sc	A3	ch.	赤	完形	27.1	20.9	3.9	30/36	直/外	-	-	2.0	○	×	
379	121	132	SB 5335	炉	小Sc	C1	ob.	B1	完形	27.2	19.7	7.7	-	-	64	外湾	3.6	○	×	
379	121	133	SB 5340	1L	小Sc	C1	ch.	赤	完形	42.3	40.5	9.4	-	-	45	外湾	16.3	○	×	
379	121	134	SB 5340	1L	小Sc	B2	ch.	青緑	完形	45.8	47.2	9.3	34	直線	55	直線	16.9	○	×	
379	121	135	SB 5343	UL	小Sc	C3	ch.	青黒	完形	38.1	30.4	10.2	-	-	51/53	鋸齒	9.3	○	×	切出状
			SB 5315	-	小Sc	C2	ch.	青灰	完形	37.2	25.8	5.3	-	-	36	直線	3.6	○	×	
			SB 5316	1L	小Sc	A1	ch.	青緑	完形	72.0	49.8	15.2	41	直線	-	-	50.6	○	×	
			SB 5318	床面	小Sc	B1	G. An.	-	略完形	59.0	30.8	12.0	40	直線	78	直線	24.4	×	×	
			SB 5321	-	小Sc	A2	ch.	青緑	略完形	39.5	24.4	6.6	43	外湾	-	-	7.9	×	×	
			SB 5325	8L	小Sc	C2	ch.	赤	完形	34.4	27.2	8.2	-	-	44	直線	8.5	○	×	
			SB 5328	2L	小Sc	C1	ch.	青灰	完形	21.8	24.3	4.0	-	-	62	外湾	1.9	○	×	
			SB 5328	2L	小Sc	A3	ch.	青黒	略完形	26.8	12.9	5.6	35/40	直線	-	-	1.9	×	×	
			SB 5335	6L	小Sc	C1	ch.	茶	完形	48.2	33.5	12.9	-	-	60	鋸齒	19.2	○	×	
			SB 5335	3L	小Sc	A1	g. sh	茶	完形	70.6	34.6	10.2	36	直線	-	-	27.5	○	×	
			SB 5338	礎壇No43	小Sc	B2	ch.	青灰	完形	44.3	40.0	9.5	33	直線	46	外湾	18.6	×	×	
			SB 5339	UL	小Sc	A1	ch.	青緑	完形	35.6	31.0	10.0	45/45	外湾	-	-	9.5	×	×	
			SB 5340	床	小Sc	B2	ob.	B	略完形	30.4	14.0	6.4	31	直線	57	直線	2.1	×	×	
			SB 5340	床	小Sc	A1	ch.	青灰	完形	27.8	22.6	7.6	39	外湾	-	-	3.7	×	×	
			SB 5340	2L	小Sc	B2	ch.	青緑	完形	36.8	36.7	7.7	49	直線	30	外湾	13.2	○	○	
			SB 5340	2L下部	小Sc	D	ch.	青緑	略完形	26.6	26.7	10.1	53	鋸齒	-	-	7.4	×	×	
			SB 5341	XI-2L	小Sc	C1	ob.	A	完形	23.8	21.8	4.6	-	-	-	直線	2.1	○	×	
			SB 5341	XII-2L	小Sc	C3	ob.	B	完形	45.0	18.7	5.6	-	-	55/80	直線	3.9	○	×	
			SB 5341	4~6L	小Sc	C1	ob.	B	半損	(33.1)	23.4	11.9	-	-	60	鋸齒	7.3	○	×	
			SB 5341	2L	小Sc	C1	ob.	A	略完形	24.8	19.8	5.5	-	-	58	外湾	2.0	○	×	
			SB 5343	ML	小Sc	D	ch.	青緑	略完形	40.4	38.0	8.3	58	鋸齒	40	鋸齒	20.0	○	×	
			SB 5343	-	小Sc	A2	ch.	青緑	完形	39.8	29.2	10.2	28	外湾	-	-	9.4	○	×	
			SB 5344	-	小Sc	A2	ch.	青緑	完形	48.8	24.8	8.6	38	外湾	-	-	7.4	○	×	
			SB 5346	-	小Sc	D	ch.	青灰	完形	39.4	46.0	17.1	71	鋸齒	-	-	30.3	○	×	
			SB 9003	-	小Sc	A2	ch.	青緑	完形	25.8	20.0	6.1	55	外湾	-	-	2.8	×	×	

大形削器類

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	調整角度	調整形態	整形角度	整形形態	重量	微細	摩耗	備考
385	123	200	SB 5311	pNo24	大Sc	A2	sl.	B2	完形	109.3	70.5	11.2	35	直線	-	-	120.2	×	×	
385	123	201	SB 5324	No85	大Sc	A3	sl.	B1	完形	134.9	47.6	14.3	41/43	直線	-	-	89.7	○	○	
385	123	202	SB 5324	No27	大Sc	B2	sl.	B2	完形	216.3	42.8	25.2	30	直線	68	外湾	171.1	×	×	
385	123	203	SB 5325	sNo97	大Sc	A1	砂岩	-	完形	82.0	62.9	9.6	34/43	外湾	-	-	74.1	×	○	
385	123	204	SB 5325	7L	大Sc	A3	sl.	B1	完形	55.2	46.7	8.2	28/32	直線	-	-	19.7	×	×	
385	123	205	SB 5337	No. 75	大Sc	D	sl.	B1	完形	72.4	54.8	14.2	50	鋸齒	-	-	70.1	×	×	
385	-	206	SB 5340	No49	大Sc	A1	sl.	B1	略完形	123.2	58.0	15.6	43	外湾	-	-	120.6	○	×	
385	-	207	SB 5340	sNo115	大Sc	B1	sl.	B2	完形	108.2	63.0	14.3	24	直線	58	直線	79.3	○	×	
385	123	208	SB 5343	sNo112	大Sc	A1	sl.	B2	完形	144.1	42.8	9.7	42	直線	-	-	67.3	○	×	
386	123	209	SB 5311	Pit1	大Sc	C2	sl.	B2	完形	151.0	47.2	15.3	-	-	70	外湾	104.2	○	×	
386	123	210	SB 5311	4L	大Sc	C2	sl.	B2	完形	86.7	51.7	7.7	-	-	50	直線	52.3	○	×	
386	123	211	SB 5316	1L	大Sc	B2	sl.	B1	完形	90.0	54.2	12.4	42	鋸齒	71	直線	47.5	○	×	
386	123	212	SB 5316	-	大Sc	C1	sl.	B2	略完形	83.8	52.8	8.6	-	-	54	鋸齒	48.7	○	×	
386	123	213	SB 5316	1L	大Sc	C3	sl.	B	完形	99.2	55.2	9.3	-	-	80/85	7/7	43.0	○	×	
386	123	214	SB 5324	No55	大Sc	C2	sl.	B2	完形	115.3	56.8	8.2	-	-	68	直線	56.3	○	×	
386	123	215	SB 5324	No94	大Sc	C2	sl.	A	略完形	82.2	40.3	11.7	-	-	64	直線	47.3	○	×	
386	-	216	SB 5324	No40	大Sc	A2	sl.	B1	完形	127.2	59.3	18.6	42	直線	-	-	157.8	○	×	
386	124	217	SB 5324	周礫下	大Sc	C3	sl.	B2	完形	144.4	53.0	13.7	-	-	65/89	直線	104.2	○	×	切出状
386	-	218	SB 5324	No91	大Sc	C1	sl.	B2	完形	109.2	51.4	11.4	-	-	62	直線	79.7	○	×	
386	124	219	SB 5324	No38	大Sc	B1	sl.	B2	完形	124.0	74.9	14.8	35	直線	54	直線	112.1	○	×	
386	124	220	SB 5324	No4	大Sc	C2	sl.	B1	完形	177.2	37.5	19.2	-	-	58	直線	155.8	×	○	刃部研磨
386	124	221	SB 5325	No8	大Sc	B1	sl.	B2	完形	122.2	58.7	17.1	24	直線	57	直線	86.1	○	×	
386	124	222	SB 5335	sNo11	大Sc	C3	sl.	B1	半損	(92.3)	32.9	11.6	-	-	56/61	直線	41.3	×	○	切出状
387	-	223	SB 5337	Pit6-10下	大Sc	B2	sl.	B2	完形	99.4	62.7	9.1	32	直線	62	直線	76.7	×	×	
387	-	224	SB 5337	No353	大Sc	C1	sl.	B2	完形	126.2	60.0	15.3	-	-	61	直線	111.5	○	○	
387	124	225	SB 5337	No399	大Sc	A3	sl.	B2	完形	117.6	54.0	7.8	21/27	直線	-	-	61.0	○	×	
387	124	226	SB 5337	No352	大Sc	B2	sl.	B1	完形	123.6	50.7	10.0	28	直線	56	直線	76.6	○	○	
387	124	227	SB 5340	Pit18-3L	大Sc	C2	sl.	B1	完形	91.5	51.5	11.4	-	-	73	直線	45.1	○	×	
387	-	228	SB 5340	sNo113	大Sc	C2	sl.	B2	完形	98.2	71.3	9.8	-	-	45	直線	56.0	○	×	
387	124	229	SB 5340	No132	大Sc	B2	sl.	B2	完形	152.7	58.4	12.3	21	直線	68	直線	123.3	○	×	
387	-	230	SB 5340	sNo2	大Sc	C1	sl.	B1	略完形	80.6	65.6	9.1	-	-	65	直線	65.0	○	×	
387	-	231	SB 5340	No35	大Sc	C1	sl.	A	完形	76.8	54.5	10.0	-	-	60	直線	38.1	○	×	
387	-	232	SB 5340	sNo136	大Sc	B2	sl.	B1	完形	82.2	81.6	14.0	39	直線	50	直線	97.8	○	○	
387	-	233	SB 5340	上面	大Sc	C3	sl.	B2	完形	85.5	42.0	9.0	-	-	55/70	内/直	33.9	○	○	切出状
387	124	234	SB 5343	sNo141	大Sc	C1	sl.	B1	完形	121.6	29.3	10.8	-	-	80	直線	38.6	○	○	
387	124	235	SB 5343	sNo1	大Sc	C1	sl.	B1	完形	75.7	49.4	7.7	-	-	48	外湾	28.1	○	×	
387	124	236	SB 5343	UL	大Sc	C1	sl.	B1	完形	79.9	48.4	11.0	-	-	62	直線	38.8	○	○	
387	124	237	SB 5345	Pit	大Sc	E	sl.	B2	完形	82.7	46.0	9.0	82	7/7	-	-	32.0	×	×	
387	-	238	SB 5351	No36	大Sc	C1	sl.	B1	完形	90.0	90.3	9.7	-	-	56	直線	40.0	○	×	
387	124	239	SB 5351	sNo13	大Sc	A1	sl.	B2	完形	190.2	52.8	22.8	41	外湾	-	-	184.0	○	×	
			SB 5310	UL	大Sc	A1	sl.	B1	完形	87.6	69.5	16.8	39	直線	-	-	100.5	×	×	
			SB 5310	3L	大Sc	C1	sl.	B1	完形	65.0	52.8	15.8	-	-	70	外湾	51.2	○	×	
			SB 5311	炉火床	大Sc	A3	sl.	B1	完形	68.6	65.0	13.0	39/42	直/鋸	-	-	46.5	×	×	

表58-(6) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物觀察表

大形削器類

圖版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	調整角度	調整形態	整形角度	整形形態	重量	微細	摩耗	備考
		SB 5312	床面No12	大Se	D	s.l.	A	完形		57.0	36.2	15.5	65	鋸齒	-	-	29.7	×	×	
		SB 5313 a	1L	大Se	A3	s.l.	A	完形		76.0	51.3	9.8	31/43	直線	-	-	36.3	×	×	
		SB 5313 a	1L	大Se	B2	s.l.	B1	半損	(60.8)	48.0	21.0	41	直線	91	直線	61.6	×	×		
		SB 5313 a,b	S-7	大Se	C2	s.l.	A	略完形		126.0	63.4	12.2	-	-	37	直線	115.1	○	×	
		SB 5313 a	1L No14	大Se	D	s.l.	B2	完形		122.0	60.8	25.0	68	鋸齒	65	直線	119.1	×	×	
		SB 5314	sNo4	大Se	A3	s.l.	C	半損	(50.7)	31.0	7.8	24/31	直線	-	-	15.6	○	○		
		SB 5316	2L	大Se	A2	s.l.	B2	完形		97.6	39.3	18.0	41	直線	-	-	79.3	○	×	
		SB 5316	No235	大Se	C1	s.l.	B1	略完形		123.6	47.0	19.8	-	-	62	外湾	168.5	×	×	
		SB 5316	No199	大Se	C1	s.l.	B1	完形		72.1	43.2	11.8	-	-	48	直線	39.6	○	×	
		SB 5316	2L	大Se	C1	s.l.	C	完形		97.6	75.5	17.6	-	-	54	直線	112.0	○	×	
		SB 5316	1L	大Se	D	s.l.	A	略完形		70.0	27.0	8.8	52	鋸齒	-	-	18.8	×	×	
		SB 5317	sNo53	大Se	C1	s.l.	B1	略完形		84.5	62.9	9.2	-	-	54	直線	74.2	○	○	
		SB 5317	-	大Se	C2	s.l.	A	半損	(77.0)	50.6	10.0	-	-	54	直線	37.2	○	×		
		SB 5318	LL	大Se	A1	s.l.	A	完形		68.4	34.8	8.1	36	直線	-	-	24.6	×	×	
		SB 5318	LL	大Se	A1	s.l.	C	略完形		76.2	33.8	12.2	34	直線	-	-	42.8	○	×	
		SB 5319	LL	大Se	A1	s.l.	B1	完形		78.1	49.3	9.3	32	外湾	-	-	57.7	×	×	
		SB 5319	LL	大Se	B1	s.l.	B1	完形		54.8	32.1	11.4	32	直線	60	鋸齒	21.4	×	×	
		SB 5319	sNo30	大Se	B2	s.l.	B1	完形		74.4	57.7	13.1	26	直線	51	外湾	53.9	○	○	
		SB 5319	-	大Se	B2	s.l.	B2	完形		76.4	85.1	21.5	30	直線	57	外湾	163.2	○	×	
		SB 5319	sNo48	大Se	C1	s.l.	B2	完形		113.4	65.2	11.1	-	-	75	直線	85.0	○	×	
		SB 5319	sNo41	大Se	C1	s.l.	B1	完形		160.0	50.1	22.0	-	-	47	直線	161.4	○	×	刃部研磨
		SB 5319	sNo40	大Se	C1	s.l.	B1	完形		133.0	73.6	13.2	-	-	47	外湾	102.1	○	×	
		SB 5319	sNo50	大Se	C1	s.l.	B2	略完形		121.0	56.5	12.4	-	-	64	直線	71.2	○	○	
		SB 5319	sNo19	大Se	C2	s.l.	B1	完形		106.2	59.5	12.3	-	-	64	外湾	80.9	○	×	
		SB 5350	1L	大Se	D	s.l.	A	完形		92.2	64.8	20.4	65	鋸齒	-	-	144.7	○	×	
		SB 5321	-	大Se	A1	s.l.	A	完形		61.2	57.0	21.5	39	直線	-	-	69.8	×	×	
		SB 5321	-	大Se	A2	s.l.	B2	略完形		80.4	47.0	12.1	31	外湾	-	-	49.8	×	×	
		SB 5321	sNo10	大Se	A3	s.l.	B1	完形		68.4	67.4	10.7	43/45	直線	-	-	42.8	×	×	
		SB 5321	sNo21	大Se	B2	s.l.	B2	完形		148.7	25.2	16.5	44	直線	71	直線	77.8	×	×	
		SB 5321	UL	大Se	B2	s.l.	A	完形		110.0	99.3	20.0	33	外湾	68	外湾	264.1	○	○	
		SB 5321	UL	大Se	C1	s.l.	B1	完形		103.0	60.0	10.1	-	-	62	外湾	62.1	○	×	
		SB 5321	-	大Se	C1	s.l.	B2	完形		68.2	38.4	9.4	-	-	75	直線	27.6	○	×	
		SB 5322	-	大Se	A1	s.l.	B1	完形		111.2	53.2	12.3	43	外湾	-	-	77.6	×	×	
		SB 5322	-	大Se	C1	s.l.	B2	完形		92.6	54.6	12.4	-	-	55	直線	48.0	○	×	
		SB 5324	No95	大Se	A1	s.l.	B1	半損	(71.2)	61.7	13.6	36	直線	-	-	47.8	○	○		
		SB 5324	No1	大Se	A1	s.l.	A	略完形		76.2	67.2	9.5	43	外湾	-	-	58.1	×	×	
		SB 5324	No78	大Se	A1	s.l.	C	略完形		94.3	38.8	16.5	25	直線	-	-	76.6	×	×	
		SB 5324	床	大Se	A2	s.l.	B2	完形		80.6	43.0	11.3	34	外湾	-	-	40.5	×	×	
		SB 5324	No64	大Se	C1	s.l.	B1	完形		65.5	26.6	8.1	-	-	52	直線	14.2	○	×	
		SB 5325	8'L	大Se	A2	s.l.	A	完形		59.8	40.6	9.6	45	外湾	-	-	27.6	×	×	
		SB 5325	埋壙4内	大Se	C1	s.l.	A	完形		82.0	59.6	13.6	-	-	77	直線	67.7	○	×	
		SB 5325	8'L	大Se	C2	s.l.	B1	完形		93.6	52.3	9.8	-	-	38	鋸齒	50.3	○	×	
		SB 5325	2L	大Se	D	s.l.	B2	完形		56.0	70.4	6.3	38	鋸齒	-	-	26.3	×	○	
		SB 5328	sNo3	大Se	A1	s.l.	B2	完形		98.4	56.2	17.4	30	外湾	-	-	72.2	○	×	
		SB 5328	2L	大Se	A2	s.l.	C	完形		126.6	69.3	14.2	30	外湾	-	-	205.9	○	×	
		SB 5328	2L	大Se	B2	s.l.	B2	完形		111.7	64.8	12.6	32	直線	68	直線	93.3	○	×	
		SB 5328	3L下	大Se	C1	s.l.	B2	半損	(66.2)	39.1	17.0	-	-	87	直線	33.6	○	×		
		SB 5330	-	大Se	A1	s.l.	B1	完形		54.7	27.4	9.0	43	外湾	-	-	19.5	×	×	
		SB 5332	LL	大Se	A1	s.l.	B1	完形		66.3	36.4	9.8	41	直線	-	-	27.0	○	○	
		SB 5332	-	大Se	C2	s.l.	B2	完形		84.8	37.4	7.6	-	-	55	外湾	21.9	○	×	
		SB 5335	ST No7	大Se	A1	s.l.	B2	完形		77.8	57.2	5.6	24	直線	-	-	31.2	×	×	
		SB 5335	-	大Se	A1	s.l.	C	半損	(54.2)	63.4	11.0	43	直線	-	-	50.6	×	×		
		SB 5335	ST No16	大Se	A2	s.l.	B2	完形		60.4	59.0	9.8	34	直線	-	-	41.5	○	×	
		SB 5335	ST No3	大Se	A2	s.l.	B2	完形		94.5	44.4	9.5	32	鋸齒	-	-	50.6	×	×	
		SB 5336	No13	大Se	C1	s.l.	B2	略完形		137.2	55.3	12.8	-	-	83	直線	108.9	○	×	
		SB 5337	-	大Se	A1	s.l.	B1	完形		64.0	65.0	7.3	38	直線	-	-	36.3	○	×	
		SB 5337	敷石	大Se	C1	s.l.	B2	完形		102.4	38.8	8.6	-	-	46	直線	35.1	○	×	
		SB 5337	No402	大Se	C1	s.l.	B1	完形		106.4	55.5	14.6	-	-	60	直線	79.8	○	×	
		SB 5337	sNo14	大Se	C2	s.l.	A	完形		166.0	51.0	8.4	-	-	62	直線	72.1	○	×	
		SB 5337	No85	大Se	D	g. tu		完形		113.0	41.6	13.1	55	鋸齒	40	外湾	56.9	×	×	
		SB 5338	UL	大Se	A1	s.l.	B2	略完形		68.2	37.8	12.2	35	直線	-	-	20.3	×	○	
		SB 5338	礎礎No2	大Se	A3	s.l.	B1	完形		106.4	54.3	29.7	43/45	直線	-	-	207.0	×	×	
		SB 5338	埋壙No2	大Se	A3	s.l.	C	略完形		131.8	23.1	15.6	40/43	直線	-	-	53.4	×	×	
		SB 5338	LL	大Se	C1	s.l.	B2	完形		67.4	43.8	6.2	-	-	74	直線	17.5	○	×	
		SB 5338	UL	大Se	D	s.l.	A	完形		52.6	38.4	13.2	38	鋸齒	-	-	18.0	×	×	
		SB 5339	No251	大Se	A2	s.l.	B2	半損	(73.6)	46.7	13.4	58	外湾	-	-	53.6	○	×		
		SB 5339	-	大Se	A2	s.l.	B2	完形		109.2	52.2	16.6	40	外湾	-	-	128.2	×	○	
		SB 5339	-	大Se	B1	s.l.	B2	完形		85.1	55.4	11.0	37	直線	51	直線	62.9	○	×	
		SB 5339	-	大Se	B2	s.l.	C	完形		95.8	46.0	11.0	30	外湾	47	直線	53.0	○	×	
		SB 5339	No256	大Se	C1	s.l.	C	完形		74.8	40.6	10.6	-	-	88	直線	38.7	○	×	
		SB 5340	-	大Se	A3	s.l.	B2	完形		82.7	44.4	12.2	30/35	直/外	-	-	44.2	○	×	
		SB 5340	-	大Se	B2	s.l.	B2	完形		91.8	61.7	13.0	39	外湾	75	直線	81.4	×	×	
		SB 5340	sNo3	大Se	C1	s.l.	B2	完形		82.8	49.5	8.9	-	-	74	外湾	42.5	○	×	
		SB 5340	-	大Se	C1	s.l.	C	完形		88.3	32.0	8.7	-	-	85	直線	72.3	○	×	
		SB 5340	2L	大Se	C2	s.l.	C	完形		65.3	49.9	14.2	-	-	55	直線	42.4	○	×	
		SB 5341	床直No7	大Se	A1	s.l.	B2	完形		92.0	86.2	12.4	30	外湾	-	-	93.2	○	○	
		SB 5341	1L	大Se	C1	s.l.	B2	完形		116.6	66.3	10.0	-	-	46	外湾	66.8	○	×	
		SB 5342	下部	大Se	C1	s.l.	B1	完形		96.1	51.8	8.9	-	-	51	外湾	40.5	○	×	
		SB 5342	sNo1	大Se	C1	s.l.	B2	完形		135.5	68.6	19.6	-	-	70	直線	213.7	○	×	
		SB 5343	sNo14	大Se	A1	s.l.	B2	完形		85.2	66.8	20.0	39	直線	-	-	85.3	○	×	

表58-(7) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物観察表

大形削器類

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	調整角度	調整形態	整形角度	整形形態	重量	微細	摩耗	備考
			SB 5343	sNo129	大Sc	A1	s1.	C	完形	95.0	47.7	11.5	39	外湾	-	-	53.3	○	×	
			SB 5343	UL	大Sc	A2	s1.	B2	完形	87.2	39.4	12.4	35	直線	-	-	46.2	×	×	
			SB 5343	sNo102	大Sc	A2	s1.	B1	完形	96.8	55.2	12.6	39	直線	-	-	82.8	×	○	
			SB 5343	ML	大Sc	A2	s1.	B2	完形	82.0	42.0	13.4	42	外湾	-	-	59.9	×	×	
			SB 5343	sNo134	大Sc	A2	s1.	B1	半損	(99.4)	65.7	15.0	24	直線	-	-	103.9	○	×	
			SB 5343	ML	大Sc	C3	s1.	B2	完形	78.1	43.1	11.4	-	-	51/57	直線	43.1	○	×	切出状
			SB 5343	LL	大Sc	C3	s1.	C	半損	(71.8)	40.1	9.4	-	-	63/71	ノコ	23.5	○	×	有缺石器
			SB 5343	ML	大Sc	D	s1.	B1	完形	77.0	50.3	11.0	32	鋸齒	-	-	55.4	○	×	
			SB 5344	sNo12	大Sc	C1	s1.	C	完形	107.0	65.0	19.0	-	-	81	外湾	153.4	○	○	
			SB 5344	-	大Sc	C1	s1.	B1	完形	96.5	53.4	9.2	-	-	53	直線	49.3	○	×	
			SB 5345	LL	大Sc	A1	s1.	B2	完形	115.6	45.6	13.3	40	外湾	-	-	72.3	×	×	
			SB 5345	LL	大Sc	A1	s1.	B2	完形	97.1	42.8	9.5	32	直線	-	-	34.6	×	×	
			SB 5345	2L	大Sc	A1	s1.	B2	半損	(61.2)	35.4	14.1	41	直線	-	-	32.7	×	×	
			SB 5345	-	大Sc	A2	脈石英	半損	(68.3)	73.5	15.3	30	直線	-	-	96.8	×	×		
			SB 5345	2L	大Sc	B2	s1.	B1	完形	55.4	48.3	11.1	27	直線	68	直線	34.6	○	×	
			SB 5345	UL	大Sc	C1	s1.	B1	完形	70.7	59.8	11.7	-	-	56	外湾	36.8	○	×	
			SB 5348	-	大Sc	A1	s1.	C	完形	136.6	55.9	13.1	34	外湾	-	-	100.6	○	×	
			SB 5348	2L	大Sc	A2	s1.	B1	完形	60.2	32.4	12.1	32	直線	-	-	24.9	○	×	
			SB 5348	-	大Sc	B2	s1.	B1	完形	60.5	44.8	16.6	44	直線	68	直線	42.1	○	×	
			SB 5350	-	大Sc	A1	s1.	B1	完形	108.6	51.1	13.3	40	直線	-	-	65.3	○	×	
			SB 5350	-	大Sc	A2	s1.	B2	完形	53.2	39.0	10.5	40	外湾	-	-	19.2	×	×	
			SB 5350	-	大Sc	C3	s1.	B2	完形	79.4	77.0	13.6	-	-	48/57	直線	116.5	○	×	切出状
			SB 5351	-	大Sc	A1	s1.	A	完形	91.5	49.5	7.6	32	外湾	-	-	53.6	○	×	
			SB 5351	-	大Sc	C2	s1.	B2	略完形	111.2	59.5	22.4	-	-	51	直線	122.1	○	○	
			SB 5351	sNo31	大Sc	D	s1.	A	完形	103.2	59.2	19.7	63	鋸齒	-	-	128.9	×	×	
			SB 9001	-	大Sc	A1	s1.	B2	完形	56.1	52.8	9.4	32	外湾	-	-	31.5	○	×	
			SB 9001	-	大Sc	A2	s1.	B2	半損	(87.2)	57.0	13.3	25	外湾	-	-	62.0	○	×	
			SB 9002	stNo6	大Sc	A1	s1.	B1	完形	120.4	66.0	23.0	35	直線	-	-	155.6	○	×	
			SB 9003	sNo23	大Sc	A3	s1.	C	完形	122.4	47.8	10.8	35/42	直線	-	-	87.0	○	×	
			SB 9004	-	大Sc	A1	s1.	B1	完形	94.4	52.7	13.3	31	外湾	-	-	62.9	○	×	
			SB 9006	sNo3	大Sc	A1	s1.	B2	略完形	84.4	48.1	20.6	38	外湾	-	-	94.0	○	×	
			SB 9007	-	大Sc	D	s1.	B1	完形	70.0	45.6	24.6	60	鋸齒	-	-	51.1	○	×	

打製石斧

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	刃部形態	刃部角	基部形態	横断面形	重量	微細	摩耗	備考
380	122	136	SB 5311	Pit4	打斧	A2	s1.	B1	完形	107.2	56.0	21.2	直刃	35	円頭	D字	130.0	○	○	
380	-	137	SB 5311	炉1L	打斧	A2	s1.	B1	半損b	(76.2)	42.4	13.0	-	-	直頭	凸レ	53.4	×	×	
380	-	138	SB 5311	No29	打斧	A1	s1.	B2	完形	123.9	48.8	11.0	円刃	26	円頭	凸レ	89.4	×	×	
380	-	139	SB 5311	4L No165	打斧	A1	s1.	B1	半損b	(109.5)	37.2	12.1	-	-	直頭	凸レ	59.0	×	×	
380	122	140	SB 5312	2L	打斧	A4	s1.	B2	一部欠a	(83.2)	43.8	15.0	円刃	18	-	D字	54.4	○	×	
380	122	141	SB 5312	1L	打斧	A1	s1.	B2	完形	101.5	33.6	16.0	偏刃	19	直頭	D字	50.8	×	×	
380	122	142	SB 5312	-	打斧	A1	s1.	B1	完形	147.2	47.7	12.6	直刃	17	直頭	凸レ	90.0	○	○	
380	122	143	SB 5313ab	-	打斧	A1	s1.	C	完形	142.4	45.1	17.7	直刃	25	未加工	D字	128.4	○	○	
380	122	144	SB 5316	No176	打斧	A4	s1.	B2	完形	131.4	51.8	17.2	円刃	20	円頭	凸レ	113.6	○	○	
380	122	145	SB 5316	No25	打斧	A1	s1.	C	完形	160.8	47.7	19.8	円刃	26	直頭	D字	166.4	○	○	
380	-	146	SB 5316	1L No1	打斧	A1	s1.	B2	6	(134.2)	62.2	17.7	-	-	-	凸レ	149.8	×	×	
380	122	147	SB 5316	1L	打斧	A7	s1.	B2	完形	117.2	51.0	9.6	未加工	12	未加工	D字	54.7	○	○	
381	122	148	SB 5319	sNo42	打斧	A1	s1.	B2	略完形	164.0	45.3	17.0	直刃	19	-	凸レ	150.4	×	○	
381	122	149	SB 5319	人骨頭部脇	打斧	A4	s1.	B2	完形	117.9	55.5	12.0	円刃	18	未加工	凸レ	90.6	○	○	
381	122	150	SB 5324	No71	打斧	A1	s1.	B2	完形	125.0	54.9	15.4	偏刃	23	未加工	凸レ	139.3	×	×	
381	-	151	SB 5324	No54	打斧	A1	s1.	B2	略完形	135.2	56.2	16.6	円刃	45	直頭	D字	160.3	×	×	
381	122	152	SB 5324	No50	打斧	A1	s1.	C	完形	149.5	49.3	25.4	円刃	20	直頭	凸レ	197.2	×	×	
381	122	153	SB 5324	No32	打斧	A1	s1.	C	完形	177.2	59.5	17.6	偏刃	25	直頭	D字	218.9	○	○	
381	122	154	SB 5324	No18	打斧	A1	s1.	B2	完形	120.8	57.1	13.6	円刃	17	直頭	D字	117.0	×	×	
381	122	155	SB 5324	No33	打斧	A2	s1.	B2	完形	105.4	52.8	14.2	円刃	25	直頭	D字	89.1	○	○	
381	-	156	SB 5324	周縁下	打斧	A1	s1.	B2	略完形	127.0	63.6	11.0	円刃	20	-	凸レ	104.8	○	○	
381	122	157	SB 5324	周縁下	打斧	A1	s1.	B2	完形	140.6	47.7	16.0	円刃	23	直頭	凸レ	121.0	○	○	
381	122	158	SB 5324	礎境内No98	打斧	A4	s1.	B2	完形	157.2	61.0	15.2	直刃	23	直頭	D字	164.3	×	×	
381	122	159	SB 5324	-	打斧	A3	s1.	B2	完形	124.0	62.1	10.9	偏刃	22	未加工	凸レ	87.0	○	○	
382	-	160	SB 5324	-	打斧	A1	s1.	B1	一部欠a	(130.9)	59.0	17.2	偏刃	46	-	凸レ	175.3	○	×	
382	-	161	SB 5325	No7	打斧	A4	s1.	C	完形	101.6	50.5	20.2	偏刃	45	直頭	凸レ	128.2	×	○	刃部再加工
382	122	162	SB 5325	No5	打斧	A1	s1.	C	完形	123.1	47.4	14.3	円刃	26	円頭	凸レ	117.0	×	×	
382	122	163	SB 5325	No1	打斧	A1	s1.	C	一部欠a	(104.6)	45.4	11.2	円刃	35	-	D字	60.8	×	×	
382	122	164	SB 5325	-	打斧	A1	s1.	B2	一部欠a	(108.4)	42.8	14.5	円刃	29	-	D字	77.2	○	○	
382	122	165	SB 5325	-	打斧	A1	s1.	B2	完形	119.8	41.6	11.0	偏刃	21	未加工	凸レ	64.0	○	○	
382	122	166	SB 5328	4L	打斧	A3	s1.	B2	完形	99.6	60.4	18.6	円刃	52	直頭	凸レ	108.0	○	×	
382	122	167	SB 5328	-	打斧	A1	s1.	B2	完形	130.5	48.8	15.8	円刃	51	円頭	凸レ	117.1	○	○	
382	122	168	SB 5335	stNo110	打斧	A2	s1.	B1	一部欠a	(114.3)	67.1	15.2	偏刃	17	-	凸レ	128.0	×	×	
382	-	169	SB 5335	-	打斧	A1	s1.	B2	半損b	(88.2)	50.8	15.7	-	-	直頭	D字	80.4	×	×	
382	122	170	SB 5337	sNo84	打斧	A4	s1.	B2	完形	134.8	55.0	15.1	偏刃	19	円頭	D字	111.9	○	○	摩耗痕斜行
382	-	171	SB 5337	No37	打斧	A1	s1.	B2	完形	140.1	48.2	19.2	偏刃	30	未加工	D字	142.4	○	○	
383	122	172	SB 5337	No1	打斧	A1	s1.	C	一部欠a	(158.0)	61.4	26.6	円刃	38	-	凸レ	284.1	×	×	
383	122	173	SB 5337	No16	打斧	A1	s1.	C	完形	134.2	50.7	14.3	偏刃	22	直頭	D字	116.3	×	○	
383	122	174	SB 5337	No2	打斧	A1	s1.	B1	完形	120.0	46.3	8.1	偏刃	22	未加工	D字	69.1	○	○	
383	122	175	SB 5337	No18	打斧	A4	s1.	B1	完形	132.2	55.2	18.1	円刃	21	円頭	凸レ	185.9	○	○	
383	-	176	SB 5338	Pit21	打斧	A1	s1.	B2	一部欠a	(99.6)	46.9	14.5	円刃	28	-	凸レ	75.6	×	○	縁部のみ摩耗
383	123	177	SB 5338	-	打斧	A4	s1.	B2	完形	114.4	46.2	18.4	円刃	22	直頭	凸レ	101.4	×	○	
383	123	178	SB 5340	No125	打斧	A1	s1.	B2	完形	213.0	58.2	16.0	円刃	17	未加工	凸レ	250.2	○	○	
383	-	179	SB 5340	No48	打斧	A1	s1.	B2	半損b	(150.0)	66.9	20.1	-	-	円頭	凸レ	203.7	×	×	
383	123	180	SB 5340	-	打斧	A5	s1.	B2	完形	130.0	40.8	13.6	偏刃	21	未加工	凸レ	108.5	×	○	

表58-(8) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物観察表

打製石斧

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	刃部形態	刃部角	基部形態	横断面形	重量	微細	摩擦	備考	
383	123	181	SB 5340	2L	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(131.2)	54.8	16.9	円刃	18	-	凸レ	169.3	○	○		
383	123	182	SB 5341	3L	打斧	A1	s.l.	B2	完形	101.4	50.1	14.5	偏刃	41	円頭	凸レ	96.8	○	○		
384	123	183	SB 5343	No78	打斧	A1	s.l.	C	略完形	141.3	37.0	15.4	円刃	18	円頭	凸レ	96.6	○	×		
384	-	184	SB 5343	No52	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(144.2)	50.0	16.3	-	-	円頭	凸レ	132.0	×	×		
384	123	185	SB 5343	No17	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(113.8)	46.0	13.4	未加工	24	-	凸レ	88.8	○	×		
384	123	186	SB 5343	No45	打斧	A1	s.l.	C	一部欠b	(116.2)	43.1	21.2	-	-	直頭	凸レ	122.9	×	×		
384	-	187	SB 5343	ML	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(125.1)	43.8	15.6	直刃	24	-	D字	91.2	○	○		
384	123	188	SB 5343	-	打斧	A1	s.l.	C	一部欠a	(141.2)	52.0	19.0	直刃	26	-	凸レ	176.8	○	×		
384	123	189	SB 5345	床面	打斧	B	s.l.	B1	完形	93.0	58.8	13.2	円刃	23	円頭	D字	77.1	○	○		
384	123	190	SB 5345	床面No11	打斧	A1	s.l.	C	一部欠a	(123.4)	50.6	13.4	円刃	21	-	凸レ	124.9	○	○		
384	123	191	SB 5345	2L No31	打斧	A1	s.l.	B2	完形	118.4	37.6	14.2	円刃	25	未加工	凸レ	68.6	○	○		
384	123	192	SB 5345	1L	打斧	A2	s.l.	B2	完形	139.6	59.0	17.0	直刃	55	未加工	凸レ	170.3	×	×		
384	123	193	SB 5345	UL	打斧	A5	s.l.	B1	完形	107.8	40.9	15.6	円刃	32	未加工	凸レ	85.4	×	○	基部研磨	
384	-	194	SB 5345	-	打斧	A1	s.l.	B2	完形	92.6	38.6	13.4	円刃	28	円頭	凸レ	63.5	○	○		
385	-	195	SB 5345	-	打斧	A1	s.l.	B2	略完形	96.6	47.7	16.2	円刃	20	-	凸レ	83.6	×	○		
385	123	196	SB 5351	上面	打斧	A1	s.l.	B2	完形	119.0	41.4	16.6	円刃	39	直頭	凸レ	116.8	×	○	縁辺部のみ摩耗	
385	123	197	SB 5351	sNo12	打斧	A1	s.l.	B1	完形	124.4	34.0	13.0	円刃	21	未加工	D字	83.1	×	○		
385	123	198	SB 5348	-	打斧	A7	s.l.	B1	完形	121.6	59.1	16.0	未加工	21	未加工	凸レ	120.9	○	○		
385	123	199	SK 9003	-	打斧	A5	s.l.	B2	完形	154.0	37.2	12.4	円刃	20	円頭	凸レ	89.4	○	○	鎌状	
			SB 5310	UL	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(79.7)	48.8	16.0	直刃	48	-	凸レ	84.2	○	○	敲打痕有	
			SB 5310	UL	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(77.8)	50.0	15.0	円刃	55	-	凸レ	59.6	×	○		
			SB 5310	3L	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(87.4)	47.0	24.3	-	-	円頭	凸レ	124.9	×	×		
			SB 5310	1L	打斧	A1	s.l.	A	半損a	(90.9)	40.8	19.5	直刃	55	-	凸レ	85.4	×	○		
			SB 5310	1L	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(86.2)	54.4	21.7	直刃	80	-	D字	109.5	×	×		
			SB 5312	床面No22	打斧	A1	s.l.	B2	完形	123.5	46.1	18.0	直刃	45	円頭	D字	102.2	×	○		
			SB 5312	1L	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(96.8)	53.0	16.0	直刃	30	-	凸レ	102.6	×	×		
			SB 5312	No19	打斧	A1	s.l.	A	半損b	(64.0)	35.3	14.2	直刃	-	直頭	凸レ	46.6	×	×		
			SB 5313a	2L	打斧	A2	s.l.	B2	半損a	(94.5)	48.4	13.6	直刃	36	-	凸レ	62.1	×	○		
			SB 5313a	-	打斧	A1	s.l.	B2	完形	124.3	47.7	15.3	直刃	42	円頭	凸レ	100.7	×	○		
			SB 5313a	1L	打斧	A4	s.l.	B2	完形	102.5	45.0	12.8	直刃	35	直頭	凸レ	59.2	×	○		
			SB 5313a	-	打斧	A1	s.l.	A	一部欠a	(105.2)	39.5	15.3	直刃	23	-	D字	85.6	×	○		
			SB 5313a	-	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(64.4)	45.4	13.6	直刃	28	-	D字	55.5	×	○		
			SB 5313a	No20	打斧	A1	s.l.	B2	略完形	95.2	36.0	12.9	円刃	32	-	凸レ	49.0	×	○		
			SB 5313a	2L	打斧	A2	s.l.	B2	完形	122.5	33.3	13.4	円刃	-	未加工	D字	69.6	×	×	未製品	
			SB 5313a	SK5809塊土	打斧	A1	s.l.	B1	略完形	102.8	36.0	11.2	直刃	32	-	凸レ	52.8	○	○		
			SB 5314	PitIsNo1	打斧	A4	s.l.	B2	完形	106.0	44.8	12.4	円刃	22	直頭	凸レ	61.8	○	○		
			SB 5315	4L	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(73.2)	35.6	16.6	-	-	直頭	凸レ	53.5	×	×		
			SB 5315	3L	打斧	A1	s.l.	B2	?	(86.5)	(39.0)	14.3	円刃	35	-	凸レ	43.6	×	×		
			SB 5315	2L	打斧	A2	s.l.	B1	半損b	(82.4)	40.2	13.0	-	-	円頭	凸レ	45.1	×	×		
			SB 5315	2L	打斧	A4	s.l.	C	半損b	(116.0)	46.9	12.4	-	-	円頭	凸レ	78.0	×	×		
			SB 5316	No002	打斧	A1	s.l.	C	完形	154.0	43.0	14.3	直刃	22	未加工	凸レ	143.1	×	○		
			SB 5316	No176	打斧	A1	s.l.	C	完形	125.5	39.2	23.0	直刃	38	直頭	凸レ	163.4	○	○		
			SB 5317	No2	打斧	A1	s.l.	B1	略完形	104.6	32.0	10.8	-	-	直頭	凸レ	47.5	×	○		
			SB 5317	-	打斧	A1	s.l.	C	半損a	(84.4)	44.6	20.2	偏刃	51	-	凸レ	86.8	×	○		
			SB 5319	sNo52	打斧	A1	s.l.	B2	完形	139.0	57.8	13.5	直刃	24	直頭	D字	136.4	○	○		
			SB 5319	sNo47	打斧	A4	s.l.	C	完形	218.6	54.2	16.6	直刃	82	円頭	凸レ	147.1	×	×	折断面再加工	
			SB 5319	sNo32	打斧	A2	s.l.	B2	完形	169.5	62.4	15.0	円刃	33	円頭	凸レ	197.3	×	×		
			SB 5319	sNo7	打斧	A1	s.l.	C	完形	145.5	51.8	13.2	円刃	22	直頭	凸レ	113.8	○	○		
			SB 5319	sNo34	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(108.2)	60.7	17.4	直刃	32	-	凸レ	141.8	○	×		
			SB 5319	sNo31	打斧	A1	s.l.	B2	完形	51.8	46.3	13.5	直刃	20	未加工	凸レ	107.8	×	×	未製品	
			SB 5319	LL	打斧	A1	s.l.	B1	完形	65.3	45.8	12.2	偏刃	31	円頭	D字	69.2	○	○		
			SB 5319	-	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(89.1)	57.0	14.7	円刃	27	-	凸レ	88.8	×	○		
			SB 5319	-	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(77.5)	36.0	15.2	直刃	24	-	凸レ	49.9	×	×		
			SB 5321	UL	打斧	A1	s.l.	B2	完形	134.0	58.4	19.1	円刃	29	直頭	凸レ	179.1	○	○		
			SB 5321	LL	打斧	A1	s.l.	C	略完形	101.2	46.4	15.3	直刃	48	直頭	凸レ	106.9	×	○		
			SB 5321	ML	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(68.0)	43.8	12.6	円刃	35	-	凸レ	42.7	○	○		
			SB 5321	sNo9	打斧	A1	s.l.	C	完形	161.2	37.8	17.2	直刃	42	直頭	凸レ	149.3	×	○		
			SB 5324	No3	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠b	(110.7)	57.0	14.3	-	-	直頭	凸レ	115.1	×	×		
			SB 5324	周礫	打斧	A1	s.l.	B2	6	(90.1)	54.2	15.7	-	-	-	凸レ	104.6	×	×		
			SB 5325	No6	打斧	A2	s.l.	C	半損b	(93.7)	46.6	20.2	-	-	円頭	凸レ	89.3	×	○		
			SB 5325	No18	打斧	A1	s.l.	A	一部欠b	(99.8)	45.0	14.6	-	-	未加工	D字	81.5	×	×		
			SB 5325	-	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠b	(104.5)	52.4	15.2	-	-	-	直頭	凸レ	96.1	×	×	
			SB 5325	柄部	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(70.8)	48.1	10.6	-	-	-	直頭	凸レ	62.1	×	×	
			SB 5326	1L	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(88.1)	48.8	22.8	直刃	27	-	D字	91.3	○	○		
			SB 5328	1L	打斧	A1	s.l.	C	完形	80.0	49.2	19.2	円刃	33	円頭	D字	70.7	○	×		
			SB 5328	sNo6	打斧	A4	s.l.	B2	完形	91.1	40.5	8.8	円刃	40	直頭	凸レ	56.2	×	○		
			SB 5328	1L	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(73.3)	53.6	20.6	直刃	28	-	凸レ	93.6	×	○		
			SB 5328	-	打斧	A2	s.l.	B2	完形	124.8	53.2	16.1	偏刃	37	未加工	D字	105.2	○	×		
			SB 5328	2L	打斧	A1	s.l.	C	完形	107.3	39.3	20.1	円刃	55	直頭	D字	118.3	○	×		
			SB 5328	-	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(72.4)	32.7	13.8	-	-	直頭	凸レ	42.8	×	×		
			SB 5328	2L	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(75.2)	34.8	16.4	-	-	直頭	凸レ	43.5	×	×		
			SB 5328	1L	打斧	(B)	s.l.	C	6	(31.0)	35.6	12.8	-	-	-	凸レ	22.4	×	×	研磨痕有	
			SB 5328	2L	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(55.1)	54.2	18.9	円刃	54	-	凸レ	63.0	○	×		
			SB 5329	-	打斧	A1	s.l.	B2	完形	116.4	40.5	13.8	円刃	32	未加工	凸レ	79.4	×	○		
			SB 5329	-	打斧	A1	s.l.	B2	完形	44.7	35.2	23.4	円刃	38	直頭	凸レ	128.5	○	○		
			SB 5330	-	打斧	A2	s.l.	C	完形	124.4	45.6	14.2	偏刃	50	未加工	凸レ	113.8	○	○		
			SB 5332	1L	打斧	A1	s.l.	C	半損a	(54.4)	35.9	14.5	直刃	51	-	D字	29.0	×	×		
			SB 5332	LL	打斧	A4	s.l.	C	略完形	118.3	45.5	21.6	直刃	21	-	凸レ	102.9	○	○		
			SB 5332	LL	打斧	A1	s.l.	C	一部欠a	(118.0)	44.0	17.6	直刃	23	-	D字	121.6	×	○		
			SB 5332	UL	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(71.0)	37.0	12.8	-	-	円頭	凸レ	35.9	×	×		

表58-(9) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物観察表

打製石斧

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	刃部形態	刃部角	基部形態	横断面形	重量	微細	摩擦	備考
			SB 5332	ML	打斧	A4	s.l.	B2	一部欠a	(69.5)	44.0	14.0	円刃	48	-	凸レ	56.1	○	○	
			SB 5332	UL	打斧	A4	s.l.	B1	半損b	(59.0)	36.3	17.2	-	-	未加工	凸レ	48.5	×	×	
			SB 5334	-	打斧	A2	s.l.	B2	完形	97.0	47.1	15.6	円刃	28	円頭	凸レ	63.7	○	×	
			SB 5334	-	打斧	A4	s.l.	B2	完形	162.4	60.2	16.2	円刃	28	円頭	凸レ	132.0	×	○	
			SB 5335	St. No14	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(99.8)	48.4	24.9	-	-	未加工	凸レ	119.7	×	×	
			SB 5335	-	打斧	A5	s.l.	C	略完形	100.2	40.8	16.6	円刃	-	円頭	凸レ	98.7	×	×	
			SB 5335	-	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(80.4)	43.6	20.4	偏刃	35	-	凸レ	78.7	○	○	
			SB 5336	No14	打斧	A1	s.l.	B2	完形	143.8	49.2	18.4	直刃	48	直頭	D字	170.8	×	○	
			SB 5336	-	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(96.8)	38.1	10.6	偏刃	24	-	凸レ	41.2	×	○	
			SB 5337	No17	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(86.7)	50.6	11.8	-	-	直頭	凸レ	83.7	×	×	
			SB 5337	No391	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠b	(106.8)	49.8	16.4	-	-	円頭	凸レ	70.5	×	×	
			SB 5337	No391	打斧	A1	s.l.	B2	略完形	122.8	54.1	13.2	直刃	33	直頭	凸レ	79.8	×	○	
			SB 5337	sNo12	打斧	A2	s.l.	B2	一部欠b	(93.0)	37.4	16.2	-	-	未加工	D字	67.0	×	×	
			SB 5337	No348	打斧	A1	s.l.	B2	略完形	123.2	57.2	11.8	円刃	28	未加工	凸レ	90.7	×	×	
			SB 5337	No348	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(89.0)	62.4	16.2	円刃	50	-	凸レ	109.4	○	×	
			SB 5337	No398	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(112.0)	60.5	22.0	円刃	35	-	凸レ	156.4	○	×	未製品
			SB 5337	No403	打斧	A1	s.l.	B2	完形	(98.2)	42.6	14.6	円刃	44	円頭	凸レ	82.8	○	○	
			SB 5337	-	打斧	A1	s.l.	B1	一部欠b	(99.0)	45.3	22.2	-	-	円頭	凸レ	119.1	×	×	
			SB 5338	-	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(70.5)	36.0	18.0	-	-	直頭	凸レ	56.0	×	×	
			SB 5338	No20	打斧	A1	s.l.	B2	略完形	130.2	47.8	19.2	円刃	44	直頭	凸レ	133.5	○	○	
			SB 5338	UL	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(95.0)	43.2	19.8	直刃	32	-	凸レ	107.1	×	×	
			SB 5338	UL	打斧	A2	s.l.	C	半損a	(68.0)	54.8	13.2	直刃	51	-	D字	58.2	○	×	
			SB 5339	No260	打斧	A1	s.l.	C	半損a	(82.1)	57.8	11.2	円刃	26	-	凸レ	74.8	×	○	
			SB 5339	No249	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(110.0)	44.0	16.9	-	-	未加工	凸レ	70.5	×	×	
			SB 5340	sNo1	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(108.7)	70.8	19.4	直刃	19	-	凸レ	138.4	×	○	
			SB 5340	-	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(55.4)	37.4	10.8	直刃	34	-	凸レ	25.0	○	○	
			SB 5340	-	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(74.8)	43.0	14.8	-	-	直頭	凸レ	57.3	×	×	
			SB 5340	sNo4	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(94.0)	53.8	21.8	円刃	24	-	凸レ	124.1	○	○	
			SB 5340	2L	打斧	A2	s.l.	B2	略完形	112.6	59.4	16.3	偏刃	18	直頭	凸レ	73.2	○	×	
			SB 5340	床直	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(69.8)	43.8	16.2	-	-	円頭	凸レ	68.4	×	×	
			SB 5340	2L	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(102.0)	51.7	22.0	偏刃	29	-	凸レ	134.6	×	○	
			SB 5338	床直No51	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(107.8)	49.8	14.0	-	-	未加工	凸レ	86.5	×	○	
			SB 5340	2L	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(85.5)	47.4	16.7	直刃	40	-	凸レ	88.9	×	○	
			SB 5342	sNo16	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(114.0)	43.2	22.1	-	-	未加工	凸レ	114.9	×	×	
			SB 5342	UL	打斧	A1	s.l.	C	半損a	(67.0)	47.0	18.8	直刃	50	-	凸レ	66.1	×	×	
			SB 5343	-	打斧	A1	s.l.	B2	完形	60.6	27.2	11.4	直刃	31	未加工	凸レ	23.4	×	×	小形品
			SB 5343	ML	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(72.8)	43.4	19.4	-	-	未加工	凸レ	69.6	×	×	
			SB 5343	LL	打斧	A1	s.l.	B2	略完形	79.3	39.0	15.4	円刃	33	円頭	凸レ	51.2	×	×	
			SB 5343	UL	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(90.8)	47.4	16.5	円刃	32	-	凸レ	83.8	×	○	
			SB 5343	ML	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(96.6)	40.0	11.6	円刃	43	-	D字	60.4	×	○	
			SB 5343	sNo26	打斧	A1	s.l.	C	半損a	(74.8)	40.7	13.7	円刃	28	-	凸レ	59.7	○	○	
			SB 5343	sNo64	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(74.5)	48.2	16.2	円刃	40	-	D字	64.4	×	○	
			SB 5343	sNo27	打斧	A1	s.l.	C	一部欠a	(101.8)	37.2	19.2	円刃	43	-	D字	95.1	×	×	
			SB 5343	ML	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(84.0)	53.8	18.6	-	-	未加工	D字	95.7	×	×	
			SB 5345	床直	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(65.0)	42.3	10.0	円刃	29	-	凸レ	40.7	×	○	
			SB 5345	床面	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(66.0)	43.2	20.6	円刃	45	-	凸レ	75.3	×	○	
			SB 5345	-	打斧	A1	s.l.	C	半損a	(95.2)	44.6	16.0	直刃	25	-	凸レ	78.6	×	×	
			SB 5345	-	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(97.8)	48.0	20.9	-	-	直頭	凸レ	119.2	×	×	
			SB 5345	床面No9	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(112.2)	60.6	26.6	偏刃	15	-	凸レ	170.2	○	×	
			SB 5345	床面No7	打斧	A1	s.l.	A	一部欠b	(107.7)	44.4	20.8	-	-	未加工	凸レ	117.6	×	×	
			SB 5345	LL	打斧	A1	s.l.	B2	完形	96.1	32.3	12.8	直刃	32	未加工	凸レ	35.2	○	×	
			SB 5345	2LsNo37	打斧	A4	s.l.	C	略完形	125.0	44.2	10.5	円刃	20	未加工	凸レ	66.2	×	×	
			SB 5345	2L	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(95.2)	50.8	17.1	直刃	23	-	凸レ	99.1	×	○	
			SB 5345	2L	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(66.7)	47.6	19.8	-	-	直頭	凸レ	98.2	×	○	
			SB 5345	UL	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(78.8)	57.0	13.8	-	-	円頭	凸レ	56.1	×	○	
			SB 5345	2L	打斧	A1	s.l.	B1	半損b	(72.2)	42.0	21.6	-	-	未加工	凸レ	68.8	×	×	
			SB 5345	2LsNo20	打斧	A1	s.l.	B1	一部欠a	(88.0)	55.4	19.3	直刃	54	-	凸レ	121.0	×	×	
			SB 5345	2L	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(73.3)	42.8	22.4	-	-	円頭	凸レ	80.3	×	×	
			SB 5345	2L	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(78.1)	45.4	14.6	-	-	円頭	凸レ	61.3	×	○	
			SB 5345	UL	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(68.0)	26.2	17.2	-	-	未加工	凸レ	30.8	×	○	
			SB 5345	UL	打斧	A1	ソト岩	C	略完形	81.7	35.4	11.1	円刃	68	-	D字	33.2	×	○	
			SB 5346	sNo2	打斧	A1	s.l.	C	略完形	123.7	43.7	17.6	円刃	32	円頭	凸レ	127.3	×	○	
			SB 5348	No68	打斧	A1	s.l.	B2	完形	127.4	40.4	12.4	円刃	23	直頭	D字	85.0	×	○	
			SB 5348	-	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(106.4)	49.4	23.4	円刃	22	-	凸レ	134.4	○	○	
			SB 5348	No177	打斧	A1	s.l.	B1	半損a	(83.3)	57.1	22.4	直刃	35	-	凸レ	123.7	○	○	
			SB 5348	No74	打斧	A1	s.l.	B1	一部欠b	(116.5)	40.6	16.7	-	-	円頭	D字	125.2	×	×	
			SB 5348	No141	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠b	(93.2)	49.0	12.4	-	-	未加工	凸レ	68.8	×	○	
			SB 5348	2L	打斧	A4	s.l.	B2	完形	89.2	43.0	13.5	円刃	29	直頭	凸レ	53.0	×	○	
			SB 5348	4L	打斧	A1	s.l.	B1	半損b	(96.0)	45.0	27.2	-	-	直頭	凸レ	155.4	×	×	
			SB 5351	U面	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠b	(101.0)	40.6	17.7	-	-	直頭	凸レ	91.1	×	○	
			SB 5351	-	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(71.8)	49.3	16.2	-	-	直頭	凸レ	64.2	×	×	
			SB 5351	sNo4	打斧	A5	s.l.	B2	一部欠b	(122.0)	43.2	19.9	-	-	円頭	凸レ	95.8	×	×	
			SB 6702	sNo3	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(99.6)	59.4	17.7	円刃	37	-	凸レ	111.0	○	×	
			SB 6702	sNo4	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(81.3)	46.5	8.6	-	-	直頭	凸レ	60.0	×	×	
			SB 6702	sNo5	打斧	A1	s.l.	B2	完形	134.8	45.1	15.3	円刃	32	未加工	凸レ	110.9	×	×	
			SB 9001	-	打斧	A1	s.l.	C	半損a	(64.4)	43.0	15.7	直刃	35	-	凸レ	46.1	○	○	
			SB 9001	-	打斧	A1	s.l.	C	半損b	(73.6)	43.2	15.5	-	-	未加工	凸レ	71.1	×	×	
			SB 9001	-	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(67.1)	40.1	17.4	直刃	29	-	凸レ	44.9	○	×	
			SB 9001	1L	打斧	A1	s.l.	B1	半損b	(91.1)	42.2	17.2	-	-	未加工	凸レ	77.2	×	×	
			SB 9001	sNo30	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(72.1)	45.2	12.2	直刃	30	-	凸レ	71.3	×	○	

表58-(10) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物觀察表

打製石斧

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ	幅	厚さ	刃部形態	刃部角	基部形態	横断面	重量	微細	摩耗	備考
		SB 9001	1L	打斧	A4	s.l.	B2	半損b	(67.2)	42.3	15.3	-	-	未加工	凸レ	55.4	×	×		
		SB 9001	sNo19	打斧	A1	s.l.	B2	完形	138.8	43.9	16.4	直刃	32	直頭	凸レ	117.2	○	○		
		SB 9001	sNo18	打斧	A3	s.l.	B2	完形	114.2	55.1	18.8	円刃	31	直頭	凸レ	102.8	×	○		
		SB 9002	sNo3	打斧	A1	s.l.	B2	略完形	139.0	38.0	13.3	円刃	60	直頭	凸レ	111.6	×	○		
		SB 9003	2L	打斧	A1	s.l.	C	一部欠a	(100.4)	40.4	18.4	円刃	31	-	凸レ	96.2	○	×		
		SB 9003	sNo22	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(112.0)	38.2	11.0	直刃	34	-	凸レ	69.3	×	×		
		SB 9003	1L	打斧	A1	s.l.	C	半損a	(74.7)	55.8	21.2	直刃	65	-	凸レ	104.4	○	×		
		SB 9004	-	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠b	(128.1)	48.1	18.1	-	-	直頭	凸レ	132.4	×	×		
		SB 9004	sNo4	打斧	A1	s.l.	B1	完形	125.7	48.3	9.9	直刃	60	直頭	D字	93.5	×	×		
		SB 9007	2L	打斧	A1	s.l.	C	略完形	114.8	54.0	16.2	円刃	27	-	凸レ	120.3	×	○		
		SB 9007	2L	打斧	A1	s.l.	B2	一部欠a	(98.8)	29.5	17.1	直刃	48	-	凸レ	62.1	○	○		
		SB 9007	2L	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(131.2)	57.8	25.3	-	-	直頭	凸レ	231.5	×	×		
		SB 9007	-	打斧	A1	s.l.	B1	完形	124.8	49.9	19.9	円刃	25	直頭	D字	156.3	○	○		
		SB 9007	2L	打斧	A1	s.l.	B2	半損b	(109.2)	69.5	17.4	-	-	直頭	凸レ	194.1	×	×		
		SB 9007	2L	打斧	A1	s.l.	C	半損a	(89.0)	48.1	21.6	円刃	33	-	凸レ	106.1	×	○		
		SB 9007	-	打斧	A1	s.l.	C	完形	95.4	33.6	6.0	偏刃	25	直頭	凸レ	31.6	○	○		
		SB 5310	-	打斧	A1	s.l.	B2	半損a	(85.0)	56.5	24.4	円刃	41	-	凸レ	142.3	×	○		
		SB 5310	UL	打斧	A1	s.l.	A	半損a	(75.0)	43.0	15.3	円刃	30	-	凸レ	51.9	○	○		
		SB 5316	1L	打斧	A1	s.l.	C	一部欠a	(138.3)	72.2	20.3	直刃	45	-	凸レ	227.5	×	×		

磨製石斧

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	分類	石材	欠損分類	長さ	幅	厚さ	刃部形態	刃部角	基部形態	横断面	重量	微細	摩耗	備考	分析	
392	125	316	SB 5312	1L No27	磨斧	A4	滑石透閃石片岩	略完形	65.1	33.1	13.2	直刃	42	直頭	両刃	胴張	47.1	○	○		16
392	125	317	SB 5316	2L	磨斧	A1	頁岩	半損a	(48.8)	19.5	11.5	円刃	45	偏刃	偏刃	扁平	16.6	○	○	石質 silt 酷似	15
392	125	318	SB 5319	sNo18	磨斧	B3	角閃岩	基部片	(49.3)	(37.4)	21.2	-	-	隅丸直	-	胴張	68.7	×	×		30
392	125	319	SB 5316	床	磨斧	A2	滑石片岩	略完形	43.2	27.4	7.6	円刃	43	直頭	両刃	扁平	16.2	○	○		14
392	125	320	SB 5321	-	磨斧	A2	頁岩	半損a	(42.8)	25.6	8.2	円刃	42	-	両刃	扁平	16.7	○	○		22
392	125	321	SB 5340	床直	磨斧	A1	(透閃石片岩)	刃部片	(26.8)	15.6	7.8	直刃	52	-	両刃	扁平	5.9	○	○		
392	125	322	SB 5340	床	磨斧	A1	透閃石片岩	基部片	(27.4)	21.0	10.2	-	-	隅丸直	-	扁平	8.3	×	×		26
392	125	323	SB 5321	sNo27	磨斧	B3	角閃岩	半損a	(73.7)	45.5	21.3	円刃	49	-	偏刃	胴張	135.5	○	○		31
392	125	324	SB 9002	sNo3	磨斧	A3	透閃石片岩	完形	60.3	34.5	10.8	直刃	40	直頭	両刃	扁平	42.9	○	○		19
392	125	325	SB 9004	-	磨斧	-	珪質頁岩	刃部片	(40.8)	(42.0)	8.3	円刃	-	-	両刃	-	18.4	○	○	石質 silt 酷似	20
392	125	326	SB 5340	1L	磨斧	A3	透閃石片岩	刃部片	(18.5)	36.6	8.1	直刃	45	-	偏刃	扁平	8.3	○	○		32
393	125	327	SB 5324	No37	磨斧	B3	(角閃岩)	一部欠b	(156.8)	61.6	35.2	-	-	隅丸直	-	胴張	577.3	×	×	再加工品	17
393	125	328	SB 5316	No142	磨斧	B3	角閃岩	半損a	(109.8)	(54.0)	32.5	-	-	尖円	-	胴張	276.1	×	×		13
393	125	329	SB 5311	炉	磨斧	B3	角閃岩	刃部片	(28.2)	(45.8)	18.5	円刃	38	-	偏刃	胴張	29.2	○	×		37
393	125	330	SB 5342	UL	磨斧	B3	角閃岩	刃部片	(26.8)	(61.6)	18.7	円刃	49	-	偏刃	胴張	35.0	○	○		24
394	125	331	SB 5335	-	磨斧	B2	(透閃石片岩)	完形	120.6	54.0	19.5	円刃	36	直頭	両刃	胴張	240.3	○	○		18
394	125	332	SB 5319	sNo21	磨斧	-	透閃石片岩	完形	97.9	30.4	10.6	-	-	-	-	57.0	×	×		33	
394	125	333	SK 9038	sNo2	磨斧	B2	透閃石片岩	基部片	(47.6)	(47.6)	(28.4)	-	-	直頭	-	胴張	62.3	×	×		28
394	125	334	SB 5323	3L	磨斧	B3	角閃岩	基部片	(31.5)	(28.6)	(15.3)	-	-	尖円	-	胴張	21.1	×	×		23
394	125	335	SK 9032	-	磨斧	A3	透閃石片岩	半損b	(39.2)	30.1	9.2	-	-	直頭	-	扁平	19.8	×	×		29
394	125	336	ST 5110	-	磨斧	B3	角閃岩	半損a	(64.1)	40.1	17.2	偏刃	47	-	両刃	胴張	71.3	○	○		27
394	-	337	SF 5168	-	磨斧	A1	(透閃石片岩)	基部片	(23.2)	(18.6)	9.8	-	-	隅丸直	-	扁平	7.6	×	×	SB5335埋土	
394	-	338	SB -	-	磨斧	A1	(透閃石片岩)	半損a	(51.0)	22.8	8.9	直刃	35	-	偏刃	扁平	19.8	○	○		
		SB 5338	床直No13	磨斧	-	(角閃岩)	-	(72.2)	(62.0)	(35.2)	-	-	-	-	-	262.1	×	×	未製品		
		SB 5345	LL	磨斧	-	(角閃岩)	破片	(37.2)	33.1	11.8	-	-	-	-	扁平	16.9	×	×		計	

石皿類

図版	P L	No.	遺構名	出土位置	類型	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	使用痕	表面	側面	裏面	備考
397	-	380	SB 5 3 1 2	石 1 6	石皿 a 類	153	160	48	1480	磨				皿部に弱い磨り
397	126	381	SB 5 3 1 3 b	1 層下部	石皿 b 類	163	150	27	1060	磨			磨	安山岩
397	126	382	SB 5 3 1 6	52	石皿 a 類	124	108	51	900	磨				安山岩
397	126	383	SB 5 3 1 6	166	石皿 a 類	190	135	57	1640	顕著な磨				砂岩、表面被熱
397	-	384	SB 5 3 1 6	99	石皿 b 類	155	138	23	750	磨	敲	磨		輝石安山岩
397	126	385	SB 5 3 1 6	57	石皿 a 類	174	138	33	1155	縦磨				
397	126	386	SB 5 3 1 6	113	石皿 b 類	223	230	69	4600	顕著な磨				閃緑岩
397	126	387	SB 5 3 1 6	205・227	石皿 a 類	260	84	25	700	磨				安山岩
397	126	388	SB 5 3 3 2	土壇上石34	石皿 a 類	298	97	37	2000	磨				緑泥片岩か
397	-	389	SB 5 3 3 7	285	石皿 b 類	218	180	26	1340	磨・敲		磨・敲		
397	-	390	SB 5 3 3 8	床 77	石皿 b 類	180	127	39	1010	磨・敲				皿部赤色・黒色
397	-	391	SH 5 1 0 1		石皿 b 類	152	122	22	450	磨				付着物
397	127	396	SB 5 3 2 4	26	石皿 a 類	263	118	118	6500	顕著な磨		深凹多数		安山岩
397	127	397	SB 5 3 2 4	76	石皿 a 類	204	65	65	2350	磨		多孔石		砂岩、側面に黒色付着物

多孔石

図版	P L	No.	遺構名	出土位置	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	使用痕	表面	側面	裏面	備考
397	-	392	SB 5 3 1 2	1 L S60	118	148	63	830	凹多数	凹多数	凹多数		火山岩塊、両側面凹
397	-	393	SB 5 3 1 3 b	95	214	168	135	6050	浅凹多数				閃緑岩
397	127	394	SB 5 3 1 9	主体部西側	330	265	225	19700	深凹多数	深凹多数	凹		安山岩、底面は凹無
397	127	395	SB 5 3 2 4	26	263	238	157	7200	深凹多数	深凹	深凹多数		安山岩
398	127	399	SB 5 3 3 7	石20	192	103	123	1650	深凹多数	深凹多数	深凹多数		安山岩、破断面にも凹
398	127	400	SB 5 3 3 7	91	312	263	173	10250	深凹多数	深凹多数	深凹多数		安山岩
398	127	401	SB 5 3 4 2	19	182	141	95	2260	深凹多数		深凹多数		安山岩
398	127	402	X II -2 下面 M-10	5	305	256	95	5800	深凹多数		磨		火山岩
398	-	403	X II -2 N-1	5	174	165	124	2590	深凹多数	小凹	深凹多数		安山岩

表58-(1) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物観察表

磨石類

図版	P L	No.	遺構名	出土位置	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	使用痕			備考
									表面	側面	裏面	
395	126	339	SB5310	3L	80	58	20	130	磨		磨	輝石安山岩
395	126	340	SB5316	67	90	67	19	150	磨	敲	磨	黒色付着物
395	-	341	SB5316	88	88	33	17	80	磨		磨	
395	126	342	SB5338	床 53	96	92	27	370	磨	磨	磨	輝石安山岩
395	126	343	SB5340	45	107	78	29	390	磨	磨	磨	安山岩、表面光沢
395	-	344	SB5342	敷石 19	97	58	20	175	磨		磨	輝石安山岩
395	126	345	SB5343	床 77	67	35				磨		
395	126	346	SB5345	床 4	68	61	16	95	磨		磨	堆積岩
395	126	347	SB5340	56	73	78	71	585	磨・敲	磨・敲	磨・敲	被熱
395	126	348	SB5341	5	107	79						
395	126	349	SB5313a	2L	53	51	13	50	磨		磨	堆積岩、磨きを使用
395	-	350	SB5338	29	56	46	12	45	磨		磨	磨きを使用
395	126	351	SB9001	33	74	68	36	260	磨		磨	輝石安山岩
395	-	352	XII-2上面	!M20S54	53	45	37	135	磨	敲		千曲川上流砂岩
395	126	353	SB5340	28	57	47	15	50	磨		磨	磨きを使用
395	126	354	SB9007	2L	38	34	7	10	磨		磨	磨きを使用
395	-	355	SB5312	床面28	101	88	56	700	磨・凹		磨・凹	輝石安山岩
395	126	356	SB5316	柄石	94	81	54	380	凹		凹	浅間輝石安山岩
395	126	357	SB5316	172	93	82	65	415	凹	敲・凹	凹	浅間輝石安山岩
395	-	358	SB5316	16	93	64	48	270	凹		凹	輝石安山岩
395	-	359	SB5319	1	113	77	45	570	磨・凹		凹	輝石安山岩、磨痕顕著
395	126	360	SB5321	29	156	68	48	690	磨・凹		磨・凹	輝石安山岩
395	126	361	SB5321	34	125	79	57	590	凹		凹	浅間輝石安山岩
395	-	362	SB5321	23	114	102	42	630	磨・凹	敲	磨・凹	角閃石安山岩
395	126	363	SB5324	57	102	95	59	840	磨・凹	敲	凹	八ヶ岳産角閃石サイト
396	126	364	SB5337	333	119	88	39	500	磨・凹		磨・凹	輝石安山岩
396	126	365	SB5340	44	113	86	52	400	凹	敲	凹	浅間輝石安山岩
396	-	366	SB5340	7	100	85	44	400	凹	敲	凹	輝石安山岩、下部欠
396	-	367	SB5324	25	145	125	103	1460	凹	敲	凹	安山岩か
396	126	368	SK9071	11	125	85	41	490	磨・凹	敲	磨・凹	安山岩
396	-	369	SH5101	1	106	96	48	620	磨・凹	敲	磨・凹	
396	126	370	SH5101		90	89	41	460	磨・凹	敲	凹	輝石安山岩
396	126	371	SB5337	29	84	94	85	810	磨	敲	磨	輝石安山岩
396	126	372	SB5316	30	90	30	25	110		敲		閃緑岩
396	126	373	SB5316	131	173	74	28	510	磨	敲	磨	輝石安山岩、磨明確
396	126	374	SB5338		73	61	37	250	磨	敲	磨	輝石安山岩、片側面敲き顕著
396	-	375	SB5324	51	14	46	34	330	磨・凹	敲	磨	下端に赤色付着物
396	126	376	SB5324		19	47	31	430	凹		凹	砂岩
396	126	377	SB5350		156	52	48	530		敲		粘板岩
396	-	378	SB5350	炉石 13	156	48	39	510	磨?			
396	-	379	SK9071	トレ	103	59	45	355	磨・凹	敲	磨・凹	輝石安山岩

軽石製品

図版	P L	No.	遺構名	出土位置	類型	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
397	-	398	SB5328	2層	多孔石形	120	139	94	590	表面凹
398	127	404	SB5311	壁外	軽石製斧	62	37	16	10	表面上部貫通孔、側面から未貫通孔
398	-	405	SB5321	中層	軽石製斧	65	43	12	20	
398	-	406	SB5321	中層	軽石製斧	58	39	11	10	
398	-	407	SB5324	93	軽石製錘	62	60	20	30	両端の打ち欠きと紐擦痕あり
398	127	408	SB5328	6	軽石製斧	84	55	17	30	側面上部貫通孔
398	127	409	SB5325	2L	軽石製斧	61	42	12	15	表面上部貫通孔
398	-	410	SB5338	5	軽石製斧	50	47	15	0.5	平面・側面上部貫通孔、側面貫通孔部分で割れ
398	127	411	SB5344	埋土	軽石製斧	55	37	16	25	表面上部貫通孔
398	127	412	SB5328	2L	軽石製錘	50	35	24	15	中心貫通孔
398	127	413	SB5310	3L	軽石製鉢	29	22	10	0.4	1/2欠損
398	127	414	SB5338	周環中 43	軽石製鉢	37	43	15	15	破片
398	127	415	SB5343	中層	軽石製鉢	75	80	28	70	平面円形
398	127	416	XII-2包含層	I N13-J05	軽石製鉢	59	81	19	40	平面隅丸三角形
398	127	417	SH5101	1	軽石製鉢	110	131	28	430	平面楕円形
389	-	418	SB5325	5~8層	軽石石皿	64	65	31	70	1/2欠損

砥石

図版	P L	No.	遺構名	出土位置	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	使用痕		備考
									表面	裏面	
399	127	419	SB5317	石20	98	48	30	210	縦方向線条痕	縦方向の線条痕	頁岩、断面三角形
399	127	420	SB5311	壁外	127	77	22	215	縦方向に溝上痕		砂岩

表58-(12) 屋代遺跡群XII-2層出土石製遺物観察表

石製品

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	製作属性	使用痕	備考
399	127	423	SK5552	1L		52	36	9	50	袋状成形か		自然礫の可能性もある
399	127	424	SB5336	炉		155	64	28	490		屈曲部敲痕	
399	127	426	SB5324	99	無頭石棒	480	44	40	1460	敲打→研磨		緑泥片岩か、上部斜めに成形、帯状に敲打
399	127	427	SB5324	35	無頭石棒	325	73	61	2310	敲打→研磨		緑泥片岩、上部斜めに成形、下部欠損
399	127	428	SB5324	36・87	無頭石棒	245	96	103	3600	敲打→研磨	切断→摩耗	安山岩、故意に切断使用、破断面に黒色付着物
399	127	429	SB5324	6・63	無頭石棒	315	110	114	4800	敲打→研磨	柄部切断	安山岩、破断面に黒色付着物、研磨弱い
399	127	430	SB5319	43	台形石棒	130	160	124	2920	敲打→研磨	基部切断	安山岩
400	128	431	SB5316	119	有頭石棒	124	50	38	342	研磨成形	頭部敲打、柄部切断	緑泥片岩か
400	128	432	SB5324	43	有頭石棒	135	75	57	675	研磨成形	頭部敲打、柄部切断	
400	128	433	SB5324	34	有頭石棒	103	84	77	660	敲打→研磨	切断	安山岩、頭部に黒色付着物
400	128	434	XII-1下包含層	IN15	有頭石棒	97	100	100	1140	敲打→研磨	柄部切断	安山岩、頭部に黒色付着物
399	127	421	SB5316	1L	異形凹石	56	47	21	80	凹と内部加工		チャート
399	127	422	SB9001	14	異形凹石	86	68	60	385	楕円形溝作出		砂岩
399	-	425	SH5101		異形凹石	80	100	24	220	凹と内部加工		安山岩、自然石中央に凹みを作出
400	128	435	SB5343	94	異形凹石	94	65	43	300	凹と内部裝飾		堆積岩、異形凹石の典型例
400	-	436	SK5563	36	異形凹石	89	71	44	340	凹と内部裝飾		安山岩
400	128	437	SB5312	トレ	有孔石	77	64	14	80	表面三角形の孔		砂岩
400	128	438	SB5316	213	有孔石	67	40	23.5	70	ほぼ中央に孔		堆積岩、自然凹溝中に手を加えたか
400	128	439	SB5316	1L	有孔石	67	31	24	60	木貫通孔		
400	128	440	SB5328	P11	有孔石	42	29	10	20	片面穿孔か	磨	穿孔の可能性ある
400	128	441	SB9001	1L	有孔石	53.5	31	21	40	片面穿孔か		表面に2カ所刻み
400	128	442	SB9007	2L	有孔石	42	44	16	44	上部に孔	数カ所敲	
400	128	443	XII-2下包含層	IS4 P22	有孔石	55	46	28.5	110	上部に孔		堆積岩
400	128	444	SK5812	床		41	32	20	30	三角形に加工		玉髓

石製装身具

図版	PL	No.	遺構名	出土位置	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	製作属性	使用痕	備考
400	128	445	SB5325	2L	垂飾	ヒスイ輝石岩	20	11	8	0.1	研磨、片面穿孔	-	裏側に未穿孔あり
400	128	446	SK5574	1	垂飾	透緑閃石岩	34	17	8	0.8	研磨、片面穿孔	-	-
400	128	447	SK5576	-	垂飾	ヒン岩	24	24.5	7	4	敲打痕残、両面穿孔	-	-
400	128	448	SB5335	1	垂飾	珪質頁岩	19	22	4	0.2	横後方の擦痕	-	垂飾か
400	128	449	XII-2層-1包含層	IS17J66 石器1	垂飾	滑石片岩	31	6	5	0.1	研磨	-	448と類似した形態の垂飾か
400	128	450	XII-2層-1包含層	S13 P61	玉	ヒン岩か	44.5	14.5	4	0.1	研磨	-	上部薄手
400	128	451	SB5335	80	玉	透緑閃石岩	24	21.5	4	0.2	-	-	-
400	128	452	SK5741	1L	玉	不明	23.5	12	10	0.1	研磨	表面被熱による皮膜	表面に溶解皮膜
400	128	453	SB5340	1L	垂飾	珪化イタイト	30	24	8	10	晶洞を利用して加工	-	-

また、XIV-1c層I-H-25地区出土の垂飾品1点およびXII-2層遺構出土石棒2点が緑泥片岩製であることが解った。分析外資料の石棒の中にも同様な素材と推測されるものが複数認められる。緑泥片岩は片理の著しい結晶片岩で、飛驒外縁帯の他、秩父帯や三波川帯でも産する。

XII-2層検出遺構出土の磨製石斧のうち7点が、変成岩の一種である角閃岩製と認定された。角閃岩の外観は蛇紋岩に類似するが角閃石、斜長石、白雲母が主成分となっている。資料に含まれていた角閃石は普通角閃石ではなく、ナトリウムを含み、マグネシウムが少なく、アルミニウムが多い種類と推定されている。産地としては飛驒外縁帯のうち青海川・大所川上流などが知られる。

実際の蛇紋岩製のものもXV層～XIV層包含層や遺構出土の磨製石斧の中に3点確認された。蛇紋岩は飛驒外縁帯の他、三波帯の東に並行する御荷鈴帯や佐久山地の南にも産地がある。また、滑石片岩は中期後葉の垂飾と磨製石斧に1点ずつ、透緑閃石岩より鉄が若干少ない滑石透閃石片岩はXII-2層検出遺構出土の磨製石斧1点に確認された。

今回確認された遠隔地石材のうち中期前・後葉を通じて使われているものは透緑閃石岩、緑泥片岩で、ヒスイ輝石岩、角閃岩、滑石片岩、滑石透閃石片岩は中期後葉、蛇紋岩は前葉に限られた。これらの産地のうち共通するのはヒスイ産地の周辺の飛驒外縁帯であろうが、すべてが類似したエリアからもたらされたのか、八ヶ岳を越え、あるいは千曲川上流も含めた地域からもたらされたグループもあったのか、今後それらの入手方法や、入手経路が課題となろう。

表59 X線マイクロアナライザーによる石材分析

検出層	掲載章	器種	報告番号	分析番号	遺構名	層位	多い元素	やや多い元素	少ない元素	ごく少ない元素	岩石名
XV層上	3章	磨製石斧	5	11	包含層	IM20石2	Si・Mg	—	Fe	Al	蛇紋岩
XIV-1c	3章	磨製石斧	46	10	包含層	I20J77	Si	Al・Mg	Ca・Fe・K	Na・Ti	透緑閃石岩
XIV-1c	3章	石製装身具	70	7	包含層	I H25J47	Si	Al・Mg・Ca	K・Fe	Na	緑泥片岩
XIV-1b	3章	磨製石斧	44	36	SQ7003	炭L1178	Si	—	Al・Fe	Na・Mg・D・S・K・Ca	頁岩
XIV-1b	3章	磨製石斧	47	35	SQ7003	H25J25	Si	—	Mg・Ca	Al・Fe	透緑閃石岩
XIV-1b	3章	磨製石斧	50	34	包含層	I N8J65	Si	—	Mg・Ca	Al・K・Fe	透緑閃石岩
XIV-1b	3章	磨製石斧	48	12	包含層	I N2J07	Si	Mg・Ca	Al・Fe	—	透緑閃石岩
XIV	3章	磨製石斧	49	25	包含層	I N5	Si	Mg	Fe	Al	蛇紋岩
XIV-1~XIII-4	4章	磨製石斧	45	21	SQ7003	UL	Si・Mg	—	Al	Na	蛇紋岩
XII-2	5章	磨製石斧	329	37	SB5311	炉	Si	Al	Na・K・Ca・Fe	Mg・Ti	角閃岩
XII-2	5章	磨製石斧	316	16	SB5312	1L27	Si	Mg	Al・Ca・Fe	—	滑石透閃石片岩
XII-2	5章	磨製石斧	319	14	SB5316	床	Si	Al・Mg・Ca	Fe	—	滑石片岩
XII-2	5章	磨製石斧	317	15	SB5316	2L	Si	Al	Mg・K・Fe	—	頁岩
XII-2	5章	磨製石斧	328	13	SB5316	142	Si	Al	Na・K・Ca・Fe	Mg	角閃岩
XII-2	5章	磨製石斧	318	30	SB5319	石18	Si	—	Al・Na・K・Ca	Mg	角閃岩
XII-2	5章	磨製石斧	332	33	SB5319	石21	Si	—	Mg・Al・Ca・Fe	Na・K・Ti	透緑閃石岩
XII-2	5章	磨製石斧	323	31	SB5321	石27	Si	—	Mg・Al・Ca・Na・Fe	K・Ti	角閃岩
XII-2	5章	磨製石斧	320	22	SB5321	—	Si	—	Mg・Al・Ca	Na・K	頁岩
XII-2	5章	磨製石斧	334	23	SB5323	3L	Si	Al・Ca	Na・Fe	Mg・Ti・K	角閃岩
XII-2	5章	磨製石斧	322	26	SB5340	床	Si	—	Mg・Ca	Na・Al・Fe	透緑閃石岩
XII-2	5章	磨製石斧	326	32	SB5340	1L	Si	—	Mg・Ca・Fe	Na・Al・K	透緑閃石岩
XII-2	5章	磨製石斧	330	24	SB5342	UL I N14J53・54	Si	—	Mg・Al・Ca・Fe	Na・Ti	角閃岩
XII-2	5章	磨製石斧	324	19	SB9002	石3	Si	Mg・Ca	Fe・Al	—	透緑閃石岩
XII-2	5章	磨製石斧	325	20	SB9004	—	Si	Al	Mg・Ca・K・Fe	Na	珪質頁岩
XII-2	5章	磨製石斧	336	27	ST5110	—	Si	Al	K	Na・Mg・Ca・Ti・Fe	角閃岩
XII-2	5章	磨製石斧	335	29	SK9032	—	Si	—	Mg・Ca	—	透緑閃石岩
XII-2	5章	磨製石斧	333	28	SK9038	I J21石2	Si	Mg	Ca	Al・Fe	透緑閃石岩
XII-2	5章	石棒	—	40	SB5319	柄埋土	Si	—	Al・Mg	K・Ca・Fe	緑泥片岩
XII-2	5章	石棒	427	42	SB5324	85	Si	—	Mg・Al・K・Ca・Fe	Na	緑泥片岩
XII-2	5章	石製装身具	445	6	SB5325	2L	Si	Al	Na・Ca	Mg	ヒスイ輝石岩
XII-2	5章	石製装身具	448	4	SB5335	1L	Si	Al	K	Mg・Ti・Fe	珪質頁岩
XII-2	5章	石製装身具	451	5	SB5335	石80	Si	Mg・Ca	Al・Fe	—	透緑閃石岩
XII-2	5章	石製装身具	453	9	SB5340	1L	Si	—	Al	K・Fe	珪化したアイト
XII-2	5章	石製装身具	446	1	SK5574	1L	Si	Mg・Ca	Al・Fe	—	透緑閃石岩
XII-2	5章	石製装身具	447	3	SK5576	1L	Si	Al	Ca・Na・Mg	K・Fe	ヒン岩
XII-2	5章	石製装身具	452	8	SK5741	1L	Si	—	Al・Cl・K・Ca	Mg	溶融皮膜のため不明
XII-2-1	5章	石製装身具	449	2	包含層	I S17J66石器1	Si・Al	Mg・K	Fe	Ti	滑石片岩

(4) 石製遺物の遺構からの出土状況

A 概要

XII-2層検出遺構のうち石製遺物が出土した遺構は計293基あり、その中から計21,171点の石製遺物が検出されている。遺構内出土の石製遺物は、剥片石器類6,021点、礫石器・搬入礫15,150点に類別される。このうち竪穴建物跡（計48軒）からは、遺構内出土の石製遺物の82%にあたる17,273点が出土している。

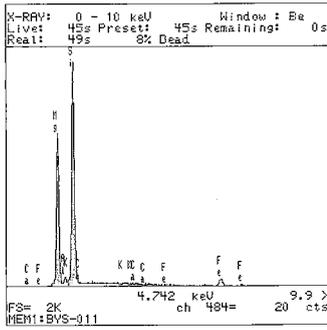
竪穴建物跡1軒あたりの石製遺物の出土量は平均359点、剥片石器類に限っても平均100点を数える。竪穴建物跡のなかで最も剥片石器類の出土点数が多いのはSB5339で、次いで多い順にSB5340・5335・5345・5316となる。礫石器では多い順にSB5316・5314・5338・5324・5337となる。剥片石器類が100点以上出土した竪穴建物跡（計21軒）のなかで、剥片石器（製品）の割合が高いものはSB5324・5343・5321・5345・5337・5340がある。逆に製品率の低い竪穴建物跡ではSB5339・9001・5311がある。

B 主要石器別の出土状況

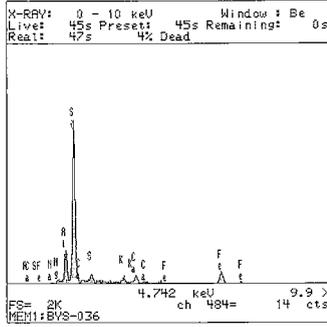
剥片石器出土状況 石鏃が最もまとまって出土したのはSB5339で、次いでSB5340・5335・5310・5341となる。小形両面調整石器ではSB5321が最も多く、次いでSB5340・5339・5332・5325となる。石錐はSB5340・5345から、楔形石器はSB5350から、小形削器類はSB5340・5341からまとまって出土している。

打製石斧が最もまとまって出土したのはSB5345で、次いでSB5343・5337・5316・5324・5325・5338・5340となる。またSB5316・5319・5324・5328・5337・5345からは完形の打製石斧がまとまって出土している。大形削器類が最もまとまって出土したのはSB5340で、次いでSB5324・5343・5345・5337・5319となる。磨製石斧はSB5316・5340からまとまって出土している。また小形の微細剥離を有する剥片は、SB5328・5335・5340・5341・9001からまとまって出土している。大形の微細剥離を有する剥片は、

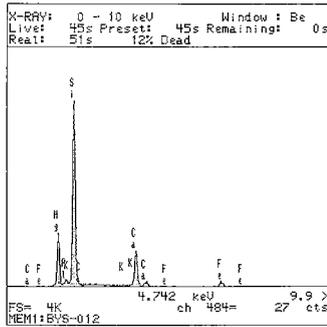
XV



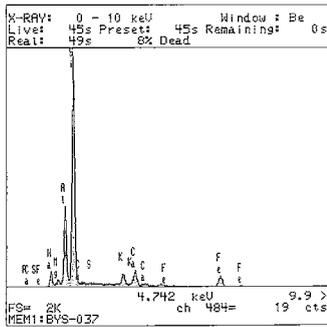
11. 包含層 磨製石斧



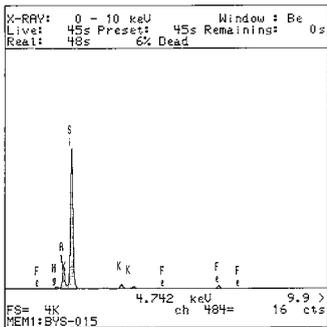
36. SQ7003 磨製石斧



XII-2 12. 包含層 磨製石斧

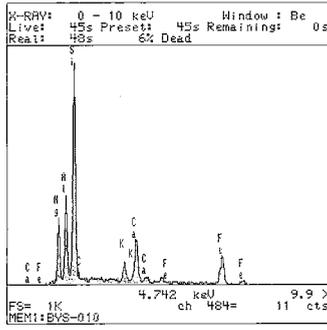


37. SB5311 磨製石斧

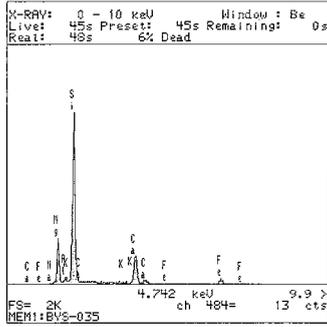


15. SB5316 磨製石斧

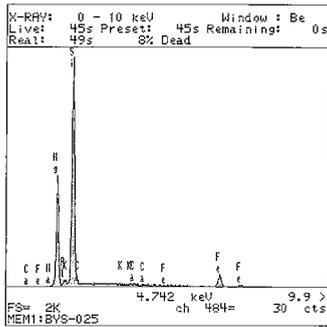
XIV



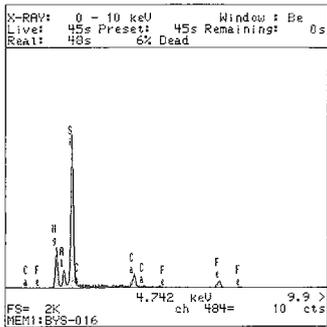
10. 包含層 磨製石斧



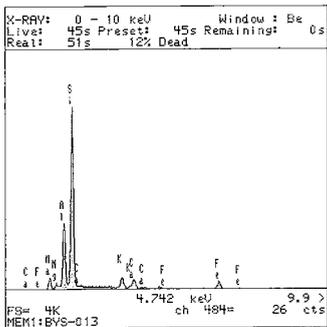
35. SQ7003 磨製石斧



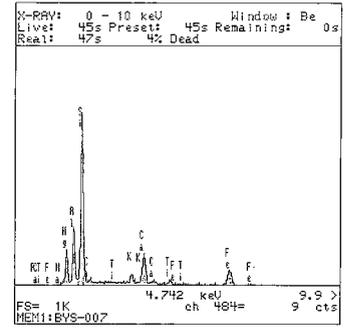
25. 包含層 磨製石斧



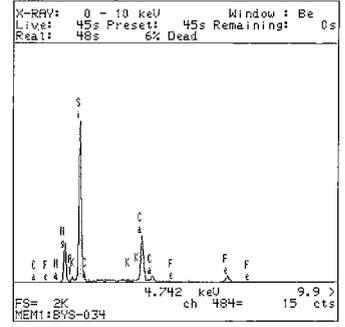
16. SB5312 磨製石斧



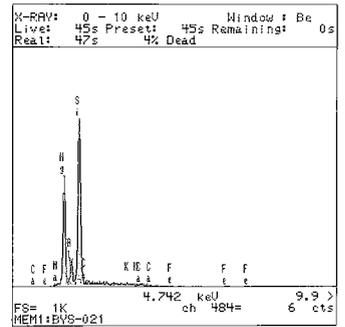
13. SB5316 磨製石斧



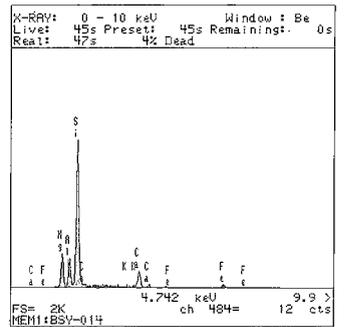
7. 包含層 装身具



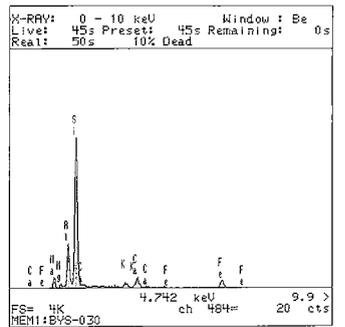
XIV-1 ~ XIII-3 34. 包含層 磨製石斧



21. SQ7003 磨製石斧



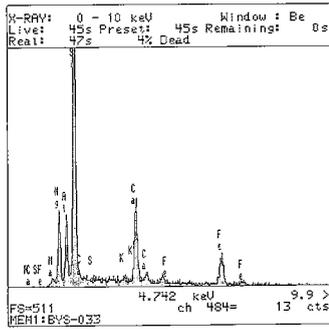
14. SB5316 磨製石斧



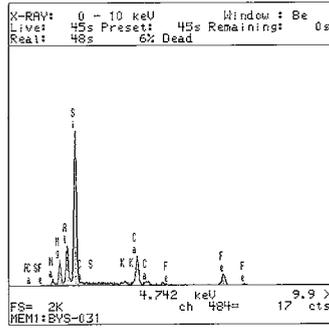
30. SB5319 磨製石斧

図48-(1) EPMA分析チャート

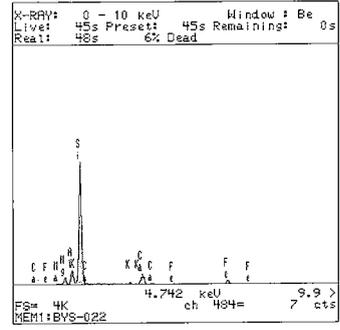
※分析番号 遺構名 器種名を欄外に表記



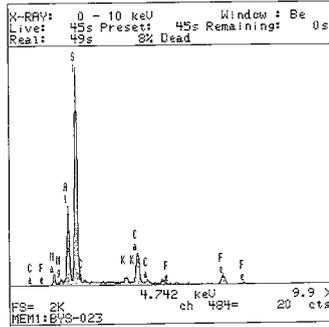
33. SB5319 磨製石斧



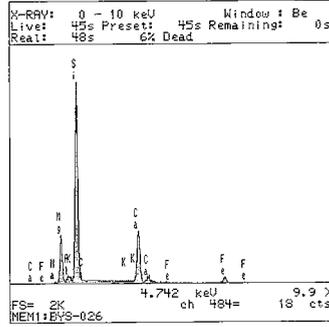
31. SB5321 磨製石斧



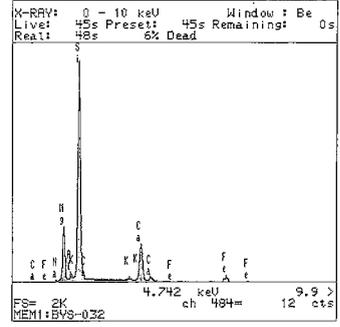
22. SB5321 磨製石斧



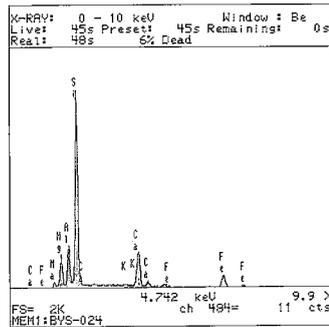
23. SB5323 磨製石斧



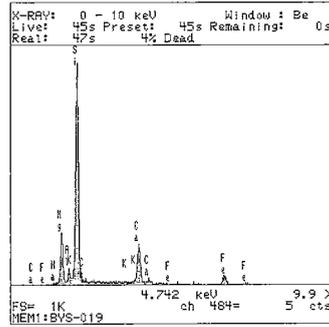
26. SB5340 磨製石斧



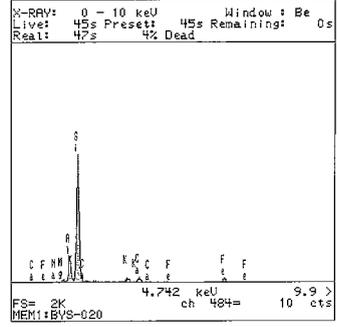
32. SB5340 磨製石斧



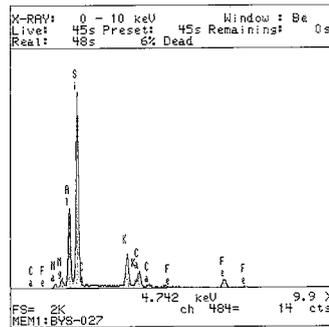
24. SB5342 磨製石斧



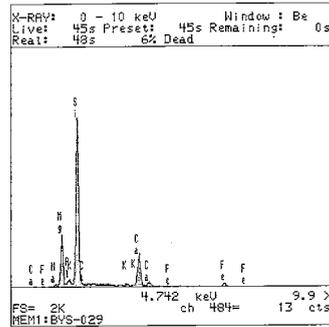
19. SB9002 磨製石斧



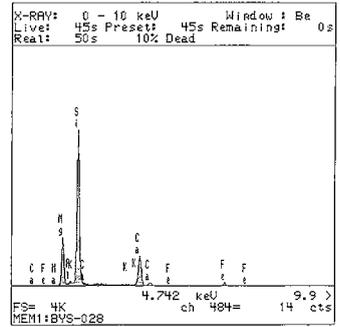
20. SB9004 磨製石斧



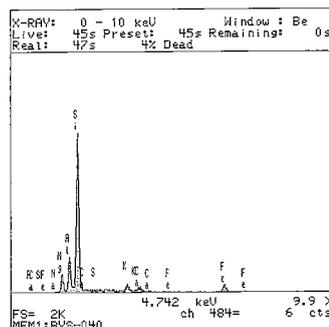
27. ST5110 磨製石斧



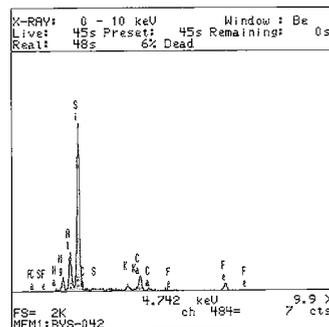
29. SK9032 磨製石斧



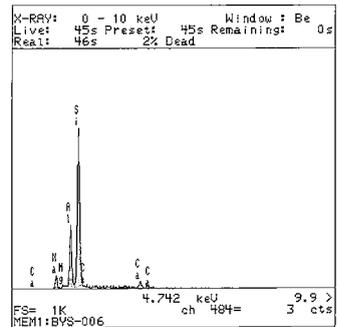
28. SK9038 磨製石斧



40. SB5319 石棒



42. SB5324 石棒



6. SB5235 装身具

図48-(2) EPMA 分析チャート

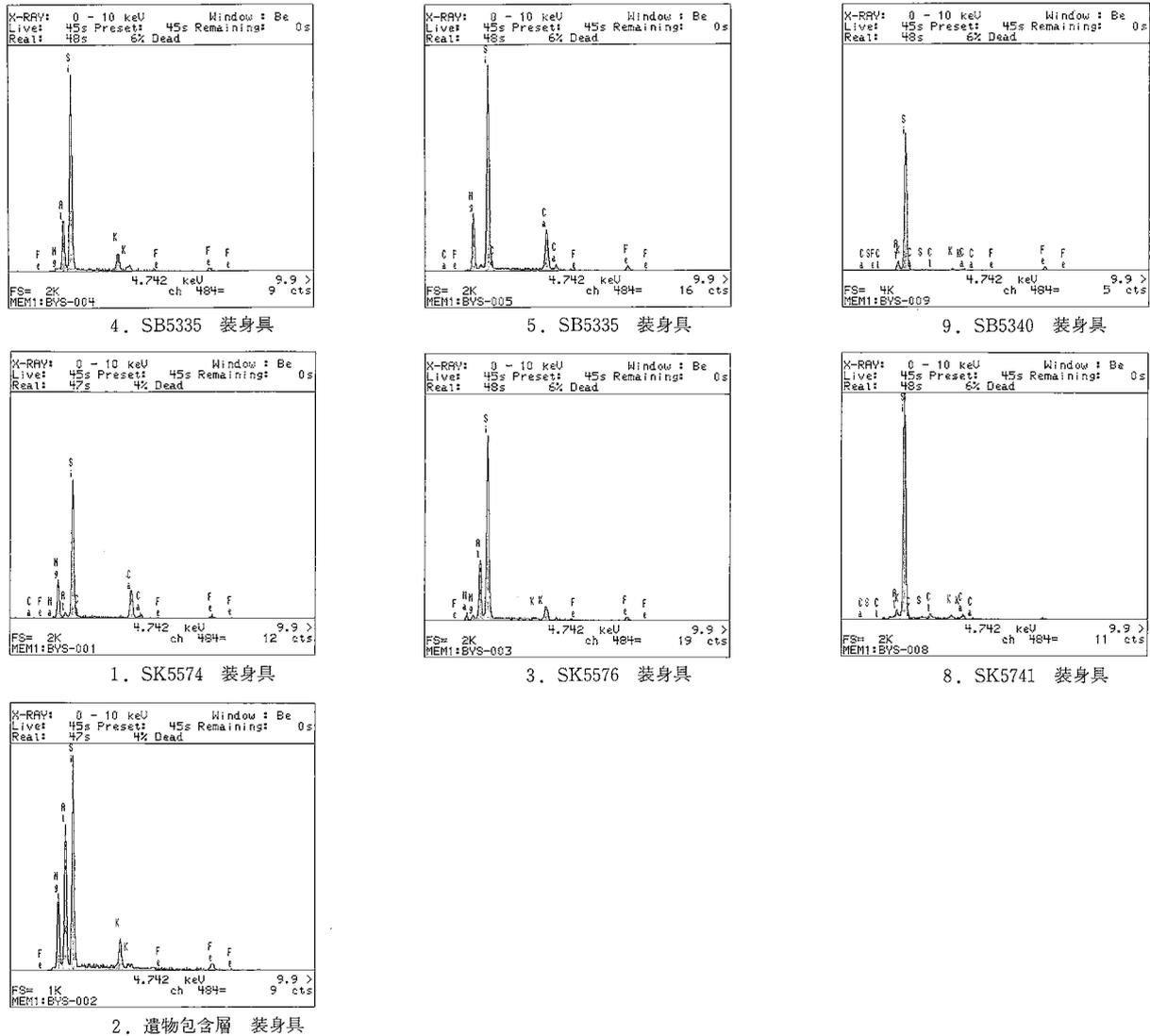


図48-(3) EPMA 分析チャート

SB5319・5337・5340・5343・5345からまとまって出土している。

礫石器出土状況 磨石類はSB5314・5319・5324・5337・5340・5345からまとまって出土した。石皿類は、SB5316・5336が特に多い。多孔石はSB5316、SB5319・5324・5335・5337・5345で複数出土しその他焼土跡付近で出土したものが多い。石棒はSB5316やSB5319でも出土しているが圧倒的にSB5324の周礫付近から出土している。これに対し、石棒と対をなす異形凹石は柄鏡形住居跡であるSB5316から1点出土したものの、その他は堅穴住居跡や土坑、SH5101出土である。石製装身具類はSB5335で2点出土した他は明確な偏りは見られなかった。

C XII-2層出土の剥片石器の変遷（堅穴建物跡出土遺物を中心に）

ここでは堅穴建物跡から出土した剥片石器の変遷を、遺構の切り合い関係や共伴する縄文土器の編年観をもとにまとめる。

XII-2層の堅穴建物跡の縄文土器の出土状況は、埋甕・床面・埋土の一連の遺物が型式上、一型式もしくは二型式の範囲でおさまり、多時期の土器型式が混入する割合が少ないことがわかっている。したがって堅穴建物跡の構築から埋没に至る過程、つまり出土状況における埋甕・床面・埋土といった一連の過程は、出土した縄文土器の型式上、極めて短期間であったことがわかっている。これは遺構内において共伴する石製遺物が土器群と共時的関係にあることを示している。

表60 XII-2層検出遺構内出土の剥片石器類時期別利用石材

期	ガラス質						計
	チャート	黒曜石	珪質頁岩	安山岩	粘板岩	その他	
2b~3a	600.5	511.8	39.1	719.5	12248.9	584.6	14704.4
3b	907.8	292.9	116.6	1044.6	16802	561	19724.9
3c	1356	151.3	167.3	529.7	22509.2	530.1	25243.1
4	877.5	252.4	107	728.2	23925.1	849.7	26739.9
3a~3b	406.4	323.3	4.7	254.5	8601.1	108.8	9698.8
3c~4	669.6	106.2	5.5	1182.4	10394.2	474.1	12832.0
計	4817.3	1637.9	440.2	4458.9	94480.5	3108.3	108943.1

各竪穴建物跡から出土した石製遺物は、ほとんどが遺構内の埋土中に包含され、わずかに床面・床直からの出土をみる。このことからここでは竪穴建物跡の時期を、埋甕構築段階から埋土形成段階に至る時間幅をもってとらえる。そのうえで10章第1節に基づき、竪穴建物跡の埋土出土遺物を時期区分すると、次の4期に分かれる。

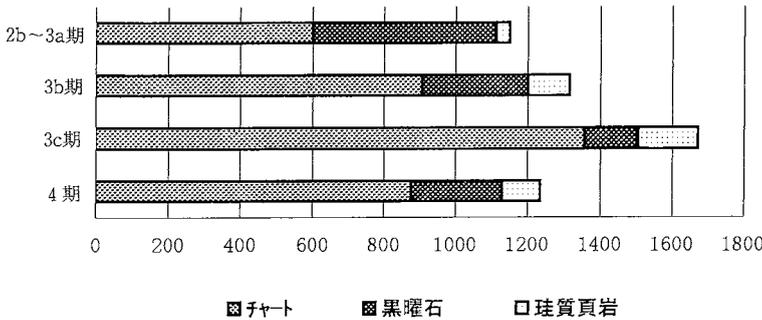


図49 XII-2層時期別利用石材重量比率（粘板岩以外）

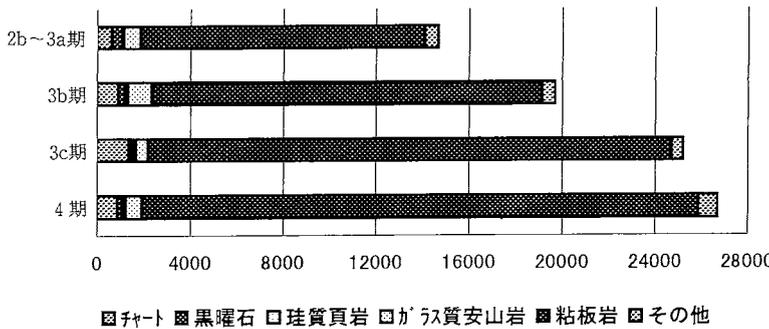


図50 XII-2層時期別利用石材重量比率（全石材）

2b~3a期 SB5307・5309・5311・5313・5329・5334・5341・5350・6701・9001・9002

3b期 SB5318・5328・5331・5332・5335・5345・5346・5351・9005

3c期 SB5315・5316・5317・5321・5325（～3層）・5336・5343・5344・6703・9004・9007

4期 SB5324・5337・5339・5340・5342・5348

以上の竪穴建物跡出土の石製遺物を中心に検討を進めるが、これを補足する資料として3a~3b期（SB5310・5312・5323・5326・6702・9003・9006）と3c~4期（SB5314・5319・5325・5338）がある。

① 時期別点数・利用石材

剥片石器類の合計点数では2a~3a期（856点）、3b期（1,031点）、3c期（808点）、4期（1,199点）となる。これを利用石材の重量の合計でみると、チャートや粘板岩では3b期以降、増加傾向にあるのに対し、黒曜石では逆に2a~3a期以降、減少傾向にある。

② 石鏃

石鏃の合計点数では2b~3a期（23点）、3b期（34点）、3c期（12点）、4期（33点）となり、3c期の減少が特筆される。形態別では尖基式鏃（A1・A2類）は3b期以降に現れる。凹基式鏃でコの字状の袢り部を有するもの（D5類）は4期が主体となる。その他の凹基式鏃（D1~D3類）は各期を通じて見られる。

③ 小形両面調整石器

合計点数では2b~3a期（4点）、3b期（18点）、3c期（23点）、4期（23点）となり、3b期以降、飛躍的に増加する。形態別でも同様の傾向が看取される。

④ 石錐

合計点数では2b~3a期（5点）、3b期（6点）、3c期（4点）、4期（10点）となり、4期に増加の傾向がある。形態別でも同様の傾向が看取される。

⑤ 小形削器類

合計点数では2b~3a期（4点）、3b期（8点）、3c期（10点）、4期（8点）となり、3b期以降、増加傾向にある。形態別では、同様の傾向が看取される。

⑥ 大形削器類

合計点数では2b～3a期(19点)、3b期(25点)、3c期(43点)、4期(49点)となり、2b～3a期以降、増加傾向にある。形態別では、削器(A1類)が3b期に増加のピークが認められるのに対して、背付削器・背部加工剥片(B・C類)は3c・4期にピークが認められる。

⑦ 打製石斧

合計点数では2b～3a期(27点)、3b期(50点)、3c期(49点)、4期(51点)となり、2b～3a期以降、増加傾向にある。形態別では、短冊形の打製石斧(A1類)は同様の増加傾向が看取されるのに対し、撥形(A2類)は2b～3a期が主体となる。

⑧ 磨製石斧

合計点数では2b～3a期(2点)、3b期(3点)、3c期(6点)、4期(5点)となり、3c期以降に増加する。

⑨ 微細剝離を有する剥片(小形)

合計点数では2b～3c期(85点)、3b期(72点)、3c期(32点)、4期(61点)となり、2b～3a期以降、減少傾向にある。

⑩ 微細剝離を有する剥片(大形)

合計点数では2b～3a期(46点)、3b期(81点)、3c期(68点)、4期(74点)となり、3b期以降、飛躍的に増加する。

4 骨角器

A 角器 (PL128)

後葉3a期に属するSB5311の2層より角器が1点検出された。

素材は鹿角と推定される。現存長7.0mm、断面形状は楕円であり、切断面において長径5.0mm、短径3.6mmを測る。ヤスなどの先端かと考えられる。非常に丁寧な整形が行われており、先端に向かって同一方向の微細な擦痕が多量にみられる。なお、この角器は熱を受けている。

B 骨器 (図版400-1)

遺物包含層XII-2層-2から有孔刺突具が出土している。素材はニホンジカ(*Cervus nippon*)で、脛骨(右)後面近位端より、膝下筋線の一部が観察される。

穿孔部は左上に1ヶ所が完全に残り、右上にその痕跡が1ヶ所認められる。穿孔は表裏両面から行われている。穿孔部が本来2ヶ所とすると、その形状は二等辺三角形を逆さにしたものに近かったと推定される。下端には欠損が認められることから、装飾品ではなく、やや長い先端を有する刺突具ではなかったかと推定される。このことは、研磨や顔料の塗布が認められないことから首肯されよう。全体にみられる光沢は、長い使用による「手ズレ」によるものであろう。

表61 骨角器観察表

図版	No.	PL	遺構名	時期	出土動物遺存体			備考
					種名	部位	数量	
—	2	128	SB5311	後葉3a期	角器	先端?	1	被熱、非常に丁寧な整形
400	1	128	XII-2層-2N13J27	中期後葉	骨器	頸骨(右)	1	穿孔2カ所、被熱

第6章 縄文後期前半（XII-1・XI・X層）の遺構と遺物

第1節 概観

本章では、XII-1層・XI層・X層で検出された遺構・遺物、および他層位に混入していた縄文時代後期前半の遺物を対象とする。

調査ではまず、重機による掘削を行い、遺構や遺物集中が見られた地区を重点的に平面精査し、さらに断面観察によって遺構の重層が確認された場所を本調査するという手順を踏んだ。その結果XII-1層では、更埴条里遺跡I地区、屋代遺跡群②b区と、④a区～⑥区にかけて遺構や遺物集中が検出された。また、XI層では更埴条里遺跡J地区で遺構が、屋代遺跡群⑥区で遺物の集中が見られた。さらにX層では更埴条里遺跡J・K地区、屋代遺跡群②i・④a・⑥区で遺構が検出された。

第2節 XII-1層検出遺構と遺物

1 XII-1層検出遺構と遺物出土状況

XII-1層検出遺構は、更埴条里遺跡I地区で焼土跡2基、屋代遺跡群④～⑥区で土坑3基、②～⑥区で焼土跡20基と、特に④区に集中するピットである。本検出面になって初めて④a区南側以南に遺構が形成された。これらの遺構周辺では土器が比較的まとまって検出されたため、全体量のみを「遺物包含層出土土器」として表62に提示した。そのうちわけとしては、特に⑥a区M・I地区では後期前葉の土器片が主体的であるのに対し、⑥b区→⑤b区と中期後葉の遺物が多い地区に近づくにつれて、中期末葉土器の量が増加する傾向にある。

(1) 土坑 (SK) (表63)

SK5505-2はXII-1層上面で検出された。1層は特に焼土・炭化物が多く含まれることからここで火が焚かれた可能性もある。SK5878はXII-1層が埋土となっている土坑で、底部はXII-2層面に達する。遺物は特になし。

(2) 焼土跡 (SF) (表64)

第5章と同様にa「平面火床」、b「掘り込み火床」、c「焼土a」、d「焼土b」という分類を行った場合、aが8基、cが12基、dが2基である。更埴条里遺跡ではI区の深掘トレンチでSF803と被熱部分が見られるSF806が検出された。特にSF803では無文土器が出土している(図版401・403)。屋代遺跡群では②b区で検出されたSF202・203のうち、202が本検出面

表62 XII-1層～VIII層包含層出土土器量

検出層	遺跡	仮地区	破片数(個)	総重量(g)
XII-1層	BYS	④g	549	17290
	BYS	⑤a	18	195
	BYS	⑤b	526	19070
	BYS	⑥a	125	2275
	BYS	⑥b	275	4652
合計			1493	43482
X層	BYS	⑥a	15	220
	BYS	⑥b	22	183
合計			37	403
IX層	BKS	A	1	915
	BKS	H	3	40
	BKS	I	19	300
合計			23	1255
IX層上面・VIII層	BKS	E	383	9430
	BKS	F	195	3850
	BKS	G	39	600
	BKS	H	391	7220
	BKS	I	271	5010
	BKS	J	209	3470
	BYS	②f	3	14
	BYS	②i	2	32
	BYS	⑤a	8	138
	合計			1501

※2地区に分付するときは便宜的に多い方へ含めた

に該当する。④g区では、南から東の壁面に5基のSFが集中する(図版142)。また、⑤a区最北部～⑥区にかけては、2～3基で1つの単位を構成するピット群の間に10基のSFが2～8m程度の間隔をおいて列状に並ぶ。特にSF7005で土器が5片出土している。

(3) 杭列(SA)(表65)

④f区北側でSA4802が検出された。形状、規模はXII-2層検出のSA4801と類似し、鍵の手状に屈曲する形態である。

2 XII-1層出土遺物

(1) 土器(表71)(図版401・403)

屋代遺跡群の⑤区と⑥区を中心にして1,499点ほど出土している。遺存状態がよくなく、器面は風化して整形はほとんど読み取れない。2～5、7、10～12は堀之内1式の範疇で良さそうだ。7は称名寺式かもしれないが、6・8はむしろ中期末に属するのではなかろうか。14～18はXII-1層以外で出土した中期末～堀之内1式である。

SF7005出土の2～5は同一個体の可能性がある。体部が緩く張り、いったん屈曲して外傾して開く深鉢で、口縁部は小さく内屈するだろう。体部下半は無文帯となろう。体部下半が残存するが、太い3条の沈線を垂下させ、逆三角形の構図を追加している。沈線内のミガキが顕著なのが特徴である。遺構の時期はこの土器で決定してよいだろう。

包含層の土器は称名寺式がはっきりしない。9は内湾する口縁部に太い縦圧痕を加えている。正体不明だが、後期中葉で関東系の土器の可能性もある。

他時期の包含層に混入した土器では、13は加曾利E式末かとも思えるが、主要な文様帯は単純に渦巻きを並べたのではなく、縄文部分はJ字状の構図をとっているので称名寺1式前半におく。口縁の突起は欠損する。18は13よりは後出的だが、やはり称名寺1式前半だろう。

(2) 石器(表72)(図版402)

A 整理の方法

XII-1層から出土した石製遺物の総点数は、遺構内から出土した計23点である。このうち剥片石器・剥片類・石核は9点、礫石器2点、搬入礫12点がある。そのなかから代表的なもの6点を図化した。

B 概要

XII-1層から出土した剥片石器は、打製石斧(3点)・大形削器類(2点)がある。さらに微細剥離を有する剥片(1点)・剥片(2点)・石核(1点)を組成する。また礫石器では、磨石類(2点)がある。

1は、粘板岩製の打製石斧(A2類)である。下半部に摩耗痕が顕著に認められる。2は粘板岩製の大形削器類(B2類)、3は、粘板岩製の両設打面石核。打面と作業面のなす角度が極めて急斜で、縦断面形が凸レンズ状を呈する。下端部の縁辺がわずかに磨耗していることから、削器類(石核搔器)として機能した可能性がある。4は、安山岩製の磨石類で表面中央部に凹部をとどめる。

表63 XII-1層検出土坑 (SK) 一覧

屋代遺跡群

※断面類型は5章に同じ

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	堆積状況	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SK	4786	4a	XII-1上	I	W21	146	不整形	E	(0.98)	(0.96)	1.9	灰黄褐色	10YR4/2	1層(微細炭化物・焼土)	—	—	—	—	—
SK	5505-2	5b	XII-1	I	S8	146	不整形	C	(1.3)	0.62	0.21	暗褐色~灰黄褐色	10YR3/4~4/2	3層(1層粘性あり炭・焼土多2層ブロック状の粘質土、3層炭・焼土少)	—	—	7・12	402	—
SK	5878	5b	XII-1	I	S12.17	146	不整形	A	1.44	1.4	—	—	—	1層(XII(i)が埋土)	—	—	—	—	—

表64 XII-1層検出焼土跡 (SF) 一覧

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	SF種類	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	堆積状況	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考	
SF	803	I	XII-1	XII	P16.21	139	不整形	焼土b	1.08	0.8	—	1層(焼土・平面的に広がっているのみ)	(縄文晩期)	430(3)480	—	—	401	—
SF	806	I	XII-1	XII	K21	139	不整形	平面火床	0.4	0.39	—	1層(火床)	—	—	—	—	—	—

屋代遺跡群

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	SF種類	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	堆積状況	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考	
SF	202	2b	(XII-1)	VII	O5	139	不整形	焼土a	0.77	(0.7)	0.2	1層(炭化物・焼土粒)	—	—	0・23	—	—	
SF	4802	4g	XII-1上	I	S22	146	不整形	焼土a	0.87	0.73	0.1	1層(炭化物多・焼土粒)	—	—	—	—	—	
SF	4803	4g	XII-1上	I	X1	146	不整形	平面火床	0.87	0.75	0.05	1層(地山が焼けたもの、焼土レンズ状に入る)	—	—	—	—	—	
SF	4804	4g	XII-1上	I	X1.W5	146	不整形	焼土a	1.47	1	0.2	2層(1層焼土・炭化物多、2層炭化物少)	—	—	—	—	—	
SF	4805	4g	XII-1上	I	W5	146	不整形	平面火床	2.25	1.33	0.05	2層(1層火床、2層レンズ状に焼土散る)	—	—	—	—	—	
SF	4806	4g	XII-1上	I	W5	146	楕円形	焼土a	1.4	0.85	0.1	1層(骨片・炭・焼土)	—	—	—	—	—	
SF	4807	4g	XII-1上	I	W5	142	不整形	焼土b	0.93	0.8	—	1層(骨片)	—	—	—	—	—	
SF	6705	5a	XII-1	I	M5	145	不整形	焼土a	(0.55)	0.5	—	1層(ふ5mmの黒色炭3%薄く堆積する。炭化物)	—	—	—	—	—	
SF	7001	6a	XII-1a上~中	I	H20	146	不整形	焼土a	0.8	0.64	0.13	1層(炭化物ブロック多、焼土)	—	—	—	—	—	
SF	7002	6a	XII-1a上~中	I	H25	146	不整形	焼土a	0.6	0.4	0.16	3層(1・3層焼土・炭化物、2層焼土)	—	—	—	—	—	
SF	7003	6a	XII-1a上~中	I	N1	146	不整形	焼土a	0.95	0.68	0.06	3層(1層暗赤褐色・焼土、2層炭化物、3層焼土・炭化物多)	—	—	—	—	—	
SF	7004	6a	XII-1a上~中	I	H25	147	不整形	焼土a	0.5	0.5	0.1	3層(1層焼土、2層炭化物微、3層焼土・炭化物多)	—	—	—	—	—	
SF	7005	6a	XII-1a上~中	I	I21	147	不整形	平面火床	0.9	0.87	0.07	3層(1層焼土多、2層炭化物少、3層焼土多)	堀之内1か	385	—	401	—	
SF	7006	6a	XII-1a上~中	I	I22	147	方形	平面火床	0.5	0.3	0.02	1層(焼土多)	—	—	—	—	—	
SF	7007	6a	XII-3上	I	H25	133	楕円形	焼土a	0.4	0.25	—	1層(焼土・炭化物)	—	—	—	—	—	
SF	7008	6a	XII-1a上~中	I	H25	147	不整形	焼土a	0.67	0.65	0.33	3層(1層炭化物多・焼土少、2層炭化物少、3層1層に類似)	—	—	—	—	—	
SF	8005	6b	XII-1上	I	N8	142	不整形	楕円形	平面火床	1.28	1.02	—	1層(—)	—	—	—	—	—
SF	8006	6b	XII-1上	I	N8	142	不整形	方形	平面火床	1.35	0.55	—	1層(—)	—	—	—	—	—
SF	8007	6b	XII-1上	I	N2.3	142	不整形	平面火床	0.57	0.45	—	1層(—)	—	—	—	—	—	
SF	9001	6b	XII-1	I	J21	142	不整形	焼土a	1.05	0.3	0.08	2層(1層焼土・炭化物多、2層炭化物少)	—	—	—	—	—	

表65 XII-1層検出柵・杭列・材木列など (SA) 一覧

屋代遺跡群

遺構記号	遺構番号	仮地区	Pit数	検出面	大地区	中地区	遺構図	類別	列方向	規模 (m)	材径・柱穴径 (m)	材・柱穴平面形	柱穴断面形	材・柱穴深さ (m)	材間距離 (m)	並行構	遺物図	備考
SA	4802	4f	10	XII-1上	I	R17	142	D	N16°W N86°W	5.4	0.09~0.12	円形	ABC	0.06~0.15	0.3~1.19	なし	—	—

表66 XI層検出土坑 (SK) 一覧

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	堆積状況	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SK	10111	J	XI	IX	Y25	147	不整形	D	1.51	0.91	0.1	—	—	—	—	441	—	—	—

表67 XI層検出焼土跡 (SF) 一覧

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	SF種類	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	堆積状況	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SF	1019	J	XI	IX	Y24	147	不整形	平面火床	0.32	0.28	0.05	1層(火床・炭化物・焼土)	—	—	—	—	—
SF	1024	J	XI中	XI	E8	147	不整形	平面火床	2.45	0.6	—	1層(火床面2ヶ所、地山のXI層が熱をうけ焼土化)	—	—	—	—	—

表68 X層検出土坑(SK)一覽

更埴条里遺跡

※断面類型は5章に同じ

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	堆積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SK	9905	K	X	X	K3.8	147	不整形	D	1.95	1.75	0.28	淡黄色~灰黄褐色	2.5YR8/3~10YR8/3	7層(炭化物、焼土ブロック)	-	-	-	-	-

屋代遺跡群

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	堆積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SK	1122	2i	X	V	S9.14	147	不整形	A	1.02	0.82	0.12	暗赤褐色~褐色	5YR3/2~10YR4/4	2層(粘性弱、細粒子、焼土、炭少)	-	-	-	-	-
SK	1123	2i	X	V	S10	141	不整形	C	0.64	0.48	0.18	にぶい黄褐色~褐色	10YR4/3~4/4	2層(1.2層、粘性弱、細粒子、炭化物、2層のみ炭化物少)	-	-	-	-	-
SK	1129	2i	X	V	S14	147	不整形	A	0.72	0.46	0.06	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性弱、細粒子、焼土少、炭化物)	-	-	-	-	-
SK	1130	2i	X	V	S14	147	不整形	A	0.52	0.4	0.12	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘性弱、細粒子、焼土少、炭化物)	-	3	-	-	-
SK	4783	4a	X	IV	G5	141	不整形	-	(0.84)	(0.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK	4784	4d	X	I	B5-V24・25	148	不整形	C	3.78	0.1	0.61	褐色	10YR4/4	3層(2層炭化物多、3層砂質強)	堀之内2式	40(3)100	-	401	-
SK	4785	4d	X	I	V24.25	147	不整形	C	1.54	(0.1)	0.12	褐色	10YR4/4	1層(炭化物)	堀之内2式	11	-	401	-

表69 X層検出焼土跡(SF)一覽

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	SF種類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SF	1020	J	X	XI	E14	148	不整形	平面火床	0.6	0.22	0.05	2層(1層火床・炭化物、2層熱の土が焼けて変色)	-	-	-	-	-
SF	1021	J	X	XI	E24	148	不整形	平面火床	0.94	0.76	0.06	3層(1層火床、2層被熱部分、3層暗褐色土)	-	440	20・2	403	-
SF	1022	J	X	XI	E8	143	不整形	焼土a	0.45	0.25	-	1層(炭化物、焼土)	-	-	-	-	-

屋代遺跡群

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	SF種類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SF	4503	4f	X	I	W17.18	141	不整形	掘込み火床	3.5	3	0.25	4層(1層火床、2層焼土ブロック・炭化物、3層炭化物多、4層被熱部分)	-	-	-	-	-
SF	4504	4f	X	I	V19.20・24.25	148	不整形	焼土a	(2.74)	-	0.3	2層(炭化ブロック・炭化物)	堀之内2式	180	-	402	-
SF	8002	6b	X	I	N4	144	不整形	平面火床	0.5	-	0.1	1層(火床)	-	-	-	-	-
SF	8003	6b	X	I	N4	148	不整形	焼土b	0.75	0.68	0.8	2層(1層焼土、2層焼土・炭化物)	-	-	-	-	-
SF	8004	6b	X	I	N4.9	148	不整形	掘込み火床	0.75	0.63	0.1	3層(1層焼土・炭化物少、2層火床、3層焼土・炭化物微)	-	-	-	-	-

表70 X層検出遺物集中(SQ)一覽

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	長軸(m)	短軸(m)	標高(m)	土器概要	土器量(g)	内被熱土器(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SQ	904	K	X	X	P7	148	2.15	1.9	-	-	-	-	-	-	-
SQ	1008	J	X	IX	Y9.14	143	2.1	0.87	353.2	堀之内2式	180(1)340	-	-	401	-
SQ	1009	J	X	IX・XI	E10	148	6.95	4.55	353.3	堀之内2式	245(5)280	-	3	401	-

第3節 XI層検出遺構と遺物

1 XI層検出遺構と遺物出土状況

XI層検出遺構は、更埴条里遺跡J地区でSKが1基(表66)、SFが2基(表67)に限定される。このうちSK10111は楕円形の浅い落ち込みで、底面は凹凸が激しい。一方、SF1019とSF1024では弱い被熱痕跡が認められるため、そこで火が焚かれたことが解る。しかしながら、更埴条里遺跡の他の地区や屋代遺跡群全地区では、遺物すら殆どみられず、この時期の活動は全体的に不活発であったと推測される。

2 XI層出土遺物

(1) 石器 (表72) (図版402)

XI層からは、粘板岩製の石核が1点出土している(5)。6は板状礫を素材とし、周縁部を数回加撃しているが、有効な剥片剥離にいたっていない。打製石斧の未製品の可能性もある。

第4節 X層検出遺構と遺物

1 X層検出遺構と遺物出土状況

X層検出遺構は、更埴条里遺跡K地区で土坑1基、J地区でSF3基、J・K地区でSQ3基、屋代遺跡群②i・④a・d区で土坑7基、④f、⑥b区でSF5基である。遺構密度は極めて低いものの、調査対象範囲全域にわたって分散しながら小規模な活動が行われていた状況が看取される。特に更埴条里遺跡での活動が活発化し、この傾向がIX層へと継続していく。また、屋代遺跡群では、⑥区の遺構周辺を中心に土器が比較的まとまって出土している(表62)。

(1) 土坑 (SK) (表68)

更埴条里遺跡K区で確実に人為的な土坑と認定できるものはSK9905のみで、その他は明確な掘方を持たないため風倒木などの可能性が高い。屋代遺跡群②i区と④a・d区には深さ十数cmで焼土が微量含まれる土坑が散在する。このうちSK4784とSK4785からは土器片が出土している。

(2) 焼土跡 (SF) (表69)

更埴条里遺跡J地区で間隔をおいて3基のSFが検出されている。このうちSF1020と1021には明確な被熱部がみられる。特にSF1021とその北西部、直径2m以上の範囲にわたって土器、石器、骨の集中が見られる(図版148)。屋代遺跡群では底面の凹凸が激しく、焼土ブロックが多量に含まれるSF4504中から土器片が18片出土している。また⑥b区南の3基のSFのうち、SF8004には明確な被熱痕跡が認められる。

(3) 遺物集中 (SQ) (表70)

更埴条里遺跡K地区のSQ904では焼土を取り囲むよう

表71 XII-1～X層出土土器観察表

図版番号	PL番号	遺跡名	検出面	書番号	遺構記号	遺構番号	出土位置
401	-	BKS	XII-1	1	SF	803	1
401	129	BYS	XII-1	2	SF	7005	-
401	-	BYS	XII-1	3	SF	7005	-
401	129	BYS	XII-1	4	SF	7005	-
401	129	BYS	XII-1	5	SF	7005	-
401	129	BYS	XII-2上	6	-	-	I I21J11
401	-	BYS	XII-1a	7	-	-	I M5 5
401	129	BYS	XII-1b	8	-	-	I S22I46
401	-	BYS	XII-1a	9	-	-	I M5 2
401	-	BYS	XII-i	10	-	-	I N08I42
401	129	BYS	XII-i	11	-	-	I N08I53
401	129	BYS	XII-1a	12	-	-	I N21 10
401	129	BYS	XII-I下	13	-	-	I S17
401	-	BYS	第4水田	14	-	-	I I11
401	-	BYS	-	15	SD	7036	UL
401	-	BYS	-	16	SD	7040	-
401	-	BYS	-	17	SD	7046	I I13
401	129	BYS	-	18	SD	7036	I H15
401	129	BKS	X層	1	SQ	1008	1・11
401	129	BKS	X層	2	SQ	1009	89・92
401	-	BKS	X層	3	SQ	1009	44・47・69・70・75
401	129	BKS	X層	4	SQ	1009	2・5・19・25・26・27・31・39・SQ1007 17
401	-	BYS	X層	5	SK	4784	-
401	-	BYS	X層	6	SK	4784	-
401	-	BYS	X層	7	SK	4784	-
401	-	BYS	X層	8	SK	4785	-
403	-	BKS	X層	7	SF	1021	8・10~14・16・17・20・22
402	-	BYS	X層	9	SF	4504	-
402	-	BYS	X層	10	SF	4504	-
402	-	BYS	X層	11	SF	4504	-
402	-	BYS	X層	12	SF	4504	-
402	-	BYS	X層	13	SF	4504	-
402	-	BYS	X層	14	SF	4504	-
402	-	BYS	X層	15	-	-	I I25 4
402	-	BYS	X層	16	-	-	I I25 8
402	-	BYS	X層	17	-	-	I I25 9
402	-	BYS	X層	18	-	-	I J16 1
402	-	BYS	X層	19	-	-	I J21 1
402	-	BYS	X層	20	-	-	I I25 10
402	-	BYS	X層	21	-	-	I J21 4
402	-	BYS	X層	22	-	-	I I24
402	-	BYS	X層-1上	23	-	-	I H25(1・2・4・5・6), I H25, I M4(1)
402	-	BYS	X層	24	西壁	-	1
402	-	BYS	X層	26	-	-	I I25 7
402	-	BYS	X層	27	-	-	I J21 5
402	-	BYS	-	28	SD	7042	I H15 UL
402	-	BYS	-	29	SD	7042古	I H15 UL
402	129	BYS	-	30	SD	8032	42L, 45L
402	129	BYS	-	31	SD	8032	42L, 45L
402	-	BYS	-	32	SD	7042	I H15 UL
402	-	BYS	-	33	SD	7045	-
402	-	BYS	-	34	SD	8032	45L下
402	-	BYS	-	35	SD	7038	I I15
402	-	BYS	-	36	SD	7030	I N2 MLL
402	-	BYS	-	37	SD	7030	MLL

※遺構記号は「-」は包含層出土

に土器片13片が、SQ1008では土器片のみ12片が出土している。また、J地区のSQ1009では土器片が90片が集中して出土した。本SQ周辺にも土器の分布が見られる。

2 X層出土遺物

(1) 土器 (図版401・402・403)

更埴条里J区、屋代遺跡群④～⑥区などから87点ほど出土しており、堀之内2式である。28～37はX層以外で出土した同時期の土器で、その中には、堀之内2式の末期的な様相を示す土器も含まれている。

SQ1008出土の1は体部が緩く張り出し、その上限を圧痕付隆帯で画した深鉢。体部上半は無文帯になるだろう。口縁部は欠損するが、沈線や圧痕付隆帯からなる狭い文様帯に突起が付きそうだ。体部はLRIの縄文を地文とし、多条の沈線で弧線を描くが、その構図は鋸歯状に変化している。

SQ1009出土の2は上下を沈線で画した文様帯に三角形を組み合わせたモチーフを描き、LRIの磨消縄文を併用する。3と4は緩く張った体部に最大径をもつ深鉢。器壁はごく薄い精製土器ではなく、かといって標準的な粗製土器とは言えない。SQ1009出土の3点は組み合わせとしては興味深い。

SK4784は破片が小さく、様相は不明である。

SF4504も小破片ばかりだが10と11は縄文を併用した横帯構成をとり、14は圧痕付細隆帯を水平に巡らせる。内面には段に起源する1条沈線が巡る。一応の組み合わせだろう。9は混入か。

⑤・⑥区包含層出土の中では23・24・27は同一タイプだろう。単純に外傾して開く精製深鉢で、口縁部に1条の圧痕付細隆帯をめぐらせ、少々間をおいて主要な文様帯が配置される。モチーフは2などと近似し、三角形の組み合わせである。内面には1条の沈線が巡るが、24では2条に増加し、内面文への展開が窺われる。15～17は混入か。

他時期の層へ混入した資料では30・31・35などが興味深い。30・31は23・24と同一の系統で、隆帯はさらに細く、主文様帯の三角形構図は多条の細線で描出されるなど、変化が生じている。35も文様帯に狭い条間隔で沈線を配置しており、同様の趣向が読み取れる。いずれも堀之内式の末期的な様相だと推測する。

(2) 石器 (表72) (図版403)

A 整理の方法

X層から出土した石製遺物の総点数は、遺構内から出土した計27点である。このうち剥片石器・剥片類は25点、搬入礫2点がある。そのなかから代表的なもの4点を図化した。

B 概要

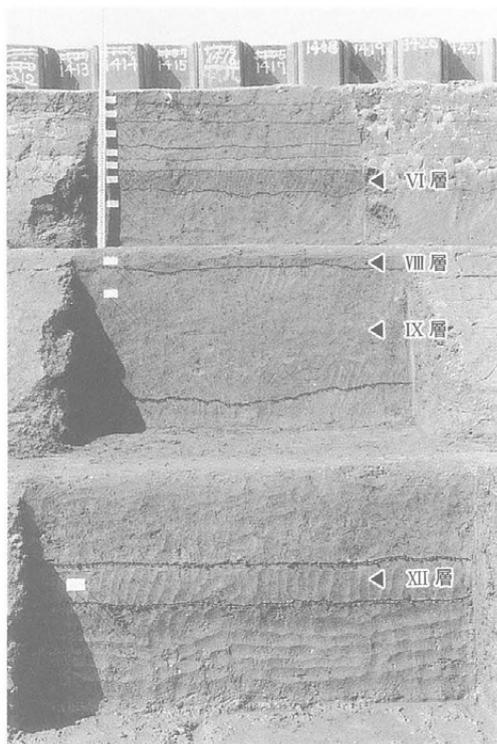
X層から出土した剥片石器は、石鏃3点・石錐1点がある。1は珪質頁岩製の石鏃 (D2類)。脚端部を丸くおさめる。2はチャート製石鏃 (D1類)。先端部を欠損する。3は黒曜石製石鏃。脚端部を丸くおさめる。4は珪質頁岩製の石錐である (B類)。剥片の周縁部を加工し、上端に錐部を作出する。

表72 XII-1～X層出土石製遺物観察表

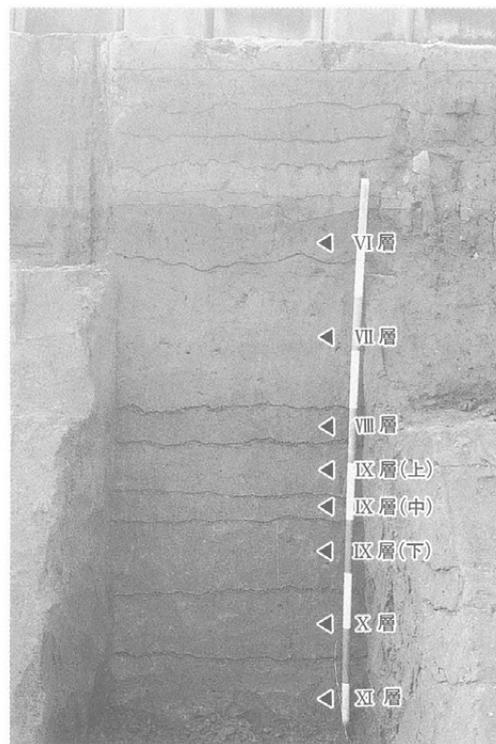
打製石斧・大形削器類・石核・磨石類・石鏃・石錐

※No.1～5は屋代遺跡群 No.6～10は更埴条里遺跡

図版	PL	No.	遺構名	検出層	出土位置	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	刃部形態	刃部角	基部形態	横断面形	重量 (g)	微細	摩耗
402	129	1	SK 5005-2	X II-1	-	打斧	A2	s1	B1	完形	127.9	49.6	13.1	偏刃	32	未加工	凸レ	110.1	×	○
402	129	2	SK 5005-2	X II-1	-	大Sc	B2	s1	B1	略完形	125.2	72.0	16.2	40	直線	60	直線	151.6	×	×
402	129	3	SK 5005-2	X II-1	-	MF		s1	B1		120.3	49.9	11.7					52.0		
402	129	5	-	X II-1	-	Co		s1	B1		137.8	75.2	59.5					632.1		交互剥離、両設打面
402	-	4	SK 5005-2	X II-1	-	磨石類		an			121	116.7	61.0					999.7		
402	-	6	-	X I	-	Co		s1	B2		177.2	83.2	25.3					394.5		打斧未製品?
403	129	7	SF 1021	X	No27	AH	D2	g.sh	茶	完形	17.3	14.5	4.0	2.8	48	0.7				
403	129	8	SF 1021	X	No36	AH	D1	ch	青緑	半損a	(15.4)	15.9	3.6	1.2	-	0.9				
403	129	9	SQ 1009	X	No52	AH	D2	ob	A	略完形	17.1	15.9	3.5	3.1	57	0.7				
403	129	10	SF 1021	X	No1	Dr	B	g.sh	茶	完形	23.7	19.6	6.1	三角形	2.6	2.9	×			



更埴条里遺跡 I 地区北壁 (PL22)



更埴条里遺跡 J 地区西壁 (PL23)

第7章 縄文後期後半（IX層）の遺構と遺物

第1節 概観

IX層中の調査は、屋代遺跡群全地区と更埴条里遺跡H・I・J地区のみで行われた。特に、I地区は重機でトレンチを入れ、遺構が検出された周辺を広く精査するという方法を採用したため、調査区内が逆コ字状に調査された。また、更埴条里遺跡検出遺構は「IX層」一面として一括記載されているが、高橋学氏によって、IX層上面以外に7つの地表面が存在する可能性が指摘されている。

遺構は遺跡全体を通じては、かなり低密度である。遺物は、遺構内からの出土は無く、全て遺物包含層出土である。特に更埴条里遺跡A地区のトレンチ内（IX層上面からかなり下がった部分）から良好な加曾利B式土器（図版403-1）が出土している。この他にI地区のIX層中で無文土器が出土した。

第2節 IX層検出遺構と遺物出土状況

1 土坑（SK）（表73）（図版158）

屋代遺跡群②f～②i区では土坑4基が検出された。このうちSK1110は長軸10.8m、短軸2.12mと大形溝状で、埋土に焼土・炭の他に粘土、粘土塊などを含む。本遺構の南側に炭化物集中地点があり、更に南に焼土、炭化物を少量含むSK1109、SK1115が検出された。

表73 IX層検出土坑（SK）一覧

屋代遺跡群

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SK 1109	2f	IX	VI		A21	151	不整形	A	1.38	0.8	0.14	褐色	10YR4/4	1層(粘土質・炭化物)	—	—	—	—	—
SK 1110	2f	IX	VI		A11・16 E15・20	151	不整形	A	10.8	2.12	0.44	暗褐色～に ぶい黄褐色	10YR3/4 ～5/4	6層(粘土質・炭化物・焼土、2層焼土片なし、3層焼土片微)	—	—	—	—	—
SK 1115	2f	IX	VI		A21	151	不整形	A	0.8	0.26	0.05	褐色	10YR4/4	1層(一部に焼土・炭化物)	—	—	—	—	—
SK 1121	2i	IX	VI		T1	152	不整形	A	0.48	0.4	0.09	灰黄褐色	10YR4/2	1層(粘土弱・炭化物少)	—	—	—	—	—

表74 IX層検出焼土跡（SF）一覧

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	S F 種類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SF 804	I	IX	XII		P19.20. 24.25	152	楕円形	焼土a	2.44	1.28	0.08	1層(φ3～4mmの焼土ブロック微・骨片・炭化物)	—	—	—	—	—

屋代遺跡群

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	S F 種類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SF 5102	5b	IX	I		N14.15	152	不整形楕円形	掘込み火床	2.84	(1.94)	0.28	5層(1層炭多、2層炭ブロック、3層焼土・炭、4層火床、5層焼土・炭ブロック)	—	—	—	—	—
SF 8001	6b	IX	I		N9	149	不整形楕円形	焼土b	0.85	0.7	0.1	1層(焼土)	縄文後期後半	—	—	—	—

表75 IX層検出不明遺構（SX）一覧

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SX	821	I	IX中～下	XI	J19・24・25	150	不整形	2.45	1.22	0.28	—	—	1層(焼土・炭化物)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	822	I	IX中～下	XII	K3・8	150	不整長方形	2.2	0.96	0.18	—	—	1層(焼土・炭化物)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	823	I	IX中～下	XII	K8	150	不整長方形	2.05	1.15	0.13	—	—	1層(焼土・炭化物)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	824	I	IX中～下	XII	K4	150	方形	1.05	0.65	0.3	—	—	1層(焼土・炭化物)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30033	I	IX中～下	XII	F17	150	円形	0.15	0.15	0.12	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30034	I	IX中～下	XII	F21	150	円形	0.22	0.25	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30035	I	IX中～下	XII	K16	150	円形	0.2	0.25	0.11	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30036	I	IX中～下	XII	P4	150	円形	0.2	0.18	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30037	I	IX中～下	XII	P8	150	円形	0.17	0.15	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30038	I	IX中～下	XII	P8	150	楕円形	0.25	0.15	0.06	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30039	I	IX中～下	XII	P8	150	楕円形	0.43	0.17	0.08	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30040	I	IX中～下	XII	P9	150	長方形	0.43	0.18	0.1	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30041	I	IX中～下	XII	P9	150	長方形	0.53	0.22	0.06	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30042	I	IX中～下	XII	P9	150	長方形	0.53	0.15	0.13	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30043	I	IX中～下	XII	P9	150	長方形	1.7	0.23	0.11	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30044	I	IX中～下	XII	P9	150	長方形	1.04	0.2	0.08	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30045	I	IX中～下	XII	P9	150	楕円形	0.6	0.43	0.12	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30046	I	IX中～下	XII	P9	150	長方形	0.95	0.23	0.25	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30047	I	IX中～下	XII	P9	150	長方形	0.4	0.2	0.17	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30048	I	IX中～下	XII	F22	150	楕円形	2.1	1.22	0.2	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か
SX	30049	I	IX中～下	XII	F22	150	楕円形	1.6	1.35	0.2	—	—	1層(-)	—	—	—	—	植物の痕跡か

2 焼土跡（SF）（表74）（図版158）

更埴条里遺跡 I 地区最南端、SX群の南でSF804が検出された。焼土は南側に集中し、全体には焼土粒、炭化物が散在する。特に5mm程度の焼骨片が多く、ここで調理が行われた可能性が高い。一方屋代遺跡群⑤b区のSF5102は、深さ20cmを越える掘り込みの底が強力に被熱し、厚さ10cmに及ぶ火床が形成されている。埋土中には炭や焼土が散在する。

3 不明遺構（SX）（表75）

更埴条里遺跡 I 地区には21基の性格不明遺構（SX）が集中する。このうちSX821～824は埋土に焼土、炭化物が含まれ、底面に顕著な凹凸がみられるため植物の痕跡に若干人手が加わったものである可能性が高い。この他のSXは埋土の状況が不明であるが、分布の状況から、同様の性格が推測される。

第3節 IX層出土遺物

1 土器（表76）（図版403）

更埴条里 A・H・I 区包含層から23点ほど出土している。1は加曾利B1式の3単位把手付きの深鉢。底部から直線的に開き、口縁部は小さく内屈する。内屈部分内面側は1条の隆起帯が巡り、その上下に単純な横走沈線からなる内面文が施される。口縁内屈部分は器厚が薄く、それ以下とは異なると考えるべき

だ。むしろ、内面側の1条の隆起帯が本来の口縁端部で、内面側に屈折して突出し、その上位に器厚が薄い内屈部分が付加されたと考えたらどうだろうか。外面には細い沈線が2段に横走し、単位文はなく、区切だけが右下がりに整然と加えられる。突起は小振りで、上向きに凹面が形成される。いわゆる大矢場タイプの突起に通ずる形態であろう。諸特徴から加曾利B1式でも中頃の様相かと推測する。それ以外は無文土器で時期を特定できない。器形は底部から単純に開くようで、口縁部は直立に近い。器面の風化が進んでいて整形技法は鮮明には読み取れないが、口縁部近くには横方向の粗大なナデが観察される。千鹿頭社遺跡の堀之内1式に伴う無文粗製土器や八窪遺跡の加曾利B2式に伴う無文粗製土器の器形、整形に近い様相をもつので、1と共伴すると推測してよいだろう。

表76 IX層出土土器観察表

図版番号	PL番号	遺跡名	検出面	報告書番号	遺構記号	遺構番号	出土位置
403	129	BKS	IX層	1	-	-	-
403	-	BKS	IX層	4	-	-	X II P14・15 3
403	-	BKS	IX層	5	-	-	X II P14
403	-	BKS	IX層	6	-	-	X II P14・15 5
403	-	BKS	IX層	7	-	-	X II P4 1、IX層中

※遺構記号「-」は包含層出土



更埴条里遺跡加曾利B1式(1)出土状況

第8章 縄文晩期（IX層上面・VIII層・VII層検出）の遺構と遺物

第1節 概観

検出面の認定 VIII層中には、更埴条里遺跡E地区以北から屋代遺跡群にかけて、焼土跡や土坑、遺物集中が点在している。一方更埴条里遺跡では、VIII層とIX層の層理面付近を中心として「IX層上面」が検出面として認定され、掘立柱建物跡、土坑、焼骨を含む焼土跡、遺物集中などが全地区で比較的高密度で分布する。「IX層上面」として記載されている遺構には、

- A. VIII層中で検出された遺構の残存（掘立柱建物跡など埋土がVIII層のものや、埋土がVII層の遺構）
- B. VIII層が形成される以前に構築された遺構（埋土がIX層もしくはVIII層）があると推測され、Aが主体を占めるようである。本来AはVIII層検出遺構と同等に扱い、BはIX層検出の遺構遺物を扱う7章で報告されるべきだが、埋土の記載方法や地区間の対応関係の問題から、明確にAとBを分離する事は困難であった。そこで両者ともに晩期の土器が出土していることを重視して、晩期の遺構・遺物を扱う本章に含めた。

遺跡の景観 VIII層にIX層上面を含めた屋代遺跡群から更埴条里遺跡にかけての晩期の景観を概観すると、更埴条里遺跡で活動の痕跡がより明確であるが、遺物や遺構の状況によって大きく5群に分けられる。

- a. 土坑やピット、植物の痕跡のみで、遺物は殆ど出土していない地区（屋代遺跡群①～④区）。
- b. 焼土跡や掘立柱建物などは無く、土坑やピット群、少数の土器・石器が散布する地区（更埴条里遺跡A～D地区）。
- c. 竪穴状遺構や土坑・ピット、人為的に掘削された溝跡などが検出されるが、遺物は殆ど無い地区（屋代遺跡群⑤a～⑥a区南）。
- d. 1～2棟の掘立柱建物に焼土跡が伴い、付近に遺物集中が見られる地点（更埴条里遺跡J・H区）が空間（更埴条里遺跡I・K区南）を挟んで分散。土器はbより少ないが、土器や石鏃集中（J区）、打製石斧集中（H区）など遺物の組成に偏りが見られる地区。
- e. 規則的な掘立柱建物群やピット群を中心に比較的多量の粗製土器や打製石斧などの石器が出土しているが、焼土跡が欠ける地区（更埴条里遺跡E・F区）。

遺跡の機能 このような遺構、遺物の分布状態から、縄文晩期の屋代遺跡群・更埴条里遺跡は、通年居住の集落というよりは、狩猟や何らかの生産活動を目的として、かなり短期間の滞在が行われた逗留地という印象が強い。特にdの類型はこのようなモデルとして捉えられる。ただし、eの掘立柱建物群の規則性と焼土跡の欠落からは、何かの貯蔵の可能性も否定できない側面がある。石器の使用痕分析などを通じてそこで行われた作業の推測や、遺構の類例の集成を行い、具体的な機能を考えていく必要がある。

第2節 IX層上面検出遺構と遺物

1 IX層上面検出遺構と遺物の出土状況

IX層上面検出遺構は更埴条里遺跡全地区で検出されており(図版153)、特に規則性の高い掘立柱建物周辺を中心に遺構・遺物が分布する。また、遺物包含層出土土器はI・H地区で合計47点、930g出土しているにすぎない。

(1) 掘立柱建物跡(ST)(表77)(図版175~178)

建物と遺物 更埴条里遺跡E~H・J地区では、26基の掘立柱建物跡が検出された。これらは全体の7割近くが1×1間である。中央に焼土などの散布は認められないが、柱間から外側にかけて土器片や石器・搬入礫が集中出土している例が多い。これらの多くはVIII層検出のSQとして登録されており、ピットの検出面よりも10~20cm程度上面で出土しているものの、地区全体で遺物の出土は僅少であるにも拘わらず建物と重なる部分のみで遺物の出土量が多いという事実から、これらが建物と関係する可能性が高いと推測し、掘立柱建物に帰属する遺物に含めた。ただし「個別図」中には、柱穴の内側で検出された土器片を「●」、外側で検出された土器片を「○」で示し、特に分布密度が高い区域を破線で囲んで表記した。

E地区の建物跡 10棟の掘立柱建物跡はすべて1×1間で、ピットの深さは均一性が高く、柱痕が確認されたものもある(ST403-P4)。全体としては中央に56m×22m程度の空白部を挟んで配置されている。ST408とST409はほぼ同じ位置に2軒が重複しているが、ST402・404・405・406、も主柱穴の脇に別のピットが検出されているため、建て替えや拡張が行われた可能性がある。●・○で図示した遺物の殆どは無文土器で、胴部の小破片が多い。

F地区の建物跡 11棟の掘立柱建物が検出されており、SD516とその周辺を除く調査区外縁部に集中する。このうち1×1間は4棟、2×1間が2棟である。この他、ST504・506・509は桁と梁の柱穴が非対称であるという特徴があり、他の建物と異なり規則性に乏しい。また、ST508は7~8角形の平面形が推測される。また、ST503はいくつかの建物や杭列の重複した空間の痕跡であると推測されるが、明確なプランを確定できなかった。

(2) 土坑(SK)(表78)(図版178・189)

土坑の類型 更埴条里遺跡では、現場段階に「SK」として登録されたものには次の3大別6類型がみられる。

I. 人為的な掘り込み

A. 比較的大形のいわゆる土坑。

B. 小形で、深さ・幅ともに掘立柱建物の柱穴に類似するもの。a(底面にテラスを持ち、細い落ち込みがみられるもの)、b(底面がなだらかなもの)のパターンに分けられる。

II. 植物の痕跡に人手が加わったもの。

a. 不整形で凹凸が激しく、埋土に焼土・炭化物が含まれるもの。

b. 非常に浅い落ち込み。埋土中に焼土・炭化物が含まれるもの。

III. 自然の植物痕もしくは判断不能

a. 不整形で凹凸が激しいが、埋土に焼土・炭化物が含まれないもの。

b. 大きさはI Ba・I Bbに類似するがかなり浅く、焼土・炭化物を含まないもの。

特にD～G地区ではII、IIIを全て含めた丹念な記録が行われている。本書ではI Aのみを「SK」として扱い81基を所収した。I Ba類（以下I a）、I Bb類（以下I b）、II類、III類は「遺構分布図」（図版156～171）に類型のみを示した。

分布状況 分布の状況を南から概観すると、A地区最南端を中心にすり鉢状の土坑群が見られる。B地区はC地区南側とD地区はI a・I b類のピットが集中し、簡易的な上屋を有する建物が建っていた可能性がある。E・F地区では明確な掘立柱建物跡が検出されており、その周りのI a・I b類のピットの中にはさらに建物が建っていた可能性がある。また掘立柱建物跡には、E地区ST410の脇のSK4217・4218・4219やF地区のST508脇のSK5394、ST510脇のSK5382・5383のように土坑が伴う例が多い。G地区ではST601の東側に掘立柱建物跡の可能性のあるピット群が見られる。H地区では中央やや西側に掘立柱の可能性のあるピット群が集中し、北側にST701・702と16mほど東側にSF709、そしてSF708が伴う。I地区では中央部のIIa、IIIの植物痕を取り巻くように小型のSXが集中する。これらのSXも本来植物痕であった可能性が高い。J地区ではST1003の東側に同様に掘立柱建物跡なる可能性の高いピット群が集中する。STとの境と北側には大型のSFが散在する。これらは、建物と周辺の空間を利用した活動が活発であったことを示す。K地区では本検出面最大の土坑SK9900と、SK9901やIIbの浅い落ち込み以外はピットなども検出されていない。このようなSKやSTの分布状況から本検出面の遺構群は、E・F区を中心に広がる短期間滞在型の集落と位置づけられよう。

(3) 溝跡 (SD) (表79)

F・G区で4基のSDが検出された。

(4) 焼土跡 (SF) (表80) (図版180)

19基検出された。H区、J区のSFは何れもSTに伴う、もしくは近接しており、両者の関係が窺える。特に集中が見られるJ地区のSFは、焼土a、焼土b（第5章参照）が主体を占める。

I区のSF805は南側のSX群に伴い、SFを取り巻くように無文土器片が分布する。K区最北部で検出されたSF902は9m×6mにおよぶ炭化材とその周辺に広がる焼土で、屋外に設置された何らかの施設と考えられる。

(5) 遺物集中 (SQ) (表81)

8基検出された。顕著な遺物集中はSTと重複するものが多く、E区の4基のSQも例外なくSTの脇に分布し、ST同様に無文土器が出土している。逆にSTになる可能性が高いピットもみられないA区のSQ1～4は何れも碎片化した炭化材である。

(6) 不明遺構 (SX) (表82)

44基が登録されたが、土坑の項で記載したIIa、IIIに該当するものも含まれる。

表77 IX層上面検出掘立柱建物（ST）一覧

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	付属構名	検出面	仮地区	大地区	中地区	遺構図	棟方向	桁×梁(間)	桁(m)	梁(m)	面積(m ²)	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考	
ST 401	P1~P4		IX上	E	XV	K9・14	175	N2°W	1×1	2.1	1.9	3.99	—	—	—	—	—	
ST 402	P1~P7・SQ402		IX上	E	XV	K23	175	N23°W	1×1	2.23	2	4.46	—	200	—	—	—	
ST 403	P1~P4		IX上	E	XV	L1・6	175	N53°W	1×1	1.8	1.75	3.15	—	—	—	—	—	
ST 404	P1~P6・SQ405		IX上	E	XV	L16・21	175	N68°E	1×1	1.8	1.65	2.97	(晩期)	150	—	—	—	
ST 405	P1~P6・SQ404		IX上	E	XV	L17・18・22・23	176	N26°W	1×1	2.35	2.3	5.4	(晩期)	570	—	—	—	
ST 406	P1~P5・SQ406		IX上	E	XV	P13・14	177	N38°E	1×1	1.85	1.7	3.14	—	440	—	—	—	
ST 407	P1~P4		IX上	E	XV	Q9	176	N30°W	1×1	1.7	1.55	2.63	—	—	—	—	—	
ST 408	P1~P4・SQ407		IX上	E	XV	Q22	176	N14°W	1×1	1.55	1.55	2.4	(晩期)	250	—	403	—	
ST 409	P1~P4・SQ407		IX上	E	XV	Q22	176	N15°W	1×1	2.2	2	4.4	(晩期)	250	—	403	—	
ST 410	P1~P5・SQ408		IX上	E	XV	V1	178	N23°W	1×1	1.85	1.75	3.23	—	550	—	—	—	
ST 501	P1~P4		IX上	F	XV	G7・8	161	N43°W	1×1	2	1.9	3.8	—	—	—	—	—	
ST 502	P1~P11		IX上	F	XV	B21・G1	161	N7°W	—	—	—	—	—	土器片あり	—	—	—	
ST 503	(P1~P45)		IX上	F	XV	A5・B1	161	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴が密集、何棟かの重複の可能性あり	
ST 504	P1~P13		IX上	F	XV	U18・23・24	161	N59°W	2~3×1	5.1	2.3	11.73	—	—	—	—	—	桁梁に非対象の補助柱穴あり
ST 505	P1~P5		IX上	F	XV	A2	161	N6°W	1×1	2	1.7	—	—	—	—	—	—	—
ST 506	P1~P10		IX上	F	XV	A10	161	N82°W	2~3×1	2.3	2.1	4.83	—	—	—	—	—	桁に柱穴3~4基
ST 507	P1~P4		IX上	F	XV	A9・14	161	N54°W	1×1	1.9	1.8	3.42	—	—	—	—	—	7角形か
ST 508	P1~P19		IX上	F	XV	F2・3	161	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	桁に柱穴2~3基
ST 509	P1~P10		IX上	F	XV	A24・25	161	N72°E	1~2×1	3.2	1.5	4.8	—	—	—	—	—	明確に2×1間
ST 510	P1~P4		IX上	F	XV	A25	161	N15°W	1×1	2.2	2	4.4	—	—	—	—	—	—
ST 511	P1~P6		IX上	F	XV	B18・19	161	N63°W	2×1	2.5	1.5	3.75	—	—	—	—	—	—
ST 601	P1~P4		IX上	G	XIV	P21.22	162	N17°E	1×1	2.1	2	4.2	—	—	—	—	—	—
ST 602	P1~P3		IX上	G	XIV	K6	162	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ST 701	P1~P4・SF705		IX上	H	XIV	A2	177	N27°W	1×1	1.7	1.65	2.8	—	70	4	—	—	柱の跡と思われる(幹の外皮)が炭化して残っているものあり
ST 702	P1~P3		IX上	H	XII	U16・17	177	N7°E	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ST 1003	P1~P4		IX上	J	XI	J5	178	N20°E	1×1	1.8	1.55	2.79	—	—	—	—	—	—

表78 IX層上面検出土坑（SK）一覧

更埴条里遺跡

※断面類型は5章に同じ

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SK 3	A	IX上	XVII	Q22	156	不整形	A	0.9	0.72	0.26	褐灰色~灰白色	10YR4/1~7/1	2層(粘土.1層炭化物多.2層炭化物少)	—	—	—	—	—	
SK 4	A	IX上	XVII	Q22	156	不整形	A	1.02	0.68	0.26	黒褐色~褐灰色	10YR3/1~4/1	2層(粘土.炭化物少)	—	—	—	—	—	
SK 5	A	IX上	XVII	V3	178	不整形	A	2.74	1.5	0.26	黄灰色~灰白色	2.5Y5/1~10YR7/1	2層(粘土.1層炭化物少.2層炭化物.焼土多)	—	—	—	—	—	
SK 8	A	IX上	XVII	R3	156	円形	A	0.8	0.7	0.21	黒色~灰色	5Y2/1~5/1	2層(粘土.炭化物少)	—	—	—	—	—	
SK 9	A	IX上	XVII	M17	156	楕円形	C	1	0.7	0.12	黒色	5Y2/1	1層(炭化物.焼土ブロック少)	—	—	—	—	—	
SK 13	A	IX上	XVII	L23	156	円形	D	0.8	0.7	0.13	オリーブ色~灰色	5Y3/1~5/1	2層(炭化物.指頭大炭化材少.2層炭少)	—	—	—	—	—	
SK 17	A	IX上	XVII	R12	156	楕円形	A	1.3	1	0.2	灰色	5Y5/1	2層(粘土.炭化物多.植物片多)	—	—	—	—	—	
SK 18	A	IX上	XVII	Q5	156	楕円形	A	2.5	1.6	0.16	灰白色	10Y7/1~8/1	2層(粘土.炭化物多.植物片少)	—	—	—	—	—	
SK 19	A	IX上	XVII	Q7	156	楕円形	C	0.8	0.6	0.08	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK 25	A	IX上	XVII	R7.12	178	不整形	A	1.63	1.18	0.3	オリーブ色~灰色	5GY6/1~5Y6/1	2層(1層粘性強.炭化物少.2層炭化物多)	—	—	—	—	—	
SK 30	A	IX上	XVII	Q3	156	不整形	C	1	0.6	0.16	褐灰色	10YR6/1	1層(炭化物多)	—	—	—	—	—	
SK 31	A	IX上	XVII	Q9	156	円形	F	1.2	1.2	0.21	褐灰色	10YR6/1	1層(炭化物少)	—	—	—	—	—	
SK 33	A	IX上	XVII	R8	156	楕円形	C	1.8	0.8	0.32	灰色	10YR5/1~5Y5/1	3層(粘性強.1層炭化物点在.2層炭化物多)	—	—	—	—	—	
SK 34	A	IX上	XVII	R8	178	不整形	A	1.9	1.9	0.36	オリーブ色~灰色	5GY6/1~5Y5/1	3層(1層炭化物少.2層炭化物多)	—	—	—	—	—	
SK 35	A	IX上	XVII	R8	156	不整形	C	1.7	0.6	0.29	オリーブ色~灰色	5GY6/1~5Y5/1	2層(1層炭化物少.2層炭化物多)	—	—	—	—	—	
SK 36	A	IX上	XVII	R8	156	不整形	C	1.1	0.9	0.24	灰色	7.5Y5/1	1層(粘性強.炭化物少)	—	—	—	—	—	
SK 812	I	IX上	XI	J18	164	不整形	—	1.7	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK 2011	B	IX上	XVI	W21	157	不整形	A	1.47	(0.9)	0.12	—	—	—	1層(細層)	—	—	—	—	—
SK 2016	C	IX上	XVI	K10	178	円形	C	0.6	0.55	0.17	オリーブ黒色~黄灰色	5Y3/1~2.5Y4/1	3層(1層炭化物.IX層ブロック.3層しまりよい)	—	—	—	—	—	底面に土器が敷かれている
SK 2017	C	IX上	XVI	K15	178	楕円形	C	0.6	0.5	0.12	黄灰色	2.5Y4/1	2層(炭化物少)	—	—	—	—	—	—
SK 2019	C	IX上	XVI	Q11	158	円形	E	0.5	0.5	—	黄灰色	2.5Y4/1	1層(橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—	—
SK 2020	C	IX上	XVI	Q11	158	不整形	A	1.1	0.4	0.24	黄灰色	2.5Y4/1	1層(橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—	—
SK 2023	C	IX上	XVI	Q11	158	不整形	E	1	0.6	0.15	黄灰色	2.5Y4/1	1層(橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—	—

第8章 縄文晩期 (IX層上面・VIII層・VII層検出) の遺構と遺物

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SK	2025	C	IX上	XVI	Q16	158	不整形	E	0.75	0.6	0.17	黄灰色	2.5Y4/1~5/1	2層(1層粘土質,しまりよい,2層2.5Y7/4のまわりの土のブロック混)	—	—	—	—	—
SK	2026	C	IX上	XVI	Q16	158	円形	A	0.6	0.6	(0.16)	黄灰色	2.5Y4/1	1層(橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—
SK	2027	C	IX上	XVI	Q16	158	円形	A	0.6	0.6	(0.16)	黄灰色	2.5Y4/1	1層(橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—
SK	2028	C	IX上	XVI	Q16	158	不整形	F	0.9	0.8	0.16	黄灰色	2.5Y4/1	1層(橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—
SK	2039	C	IX上	—	—	158	—	—	—	—	—	—	—	—	76	—	403	—	
SK	2040	C	IX上	XVI	V13	158	不整形	B	0.6	0.6	0.23	黄灰色	2.5Y4/1	1層(橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—
SK	2041	C	IX上	XVI	V13	158	不整形	B	0.5	0.4	0.25	黄灰色	2.5Y4/1	1層(周囲の2.5Y8/2~7/3の細かいブロック混,橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—
SK	2044	C	IX上	XVI	V2	158	楕円形	A	0.6	0.45	0.1	黄灰色	2.5Y4/1	1層(2.5Y8/2~8/3のブロック混)	—	—	—	—	—
SK	2052	C	IX上	XVI	R16	158	楕円形	F	0.6	0.45	0.23	灰色	5Y4/1	1層(5Y8/3のブロック混)	—	—	—	—	—
SK	2057	C	IX上	XVI	R21	158	楕円形	C	0.35	0.25	0.09	灰色	5Y4/1	1層(5Y8/2のブロック混)	—	—	—	—	—
SK	2060	C	IX上	XVI	R21	158	楕円形	C	0.7	0.3	0.11	緑灰色~明緑色	10GY6/1~7/1	1層(橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—
SK	2061	C	IX上	XVI	R21	158	楕円形	A	0.8	0.45	0.11	灰色	5Y4/1	1層(5Y7/1~10GY7/1のブロック混,橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—
SK	2064	C	IX上	XVI	V5	158	楕円形	B	0.6	0.4	0.16	灰色	5Y4/1	1層(10GY7/1の粘土質ブロック混,橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—
SK	2066	C	IX上	XVI	V14	158	楕円形	E	0.55	0.3	0.16	灰色	5Y4/1	1層(5Y8/2のブロック混)	—	—	—	—	—
SK	2068	C	IX上	XVI	V15	158	円形	E	0.45	0.45	0.15	灰色	5Y5/1	1層(5Y8/2のブロック混)	—	—	—	—	—
SK	2073	C	IX上	XVI	M16	158	不整形	B	0.6	0.6	0.25	黒色~褐色	5Y2/1~10YR5/1	2層(粘土,粘性強まっている。橙色酸化鉄あり)	—	—	—	—	—
SK	2075	C	IX上	XVI	M16	158	不整形	A	1	0.6	0.12	黒色~褐色	10YR2/1~5/1	2層(粘土,1層粘性強まっている,2層粘性強しまり良くない)	—	—	—	—	—
SK	2078	C	IX上	XVI	R2	158	不整形	C	0.7	0.6	0.18	褐色	10YR4/1	1層(粘土強しまっている。酸化鉄あり)	—	—	—	—	—
SK	2079	C	IX上	XVI	R7	158	楕円形	A	0.7	0.5	0.13	褐色	10YR5/1	1層(粘土,粘性強まっている)	—	—	—	—	—
SK	2081	C	IX上	XVI	R7	158	楕円形	C	1	0.6	0.32	褐色	10YR5/1	1層(粘土,粘性強まっている)	—	—	—	—	—
SK	2082	C	IX上	XVI	R17	158	不整形	C	0.8	0.5	0.2	黒色	10YR2/1	1層(粘土,しまりなし)	—	—	—	—	—
SK	2085	C	IX上	XVI	W2	158	楕円形	F	0.5	0.25	0.17	黒色	10YR2/1	1層(粘土,しまりなし)	—	—	—	—	—
SK	3043	D	IX上	XV	U25.A5	159	不整形	A	2.4	2	0.28	暗オリーブ褐色~黄褐色	2.5Y3/3~5/4	1層(粘性,しまりあり)	—	—	—	—	—
SK	3053	D	IX上	XVI	G10	159	不整形	D	0.8	0.5	0.12	黒褐色	5YR3/1	1層(ピート質の粘性を持つシルト質,粘性湿り気あり,管状のFe集積)	—	—	—	—	—
SK	3070	D	IX上	XVI	F20.G16	159	楕円形	C	0.6	0.4	0.3	黒褐色	7.5YR3/1	2層(粘性あるが崩れ易い)	—	—	—	—	—
SK	3089	D	IX上	XV	U25	159	不整形	A	0.8	0.8	0.06	黒褐色	10YR3/2	1層(褐鉄斑を5~10%含む)	—	—	—	—	—
SK	3092	D	IX上	XV	U25	159	不整形	C	0.6	0.4	0.14	黒褐色	5YR3/1	1層(地山の土が混入)	—	—	—	—	—
SK	3098	D	IX上	XVI	B4	159	不整形	F	0.8	0.4	0.25	黒褐色	5YR3/1	2層(ピート質の粘性を持つシルト質,粘性湿り気あり,管状のFe集積,2層地山の土混入)	—	—	—	—	—
SK	4164	E	IX上	XV	K9	159	楕円形	E	1.32	0.24	0.16	暗褐色	10YR3/3	1層(褐鉄斑を含む)	—	—	—	—	—
SK	4204	E	IX上	XV	P20.25	160	不整形	E	0.61	0.52	0.2	黒褐色	5YR3/2	1層(褐鉄斑を5~10%含む)	—	—	—	—	—
SK	4217	E	IX上	XV	V1	178	楕円形	A	0.7	0.36	0.22	黒褐色	5YR3/2	2層(褐鉄斑を5~10%含む)	—	—	—	—	—
SK	4218	E	IX上	XV	V1	160	楕円形	C	0.42	0.25	0.16	黒褐色	5YR3/2	1層(褐鉄斑を5~10%含む)	—	—	—	—	—
SK	4219	E	IX上	XV	V1	160	不整形	C	0.52	0.46	0.12	黒褐色	5YR3/2	1層(褐鉄斑を5~10%含む)	—	—	—	—	—
SK	4246	E	IX上	XV	V2	178	円形	C	0.53	0.52	0.3	暗褐色	5YR3/3	2層(褐鉄斑を3%含む)	—	—	—	—	—
SK	4252	E	IX上	XV	V7	178	不整形	C	0.76	0.62	0.26	明黄褐色~暗褐色	10YR7/6~3/3	3層(炭化物)	—	—	—	—	—
SK	4290	E	IX上	XV	L22	160	楕円形	A	0.4	0.18	0.08	黒褐色	10YR3/2	2層(褐鉄斑を5~10%含む)	—	—	—	—	—
SK	5200	F	IX上	XV	B17	161	楕円形	E	0.4	0.2	0.2	黒褐色	10YR3/2	2層(IX層のブロックを含む(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5202	F	IX上	XV	B18	161	不整形	F	1.1	0.3	0.24	黒褐色	10YR3/2	2層(IX層のブロックを含む(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5208	F	IX上	XV	B22.23	161	不整形	D	1.2	0.3	0.19	黒褐色	10YR3/2	1層(粒子粗,淘汰荒(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5220	F	IX上	XV	B22	161	不整形	F	1.1	0.4	0.24	黒褐色	10YR3/2	1層(粒子粗,淘汰荒(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5241	F	IX上	XV	G9	161	不整形	D	0.7	0.6	0.28	黒褐色~暗黄灰色	10YR2/3~2.5Y4/2	2層(IX層のブロックを含む(VIII)2層IX層の粒35%含む,淘汰良炭化物1%)	—	—	—	—	—
SK	5299	F	IX上	XV	B1	161	不整形	F	0.4	0.25	0.17	黒褐色	10YR3/2	1層(粒子粗,淘汰荒,IX層のブロック3%含む(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5307	F	IX上	XV	A5	161	円形	B	0.1	0.1	0.07	黒褐色	10YR3/2	1層(粒子粗,淘汰荒IX層のブロック3%含む(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5316	F	IX上	XV	A5	161	不整形	E	1	0.4	0.26	黒褐色	10YR3/2	2層(粒子粗,淘汰荒IX層のブロック3%含む(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5334	F	IX上	XV	G1	161	楕円形	A	0.6	0.5	0.1	—	—	2層(VIII層)	—	—	—	—	—
SK	5344	F	IX上	XV	B1	161	不整形	A	1.7	1.7	0.12	黒褐色	10YR3/2	1層(粒子粗,淘汰荒IX層のブロック3%含む(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5382	F	IX上	XV	F5	161	円形	F	0.8	0.8	0.08	黒褐色	10YR3/2	1層(粒子粗,淘汰荒IX層のブロック3~5%含む(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5383	F	IX上	XV	F5	161	不整形	E	1.8	1	0.15	暗灰黄色	2.5Y4/2	1層(粒子粗,淘汰荒IX層のブロック3~5%含む(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5391	F	IX上	XV	F9	161	不整形	F	0.6	0.5	0.21	黒褐色	2.5Y3/2	1層(粒子粗,淘汰荒IX層のブロック3%含む(VIII))	—	—	—	—	—
SK	5394	F	IX上	XV	A22.23	161	不整形	E	2.1	1.3	0.13	黒褐色~暗灰黄色	10YR3/2~2.5Y4/2	1層(粒子粗,淘汰荒IX層のブロック3~5%含む(VIII))	—	—	—	—	—
SK	6081	G	IX上	XIV	K6	179	不整形	G	1.1	0.6	0.15	黄灰色	2.5Y5/1	1層(酸化鉄,粘性ややあり,ザクザクしている細粒砂混)	—	—	—	—	—
SK	6082	G	IX上	XIV	K6	162	楕円形	F	0.6	0.4	0.2	灰黄褐色	10YR5/2	1層(粘性弱,炭化物5~10%焼土,酸化鉄)	—	—	—	—	—
SK	6175	G	IX上	XIV	L17	162	楕円形	C	0.4	0.2	0.12	黄灰色	2.5Y4/1	1層(粘性あり,Fe1%程入る)	—	—	—	—	—
SK	8056	I	IX上	XI	O3	164	不整形	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK	9900	K	IX上	X	K16.17,21.22	179	不整形	—	4.46	2.02	0.82	—	—	3層(炭化物,地山との境は鉄分集積をもつ)	—	—	—	—	—
SK	9901	K	IX上	IX	O8.9	179	不整形	—	3.08	2.4	0.64	暗赤褐色~灰黄褐色	2.5YR3/2~10YR6/2	16層(13層火床,焼土,炭化物)	—	—	—	—	掘込み火床
SK	10060	J	IX上	XI	E5	165	不整形	A	0.92	0.84	0.16	—	—	—	—	—	—	—	—
SK	10077	J	IX上	XII	F3	165	不整形	E	1	0.5	0.31	—	—	—	—	—	—	—	—

表79 IX層上面検出溝跡 (SD) 一覧

更埴条里遺跡

※断面類型は5章と同じ

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SD	516	F	IX上	XV	B16	161	直線的	—	7.16	1.96	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—
SD	610	G	IX上	XIV	K6	162	直線的	A	6.25	0.6	0.1	黒褐色	10YR3/1	1層(φ10mmの炭ブロック上面に多,φ2mmの焼土粒,炭多)	—	—	—	—	—
SD	611	G	IX上	XIV	K13	162	蛇行	—	4.3	1.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SD	612	G	IX上	XIV	K22.23	162	緩やかに湾曲	A	4.5	0.93	0.15	黒褐色	10YR3/1	1層(炭全体に微量散在,酸化鉄微量あり)	—	—	—	—	—

表80 IX層上面検出焼土跡(SF)一覽

屋代遺跡群

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	SF種類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考	
SF	708	H	IX上	XII	U25	163	不整形	焼土b	0.67	0.6	—	1層(焼土散在・焼土ブロックあり・炭化物)	—	—	—	—	—	
SF	709	H	IX上	XII	U24	163	円形	焼土b	0.46	0.38	—	1層(φ3~5mm長さ5~10cmの焼土ブロックの範囲)	—	—	—	—	—	
SF	805	I	IX上	XII	P14・15	180	楕円形	焼土b	1.05	0.9	—	1層(焼土・炭化物・灰)	—	—	—	—	SF805のまわりに土器散在	
SF	902	K	IX上	X	K17・18・22・23	166	不整形	平面火床	1.73	1.23	0.02	4層(1層炭化物2%含む、2層褐色粘性、3層炭化物5%焼土10%、4層VII層の土層)	—	—	—	—	炭化物2m四方を中心に大小散在	
SF	1004	J	IX上	XII	F6	165	楕円形	平面火床	0.6	0.42	0.3	1層(火床・焼土・炭化物)	—	—	—	—	SF1004のまわりに土器片あり	
SF	1005	J	IX上	IX	Y7	165	不整形	焼土b	0.55	0.3	—	1層(焼土状赤褐色土がブロック状にある。炭化物微)	—	—	—	—	—	
SF	1006	J	IX上	IX	Y23	165	不整形	焼土a	1.15	1	0.1	1層(炭化物散在・焼土ブロックの下に焼土・炭化物点在)	—	土器片あり	—	—	—	
SF	1007	J	IX上	X	U17	165	不整形	焼土b	1.35	0.98	0.05	1層(自然堆積、その上に焼土あり)	—	—	—	—	火を焚いたあと炭化物が砂と共に流れこんできたと考えられる	
SF	1008	J	IX上	X	U23	180	不整形	焼土b	1.62	1.25	0.23	4層(1層炭化物2%、2層焼土中粒10%、3層焼土10%炭片1%、4層炭粒1%)	—	—	—	—	自然堆積しその上で火を焚き更にそのへごみに炭化物・砂が堆積して全体を覆ったものと考えられる	
SF	1009	J	IX上	X	U18	165	不整形楕円形	焼土a	2.53	2	0.18	3層(1層焼片含む、2層焼土塊、3層粗粒焼土1%含む)	—	—	—	—	くぼみに焼土・炭片が流れこんできたものと考えられる	
SF	1010	J	IX上	X	U18	165	不整形	焼土a	1.2	1	0.07	4層(1層中粒焼土2%、2層粗粒焼土塊1%)	—	—	—	—	くぼみに炭化物・土器片がないことから、単なる焼土集中と思われる	
SF	1011	J	IX上	XI	E4・5・9・10	165	楕円形	焼土a	3.35	2.5	0.2	1層(VII層土中に炭化物混在、下部に明褐色土が深く存在する。炭化物)	—	—	—	—	すぐ北西にSK10060がある	
SF	1012	J	IX上	XI	E9	165	偶丸長方形	焼土b	1.75	0.6	—	1層(板状炭化物集中、格子状の裂け目あり)	—	—	—	—	—	
SF	1013	J	IX上	XI	E15	180	不整形楕円形	掘込み火床	2.14	1.9	0.27	6層(1層炭化物多、2層炭化物・焼土、3層火床、4層混入物なし、5層炭化物少、6層火床)	—	—	—	—	—	
SF	1014	J	IX上	XII	F6	165	不整形楕円形	焼土a	2.5	1.9	0.35	4層(1層炭片・焼土片1%、2層炭片1%、3層炭・焼土塊1%、4層混入物なし)	—	—	—	—	—	
SF	1015	J	IX上	XII	A22・F2・7	165	不整形	焼土a	5.85	3.2	0.4	4層(1層炭粒2%焼土少、2層炭片1%種物痕、3層細片・種物痕・炭片少、4層粘土塊・粗砂微)	—	土器片あり	—	—	—	焼土集中2ヶ所、炭化物集中1ヶ所、SK状の落ち込みあり。焼土を埋めたものか
SF	1017	J	IX上	XII	A17	165	不整形	焼土b	4.62	1.3	0.15	1層(炭化物・焼土痕ブロック状に混入散在、表面に酸化鉄含む土あり)	—	—	—	—	—	3ヶ所に焼土・炭化物集中する所あり。VIII層のものかIX層中に流れこんだものと思われる
SF	1018	J	IX上	XII	A12	165	不整形	焼土b	2.55	0.65	0.1	1層(炭化物・焼土片が混入散在)	—	—	—	—	—	SF1017の延長上のもと考えられる
SF	1023	J	IX上	XI	E25	165	円形	焼土b	0.6	0.6	—	1層(炭化物・焼土散在)	—	—	—	—	—	SF1021のまわりに土器・石器が散在する

表81 IX層上面検出遺物集中(SQ)一覽

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	長軸(m)	短軸(m)	標高(m)	土器概要	土器量(g)	内被熱土器(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SQ	01	A	IX上	XVII	L2	180	0.48	0.3	353.3	—	—	—	—	—	炭化材・細片化している。
SQ	02	A	IX上	XVII	M11	180	0.25	0.17	353.2	—	—	—	—	—	炭化材
SQ	03	A	IX上	XVII	M19	180	0.28	0.2	353.1	—	—	—	—	—	炭化物
SQ	04	A	IX上	XVII	L9	180	0.57	0.5	353.1	—	—	—	—	—	炭化材・細片化している。
SQ	401	E	IX上	XV	K9	160	4.2	3.1	354.2	—	土器片あり	—	—	—	ST401脇
SQ	403	E	IX上	XV	L6	160	5.3	2.28	354.2	(晩期)	300	—	—	—	ST403脇
SQ	409	E	IX上	XV	V6	160	3.95	2.35	354.1	—	土器片あり	—	—	—	ST410脇
SQ	410	E	IX上	XV	V7	160	5.2	2.75	354.1	—	土器片あり	—	—	—	ST410脇

表82 IX層上面検出不明遺構(SX)一覽

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SX	702	H	IX上	XII	U11.12	163	不整形	3.95	3.27	0.3	褐色	10YR4/4	3層(1層焼土10%・炭化物2%)	—	—	—	—	—
SX	801	I	IX上	XII	K13	164	不整形	3.6	2.5	0.2	—	—	1層(-)	—	—	—	—	IIa
SX	802	I	IX上	XII	K8.9.13.14	164	不整形	3.55	2.78	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	III
SX	803	I	IX上	XII	K8	164	不整形楕円形	1.1	0.86	0.03	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SX	804	I	IX上	XII	K8	164	不整形長方形	1.82	0.87	0.04	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SX	805	I	IX上	XII	K8	164	不整形	1.4	1	0.12	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SX	806	I	IX上	XII	K5	164	長方形	2.04	1.15	0.07	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SX	807	I	IX上	XII	K7.11.12	164	不整形	6.4	3.02	0.25	—	—	1層(-)	—	—	—	—	IIa
SX	808	I	IX上	XII	K11	164	不整形	1.8	0.9	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	III
SX	809	I	IX上	XII	K13	164	不整形	2.15	1.98	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	III
SX	811	I	IX上	XII	K24.P4	164	不整形	4.45	—	0.4	黒褐色	5YR3/1	1層(炭化物粒子多)	—	—	—	—	IIa
SX	812	I	IX上	XII	K17.22	164	不整形	3	1.9	0.25	褐灰色~明赤褐色	5YR4/1~5YR5/6	2層(炭化物・灰褐色ブロック)	—	—	1	—	—
SX	1003	J	IX上	IX	Y9.14	180	不整形	2.35	1.68	0.2	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—
SX	30002	I	IX上	XII	K11	164	円形	0.2	0.2	0.05	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—

第8章 縄文晩期 (IX層上面・VIII層・VII層検出) の遺構と遺物

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SX 30003	I	IX上	XII	K16	164	円形	0.9	0.6	0.2	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30004	I	IX上	XII	K16	164	円形	0.3	0.3	0.2	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30005	I	IX上	XII	K19	164	円形	0.2	0.22	0.03	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30006	I	IX上	XII	K19	164	円形	0.27	0.27	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30007	I	IX上	XI	O25	164	円形	0.15	0.15	0.03	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30008	I	IX上	XI	O25	164	不整形	2.2	1.72	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30009	I	IX上	XI	O25	164	長方形	2.42	0.4	0.08	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30010	I	IX上	XI	O25	164	楕円形	0.47	(0.2)	0.12	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30011	I	IX上	XI	O25, T5	164	楕円形	0.22	0.15	0.05	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30012	I	IX上	XI, XII	O25, K21	164	楕円形	1.23	0.52	0.1	暗赤褐色	5YR3/2	1層(炭化物少, VIII層, IX層の混土)	—	—	—	—	—	—
SX 30013	I	IX上	XII	K21	164	楕円形	0.47	(0.3)	0.14	暗赤褐色	5YR3/2	1層(炭化物少, VIII層, IX層の混土)	—	—	—	—	—	—
SX 30014	I	IX上	XII	P2	164	円形	0.4	0.4	0.15	黒褐色	5YR3/1	1層(炭化材)	—	—	—	—	—	—
SX 30015	I	IX上	XII	P9	164	円形	0.2	0.25	0.12	—	—	1層(炭化材小片)	—	—	—	—	—	—
SX 30016	I	IX上	XII	P9	164	円形	0.15	0.15	0.2	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30017	I	IX上	XII	P9	164	円形	0.15	0.15	0.1	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30018	I	IX上	XII	P9	164	円形	0.2	0.2	0.25	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30019	I	IX上	XII	P9	164	方形	0.25	0.2	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30020	I	IX上	XII	P9	164	円形	0.25	0.22	0.26	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30021	I	IX上	XII	P9	164	円形	0.2	0.2	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30022	I	IX上	XII	P9	164	円形	0.2	0.15	0.1	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30023	I	IX上	XII	P9	164	円形	0.15	0.15	0.18	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30024	I	IX上	XII	P9	164	円形	0.2	0.17	0.05	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30025	I	IX上	XII	P9	164	円形	0.27	0.23	0.05	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30026	I	IX上	XII	P14	164	円形	0.12	0.12	0.17	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30027	I	IX上	XII	P14	164	円形	0.23	0.2	0.06	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30028	I	IX上	XII	P14	164	円形	0.23	0.25	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30029	I	IX上	XII	P14	164	円形	0.17	0.15	0.05	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30030	I	IX上	XII	P14	164	円形	0.17	0.17	0.07	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30031	I	IX上	XII	P19	164	長方形	0.87	0.3	0.15	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—
SX 30032	I	IX上	XII	P20	164	円形	0.2	0.2	0.14	—	—	1層(-)	—	—	—	—	—	—

表83 VIII層検出竪穴状遺構 (SB) 一覧

屋代遺跡群

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	竪穴建物 類型	主軸方向	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	埋土推積状況	土器量 (g)	石器量 (個)	切合関係 (古)	切合関係 (新)	備考
SB 6601	VIII上	5a	I	M19, 24	174	不整隅丸長方形	N18°E	(5.54)	3.9	0.12	暗褐色	10YR3/4	1層(炭化物2~5%含有、自然堆積)	—	—	—	SB6602, SK6675, SD6609	底面(床面)明瞭	
SB 6602	VIII上	5a	I	M14, 19	174	不整形	N2°E	5	—	0.25	暗褐色	10YR3/4	1層(炭化物5%以下含有、褐色ブロック(φ70mm)3%含有)	—	—	SB6601	SB6603	底面(床面)明瞭	
SB 6603	VIII上	5a	I	M14, 15, 19, 20	180	不整形	N22°E	4.9	(3.1)	0.5	極暗赤褐色~褐色	5YR2/3~10YR4/4	10層(自然埋没炭化物含有と非含有が、互層して堆積)	20(2)	—	SB6602	SB6604, SK6632	床面焼土、炭化物。炉としてではなくて焚き火が成されている。レンス状に堆積	
SB 6604	VIII上	5a	I	M14, 15	181	不整円形	N32°E	3.4	(3.28)	0.3	暗褐色~ にぶい黄褐色	10YR3/4~10YR4/3	2層(1層炭化物2%含む、2層黄褐色土塊25%、炭化物1%含有)	—	—	SB6603, SK6674	SK6632	床面は貼床様黄色土ブロックが拡がる	
SB 6605	VIII上	5a	I	M9, 10	173	台形	N34°W	4.8	4.2	0.1	にぶい赤褐色~暗褐色	2.5Y4/3~10YR3/4	2層(1層褐鉄粒2%含む)	—	—	SB6607	SD6605	底面(床面)明瞭	
SB 6606	VIII上	5a	I	M5	173	隅丸方形	N52°E	4.2	3.74	0.12	暗褐色~ にぶい黄褐色	10YR3/4~10YR4/3	3層(1層炭化物5%含有、2層褐色ブロック15%・炭化物1%、3層褐色ブロック7%含有)	—	—	—	SK6647, 6648, 6650, 6669, 6671	底面(床面)明瞭、黄褐色土堆積	
SB 6607	VIII上	5a	I	M4, 5, 9, 10	173	不整台形	N68°E	5.66	3.78	0.2	暗褐色~ にぶい黄褐色	10YR3/4~10YR4/3	2層(1~2層オリブ褐色ブロック3%含有)	—	—	—	SB6605, SK6668, SD6606, 6608	最も遺物が出土した竪穴状遺構。磨石、板状石皿は北側壁面に、土器片は南側上層より出土	
SB 6608	VIII上	5a	I	M9	173	不整形	N18°E	3.4	2.9	0.14	暗褐色	10YR3/4	1層(オリブ褐色ブロック15~30%含有、自然埋没)	12(2)	—	—	SK6676, SD6607	凹地状の様相を呈す	

表84 VIII層検出土坑 (SK) 一覧

更埴条里遺跡

※断面類型は5章に同じ

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SK	5176	F	VIII	XV	A23	167	楕円形	C	0.5	0.3	0.23	黒褐色	10YR3/2	1層(粒子粗. 淘汰荒IX層のブロックを3%含む)	—	—	—	—	—
SK	5398	F	VIII	XV	A13.18	180	楕円形	A	3	2.26	0.38	暗褐色	10YR3/3	2層(粘性あり. 炭化物. 焼土少)	—	—	—	—	—
SK	7215	H	VIII	XIV	A9	181	円形	C	0.5	0.5	0.28	—	—	1層(VIII層メインVIIかIX層の黄色土も1/3入る)	—	—	—	—	—

屋代遺跡群

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量 (g)	石器量 (個)	遺物図	備考
SK	1111	2f	VIII	VI	Y20	155	不整形	C	0.22	0.2	0.14	褐色	10YR4/6	1層(細粒粘土層)	—	—	—	—	—
SK	1112	2f	VIII	VI	U16	181	不整形	B	1.64	1.32	0.62	褐色	7.5YR4/4	2層(細粒粘土層)	—	—	—	—	—
SK	1113	2f	VIII	VI	E4.5	155	不整形	—	4.5	2.08	0.12	暗褐色	10YR3/3	1層(炭化物混入)	—	—	—	—	—
SK	1120	2i	VIII	V	S14	155	不整形	IIb	2.4	1.7	0.18	灰黄褐色~ にふい黄褐色	10YR4/2 ~4/3	2層(粘性弱. 1層炭化物多. 2層炭化物微)	—	—	—	—	IIa木の根
SK	6601	5a	VIII	I	N1	173	円形	Ia	0.2	0.18	0.08	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6602	5a	VIII	I	N1.6	173	楕円形	Ib	0.34	0.2	0.12	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6603	5a	VIII	I	N1	173	不整形	Ib	0.32	0.26	0.06	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6604	5a	VIII	I	M5	173	不整形	A	0.48	0.46	0.05	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6605	5a	VIII	I	M5	173	不整形	Ib	0.22	0.16	0.16	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6606	5a	VIII	I	N6	173	不整形	Ib	0.4	0.3	0.08	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6608	5a	VIII	I	N6	173	不整形	C	0.54	0.45	0.08	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6609	5a	VIII	I	N6	173	不整形	A	0.46	0.28	0.07	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6610	5a	VIII	I	N6	174	不整形	A	0.5	0.42	0.06	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6611	5a	VIII	I	N6	174	不整形	A	0.2	(0.26)	0.07	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6613	5a	VIII	I	M10	173	不整形	Ib	0.36	0.26	0.14	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6614	5a	VIII	I	M10.15	174	不整形	Ib	0.34	0.3	0.12	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6615	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ib	0.38	0.3	0.16	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6616	5a	VIII	I	M15	174	楕円形	Ib	0.32	0.2	0.09	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6617	5a	VIII	I	M10	173	不整形	Ia	0.36	0.2	0.14	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6618	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ia	0.4	0.32	0.08	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6619	5a	VIII	I	M15	174	円形	Ib	0.14	0.14	0.05	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6620	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ib	0.2	0.16	0.08	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6621	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ib	0.22	0.12	0.13	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6622	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ib	0.2	0.16	0.08	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6623	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ib	0.18	0.14	0.06	暗褐色	10YR3/4	1層(—)	—	—	—	—	—
SK	6624	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ib	0.24	0.22	0.11	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6625	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ib	0.22	0.18	0.08	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6626	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ib	0.32	0.26	0.12	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6627	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ib	0.22	0.2	0.08	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6628	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ic	0.2	0.14	0.2	暗褐色	10YR3/4	2層(しまりあり1層粘性なし. 2層粘性なし)	—	—	—	—	—
SK	6629	5a	VIII	I	M15	174	不整形	D	(0.6)	(0.3)	0.1	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6630	5a	VIII	I	M15	174	不整形	Ib	0.22	0.16	0.1	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6632	5a	VIII	I	M14	181	楕円形	C	2.26	1.12	0.24	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6633	5a	VIII	I	M15	174	不整形	D	(1.76)	(1.48)	0.1	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6634	5a	VIII	I	M15	174	不整形	A	0.76	0.36	0.1	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6635	5a	VIII	I	M5.10	173	不整形	B	2.76	0.74	0.26	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6636	5a	VIII	I	M10	173	不整形	Ib	0.34	0.32	0.22	オリープ褐色 ~暗褐色	2.5YR4/3 ~10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6637	5a	VIII	I	M5.10	173	不整形	Ib	0.42	0.34	0.22	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物少)	—	—	—	—	—
SK	6638	5a	VIII	I	M10	173	不整形	C	1	0.44	0.5	暗褐色	10YR3/4	—	—	—	—	—	
SK	6640	5a	VIII	I	M10	173	不整形	A	0.52	0.4	0.11	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6641	5a	VIII	I	M10	173	不整形	Ib	0.22	0.22	0.11	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物)	—	—	—	—	—
SK	6642	5a	VIII	I	M10	173	不整形	Ia	0.36	0.28	0.22	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物)	—	—	—	—	—
SK	6643	5a	VIII	I	M14	174	不整形	F	0.82	0.62	0.28	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6644	5a	VIII	I	M14	174	不整形	B	0.3	0.3	0.12	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6646	5a	VIII	I	M5.10	173	不整形	B	0.76	0.5	0.16	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6647	5a	VIII	I	M5.10	181	不整形	C	1.48	0.76	0.34	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6648	5a	VIII	I	M5	173	不整形	B	0.92	0.66	0.26	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む. 炭化物微)	—	—	—	—	—
SK	6650	5a	VIII	I	M5	173	不整形	E	1.58	0.84	0.24	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6651	5a	VIII	I	M5	173	不整形	Ib	0.2	0.14	0.09	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6652	5a	VIII	I	M5	173	不整形	C	0.5	0.34	0.23	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6653	5a	VIII	I	M5	173	不整形	C	0.3	0.3	0.13	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6654	5a	VIII	I	M4	173	不整形	Ib	0.34	0.28	0.16	黒褐色~ 褐色	10YR3/2 ~4/4	2層(1層粘性ややあり. 2層焼土粒微量含む)	—	—	—	—	—
SK	6655	5a	VIII	I	M10	173	不整形	Ib	0.3	0.08	0.1	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6656	5a	VIII	I	M10	173	不整形	A	0.9	0.8	0.15	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. ブロック含む)	—	—	—	—	—
SK	6657	5a	VIII	I	M10	173	不整形	E	0.52	0.38	0.12	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6658	5a	VIII	I	M4	173	不整形	B	0.44	0.4	0.54	暗褐色	10YR3/3	1層(粘性ややあり)	—	—	—	—	—
SK	6659	5a	VIII	I	M5	173	不整形	C	0.5	0.46	0.32	暗褐色~ 褐色	10YR3/3 ~4/4	1層(—)	—	—	—	—	—
SK	6660	5a	VIII	I	N6	173	不整形	Ib	0.3	0.3	0.12	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6662	5a	VIII	I	M9	173	不整形	A	1.52	0.7	0.11	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物)	—	—	—	—	—
SK	6663	5a	VIII	I	M10	173	不整形	A	0.18	0.14	0.05	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり)	—	—	—	—	—
SK	6664	5a	VIII	I	M14	181	不整形	A	2.1	1.04	0.19	暗褐色	10YR3/4	2層(粘性あり. 1層のみ炭化物)	—	—	—	—	—
SK	6665	5a	VIII	I	M14	174	不整形	A	1.86	0.62	0.1	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり. 炭化物)	—	—	—	—	—
SK	6666	5a	VIII	I	M4	173	不整形	C	0.48	0.36	0.26	黒褐色~ 褐色	10YR3/2 ~4/4	2層(1層のみ炭化物. 粘性弱. ブロック含む)	—	—	—</		

表85 VIII層検出溝跡（SD）一覧

屋代遺跡群

※断面類型は5章に同じ

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色表記号	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SD 6601	5a	VIII	I	N1.6	173	ほぼ直線	A	(4.5)	1.5	0.09	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり.しまりあり炭化物3%以下)	—	—	—	—	—	
SD 6602	5a	VIII	I	N6	173	ほぼ直線	B	(7.4)	0.8	0.08	1層灰黄褐色 2層褐色	10YR5/2 10YR4/1	2層(しまりあり1層φ1cmの炭片.焼土粒を1~3%含む.粘性なし2層φ1cmの炭片を3%含む粘性あり)	—	—	—	—	—	
SD 6603	5a	VIII	I	N1.6 M10.15	173. 174	蛇行	B	(18.0)	1.2	0.1	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり.しまりあり炭化物3%以下)	—	—	—	—	—	
SD 6604	5a	VIII	I	M15	174	ほぼ直線	B	2.5	0.44	0.11	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり.しまりあり炭化物なし)	—	—	—	—	—	
SD 6605	5a	VIII	I	M4.5. 10	173	わずかに蛇行	A	11.5	0.42	0.13	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり.しまりあり炭化物なし)	—	—	—	—	—	
SD 6606	5a	VIII	I	M9	173	直線	A	5.2	1.3	0.13	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり.しまりあり炭化物3%以下)	—	—	—	—	—	
SD 6607	5a	VIII	I	M9.10	173	わずかに東南に湾曲	B	(11.3)	1.16	0.15	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり.しまりあり.オリープ褐色土ブロック(2.5Y4/3φ15mm)15~30%含む)	—	—	—	—	—	
SD 6608	5a	VIII	I	M4.9	173	直線	A	4.8	1.7	0.15	暗褐色	10YR3/4	3層(しまりあり1層粘性なし.オリープ褐色土(2.5Y4/3)40%含む.2層粘性あり.3層粘性ありオリープ褐色土ブロック(2.5Y4/3φ15mm)15~30%含む)	—	—	—	—	—	
SD 6609	5a	VIII	I	M19.24	174	直線	A	(3.6)	0.38	0.12	暗褐色	10YR3/4	1層(粘性あり.しまりあり炭化物3%以下)	—	—	—	—	—	

表86 VIII層検出焼土跡（SF）一覧

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	SF種類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SF 701	H	VIII	XIV	A14	181	円形	平面火床	0.85	0.93	0.07	1層(火床、VIII層がやけて焼土がブロック状になっている)	(晩期)	95(3) 110	—	403	火床の周りをかき回した跡	
SF 702	H	VIII	XIV	A15	168	楕円形	平面火床	0.68	0.48	0.08	1層(火床、VIII層がやけて焼土がブロック状になっている)	—	—	1	—	火床の周りをかき回した跡	
SF 703	H	VIII	XIV	B11	168	円形	焼土b	0.22	0.22	—	1層(平面的に広がっている)	(晩期)	49(2) 630	—	403	SF703に土器集中がともなう	
SF 704	H	VIII	XIV	F4	181	円形	焼土b	0.82	0.8	—	1層(焼土2ヶ所ブロック状に散在、焼土微量・炭化物)	中ノ沢中以降	60(2) 330	—	403	—	
SF 706	H	VIII	XIV	F4	168	円形	焼土b	0.83	0.8	—	1層(焼土ブロック状に散在、平面的に広がっているのみ)	(晩期)	— 70	—	—	—	
SF 707	H	VIII	XIV	F4	168	隅丸長方形	焼土b	0.95	0.34	—	1層(焼土2ヶ所、焼土・炭化物)	—	—	—	—	—	
SF 801	I	VIII	XI	T19	181	楕円形	平面火床	0.42	0.32	0.05	1層(暗赤褐色の焼土(被熱部分))	—	—	—	—	—	
SF 1001	J	VIII	XII	E24	170	不整形	焼土b	1.55	0.95	0.03	1層(炭化物・まわりに土器片散在)	(晩期)	— 370	—	403	—	
SF 1002	J	VIII	XII	F1	170	不整形	焼土b	0.85	0.53	—	1層(焼土のまわりに骨片多)	(晩期)	— 80	—	—	—	
SF 1003	J	VIII	XII	E20	170	不整形	焼土b	0.63	0.5	—	1層(炭化物)	(晩期)	— 130	—	—	—	

表87 VIII層検出遺物集中（SQ）一覧

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	長軸(m)	短軸(m)	標高(m)	土器概要	土器量(g)	内被熱土器(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SQ 501	F	VIII	XV	A24	182	3.07	2.45	354.2	(晩期)	10(1) 200	—	—	403	—	
SQ 502	F	VIII	XIV	U18.19 23.24	167	5.3	4.83	354.1	—	—	—	—	—	炭化物多	
SQ 503	F	VIII	—	—	—	—	—	—	(晩期)	155(6) 440	—	2	—	403	
SQ 505	F	VIII	XV	A25	167	1.05	0.85	354.2	(晩期)	10(1) 10	—	—	403	—	
SQ 506	F	VIII	XV	A25	182	3.6	2.45	354.2	(晩期)	20(2) 40	—	—	403	—	
SQ 701	H	VIII	XIII XIV	E15.20 A11.16	168	7.53	5.63	—	(晩期)	255(5) 2700	—	77	15 1	404	焼土
SQ 702	H	VIII	XI	Y9	168	0.54	0.52	—	—	—	—	—	—	φ10cm大の炭化物集中	
SQ 801	I	VIII	XI	O24	169	1.2	1.08	354.2	—	—	—	—	—	焼土・炭化物・骨片	
SQ 802	I	VIII	XI	O24	169	2.43	1.8	354.1	—	—	—	—	—	炭化物	

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	長軸(m)	短軸(m)	標高(m)	土器概要	土器量(g)	内被熱土器(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SQ	803	I	VIII	XI	T4	169	1.1	0.45	354.2	—	—	—	—	—	焼土微量・炭化物集中
SQ	804	I	VIII	XI	T4	169	0.57	0.53	355.2	—	—	—	—	—	炭化物
SQ	805	I	VIII	XI	T14	169	0.77	0.65	355.2	—	—	—	—	—	炭化物集中
SQ	806	I	VIII	XI	T14	169	0.6	0.58	354.3	—	—	—	—	—	焼土・炭化物
SQ	807	I	VIII	XI	T14	169	0.97	0.87	354.2	—	—	—	—	—	落ち込みなし
SQ	809	I	VIII	XI	O14	169	1	0.75	354.1	—	—	—	—	—	炭化物多
SQ	810	I	VIII	XI	J18	169	0.25	0.25	354.3	—	—	—	—	—	炭化物集中
SQ	811	I	VIII	XI	O19	169	0.4	0.38	354.1	—	—	—	—	—	焼土粒・炭化物
SQ	901	K	VIII	XII	P13	171	4.3	3.5	354.1	(晩期)	15(2) 790	—	2・— 1	404	—
SQ	902	K	VIII	X	K8.9	182	4.25	3.12	354.2	(晩期)	230(1) 230	—	—	404	IX層へ掘り込んでいる。炭化物・焼土
SQ	903	K	VIII	IX.X	T15・ P11	171	4.8	0.7	354.0	—	—	—	1・— —	—	—
SQ	905	K	VIII	X	P8.9. 12.13	171	8.8	1	—	—	—	—	3・— 1	—	—
SQ	1002	J	VIII	X	U22	182	1.73	1.47	353.6	(晩期)	80	—	—	404	—
SQ	1003	J	VIII	XII	A3.8	182	6.35	5.2	354.0	(後期か)	130	—	—	404	—
SQ	1004	J	VIII	XII	A7	182	3.58	2.15	353.9	(晩期)	300(2) 480	—	—	404	—
SQ	1005	J	VIII	XI	J4	170	2.7	1.9	354.0	(晩期)	160(1) 160	—	—	404	—
SQ	1006	J	VIII	XII	F2.7	170	3.25	1.87	353.9	中ノ沢以降	30(1) 65	—	—	404	—
SQ	1007	J	VIII	XII	F2	170	2.2	1.85	353.7	(晩期)	70(2) 70	—	— 1	404	—
SQ	1010	J	VIII	IX	Y14	170	2.05	1.65	353.9	(晩期)	20(1) 50	—	—	404	—

表88 VII層検出不明遺構(SX)一覽

更埴条里遺跡

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SX	810	I	VIII	XII	K17	169	不整長方形	(1.15)	0.86	0.15	—	—	1層(—)	(晩期)	53(1) 53	—	404	—
SX	825	I	VIII	XII	F21	169	不整形	3.5	3.3	0.2	黒褐色	10YR3/1 ~3/2	3層(1層炭化物・焼土多)	—	—	—	404	—

表89 VII層検出土坑(SK)一覽

更埴条里遺跡

※断面類型は5章に同じ

遺構記号	遺構番号	仮地区	検出面	大地区	中地区	遺構図	平面形	断面類型	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	色調	土色帳記号	推積状況	土器概要	土器量(g)	石器量(個)	遺物図	備考
SK	1100	2f	VII	VI	Y10	183	不整形	B	0.4	0.38	0.4	にぶい黄褐色	10YR4/3	1層(粘土層)	—	—	—	—	—
SK	1101	2f	VII	VI	Y10	183	不整形	A	1.06	0.5	0.12	黒褐色~暗褐色	10YR3/3 ~3/3	1層(粘土層)	—	—	—	—	—
SK	1102	2f	VII	VI	Y10	183	不整形	B	0.7	0.56	0.16	黒褐色~暗褐色	10YR3/3 ~3/3	1層(粘土層)	—	—	—	—	—
SK	1104	2f	VII	VI	U16	183	不整形	B	(0.63)	(0.56)	0.56	にぶい黄褐色	10YR5/3	1層(粘土層)	—	—	—	—	—
SK	1105	2f	VII	VI	U16	183	不整形	B	—	—	0.4	にぶい黄褐色	10YR5/3	1層(粘土層)	—	—	—	—	—
SK	1108	2f	VII	VI	E25	183	不整形	—	2.18	1.56	0.66	2層にぶい黄褐色~ にぶい黄褐色 3層褐色	2層10YR 5/4~6/4 3層7.5YR 4/4~4/6	3層(粘土層・2層焼土・炭 粒含む)	—	—	—	—	—
SK	1127	2i	VII	VI	O25	155	不整形	A	2.3	0.52	0.1	褐色	7.5YR4/3	1層(粘性弱・細粒子炭化物 小・焼土粒多)	—	—	—	—	—
SK	1128	2i	VII	VI	O25	155	不整形	D	1.28	0.72	0.14	褐色	7.5YR4/3	1層(粘性弱・細粒子炭化物 小・焼土粒多)	—	—	—	—	—

2 IX層上面出土遺物

(1) 土器（表90）（図版403）

更埴条里E区を中心に出土している。1は底部、3は断片的すぎて詳細不明である。2は堀之内1式の末期もしくは加曾利B1式初頭の小型精製深鉢で、細かい圧痕を付加した細い隆帯が何条か口縁部に巡る。内面は段のみで内面文はまだない。IX層出土遺物よりは明らかに古相を示すので、この面の年代を決定する資料にはなりにくいだろう。

第3節 VIII層検出遺構と遺物

1 VIII層検出遺構と遺物の出土状況

VIII層検出遺構は更埴条里遺跡F地区とH～K地区および屋代遺跡群②f・i・⑤a地区に分布する（図版154・155）。また、遺物包含層出土土器は、更埴条里遺跡E、F、G、H、I、J区地区で1,514点、30,760g出土したのみである。取り上げ方法は8×8mの中地区単位で、J区のみは仮地区単位である。

(1) 竪穴状遺構（SB）（表83）（図版180・181）

SB表記の遺構は⑤a区北側にSB6601～6608の8棟検出されているが、いずれも炉が無く、竪穴住居跡とは考えにくい。特にSB6603を除く7棟は掘り込みが極めて浅く、にぶい黄褐色土の2層上に、暗褐色シルトの1層が堆積しており、炭化物や焼土も極めて少ない。これに対し、SB6603は掘り込みが50cmで、暗褐色土とにぶい黄褐色土が互層になっており、炭化物・焼土の含有量も多い。柱穴は検出されていないため上屋は無いものの、掘り込みの中で何度か火が焚かれた可能性が推測される。

(2) 土坑（SK）（表84）（図版180・181）

更埴条里遺跡ではF地区北東部でIa、Ib、IIIのピット群とやや大型の土坑（SK5398）、I地区の北西部で短溝状の土坑（SK8051～8055）が検出された。

屋代遺跡群では⑤a区北側～⑥a区にかけて土坑が集中する。特に⑤a区で検出されたもののうち、SK6632・6633・6638・6647・6650・6662・6664・6665・6671・6675は長円形から長方形を呈する。これらは埋土が単層で炭化物を含まないSK6632やSK6647などと、上層に炭化物が極少量含まれるSK6664のようなものがあるが、遺物がほとんど無いため性格は特定できない。

(3) 溝跡（SD）（表85）

⑤a区北側には、溝跡が集中する。特にSD6603は北東方向から南西方向にかけて深くなり、直交するSD6607も西側よりも東側が深く、何らかの区画として機能していた可能性が高い。その他のSDは更に短いため、流路や水路として機能していた可能性は低い。

(4) 焼土跡（SF）（表86）（図版181）

更埴条里遺跡H地区中央やや南部分には6基の火床が点在する。特にSF701は明確な被熱痕跡がみられ、火床上から周辺に土器が散在する（図版181）。SF703～706は焼土aであるがやはり土器の集中が見られる。このSF群の東側にSQ701。J地区のSFもSQ1005～1007に近接し、遺構内もしくは周辺で土器が出

土している。これらはIX層上面検出のSFとはやや性格を異にする可能性が高い。

(5) 遺物集中 (SQ) (表87) (図版182)

更埴条里遺跡F、H、I、K、J地区を中心に遺物集中が見られる。SQ1002～1004に代表されるように面的に土器の小破片のみが散らばっているものが多い。この他にSQ902 (図版182)、SQ702・801・809のように浅い掘り込みをもち、土器の小破片とともに炭化物・焼土が散っているものもある。

(6) 不明遺構 (SX) (表88)

I地区で検出されたSX810・825は土坑IIもしくはIIIaに近似する特徴から植物痕の可能性が高い。

2 VIII層出土遺物

(1) 土器 (表90) (図版403～406)

更埴条里各地区の焼土跡や、遺物集中、包含層を中心に67,368g (IX層上面との合計) ほど出土しており、比較的まとまった資料である。大半が無文土器だが、有文土器も若干存在する。有文土器を大まかに区分する。層の主体となりそうなのは、中ノ沢中相以降の隆帯文土器4、33、43、80、波状口縁隆帯文土器から派生し佐野式の重要な構成要素となる沈線文土器44、53、63～66、86、佐野1式土器46、48、61、84、85、87、89、93～95、97～99、在地の晩期前半の土器と推測されるが位置付け不明の50、亀ガ岡式土器に関連すると見られる57～60、62、92、である。無文土器の大半はこうした有文土器と共伴するだろう。

後期中葉の関東風羽状沈線文土器96、胎土からして後期の土器かと疑われる27～30は、より下位の層からの混入だと考える。細密条痕をもつ深鉢49、72、82、83、88は晩期後半から末、羽状条痕をもつ45、47、51は弥生時代の産で、苦しい評価だが何らかの理由で混入したと考えざるを得ない。

遺構のうち時期が判別できる土器が伴出しているのはSQ1006とSX7037である。SQ1006からは中ノ沢中相の隆帯文土器33が出土している。隆帯上には圧痕というより短線が加えられるが、突起部分が欠落しているため晩期初頭という以上のことはわからない。SX7037出土の36は羽状沈線文土器から派生し隆帯文土器と併存する沈線文土器の仲間である。口縁部は屈曲を失って湾曲に変わり、彫りの深い3条の沈線が描かれる。単位文がないので時期を特定できないが、この層としてのまとまりの中に入れてもよさそう。SQ1003出土の4点は同一個体の可能性もある。間隔の開いた直線的な沈線と縄文の組み合わせの中に、モチーフの末端が見えるものの、正体不明である。胎土からは後期の可能性も捨てきれない。

それ以外の包含層の土器を一瞥する。隆帯文土器から始めると、4は隆帯が剥落して不明、43はユビよりももっと小さな道具を使って丸い圧痕をごく浅く加える。80はD字圧痕である。ユビを使っていないが中ノ沢新相と考える。とりわけ43は末期的ではなかろうか。

佐野1式土器の多くは浅鉢らしく、脚の付く46と93も浅鉢の可能性が高い。脚付浅鉢は清水天王山遺跡で中層b類や上層a類の中に多出しており、中村中平遺跡でも極めて多い。土器の様相の近さとともに、注目しておきたい。46の脚部は2条沈線間の管状刺突で上下を画し、それぞれの内側の沈線から4単位の三又文を陰刻する。上下の陰刻は若干ずらして配置され、その間を沈線で斜めにつないでいる。陰刻は鋭く切り込まれるが、内面側にまでは貫通していない。脚付土器には透孔が珍しくないが、この陰刻はその類品だろう。陰刻をつなぐ浅い斜線は宮崎2号住居で注目されたモチーフと一致する。管状刺突なども整合的である。脚末端にも三又文の陰刻が確認できる。93は2個の透孔をもつ低い脚部で赤塗される。幅狭い文様帯は上下を沈線で画し、その中に弧線を交互に配置する。46とはモチーフは異なるが雰囲気は近い。それ以外は全体像が不明で文様も判断できない破片ばかりだが、多くは水平帯状の比較的狭い文様帯

表90 IX層上面・VIII層出土土器観察表

図版番号	PL番号	遺跡名	検出面	書番号	遺構記号	遺構番号	出土位置
403	—	BKS	IX層上面	1	SQ	407	X V Q22F群
403	—	BKS	IX層上面	2	—	—	—
403	—	BKS	IX層上面	3	—	—	—
403	—	BKS	IX層上面	2	SK	2039	—
403	—	BKS	IX層上面	3	SK	2039	—
403	—	BKS	VIII層	1	SF	701	—
403	—	BKS	VIII層	2	SF	701	—
403	—	BKS	VIII層	3	SF	703	埋土
403	—	BKS	VIII層	4	SF	704	1・4
403	—	BKS	VIII層	6	SF	1001	15・16
403	—	BKS	VIII層	8	SQ	501	12
403	—	BKS	VIII層	9	SQ	503	36
403	—	BKS	VIII層	10	SQ	503	18
403	—	BKS	VIII層	11	SQ	503	42
403	—	BKS	VIII層	12	SQ	503	68
403	—	BKS	VIII層	13	SQ	505	4・6
403	—	BKS	VIII層	14	SQ	506	22
403	—	BKS	VIII層	15	SQ	506	4・33
404	—	BKS	VIII層	16	SQ	701	51・84
404	—	BKS	VIII層	17	SQ	701	1
404	—	BKS	VIII層	18	SQ	701	150・153・171・183・X IV A 6・埋土(2)
404	—	BKS	VIII層	19	SQ	701	141・144・146・154・165・170・197・X IV A 6
404	—	BKS	VIII層	20	SQ	901	85
404	—	BKS	VIII層	21	SQ	901	12
404	—	BKS	VIII層	22	SQ	901	55
404	—	BKS	VIII層	23	SQ	902	1・6・50・54・78・86
404	—	BKS	VIII層	24	SQ	902	1～4・埋土
404	—	BKS	VIII層	25	SQ	1002	55
404	—	BKS	VIII層	26	SQ	1002	15
404	—	BKS	VIII層	27	SQ	1003	9・10
404	—	BKS	VIII層	28	SQ	1003	4・6
404	—	BKS	VIII層	29	SQ	1003	1
404	—	BKS	VIII層	30	SQ	1003	34
404	130	BKS	VIII層	31	SQ	1004	4・6・9・10・13・14・16・22・23・24・29
404	—	BKS	VIII層	32	SQ	1005	4・15・17・18・137
404	130	BKS	VIII層	33	SQ	1006	1・37
404	—	BKS	VIII層	34	SQ	1007	1・10
404	—	BKS	VIII層	35	SQ	1010	17・39・48
404	—	BKS	VIII層	37	SX	810	1
404	130	BKS	VIII層	38	—	—	X VL6E群・X VL23
404	—	BKS	VIII層	39	—	—	X VL16
404	130	BKS	VIII層	40	—	—	X VL22
404	—	BKS	VIII層	41	—	—	X VL17F群
404	—	BKS	VIII層	42	—	—	X V V 1
404	—	BKS	VIII層	43	—	—	X V P13
405	130	BKS	VIII層	44	—	—	X V V 1
405	130	BKS	VIII層	45	—	—	X V K 8
405	—	BKS	VIII層	46	—	—	X VL6E群
405	130	BKS	VIII層	47	—	—	X V K 8
405	—	BKS	VIII層	48	—	—	X V K 8
405	—	BKS	VIII層	49	—	—	X V P24
405	—	BKS	VIII層	50	—	—	X VL17
405	130	BKS	VIII層	51	—	—	X V K 8
405	130	BKS	VIII層	52	—	—	X V A 14・X V A 15
405	130	BKS	VIII層	53	—	—	X V A 24 (1・2)
405	130	BKS	VIII層	54	—	—	X IV A 6
405	—	BKS	VIII層	55	—	—	X IV U99
405	—	BKS	VIII層	56	—	—	X V A 15
405	—	BKS	VIII層	57	—	—	X V A 146
405	—	BKS	VIII層	58	—	—	X IV U1415
405	—	BKS	VIII層	59	—	—	X IV U93
405	—	BKS	VIII層	60	—	—	X V A 22
405	—	BKS	VIII層	61	—	—	X IV U14
405	—	BKS	VIII層	62	—	—	X V A 143

図版番号	PL番号	遺跡名	検出面	書番号	遺構記号	遺構番号	出土位置
405	130	BKS	VIII層	63	—	—	X IV B16
405	130	BKS	VIII層	64	—	—	X II U16・X IV (A2・A6)
405	130	BKS	VIII層	65	—	—	X IV B16
405	—	BKS	VIII層	66	—	—	X IV A 9
405	—	BKS	VIII層	67	—	—	X IV F13
405	—	BKS	VIII層	68	—	—	X IV F 3
405	—	BKS	VIII層	69	—	—	X IV A 2
405	—	BKS	VIII層	70	—	—	X IV A 6
405	—	BKS	VIII層	71	—	—	X II U20・X IV A 9
405	—	BKS	VIII層	72	—	—	X IV A 9
405	—	BKS	VIII層	73	—	—	X IV (B16・B21)
406	—	BKS	VIII層	74	—	—	X IV B21
406	—	BKS	VIII層	75	—	—	—
406	—	BKS	VIII層	76	—	—	X II K17
406	130	BKS	VIII層	77	—	—	X II K21
406	—	BKS	VIII層	78	—	—	X II K23
406	—	BKS	VIII層	79	—	—	—
406	—	BKS	VIII層	80	—	—	X II K25
406	—	BKS	VIII層	81	—	—	5
406	130	BKS	VIII層	82	—	—	X II K23
406	130	BKS	VIII層	83	—	—	X I O 5
406	—	BKS	VIII層	84	—	—	X II (K22・K23)
406	130	BKS	VIII層	85	—	—	X II (K18・K23)
406	—	BKS	VIII層	86	—	—	X II F18
406	—	BKS	VIII層	87	—	—	X II K16
406	130	BKS	VIII層	88	—	—	X II (K21・K23)
406	—	BKS	VIII層	89	—	—	X II K16
406	—	BKS	VIII層	90	—	—	X II K (14・P17)
406	130	BKS	VIII層	91	—	—	269・271
406	130	BKS	VIII層	92	—	—	—
406	—	BKS	VIII層	93	—	—	99・VIII層
406	—	BKS	VIII層	94	—	—	29
406	130	BKS	VIII層	95	—	—	27
406	—	BKS	VIII層	96	—	—	75・76・77
406	—	BKS	VIII層	97	—	—	—
406	—	BKS	VIII層	98	—	—	47
406	—	BKS	VIII層	99	—	—	15
406	—	BKS	VIII層	100	—	—	—
407	—	BYS	VIII層	101	SK	7023	—
407	130	BYS	IV層	102	SB	5088	A床下・D床下
407	130	BYS	—	103	中央ペルト	—	—
407	—	BYS	—	104	—	—	VIII AB15トレ257
407	—	BYS	—	105	—	—	I M14
407	—	BYS	IV層	106	SD	7046	—
407	130	BYS	IV層	107	SB	5031	—
407	131	BYS	IV層	108	SD	8027	—
407	131	BYS	IV層	109	SD	7044	I I12
407	—	BYS	IV層	110	SD	7047	UL
407	—	BYS	IV層	111	SD	7046	I I13
407	131	BYS	IV層	112	SD	7061	I I17
407	—	BKS	IV層	113	SK	6040	—
407	131	BYS	IV層	114	SD	7049	I I21
407	—	BKS	IV層	115	—	—	—
407	—	BYS	IV層	116	SD	7046	I I12
407	131	BYS	IV層	117	SD	7046	I I16UL
407	131	BYS	IV層	118	SD	7067	I I12水門下
407	131	BYS	IV層	119	SD	7048	I I13・SD7046 F17・18UL
407	131	BYS	IV層	120	SD	7067	I H15
407	—	BYS	IV層	121	SD	7046	I I18UL
407	131	BYS	IV層	122	SD	7046	I I11
407	—	BYS	IV層	123	SD	7046	—
407	—	BYS	IV層	124	SD	7046	I I12
407	—	BYS	IV層	125	SD	7046	I I12
407	—	BYS	IV層	126	SD	7035	—
407	—	BYS	IV層	127	SD	7062	I I16・SD7038
407	—	BYS	IV層	128	SD	7035	I I22
407	131	BYS	IV層	129	SD	8044	LL
407	—	BYS	IV層	130	SD	7024	—
404	—	BYS	IV層	36	SX	7037	—

※遺構記号「-」は包含層出土。

の中に、弧線や斜線を配置し、磨消縄文を併用している。三又文もあるが独立して使用されることはなく、沈線文に付随して描かれる。佐野遺跡の資料から設定された佐野1a式よりも、宮崎遺跡2号住居の様相に近いものがある。95や97は画面がやや広く、両端が大きく曲がり込む弧線を描く。大洞C1式のモチーフに関連する可能性もあるが、詳細は不明である。これらの中に2条沈線間の圧痕をもつ例が見当たらず、佐野1式後半の様相をもつ土器も明示できない。50は一定間隔を空けた沈線を蛇行気味の曲線でつなぐ。縄文は併用されないようだ。晩期でも初頭の産なら佐野式からはずれぬが、どんなものか。沈線文土器は大形で砲弾形、屈曲のない単純な器形である。口縁部はほぼ直立し、内面側が肥厚気味となる。口縁部からやや下がった位置に3～4条の太く浅い凹線をめぐらすのが唯一の装飾で、突起は併用されない。この凹線はナデによってつぶれ気味となる傾向があるが、その発生期以来の特徴なのかもしれない。

亀ガ岡式土器の関連品の中で、57・58の羊歯状文を描く口縁部破片は、沈線表現なので恐らく模倣品だろう。それ以外は全面縄文の体部破片だが、当地域の粗製土器は原則的に無文なので、これらは異系統であることは確かである。60は胎土が異なり、搬入品の可能性がある。92の口唇部には弧状の圧痕が加えられる。

無文土器は口縁部の小さな突起以外に装飾要素をもたない。突起は板状で器壁と同厚である。屈曲をもたない砲弾形の器形だが、後期の無文土器と比較すれば、やや外傾気味に開く。また、明らかに器壁が薄く、器面もフラットである。ケズリが行き届いているのだろう。ケズリのままの個体もあるが、ヘラ状工具でナデ、半光沢をもつ方が多い。そのナデは口縁部は横方向、以下は縦方向である。

混入品に移る。96は深鉢の体部で、上下を沈線で画した縄文帯に鋭い工具で格子目の斜沈線を重ねる。後期中葉だが中部高地にはない手法で、東関東との関わりがあるかもしれない。細密条痕をもつとした深鉢であるが、49を除き工具が粗大で、1条ずつ引いている可能性もある。浮線文土器に伴う細密条痕の中に若干類例があるものの、果たしてその中に含めてよいかどうか疑問は残る。49は整然とはしていないが細密条痕でよいだろう。羽状条痕をもつ45・51はスダレ状工具のようだが、47は粗大な工具である。弥生時代の産であることは確かだろう。

(2) 石器 (表91) (図版408・409)

①概要

VIII層から出土した石製遺物の総点数は、遺物集中部および遺構外から出土した計461点である。このうち剥片石器・剥片類・石核は411点(89%)、礫石器は13点(3%)、搬入礫は37点(8%)である。ここでは21点を図化した。

VIII層から出土した剥片石器は、石鏃(11点)・打製石斧(61点)・大形削器類(7点)がある。さらに剥片類(328点)・石核(4点)を組成する。また礫石器の内訳は、磨石類(7点)、石皿類(6点)である。

剥片石器類に利用された石材は、黒曜石(18点)・チャート(3点)・珪質頁岩(7点)・珪質凝灰岩(1点)・ガラス質安山岩(1点)・粘板岩(381点)からなり、礫石器では、安山岩が殆どである。

②石鏃(1～8)

利用石材 珪質頁岩(4点)・チャート(3点)・黒曜石(3点)・ガラス質安山岩(1点)である。

形態 VIII層から出土した石鏃(計11点)は、すべて有茎式鏃(B類)に分類される。法量に関しては、長さが35～40mm、幅が15mm前後、厚さが4mm程度に集中し、VIII層から出土した石鏃は規格性が高いといえる。先端角では25～30度のもの(3～7)と40～45度のもの(1・2)とに二分され、規格性が看取できる。

1～3は凸基有茎式鏃。4～7は平基有茎式鏃。8は側縁に段をもつ飛行機鏃。3・4の表裏面中央に

は黒茶色の付着物が三角形状に見られ、根鋸痕と推察される。

③打製石斧 (9~17)

利用石材 すべて粘板岩製である。

形態 VIII層から出土した打製石斧 (計61点、1点はIX層上面出土) のうち、形態の判明したものは37点ある。その内訳はA6類 (26点・70%)、A2類 (4点・11%)、A1・A3・A5類 (各2点・各5%)、A7類 (1点・3%) となり、分胴形の打製石斧 (A6類) の割合が高くなっている。また最大長が15cm以上の超大形品が計23点を数える。

9~11は分胴形の打製石斧 (A6類)。13は短冊形の打製石斧 (A1類)。14は直刃斧状の打製石斧 (A7類)。下側縁に鋭利な縁辺をとどめ、基部側に調整を行う。16は柄鏡形を呈する打製石斧 (A3類)。基部側縁を直線的に仕上げる。

④大形削器類 (18)・微細剝離を有する剝片 (19)

表91 更埴条里遺跡VIII層出土石製遺物観察表

石鏃

図版	PL	No.	地区(出土位置)	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	袂/莖長	先端角	重量(g)	備考
408	131	1	G	AH	B2	ob	B2	略完形	-20.7	12.4	4.4	-3.0	43	0.7	
408	131	2	J(No103)	AH	B3	ch	青黒	略完形	-27.7	15.7	4.7	-4.0	45	1.7	
408	131	3	J(No2)	AH	B3	g.sh	茶	略完形	-30.2	15.0	3.6	-2.8	25	1.47	根鋸痕有
408	131	4	J(No69)	AH	B3	g.sh	茶	完形	36.8	14.5	4.1	5.0	25	1.7	根鋸痕有
408	131	5	J(No234)	AH	B3	sh	白	略完形	-33.1	16.0	4.1	-2.5	28	1.6	
408	131	6	J(No73)	AH	B4	ch	青緑	一部欠b	-37.2	15.0	4.2	-	25	2.2	
408	-	7	D	AH	B4	ob	B	一部欠b	-37.0	16.6	4.2	-	25	2.3	
408	-	8	A	AH	B5	ch	青灰	完形	34.7	13.5	4.1	6.9	30	1.4	飛行機能
			J(No96)	AH	B3	oh	B	一部欠b	-29.2	-16.5	4.7	-4.2	32	1.7	
			J(No78)	AH	B3	g.an	-	一部欠b	-25.7	17.8	5.1	-	39	2.1	
			J	AH	B5	sh	灰	略完形	28.6	15.1	3.6	4.1	40	1.2	

打製石斧

図版	PL	No.	地区	器種	分類	石材	石質	欠損分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	刃部形態	刃部角	基部形態	重量(g)	横断面形	微細	摩耗	備考
408	131	9	H(XIVB1)	打斧	A6	sl.	B2	完形	145.0	80.6	12.8	未加工	18	未加工	202.3	a	○	○	IX層上面出土
408	131	10	H(XIVF13)	打斧	A6	sl.	B2	完形	189.2	80.2	24.7	円刃	33	未加工	358.7	b	×	○	
408	131	11	H(XIVF15)	打斧	A6	sl.	B1	完形	198.5	107.0	35.6	直刃	74	直頭	701.0	b	○	×	
408	131	12	E(SQ501)	打斧	A5	sl.	B2	完形	177.0	75.2	36.8	円刃	55	円頭	596.5	a	×	×	SQ501a出土
409	131	13	F(XVL8)	打斧	A1	sl.	B2	完形	179.2	61.2	26.7	円刃	28	直頭	333.0	b	×	×	
409	131	14	C	打斧	A7	sl.	B1	完形	161.8	76.6	31.2	未加工	35	円頭	297.9	b	○	○	
409	-	15	E(XVK23)	打斧	A2	sl.	B2	完形	119.7	49.4	15.0	偏刃	35	直頭	88.0	b	×	○	
409	131	16	F(上面トレ)	打斧	A3	sl.	C	完形	127.2	68.5	11.2	円刃	38	直頭	104.0	b	×	○	
409	-	17	E(XVL18)	打斧	(A6)	sl.	B2	完形	166.8	122.4	16.4	-	-	-	321.9	-	×	×	未製品
			E	打斧	(A6)	sl.	C	略完形	176.5	75.7	24.0	-	-	-	377.8	-	○	×	
			H	打斧	A6	sl.	B1	完形	194.5	126.0	25.6	円刃	31	直頭	662.1	b	×	○	SQ701出土
			I	打斧	A6	sl.	C	完形	207.0	82.0	37.6	円刃	46	円頭	730.3	a	×	○	
			I	打斧	A6	sl.	C	完形	120.8	64.2	24.0	直刃	50	円頭	223.7	a	×	○	
			I	打斧	A2	sl.	C	完形	119.6	60.3	19.6	直刃	30	円頭	153.6	b	○	×	
			F	打斧	A6	sl.	B2	略完形	149.2	61.2	21.8	円刃	45	円頭	197.6	a	×	○	
			F	打斧	A6	sl.	B2	完形	120.0	93.1	22.4	円刃	70	円頭	269.2	a	○	○	
			I	打斧	A6	sl.	B2	完形	161.3	59.2	22.0	直刃	54	直頭	302.9	a	×	×	
			F	打斧	A6	sl.	C	完形	158.1	74.9	34.7	円刃	30	円頭	386.9	a	○	×	
			F	打斧	A6	sl.	B2	完形	154.0	96.2	18.6	円刃	45	直頭	302.0	a	×	×	
			F	打斧	A6	sl.	C	完形	160.0	109.0	11.8	円刃	42	直頭	263.8	a	○	○	
			H	打斧	A6	sl.	B2	完形	169.8	93.2	30.4	円刃	48	円頭	448.8	a	×	×	
			H	打斧	A6	sl.	B2	完形	173.0	92.5	41.0	偏刃	32	未加工	506.5	a	×	○	
			H	打斧	A6	sl.	B2	完形	169.7	91.6	30.1	直刃	58	直頭	411.0	a	×	○	
			H	打斧	A6	sl.	B2	完形	157.2	78.3	27.2	直刃	45	直頭	324.4	a	×	×	
			H	打斧	A6	sl.	B2	略完形	212.2	99.4	25.4	直刃	60	未加工	358.1	b	×	○	
			F	打斧	A3	sl.	B1	完形	151.0	95.6	22.9	直刃	48	直頭	363.3	a	×	○	
			H	打斧	A6	sl.	B2	完形	155.2	47.4	19.2	直刃	44	未加工	153.2	b	×	○	
			H	打斧	A6	sl.	B2	完形	120.1	61.4	14.6	円刃	64	-	121.2	b	×	○	
			F	打斧	A6	sl.	C	完形	123.6	64.5	20.7	円刃	51	円頭	140.5	b	×	○	
			F	打斧	A6	sl.	B2	完形	106.8	51.9	10.2	円刃	26	直頭	62.5	b	×	○	
			E	打斧	A6	sl.	B2	完形	148.6	144.9	26.8	直刃	41	未加工	566.7	a	×	○	
			E	打斧	A6	sl.	B2	完形	139.3	78.4	29.6	円刃	62	直頭	339.0	b	○	○	
			D	打斧	A5	sl.	C	完形	163.7	61.7	43.4	直刃	82	円頭	435.9	a	×	×	
			E	打斧	A6	sl.	B2	完形	152.2	77.0	14.4	円刃	40	直頭	177.2	b	×	○	
			D	打斧	A6	sl.	B1	完形	144.0	76.1	21.4	円刃	58	円頭	231.5	b	×	○	
			E	打斧	A6	sl.	C	完形	172.0	59.9	16.5	直刃	41	直頭	192.5	b	×	○	
			D	打斧	A2	sl.	C	完形	114.7	59.9	24.5	偏刃	52	円頭	146.4	a	×	○	
			D	打斧	A2	sl.	C	完形	123.8	57.2	21.7	円刃	60	直頭	166.6	a	○	○	
			J	打斧	A1	sl.	C	完形	129.0	58.3	12.1	偏刃	40	直頭	131.1	b	×	○	

石皿類

図版	PL	No	遺構名	出土位置	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	使用痕			備考
										表面	側面	裏面	
409	131	20	E区 XV L21	No2	石皿類	190	146	79	2710	磨・敲・凹		敲	溪成岩
409	131	21	E区	No1	石皿類	151	100	42	940	磨・敲	敲	敲	安山岩